

**2023年度
通信教育部(スクーリング)
講義概要(シラバス)**



法政大学

科目一覧

【発行日：2024/5/1】最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サステイナビリティプログラム_SDGs	〈ア〉：サステイナビリティプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サステイナビリティプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サステイナビリティプログラム_未来教室
〈カ〉：サステイナビリティプログラム_カーボンニュートラル	

【50007】政治学概論(Ⅱ)(前期メディア) [及川 智洋] 前期	1
【50001】社会学(「近代」とは何か)(前期メディア) [徐 玄九] 前期	2
【50003】生物学2(講義)(前期メディア) [木原 章] 前期	4
【51001】商法総則・商行為法(Ⅰ)(前期メディア) [桜沢 隆哉] 前期	6
【51005】行政法(前期メディア) [西田 幸介、氏家 裕順] 前期	7
【51007】労働法(働き方に関する法ルール)(前期メディア) [宮崎 由佳] 前期	8
【51009】国際法各論(国際平和の追求)(前期メディア) [稲垣 治] 前期	9
【51011】保険法・海商法(Ⅰ)(前期メディア) [桜沢 隆哉] 前期	10
【51013】労使関係論(Ⅱ)(前期メディア) [細川 良] 前期	12
【52001】日本文芸史Ⅱ(前期メディア) [川鍋 義一] 前期	14
【52003】日本文芸研究特講・近代(日本の私小説を読む)(前期メディア) [梅澤 亜由美] 前期	16
【52005】日本文芸研究特講・現代(戦後文学から日本を考える)(前期メディア) [山田 夏樹] 前期	18
【52009】書道史(中国と日本の書の歴史)(前期メディア) [山口 恭子] 前期	19
【53001】西洋史概説(ロシア近代史を中心として)(前期メディア) [草野 佳矢子] 前期	20
【53007】東洋史概説(中国古代史)(前期メディア) [宇都宮 美生] 前期	21
【54029】歴史地理学(Ⅰ)(前期メディア) [米家 志乃布] 前期	22
【54013】自然地理学概論(2)(前期メディア) [小寺 浩二] 前期	23
【54035】地学概論(Ⅰ)(前期メディア) [宍倉 正展] 前期	25
【54001】自然地理学(地形)(Ⅰ)(前期メディア) [前空 英明] 前期	26
【54023】自然地理学(気候・気象)(Ⅰ)(前期メディア) [山口 隆子] 前期	27
【54007】自然地理学(海洋・陸水)(Ⅰ)(前期メディア) [小寺 浩二] 前期	28
【54039】地図学(Ⅰ)(前期メディア) [若林 芳樹] 前期	29
【55001】金融論A/金融論Ⅰ(前期メディア) [武田 浩一] 前期	30
【55037】経済政策論A/経済政策論Ⅰ(前期メディア) [酒井 正] 前期	31
【55005】ミクロ経済学A/現代経済学Ⅰ(前期メディア) [平井 俊行] 前期	32
【55009】マクロ経済学A/マクロ経済学Ⅰ(前期メディア) [奥山 利幸] 前期	33
【55013】国際経済論A/国際経済論Ⅰ(前期メディア) [田村 晶子] 前期	35
【55017】環境経済論A/環境経済論Ⅰ(前期メディア) [松波 淳也] 前期	36
【55021】開発経済入門A(前期メディア) [池上 宗信] 前期	37
【55041】国際貿易論A(前期メディア) [武智 一貴] 前期	38
【55043】日本経済論A/日本経済論Ⅰ(前期メディア) [倪 彬] 前期	39
【55029】経済地理(Ⅰ)(前期メディア) [近藤 章夫] 前期	40
【55025】経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(前期メディア) [赤石 秀之] 前期	41
【55047】経済学特講(Academic Writing: SDGs及び卒業論文執筆に向けて)(前期メディア) [中谷 安男] 前期	42
【55027】ビジネス英語A(前期メディア) [中谷 安男] 前期	43
【55035】労働経済論A(前期メディア) [佐野 晋平] 前期	44
【56005】会計学入門Ⅰ(前期メディア) [神谷 健司] 前期	45
【56001】経済学入門Ⅰ/経済学入門A(前期メディア) [平田 英明] 前期	46
【56007】経営戦略論Ⅰ(前期メディア) [李 瑞雪] 前期	47
【56009】マーケティング論Ⅰ(前期メディア) [竹内 淑恵] 前期	49
【56011】管理会計論Ⅰ(前期メディア) [北田 皓嗣] 前期	51
【56013】税務会計Ⅰ(前期メディア) [大下 勇二] 前期	52
【56015】国際金融論Ⅰ(前期メディア) [横内 正雄] 前期	53
【56017】日本経営論(前期メディア) [金 容度] 前期	54

【56019】	ファイナンス論Ⅰ／現代ファイナンスA(前期メディア) [山崎 輝] 前期	55
【57001】	データサイエンス入門A(前期メディア) [児玉 靖司、高田 美樹、高松 邦彦] 前期	56
【10001】	西洋史(春期スクーリング) [竹下 和亮] 春期	57
【10002】	東洋史(春期スクーリング) [板橋 暁子] 春期	58
【10003】	法学(春期スクーリング) [陳 志明] 春期	59
【10004】	社会学(春期スクーリング) [徐 玄九] 春期	60
【10005】	物理学3（講義）(春期スクーリング) [石川 壮一] 春期	61
【10006】	数学Ⅰ(春期スクーリング) [若井 健太郎] 春期	62
【11001】	英語S(1)(春期スクーリング) [青山 恵子] 春期	63
【11002】	英語S(2)(春期スクーリング) [光野 昭雄] 春期	64
【11003】	英語S(3)(春期スクーリング) [井上 紗央里] 春期	65
【11004】	英語S(4)(春期スクーリング) [中垣 恒太郎] 春期	66
【11005】	英語S(5)(春期スクーリング) [大和久 悌一郎] 春期	67
【11006】	独語S(春期スクーリング) [宮城 学] 春期	68
【11007】	仏語S(春期スクーリング) [石川 典子] 春期	69
【12001】	スポーツ総合演習(春期スクーリング) [竹内 洋輔] 春期	70
【13001】	商法総則・商行為法(春期スクーリング) [石井 宏司] 春期	72
【13002】	会社法(春期スクーリング) [笹久保 徹] 春期	73
【13003】	刑法総論(春期スクーリング) [LEBRETON CAROLINE] 春期	74
【13004】	行政救済法(春期スクーリング) [氏家 裕順] 春期	75
【14001】	日本文芸史Ⅰ(春期スクーリング) [加藤 昌嘉] 春期	76
【14002】	日本文芸学概論(春期スクーリング) [栗山 元子] 春期	77
【14003】	中国文芸史(春期スクーリング) [吉井 涼子] 春期	78
【14004】	日本文芸研究特講・特域(春期スクーリング) [安原 眞琴] 春期	79
【14005】	日本芸能史(春期スクーリング) [江口 文恵] 春期	80
【14006】	日本美術史(春期スクーリング) [山本 ゆかり] 春期	81
【14007】	日本文法論(春期スクーリング) [松浦 光] 春期	82
【14008】	日本語学概論(春期スクーリング) [古牧 久典] 春期	83
【14010】	日本文芸研究特講・現代(春期スクーリング) [高口 智史] 春期	84
【15001】	日本近代史(春期スクーリング) [柏木 一郎] 春期	85
【15002/16001】	日本史概説(春期スクーリング) [安田 寛子] 春期	86
【15003】	東洋史特講（東南アジア史）(春期スクーリング) [澁谷 由紀] 春期	87
【15004】	史学演習（東洋）(春期スクーリング) [宇都宮 美生] 春期	88
【15005/16002】	西洋史概説(春期スクーリング) [竹下 和亮] 春期	89
【16003】	人文地理学演習(春期スクーリング) [前畑 明美] 春期	90
【16004】	地理情報システム(GIS)（2）(春期スクーリング) [沼尻 治樹] 春期	91
【17001/18001】	財政学A／I(春期スクーリング) [天利 浩] 春期	93
【17002】	経済学特講(春期スクーリング) [金子 憲] 春期	94
【18002】	経営学特講[商社活動とCSRⅠ](春期スクーリング) [小林 一夫] 春期	95
【18003】	簿記Ⅲ(春期スクーリング) [市川 佳功] 春期	97
【18004】	監査論Ⅰ(春期スクーリング) [市川 佳功] 春期	98
【18005】	経営管理論Ⅰ(春期スクーリング) [松本 潔] 春期	99
【18006】	経営学特講[サービス・マーケティング](春期スクーリング) [松本 潔] 春期	100
【18007】	経営学特講[ロジスティクス論](春期スクーリング) [恩田 登志夫] 春期	102
【18008】	演習[貿易概論](春期スクーリング) [恩田 登志夫] 春期	103
【70001】	文化人類学（ゴールデンウィークスクーリング）[ベル 裕紀]	104
【70003】	法律学特講（ゴールデンウィークスクーリング）[島村 健太郎]	106
【70002】	総合特講（ゴールデンウィークスクーリング）[齋藤 経史]	107
【70004】	経営学特講（ゴールデンウィークスクーリング）[木島 豊希]	108
【80001】	英語S（大阪市スクーリング）[磯部 芳恵]	109
【80002】	総合特講（大阪市スクーリング）[中丸 宣明]	110
【80003】	経済学特講（大阪市スクーリング）[畑 憲司]	111
【81001】	化学3（講義）(仙台市スクーリング) [向井 知大]	112
【81002】	総合特講（仙台市スクーリング）[宇津川 喬子]	113
【81003】	法律学特講（仙台市スクーリング）[田中 開]	114
【90001】	生物学3（講義）(前期週末スクーリング) [大槻 涼]	115
【90002】	法律学特講（前期週末スクーリング）[荻村 慎一郎]	116

【90003】	経済学特講（前期週末スクーリング）[畑 憲司]	117
【90004】	経営学特講（前期週末スクーリング）[市川 佳功]	118
【30001】	文学（夏期スクーリング）[中澤 忠之] 1群午前	119
【30002】	日本史（夏期スクーリング）[矢越 葉子] 2群午前	120
【30003】	哲学（夏期スクーリング）[鶴澤 和彦] 2群午後	121
【30004】	自然地理学（夏期スクーリング）[加藤 美雄] 1群午前	122
【30006】	生物学3（講義）（夏期スクーリング）[大槻 涼] 1群午後	124
【30007】	物理学3（実験）（夏期スクーリング）[吉田 智] 2群午後	125
【30005】	基礎特講（夏期スクーリング）[及川 智洋] 2群午後	126
【31001】	英語S（1）（夏期スクーリング）[JAMES O ESSEX] 1群午前	127
【31002】	英語S（2）（夏期スクーリング）[高井 美紀子] 1群午後	129
【31003】	英語S（3）（夏期スクーリング）[Robert Durham] 1群夜間	131
【31004】	英語S（4）（夏期スクーリング）[大曲 陽子] 2群午前	133
【31005】	英語S（5）（夏期スクーリング）[妻鹿 裕子] 2群午前	135
【31006】	英語S（6）（夏期スクーリング）[吉田 季実子] 2群午後	136
【31007】	英語S（7）（夏期スクーリング）[小田井 勝彦] 2群夜間	137
【31008】	英語S（8）（夏期スクーリング）[今井 澄子] 3群終日	138
【31009】	独語S（夏期スクーリング）[三ツ石 祐子] 1群午後	139
【31010】	仏語S（夏期スクーリング）[柴崎 秀穂] 2群午後	140
【32001】	健康・スポーツ科学概論（夏期スクーリング）[中澤 史] 1群午後	141
【32002】	スポーツ総合演習（夏期スクーリング）[藤岡 成美・伊藤 マモル] 2群午後	143
【33003】	国際法総論（夏期スクーリング）[田中 佐代子] 1群午後	146
【33007】	行政法（夏期スクーリング）[西田 幸介] 2群午後	147
【33008】	労働法（夏期スクーリング）[山本 圭子] 2群夜間	148
【33009】	教育法（夏期スクーリング）[村元 宏行] 3群終日	149
【33001】	法律学特講（夏期スクーリング）[朝村 太一] 1群午前	150
【33004】	法律学特講（夏期スクーリング）[武生 昌士] 1群午後	151
【33005】	法律学特講（夏期スクーリング）[村元 宏行] 2群午前	152
【33002】	政治学（夏期スクーリング）[面 一也] 1群午前	153
【33006】	法思想史（夏期スクーリング）[大野 達司] 2群午前	154
【34005】	日本文芸学概論（夏期スクーリング）[川鍋 義一] 2群午前	155
【34003】	日本文芸史Ⅰ（夏期スクーリング）[伊海 孝充] 1群午後	156
【34014】	日本文芸史Ⅱ（夏期スクーリング）[山田 稔] 3群終日	157
【34015】	日本文芸研究特講・上代（夏期スクーリング）[坂本 勝] 3群終日	158
【34009】	日本文芸研究特講・中古（夏期スクーリング）[庄司 敏子] 2群午後	159
【34001】	日本文芸研究特講・中世（夏期スクーリング）[中司 由起子] 1群午前	160
【34006】	日本文芸研究特講・近世（夏期スクーリング）[牧野 悟資] 2群午前	161
【34016】	日本文芸研究特講・近代（夏期スクーリング）[沼田 真里] 3群終日	162
【34010】	日本文芸研究特講・漢文（夏期スクーリング）[永井 弥人] 2群午後	163
【34007】	日本文芸研究特講・言語（夏期スクーリング）[尾谷 昌則] 2群午前	164
【34011】	日本文芸研究特講・韻文（夏期スクーリング）[土屋 聡] 2群午後	165
【34012】	日本文芸研究特講・祭りと芸能（夏期スクーリング）[今泉 隆裕] 2群午後	166
【34008】	中国文芸史（夏期スクーリング）[遠藤 星希] 2群午前	168
【34004】	日本語史（夏期スクーリング）[間宮 厚司] 1群午後	169
【34002】	書道実技（夏期スクーリング）[井澤 秀彦] 1群午前	170
【34017】	論文作成基礎講座Ⅰ（夏期スクーリング）[山口 恭子] 3群終日	171
【34013】	論文作成基礎講座Ⅱ（夏期スクーリング）[佐藤 未央子] 2群午後	172
【35010/35011】	日本史概説（夏期スクーリング）[安田 寛子] 2群午後	173
【35003】	史学概論（夏期スクーリング）[秋山 千恵] 1群午前	174
【35012/35013】	西洋史概説（夏期スクーリング）[内田 康太] 2群午後	175
【35001/35002】	東洋史概説（夏期スクーリング）[塩沢 裕仁] 1群午前	176
【35004】	史学演習（日本）（夏期スクーリング）[大塚 紀弘] 1群午前	177
【35005】	史学演習（日本）（夏期スクーリング）[松本 剣志郎] 1群午後	178
【35008】	史学演習（日本）（夏期スクーリング）[内藤 一成] 2群午前	179
【35006】	史学演習（西洋）（夏期スクーリング）[高澤 紀恵] 1群午後	180
【35009】	史学演習（東洋）（夏期スクーリング）[兼平 充明] 2群午前	181
【35014】	日本古代史（夏期スクーリング）[杉本 一樹] 2群午後	182

【35007】 日本中世史（夏期スクーリング）[仁平 義孝] 1群午後.....	183
【35015】 東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）[齋藤 勝] 3群終日	184
【35016】 日本考古学（夏期スクーリング）[小倉 淳一] 3群終日.....	185
【36003】 現地研究（夏期スクーリング）[米家 志乃布] 1群前半集中.....	186
【36005】 現地研究（夏期スクーリング）[佐々木 達] 1群後半集中.....	187
【36009】 人文地理学演習（夏期スクーリング）[伊藤 達也] 2群午後.....	188
【36007】 自然地理学演習（夏期スクーリング）[宇津川 喬子] 2群午前.....	189
【36001/36002】 地誌学特講（夏期スクーリング）[村田 陽平] 1群午後.....	190
【36004】 測量学及び測量実習（1）（夏期スクーリング）[木村 勲] 1群前半集中.....	191
【36006】 地理情報システム（GIS）（1）（夏期スクーリング）[中山 大地] 1群後半集中.....	192
【36008】 人文地理学特講（夏期スクーリング）[小原 文明] 2群午前.....	193
【36010】 自然地理学特講（夏期スクーリング）[小寺 浩二] 2群午後.....	194
【37003/37004】 社会経済学A/社会経済学I（夏期スクーリング）[船木 恵子] 2群午後.....	195
【37006/37007】 日本経済論A/日本経済論I（夏期スクーリング）[秋元 大輔] 2群夜間.....	196
【37008】 総合特講（夏期スクーリング）[川邊 安彦] 2群夜間.....	197
【37001】 経済学特講（夏期スクーリング）[馬 欣欣] 1群午前.....	198
【37002】 経済学特講（夏期スクーリング）[宇都宮 仁] 2群午前.....	200
【37005】 経済学特講（夏期スクーリング）[中田 大悟] 2群午後.....	201
【37009】 経済学特講（夏期スクーリング）[島澤 論] 3群終日.....	202
【38006】 人的資源管理論I（夏期スクーリング）[田上 皓大] 1群夜間.....	203
【38001】 経営学特講（夏期スクーリング）[韓 載香] 1群午前.....	204
【38009】 経営学特講（夏期スクーリング）[神谷 健司] 2群午前.....	206
【38014】 経営学特講（夏期スクーリング）[小池 祐二] 2群夜間.....	207
【38017】 経営学特講（夏期スクーリング）[猪狩 良介] 3群終日.....	209
【38018】 経営学特講（夏期スクーリング）[齋藤 邦明] 3群終日.....	210
【38002/38003】 情報学入門（1）（データ演習）／コンピュータ入門（1）（データ演習）（夏期スクーリング）[児玉 靖司] 1群午前.....	211
【38004/38005】 情報学入門（2）（表計算）／コンピュータ入門（2）（表計算）（夏期スクーリング）[入戸野 健] 1 群午後.....	212
【38007/38008】 情報学入門（3）（データベース）／コンピュータ入門（3）（データベース）（夏期スクーリング）[渡 辺 英人] 1群夜間.....	213
【38010/38011】 情報学入門（4）（表計算）／コンピュータ入門（4）（表計算）（夏期スクーリング）[高田 美樹] 2 群午前.....	215
【38012/38013】 情報学入門（5）（データ演習）／コンピュータ入門（5）（データ演習）（夏期スクーリング）[高田 美樹] 2群午後.....	216
【38015/38016】 情報学入門（6）（データベース）／コンピュータ入門（6）（データベース）（夏期スクーリング）[渡 辺 英人] 2群夜間.....	217
【39003/39004】 教育の制度・経営（夏期スクーリング）[新井 秀明] 2群午後.....	219
【39001/39002】 教育方法論（ICT活用を含む）（夏期スクーリング）[中園 有希] 2群午前.....	220
【39005/39006】 教育相談（夏期スクーリング）[藤平 敦] 3群終日.....	221
【60015】 法学(日本国憲法)(後期メディア) [金子 匡良] 後期.....	223
【60001】 経済学(資本と利子から経済を考える)(後期メディア) [水野 和夫] 後期.....	224
【60009】 政治学概論(I)(後期メディア) [及川 智洋] 後期.....	225
【60005】 英語S(1)(後期メディア) [今井 澄子] 後期.....	226
【60013】 英語S(2)(後期メディア) [石原 紀子] 後期.....	227
【60011】 仏語S(後期メディア) [近江屋 志穂] 後期.....	229
【60007】 健康・スポーツ科学概論(スポーツコーチングの基礎)(後期メディア) [荒井 弘和] 後期.....	230
【61001】 総合特講(東南アジア現代史)(後期メディア) [佐々木 研] 後期.....	232
【61003】 民法総則(民法典全体に共通するルール)(後期メディア) [明石 真昭] 後期.....	234
【61005】 商法総則・商行為法(II)(後期メディア) [桜沢 隆哉] 後期.....	235
【61009】 国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア) [岡松 暁子] 後期.....	236
【61015】 行政救済法(後期メディア) [西田 幸介,氏家 裕順] 後期.....	237
【61019】 保険法・海商法(II)(後期メディア) [桜沢 隆哉] 後期.....	239
【61023】 労使関係論(I)(後期メディア) [細川 良] 後期.....	240
【61021】 法律学特講(国際労働法)(後期メディア) [山本 圭子] 後期.....	242
【62009】 日本文芸研究特講・上代(万葉集を読む)(後期メディア) [萩野 了子] 後期.....	244
【62001】 日本文芸研究特講・中古(『竹取物語』を読むーかぐや姫の”実像”)(後期メディア) [園 明美] 後期.....	245

【62005】	日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア) [浅沼 博] 後期	246
【62011】	日本文芸研究特講・児童文芸(後期メディア) [構 大樹] 後期	247
【62007】	日本語史(後期メディア) [間宮 厚司] 後期	248
【63001】	日本史概説(東アジアのなかの古代日本)(後期メディア) [浜田 久美子] 後期	249
【64027】	歴史地理学(Ⅱ)(後期メディア) [米家 志乃布] 後期	250
【64033】	地学概論(Ⅱ)(後期メディア) [宍倉 正展] 後期	251
【64001】	自然地理学(地形)(Ⅱ)(後期メディア) [前空 英明] 後期	252
【64021】	自然地理学(気候・気象)(Ⅱ)(後期メディア) [山口 隆子] 後期	253
【64007】	自然地理学(海洋・陸水)(Ⅱ)(後期メディア) [小寺 浩二] 後期	254
【64013】	世界地誌(1)(アジア)(後期メディア) [小寺 浩二] 後期	256
【64035】	地図学(Ⅱ)(後期メディア) [若林 芳樹] 後期	258
【64019】	自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア) [狩野 真規] 後期	259
【65001】	経済学入門B/経済学入門Ⅱ(後期メディア) [森田 裕史] 後期	260
【65005】	金融論B/金融論Ⅱ(後期メディア) [武田 浩一] 後期	261
【65039】	経済政策論B/経済政策論Ⅱ(後期メディア) [酒井 正] 後期	262
【65009】	ミクロ経済学B/現代経済学Ⅱ(後期メディア) [平井 俊行] 後期	263
【65013】	マクロ経済学B/マクロ経済学Ⅱ(後期メディア) [奥山 利幸] 後期	264
【65017】	国際経済論B/国際経済論Ⅱ(後期メディア) [田村 晶子] 後期	266
【65021】	環境経済論B/環境経済論Ⅱ(後期メディア) [松波 淳也] 後期	267
【65025】	開発経済入門B(後期メディア) [池上 宗信] 後期	268
【65043】	国際貿易論B(後期メディア) [武智 一貴] 後期	269
【65031】	経済地理(Ⅱ)(後期メディア) [近藤 章夫] 後期	270
【65029】	ビジネス英語B(後期メディア) [中谷 安男] 後期	271
【65037】	労働経済論B(後期メディア) [佐野 晋平] 後期	272
【66001】	会計学入門Ⅱ(後期メディア) [神谷 健司] 後期	273
【66003】	経営戦略論Ⅱ(後期メディア) [李 瑞雪] 後期	275
【66005】	マーケティング論Ⅱ(後期メディア) [竹内 淑恵] 後期	276
【66027】	統計学入門(後期メディア) [高橋 慎] 後期	278
【66009】	税務会計Ⅱ(後期メディア) [大下 勇二] 後期	279
【66011】	国際金融論Ⅱ(後期メディア) [横内 正雄] 後期	280
【66007】	管理会計論Ⅱ(後期メディア) [北田 皓嗣] 後期	281
【66013】	経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア) [平田 英明] 後期	282
【66017】	事業創造論(後期メディア) [稲垣 京輔] 後期	283
【66019】	ファイナンス論Ⅱ/現代ファイナンスB(後期メディア) [山崎 輝] 後期	285
【66023】	消費者行動論(後期メディア) [新倉 貴士] 後期	287
【66025】	広告論(後期メディア) [竹内 淑恵] 後期	289
【66029】	会計情報論Ⅰ(後期メディア) [坂上 学] 後期	291
【67001】	データサイエンス入門B(後期メディア) [児玉 靖司、高田 美樹、坂上 学、長谷川 翔平、高橋 慎、伊藤 克亘、彌富 仁] 後期	293
【20001】	西洋史(秋期スクーリング) [竹下 和亮] 秋期	294
【20002】	東洋史(秋期スクーリング) [板橋 暁子] 秋期	295
【20003】	法学(秋期スクーリング) [陳 志明] 秋期	296
【20004】	社会学(秋期スクーリング) [徐 玄九] 秋期	297
【20005】	物理学3(講義)(秋期スクーリング) [石川 壮一] 秋期	298
【20006】	数学2(秋期スクーリング) [若井 健太郎] 秋期	299
【21001】	英語S(1)(秋期スクーリング) [青山 恵子] 秋期	300
【21002】	英語S(2)(秋期スクーリング) [光野 昭雄] 秋期	301
【21003】	英語S(3)(秋期スクーリング) [井上 紗央里] 秋期	302
【21004】	英語S(4)(秋期スクーリング) [中垣 恒太郎] 秋期	303
【21005】	英語S(5)(秋期スクーリング) [大和久 悌一郎] 秋期	304
【21006】	独語S(秋期スクーリング) [宮城 学] 秋期	305
【21007】	仏語S(秋期スクーリング) [石川 典子] 秋期	306
【23001】	商法総則・商行為法(秋期スクーリング) [石井 宏司] 秋期	307
【23002】	会社法(秋期スクーリング) [笹久保 徹] 秋期	308
【23003】	刑法総論(秋期スクーリング) [LEBRETON CAROLINE] 秋期	309
【23004】	行政法(秋期スクーリング) [氏家 裕順] 秋期	310
【24001】	中国文芸史(秋期スクーリング) [吉井 涼子] 秋期	312

【24002】	西洋美術史(秋期スクーリング) [濱西 雅子] 秋期	313
【24003】	日本文芸史Ⅰ(秋期スクーリング) [小林 ふみ子] 秋期	315
【24004】	日本文法論(秋期スクーリング) [松浦 光] 秋期	316
【24005】	書道史(秋期スクーリング) [山口 恭子] 秋期	317
【24007】	日本語学概論(秋期スクーリング) [古牧 久典] 秋期	318
【25001】	日本近世史(秋期スクーリング) [中山 学] 秋期	319
【25002】	日本史特講(対外関係史)(秋期スクーリング) [宇都宮 美生] 秋期	320
【25003/26003】	東洋史概説(秋期スクーリング) [塩沢 裕仁] 秋期	321
【25004】	歴史資料学(日本近代)(秋期スクーリング) [鈴木 隆春、山下 大輔] 秋期	322
【25005】	史学演習(日本)(秋期スクーリング) [中川 洋] 秋期	323
【25006】	史学演習(西洋)(秋期スクーリング) [山野 貴彦] 秋期	324
【26001】	自然地理学演習(秋期スクーリング) [中山 秀晃] 秋期	326
【26002】	写真・読図演習(2)(秋期スクーリング) [沼尻 治樹] 秋期	327
【27001/28001】	財政学B/Ⅱ(秋期スクーリング) [鳥澤 論] 秋期	328
【27002】	経済学特講(秋期スクーリング) [石川 貴幸] 秋期	329
【28002】	経営学特講[商社活動とCSRⅡ(事業活動と環境・CSRリスク)](秋期スクーリング) [小林 一夫] 秋期	330
【28003】	経営学特講[事例で学ぶ人材マネジメント入門](秋期スクーリング) [石川 了] 秋期	332
【28004】	経営学特講[マクロ経済学の基礎/Introductory Macroeconomics](秋期スクーリング) [松岡 秀明] 秋期	333
【28005】	監査論Ⅱ(秋期スクーリング) [市川 佳功] 秋期	334
【28006】	簿記Ⅳ(秋期スクーリング) [市川 佳功] 秋期	335
【28007】	経営管理論Ⅱ(秋期スクーリング) [松本 潔] 秋期	336
【28008】	演習[消費文化論](秋期スクーリング) [松本 潔] 秋期	337
【28009】	経営学特講[航空輸送概論](秋期スクーリング) [恩田 登志夫] 秋期	338
【28010】	演習[国際物流論](秋期スクーリング) [恩田 登志夫] 秋期	339
【82001】	英語S(札幌市スクーリング) [吉田 季実子] 終日	340
【82002】	総合特講(札幌市スクーリング) [小口 雅史] 終日	341
【82003】	経営学特講(札幌市スクーリング) [西川 英彦] 終日	342
【83001】	基礎特講(名古屋市スクーリング) [大澤 広晃] 終日	343
【83002】	総合特講(名古屋市スクーリング) [中沢 けい] 終日	344
【83003】	経済学特講(名古屋市スクーリング) [藤原 徹] 終日	345
【91001】	哲学(後期週末スクーリング) [相原 博] 終日	346
【91002】	スポーツ特講(後期週末スクーリング) [朝比奈 茂、佐藤 優希] 終日	347
【91003】	法律学特講(後期週末スクーリング) [カロリーヌ・ルブルトン] 終日	349
【91004】	書道史(後期週末スクーリング) [山口 恭子] 終日	350
【91005】	書道実技(後期週末スクーリング) [井澤 秀彦] 終日	351
【91006】	経済学特講(後期週末スクーリング) [持元 江津子] 終日	352
【91007】	経営学特講(後期週末スクーリング) [市川 佳功] 終日	353
【84001】	心理学(福岡市スクーリング) [桶谷 雅人]	354
【84002】	総合特講(福岡市スクーリング) [小寺 浩二]	355
【84003】	法律学特講(福岡市スクーリング) [沼田 雅之]	357
【40005】	人文地理学(冬期スクーリング) [前畑 明美] 1群午前	359
【40006】	数学3(冬期スクーリング) [倉田 俊彦] 1群午前	360
【41001】	英語S(1)(冬期スクーリング) [ウォルター・カズマー] 1群午前	361
【41002】	英語S(2)(冬期スクーリング) [高井 美紀子] 1群午前	362
【43008】	法律学特講(冬期スクーリング) [笹久保 徹] 1群午前	364
【43009】	法律学特講(冬期スクーリング) [青柳 由香] 1群午前	365
【44004】	論文作成基礎講座Ⅰ(冬期スクーリング) [園 明美] 1群午前	366
【45001/45002】	日本史概説(冬期スクーリング) [古庄 浩明] 1群午前	367
【46001】	人文地理学演習(冬期スクーリング) [佐々木 達] 1群午前	368
【47005】	総合特講(冬期スクーリング) [川邊 安彦] 1群午前	369
【48002】	経営学特講(冬期スクーリング) [山田 裕美] 1群午前	371
【48008/48009】	情報学入門(1)(表計算)/コンピュータ入門(1)(表計算)(冬期スクーリング) [高田 美樹] 1群午前	372
【40004】	経済学(冬期スクーリング) [関口 駿輔] 1群午後	373
【40007】	化学3(実験)(冬期スクーリング) [中田 和秀] 1群午後	374
【41003】	英語S(3)(冬期スクーリング) [Richard.J.Burrows] 1群午後	375
【43001】	民法総則(冬期スクーリング) [大澤 彩] 1群午後	376

【43002】 憲法（冬期スクーリング）[村元 宏行] 1群午後	377
【43006】 国際法各論（冬期スクーリング）[田中 佐代子] 1群午後	378
【44005】 総合特講（冬期スクーリング）[小林 ふみ子] 1群午後	379
【45005/45006】 東洋史概説（冬期スクーリング）[宇都宮 美生] 1群午後	380
【45007】 史学演習（日本）（冬期スクーリング）[仁平 義孝] 1群午後	381
【45009】 歴史資料学（日本近世）（冬期スクーリング）[米崎 清実] 1群午後	382
【46002】 自然地理学演習（冬期スクーリング）[前空 英明] 1群午後	383
【47006】 経済学特講（冬期スクーリング）[井上 祐樹] 1群午後	384
【48001】 人的資源管理論Ⅱ（冬期スクーリング）[田上 皓大] 1群午後	386
【48003】 経営学特講（冬期スクーリング）[安藤 直紀] 1群午後	387
【46005】 測量学及び測量実習（2）（冬期スクーリング）[菅 富美男] 1群後半集中	389
【40003】 法学（日本国憲法）（冬期スクーリング）[葉 晶珠] 2群午前	390
【40008】 基礎特講（冬期スクーリング）[中田 和秀] 2群午前	391
【41004】 英語S（4）（冬期スクーリング）[本間 章郎] 2群午前	392
【41005】 英語S（5）（冬期スクーリング）[JAMES O ESSEX] 2群午前	394
【43003】 労働法（冬期スクーリング）[沼田 雅之] 2群午前	395
【43007】 民事執行法（冬期スクーリング）[杉本 和士] 2群午前	396
【43010】 政治学（冬期スクーリング）[佐賀 香織] 2群午前	398
【44003】 日本芸能史（冬期スクーリング）[櫻井 利佳] 2群午前	399
【45003/45004】 西洋史概説（冬期スクーリング）[竹下 和亮] 2群午前	400
【47003/47004】 日本経済論B/日本経済論Ⅱ（冬期スクーリング）[秋元 大輔] 2群午前	401
【48004】 経営学特講（冬期スクーリング）[金 瑠晋] 2群午前	403
【48005】 経営学特講（冬期スクーリング）[松本 敦則] 2群午前	404
【40001】 西洋史（冬期スクーリング）[渡辺 知] 2群午後	405
【40002】 論理学（冬期スクーリング）[大貫 義久] 2群午後	406
【41006】 英語S（6）（冬期スクーリング）[青山 恵子] 2群午後	407
【41007】 独語S（冬期スクーリング）[三ツ石 祐子] 2群午後	408
【41008】 仏語S（冬期スクーリング）[柴崎 秀穂] 2群午後	409
【41009】 スポーツ総合演習（冬期スクーリング）[佐藤 優希] 2群午後	410
【42001】 総合外国語特講（英語）（冬期スクーリング）[磯部 芳恵] 2群午後	411
【43004】 民事訴訟法（冬期スクーリング）[廣尾 勝彰] 2群午後	412
【43005】 刑事訴訟法（冬期スクーリング）[田中 開] 2群午後	413
【43011】 倒産法（冬期スクーリング）[倉部 真由美] 2群午後	414
【44001】 日本語学概論（冬期スクーリング）[古牧 久典] 2群午後	415
【44002】 日本文芸研究特講・現代（冬期スクーリング）[関口 雄士] 2群午後	416
【45008】 東洋美術史（冬期スクーリング）[久野 美樹] 2群午後	417
【47001/47002】 社会経済学B/社会経済学Ⅱ（冬期スクーリング）[船木 恵子] 2群午後	418
【48006】 経営学特講（冬期スクーリング）[岸 眞理子] 2群午後	419
【48007】 経営学特講（冬期スクーリング）[岸本 直樹] 2群午後	420
【48010/48011】 情報学入門（2）（データ演習）/コンピュータ入門（2）（データ演習）（冬期スクーリング）[児玉 靖司] 2群午後	421
【49001/49002】 教育実習事前指導（国語）（冬期スクーリング）[丸山 義昭] 2群午後	422
【49003/49004】 教育実習事前指導（社会・商業）（冬期スクーリング）[木村 良成] 2群午後	423
【49005/49006】 教職実践演習（冬期スクーリング）[遠藤 野ゆり] 2群午後	424
【46006】 写真・読図演習（1）（冬期スクーリング）[八木 浩司] 2群前半集中	426
【46007】 現地研究（冬期スクーリング）[中川 秀一] 2群前半集中	427
【46003/46004】 地誌学特講（冬期スクーリング）[前畑 明美] 2群後半集中	428
【46008】 現地研究（冬期スクーリング）[宇津川 喬子] 2群後半集中	429

POL100TA（政治学 / Politics 100）	
政治学概論(Ⅱ)(前期メディア)	
及川 智洋	
カテゴリー：前期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：前期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の政治システムを他国との比較を交えて学び、現代の民主主義政治の特徴と問題点について考察、理解する。

【到達目標】

日本の政治システムについて理解し、民主主義の意味について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義をメディア教材を通じて行う。受講生はそれを視聴して、毎回後に複数の選択式問題による小テストに回答したうえで次の授業に進む。各回の小テストについては、システム上で採点を実施し返却する。講義内容について質問がある場合、システム上の質問機能で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	政治の役割	代表を選び多数決でルールを決める民主政治の意味を確認する。
2	議会と政府	議院内閣制と大統領制の関係、議会二院制の意味について考える。
3	選挙制度と政党システム	現行の衆議院小選挙区比例代表制を中心に、選挙制度と政党の関係を考える。
4	法と政治	政策を具体化する法の成立過程および司法権独立の意義、裁判例の政治に対する影響力などについて検討する。
5	地方自治と政治	身近な「民主主義の学校」の役割、地方分権に関する経緯と問題点について学ぶ。
6	財政と税制	税などの国民負担と、財政による再配分機能について、近年の問題点も含め検討する。
7	公共事業と福祉政策	国民国家の形成と「公共」の概念、公共事業と福祉政策の役割について考える。
8	福祉国家の成立と変容	戦後民主政治において福祉国家の果たした役割、「大きな政府」「小さな政府」路線の違いを見る。
9	少子高齢化と経済格差	21世紀、社会の変化に伴う主要な政治課題について、どのような対策が可能かを検討する。
10	国際政治＝日本をめぐる国際関係	国際政治の現状と理論、日本をめぐる主要な国際関係について知る。

- | | | |
|----|-----------------------|--|
| 11 | 「平和主義」と憲法改正 | 日本国憲法の平和主義と憲法改正問題について、歴史的経緯と将来を展望する。 |
| 12 | グローバル時代の国際政治＝移民問題を中心に | 近年の動向について概観し、国際社会および日本の対応を検討する。 |
| 13 | アイデンティティと共生社会の政治 | 民族や宗教の対立による民主主義の亀裂、ジェンダー平等という新しい課題などについて考える。 |
| 14 | 民主主義の再起動は可能か | リベラル・デモクラシーの行き詰まりとポピュリズム（大衆迎合政治）などを考察する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』山口二郎（岩波ジュニア新書、2009年）本体780円+税。
『政治学』新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（有斐閣、2017年）本体2000円+税。
『戦後政治史 第四版』石川真澄・山口二郎（岩波新書、2021年）本体1040円+税。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを実施する。評価は100%。

【学生の意見等からの気づき】

質問への対応は基本に立ち戻って、丁寧に回答するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

メディア教材を視聴できる情報機器。

【その他の重要事項】

政治学概論Ⅰから連続する授業であり、あらかじめⅠを履修していた方が内容を理解しやすいが、Ⅱのみ、あるいはⅡの後にⅠという順番でも差し支えはない。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to study Japanese political system while comparing other nations. And students must consider assignment of modern democracy. The goals of this course are to understand about Japanese political system and democracy. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents. Final grade will be calculated according process term-end report(100%).

SOC100TA（社会学 / Sociology 100）
社会学（「近代」とは何か）（前期メディア）
徐 玄九
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「近代（Modern age）とは何か」という問いを軸に、「近代」という時代の診断に関して、これまで社会学者たちが出してきた暫定的な「答え」を参照しながら、「私と社会」の関係をいま一度反省的に見つめなおすことです。そのために必要な社会学の基本的な「もの見方・考え方」をその概念や理論も含めて基礎から学びます。社会学の通低する問題意識に沿って、今日の私たちは「何」から「何」へ、あるいは、「どこ」から「どこ」へ変わってきたか、またそのなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについて学びます。これを通して、一人ひとりの時代への問題意識の「（再）発見」のきっかけを作ります。社会学は、社会変動を理解したいという願望とともに、それに対する知的対応として登場しました。私たちを取り巻き支配しているこの時代（近代あるいは現代）とはいかなる時代なのか、そしてどのような問題を抱えており、その解決方向をいかに見出すかという関心が社会学の成立と発展に通低していた問題意識です。

【到達目標】

以下の授業計画のテーマに沿って、社会学の核心的な概念、理論などを基礎から学びます。具体的には（1）各テーマに対するさまざまな人の異なる見方、考え方を学ぶ、（2）行為、関係、意味など社会現象を記述するとき用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解する、（3）「近代」という時代の特徴の一面を理解でき、それを自分の言葉で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、社会学の学説史や理論の羅列的な紹介よりも、ストーリー性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進めるようにします。そうすることで、「私的」な個別具体的な事柄のなかにも、社会性（歴史的、文化的な諸状況）が入り込んでいて、一見無関係のようにみえるある社会的現象が実は互いに影響しあっていることに気づき、「私と社会」の関係をより多角的に理解できるはずです。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	社会学への招待：「自明なものを問う」—社会学的想像力の重要性
第2回	見えない社会を見る	目に見えない社会を見る練習をする—（E.T. Hall/E.Goffman）の「プロクセミックス」/「儀礼的無関心」の概念を学ぶ
第3回	近代と空間観の変化	テニースのゲメインシャフトとゲゼルシャフトという社会形態の区分を中心に空間と相互行為の違いについて学ぶ

第4回	近代と時間観の変化	自然的な時間から機械的な時間の変化を歴史的に学ぶ
第5回	歴史区分としての近代	歴史区分としての「近代」とその特徴について学ぶ
第6回	社会契約論と私的所有論	近代社会理論の代表的な社会契約論と私的所有論について学ぶ
第7回	労働賛美の時代としての近代	概略的に古代から近代までの労働観の変遷を歴史的・思想的に学ぶ
第8回	逆説としての近代	理解を深めるために、「近代」への道筋をM.Weberの「近代形成論」（『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』）に即して学ぶ
第9回	規律化と臣民化としての近代	社会秩序と権力の問題をM.Foucault『監獄の誕生』に依拠して学ぶ
第10回	世俗化の時代としての近代	E.Durkheim/P.L.Bergerの「宗教論」に学びながら、社会全体の動きに大きな影響を及ぼした宗教の意味や役割、そして「世俗化」について学ぶ
第11回	ナショナリズムの時代としての近代	E.ゲルナーとB.アンダーソンの議論を中心に近代とナショナリズムの関係学ぶ
第12回	公共性の変容としての近代	H・アレントとJ.ハバーマスの議論を手がかりにして公共性の変容について学ぶ
第13回	マニュアル化の時代としての近代	G.Ritzer『マクドナルド化する社会』を参照しながら、合理化、官僚制、などの概念について学ぶ
第14回	リスク社会としての現代	U.Beck『危険社会』に依拠しながらリスク社会としての現代社会を考える
第15回	授業内容の総括	これまでの授業内容をもう一度おさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱います。よって、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、関連する参考文献や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事です。受講生皆さんには「読書」（多読）をお薦めします。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要があるのです。時間とコストを惜しまず取り組んでください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料に基づき講義を進めていきます。

【参考書】

必要に応じて配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。
ピーター・L.バーガー（1989）『社会学への招待』思泉社。
ジグムント・バウマン（1990 = 1993）奥井智之訳『社会学の考え方—日常生活の成り立ちを探る』HBJ出版局。
見田宗介（2006）『社会学入門』岩波文庫。
市野川容孝（2006）『社会—思考のフロンティア』岩波書店。
長谷川公一他（2007）『社会学』有斐閣。
大澤真幸（2008）『不可能性の時代』岩波文庫。
日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）とメディアスクーリング試験（70%）の合計点で評価します。
具体的な評価基準は、到達目標に書いてある通り「行為、関係、意味など社会現象を記述するとき用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解」しているかを合格基準とし、その上、取り上げられたテーマ（問題）に関して論理的な記述、自主的な学習の成果が認められた場合はさらに高く評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見のなかには、「日常生活の中で疑問に感じていたことなどが、授業の随所にあり納得した。」「理解しているつもりなのに、小テストへの反応が悪く残念であった。」とのご意見をいただきました。メディアスクーリング形式の特性上、時々疑問をすぐに解決できないかもしれませんが、「中間レポート」の提出と合わせて文末に日頃の疑問を書いてくださるか、掲示板などを積極的に活用していただければ、担当者のできる限りにおいてお答えしていくように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

受講時の疑問などは積極的に掲示板などをご利用ください。

【Outline (in English)】

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society. The course introduces students to classical theoretical traditions of Durkheim, Weber, and Tonnies. Our study is the basic social institutions (religion, economics, and politics), and major trends in sociology.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）
生物学2（講義）(前期メディア)
木原 章
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生物学2」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。未だ世間では一般的ではありませんが、私は「マクロ生物学」と呼んでいます。個々の細胞が集まることで個体ができあがるしくみ。個々の生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜在的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1+1が2にとどまらず、新たな生命現象を引き起こす世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ZOOMを使ったオンライン授業を録画したものです。授業では、ホワイトボードを多用します。毎回、生物学のマクロレベルの現象の一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。単にホワイトボードの説明だけで無く、実際の映像資料を適宜呈示します。受講される学生は、ホワイトボードの内容をノートに書き取りながら、たまにビデオを見ながら筆を休めるという感じで、実際の授業を受けるように受講して頂けると、教育効果が上がると思います。

14回目の選択式の小テストはシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。後半では小テストで要求されている「授業要約」の書き方を具体的に説明します。授業要約を提出する前に必ずこの説明を確認して下さい。
第2回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第3回	共進化	進化における相互関係が2種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。

第4回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第5回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？ 神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第6回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第7回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第8回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第9回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第10回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第11回	再生	iPS細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第12回	生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第13回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われてます。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第14回	まとめと本の紹介	13回の授業をまとめながら、本授業で得た知識を更に発展させる上で参考になる図書の紹介をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞などの科学ニュースを見るように心がけて下さい（1回につき1時間以上）。予習として、各回の授業テーマについてインターネット検索を利用して事前学習して下さい（1回につき1時間以上）。復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい（1回につき1時間以上）。以上合計して1回につき4時間以上の自習をして下さい。

毎回提出する授業の要約については、第一回目の授業の後半で、授業要約のまとめ方を説明しています。必ず、この説明をご覧になってから要約作業を行って下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

発展学習のための参考書を14回目の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1～13回目では毎回小テストとして、授業要約を提出して頂きます。13回全ての小テストが提出されていないと単位認定の対象とはならず、一つでもかけている場合は「未受験：E」となります。

授業要約の書き方については第一回目の授業の後半で説明しています。必ず、この説明をご覧になってから要約作業を行って下さい。

14回目の授業では選択式の小テストをおこないます。

成績は、小テストと期末試験を以下の割合で評価します。

80% 小テスト13回分（毎回授業の要約）

20% 期末試験

単位修得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。内容が同一だったり、極端に類似した要約文が提出された場合は、それに関わった全員を不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

①ホワイトボードの書き方が早いという意見と、ちょうど良いという意見が有るようです。

ノートが追いつかない場合は、スクリーンコピーを撮ることをおすすめします。スクリーンコピーが撮れるように、ページを換えるときには、そのことを事前に言うようにします。

②映像資料の量について。

受講生の要望に従って、映像資料を授業の途中にできるだけ多く入れるようにしています。しかし、授業内容に従った映像資料が入手できないケースもありますので、授業毎にその量は変化します。

③ビデオの重複について

もともと、リアルタイムでオンライン配信する目的で作られたため、必要に応じて同一の映像資料を繰り返し使用するケースもあります。

④単元区切りについて

オンデマンド教材では、授業を単元に細分化して提供するケースがありますが、本授業は実際の授業の録画になりますので、基本的には連続的に見て頂くことを前提として作成しております。その為、一回の授業を分割して提供はしておりません。それでも、ご自身で工夫されて、必要に応じて部分的に繰り返し替えてご覧になられている学生さんもいらっしゃるようです。オンデマンドの良さをうまく活用して頂ければと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業に参加するための、コンピュータ機器とネットワーク環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

本授業は、実際に行われた授業の録画になりますので、オンデマンドで受講する場合、多少不自然と感ぜられる内容も含まれます。それは、過去の授業の録画であるという事でご理解頂ければと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)Students will be expected to have completed the lecture summaries after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process each lecture summary x 13 times (80%), term-end examination (20%).

LAW300TB（法学 / law 300）
商法総則・商行為法（I）（前期メディア）
桜沢 隆哉
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の基礎的理解

【到達目標】

この講義は、全14回の講義で商取引法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んでいくことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引（企業活動）を理解することにより、会社法等の企業関係法への理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商学学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では商法の中で、第一編総則（商法1条～31条）および第二編商行為（商法501条～617条）を中心に、その他関連する法令や実務などについてもできる限り言及し、商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	序章：商法の歴史および意義	本講義の射程（範囲・対象）、講義の進め方、教科書・参考書の紹介、商法典の歴史について
第2回	第1章：商法総論	商法概念、商法の法源、商法と他の法規の適用関係について
第3回	第2章：商人と商行為(1) 一商人・商行為の概要	商人と商行為概念と商法の適用について
第4回	第3章：商人と商行為(2) 商号(1)	商法の適用時期（商人資格の取得時期）、商号の意義・機能について
第5回	第4章：商号(2)	商号と名板貸責任について
第6回	第5章：営業・事業	営業・事業の概念および営業譲渡と営業に関わる利害関係者の調整について
第7回	第6章：企業の人的補助(1) 一総説・商事代理一	企業の人的補助総説、商法と代理制度について
第8回	第7章：企業の人的補助(2) 一商業使用人一	商業使用人（支配人、特定の事項の委任を受けた使用人、物品の販売等の店舗使用人）について
第9回	第8章：企業の人的補助(3) 一代理商一	代理商（フランチャイズ契約を含む）、代理商の内部関係と外部関係

第10回	第9章：商業登記(1) 一商業登記制度の概要と効力一	商業登記制度の意義、内容・手続、商業登記の効力について
第11回	第10章：商業登記(2) 一不実の登記の効力一	商業登記と不実の登記の効力について
第12回	第11章：商業帳簿	商業帳簿の意義、種類・作成、保存・提出について
第13回	第12章：商行為総則(1) 一商行為の特則一	商行為の営利性、契約の成立、債務者の連帯等について
第14回	第13章：商行為総則(2) 一商行為の特則一	債権担保、有価証券に関する特則について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。特に判例百選（参考書(5)の文献）は、実際の裁判例とその解説が書かれていますので、講義中に出てきた知識と実際とをつなげる理解を得るために有益です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法< 有斐閣アルマ>』（有斐閣、第3版、2019年）

【参考書】

- (1) 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法I 総則・商行為< 有斐閣Sシリーズ>』（有斐閣、第6版、2019年）
- (2) 近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第8版、2019年）
- (3) 弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法』（有斐閣、第3版、2019年）
- (4) 北村雅史編『スタンダード商法I 商法総則・商行為法』（法律文化社、第2版、2022年）
- (5) 神作裕之=藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト243号、有斐閣、2019年）

上記のテキスト(教科書)および参考書は、平成29年民法改正法・平成30年商法改正に対応しているものを挙げた。テキスト(教科書)は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、その内容を参考書(5)で重要判例を補う必要がある。(1)～(4)は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考える。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（1回／30%）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】

Understanding Principal of Commercial Law (general remarks)

LAW300TB（法学 / law 300）
行政法(前期メディア)
西田 幸介、氏家 裕順
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にある。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性あるいは法的統制が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法とはどのような法なのか、行政法の基本原理、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを学ぶ。

【到達目標】

- (1) 行政法における基本的な概念（行政行為、行政契約、法律による行政の原理など）について、正確に説明することができる。
- (2) 行政主体（国や地方公共団体など）と私人との法律関係を把握することができる。
- (3) 行政主体と行政機関の関係について、正確に説明することができる。
- (4) 行政の各種の行為（行為形式）について、それぞれの概念や分類、法的規制の概略について、正確に説明することができる。
- (5) 行政の実効性確保について、その手段、それに対する法的規制の概略について、正確に説明することができる。
- (6) 行政法の基本原理、行政組織および行政作用について、それが抱える問題点や現代的課題を理解し、その解決策を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	行政法の意義	行政の概念・分類 行政法の三分野
第02回	行政組織法の基礎 (1)	行政主体と行政機関
第03回	行政組織法の基礎 (2)	行政主体の種類
第04回	行政法の基本原理 (1)	法律による行政の原理
第05回	行政法の基本原理 (2)	権利濫用禁止の原則 信義誠実の原則
第06回	行政法の基本原理 (3)	比例原則 平等原則

第07回	行政法の基本原理 (4)	適正手続の保障
第08回	行政の各種の行為 (1)	行政の行為形式
第09回	行政の各種の行為 (2)	法規命令
第10回	行政の各種の行為 (3)	行政行為
第11回	行政の各種の行為 (4)	行政契約
第12回	行政の各種の行為 (5)	行政指導 即時強制
第13回	行政の実効性確保 (1)	行政上の強制執行
第14回	行政の実効性確保 (2)	行政上の制裁

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。ただし、西田幸介『行政法』（2016年、法政大学通信教育部）を適宜参照すること。

【参考書】

稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）
 宇賀克也『行政法概説 I [第7版]』（2020年、有斐閣）
 小早川光郎『行政法（上）』（1999年、弘文堂）
 塩野宏『行政法 I 行政法総論 [第6版]』（2015年、有斐閣）
 芝池義一『行政法読本 [第4版]』（2016年、有斐閣）
 高橋滋『行政法 [第2版]』（2018年、弘文堂）
 原田尚彦『行政法要論 [全訂第7版補訂2版]』（2012年、学陽書房）
 藤田宙靖『行政法総論（上）』（2020年、青林書院）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果からは、とくに変更を要すると考えられる事項はないと考えている。ただ、引き続き、授業改善に努めていきたい。

【Outline (in English)】

In this course, student learn the outline of Administrative Law. After taking this course, student will be able to:

- Explain the basic concepts in administrative law.
- Explain the legal relationship between state or public entities and private natural or legal person.
- Explain the relationship between state or public entities and administrative agencies.
- Describe the concepts, classifications, and outlines of legal restrictions concerning various acts of administrative agencies.
- Explain the means of securing the effectiveness of acts of administrative agencies and the outline of legal restrictions on them.
- Understand the problems and contemporary issues of the basic principles, administrative organization and acts of administrative agencies in administrative law, and discuss their solutions.

Before/after each class meeting, student will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%.

LAW300TB (法学 / law 300)
労働法(働き方に関する法ルール)(前期メディア)
宮崎 由佳
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働契約のはじまりから終わりまでの法ルールとその意義などについて考察します。

【到達目標】

使用者と労働者の権利と義務を理解すること、労働条件を決定する仕組みを理解すること、および職場で起こる(起こりうる)問題に対して法的にアプローチする力(当該問題の本質を捉え、関連条文や判例によりながら解決する力)をつけることを本講義の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

現代社会において、「職業生活」は、人間の営みの大きな部分を占めており、そこでのルールがいかに決定され、また作用するのかを理解し、習得することは必要不可欠といえます。

本講義は、雇用関係を規律する法、ルールおよびその役割を概観し、また、そこで起こり得る法的問題について具体的な事例を示し、関連判例や条文等を参照しながら考察することを目的とします。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	労働法とは	労働法とは。なぜ労働法は必要なのか、その意義など。
第2回	採用内定・試用期間	いつから労働契約関係は始まるのか。採用内定の法的性質など。
第3回	労働時間に関する法ルール	労働時間の意義、労働時間に関する法ルールとその課題について。
第4回	労働者の安全と健康に関する法	労働者の安全と健康に関する法ルールとその課題について。
第5回	休憩・休日・休暇制度	休憩時間や休日・休暇の意義、各制度に関わる法ルールとその課題
第6回	賃金に関する法ルール	賃金の支払いや決定に関する法ルールについて。
第7回	労働条件の決定と変更	労働条件の決定の仕組みや決定・変更に関するルールについて。
第8回	人事異動のルール	配置転換・出向・転籍の意義、法ルールとその課題について。
第9回	懲戒	懲戒制度の目的や内容、懲戒権の根拠や限界など法ルールについて。
第10回	契約の終了に関する法ルール	解雇、整理解雇や退職など労働契約の終了に関する法ルールについて。
第11回	雇用平等	労働者の人権、人格権や雇用平等に関する法ルールと課題について。

第12回	非正規労働者と法	パートタイム労働者、有期契約労働者、派遣労働者など、非正規労働者に関する法ルールと課題について。
第13回	労働組合と法	労働組合とは。その目的や労働組合法上の労働組合の要件、不当労働行為制度について。
第14回	団体交渉・労働協約	団体交渉および労働協約に関する法ルールについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習をされた上での受講を前提としておりますので、教科書(該当テーマに限らず)及び参考資料には必ず目を通しておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ベーシック労働法 第8版』(有斐閣アルマ) (新版が出た場合は新版。旧版も可)

【参考書】

法の制定・改正や判例の動向により適宜資料を配布し、内容等について紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50点）および試験（50点）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

注目すべき法改正や判例などについて、適宜情報提供を行う。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the regulations covering employment relations and their roles.

LAW400TB（法学 / law 400）
国際法各論(国際平和の追求)(前期メディア)
稲垣 治
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

主として国際法の各論部分についての講義を行う。
中間課題に対しては、採点結果を通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第2回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底、海洋環境、紛争解決
第3回	極地・空域・宇宙	南極の法的地位、北極、領空、宇宙空間の利用、天体の資源開発
第4回	個人の管轄	国籍、犯罪人引渡し、国際犯罪、国際刑事裁判所
第5回	国際人権法（1）	人権保障の展開、国連による人権保障、民族自決権
第6回	国際人権法（2）	国際人権保障の困難性、履行確保、難民
第7回	国際環境法（1）	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の生成と発展、リオ宣言
第8回	国際環境法（2）	国際環境条約の性質、持続可能な開発、枠組条約と議定書、制度化
第9回	国際環境法（3）	手続的義務、履行確保、気候変動
第10回	国際経済法	自由貿易体制、GATT/WTO、南北問題、貿易と環境
第11回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決、非裁判的手続
第12回	紛争の平和的解決（2）	裁判的手続の特徴、国際仲裁裁判、国際司法裁判、国際裁判機関の多元化
第13回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、国連軍、多国籍軍、平和維持活動、人道的介入
第14回	軍備管理・軍縮	武器・兵器、軍隊の変遷、冷戦と軍拡競争、核軍縮

第15回 国際人道法（武力紛争法の違法化と武力紛争法規、軍事目標主義、武力紛争法規の履行確保、原爆と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年。
岩沢雄司・植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第2版]』有斐閣、2011年。
繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート課題（50%）、レポート試験（50%）の総合点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

履修者は「国際法総論」を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【Outline (in English)】

This course introduces the legal order and rules over the specific areas in the international society referring to precedents by both international and domestic courts.

LAW300TB（法学 / law 300）
保険法・海商法（I）(前期メディア)
桜沢 隆哉
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険法に関する基本的知識の習得

【到達目標】

この講義は、全14回の講義で保険法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。保険法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に保険法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとするばいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、保険法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、保険法（保険契約法および保険業法）に関する基本的知識の習得を目的とする。保険法および海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうちで、保険法・海商法（I）では保険法を扱う。

まず、本講義で扱う保険法は、保険制度それ自体がわれわれの日常生活における様々な危険に備えるための有用な手段として用いられているが、他方で濫用されるおそれの高い制度でもある。本講義では、保険制度が有するこれら2つの側面を意識しながら、それを法的視点から解説する。また保険法は、2008年に約100年ぶりともいえる法改正および商法から単行法化がなされ、世間でも多くの注目を集めてきたが、その後の技術革新により改正以後あらたな問題も出てきている。そこで、保険法については、実務の動向や裁判例を常に意識しながら講義を展開していきたいと考えている。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	保険法総論(1)	保険制度と保険法 保険制度と保険法、保険の種類、保険法の体系
第2回	保険法総論(2)	保険契約の当事者・関係者 保険契約の意義・性質、保険契約の当事者・利害関係者
第3回	損害保険契約法・総論(1)―損害保険契約の成立―	損害保険契約の意義、損害保険契約の成立、損害保険契約と告知義務
第4回	損害保険契約法・総論(2)―損害保険契約の内容①―	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料の性質、損害保険契約の基本構造
第5回	損害保険契約法・総論(3)―損害保険契約の内容②―	保険金額と保険価額、全部保険と一部保険・超過保険、重複保険

第6回	損害保険契約法・総論(4)―損害保険契約の効果とその変動―	損害保険契約における保険者の権利義務、保険契約者等の権利義務、損害保険契約関係の変動
第7回	損害保険契約法・総論(5)―損害保険契約と保険給付―	損害てん補義務とその要件、保険者免責、損害発生時の通知義務等、保険給付の履行、保険代位
第8回	損害保険契約法・総論(6)―損害保険契約の終了・損害保険債権の処分と保険担保―	保険契約者による保険契約の解除等、告知義務違反による保険契約の解
第9回	損害保険契約法・各論(1)―火災保険契約及び責任保険契約	損害保険契約各論としての火災保険契約、責任保険契約
第10回	損害保険契約法・各論(2)―自動車保険契約及び運送保険契約	損害保険契約各論としての自動車保険（自賠責保険・任意自動車保険）
第11回	生命保険契約法(1)―生命保険契約の成立・効力―	生命保険契約の成立、保険料と保険者の責任、他人の生命の保険、保険給付請求権の消滅時効
第12回	生命保険契約法(2)―生命保険契約の給付・終了―	第三者のためにする生命保険契約、保険金受取人の指定・変更、保険金受取人の死亡、保険金受取人の介入権、生命保険契約と保険者免責
第13回	傷害疾病保険契約法(1)―傷害保険契約・疾病保険契約の意義・内容―	傷害保険契約と偶发性要件、傷害保険契約と外来性要件
第14回	傷害疾病保険契約法(2)―傷害・疾病保険契約に特有の重要問題―	疾病保険契約の意義、責任開始期前発病不担保条項、所得補償保険

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潘阿憲『保険法〔第2版〕』（中央経済社、2018年）

【参考書】

【参考書 / References】

参考書（教科書としての指定はしていないが講義の補足で使うことが学習上望ましいもの）

・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
 ＊そのほか最新の重要な裁判例等については、ポータルサイト上で適宜紹介する。

・六法(判例・解説付ではないもの)

（講義を聴く際には、判例・解説付でも構わないが試験等に持ち込むことが認められていないため）※メディアスクーリング試験では六法の持ち込みも不可です

▼ その他の参考文献の紹介

≪ 保険法・海商法の両方に関するもの ≫

・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年

・江頭憲治郎『商取引法〔第9版〕』弘文堂、2022年

≪ 保険法のみに関するもの ≫

＊新法対応済み

・甘利公人・福田弥夫『ポイントレクチャー保険法〔第3版〕』有斐閣、2020年

・石山卓磨編著『現代保険法〔第2版〕』成文堂、2011年

・金澤理『保険法』成文堂、2018年

・山下友信ほか著『保険法〔第4版〕』有斐閣アルマ、2019年

・岡田豊基『現代保険法〔第2版〕』中央経済社、2017年

・山下友信『保険法（上）』有斐閣、2017年

・山下友信『保険法（下）』有斐閣、2022年

＊旧商法にのみ対応

・倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房、1982年

・大森忠夫『保険法〔改訂版〕』有斐閣、1985年

・西島梅治『保険法〔第3版〕』悠々社、1998年

・金澤理『保険法上〔改訂版〕』成文堂、2001年

- ・中西正明『生命保険法入門』有斐閣、2006年
- ・山下友信『保険法』有斐閣、2005年
- ≪海商法のみに関するもの≫
- ・戸田修三『海商法〔第5版〕』文真堂、1995年
- ・重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
- ・中村真澄・箱井崇史『海商法』成文堂、2010年
- ・箱井崇史『基本講義・現代海商法〔第4版〕』成文堂、2021年
- ・小林登『新海商法〔増補版〕』信山社、2022年
- ≪判例解説等の参考書≫
- ・鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第2版）』有斐閣、1993年
- ・鴻常夫ほか編『損害保険判例百選〔第2版〕』有斐閣、1996年
- ・鴻常夫ほか編『生命保険判例百選〔増補版〕』有斐閣、1988年
- ・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
- ・山下友信・神田秀樹編『商法判例集〔第4版〕』有斐閣、2010年
- *判例については、上記参考文献に掲載されていない最新の判例も次々に出されている。それらは授業の中の各該当箇所でも指示するが、基本的にはレジュメの中に反映させる。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（1回／30％）およびメディアスクーリング試験（70％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Understanding Principal of Insurance Law and Maritime & Aviation Law

SOC300TB（社会学 / Sociology 300）	
労使関係論（Ⅱ）（前期メディア）	
細川 良	
カテゴリー：前期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：前期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係（集团的労使関係）のことを指します。もっとも、一口に労使関係（集团的労使関係）といっても、その実態は国によって大きく異なります。そして、労使関係の実態は、その国における雇用をめぐるシステムがどのようなものか、ということに大きく左右されます。実際、日本における労使関係（集团的労使関係）の実態や特徴は、それを支えてきたいわゆる「日本の雇用慣行」、およびそれを踏まえた雇用に関する法制度とも深い結びつきがあります。そこで、本講義では、まず前半で、前提としての日本における雇用システムの特徴と、それを基礎として形成された雇用に関する法制度について考えます。後半では、前半で検討した雇用システムを踏まえつつ、日本における集团的労使関係と、それを支える法制度について考えてみたいと思います。

【到達目標】

受講する学生において、労使関係、労働組合、あるいは労働法に対する知識や関心は様々であろうと考えられます。しかし、多くの受講生が、将来的に雇用の世界の中で生きていくことになることは間違いありません。また、日本における雇用システムや労使関係について、旧来からの仕組みから変わりつつあるという点については、大なり小なり共通する認識を有しているのではないのでしょうか。そこで、本講義では、「日本の雇用システム」のなかで形成されてきた労使関係や労働法の仕組みを理解しつつ、それらがどのような課題を抱えており、今後どのように変わっていく必要があるのか（あるいは、変わるべきではないのか）という問いについて、自分なりの答えを見つけ出してほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいと思います。具体的には、①日本における雇用システムとそれを基礎とした法制度について、基本的な理解を進めたいので、②日本における労使関係の実態や特徴と、③日本における（集团的）労使関係に関する法制度を学び、④これらを通じて、日本の雇用システムや労使関係が抱える課題や今後のあり方を考えたいと思います。

講義の形態としては、通常の講義方式を予定しています。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。授業内容についての質問や、課題について気になる点があれば、積極的に提示してください。適宜、フィードバック等の補足を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係を学ぶ意義、労使関係や労働法が形成されてきた歴史について説明します。

2	日本の雇用慣行の特徴と労働法・労使関係	日本の労使関係や労働法は、いわゆる「日本の雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本の雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係や労働法の特徴について考えます。
3	解雇をめぐる法システム－「日本では解雇は難しい」とは本当か？	日本の雇用システムの特徴として、「解雇が難しい」という指摘がしばしばなされますが、それは本当でしょうか。日本における解雇をめぐる法制度について、諸外国との比較や、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
4	採用をめぐる法システム－「新卒一括採用」を前提とした法制度	「新卒一括採用」は、日本の雇用システムの極めて大きな特徴です。この回では、採用に関する法制度と、「新卒一括採用」の持つ意義について考えたいと思います。
5	賃金－日本の賃金制度は今も「年功型賃金」なのか	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「年功型賃金」がしばしば挙げられますが、今も日本企業では「年功型賃金」を採用しているといえるのでしょうか。この回では、賃金に関する基本的な法制度とともに、日本における賃金制度について考えたいと思います。
6	労働時間－なぜ日本の労働者は長時間労働になるのか	日本における働き方の問題点として、「長時間労働」の問題がしばしば指摘されます。この回では、労働時間に関する法制度と、長時間労働をめぐる課題について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
7	人事異動－配転・出向・転籍	日本の雇用システムの特徴の一つに、人事異動が頻繁に行われることが挙げられます。この回では、人事異動に関する法制度について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
8	労働条件の変更－就業規則の機能	日本の雇用に関する法制度の特徴の一つとして、企業が状況に応じて柔軟に労働条件を変更できることが挙げられます。それを可能としているのが、就業規則に関する法制度です。この回では、日本の企業における就業規則の機能とその法制度について考えます。
9	非典型雇用－労働市場の二重構造をどう解消するか？	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「正社員」と「非典型雇用（非正規雇用）」の2つの雇用形態の格差がしばしば指摘されます。ここでは、両者の格差解消に向けた最近の政策を踏まえつつ、「非典型雇用」をめぐる法制度とその課題を考えます。
10	日本における労使関係システム－諸外国との比較から	日本の集团的労使関係は、欧米諸国とは大きく異なっていることがしばしば指摘されます。この回では、これまで学んできた日本の雇用システムの特徴や、諸外国との比較を交えつつ、日本の労使関係システムの特徴を考えたいと思います。

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 11 | 労働組合の結成と運営活動－「労働組合」は、誰が何をするのか | 労働組合にはだれが入ることができて、どのような活動をしているのか、詳しくは知らない人が少なくないのではないのでしょうか。この回では、誰が労働組合に入ることができて、どのような活動をしているのか、考えたいと思います。 |
| 12 | 団体交渉と争議 | 労働組合の大事な役割は、使用者と「団体交渉」をすることによって、組合員の労働条件を改善することです。この回では、団体交渉とそれが行き詰った時に実施する争議行為に関する法制度について考えたいと思います。 |
| 13 | 労働協約－労使交渉を通じたルールメイキング | 団体交渉が無事に妥結した場合、労働組合と使用者は、労働協約を締結し、これを通じて組合員の労働条件を事実上決定します。この回では、この労働協約に関する法制度について考えたいと思います。 |
| 14 | 不当労働行為－労働組合の活動を守るために | 使用者は、ときに労働組合の活動を不当に妨害しようとする場合があります。こうした妨害から労働組合を守る制度が不当労働杭制度です。この回では、不当労働行為制度の内容と機能について考えたいと思います。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には、講義の内容を丁寧に復習し、理解の定着を図ることが求められます。

もっとも、労使関係や労働法、そしてそれらに関する法制度や法政策は、現実の社会の中にも多く存在し、また現在進行形で多くの動きが存在しています。したがって、新聞やニュースなどを通じて、労使関係や労働法はもちろん、労働に関する様々な事象について、日ごろからアンテナを延ばしてチェックするよう心掛けてほしいと思います。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之ほか『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所・2020年）（2300円・税別）を使用します。

ただし、科目の性質上、テキストの順番通りに進むわけではない、ということは承知しておいてください。また、講義においてテキストに記載されていない内容を扱うことが一部ありますが、その場合はパワーポイントその他の資料を配布します。

【参考書】

指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

【成績評価の方法と基準】

最終成績は基本的に単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）授業をよく復習し、労使関係を取り巻くシステムをよく理解したうえで、その課題を考えてください。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文芸史Ⅱ（前期メディア）
川鍋 義一
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代文学（明治20年頃～昭和40年頃）の歴史を把握する。

【到達目標】

各回の授業では、ある時代を代表する文学者の代表的な作品がいかなる事情のもとに生まれたのかを考察する（具体的には下記「授業計画」を参考にされたい）。

この方法によって、日本近代文学史の大きな流れを把握し、また日本近代文学史と歴史的、社会的背景との関連を有機的に把握できるようにする。

受講生はこの授業の履修によって、日本近代文学史という巨視的観点を習得し、個々の作家、作品についてのより深い理解を得られるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

日本近代文学史を、逍遙・二葉亭の写実主義、浪漫主義、擬古典主義、自然主義（以上明治）、私小説、白樺派、労働文学・プロレタリア文学、モダニズム文学（以上大正）、小林秀雄、転向の問題、無頼派、近代文学派／新日本文学派、第三の新人とそれ以降（以上昭和）という流れで概観していく（漱石・鷗外、芥川を、明治、大正の最後に入れる）。

各回テキストで当該箇所を学習した上で、授業に臨むことを求める。またプリントもテキストなので、全てきちんと読み、理解することを求める。（「関連リンク」にて「配付資料」をダウンロードすること）

さらにプリントにはないものでも、関連すると思われる作品は積極的に読んでほしい。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	近代文学の始まり	・近代文学とはなにか ・写実主義とはどういうものか ・言文一致体の問題 以上を坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『浮雲』から考察する。
第2回	浪漫主義と擬古典主義	写実主義よりやや後に展開した ・浪漫主義 ・擬古典主義 とはどういうものかを樋口一葉『たけくらべ』などと、尾崎紅葉『金色夜叉』から考察する。
第3回	自然主義	・浪漫主義から自然主義への展開 ・口語体の問題 ・私小説の始まり 以上を、国木田独步『武蔵野』、島崎藤村『破戒』、田山花袋『蒲団』から考察する。

第4回	明治文学ふたつの孤峰（1）	文学史の流れと一定の距離を置いていた夏目漱石の生涯と作品にふれる。『こころ』を読む。
第5回	明治文学ふたつの孤峰（2）	同じく文学史の流れと一定の距離を置いていた森鷗外の生涯と作品にふれる。『舞姫』を読む。この回では日本近代文学の重要な概念である「余計者」について学ぶ。
第6回	私小説	大正文学の主流であった私小説を、葛西善蔵の代表作『子をつれて』を例に学ぶ。
第7回	白樺派	葛西善蔵とは対照的に破滅しない文学が白樺派の文学であった。武者小路実篤『友情』を読む。このグループの傾向と、大正デモクラシーの関係について学ぶ。
第8回	文学の革命	プロレタリア文学が「革命の文学」だとすれば、モダニズム文学の一つである新感覚派は「文学の革命」を志すものであった。その新しさと意義について学ぶ。横光利一『蠅』などを読む。
第9回	大正の終焉	大正文学の特異な存在であった芥川龍之介の生涯と作品にふれる。『歯車』を読む。
第10回	昭和初年の状況	昭和初年の三派鼎立の状況について学ぶ。批評理論の確立者であった小林秀雄『様々なる意匠』を読む。プロレタリア文学壊滅後の文芸復興の状況／転向の状況について学ぶ。中野重治『村の家』。
第11回	戦前から戦後へ	戦後すぐの無頼派の活躍を学ぶ。坂口安吾『墮落論』、太宰治『人間失格』、それらと対比するために志賀直哉『灰色の月』を読む。戦後文学最初にして最大の論争であった「政治と文学」論争を学ぶ。小林多喜二『党生活者』、平野謙『政治と文学（二）』を読む。
第12回	戦後（1）	梅崎春生『桜島』、野間宏『暗い絵』、荒地派の詩を通じて、戦後文学はどのように始まったのかを学ぶ。
第13回	戦後（2）	第三の新人とそれ以降の文芸思潮はどのようなものであったのかを学ぶ。吉行淳之介『驟雨』、安岡章太郎『宿題』、三島由紀夫『憂国』、大江健三郎『不意の唾』、谷川俊太郎の詩を読む。
第14回	戦後（3）	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記【テキスト】（プリント含む）を精読すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
奥野健男『日本文学史』（中公新書、および電子書籍 kindle 版）。
その他毎回使用するプリント。

【参考書】
毎回使用するプリントに記載されている参考文献。

【成績評価の方法と基準】
・中間レポートの提出を前提にメディアスクーリング試験で評価する。中間レポート（50%）メディアスクーリング試験（50%）。
・シラバスに記載されている【授業の概要と目的（何を学ぶか）】と、【到達目標】を受講前に熟読されたい。文学の歴史の流れ、およびそれと社会的背景との関連がこの授業の主要な関心事である。したがって、中間レポート、試験で、その観点を欠いた答えは評価されない。

・中間レポートで、設題に答えていない答案、引用のルールを無視した答案、何を言っているのかわからない答案、字数制限（8～10割）を無視した答案が時折見られる。このような答案は、再提出となることがある。留意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

中間レポートおよび試験では、しっかり設問を読み、設問に答えられたい。

【その他の重要事項】

プリントに一部しか載せられなかった長い作品も、各自入手し、全編読むことが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a history of Japanese modern literature.

LIT100TC (文学 / Literature 100) 日本文芸研究特講・近代(日本の私小説を読む)(前期メディア)
梅澤 亜由美
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】 日本独特の小説形式とされる私小説について学ぶ。
この授業では、日本の私小説について勉強します。日本の近代に、19世紀西欧小説の変形として生まれたとされる私小説は、日本独特の小説形式と考えられています。私小説についてこれまで言われてきたこと（否定的評価が多いです）を理解するとともに、実際の私小説を読んでいくことで、私小説に対する理解を深めること（文学史の定説からの解放）を目指してほしいです。

【到達目標】

具体的には、以下の3点が目標となります。
1. 実際の私小説について、これまで言われてきたことを理解する。
2. 授業でとりあげられた私小説を、実際に読み、自分の考えをもつ。
3. 特定の作家、私小説について、これまで言われてきたことと、実際に読んでみての自分の考えをまとめて、レポートや試験などで表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

1回目にガイダンスと、これまでの私小説言説（=私小説についてこれまでいわれてきたこと）について、説明をします。2回目から10回目までは、近代文学史における代表的な作家の私小説をとりあげます。11回めから14回めでは、戦後から現代まで、比較的新しい私小説をとりあげます。1時間に、1人の作家をとりあげ、代表的な私小説について、ポイントを説明していきます。他、授業でとりあげた作家が、作中人物として登場する私小説なども、紹介していきます（私小説を立体的に読む試み）。これらの授業内容を理解した上で、気に入った私小説のいくつかを実際に自分で読み、これまで言われてきたこととあわせて、自分の考えをもつようにしましょう。中間課題に対しては、受講者数によって、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	私小説と私小説言説について	私小説の定義、先行研究など、基礎知識を学ぶ。
第02回	田山花袋『蒲団』	私小説の祖とされる田山花袋の『蒲団』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第03回	近松秋江『疑惑』	平野謙によって「最初の金無垢な私小説」とされた近松秋江の『疑惑』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

第04回	志賀直哉『和解』	私小説を代表する作家とされる志賀直哉の『和解』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第05回	葛西善蔵『子をつれて』	破滅型の代表とされる葛西善蔵の『子をつれて』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第06回	嘉村磯多『崖の下』	葛西善蔵の系譜にある嘉村磯多の『崖の下』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第07回	小林多喜二『党生活者』	プロレタリア文学と私小説として、小林多喜二の『党生活者』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第08回	中野重治『村の家』	転向文学の代表とされる中野重治の『村の家』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第09回	徳田秋声『仮装人物』	私小説の一つの達成とも言える徳田秋声の『仮装人物』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第10回	太宰治『人間失格』	私小説批判の私小説を書いた太宰治の『人間失格』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第11回	島尾敏雄『出発は遂に訪れず』	戦後派の私小説として島尾敏雄の『出発は遂に訪れず』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第12回	安岡章太郎『悪い仲間』	第三の新人の私小説として安岡章太郎の『悪い仲間』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第13回	西村賢太『どうで死ぬ身の一踊り』	現代の私小説として西村賢太の『どうで死ぬ身の一踊り』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第14回	リービ英雄『千々にくだけて』	越境作家による私小説としてリービ英雄の『千々にくだけて』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
百聞は一見にしかずです。講義でとりあげられている小説は、必ず読みましょう。
・準備学習:講義を聞く前にテキストを読む（120分）
・事後学習:講義で学んだことをもとにテキストを読み返す（120分）

【テキスト（教科書）】
各種文庫本、講義の一回目で手に入りやすい文庫本を紹介しています。

【参考書】
小谷野敦『私小説のすすめ』2009、平凡社新書（入門書）
梅澤亜由美『増補改訂 私小説の技法』2017、勉誠出版（研究書）
私小説研究会編『私小説ハンドブック』2014、勉誠出版（研究ガイド）
井原あや他編『「私」から考える文学史 私小説という視座』2018、勉誠出版（研究書）

【成績評価の方法と基準】
中間レポート(50%)の提出を前提に、レポート試験(50%)の評価とあわせ、総合的に判断します(合計100点満点で60点以上が合格)。目標達成のための判断基準として、講義や文献等で勉強したことと自分で小説テキストを読み考察したこと、これら2点がしっかりそろっていることを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
中間レポートの講評方法について、今後、検討したいと思います。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This course introduces the watakushi – shosetsu of Japan. The watakushi – shosetsu is a unique novel form in Japanese modern times. We learn the study on watakushi – shosetsu and analyze it about the watakushi – shosetsu.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- The student will explain the the watakushi – shosetsu of Japan and major previous studies about it.
- The student will read and think each watakushi – shosetsu.
- The student will write papers of their thoughts on watakushi – shosetsu.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation : Students read each watakushi – shosetsu before watching each lecture video.

Reviewing: Students read and think each watakushi – shosetsu after watching each lecture video.

【Grading Policies】

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance midterm paper 50%, final paper exam 50%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LIT200TC (文学 / Literature 200) 日本文学研究特講・現代(戦後文学から日本を考える)(前期メディア)
山田 夏樹
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後文学を読む。

【到達目標】

アジア・太平洋戦争後から現在に至るまでの日本文学の歴史的な展開を作品に即して理解していくことで、社会状況や価値観の変容のあり方を捉えていく。

そして、毎回とりあげられる特定の作品などに視点を限定してしまうのではなく、最終的には、社会の様々な事象に対して常に自ら問いを立て、考えていく姿勢自体を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、特定の作品を精読していく。

事前に該当の作品を必ず読み、自分なりの読解を持って授業に臨むこと。

中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	太宰治「トカトントン」(1947年)	「トカトントン」を読解。
第2回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)①	「人間の羊」を読解。
第3回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)②	前回の内容を踏まえ、更に「人間の羊」を読解。
第4回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)①	「太陽の季節」を読解。
第5回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)②	前回の内容を踏まえ、更に「太陽の季節」を読解。
第6回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)①	「なんとなく、クリスタル」を読解。
第7回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)②	前回の内容を踏まえ、更に「なんとなく、クリスタル」を読解。
第8回	吉本ばなな「キッチン」(1987年)①	「キッチン」を読解。
第9回	吉本ばなな「キッチン」(1987年)②	前回の内容を踏まえ、更に「キッチン」を読解。
第10回	村上春樹「沈黙」(1991年)①	「沈黙」を読解。
第11回	村上春樹「沈黙」(1991年)②	前回の内容を踏まえ、更に「沈黙」を読解。
第12回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)①	「終末のフール」を読解。
第13回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)②	前回の内容を踏まえ、更に「終末のフール」を読解。
第14回	小川洋子「博士の愛した数式」(2003年)	「博士の愛した数式」を読解。

第15回 小川洋子「博士の愛 前回の内容を踏まえ、更に「博士の愛した数式」(2003年) 士の愛した数式」を読解。

②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記のように、毎回、特定の作品を精読していくため、事前に該当する作品を必ず読み、自分なりの読解を持って臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・太宰治『ヴィヨンの妻』新潮文庫 ※「トカトントン」収録
(ただし、この作品のみインターネット上の「青空文庫」で無料で読めます)
- ・大江健三郎『死者の奢り・飼育』新潮文庫 ※「人間の羊」収録
- ・石原慎太郎『太陽の季節』新潮文庫 ※「太陽の季節」収録
- ・田中康夫『なんとなく、クリスタル』河出文庫
- ・村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫 ※「沈黙」収録
- ・吉本ばなな『キッチン』角川文庫 ※「キッチン」収録
- ・伊坂幸太郎『終末のフール』集英社文庫
- ・小川洋子『博士の愛した数式』新潮文庫

【参考書】

授業の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト (20%)、メディアスクーリング試験 (80%)。

【学生の意見等からの気づき】

様々な作品を読み、それにまつわる読解を学ぶことで、より多角的な視点を身につける機会になればと改めて思いました。

【Outline (in English)】

Learn the world through literature

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

書道史(中国と日本の書の歴史)(前期メディア)

山口 恭子

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：前期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

- ・中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得すること。
- ・とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】**【授業の進め方と方法】**

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から近世初期までを中心に取り上げます。書体の発展、書風の変遷、高名な能書や作品、そしてその史的意義といったきわめて基礎的な事項の理解を目標とします。書芸術が長い時間をかけて発展してゆきさまを眺め、その多様な世界とともに味わいたいと思います。

【課題等に対するフィードバック方法】

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	中国書道史（1）	文字の誕生と殷・周代の書
第2回	中国書道史（2）	秦代の書
第3回	中国書道史（3）	漢代の書
第4回	中国書道史（4）	三国時代の書
第5回	中国書道史（5）	西晋・東晋の書
第6回	中国書道史（6）	北朝・隋代の書
第7回	中国書道史（7）	唐代の書
第8回	日本書道史（1）	漢字の伝来と飛鳥・奈良時代の書
第9回	日本書道史（2）	平安時代前期の書
第10回	日本書道史（3）	平安時代中期の書
第11回	日本書道史（4）	仮名の書
第12回	日本書道史（5）	平安時代後期の書
第13回	日本書道史（6）	中世の書
第14回	日本書道史（7）	近世初期の書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれて下さい。

【テキスト（教科書）】

玉村露山編『中国書道史年表』（二玄社、1998年）
 名児耶明編『日本書道史年表』（二玄社、1999年）

【参考書】

書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
 角井博監修『決定版中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
 名児耶明監修『決定版日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
 そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）と試験（70%）により総合的に評価します。とくに、中国・日本の書道史の基礎的事項を理解しているか、また、各自の考察を行うことができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

本講義をもとにさらに書道史に関する知識・教養が広がるよう、「ディスカッション」等を活用するようながしたい。また、関連する美術館や博物館の展示について伝えるなど、書に関する情報を発信するよう努めたい。

【Outline (in English)】

This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

HIS200TD（史学/History 200）	
西洋史概説(ロシア近代史を中心として)(前期メディア)	
草野 佳矢子	
カテゴリー：前期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：前期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1917年のロシア革命までのロシアの歴史を、西ヨーロッパ諸国のそれとの比較も含めて、国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題を中心に学習する。ヨーロッパ史を背景に、帝政崩壊までのロシア史の流れをとらえ、その独自性と共通性について説明できるようになる。ロシア史との比較によって、ヨーロッパ史への視野を広め、理解を深める。

【到達目標】

帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP2,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

添付資料（レジュメ）にそって講義します。中間課題に対するフィードバックとしては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ロシア帝国成立前のロシア①	キエフ・ルーシからモスクワ・ロシアへ
第2回	ロシア帝国成立前のロシア②	モスクワ・ロシアの特徴
第3回	ピョートル大帝の西欧化政策	西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化、中央・地方の行政制度改革、社会の再編
第4回	女帝たちの時代	エカチェリーナ1世～ピョートル3世の治世、ピョートル体制の修正
第5回	エカチェリーナ2世の統治	エカチェリーナの啓蒙思想、ブガチョフの乱、地方行政改革、貴族・都市への恵与状、農奴制の強化、パーヴェル1世
第6回	アレクサンドル1世とニコライ1世	秘密委員会、スベランスキーの改革案、省制の導入、ポーランド憲法とロシア憲法案、デカブリストの乱、官僚制の整備
第7回	アレクサンドル2世と大改革①	大改革の前提、農奴解放、ゼムストヴォ制度の導入
第8回	アレクサンドル2世と大改革②	都市自治制度、地方官僚制の整備、司法制度改革、軍制改革、教育制度改革
第9回	革命運動と政治改革の試み	農奴解放後の革命運動の展開、大改革期の政治改革の試み、ロリス＝メリコフの改革案

第10回	アレクサンドル3世時代のロシア①	専制体制の安定化、農民統治制度改革
第11回	アレクサンドル3世時代のロシア②	地方自治制度改革、ヴィッテ蔵相の工業化政策とその影響
第12回	ニコライ2世の治世－1894～1904年	19世紀末～20世紀初頭のロシア社会、労働者対策、農業・農民問題、「自由主義者の春」
第13回	第一次ロシア革命	血の日曜日事件、政治改革の開始
第14回	帝政ロシアの崩壊	「1906年立憲体制」の成立、ストルイビン改革、第一次世界大戦とロシア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業前に前回の内容をよく復習すること。参考文献の関連する部分を読み、理解を深めることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『世界歴史体系 ロシア史1、2、3』山川出版社、1997
『新版世界各国史 ロシア史』山川出版社、2002
藤本・松原編『ロシア近現代史』ミネルヴァ書房、1999
マルク・ラエフ『ロシア史を読む』名古屋大学出版会、2001
栗生沢猛夫『図説 ロシアの歴史』河出書房新社、2010
和田春樹『ヒストリカル・ガイド ロシア』山川出版社、2001
『新版 ロシアを知る事典』平凡社、2004

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 30%
メディアスクーリング試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The teacher will give lectures on Russian history to 1917, especially on relationship between Russian state and society, administrative and political reforms.

The goal for this class is to master the basic knowledge of Russian history to 1917 and get more understanding of European history.

HIS200TD（史学/History 200）
東洋史概説(中国古代史)(前期メディア)
宇都宮 美生
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・中国古代史を議論するために不可欠な研究上の問題を考える。
- ・中国各地の開発は著しく、それに伴い考古学の成果が続々と出ているが、遺跡を取り巻く人文・自然環境についても最新の情報を学習する。
- ・図や写真を多く利用し、歴史をより深く理解する。
- ・古代という枠にとらわれることなく、政治・経済・社会・文化などにわたる幅広い歴史知識を得ることによって、現代社会の問題を見る眼を養い、未来を展望する見識を身につける。

【到達目標】

- ・中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺地域との相互影響と国際関係について理解する。
- ・具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。
- ・レポートを通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力を備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートあるいは配布資料に必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。中間レポート（40%、添削あるいは評価でフィードバックする）と期末レポート（60%）により成績を評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	中国新石器時代	中国新石器文化の特質と多角的文明発生
第2回	二里头と殷	二里头文化から殷へ
第3回	殷	殷青銅器文化
第4回	周と三星堆	周封建制と四川三星堆文化
第5回	春秋戦国時代1	春秋戦国の都市国家と地域1
第6回	春秋戦国時代2	春秋戦国の都市国家と地域2
第7回	秦1	秦の統一
第8回	秦2	秦の兵馬俑と簡牘研究
第9回	前漢1	前漢成立時の諸問題
第10回	前漢2	漢長安と皇帝陵
第11回	前漢3	漢武帝の為政と対外政策
第12回	匈奴	匈奴帝国の変遷と中国王朝
第13回	南越と新	南越の興亡と王莽の改革
第14回	後漢	後漢の豪族社会と洛陽

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考文献を読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・『図説中国文明史』シリーズ（先史・殷周・春秋戦国・秦漢）、創元社、2005年
 - ・富谷至・森田憲司編『概説中国史・上』昭和堂、2016年
 - ・愛宕元・富谷至編『中国の歴史・上』昭和堂、2005年
 - ・尾形勇・平勢隆郎『世界の歴史：中華文明の誕生』中央公論社、1998年
- 購入できない本もあるが、古本屋で購入するか、図書館などで参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%、添削あるいは評価でフィードバックする）と期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

受講したのにレポートを出さない方がいるが、各回で学習した内容をまとめるだけなので、がんばってレポートを書いてほしい。また、中間レポートだけ提出して期末レポートを放棄する人がいるが、最後まで努力してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

手を動かして書き留めることで理解が深まるため、写真・動画撮影を禁止し、事前に配布したプリントに必要事項を書いてください。写真や動画だけですと、その場限りの理解となりますし、膨大な量になってレポートを書くのが大変になります。図や絵などはご自身で手書きにするとより一層理解が深まります。補足として『図説中国文明史』やその他の参考文献を参照されると効果的です。複数の地域の文化を比較するためには、一つの年表に地域ごとに分けて書き込んで見直すとう理解しやすくなります。「聞くだけ」「見るだけ」の参加ではなく、自動的積極的な学習をお願いします。質問の書き方についてはメディアスクーリング受講システムのお知らせを理解した上で、提出してください。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This course introduces an understanding of Chinese history (from Neolithic to Han Periods) in respect to international relations with other areas. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term report (50%) and term-end report (50%).

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）
歴史地理学(I)(前期メディア)
米家 志乃布
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本の様々な地域や景観を事例として、歴史地理学の基本的な考え方を学びます。

【到達目標】

地域の個性や景観の歴史を読み解く「歴史地理学的考え方」ができるようになることを目標とします。受講生のみなさんが経験する日常の風景や旅先の風景にも、つねに歴史地理的な意味があることを理解できるようになれば、と思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期（1）の講義では、主に日本の歴史的都市や地域の具体的事例と日本における歴史地理的な都市計画や制度・思想を中心に取り上げます。中間のレポート課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	歴史地理学とは？ （導入）	本授業全体の概要 地理学の一 分野としての歴史地理学
第2回	都城の歴史地理	奈良（平城京）を中心に考える 現在の景観に残る条坊制
第3回	京都の歴史地理	平安京の空間構造 豊臣秀吉に よる都市改造 近代以降の京都
第4回	城下町の歴史地理	城と城下町の関係 城下町プラ ン 天守閣
第5回	江戸東京の歴史地理	古地図・鳥瞰図からみる江戸東 京
第6回	大阪の歴史地理	難波京から大坂へ 近世大坂 近代大阪
第7回	港町の歴史地理	北海道の港町 北前船文化
第8回	札幌の歴史地理	近代札幌の都市計画と風景
第9回	蝦夷地/北海道の歴史 地理	紀行文・地誌 松浦武四郎と蝦夷地/北海道
第10回	盛り場の歴史地理	江戸・東京の盛り場
第11回	京・江戸の名所	江戸時代の名所 京都の名所空間 江戸の都市景観
第12回	近代東京の名所	明治・大正の東京名所 昭和戦前期の東京名所
第13回	地域の歴史と遺産	文化財保存法 地域と遺産
第14回	日本における歴史的 景観保存	重要伝統的建造物保存地区 文化的景観の歴史地理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

多くの文献や史料を参考にしますので、各回の授業内で適宜紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of Japan. **【Learning Objectives】** The goals of this course are to learn, understand, and practice about historical geography of Japan.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for class.

【Grading Criteria】 Mid-term report (30%) and term-exam (70%).

GEO100TE（地理学 / Geography 100）
自然地理学概論(2)(前期メディア)
小寺 浩二
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について学ぶ。また、自然災害や環境問題における応用学としての自然地理学の役割の大きさについても理解を深める。

【到達目標】

地球の成り立ち・構造・歴史・自然災害から地球規模の環境変化の事例、人間活動の影響まで、幅広く様々なテーマを取り上げて講義すると同時に、それらに対するレポート作成によって、より深く問題を掘り下げる能力と習慣を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圈、気圈、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、植生地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。講義では、様々な資料をもとに、概論を論じ、さらに深く学ぶための文献なども提示する。その上で、3段階の課題に取り組み、ただ、教科書的な内容を学ぶだけでなく、関連資料を収集、整理、解析し、独自のテーマに沿って、オリジナリティのある小論文を作成する技量も養う。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	1) 地理学とは？ 2) 自然地理学とは？ 3) 講義の構成と課題
第2回	地球惑星科学としての（自然）地理学	1) 地球惑星科学とは？ 2) 惑星探査の歴史 3) 惑星としての地球
第3回	気候①<大気大循環と気候因子>	1) 地球の熱収支 2) 大気大循環 3) 気候要素 4) 気候因子
第4回	気候②<世界の気候区分と気候変動>	1) 世界の気候区分 2) 気候の変化・変動
第5回	気候③<日本の気候と局地気候>	1) 日本の気候の特色 2) 日本の気候区分 3) 局地循環と地域の気候 4) 局地風 5) 都市気候

第6回	地形①<世界と日本の大地形>	1) 世界の大地形とプレートテクトニクス 2) 日本の地質 3) 日本の造山運動と地形の特色 4) 火山の分布と成因
第7回	地形②<第四紀と山地の地形>	1) 第四紀 2) 氷河時代 3) 氷河地形と周氷河地形 4) 山地と丘陵地 5) 変動地形 6) 河谷と水系
第8回	地形③<平野と海岸の地形>	1) 平野と海岸 2) 台地と扇状地 3) 沖積低地の微地形 4) 平野の開発と改変
第9回	水文①<水循環と流域>	1) 水循環と水収支 2) 流域の水循環と物質循環 3) 河川学の基礎
第10回	水文②<地下水と湖沼>	1) 地下水学の基礎 2) 湖沼学の基礎
第11回	水文③<雪氷と海洋>	1) 雪氷学の基礎 2) 海洋学の基礎
第12回	植生<植生分布・景観・文化>	1) 世界の植生分布 2) 日本の植生分布 3) 原植生の衰退 4) 日本の植生景観 5) 森林と文化
第13回	自然災害と地理学の応用	1) 自然災害とは？ 2) 地震災害 3) 洪水・高潮災害 4) 火山災害
第14回	環境問題と地理学の応用・まとめ	1) 身近な環境問題 2) 地球規模の環境問題 3) 自然地理学の応用 4) まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト・参考書の内容は多岐にわたるが、全てをまんべんなく学ぶ必要がある。その上で、メディア授業の内容についても深く理解し、設題で示されたいくつかの課題の中から具体的なテーマを選び、対象地域を選定してより深く学習する。

毎回の講義に対しては、予習復習を確実にし（4時間が目安）、中間レポート、最終レポートには、十分な時間をかけて臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2020)：『自然地理学概論（1）』.法政大学通信教育部、

【参考書】

・高橋日出男・小泉武栄編著（2008）：『自然地理学概論』（地理学基礎シリーズ2）、朝倉書店、¥3,300+税
・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景のなかの自然地理（改訂版）』、古今書院、¥2,500+税

【成績評価の方法と基準】

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み（中間レポート1回）、その結果に対する指導によって具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終レポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義毎に示してある課題に毎回取り組み、中間レポートで途中経過をまとめた上で、最終レポートに取り組んでいただきたい。また、中間レポートの評価に当たっては、模範レポートとコメントを示すので、必ず参照して次のレポートの参考とするように。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、課題はパソコンを使って形式に従って作成する必要があります。最低限のパソコンと、Officeソフトは用意しておかなければなりません。また、課題の質を向上させるためには、ある程度のGIS活用も求められるため、MANDARAやQ-GISなどのフリーソフトはインストールして使えるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】

Learning the fundamentals of natural geography, which is an important area of geography, capturing the natural environment as a stage of human activities in the area, and learning about the relationship between human beings and society and the natural environment through analysis. Also understand the magnitude of the role of natural geography as applied science in natural disasters and environmental problems.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
地学概論 (I) (前期メディア)
宍倉 正展
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地学」は地球とそれを構成する岩石圏、気圏、水圏を対象とする自然科学の総称であり、学校教育においては天文分野も含まれる。本講義では宇宙や地球の構造と構成物質、地球に働く力やプレート運動とそれに付随して起こる地震や火山活動のメカニズムと諸現象について学び、地学の基礎について習得する。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、どのように構成されているのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論とそれに関連した地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地学に関連したニュースや科学番組に接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

宇宙から始まり、地球の構造と構成物質、地球内部から働く営力としてプレートテクトニクスとそれに付随する地震、地殻変動、火山活動について紹介していく。秋学期（2）では地球表層で起こる様々な事象を取り上げ、生命の歴史から気候変動、自然災害等について説明する。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概略をダイジェストで紹介し、地学を学ぶ意義について説明する。
第2回	宇宙	宇宙の構造や広がり、ビッグバンから始まる宇宙の成因などについて説明する。
第3回	太陽系と地球	太陽系の成因、地球の成り方について、他の惑星と比較しながら説明する。
第4回	地球の構造	地球の形と大きさ、内部の構造とそれらをどのように測るか説明する。
第5回	地球に働く力	地球に働く磁場や重力、潮汐力について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第6回	プレートテクトニクス1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第7回	プレートテクトニクス2	プレートテクトニクス理論の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第8回	地震1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなど、地震の基礎について説明する。

第9回	地震2	地震のメカニズムを様々な観測データとともに説明する。
第10回	地震3	地震予測の情報に関する説明を行う。
第11回	地殻変動1	緩急様々な地殻の動きとそれを観測する方法について説明する。
第12回	地殻変動2	地形や地層、生物化石の痕跡から復元された過去の地殻変動について説明する。
第13回	火山1	火山の種類や噴出物、噴火メカニズムなどについて説明する。
第14回	火山2	破局的噴火と広域火山灰について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成等に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。

【参考書】

「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録」数研出版
<https://www.chart.co.jp/goods/item/rika/35056.php>
 泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>
 宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
 大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）
 メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講のため学生の意見はまだない

【Outline (in English)】

Geoscience is generally known as a natural science covering the earth and its lithosphere, atmosphere, and hydrosphere, including astronomy in the case of school education. In this course, students learn about the basis of geosciences such as the universe, the structure and component materials of the earth, the external and internal forces acting on the earth, plate tectonics, and the various phenomena and mechanisms of earthquakes and volcanic activities.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）	
自然地理学(地形)(I)(前期メディア)	
前卒 英明	
カテゴリー：前期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：前期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。地形形成過程について理解することにより、土砂災害や地震災害などについてその本質を理解することができ、地域防災のリーダー的役割を担えるようになる。

【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。春学期（1）では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。地形学と自然地理学の関係
第2回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、地形を変化させるエネルギー
第3回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第4回	マス・ムーブメントと斜面	さまざまな集塊移動のメカニズムについて。斜面の基本分類。
第5回	河川による作用	河川の形成、侵食・運搬・堆積作用の基本
第6回	河川地形	侵食作用、堆積作用によって形成される地形
第7回	海岸における作用	波の種類。波の作用、沿岸流など海岸で地形を変化させる作用
第8回	海岸地形	海岸でのさまざまな堆積地形、侵食地形について
第9回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第10回	周氷河作用と地形	周氷河作用によるさまざまなスケールの地形
第11回	氷河による作用	氷河の形成と流動。氷河が地形を変化させるメカニズム
第12回	氷河地形	氷河が形成するさまざまな地形について

第13回	カルスト地形	石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成メカニズム
第14回	人類の活動と地形変化	人類の活動による地形変化についていくつかのケースを事例に解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。質問等は通教LMSを利用すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『地形学入門』A.L.ブルーム、権根 勇訳、1970年
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年
『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～
『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013
『地形学』松倉公憲、朝倉書店、2021

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）
メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

中間レポートの課題は後半のテーマから出さないように気をつけたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to get fundamental knowledge of geomorphology. The goals of this course are to understand landform processes and to recognize geological time scale. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(気候・気象)(I)(前期メディア)

山口 隆子

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：前期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学んでいきます。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	気候学とは？（導入）	本授業全体の概要。気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第2回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第3回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第4回	気圧	気圧とは何か
第5回	風	風が吹く仕組み
第6回	雲と降水	雨が降る仕組み
第7回	日本の気候の特徴	4つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第8回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第9回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第10回	都市気候（1）	ヒートアイランド現象
第11回	都市気候（2）	ヒートアイランド対策
第12回	盆地の気候	盆地の気温と風
第13回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第14回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、144p。
 今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のしくみ』。産業編集センター、208p。¥1,600＋税
 稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店、203p。¥2,200＋税

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course. The goals of this course are to understand atmospheric phenomena from a climatological perspective. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
自然地理学(海洋・陸水)(I)(前期メディア)
小寺 浩二
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水循環を中心とした水文学的な視点を取り入れつつ、地理学の重要な一分野である「海洋・陸水学」の再構築を試み、受講生の系統的な「水」に関する知識の習得をめざす。水資源、水利用、水質汚濁、地下水汚染、親水、洪水など、「水」に関する様々な問題を、身近な水辺からグローバルスケールまでの様々なスケールで扱う。

【到達目標】

海洋陸水学の基礎的な知識と理論についての理解を深めると同時に、具体的なテーマについての研究成果についても学ぶ。また、実際の調査方法についても理解し、具体的な課題に取り組んでまとめる力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

各回とも、テーマに沿った基礎知識について概要を説明し、具体的なフィールドデータを紹介しながら理解を深める。その上で、調査技術についても紹介し、具体的な課題にも取り組んで、確実な力を育成する。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海洋陸水学とは？	陸水学・水文学・講義の構成と課題
第2回	河川学入門	流域の形状・水系網・流況
第3回	地下水学入門	土層の三層構造・不飽和帯・不圧地下水
第4回	湖沼学入門	三つの分類・水温躍層・集水域
第5回	雪氷学入門	雪氷の分布・氷河・南極・グリーンランド
第6回	海洋学入門	海底の地形・プレートテクトニクス・深層海流
第7回	水環境の諸問題①	身近な水環境・湧水・地下水汚染・富栄養化
第8回	河川学の基礎	ハックの法則・ホートンの水系網・流況曲線
第9回	地下水学の基礎	ダルシーの法則・水温の鉛直分布
第10回	湖沼学の基礎	湖盆形態・湖水の物理、化学、生物
第11回	雪氷学の基礎	氷河の流動モデル・降雪、積雪、融雪
第12回	沿岸域・汽水域の水環境	内湾の水環境・大河川下流域
第13回	自然災害と流域圏	津波・洪水・火山災害・流域の人間活動・流域委員会
第14回	水環境の諸問題②・まとめ	地下水汚染・湖沼の酸性化・中性化・緑のダム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回示してある課題に取り組む。また、調査技術についても可能な限り取り組む。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

通教テキスト『自然地理学（海洋・陸水）』第1版、小寺浩二・三井嘉都夫、2019年

通教テキスト『自然地理学概論（1）』第1版、小寺浩二、2020年

【参考書】

毎回の講義資料で提示。

【成績評価の方法と基準】

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み（中間レポート2回）、具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終レポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの内容やその際のコメントを考慮して、昨年度からレポート設題を変更した。具体的には、違うテーマで独立したレポート2本を課していたが、同一テーマで中間レポートを提出した上で最終レポートを提出する形式として、一つのテーマにじっくり取り組めるようにし、より内容の充実したレポートが提出できるように配慮した。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の講義で説明した調査機器のうち、自作するものや、安価なものは、出来るだけ用意して、出来るだけ実際の水環境調査を行うこと。

【その他の重要事項】

提示した参考文献は多いが、できる限り参照して理解を深めること。メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】

Attempting to reconstruct "Oceanography and limnology" which is an important area of geography while trying to adopt a hydrological viewpoint centered on water circulation, aim to acquire students' knowledge on systematic "water". We deal with various problems concerning "water" such as water resources, water use, water pollution, groundwater contamination, hydrophilic, flood etc. on various scales from familiar water side to global scale.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
地図学 (I)(前期メディア)
若林 芳樹
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業は、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための技法を修得することにねらいがある。

【到達目標】

- 1) 地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。
- 2) 自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。
- 3) デジタル地図を作成・利活用するためのGISの基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術が社会で果たす役割について考える。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポートの掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第2回	地図の歴史	地図の起源と発達、メディアと伝達様式の変化
第3回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第4回	地図の分類と投影法	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第5回	地形図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第6回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第7回	主題図の表現と利用	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第8回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第9回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック、メディアリテラシー
第10回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第11回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第12回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力
第13回	地図と地名	地図にとっての地名の役割、地名をめぐる現代的課題

第14回 現代世界の地図事情 地図に表れたお国柄、データ標準化と表現の多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。

【テキスト（教科書）】

『地図づくりの現在形』（宇根寛著、講談社、2021年）
『デジタル社会の地図の読み方 作り方』（若林芳樹、筑摩書房、2022年）

【参考書】

『地図の歴史 世界篇・日本篇』（織田武雄著、講談社、2018年）、
『地図表現ガイドブック』（浮田典良・森 三樹著、ナカニシヤ出版、2004年）、
『地図の事典』（日本地図学会監修、朝倉書店、2021年）、
『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018年）

【成績評価の方法と基準】

小テスト 60%、レポート（中間レポートを含む）40%で総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネット接続可能なパソコン

【Outline (in English)】

Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to the increasing use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to acquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (60%) and term-end examination (40%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
金融論A / 金融論 I（前期メディア）
武田 浩一
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを知り、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生が、まず金融の面白さに触れ、さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

金融取引の機能や金融機関の役割、貨幣の意義、日本の金融システムの特徴などについて主に解説する。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。

中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	はじめの一步：「金融」とは？	金融とは何か
2	直接金融と間接金融	金融取引において金融機関が果たす役割
3	銀行の機能	銀行の決済機能と信用創造機能
4	日本の金融システムと銀行	日本の金融システムと銀行の特徴
5	協同組織金融機関と証券会社	協同組織金融機関と証券会社の機能
6	保険会社と消費者信用会社	保険会社と消費者信用会社の機能
7	資金循環と金融構造	日本の資金循環と金融構造の特徴
8	貨幣の意義と機能	貨幣の意義・機能と現代の通貨制度
9	決済システム	決済システムの機能
10	貨幣需要	貨幣需要と流動性選好
11	流動性のわなとマネーストック	貨幣需要における流動性のわなと貨幣供給
12	公的金融	日本の公的金融の役割と特徴
13	企業の資金調達	企業の財務状態と資金調達
14	国際金融機関	国際金融機関の意義と役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うため、講義で分からないことがあるときには、テキストを活用するなどして十分に復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊、2,200円）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

成績は試験によって評価する。メディアスクーリング試験（配分90%）だけでなく中間テスト（配分10%）も受講すること。授業への出席が単位認定の前提条件となる。全てのメディアコンテンツを視聴・学習して小テストを受講した上で中間テストやメディアスクーリング試験を受講すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. Students will be expected to have completed the required assignments after classes. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (90%) and Mid-term examinations (10%).

ECN300TF（経済学/Economics 300）

経済政策論A／経済政策論I（前期メディア）

酒井 正

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：前期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、「就業」という切り口を通して、日本における社会保険を中心としたセーフティーネットに関する政策について理解を深めます。特に、経済学の観点から、エビデンスに基づいた議論をおこなえるようにします。

【到達目標】

受講者が、本講義を通じて、経済政策としての社会保障制度が直面している課題や論点を把握することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

始めに日本の労働市場と社会保障制度について概観した後に、各論について扱います。労働市場と社会保障制度という「両輪」を常に念頭に置きながら、議論します。

スライド資料にはいくつかの「問い」を提示するので、受講者自身でもその答を考えることが期待されます。

各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	労働市場の概観	日本の労働市場に生じている変化
2	社会保障制度の概観	日本の社会保険の概要
3	社会保険料の未納問題	「皆保険」なのになぜ未納者がいるのか
4	労働市場のセーフティーネット①	雇用保険は失業者を救済できているか
5	労働市場のセーフティーネット②	「第二のセーフティーネット」を巡って
6	両立支援策の経済分析①	保育施策を巡る課題
7	両立支援策の経済分析②	育休制度やその他の制度
8	高齢者就業の経済分析①	高齢者就業促進政策と介護要因
9	高齢者就業の経済分析②	高齢者就業と労災、労災保険
10	社会保険料の帰着問題とその応用	誰が社会保険料を負担しているのか
11	若年就業問題	「就労支援」を巡って
12	社会政策とエビデンス①	エビデンスの政策活用において注意すべきこと
13	社会政策とエビデンス②	「自助」・「互助」・「共助」・「公助」の相互関係
14	まとめ	今後のセーフティーネット施策に必要なこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義内容をよく復習し、毎回、自分で議論を整理してみることが求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020年）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末におこなうレポート（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The goal of this course is to understand policies, primarily based on empirical evidences from economic researches. The lecture focuses on safety-net such as unemployment insurance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based only on term-end report (100%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
ミクロ経済学A / 現代経済学 I (前期メディア)
平井 俊行
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学A/現代経済学Iでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・基本的な計算問題を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。

中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の目的、講義についての注意事項など。
第2回	微分の考え方・計算	微分の基本的な考え方・計算方法
第3回	部分均衡分析①	需要・供給・市場均衡
第4回	部分均衡分析②	余剰分析
第5回	部分均衡分析③	課税と死荷重
第6回	消費者行動理論①	選好・効用・無差別曲線
第7回	消費者行動理論②	予算制約
第8回	消費者行動理論③	限界代替率・需要関数の導出
第9回	消費者行動理論④	代替財・補完財、上級財・下級財、ギッフェン財
第10回	生産者行動理論①	生産と費用
第11回	生産者行動理論②	平均可変費用・平均総費用・限界費用
第12回	生産者行動理論③	供給関数の導出
第13回	一般均衡分析①	関連する2つの財の市場の間の影響。
第14回	一般均衡分析②	純粋交換経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。

事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

第1回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning activities outside of classroom: Students will be required to spend two hours for each of

(1) preparation: reading handouts and references;

(2) review: reviewing the contents of lectures and resolving exercise in the class.

Grading Criteria: 70% for Final exam; 30% for mid-term exams (15% per one mid-term exam)

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学A / マクロ経済学 I (前期メディア)
奥山 利幸
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代経済学には、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の2つの基礎理論群があります。その内の「マクロ経済学」は、一国全体での所得や消費といった集計量を対象に、景気循環、景気変動、経済成長などの仕組み、また、それらに対する経済政策の影響を探求します。本講義は、そうしたマクロ経済学を入門から中級レベルで学びます。「マクロ経済学A/I」では、その中でも、1960年代までのマクロ経済学を中心的に学びます。1960年代までのマクロ経済学は、その後のマクロ経済学の発展のベースになっており、現在のマクロ経済学を理解する上で、いくつかの重要なテーマを与えています。

【到達目標】

- ・専門用語の理解：定義を述べられるか否か、具体的な例、数値などを示せるか
- ・理論の理解：図説が可能か、式で示せるか
- ・上記の応用力：現実に起こっている例に適用したときに何が言えるのか（インプリケーション）、どういったことが今後、発生すると言えるのか（予測）、理論はどの程度の説明力があるのか、その限界は何か（発展、新たな研究課題の発掘）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回は、マクロ経済学の問題意識を経済学の専門用語を確認しながら学びます。また、理論の発展に左右した学説も概観する予定です。そのあとに、1960年代までマクロ経済学の中心的理論であったケインジアン理論を学んでいきます。

初回から最後の講義まで、すべて、講義形式の授業です。毎回の授業において、その授業にて明らかにする問題意識を提示します。学習する専門用語や概念をキーワードとして示しますので、一つ一つ、理解するように努めてください。そして、その回の授業の問題意識に対し、どのような答えを得たのか、最後に考えてみましょう。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	「マクロ経済学」とは？	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学の問題意識は？ ・「マクロ経済学」とは？「マクロ経済学」は、経済学の様々な問題意識を、どのようにとらえ、どのように分析しようとするのか？ ・現代経済学の基礎理論群である「ミクロ経済学」との差異は？
第02回	経済活動のとらえ方、フロー循環と三面等価	<ul style="list-style-type: none"> ・景気変動や経済成長の指標は？ ・その指標を作成するために、どのように経済活動をとらえれば良いか。

第03回	日本経済における景気変動と経済成長、そして、学説史から見る「マクロ経済学」の諸派	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済における景気変動、経済成長は？ ・学説史と「マクロ経済学」の諸派は？
第04回	「有効需要の原理」と均衡GDP水準の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・「有効需要の原理」を想定した場合、「セイ法則」を想定した場合とでは、GDP水準の決まり方や大きさを左右する要因が異なるのであろうか？ ・「有効需要の原理」を想定した場合のGDP水準の決まり方は？
第05回	消費関数とケインジアン理論	「有効需要の原理」を想定した場合のGDP水準の決まり方は、消費者の選択とどのように関係しているのであろうか？
第06回	ケインジアン乗数理論と貯蓄のパラドックス	<ul style="list-style-type: none"> ・「有効需要の原理」を想定した場合、民間投資需要の増加は、景気や消費にどのような効果をもたらすのであろうか？それは、何かしらの法則性があるのであろうか？ ・「有効需要の原理」が成り立つ場合、人々が自らの資産を形成するための「貯蓄」を増やそうとすることは、景気を改善させるのであろうか？
第07回	「有効需要の原理」の下での政府介入(1)消費関数と投資乗数への影響	<p>「有効需要の原理」を想定したとき、政府の介入・財政と景気の関係は、どのようになっているのであろうか。</p> <p>(1) そもそも「財政」とは？</p> <p>(2) 政府が介入するときの総需要は？均衡条件は？</p> <p>(3) 民間投資の景気や消費への効果、特に、投資乗数への政府の介入の影響は？</p>
第08回	「有効需要の原理」の下での政府介入(2)財政政策の乗数効果と財政赤字	<ul style="list-style-type: none"> ・「有効需要の原理」を想定したとき、政府支出を増加させると、投資の乗数波及と同じように、乗数効果が働くのであろうか。均衡GDP水準は、その何倍、増加するのであろうか。その増加率には、何かしらの法則があるのであろうか。それは、その原資を公債発行によって賄っても、増税で賄っても、同じであらうか。財政赤字を悪化させないのであろうか。 ・減税については、どうであらうか。
第09回	投資関数：限界効率の理論とトービンのq	「有効需要の原理」を想定した場合、民間投資の増加は、景気や消費に正の効果をもたらすが、そもそも、民間投資は、どのように決まるのであろうか？
第10回	金融市場と利子率(1)様々な金融商品と市場利子率	民間投資の大きさを左右する市場利子率は、どのように決まるのであろうか。そもそも、「市場利子率」とは、何を指しているのであろうか。
第11回	金融市場と利子率(2)貨幣市場と市場利子率	民間投資の大きさを左右する市場利子率は、どのように決まるのであろうか。貨幣の流通量であるマネーサプライ(マネーストック)との関係は？
第12回	金融市場と利子率(3)金融政策とマネーサプライ	日銀の金融政策の手段は？それらと貨幣の流通量であるマネーサプライ(マネーストック)との関係は？

- 第13回 IS・LM分析(1) IS曲線とLM曲線 生産物市場と金融市場が同時に均衡する状態は？ その調整プロセスは？
- 第14回 IS・LM分析(2) 財政政策とクラウディング・アウト 生産物市場と金融市場（債券市場、貨幣市場）の間の相互作用を考えたとき、財政政策は乗数効果以外にどのような効果を伴うのであろうか。財政政策が景気変動に有効なとき、無効なときは、いつであらうか。
- 第15回 IS・LM分析(3) 金融政策の効果 生産物市場と金融市場（債券市場、貨幣市場）の間の相互作用を考えたとき、金融政策は、どのような効果をもたらすのであろうか。金融政策が景気変動に有効なとき、無効なときは、いつであらうか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習問題（Web）を行い、理解度を確認してください。経済学の理論は、積み上げになっていますので、過去に学んだことを確実に消化することが、次の講義の最大の準備学習になります。学んだ専門用語、理論に対し、曖昧さを無くすように復習しましょう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書は、ありません。

【参考書】

[注意] 以下は、講義内容が理解できない場合に参考にするの良い図書（あいうえお順）
井堀利宏『入門マクロ経済学』新世社
エーベル/ベルナンケ『マクロ経済学』CAP
ゴードン『マクロエコノミックス』多賀出版
ブランチャール『マクロ経済学』東洋経済
ホール/テイラー『マクロ経済学』多賀出版
マンキュー『マクロ経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】

試験100%：専門用語・理論の理解80%、応用力20%
但し、中間レポートも提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

開始後、「お知らせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】

・ Course outline

This course deals with macroeconomics. It also enhances the development of students' skill in economic applications.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to understand and explain macroeconomic terminology and theories, and to apply them to actual phenomena.

・ Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

・ Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
国際経済論A / 国際経済論 I（前期メディア）
田村 晶子
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易論の基礎理論を勉強します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	世界貿易の概観	データによる世界貿易の動向
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済と生産の国際立地	規模の外部経済と貿易
第8回	新しい貿易理論とグローバル経済の企業	輸出判断と多国籍企業（直接投資）
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸入関税、輸出補助金の費用と便益
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第12回	貿易政策の政治経済	国際貿易体制とWTO
第13回	国際貿易体制	地域貿易協定の経済効果
第14回	貿易政策をめぐる論争	貿易政策をめぐる論争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学理論と政策〔原書第10版〕上:貿易編』丸善出版、2017年

【参考書】

石川城太・椋寛・菊地徹著 『国際経済学をつかむ（第2版）』 有斐閣、2013年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）と期末レポート（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on midterm report(40%) and term-end report(60%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
環境経済論A / 環境経済論 I（前期メディア）
松波 淳也
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、環境経済学の基本概念、手法を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

現代の環境経済学の基礎概念・手法を身につけてもらうことを目標とし、最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。中間課題に対しては、採点基準および優秀レポートの掲示を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。ピグー・モデル。
第04回	外部性②	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第05回	外部性③	コース・モデル～コースの定理
第06回	外部性④	外部性のモデル分析再考
第07回	公共財としての環境財	コモンプール財としての環境財
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	SDGs(持続可能な開発目標) デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。
第14回	持続可能な発展③	SDの経済思想・再論。本講義のまとめと環境経済学の今後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房
環境省『環境白書』最新版

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50%）とレポート試験（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic environmental economics. The goal of this course is to acquire the basic concepts and methods of environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(50%), term-end report(50%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

開発経済入門A(前期メディア)

池上 宗信

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：前期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資、彼らの直面するリスクとその対策を学びます。さらに、それらを理解するのに有用な時間的不整合、モラル・ハザードなどの理論、ランダム化比較試験、差の差の分析、操作変数法などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】

開発途上国の貧困家計にとって重要な栄養、健康、教育、出産、リスクという経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心になりますが、授業中に演習問題があるので、ビデオを一時停止し、受講生自身で解く努力をしてから、ビデオを再生、解答を見てください。

中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	貧困	貧困の罫、人口・貧困の分布・変化
2	ランダム化比較試験	因果関係、第3の要因
3	栄養	貧困家計の栄養に関する選択
4	健康	貧困家計の健康に関する選択
5	時間的不整合	コミットメントとあと押し
6	差の差の分析	パラレル・トレンドの仮定
7	操作変数法	内生変数、誤差項
8	教育	貧困家計の就学に関する選択
9	出産	妊娠、出産の意思決定
10	リスク1	期待値、期待効用
11	リスク2	状態空間分析
12	リスク3	独占的な保険会社
13	リスク4	完全競争保険市場
14	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習として各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献を読んでください。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義のスライドは、各授業のスライドの最後にある参考文献リストの文献、特にリストの一番上の文献に基づきます。以下のような文献などです。

池田新介(2012)「第3章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社

ディーン・カーラン、ジェイコブ・アベル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房

神取道宏(2014)「8 保険とモラル・ハザード」『ミクロ経済学の力』日本評論社

神戸伸輔(2004)「13 章リスクと保険」『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

高野久紀(2014, 2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号

アビジット・バナジー、エスター・デュフロ(2012)『貧乏人の経済学』みすず書房

森田果(2014)「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

オンラインシステム上の中間テスト20%、期末（メディアスクーリング）テスト80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度の授業改善アンケートに、本講義は難しい、難しすぎると答えた受講生が複数名いました。そこで、2022年度のシラバスには、そのような回答があったこと、および、「統計学、経済学入門を履修後に本講義を履修すること、ミクロ経済学、マクロ経済学などを同時に履修することなどをご検討いただければと思います。」と書きました。2022年どの授業改善アンケートには、難しい、難しすぎるという回答はありませんでした。

【Outline (in English)】

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, and schooling decision by poor households in developing countries. We will also study theoretical model of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled experiment, difference in difference method, instrument variable methods, which are useful for studying the decision.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
国際貿易論A(前期メディア)
武智 一貴
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易論Aでは国際貿易論の基本概念を学習する。

【到達目標】

国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。

中間レポートに対しては、採点結果の返却および模範解答を掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際取引とは何か？なぜ我々は貿易を行うのか？	国際取引の基礎、貿易からの利益
第2回	余剰分析の基礎：消費者行動から	消費者の効用、需要
第3回	余剰分析の基礎：消費者の余剰	消費者余剰
第4回	余剰分析の基礎：企業行動から	企業の費用、供給
第5回	余剰分析の基礎：生産者の余剰	生産者余剰
第6回	市場の役割	市場均衡、社会的余剰
第7回	貿易の利益	自給自足時と自由貿易時の社会的余剰の比較
第8回	貿易政策の効果	自由貿易時と輸入関税下の余剰の計算
第9回	一般均衡分析の基礎	リカードモデル
第10回	比較優位	リカードモデルにおける自給自足均衡
第11回	一般均衡における貿易利益	リカードモデルにおける貿易均衡
第12回	戦略的状況の分析の基礎	ゲーム理論
第13回	戦略的貿易政策	ナッシュ均衡と貿易政策
第14回	戦略的貿易政策の意味	展開形ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。講義では経済学の考え方について主に紹介するが、各自で具体例に基づいた計算なども可能になっておく事が望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

石井他著、入門・国際経済学、有斐閣

石川・菊池・棕著、国際経済学をつかむ、有斐閣

Krugman and Obstfeld, International Economics, Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、レポート試験(70%)で評価する。講義内容を踏まえ、自ら計算・グラフの作成（解釈）が出来る事を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course is intended to introduce students to basic concepts of international trade. Our learning objective is to understand the standard theories in international trade and apply these theories to real world examples. Students are expected to study four hours to prepare for the class. Grading will be determined by the performance of midterm report (30%) and final report (70%).

ECN300TF（経済学/Economics 300）

日本経済論A／日本経済論I（前期メディア）

倪 彬

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：前期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、グローバル化の進展で様々な課題を抱えている。今後の動向を理解するために、様々なツールが必要になってくる。本講義では、日本国内経済のみならず、企業の海外進出における諸問題にも焦点を置きながら議論していく。

【到達目標】

本講義は、日本経済事象を理論的に捉え、実証的に分析し、問題意識を持つ能力を身につけさせることを目標とする。またグローバル経済における日本の経済現象を経済学の視点から考察する。日頃目に耳にしている出来事や現象を通して、経済の仕組みやそのメカニズムについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義予定に基いて進める。オンデマンドコンテンツを事前にこちらから用意し、毎回の授業でコンテンツを実習してもらい、小テストなどで理解度を高めてもらう。
 各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	内容の紹介と授業の説明
2	経済学の基本概念1	機会費用
3	経済学の基本概念2	需要と供給、均衡
4	経済学の基本概念3	GDPとGDPデフレーター
5	日本の金融政策、財政政策1	財政政策
6	日本の金融政策、財政政策2	金融政策
7	日本の金融政策、財政政策3	財政・金融政策の効果と事例
8	経済成長理論1	ソローモデル1
9	経済成長理論2	ソローモデル2
10	経済成長理論3	成長会計
11	日本企業の海外進出1	国際貿易の理論1
12	日本企業の海外進出2	国際貿易の理論2
13	日本企業の海外進出3	貿易政策：関税
14	日本企業の海外進出4	FDI: 日本のケース

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
 阿部頭三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

We will discuss the economic issues in the context of Japan. Apart from domestic issues such as fiscal and monetary policies, we will also extend to the global framework, mainly from two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI).

ECN300TF（経済学/Economics 300）
経済地理（I）(前期メディア)
近藤 章夫
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの多層的な空間スケールを念頭におき、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と地域間格差、企業立地と国際分業、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済成長と人口構造	世界経済の歴史と地理
第3回	① 経済成長と人口構造	人口構造と経済成長論
第4回	② 経済成長と人口構造	都市化と人口問題
第5回	③ 立地論の基礎①	経済活動の立地行動と理論の概要
第6回	立地論の基礎②	産業・工業立地論の枠組
第7回	立地論と都市研究①	農業立地論と中心地理論
第8回	立地論と都市研究②	都市内部構造と都市システム
第9回	グローバル化とローカル化①	産業発展のダイナミズムと空間的分業論
第10回	グローバル化とローカル化②	比較制度分析とグローバルネットワーク論
第11回	国土利用と地域政策①	日本の地域構造と国土政策の歴史
第12回	② 国土利用と地域政策	戦後の国土・地域政策と新たな動向
第13回	③ 国土利用と地域政策	都市・地域問題と現代の課題
第14回	まとめ	経済活動と地理的スケールの重層性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 富田和暁（2006）『地域と産業—経済地理学の基礎—』原書房
 山田浩之・徳岡一幸編（2007）『地域経済学入門（新版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200TF（経済学/Economics 200） 経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(前期メディア)
赤石 秀之
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、モノが生産者によって作られ、消費者によって使われ、その後排出者によってモノが捨てられ、最終的にゴミは処理者によって処分される、というモノの流れについて経済学の観点から考えていく。それにより、循環経済の構造を明らかにし、そこで取引されるモノやゴミの価格はどのようにして決まるのか、さらに取引に関わる人々の便益や利益はどのようにして決まるのか、といった点を明らかにすることができる。

【到達目標】

- ・モノの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
- ・ゴミの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
- ・循環型社会に関するミクロ経済分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方としては、主にミクロ経済分析で用いるグラフを使った授業が行われる。また、授業内ではグラフを作成して考える学習などがある。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	循環経済の意味と構造	授業の進め方や循環経済の意味や基本的な仕組みについて解説する。
第2回	動脈経済での価格決定原則①（製品市場における生産者の意思決定）	モノの市場での生産者がどのような行動をするのかについて解説する。
第3回	動脈経済での価格決定原則②（製品市場における消費者の意思決定）	モノの市場での消費者がどのような行動をするのかについて解説する。
第4回	動脈経済での価格決定原則③（製品市場における価格の決定）	モノの市場での価格・取引量がどのように決定されるのかについて解説する。
第5回	静脈経済での価格決定原則①（廃品市場における排出者の意思決定）	ゴミの市場での排出者がどのような行動をするのかについて解説する。
第6回	静脈経済での価格決定原則②（廃品市場における処理者の意思決定）	ゴミの市場での処理者がどのような行動をするのかについて解説する。
第7回	静脈経済での価格決定原則③（廃品市場における価格の決定）	ゴミの市場での価格・取引量がどのように決定されるのかについて解説する。

第8回	循環経済での価格決定原則①（循環経済における製品需要・廃品供給の決定原則）	モノの市場での需要とゴミの市場での供給がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第9回	循環経済での価格決定原則②（循環経済における製品供給・廃品需要の決定原則）	モノの市場での供給とゴミの市場での需要がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第10回	循環経済での価格決定原則③（循環経済における価格の決定）	モノの市場とゴミの市場での価格・取引量がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第11回	動脈経済での便益決定原則	モノの市場での人々の便益・利益がどのように決定されるのかについて解説する。
第12回	静脈経済での便益決定原則	ゴミの市場での人々の便益・利益がどのように決定されるのかについて解説する。
第13回	循環経済での便益決定原則	モノの市場とゴミの市場での人々の便益・利益がどのように同時に決定されるのかについて解説する。
第14回	家電リサイクル法の政策効果	家電リサイクル法を例に、循環型社会での価格・便益がどのように決定されるのかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に事前の学習は必要ではないが、日ごろから新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済や環境に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

植田和弘（1992）『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣。
リチャード・C・ポーター（2005）『入門廃棄物の経済学』東洋経済新報社。
細田衛士（2012）『グッズとバズズの経済学（第2版）』東洋経済新報社。

【成績評価の方法と基準】

中間課題で40%、期末試験で60%、合わせて100%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の目線に合わせた授業をさらに心掛けていきます。

【Outline (in English)】

In this lecture, we consider a recycling society from the viewpoint of microeconomics. The recycling-oriented society shows a desirable society from the viewpoint of the product life cycle, from the production, consumption, disposal and disposal of goods, but we will clarify how it is evaluated from an economics perspective. The students who take this course aim to deepen economic considerations about keywords such as goods, garbage, recycling, reuse, and illegal dumping.

ECN200TF（経済学/Economics 200） 経済学特講(Academic Writing: SDGs及び卒業論文執筆に向けて)(前期メディア)
中谷 安男
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・持続可能な発達目標（SDGs）の課題に対して理解を深め将来社会に貢献す

- ・ するための当事者意識を高める
- ・ 卒業論文などのアカデミックライティングの基礎を学ぶ
- ・ 説得力があり読者の心を掴む英文がかかるようになる。
- ・ TOEFLやIELTSなどのエッセイを楽しみながら書けるようになる
- ・ 英語で卒業論文を書く基礎を身に着ける

【到達目標】

- ・ Academic Writing Strategies を身に着け、Coherence や Cohesion を構築し読みやすく説得力のある英文が書けるようになる。
- ・ 英語論文執筆の基礎を学ぶ
- ・ SDGs の課題を認識する

Developing proficiency in Academic Writing Strategies and learn to construct coherent and cohesive English texts that are easy to read and persuasive.

Learning the basics of writing English research papers.

Gaining awareness of the challenges related to the Sustainable Development Goals (SDGs).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ アカデミックライティングの演習を行う
- ・ 英語で積極的にSDGsの課題をディスカッションする
- ・ テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Healthy food 1
	Flow of Sentences	
第2回	Basic Paragraph	Food issues 第1章
第3回	Coherence	Mobile broadband network 第2章
第4回	Guiding Readers	AI and Singularity 第3章
第5回	Hedges and Boosters	Ecotourism 第4章
第6回	Generating Ideas	Convenient for who? 第5章
第7回	How to attract your readers	Starting your essay more attractively 第6章
第8回	Supporting your ideas	第7章
第9回	Concluding Paragraph	第8章

第10回	Comparison and Contrast	第9章
第11回	Essay Structure	第10章
第12回	Problem-solving Essay	第11章
第13回	The first step for academic papers	第12章
第14回	Creating a Research Niche	第13章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを最低2時間予習する。
授業の復習を最低2時間必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。

Preparation and review:

The standard allotted time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs
金星堂

Nakatani, Y.

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店 中谷安男

【参考書】

『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』
中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

中間(40%)および期末(60%)レポートで評価する。
テキストのアカデミックライティング・ストラテジーの理解と実践
適切な英文エッセイライティングができるか

40% for the midterm report

60% for the final report

The assessment will focus on the following criteria:

Proficiency in Academic English.

Understanding of academic writing strategies covered in the textbook.

Ability to provide relevant essays in English.

【学生の意見等からの気づき】

学生にも理解ができるようにベースを考える。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【その他の重要事項】

ビジネス英語A,Bの履修に必須です

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn significant issues about SDGs.

LAN300TF
ビジネス英語A(前期メディア)
中谷 安男
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本を代表する企業のグローバルリーダーのケーススタディを通してビジネス英語の基礎力をつける。実際のとても興味深いビジネスの成功事例を理解しながら楽しく英語を学ぶ。経済学のアカデミックライティングを身に付ける。

【到達目標】

実際のビジネスケーススタディを英語で学びながら、ビジネスにおけるリーダーシップ、ビジネス戦略、国際マーケティングの基礎知識を身に付ける。経済学に必要なアカデミック・ライティングを学ぶ。
 Students should Learn the fundamentals of leadership, business strategy, and international marketing in English through real business case studies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP6,DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

有名企業のビジネスケースを扱い、語彙、リスニング、リーディングの演習を行う。
 ライティングのテキストを活用し英文の書き方を自学する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Shiseido	Shiseido Thailand 翻訳はだめ
2	Kao	Kao USA 冠詞の使い方
3	Ryohinkeikaku AW 第1章	MUJI 論文の構成
4	Morinaga AW 第2章	Morinaga USA 先行研究
5	Coca-Cola AW 第3章	Coca-Cola Laos スタンス
6	Toshiba AW 第4章	Toshiba Vietnam Introduction 1
7	Honda AW 第5章	Honda USA Introduction 2
8	Hachando AW 第6章	Hachando Vietnam Introduction 3
9	Lexus AW 第7章	Lexus Global LR
10	Tashiro Alloy Inc AW 第8章	Japanese Art Method 1
11	Imperial Hotel Establishing a Regional Brand AW 第9章	Luxury Hotel Method 2
12	Twitter AW 第10章	SNS Discussion
13	IC Net AW 第11章	BOP Business

14 Sumitomo Co. Mobile Business in Mongolia
 AW 第12章 Abstract

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

Preparation and review

The standard allotted time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders 成美堂 Nakatani, Y. & Smithers, R.

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中谷安男 中央経済社

【参考書】

『ケース・メソッド入門』石田英夫 他 慶應義塾大学出版

【成績評価の方法と基準】

中間レポート4割

期末レポート6割

・ビジネス英語の基礎力がついているか

・テキストで取り扱うビジネスリーダーシップの理解ができているか

・ビジネスケースの簡単な要約が英語でできるか

・アカデミック英語ライティングの基礎が身に付いているか

40% for the midterm report

60% for the final report

The assessment will focus on the following criteria:

Proficiency in Business English.

Understanding of business leadership concepts covered in the textbook.

Ability to provide a brief summary of business cases in English.

Mastery of the basics of academic English writing.

【学生の意見等からの気づき】

英語ライティングの自学自習を指示する。

【その他の重要事項】

ビジネス英語の履修目安の英語力としてはTOEIC480点、英検2級以上とする。

中谷の担当する「経済学特講」をいずれ履修すること

【Outline (in English)】

The objective of this course is to develop your understanding of the basic principles, strategies, and tactics of effective negotiation in business contexts. By using case study approaches, this course improves your business English skills.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
労働経済論A(前期メディア)
佐野 晋平
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学を応用し労働市場の機能を分析手法とその応用例を講義する。労働経済論Aでは、労働経済学の基礎理論と統計データに基づく実態について講義する。

【到達目標】

労働経済学の基礎理論と統計データに基づき、労働問題を理解できるようにすることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

資料に基づき講義を進める。労働経済学の基礎理論として、労働供給、労働需要、市場均衡、補償賃金格差、人的資本、差別の理論を説明する。各回では基礎理論の紹介と共に、関連する統計や研究について紹介する。

中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、データをみる	・労働市場とは ・労働経済学とは ・労働経済学が対象とする社会問題 ・代表的な統計の紹介 ・データを観察する方法と注意点
第2回	労働供給1	・労働供給の決定 ・比較静学
第3回	労働供給2	・市場の労働供給 ・実証研究との関連
第4回	労働需要1	・短期の労働需要 ・比較静学
第5回	労働需要2	・長期の労働需要 ・調整費用
第6回	市場均衡	・労働市場の均衡 ・余剰
第7回	最低賃金の分析1	・完全な労働市場と不完全な労働市場 ・最低賃金
第8回	最低賃金の分析2	・差の差法 ・実証研究の紹介
第9回	補償賃金格差	・ヘドニック賃金 ・賃金格差
第10回	人的資本1	・人的資本 ・大学進学への応用
第11回	人的資本2	・最適な教育年数の決定 ・ミンサー型賃金関数
第12回	差別の理論	・嗜好による差別 ・競争の役割
第13回	労働市場の男女差1	・統計的差別

第14回 労働市場の男女差2 ・男女間賃金の実態
・実証研究の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。統計学・計量経済学の知識があると理解が寄り深まる。復習を重視すると共に、参考書を精読すると理解が深まる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料に基づく。関連する文献は適宜紹介する。

【参考書】

川口大司『労働経済学』有斐閣
大森義明『労働経済学』日本評論社
Tito Boeri & Jan Van Ours, 2013, The Economics of Imperfect Labor Markets 2nd Edition, Princeton Univ Press

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）とメディアスクーリング試験（60%）に基づく。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces students to the method of economic analysis of labor market. Especially, we focus on the economic theory of labor economics and statistics about labor market. The goal of this class is to train students to understand the problems of the labor market based on economic theory, paying attention to statistics and institutional aspects.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
会計学入門 I（前期メディア）
神谷 健司
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の中心は企業が公表している基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の仕組みの理解と、それらを用いた財務諸表分析の基礎を学ぶことである。

【到達目標】

14回の講義を聞いて、毎回の復習を行うことによって、基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を読むことができ、基本的な財務諸表分析ができるようになることである。この講義では原則的には個別財務諸表に限定し、連結財務諸表の話は行わない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的には指定テキストに従って説明を行う。パワーポイントを使って説明を行うが、指定テキストを用意し、復習を行うことが必要である。また理解度を確認するために各回ごとに問題を数問用意しているが、指定テキストの問題を解くことによって、各回の重要な論点が身についているかどうかチェックすることが必要である。テキストは受講前に入手することが必要である。

各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	通信教育部で会計学を学ぶ意義	通信教育部で会計学を学ぶ意義を考える。また会計分野にはどのような領域があり、本通信教育部ではどのような科目があるかを紹介する。
第2回	財務会計の役割と会計の法的制度	財務会計情報が提供する社会的役割と制度会計の法的枠組みについて学ぶ。
第3回	財務会計の基本構造	財務会計の基本的構造として会計公準と企業会計原則における一般原則について学ぶ。
第4回	財務諸表とは	財務諸表とはどのようなものか。その体系や全体的な内容について学ぶ。
第5回	貸借対照表を読む（1）	貸借対照表の仕組み、資産の概念と分類、流動資産、固定資産、繰延資産について学ぶ
第6回	貸借対照表を読む（2）	負債の概念と分類、流動負債、固定負債、純資産の概念と分類、純資産の諸項目について学ぶ。
第7回	損益計算書を読む（1）	損益計算書の仕組み、損益計算のルール、売上総利益、営業利益といったことを学ぶ。
第8回	損益計算書を読む（2）	経常利益、税引前当期純利益、当期純利益といったことについて学ぶ。

第9回	キャッシュフロー計算書を読む	キャッシュ・フロー計算書の読み方について学習する。
第10回	財務諸表分析（1）	財務諸表分析の基本体系、百分比財務諸表分析について学習する。
第11回	財務諸表分析（2）	成長性分析、安全性の分析、キャッシュ・フロー情報の分析について学習する。
第12回	財務諸表分析（3）	収益性分析、1株当たり分析について学習する。
第13回	実際の企業の財務諸表を読む	実際の財務諸表を読むことによって、今まで学習した財務諸表分析についての基本的事項について復習する。
第14回	財務会計の基礎理論と本講義の全体のとめ	財務会計において議論されている基本的な考え方や概念フレームワークの基礎などについて紹介するとともに、本講義の全体的なまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的な会計用語を覚えることと、テキストの練習問題を解くことが必要である。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級（第4版）』中央経済社、2019年

【参考書】

谷武幸他『1からの会計（第2版）』碩学舎、2021年

【成績評価の方法と基準】

最終的なメディアスクーリング試験にて成績評価を行う。小テストについては、途中の理解度を確認するために実施するものとする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど。

【その他の重要事項】

簿記の基本的知識がない方は並行して簿記Ⅰ・Ⅱの学習を行って欲しい。日商簿記3級程度の知識があると本講義の理解も深まります。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equities items, revenues and expenses loss accounting. We also will learn the basis of consolidated financial statements, and management accounting.

ECN100TG（経済学 / Economics 100）
経済学入門 I / 経済学入門A(前期メディア)
平田 英明
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】

現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	市場における需要と供給1	需要の基礎を学びます。
第2回	市場における需要と供給2	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第3回	市場における需要と供給3	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第4回	市場における需要と供給4	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第5回	弾力性とその応用1	需要の価格弾力性について学びます。
第6回	弾力性とその応用2	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第7回	需給と政府の政策1	価格規制の基礎を学びます。
第8回	需給と政府の政策2	課税の基礎を学びます。
第9回	消費者、生産者、市場の効率性1	余剰分析の基礎を学びます。
第10回	消費者、生産者、市場の効率性2	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第11回	課税の応用1	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第12回	課税の応用2	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第13回	国際貿易1	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。

第14回 国際貿易2

貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

【テキスト（教科書）】

『マンキュー経済学I ミクロ編（第4版）』N.グレゴリ・マンキュー著（東洋経済新報社）

第3版をベースに授業は作成していますので、入手できるようでしたら第3版を使って頂いて全く問題ありません。基礎的な理論がメインのテキストですので、両版に大差はありません。

【参考書】

『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート40%、レポート試験60%で評価する予定です。いずれも4択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。

【学生の意見等からの気づき】

中間試験（中間レポート）、レポート試験後、模範解答を求める声が多めに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようお願いしています（お一人、最大で3問程度までとします）。

中間試験がよくても、レポート試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】

過去に試験について、Yahoo知恵袋やLine等で質問や共同作業をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間レポート、レポート試験ともにきわめて限定した期間（2日間程度＜毎年、『法政通信』に記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えます。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営戦略論 I（前期メディア）
李 瑞雪
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論的講義である。経営戦略論の基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養う。

【到達目標】

主要な経営戦略に関する理論と概念を使って、現実の経営戦略を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

ある程度大人数となることが予想されるため、基本的には講義方式で行うが、講義中で演習問題と具体的なケースを用いた学習を行う。スライド資料は各自確認すること。質問や発言等は「学習質疑制度」を参考に学習に関する質問やディスカッションで行うこと。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポートの掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	イントロダクション	講義内容の構成、戦略の定義、経営戦略の定義、経営ビジョンと経営戦略などの説明
第02回	プランニング・アプローチ (1)	製品・市場ポートフォリオ、戦略的意思決定と業務的意思決定、成長ベクトル、シナジー、企業目標のヒエラルキー
第03回	プランニング・アプローチ (2)	戦略策定の手順、SWOT分析、PPM、ビジネス・スクリーン、バランスド・スコアカード
第04回	ポジショニング・アプローチ (1)	S-C-Pモデル（産業構造- 企業行動- 経営業績モデル）、ファイブ・フォーセズ・モデル、ハーフィンゲル指数、参入障壁
第05回	ポジショニング・アプローチ (2)	PIMSモデル、戦略グループ、移動障壁
第06回	ポジショニング・アプローチ (3)-1	産業構造と戦略的機会（前半）。市場分散型産業、新興産業、成熟産業、衰退産業、国際産業、ネットワーク産業、超競争産業、コア無し産業、集約・統合戦略、先行者優位、市場リーダーシップ戦略、ニッチ戦略、収穫戦略、撤退産業、勝者総取り戦略など

第07回	ポジショニング・アプローチ (3)-2	産業構造と戦略的機会（後半）。国際産業、ネットワーク産業、超競争産業、コア無し産業、マルチナショナル戦略、グローバル戦略、トランスナショナル戦略、デファクト・スタンダード戦略、勝者総取り戦略、先制破壊戦略、埋没コスト、破滅的競争など
第08回	資源アプローチ、RBV(1)	経営資源、経営資源の異質性と固着性、VRIO分析フレームワーク、一時的競争優位と持続的競争優位
第09回	資源アプローチ、RBV(2)	経営資源模倣困難の要因、経路依存性、社会的複雑性のある経営資源、経営資源保有のパラドックス、経営資源蓄積のメカニズム、戦略的意図、コア・コンピタンスの探究、バリュー・チェーンなど
第10回	ゲーム・アプローチ (1)	価値相関図（バリュー・ネット）、「付加価値」の概念、競争と協調、顧客への「本質的サービス」の分析視点
第11回	ゲーム・アプローチ (2)	「価値」貢献度、明示的ルールと暗黙の認識、MFC条項とMCC条項、戦略的補完関係、意図的抑止（contrived deterrence）
第12回	学習アプローチ、創発戦略 (1)	分析型・計画型アプローチとの違い、意図された戦略と実現された戦略、プロセス重視・学習重視、間接的戦略、帰納的戦略
第13回	学習アプローチ、創発戦略 (2)	学習の「場」、実験による学習、「反省」の重視、ダイナミック・シナジ
第14回	一般戦略と競争優位 (1)	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化
第15回	一般戦略と競争優位 (2)	競争優位とその累計、スタック・イン・ザ・ミドル、三つの一般戦略、見える差別化と見えざる差別化、垂直的差別化と水平的差別化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身に付け、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』東洋経済新報社

【参考書】

M. E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社、デビッド・J. コリス+シンシア・A・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社、Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50%）とレポート試験（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

シェアリングエコノミーやユニコーン企業などに関わる経営戦略の事例を紹介し解説してほしいとのご意見をいただいております。今後の授業内容改訂時に対応させていただきたいと思っております。

【その他の重要事項】

主な関連科目として、経営学総論、国際経営戦略論、戦略意思決定論、経営分析、日本経営論、経営組織論、マーケティング論、経営管理論などが挙げられます。

【Outline (in English)】

This course deals with the strategic management, which is one of the core fields of business administration. The goal of this course is to understand the basic theories and concepts related to the strategic management. At the end of the course, students are expected to be able to analyze and assess companies' strategic activities based on relevant theoretical frameworks and concrete cases. After each class meeting, students will be expected to spend more two hours to review the course content. Final grade will be calculated according to the following process. Mid-term report (50%),and term-end examination (50%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）
マーケティング論 I（前期メディア）
竹内 淑恵
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。

本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で授業を進めます。
- ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
- ・中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	第1章 マーケティング発想法 - ニューヨークとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第02回	第2章 マーケティング・ミックスによる顧客創造 - ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの4P(製品、価格、流通、プロモーション)によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第03回	第3章 製品による顧客創造 - カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第04回	第4章 価格による顧客創造 - サントマリーザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第05回	第5章 チャネルによる顧客創造 - ネスレ日本 ネスカフェアンバサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャネルの管理、ネスレによるチャネルの構築と管理、これからのチャネル創造について学ぶ。

第06回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造 - ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定(焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第07回	第7章 顧客理解 - ライオン株式会社「Ban 汗ブロック ロールオン」	Ban汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第08回	第8章 関係構築 - ガンホー・オンライン・エンターテイメント パズドラ	パズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第09回	第9章 デジタル・マーケティング - ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。
第10回	第10章 デイモンドチェーン - カルビー ポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。
第11回	第11章 ブランド構築 - マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第12回	第12章 営業活動 - カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第13回	第13章 マーケティングの戦略展開 - 花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第14回	第14章 社会共生 - トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第15回	第15章 マーケティング3.0 - P&G	P&Gのマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。
- ・今年度の配布資料には、新しいデータ等を参考資料として追加します。これらの資料は、企業が投資家向けに毎年公表しているIR情報である「統合報告書」に基づいています。講義の中では言及しませんが、追加資料も各自で確認してください。また、出所をURLで明示しますので、企業の経営戦略やマーケティング戦略等を「統合報告書」で一読するのも大変良い学習になります。チャレンジしてみてください。
- ・関連科目としてマーケティング論IIがあります。あわせて履修することをお勧めします。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

【参考書】

- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
- ・コトラー, P., G. アームストロング, 恩蔵 直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト1,2は各々25%、トータル50%を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
- ・最終課題であるレポート試験を50%として扱い、平常点と加算して評価します。
- ・平常点50点+レポート課題50点、計100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
- ・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になる、大変だという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いします。
- ・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張つてマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】

メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理論を解説する。

【Outline (in English)】

Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and trading objective, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and how to solve them. In each lecture, we will learn the basics of marketing through case studies.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG（経営学 / Management 300）
管理会計論 I（前期メディア）
北田 皓嗣
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを伝えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費 1	固定費と変動費、貢献利益
第3回	固定費と変動費 2	損益分岐点
第4回	固定費と変動費 3	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費 4	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費 5	セールズミックス
第7回	固定費と変動費 6	固定費分解
第8回	マネジメントコントロールシステム 1	PDCA サイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム 2	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム 3	4つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム 4	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画 1	計画の種類
第13回	経営計画 2	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画 3	短期利益計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

【参考書】

浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

「中間レポート」40%と「メディアスクーリング試験」60%との総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
税務会計 I（前期メディア）
大下 勇二
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「税務会計 I」では、会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的考え方を学習します。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる能力の涵養を目的とします。

【到達目標】

法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することを目標とします。これにより、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる基礎的能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、わが国法人税法の課税所得計算に関する主要項目をスライドに基づき講義する形で進めていきます。各自各章の最後の○×問題を解答した上で次の章に進みます。また、受講生には中間レポートを提出してもらいます。

中間レポートに対しては、提出期間終了後に模範解答を開示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	法人税の基礎(1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
②	法人税の基礎(2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
③	課税所得計算の基礎(1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
④	課税所得計算の基礎(2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税所得計算の特徴を理解する。
⑤	売買損益等の計算(1)	売上収益の認識等を中心に売買損益計算の基礎を学習する。
⑥	売買損益等の計算(2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
⑦	その他の収益の計算(1)	受贈益、受取配当等(前半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑧	その他の収益の計算(2)	受取配当等(後半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑨	売上原価の計算(1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
⑩	売上原価の計算(2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
⑪	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を理解する。
⑫	固定資産の減価償却(1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。

- ⑬ 固定資産の減価償却(2) 耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習する。
- ⑭ 繰延資産の償却 税法上の繰延資産の考え方を学習し、税法固有の繰延資産を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した通教テキストを読んでおくこと。また、中間レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

通信教育部テキスト
大下勇二著『税務会計 I・II』法政大学,2019年

【参考書】

必要に応じて指示する予定。

【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出(必須)を条件として、修了試験(100%)により評価します。中間レポートを提出しないで修了試験を受けても、単位は取得できませんので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

法人税課税の問題について、各自自分なりの問題意識をもって授業に参加してもらう。

【Outline (in English)】

The objective of Tax Accounting I is to understand the foundations of corporate tax accounting in Japan. You will learn the basics of taxable income of corporate income tax which is the core tax of the company.

Student will be expected to have completed the quiz and mid-term report. Your overall grade will be decided based on term-end examination(100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
国際金融論 I（前期メディア）
横内 正雄
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化の現象はなばなく、日々のニュースなどでそれに関連した事柄が取りあげられないことはないほどである。国際金融論 I は、こうした金融グローバル化の背後にある外国為替や国際収支などの国際金融に関する基本的な概念と基礎的な理論を学ぶ。

【到達目標】

国際金融論 I は、現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を学び、その意味を理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	世界経済における位置を確認するとともに国際金融の特徴について学ぶ
第2回	国際取引と外国為替	国際貿易取引と国際送金の流れと外国為替の基本について学ぶ
第3回	外国為替相場	外国為替の本質と外国為替相場の種類について学ぶ
第4回	外国為替市場	外国為替市場の構造と銀行による為替リスク管理について学ぶ
第5回	為替相場制度と為替介入	固定相場制および変動相場制のメカニズムと外国為替市場への介入について学ぶ
第6回	先物為替と金利平価	金利裁定取引とその結果成立する金利平価について学ぶ
第7回	国際収支	国際収支の概念・項目と国際収支表の作成原理について学ぶ
第8回	国際金融市場	国際金融市場の構造と現状について学ぶ
第9回	国際通貨	国際通貨の基本理論と現状について学ぶ
第10回	外国為替相場の理論(1)	外国為替相場に関する国際収支説、為替心理説、購買力平価説を学ぶ
第11回	外国為替相場の理論(2)	アセットアプローチの考え方とそのモデルについて学ぶ
第12回	為替リスクとデリバティブ	為替リスクの種類とその管理手法としてのデリバティブについて学ぶ

第13回	国際収支の理論(1)	弾力性アプローチの考え方を学ぶ
第14回	国際収支の理論(2)	貯蓄投資バランスアプローチの考え方を学ぶ
第15回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルとその政策的インプリケーションを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持つておくことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

☆初級レベルの参考書

秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ』[第4版] 有斐閣、2012年

川本明人『外国為替・国際金融入門』中央経済社、2012年
中條誠一『現代の国際金融を学ぶ』[第2版] 勁草書房、2015年
清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年

永易淳・江阪太郎・吉田裕司『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣、2015年

奥田宏司・代田純・櫻井公人編『現代国際金融』[第3版] 法律文化社、2016年

佐々木百合『国際金融論入門』新世社、2017年

☆中級レベルの参考書

高木信二『入門 国際金融』[第4版] 日本評論社、2011年
勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011年

川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』[第4版] 有斐閣、2012年
藤井英次『コア・テキスト 国際金融論』[第2版] 新世社、2014年
小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年

☆資料集

神田真人編『図説 国際金融 2015-2016年版』財形詳報社、2015年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）と試験（70%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the basic concepts and theory of international finance. In particular, learning about the concepts and theory of foreign exchange, the concept and theory of the balance of payments, etc. can help you to understand the phenomena of modern international finance.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
日本経営論(前期メディア)
金 容 度
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義します。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象について考える能力を高めます。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特異性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めますが、第1講のイントロダクションと第2講の「日本の企業システムの特徴」以外は、毎回、具体的なトピックを取り上げ、国際比較を試みながら、歴史と現状の相互関連を読み解く形で授業を進めます。

なお、中間課題に対しては、採点とともに、優秀レポート等の掲示を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	イントロダクション	本授業での主な分析視点、日本の企業経営についての諸誤解を説明した上で、本授業の全講義のスケジュールと内容を案内します。
第02回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観します。
第03回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリア、経営上の特性、経営者報酬などについて講義します。
第04回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本の経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義します。
第05回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	日米の共通点に注目して、アメリカにおける労使関係及び人的資源管理の展開過程を講義します。
第06回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を分析、講義します。
第07回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究及び開発活動の特徴を講義します。
第08回	日本企業のマーケティング活動	戦後日本企業のマーケティング活動の特徴を講義します。

第09回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンスの特徴と最近の変化について講義します。
第10回	コーポレートガバナンスの国際比較	日本、ドイツ、アメリカのコーポレートガバナンスを比較します。
第11回	メインバンクシステムの特徴	企業間関係の事例として戦後のメインバンクシステムを、市場性と組織性の絡み合いという視点から講義します。
第12回	メインバンクシステムの日独比較	ドイツと日本のメインバンクシステムについて、共通点と相違点を講義します。
第13回	日本の企業間取引の特徴：自動車産業の事例	日本の自動車部品取引の事例を取り上げ、日本の企業間関係の特徴を考察します。
第14回	企業間関係の日米比較：自動車産業の事例	米自動車産業における企業間取引の歴史を検討した上で、日米比較を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の中で、毎回授業テーマと関連すると思われる部分を事前に読んでから授業に臨んでください。また、復習の際、毎回の授業中に紹介される参考文献のうち、少なくとも1点を読んでください。これは、復習時の理解度を高める重要な方法です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金容度(2023)『日本経営論』博英社

【参考書】

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直(2019)『現代日本経済[第4版]』有斐閣

金容度(2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(30%)、メディアスクーリング試験(70%)で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

もし授業内容についての質問があれば、中間レポートの提出時、中間レポートの最後に質問を書いて提出してください。中間レポートの採点時、質問についての答えも返します。

【Outline (in English)】

I will lecture the status quo and history of business management in Japan, comparing to other advanced countries's case. The objective of this course is to understand business management in Japan more deeply from the perspective of international comparisons.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
ファイナンス論 I / 現代ファイナンスA(前期メディア)
山崎 輝
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融・証券市場の基礎知識および債券と株式を対象とした証券分析がテーマとなります。

【到達目標】

本授業では、初めてファイナンスを学ぶ学生を対象にファイナンス理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、金融・証券市場の基礎知識と債券・株式の計量分析です。授業の到達目標は、①金融・証券市場の基礎知識を習得する、②株式と債券のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③初等的な確率論をもちいて不確実な将来キャッシュフローの評価手法を説明することができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

金融・証券市場の概観や基礎用語を紹介した後に、金融商品の現在価値の考え方や株式・債券の基本的な分析手法を解説します。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	「金融・証券市場の概観」	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足などについて概説します。
第02回	「本邦の債券市場」	債券の種類、発行形態、国債市場と社債市場、発行市場と流通市場などについて講義します。
第03回	「本邦の株式市場」	株式の種類、株式の保有構造、売買のしくみ、発行市場と流通市場などについて講義します。
第04回	「キャッシュフローと現在価値(1)」	キャッシュフローの概念を矢印図をもちいて把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念について講義します。
第05回	「キャッシュフローと現在価値(2)」	付利期間、連続複利、割引率の概念、連続複利でもちいられるネイピア数について講義します。
第06回	「債券分析入門(1)」	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーレートの概念について講義します。
第07回	「債券分析入門(2)」	スポットレートとフォワードレートの概念について講義します。
第08回	「債券分析入門(3)」	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブの間の関係について講義します。

第09回	「債券分析入門(4)」	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デフレーションによる債券価格の近似方法について講義します。
第10回	「債券分析入門(5)」	債券の信用リスクと格付けについて概説した後に、社債分析に必要な確率の基礎知識（事象、確率測度、確率変数、期待値など）について講義します。
第11回	「債券分析入門(6)」	社債価格の評価手法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率について講義します。
第12回	「株式分析入門(1)」	株価評価モデルである配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）について講義します。
第13回	「株式分析入門(2)」	株価評価のための財務分析を概説した後に、配当割引モデルによる株式分析について講義します。
第14回	「株式分析入門(3)」	株価評価モデルであるフリーキャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルについて講義します。
第15回	「株式分析入門(4)」	PER、PBR、配当利回り、益利回り、企業価値EBITDA比率などの株式投資尺度について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の復習を十分に行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スライド以外には特に指定しません。

【参考書】

『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポート40%、レポート試験60%の合計100%です。ただし、単位取得のためには中間レポートの提出は必須となります。レポートの内容によってメディアの授業（小テストを含む）の理解度を確認し、成績評価を決定します。したがって、メディア授業の理解と小テストへの取り組みが何よりも肝要となります。

【学生の意見等からの気づき】

「ファイナンスは難しい学問である」との印象を持っている学生が多いようですが、基礎からしっかりと学べる講義となっています。現代の経済・経営を理解するためには必須の内容なので、みなさんの積極的な受講を期待しています。

【その他の重要事項】

担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

This course offers an introduction to finance theory to students who start learning finance. It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To give students basic tools for analyzing securities such as government bonds, corporate bonds, and stocks. (3) To provide students with an introductory asset pricing theory for evaluating the present values of uncertain future cash flows.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

PRI100TG（情報学基礎 / Principles of informatics 100） データサイエンス入門A(前期メディア)
児玉 靖司、高田 美樹、高松 邦彦
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展により、大量で多様なデータの収集が簡単にできるようになった。これらのデータが現代社会における様々な現象の解明や意思決定にどのように役立っているのか、その重要性和価値を理解し、ビッグデータが社会にもたらす影響を考察する。

【到達目標】

現代社会におけるデータサイエンスの役割と、データ収集・活用の一般的な方法を理解する。データサイエンスがもたらす利点だけでなく、リスクを認識し、データを守るための倫理・モラルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP3,DP4」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドシステムにより配信された講義資料と動画で学習し、毎回の小テストによって知識を定着させた上で、章末問題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	本講義の目標と各回の概要を提示する。
第2回	情報とは・ビッグデータとは	データを種類に分け、それぞれの特徴と実例を紹介する。
第3回	社会で起きている変化・社会におけるデータの活用	社会の中で、すでにデータが活用されている事例、研究でこれからの活用が期待される事例を紹介する。
第4回	オープンデータの活用	収集したデータを社会に還元するためのオープン化が進められている。どこにどのようなデータがあり、どのように利用できるのかを紹介する。
第5回	データ解析のための技術	取得したデータを活用するための解析技術について、収集・蓄積・分析の3つのフェーズに分けて紹介する。
第6回	データの可視化	データ解析の結果や、データの特徴を人間が理解するための可視化の方法を紹介する。
第7回	データサイエンスのサイクル PPDAC	データを活用した問題解決の5つの手順を紹介する。
第8回	統計的品質管理	生産現場などにおける「もの」の品質管理について統計的に分析する方法を紹介する。
第9回	画像データの活用	画像データは、今後その利用がますます重要視されてくる。画像データの扱い方と活用事例を紹介する。
第10回	データ倫理	データを扱う上での倫理について紹介する。データと情報の違いについても紹介する。

第11回	個人情報の保護	個人情報保護の目的と、個人情報の適切な取り扱いについて解説する
第12回	データを守る情報セキュリティ1	データの重要度が増している昨今、情報セキュリティもまた重要である。どのようなリスクに対し、どのような対策が必要なのかを解説する。
第13回	データを守る情報セキュリティ2	情報を守る技術的な仕組みを解説し、一人ひとりが気をつけるべき点について注意喚起を行う。
第14回	まとめ	授業内総合テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。オンラインで課される小テスト等に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

オンデマンドシステムより講義資料と動画を配信する。

【参考書】

【参考書 / References】

- ・大学生のためのデータサイエンスI オフィシャルスタディーノート 滋賀大学データサイエンス学部編
- ・社会人のためのデータサイエンス入門 オフィシャルスタディーノート 総務省統計局

【成績評価の方法と基準】

各回のチェックテスト（70%）、授業内総合テスト（最終テスト）と毎回のアンケートの提出（30%）の合計点で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

「問題が抽象的でわかりにくい」という指摘がありましたので、改善いたします

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドのため、動画を視聴し、オンデマンドシステムにアクセスすることのできる端末。

【Outline (in English)】

The development of information and communication technology has made it easy to collect large volumes and diverse data. This course aims to understand the importance and value of these data and how they are useful in elucidating various phenomena and decision-making in modern society, and to examine the impact of big data on society.

HIS100TA（史学/History 100）
西洋史(春期スクーリング)
竹下 和亮
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきたことも事実である。本講義ではその両面をみすえた上で、古代から現代までの西洋の歴史を概観し、基本的な歴史用語を解説する。

【到達目標】

古代から現代までの西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

指定教科書に沿って、講義をしていきます。質問は、授業内、授業終了後などで受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	時代区分論
第2回	古代地中海世界	ギリシアとローマ
第3回	ヨーロッパ世界の形成と発展I	フランク王国とビザンツ帝国
第4回	ヨーロッパ世界の形成と発展II	11世紀以降のヨーロッパ
第5回	世界の一体生とヨーロッパI	大航海と世界の一体化のはじまり
第6回	世界の一体生とヨーロッパII	ルネサンスと宗教改革
第7回	世界の一体生とヨーロッパIII	近世ヨーロッパ世界の展開
第8回	近代ヨーロッパ・アメリカ社会I	革命の時代
第9回	近代ヨーロッパ・アメリカ社会II	近代国民国家の発展
第10回	帝国主義と二つの世界大戦I	帝国主義の始まりと第一次世界大戦
第11回	帝国主義と二つの世界大戦II	ヴェルサイユ体制と第二次世界大戦
第12回	冷戦とその後の欧米I	冷戦の時代
第13回	冷戦とその後の欧米II	グローバル化する世界
第14回	まとめ	欧米と世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定された箇所や配布資料を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木村靖二・岸本美緒・小松久男編『もういちど読む 山川世界史plus—ヨーロッパ・アメリカ編』山川出版社、2022年

【参考書】

J・H・エリオット（立石博高・竹下和亮訳）『歴史ができるまで』岩波書店、2017年

【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Antiquity onwards, and the basic terminology for the historical research. At the end of the course, students are expected to have a basic idea about the European history. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination.

HIS100TA（史学/History 100）
東洋史(春期スクーリング)
板橋 暁子
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族・ジェンダー・セクシュアリティに関する伝統的秩序が比較的強固に存続してきた東アジア世界においても、近年、それらの見直しを求める声が高まっている。

そのような伝統的秩序の少なくない部分が中国の文化や制度に由来するものであり、現代日本も例外ではない。

本科目では、東アジア世界への影響もふまえながら、主に前近代の中国史上における家族・ジェンダー・セクシュアリティの展開を学ぶ。

【到達目標】

現代へと連なる東アジア世界の家族・ジェンダー・セクシュアリティ構造が、中国を範例として如何に形成されてきたかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

Powerpointを用いた講義形式でおこないます。講義資料は紙で配布いたします。

課題に対するフィードバック（解答の提示等）は、授業の最終回におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	祖先祭祀と父系社会
第2回	秦漢①	戸籍と律にみる家族
第3回	秦漢②	外戚と宦官
第4回	魏晋南北朝①	貴族と婚姻
第5回	魏晋南北朝②	仏教・道教と信仰生活
第6回	隋唐①	女帝の誕生
第7回	隋唐②	妓女と文人
第8回	宋元①	都市と庶民生活
第9回	宋元②	朱子学と礼法
第10回	明清①	纏足の普及
第11回	明清②	節婦・烈女の顕彰
第12回	明清③	同性愛の位置づけ
第13回	近代①	「男らしさ」の変遷
第14回	近代②	近代化と生殖コントロール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

【中国史全体の流れ】

- ・岸本美緒著『中国の歴史』筑摩書房、2015年
- ・尾形勇／岸本美緒編『中国史』上・下巻、山川出版社、2019年

【中国史とジェンダー】

- ・関西中国女性史研究会編『中国女性史入門：わたちの今と昔 [増補改訂版]』人文書院、2014年
- ・小浜正子編『ジェンダーの中国史（アジア遊学191号）』勉誠出版、2015年

- ・小浜正子 [ほか] 編『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会、2018年

- ・坂部晶子編著『中国の家族とジェンダー：社会主義的近代化から転形期における女性のライフコース』明石書店、2021年

- ・小浜正子 [ほか] 編『東アジアの家族とセクシュアリティ：規範と逸脱』京都大学学術出版会、2022年

- ・小浜正子・落合恵美子編『東アジアは「儒教社会」か？：アジア家族の変容』京都大学学術出版会、2022年

【世界史・歴史学とジェンダー】

- ・三成美保／姫岡とし子／小浜正子編『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』大月書店、2014年

- ・早川紀代 [ほか] 編『歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』御茶の水書房、2015年

- ・ソニア・O・ローズ著、長谷川貴彦／兼子歩訳『ジェンダー史とは何か』法政大学出版局、2017年

- ・ジョン・W・スコット著、荻野美穂訳『ジェンダーと歴史学 [30周年版]』平凡社、2022年

【成績評価の方法と基準】

最終回の試験（70%）および平常点（30%）

※出席要件（実授業日数の2分の1以上に出席）を満たしていない場合、試験を受けることができません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な質問を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を実施する限り、特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: Learning gender, sexuality and family system in premodern Chinese history

Learning objectives: Understanding how the structure of gender, sexuality and family had been developed in pre-modern China and how the structure has exerted an influence on East Asian countries

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%

LAW100TA（法学 / law 100）
法学(春期スクーリング)
陳 志明
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、立憲主義の意義、日本国憲法の基本原則と基本構造に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第2回	法とは何か	法と社会との関係 道徳等との関係 法の目的 権利義務との関係
第3回	法と裁判	事件への法の適用 裁判制度 訴訟手続上の諸原則
第4回	裁判の基準	制定法 法の適用における原則 不文法
第5回	法の解釈と分類	事実認定と法の解釈 解釈の性質及び方法 法の分類
第6回	国家と憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原則 現代憲法の特質
第7回	日本の新旧憲法	大日本帝国憲法の特質 日本国憲法の制定 日本国憲法の基本原則
第8回	国民主権	国民主権 選挙 地方自治
第9回	平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障

第10回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第11回	基本的人権②	自由権 社会権 参政権及び国務請求権
第12回	権力分立①	国会 議院内閣制 内閣
第13回	権力分立②	裁判所 違憲審査制 財政
第14回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005年）

伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006年）

末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春期末の授業内試験（教室レポート）（80%）及び平常点（20%）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、教養科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general and comprehensive knowledge of the whole law, and the basic principles and structure of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

SOC100TA (社会学 / Sociology 100)
社会学(春期スクーリング)
徐 玄九
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は初めて社会学を学ぶ者を対象に、基本的な社会学的思考を身に付けることを目標としている。私たちが自明なこととして反省なしに反復されがちな日常の社会的行為の意味を社会学的見方で複眼的に見直すこと、私と他者は相互依存関係にあることを再認識することに主眼が置かれている。この授業は、ミクロ的な観点から日常生活の秩序形成と維持、逸脱について学び、中間領域の恋愛と家族、そして、社会現象としての宗教などに視野を広げていく。これによって個人を超えた社会現象を捉えるための基本的な概念や方法論を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 人々によって共有されている信念や行動様式を理解できる。
- (2) 人々の行為に込められた意味と機能を把握することができる。
- (3) 個人を超えた社会現象を捉えるための基本的な概念や方法論を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、身近なものから抽象的なものへと話題を進める。さらに、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる予定である。また数回、グループディスカッションとリアクションペーパーを兼ねたミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	「教養としての社会学」への招待（授業の趣旨、概要の説明）
2	基礎概念の理解	社会学の最も基礎的な概念と社会学的なもの見方・考え方を学ぶ
3	相互行為と秩序①	E・T・ホールの「プロクセミックス」概念を軸に相互行為の秩序形成について学ぶ
4	相互行為と秩序②	E・ゴフマンの「儀礼的無関心」、「ドラマトルギー」という概念を軸に社会秩序維持について学ぶ
5	相互秩序と逸脱行為	「逸脱」や「ラベリグ理論」の潜在的機能を中心に「社会規範」に関する理解を深める
6	アイデンティティの理解①	E・H・エリクソンやG・H・ミードのアイデンティティに関する議論の要点を学ぶ
7	アイデンティティの理解②	D・リスマン『孤独な群衆』を手掛かりにアイデンティティに関する理解を深める
8	中間まとめ	中間まとめおよび中間テスト

9	恋愛と宗教	愛に関する社会学的な考察をM・ウェーバーの議論を手掛かりに学ぶ
10	社会集団類型論	F・テンニースやE・デュルケムの集団類型論および結婚制度の変遷とその意味について学ぶ
11	宗教と労働	A・ティルゲル『労働思想史』を参照しながらヨーロッパ社会における労働観の変遷を宗教との関連で学ぶ
12	宗教と社会秩序	E・デュルケム『宗教生活の原初形態』の一部購読
13	宗教と社会変動	M・ウェーバー『プロテスタンティズム倫理と資本主義の精神』の一部購読
14	授業内テストおよび総括	春学期授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
 ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。
 見田宗介（2006）『社会学入門—人間と社会の未来』岩波新書。

【成績評価の方法と基準】

各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。

・期末テスト（30%）、中間テスト（30%）、リアクションペーパー課題（20%）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

より多く質疑応答を時間を設けて受講生との疎通を図る。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (30%), midterm exams (30%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (20%).

PHY100TA（物理学 / Physics 100）

物理学 3（講義）（春期スクーリング）

石川 壮一

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、形や色の認識、更には情報伝達手段として、日常生活の中でありふれた存在である一方で、自然界の法則を理解する上で重要な研究対象でもある“光”に関して学ぶ。

【到達目標】

- ・光、色といった身の回りに日常的に起こっている現象と、その背後にある基本的法則を理解する。
- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配付する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための演習問題を出題する。
- ・演習問題の解説は授業中あるいは配付資料によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義内容の紹介と基礎事項の確認を行う。
第2回	波動(1)	波動とは何か、音波の速さの測定、縦波と横波との違い
第3回	波動(2)	ドップラー効果、波の重ね合わせ、波の回折と干渉
第4回	波としての光(1)	屈折、分散、全反射に関する現象
第5回	波としての光(2)	偏光、電磁波、光の速さの測定方法
第6回	波としての光(3)	光の回折と干渉
第7回	粒子としての光(1)	エーテルとは何か、熱放射
第8回	粒子としての光(2)	光電効果、原子スペクトル
第9回	原子モデルと原子スペクトル	原子の模型と光の放出・吸収
第10回	光の性質	光の波動性と粒子性のまとめ
第11回	物の色と光(1)	物を見る仕組み
第12回	物の色と光(2)	風景の物理、虹、空の色
第13回	物の色と光(3)	天体の観測とその成果
第14回	授業のまとめ・試験	授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設定しませんが、講義資料を配付します。

【参考書】

シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）、J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
「歴史で学ぶ物理学入門」、足利裕人著（ふくろう出版、2015）
（その他、必要に応じて授業中に紹介します。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末試験（80%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

数式、計算が出てくる場合は、できるだけ丁寧に分かり易く説明します。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of physics related to light, wave, atoms, etc.

At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (80%) and in class contribution (20%).

MAT100TA (数学 / Mathematics 100)
数学 1 (春期スクーリング)
若井 健太郎
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数系を中心として、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

数学で用いられる基本的な考え方に接し、それを「手にとって」親しんでもらうことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業で扱う項目は、整数の理論、代数系、線形代数。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。

そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

課題に対するフィードバックは授業内で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	整数の理論	ユークリッドの互除法
第2回	整数の理論	方程式 $ax+by=c$
第3回	整数の理論	1次合同式 1
第4回	整数の理論	1次合同式 2
第5回	整数の理論	連立合同式
第6回	代数系	演算
第7回	代数系	群
第8回	代数系	置換群 1
第9回	代数系	置換群 2
第10回	代数系	置換群と 15パズル
第11回	線形代数	行列の加算・乗算 1
第12回	線形代数	行列の加算・乗算 2
第13回	線形代数	三角形の変換
第14回	線形代数	逆行列

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

通教テキスト『数学』第1版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008年

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う(100%)。出席状況・レポート等を評価の参考にする場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Mathematics is used in various places. In this lesson, you learn about numbers and their relationships, centering on algebraic systems.

(Learning Objectives)

The goal is to get in touch with the basic idea used in mathematics and get it "in your hands" familiar with it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S (1)(春期スクーリング)
青山 恵子
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は英語のテキストを正確に読解しながら、現在の日本が直面する様々な課題と将来の展望について考えていくことを目的としています。

【到達目標】

1. 適切な音読ができるようになること。
2. 文章の内容を正確に理解できるようになること。
3. ディクテーションが正確にできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：

演習形式で行います。

- 1.paragraph reading（リーディング）
- 2.dictation（リスニング）
- 3.comprehension check（読解の確認）

フィードバック方法：

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Educational Sakoku 教育鎖国 #1	1. orientation オリエンテーション 2. reading the first paragraph of Chapter 1
2	Educational Sakoku 教育鎖国 #2	Understanding issue: 1.listening & reading aloud 2.paragraph reading
3	Educational Sakoku 教育鎖国 #3	Exercise 1.Comprehension Check 2.Dictation 3.Vocabulary Check
4	Impact of Lowering the Age of "Adulthood" 成人年齢 #1	Understanding issue: 1.listening & reading aloud 2.paragraph reading
5	Impact of Lowering the Age of "Adulthood" 成人年齢 #2	Exercise 1.Comprehension Check 2.Dictation 3.Vocabulary Check
6	Remote or In-person? Benefits and Disadvantages リモートと対面 #1	Understanding issue: 1.listening & reading aloud 2.paragraph reading
7	Remote or In-person? Benefits and Disadvantages リモートと対面 #2	Exercise 1.Comprehension Check 2.Dictation 3.Vocabulary Check

8	Gender Equality 男 女格差 #1	Understanding issue: 1.listening & reading aloud 2.paragraph reading
9	Gender Equality 男 女格差 #2	Exercise 1.Comprehension Check 2.Dictation 3.Vocabulary Check
10	Freedom of Speech and Its Implications 言論の自由とその影響 #1	Understanding issue: 1.listening & reading aloud 2.paragraph reading
11	Freedom of Speech and Its Implications 言論の自由とその影響 #2	Exercise 1.Comprehension Check 2.Dictation 3.Vocabulary Check
12	Should Nuclear Power Dependency Be Halter? 原発依存 #1	Understanding issue: 1.listening & reading aloud 2.paragraph reading
13	Should Nuclear Power Dependency Be Halter? 原発依存 #2	Exercise 1.Comprehension Check 2.Dictation 3.Vocabulary Check
14	Review & Test	Final Test 学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James M. Vardaman, Japan's Dilemmas and Solutions: 15 Topics You Need to Consider（『考えよう日本の論点15』, 音羽書房鶴見書店, 2023年） ¥ 2,000 + 税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 (40%)

学期末試験 (60%)

実授業日数のうち2分の1以上の出席がない場合、試験の受験資格を失うので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では英文読解の説明が分かりやすかった、授業内容自体も興味深かったとのコメントが多く寄せられました。今年度も「英語を読む」だけでなく「英語で読んだ内容について考える」ことを引き続き行いたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）

【Outline (in English)】

In this class, you will read English texts that focus on current social issues in Japan. You will practice not only systematic reading but listening skills to check your comprehension.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S(2)(春期スクーリング)
光野 昭雄
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、歴史、宗教、経済、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳して行く。課題やレポートの解説は授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	授業の説明	試験的に和訳し進度等を説明する。
第2回目	Gateway to the USA	移民社会アメリカその①
第3回目	Gateway to the USA	移民社会アメリカその②
第4回目	Gateway to the USA	移民社会アメリカその③
第5回目	Gateway to the USA	確認テスト
第6回目	the Melting Pot	人種のるつぼその①
第7回目	the Melting Pot	人種のるつぼその②
第8回目	the Melting Pot	人種のるつぼその③
第9回目	the Melting Pot	確認テスト
第10回目	the American Character	アメリカ人の特質その①
第11回目	the American Character	アメリカ人の特質その②
第12回目	the American Character	アメリカ人の特質その③
第13回目	the American Character	確認テスト
第14回目	総復習	13回までの復讐

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA Richard Musman 金星堂 2017 ￥1300

【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This class will show you how your English reading skill on America can be developed. One hour is required for learning before and after class.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S (3)(春期スクーリング)
井上 紗央里
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内企業のグローバル化に着目した英文記事の読解を通して、国内、国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【到達目標】

1. ディクテーションやシャドーイングを通じて英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 英文記事の読解を通して英語の文法、語彙を強化する。
3. 日本の社会、特に国内企業のグローバル化への取り組みについての理解を深め、自分の意見を英語でアウトプットできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

指定テキスト Global Leadership (金星堂) を使用し、テキスト内の演習問題、英文読解、リスニングのディクテーション、リアクションペーパーの作成を行います。春学期はテキストの奇数 Unit を使用します。授業では予習箇所について学生を指名し発言を求めます。各ユニットごとにテキスト内の演習問題を授業内課題として出題します。フィードバックは授業内での解説や E-mail を使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション, Case 1 ①	授業の説明、Unit 1 のプレ授業、受講生同士での簡単な自己紹介
2	Case 1 ②	Case 1 の Reading, Listening, Assignment
3	Case 3 ①	Case 3 の vocabulary, Reading 前半
4	Case 3 ②, Case 5 ①	Case 3 の Reading 後半, Listening, Assignment, Case 5 の Vocabulary, Reading 前半
5	Case 5 ②	Case 5 の Reading 後半, Listening, Assignment
6	Case 7 ①	Case 7 の vocabulary, Reading 前半
7	Case 7 ②, Case 9 ①	Case 7 の Reading 後半, Listening, Assignment, Case 9 の Vocabulary, Reading 前半
8	Case 9 ②	Case 9 の Reading 後半, Listening, Assignment
9	Case 11 ①	Case 11 の vocabulary, Reading 前半
10	Case 11 ②, Case 13 ①	Case 11 の Reading 後半, Listening, Assignment, Case 13 の Vocabulary, Reading 前半
11	Case 13 ②	Case 12 の Reading 後半, Listening, Assignment
12	Case 15 ①	Case 15 の Vocabulary, Reading 前半

13	Case 15 ②	Case 15 の Reading 後半, Listening, Assignment
14	最終試験とまとめ	第1回から第13回までの授業を試験範囲として最終試験を実施。全体のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定したテキストの演習問題を解き、Reading の英文を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Global Leadership – 2nd Revised Edition, Case Studies of Business Leaders in Japan 「ビジネスケースで学ぶグローバル人材の条件 [改訂第2版]」 著者 中谷安男 / Ryan Smithers (金星堂 2022) 1900円 (+税) ISBN: 978-4-7647-4154-6

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 50%、平常点（予習、授業内での発言などの貢献度、課題提出）50%で評価します。最終試験を受けるためには実授業日数の2分の1以上の出席が必要です。遅刻、早退は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にあった速度で進めていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, writing, and listening skills through reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S (4)(春期スクーリング)
中垣 恒太郎
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「映画を用いた語学教材による総合的英語能力の育成」として、現代アメリカ社会を描いた映画『フリーダムライターズ』（2007）を題材にした教科書を軸に、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につけることを目的とする。

映画『フリーダム・ライターズ』は、実在の高校教師と生徒たちが自らの体験を綴った同名のノンフィクション作品（1999）を原作にしており、ロス暴動に象徴される人種間の対立深まる1990年代のアメリカで、国境や人種を超越したクラスを作り上げた実話に基づく物語である。

アメリカ映画を通して、実際に話されている英語のスピードや、どういう場面で、どういう立場の人物がその表現を用いるかを直に学ぶことができる。毎回、教材用に作成された音声教材により、リスニングやディクテーション（書き取り）の活動を行う。この教材の特色として、現代アメリカ社会の様々な問題——「ロス暴動」、「人種差別撤廃プログラム」、「公民権運動」、「アフターマティヴ・アクション」、「高校生と銃」、「アメリカの学校の種類」、「現代の人種統合の状況」、「ラップ・ミュージック」などのテーマが採り上げられている。

本授業では与えられた情報を的確に摂取し、歴史や文化、社会現象、比較文化などの文脈を把握し、それに対して受講生の皆さん一人一人がどのように考えるのかを重視する。

【到達目標】

- ・映画を用いた語学教材により、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につける。
- ・映画を用いた英語の自習方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法文学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

総合英語教材として、「背景知識と語彙」「リスニング」「リーディング」「意見を表現する」という、4項目により構成されている。教室での演習に重きを置く。

課題については授業内で全体の講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の運営方針
第2回	「映画『フリーダム・ライターズ』の背景」	概説講義
第3回	教科書演習 第1章／「ロス暴動」	教科書による演習
第4回	教科書演習 第2章／「人種差別撤廃プログラム」	教科書による演習
第5回	教科書演習 第3章／「公民権運動」	教科書による演習

第6回	教科書演習 第4-5章／「ヒップホップカルチャー」	教科書による演習
第7回	教科書演習 第6章「ハリウッド映画におけるユダヤ系とアラブ系の力のバランス」	教科書による演習
第8回	教科書演習 第7-8章「ギャング映画」／「アフターマティヴ・アクション」	教科書による演習
第9回	教科書演習 第9章／「高校生と銃」	教科書による演習
第10回	教科書演習 第10-11章／「アメリカの学校の種類」	教科書による演習
第11回	教科書演習 第12章／「ラテン系移民」	教科書による演習
第12回	教科書演習 第13-14章／「現代の人種統合の状況」	教科書による演習
第13回	教科書演習 第15章／「キング牧師の思想」	教科書による演習
第14回	教科書演習 第16章／「まとめと英語の自主学習法について」	教科書による演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習を前提としないが、事前に下読みをしておくことと学習効果は高まるであろう。予習よりも復習に力を注いでいただきたい。ただし時々、宿題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中長子ほか『映画総合教材 フリーダム・ライターズ』（音羽書房 鶴見書店、2011年）。

【参考書】

高山英士『All in One（第4版）』（Linkage Club、2007）。
 名作映画完全セリフ音声集スクリーンプレイ・シリーズ『フリーダム・ライターズ』（フォーインスクリーンプレイ事業部、2012）

【成績評価の方法と基準】

教室での演習（70%）、学期末テスト（30%）

【学生の意見等からの気づき】

通信教育課程は多様な層の受講者を擁しており、英語に触れる経験、目的、英語力などもさまざまである。多様な層の細かい期待にはなかなかこたえられないものであるが、英語を通して海外の文化に触れ、私たちの身近な世界や社会を相対的に捉える視点を身につけることができるような授業内容、運営をこれからも工夫したい。

【Outline (in English)】

This course is designed to develop students' critical reading and thinking skills. The texts cover a variety of topics related to comparative culture fields based on American movies.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S (5)(春期スクーリング)
大和久 悌一郎
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

【到達目標】

- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。授業期間中に、数回、アンケートとしてリアクション・ペーパーで回答必須の質問をだし、小テストとして成績に含めます。質問・感想へのフィードバックは次回の授業で行い、課題などについての解説も行います。必要に応じて、指示した箇所の予習をおこなうことをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 1 (例文読解)	空港での日常表現
第3回	Unit1 (文法)	文型について
第4回	Unit 2 (例文読解)	マンションなどでの日常表現
第5回	Unit 2 (文法)	文型について
第6回	Unit 3 (例文読解)	友人を歓迎するさいの日常表現
第7回	Unit 3 (文法)	不定詞、動名詞について
第8回	Unit 4 (例文読解)	買い物をするときの日常表現
第9回	Unit 4 (文法)	不定詞について
第10回	Unit 5 (例文読解)	催しものときの日常表現
第11回	Unit 5 (文法)	分詞について
第12回	Unit 6 (例文読解)	観光地での日常表現
第13回	Unit 6 (文法)	接続詞について
第14回	まとめ	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回であつかう章について、事前に予習をしておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English -English Once More! II-』朝日出版社、2016年

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末テスト40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）
独語S (春期スクーリング)
宮城 学
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏の文化や情報を、ドイツ語で収集できるようにドイツ語の基礎訓練を行います。春期ではまず動詞や冠詞などの語形変化に慣れるのが目標です。アルファベット、文字、発音から始め、動詞の変化を中心に文の基本構造を学びます。

【到達目標】

ドイツ語の音や単語に親しみ、文を組み立てる基本的なルールを身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、毎回教師がテキストに沿って解説したあと皆さんにはテキストやプリントの練習問題を解いていただきます。※事情によりオンライン授業となった場合は以下の要領で授業を進めます。

まず毎回解説動画を配信しますのでテキストをみながら学習してください。学習したあと、教師が指示する練習問題を解いて期限内に提出していただきます。動画のURL等についての指示は、毎回配信する「授業ガイダンス」で指示します。

フィードバックの方法について

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文字と発音(1)	学習の仕方、辞書等について。 アルファベット、母音と綴り字の関係。
第2回	文字と発音(2) 簡単なあいさつ	子音と綴り字の関係。
第3回	動詞の変化(1)	人称代名詞と動詞の現在人称変化。
第4回	動詞の変化(2)	注意すべき動詞と文の作り方。
第5回	名詞(1)	名詞の性と複数形
第6回	名詞(2)	定冠詞と不定冠詞
第7回	動詞の変化(3)	変音タイプの動詞
第8回	前置詞(1)	各格と結びつく前置詞
第9回	定冠詞類の格変化	dieser などの変化
第10回	前置詞(2)	3・4格支配の前置詞
第11回	不定冠詞類の格変化	mein などの格変化
第12回	分離動詞	分離動詞の文構造
第13回	非分離動詞	非分離動詞の構造
第14回	到達度の確認	前期の到達度を確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようになっています。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ドイツ語文法の基礎

著者：成田 節 櫻井 麻美

出版社：同学社

価格：2400円+税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

課題（60%）および学期末の到達度確認課題（40%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けています。総合的に満足のいく評価をいただいておりますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思っております。

【その他の重要事項】

「オフィスアワー制度」についてはメールにて行います。質問期間は初回（第1回）

資料配布から第13回課題提出期限までとします。初回の授業資料にメールアドレスをお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The students will get a basic training in German so that German-speaking culture and information can be collected in German. The goal is to get used to the changes of word such as verb and article.

【Learning Objectives】

The students will become familiar with the sounds and words of the German language and learn the basic rules of structuring sentences.

【Learning activities outside of classroom】

Homework and assignments are important preparations, so be sure to do them. Also, be sure to check the previous lessons before going to class.

The standard time for preparation and review of this class is 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Assessments are based on assignments (60%) and achievement tasks at the end of the semester (40%).

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）
仏語S (春期スクーリング)
石川 典子
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初学者が文法や会話表現を学ぶ授業です。最低限の文法知識をもとに、簡単なフランス語が聞き取れ、運用することができるようになることを目指します。フランス語を身近なものに感じること、フランスの文化について理解を深めてゆきましょう。

【到達目標】

フランス語であいさつできるようになる。
 フランス語で自己紹介できるようになる。
 フランス語で身近な人々のことが話せるようになる。
 フランス語で好きなものが言えるようになる。
 フランス語で買い物ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

初回授業時に、今後の進め方等についてガイダンスを行います。各回授業の初めに、前回の授業の疑問点や課題などに対して、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・挨拶する	今後の進め方等についてのガイダンス・アルファベ、綴り字の読み方の基本、フランス語の音に慣れる
第2回	Leçon 1	名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞
第3回	Leçon 2	主語人称代名詞、êtreの直接法現在、提示表現（1）
第4回	Leçon 3	部分冠詞、avoirの直接法現在、提示表現（2）
第5回	Leçon 4	-er動詞の直接法現在、否定文（1）
第6回	Révision 1	Leçon 1 から Leçon 4 までの復習、数字
第7回	Leçon 5	変則的な-er動詞の直接法現在、疑問文、否定文（2）
第8回	Leçon 6	形容詞（女性形・複数形・位置）
第9回	Leçon 7	語尾が-irの動詞の直接法現在、指示形容詞、所有形容詞
第10回	Leçon 8	aller, venirの直接法現在、近い未来・近い過去、前置詞と定冠詞の縮約
第11回	Révision 2	Leçon 5 から Leçon 8 までの復習、色彩、国籍を表す形容詞
第12回	Leçon 9	faire, prendreの直接法現在、疑問形容詞、疑問副詞
第13回	Leçon 10	attendreの直接法現在、疑問代名詞
第14回	まとめと試験	これまでのまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。家でも声を出して練習してみましょう。その際は付属の音声ファイルや「書き込み復習ノート」を活用してください。

【テキスト（教科書）】

『À pied!（ア・ピエ！—フランス語初級文法）』、西部由里子著、朝日出版社、2022年、2200円＋税

【参考書】

参考書は指定しませんが、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での毎回の取り組み50%、期末試験50%で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語を運用するための基本的な文法確認をしっかりとおこないます。その上で、学習したことを実際に活かす演習をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくことと便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】

This course is for students who start studying French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to speak about themselves in French.

After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）
スポーツ総合演習（春期スクーリング）
竹内 洋輔
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、リアクションペーパーの内容、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

リアクションペーパーや課題に対するフィードバックは授業内で実施する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

その他、スポーツ総合演習の授業内容詳細については、初回のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う

7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バレーボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60%、 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初回授業のガイダンス時の授業趣旨・到達目標の意味の説明をし、授業を通して実践的に経験・学習をしていくようにコミュニケーションを取りながら授業を実施してきました。学生からは、『スポーツは好きでは無かったが、実施することの意味と楽しさが分かった』など、大学で体育・スポーツの授業の意味、そして将来に向けた健康の維持・増進、コミュニケーションスキルの必要性等が理解出来たとコメントを頂きました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡は通教LMSを通じて実施をする。授業資料等配布も通教LMSを通じて行う場合があるため、各自閲覧できるようにしておくこと、

【その他の重要事項】

実技種目を実施するにあたって他の学生と協力し実施することが多いことから、個別の身体状況に対応して授業を実施することが難しい。そのため受講にあたっては、健康診断書の結果および、自己の評価から、運動に支障が無い身体状態であることが必要である。授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

LAW300TB（法学 / law 300）
商法総則・商行為法(春期スクーリング)
石井 宏司
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、商法第一編商法総則についての講義を行う。
 商法総則は商法の総則であると同時に主に個人商人を対象とした法規制である。商法の総則的な法規制とともに、個人商人の商号や商業帳簿、商業登記など個人商人の組織に関する法規制を講義する。
 本講義においては法学概論等を未修であっても受講者が理解できるように法学の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する
 学生は商法総則の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商法総則の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

【到達目標】

商法総則の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。
 また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。
 授業中は質問等を行い法律学的な回答方法についての指導も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式授業を行います。
 配布資料は教科書の要点を中心にイラストをまじえさらにわかりやすくしたものであり、配布資料と教科書を同時並行で読むことが望ましい。さらに配布資料においては小テストと答えを添付するので事後的な復習に利用して欲しい。
 授業においては質問等を行い、簡単な議論を行ってもらふことがある。質問やディスカッションを通じて商法や法律全般についての理解を深めてもらうこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商法の意義と法源①	授業の進め方を説明する 商法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商法の意義と法源②	商法における法源の種類およびその適用を学ぶ
第3回	商法の基本概念①	商法における商人の意義について学ぶ
第4回	商法の基本概念②	商法における商行為の意義について学ぶ
第5回	商業登記	商業登記の意義及びその効力について学ぶ
第6回	商号①	商号の意義とその制限について学ぶ
第7回	商号②	商号の貸与や譲渡などについて学ぶ
第8回	商業帳簿	商業帳簿の意義及びその作成保存等について学ぶ
第9回	商業使用人①	商業使用人、特に支配人についてその意義及び権限を学ぶ
第10回	商業使用人②	支配人以外の商業使用人についてその意義及び権限を学ぶ
第11回	代理商①	代理商の意義と法的性格について学ぶ
第12回	代理商②	代理商の権限及び代理商契約の終了等について学ぶ
第13回	営業①	営業の意義について学ぶ
第14回	営業②	営業の意義を踏まえてその譲渡や担保化などを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する学生は予習と復習を行うこと。
 予習に関して、次回範囲の教科書及び概要に目を通して10分程度一読する程度で良い。

復習に関して、教科書を中心として配布資料と六法を用いて30分程度読み合わせを行ってほしい。復習の際は必ず六法で全ての条文を確認して欲しい。また、復習する際には配布資料で赤字等で特に強調した文言や学説等を中心に勉強してほしい。自分がその要件に当たるか等、現実への応用意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。

より高度な学習を望む場合は、配布資料にある判例を裁判所ウェブサイトでも調査し判決の原文を読むと理解がさらに深まる。判例を全て読む場合の学習時間は2時間から3時間程度になると想定される。
 このような復習を複数回行ってほしい。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法(第9版)』（有斐閣、2023）
 ※ただし、授業開始前に第9版が刊行されなかった場合には第8版でも可。

【参考書】

『商法判例百選〔No.243〕』（有斐閣、2019）

【成績評価の方法と基準】

期末に行う授業内試験の得点により成績を評価する（配分：100%）

【学生の意見等からの気づき】

商法総則は全般的に抽象的な条文が多く非常にわかりにくいので判例等の実例を用いて具体的に説明するようにします。また、様々な法律用語が出てきますが、これらについては配布資料でさらにわかりやすく説明するように工夫を行っております。

【学生が準備すべき機器他】

対面型授業においては筆記用具、小型六法、教科書を所持して出席すること。資料等の参照時にインターネットを用いることがあるのでパソコンまたはスマホ等があることが望ましい。
 オンライン型授業においては資料を受取ることができるメールアドレスおよび資料を読むことができるPCやスマホ等が必要なる。また、カメラやリアルタイム配信授業中に通信が安定してつながる環境、Zoomのアプリ（アカウント）が必要となる。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course is intended to provide understanding of the General Provisions of the Japanese Commercial Code. In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as trade name, commercial books, and commercial agents. Through this course, students will learn the history, the case law and the doctrine of commercial law.

LAW300TB (法学 / law 300)
会社法(春期スクーリング)
笹久保 徹
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。
 受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
 ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

本授業は、教室での対面授業である。フィードバックは授業内で行う。
 なお、本授業の受講者は、秋期スクーリングの「会社法」も受講して頂きたい。秋期スクーリングも受講することで会社法の全体を理解することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、及び、 会社法を学ぶための前提知識や用語 等の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株式会社の機関 株主総会1	株主総会の権限・種類・招集に関する 解説
第4回	株式会社の機関 株主総会2	株主総会の議事・議決権に関する解説
第5回	株式会社の機関 株主総会3	株主総会の決議・決議の瑕疵等に関する 解説
第6回	株式会社の機関 取締役1	取締役の資格・員数・任期・選任解 任等に関する解説
第7回	株式会社の機関 取締役2	取締役会の権限・招集・決議等に関する 解説
第8回	株式会社の機関 取締役3	代表取締役・表見代表取締役に関する 解説
第9回	株式会社の機関 取締役4	取締役の義務に関する解説
第10回	株式会社の機関 取締役5	取締役の会社に対する責任に関する 解説
第11回	株式会社の機関 取締役6	取締役に対する責任追及の方法に関する 解説
第12回	株式会社の機関 取締役7	取締役の第三者に対する責任に関する 解説
第13回	株式会社の機関 監査役・会計監査人 指名委員会等設置会社 監査等委員会設置会社	監査役、会計監査人、 設置会社、監査等委員会設置会社 に関する解説
第14回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
 ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリストNo.254（有斐閣、2021）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末の定期試験による（定期試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。
 テキスト及び参考書は、改訂版が出版される可能性がある。購入を考えている受講生は、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
 Term-end examination 100%.

LAW200TB（法学 / law 200）
刑法総論(春期スクーリング)
LEBRETON CAROLINE
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法とは、何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰が科されるかを規定する法律であり、この内刑法総論が刑法典第1編（72条まで）を基礎として各犯罪のいわば共通項としての一般的成立要件を中心に論ずるものである。本授業では、その一般的成立要件について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

刑法総論の勉強は、犯罪の成立要件と阻却自由を単に覚えるのではなく、条文から厳格な理論を展開しつつ、実際上も妥当な結論を導くという、特有の思考様式が必要となる。このような思考方法の基礎を身につけることを目的とする。刑法典における一般的な成立要件について、判例・学説で問題とされている基本的な論点に関して、解釈論を展開することができる。以上のような解釈論の結論を事例に適用し、犯罪の成立を議論することができることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で学説（内容と根拠）と具体的な事例（主に判例）研究を行う。フィードバックは試験採点后にオンラインでアクセスできる資料として提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	刑法の意義、罪刑法定主義
第2回	成立要件①	成立要件（構成要件）とは何か、構成要件の様子
第3回	成立要件②	不作為論
第4回	成立要件③	因果関係論
第5回	違法性①	違法性の基礎、阻却事由の紹介、35条
第6回	違法性②	正当防衛
第7回	違法性③	緊急避難
第8回	故意・過失	過失論
第9回	故意・過失	錯誤論（事実の錯誤、法律の錯誤）
第10回	責任	責任の意義、責任の要素、責任阻却事由
第11回	未遂犯	未遂とは、中止犯、不能犯
第12回	共犯①	共犯とは、共犯の処罰根拠、共同正犯
第13回	共犯②、罪数	教唆犯、補助犯、共犯と身分
第14回	まとめ、試験	全体的なまとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を中心に行う。（ただし、事前に判例を読む（確認することはお勧めです）
具体的には、講義の説明及びレジュメと照らし合わせながら、各自で教科書及び判例集の判例を読んで、理解すること。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田典之「刑法総論(第3版)」(弘文堂)
山口厚, 佐伯仁志, 橋爪隆「判例刑法総論〈第八版〉」(有斐閣)

【参考書】

別冊ジュリスト刑法判例百選1 総論[第7版](有斐閣)

【成績評価の方法と基準】

最終時限に試験評価する。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

次の講義で予習した方が良い判例の番号を指示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

小型六法(「デイリー六法」三省堂など、オンラインで閲覧することも可)

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, we will focus on the basic principles in criminal law, and the common elements of criminal offenses. In that regard, we will be focusing on the discussions regarding their interpretation(doctrines, jurisprudence).

Learning objectives: The main goal is for students to understand the foundations of criminal law thinking and the common elements of any offense. Mainly

1- understand how to read a section of the law and apply it to an actual situation

2- understand the different doctrines(the reason of the differences in interpretation and the practical consequences of those differences) and the position of the jurisprudence

Learning activities outside the classroom: Before/after each class meeting, each student should spend approximately four hours to understand the course content.

Grading criteria : Final examination 100%

LAW300TB (法学 / law 300)
行政救済法(春期スクーリング)
氏家 裕順
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政救済とは、行政活動によって被害を被った私人の権利利益の回復（あるいは権利利益の侵害の予防）のことである。民事法上のものとは異なる、行政の分野に特有の救済制度として、行政事件訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償が存在する。

行政事件訴訟とは、行政上の紛争があるとき、それを裁判所が審理し、解決するものである。行政上の不服申立ては、行政上の紛争があるとき、それを行政機関が審理し、解決するものである。国家賠償とは、国・公共団体の活動により私人が被った損害を、国・公共団体が補填するものである。損失補償とは、過誤のない国・公共団体の活動により私人に生じた特別の犠牲を、補填するものである。

上記の各救済制度のうち、春期スクーリングでは、行政上の不服申立て、国家賠償がとりあげられる。

この授業で主として学習するのは、行政上の不服申立てについては、その手続の概要であり、また、国家賠償については、国家賠償責任の類型（公権力行使責任と営造物管理責任）と各類型の国家賠償責任の成立要件である。

【到達目標】

行政上の不服申立てについて、その手続の概要を説明することができる。

公権力行使責任（国家賠償法1条1項に基づく責任）の成立要件について説明することができる。

営造物管理責任（国家賠償法2条1項に基づく責任）の成立要件について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。フィードバックは授業内で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入講義	行政法体系と行政救済法の関係
第2回	行政上の不服申立て(1)	行政上の不服申立ての意義と類型
第3回	行政上の不服申立て(2)	要件 手続
第4回	行政上の不服申立て(3)	裁決 仮の救済
第5回	国家賠償制度総説(1)	国家賠償責任の類型と概要
第6回	国家賠償制度総説(2)	賠償責任の主体 国家賠償法と他の法律との関係 相互保証主義
第7回	公権力行使責任の概要(1)	公権力の行使 公務関連性（職務関連性）
第8回	公権力行使責任の概要(2)	故意・過失と違法性
第9回	公権力行使責任の概要(3)	行政の規制権限不行使の違法性
第10回	公権力行使責任の概要(4)	立法作用・司法作用の違法性

第10回	営造物管理責任の概要(1)	公の営造物 設置・管理の瑕疵
第11回	営造物管理責任の概要(2)	瑕疵の判断枠組み
第12回	営造物管理責任の概要(3)	河川管理の瑕疵 供用関連瑕疵
第13回	営造物管理責任の概要(4)	本来の用法論 国家賠償制度全体の総括
第14回	定期試験	試験の実施と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書を使って予習・復習を行う。少なくとも、4時間をかける。

【テキスト（教科書）】

使用しない。レジメと資料を配布する。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説II〔第7版〕』（有斐閣、2021年）
 神橋一彦『行政救済法〔第2版〕』（信山社、2016年）
 塩野宏『行政法II〔第6版〕』（有斐閣、2019年）
 芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
 藤田宙靖『行政法総論（下）』（青林書院、2020年）
 最新版のものを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

第14回授業において実施する試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

事前の予習が講義内容を十分に理解するために必要不可欠なことであるといえる。予習のための手助けを適切にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。

【その他の重要事項】

授業は、行政法を履修中であるか修得したことを前提として行われる。未履修者であっても受講できるが、学習を効果的なものとするために、行政法での学習内容について自習することが求められる。自習範囲は担当教員に相談すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to sketch out procedures which are needed for bringing a complaint against administrative acts before executive agencies and to understand sorts of responsibilities of the public entities as well as conditions for attributing responsibility to the public entities.

After completing this course, you should be able to:

- Sketch out procedures which are needed for bringing a complaint against administrative acts before executive agencies;
- Sketch out requirements for public entities' compensation for damage which are laid down in Art. 1 (1) of the State Redress Act 1947 (c. 125); and
- Sketch out requirements for public entities' compensation for damage which are laid down in Art. 2 (1) of the State Redress Act 1947 (c. 125).

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%).

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文芸史 I（春期スクーリング）
加藤 昌嘉
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆上代（奈良時代）～中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）に作られた、歌集・日記・物語を読み、文学史を俯瞰します。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学びます。そして、今も議論が続く、定説が更新されつつある、『研究史上の未解決問題・論争点』を考察してゆきます。

※「日本文芸史 I A・B」は、日本文学 2～3 年次、全コースの“必修科目”です。火曜 6 限（加藤&小林）クラスか、水曜 2 限（坂本&阿部）クラス、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】

◆以下の 3 点を目標とします。

- (A) 古典文学の成立・構成・表現などを学ぶ。
- (B) 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。
- (C) 古典文学を、歴史の流れの中で捉える目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

◆受講者からの疑問やアイデアは、授業内でフィードバック（フォローアップ）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	定説は更新される
2	『竹取物語』	複数種類の竹取説話
3	『伊勢物語』	在原業平の実体験？
4	『古今和歌集』	どのように配列しているか？
5	ブックデザイン	写本・版本の形態
6	『源氏物語』	成立の謎
7	『源氏物語』	長編のからくり
8	『蜻蛉日記』『更級日記』	日記？ 自伝？ 物語？
9	『枕草子』	誰のために？ 何のために？
10	『大鏡』	歴史物語とは何か？
11	『日本霊異記』『今昔物語集』	教訓？ 笑い話？
12	『新古今和歌集』	前衛的言語実験
13	『百人一首』『百人秀歌』	編纂プロセスの謎
14	『平家物語』	結末＝最終巻はどれ？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆授業中に紹介された本を、図書館や書店で入手し、読んでみてください。

※本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

◆以下の国語便覧を教科書とします。歴史や文化を知るためのビジュアルハンドブックです。高校国語で教えられてきた常識が、最新の研究でどれくらい更新されたのか、この本で確認します。

◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版）

【参考書】

◆以下のシリーズには、古典文学の原文と現代語訳が収められています。

◎角川ソフィア文庫（KADOKAWA）

◎講談社学術文庫（講談社）

◎新潮日本古典集成（新潮社）

◎新編日本古典文学全集（小学館）

◆以下の全集には、現代の作家による古典の現代語訳が収められています。

◎池澤夏樹個人編集『日本文学全集』（河出書房新社）のうち、01 巻～12 巻。

◆以下のデータベースで、古典文学の原文・現代語訳を読むことができます。

◎法政大学図書館ホームページ「オンラインデータベース」から入る → 自宅の場合は VPN 接続をする → ログインする → 「ジャパンナレッジ Lib」に入る → 「本棚」の中の「新編日本古典文学全集」

【成績評価の方法と基準】

◆中間レポート（36%）、期末レポート（36%）、各回のリアクションペーパー（28%）。

※レポートは、課題を選んで小論文を書くものです。

※リアクションペーパーには、疑問やアイデアなどを書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

◆古典文学だけでなく、現代の文学や海外の文学も、積極的に取り上げます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course provides an overview of the history of literature by reading poetry anthologies, diaries, and stories produced during the Nara (8th century), Heian (8th-12th centuries), and Kamakura (12th-14th centuries) periods. At the same time, students learn various research methods to approach classical literature. We will examine "unresolved issues in the history of research" that are still being debated and the theories that are still being updated.

Learning Objectives: The goals of the course are the following three points:

- To understand the formation, composition, expression, etc. of classical literature.

- To understand the viewpoints and methods for studying classical literature.

- To learn to view classical literature in the context of historical trends.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on a mid-term report (36%), a final report (36%), and reaction papers for each session (28%).

LIT100TC（文学 / Literature 100）
日本文芸学概論(春期スクーリング)
栗山 元子
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では平安期を代表する古典文学である『枕草子』の作品世界について学んでいきます。具体的には日記的章段と呼ばれる、清少納言の体験した宮中の日常や出来事を記した箇所を取り上げ読んで行く予定です。紫式部と並び称される清少納言ですが、どういったところが才女とされるのか、また自慢話が多いとされる評価については本当のところはどうか、この作品が書かれた時代背景などにも留意しながら、いくつかの章段を丁寧に読み進めつつ考えていきます。あわせて本文の表現を深く味わい、古典文学の世界の魅力を味わっていきます。

【到達目標】

- ①古典の本文を毎回読んで行くことで、古文を読むにあたっての必要な知識（文法・時代背景・文学史）を得る。
- ②『枕草子』の文学史的意義やその作品の魅力などについての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回講師作成のプリントを配布します。内容の理解のためにパワーポイントを使用します。また毎授業ごとにリアクションペーパーの作成を課します。フィードバックは全体に向けて、各授業時の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明と、『枕草子』の書かれた時代についての概説
第二回	清少納言について	清少納言をめぐる人間関係や家系などについて講義を行う。
第三回	『枕草子』の書かれた時代	『枕草子』の書かれた時代について、政治の動きを中心に人物関係を押さえながら学ぶ。
第四回	中宮定子について	清少納言のつかえた中宮定子について、『枕草子』以外の資料も参考にしながら学ぶ。
第五回	中関白家の人々について	定子中宮以外の中関白家の人々について、『枕草子』以外の資料も参考にしながら学ぶ。
第六回	『枕草子』の章段・諸本について	『枕草子』の本文の系統や章段の分類などについて学ぶ。
第七回	『枕草子』日記的章段を読む①	第七十八段「頭中將のすずろなるそら言を聞きて」を読む（章段数は新編日本古典文学全集本に拠る）。
第八回	『枕草子』日記的章段を読む②	第三十段「頭弁の、職にまゐりたまひて」を読む。
第九回	『枕草子』日記的章段を読む③	第三十七段「殿などのおはしまさで後、世の中に事出で来」（前半部）を読んでいく。

第十回	『枕草子』日記的章段を読む④	第三十七段「殿などのおはしまさで後、世の中に事出で来」（後半部）を読んでいく。
第十一回	『枕草子』日記的章段を読む⑤	第七十七段「宮にはじめてまゐりたるころ」を読んでいく。
第十二回	『枕草子』日記的章段を読む⑥	第二百八十段「雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子まゐりて」を読んでいく。
第十三回	『枕草子』日記的章段を読む⑦	第二百二十四段「御乳母の大輔の命婦、日向へくだるに」を読んでいく。
第十四回	まとめ・理解度の確認	全体をふりかえってのまとめとフィードバック、理解度の確認のための小テストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前には、次回とりあげる章段をあらかじめ入手・閲覧可能なテキストで読み、分からない用語や人物関係などについて調べておいてください（二時間）。また授業後には授業内容を整理・復習して要点を理解し、さまざまなテキストなどの解釈にも触れ、学びを深める（二時間）ことを行ってください。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを配布します。

【参考書】

松尾聡・永井和子注訳『枕草子』（小学館新編日本古典文学全集18、小学館）、萩谷朴校注『枕草子』上・下（新潮日本古典集成）、上坂信男・神作光一ほか訳注『枕草子』上中下（講談社学術文庫）、赤間恵都子『歴史読み枕草子—清少納言の挑戦状』（三省堂）、山本淳子『源氏物語の時代 一条天皇と后たちのものがたり』（朝日新聞出版）など。

【成績評価の方法と基準】

授業時に作成するコメントシートによる評価（70%）と学期末の理解度の確認のための小テスト（30%）とを合算して成績を付けます。評価の基準はいずれも授業内容を理解し、その上でさらに深く学ぼうとする姿勢や丁寧に課題に取り組む姿勢が見られるか、自らの意見を整然と述べ、説得力ある考察を展開できているかで判断していきます。

【学生の意見等からの気づき】

古文が苦手な人や、学び直したい人にも理解しやすいように、わかりやすい授業を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, we will read "The pillow book (Makura no soushi)" written by Sei syounagon who is the famous female writer represented the Heian-period. By reading carefully, you will understand what is the achievement of this work. And you will acquire the knowledges about the history and the customs of Heian-period that is essential for understanding Japanese classic literature.

LIT200TC（文学 / Literature 200）
中国文芸史(春期スクーリング)
吉井 涼子
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。
 有名な文献や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。
 毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
 授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第2回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第3回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第4回	『詩経』を読む	中国の現存最古の歌謡集である『詩経』について知る。
第5回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。齊物論から「夢に胡蝶となる」の話、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第6回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第7回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第8回	『史記』越世家を読む(1)	『臥薪嘗胆』の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第9回	『史記』越世家を読む(2)	『吳越同舟』でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第10回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む(1)	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第11回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む(2)	「完璧」の故事の部分を読解し、当時の秦と六国の関係性を理解する。
第12回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む(3)	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
 予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
 高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

1 回ごときちんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

【学生が準備すべき機器他】

できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校国語の副教本(便覧・要覧)など。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using familiar stories. We start with simple and short passages from famous books of the pre-Qin Dynasty, carefully reading them while touching on Chinese culture and stories, in order to cultivate basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation (printed versions preferable, but apps may be used). The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: A general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

Lecture format: Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner. In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which checks the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate. In addition to dictionaries, high school supplementary textbooks will also be of use.

Remarks for International Students: This class is conducted through *kundoku*, a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文芸研究特講・特域(春期スクーリング)
安原 眞琴
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：

仏教は日本に千年以上根付いている、日本文化の根幹をなすものである。にもかかわらず、近年忘れられつつある。グローバル時代のいまこそ仏教を学び、日本の特徴のようなものを考えたい。

授業の目的：

仏教についての基本的な歴史や考え方を学習する。

仏教が文学のベースにもなっていたことを学習する。

【到達目標】

「日本人は無宗教」とよく言われるが、それに対してきちんと答えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「日本人は無宗教だ」について考える。今までの各自の仏教のイメージを考える。
第2回	仏教のはじまり	インドの釈迦の一生を学ぶ。
第3回	仏教のおわり？	釈迦の死と死後について学ぶ。
第4回	仏教の宇宙観（考え方）を知る1	概要を知る。
第5回	仏教の宇宙観（考え方）を知る2	六道輪廻を知る。
第6回	仏教の宇宙観（考え方）を知る3	仏像を知る。
第7回	仏教の宇宙観（考え方）を知る4	地獄を知る。
第8回	仏教の宇宙観（考え方）を知る5	宇宙観の総復習として「熊野観心十界曼荼羅」を知る。
第9回	日本の仏教を知る1	仏教公伝を知る。
第10回	日本の仏教を知る2	日本仏教の宗派を知る。
第11回	日本の仏教を知る3	神仏習合や修験道などについて知る。
第12回	中近世文学を中心に、仏教と文学の関係性を知る1	説話や説話集を通して仏教と文学の関係性を知る。
第13回	中近世文学を中心に、仏教と文学の関係性を知る2	主に絵入のお伽草子や草双紙などを通して仏教と文学の関係性を知る。
第14回	振り返り	「雨二モ負ケズ」などを見ながら学んだ仏教について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる。

復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業中に指示する。

【参考書】

特に定めず、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー・リアベクイズ（40%）、中間小テスト（20%）、期末レポート（40%）で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業には、いつも学ぼうとする学生が多く集まり、教室の雰囲気もよく、嬉しく思っています。今回のテーマは仏教なので不安に思う学生もいるかもしれませんが、仏教は文学を読むためにも重要な考え方でしたので、どんな考え方なのかなどを、いつもの通り一緒に学んでいきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを使って授業をすずめるので、それを見て使える機器を準備すること。

【その他の重要事項】

質問等は授業後に教壇前で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: People from other countries often say that Japanese people are non-religious, but our students will be able to argue about how true that statement is by the time that this lecture course is finished.

Learning Objectives: To understand the fundamentals of the more than one-thousand-year history of Buddhism in Japan, and its function as the base of Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation and revision will each require two hours' study.

Grading Criteria/Policy: Overall grades are determined according to: written reactions to lectures and in-class quizzes (40%); mid-semester test (20%); and final report (40%).

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）
日本芸能史(春期スクーリング)
江口 文恵
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、近世の芸能の歴史について講義する。近世には人形浄瑠璃（文楽）、歌舞伎、講談、落語などの様々な芸能が成立するだけでなく、先行芸能の能・狂言も新たな展開を見せる。各ジャンルの特徴や作品を学ぶだけでなく、他の芸能との影響関係について学んでいくことで、近世の芸能史を包括的に把握することを目的とする。

【到達目標】

- ・近世に成立した芸能についての基本的知識や特徴を理解する。
- ・各ジャンルの相互関係を包括的に捉え、自分の言葉で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。映像を見て感想を書くなどリアクションペーパーの提出を求める回がある。その場合は授業内に回答を仕上げ、提出してもらおう。リアクションペーパーのフィードバックは、当該回の次の回以降に、講義冒頭で学生の回答を紹介しながら行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説 近世の芸能	近世の芸能について概説する。
第2回	近世の能楽1	喜多流の成立について等
第3回	近世の能楽2	徳川綱吉と能楽
第4回	近世の能楽3	加賀藩・南部藩等、諸藩の能楽について
第5回	近世の能楽4	謡文化、庶民と能楽について等
第6回	話芸1（落語）	笑話から落語へ（前編）—安楽庵策伝と『醒睡笑』
第7回	話芸2（落語）	笑話から落語へ（後編）—地獄八景亡者戯
第8回	話芸3（講談）	講談（講釈）の成立と展開
第9回	話芸4	幕末の話芸—三遊亭円朝『牡丹燈籠』ほか
第10回	文楽・人形浄瑠璃1	近松門左衛門の作品、虚実皮膜の論
第11回	文楽・人形浄瑠璃2	三大名作ほか、近松以後の浄瑠璃作品
第12回	歌舞伎1	歌舞伎の成立について
第13回	歌舞伎2	松羽目物と義太夫狂言
第14回	試験および総括	筆記試験、本講義とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。特定のテキストは使用しません。

【参考書】

岩波講座『歌舞伎・文楽』全10巻、岩波講座『能・狂言1 能楽の歴史』、今岡健太郎『日本古典芸能史』、山本進『図説 落語の歴史』

【成績評価の方法と基準】

期末レポート50%、平常点（課題の回答内容など）50%。平常点は授業内での。課題の回答を採点・換算します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講人数や受講者の関心・興味によっては、シラバスを変更する場合があります。

【Outline (in English)】

History of Japanese performing arts in early modern. Bunraku, Kabuki, Kodan and Rakugo. Noh and Kyogen in 17th-19th century.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）
日本美術史(春期スクーリング)
山本 ゆかり
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

縄文時代から江戸時代初期までを視野に入れた日本美術の歴史を学習します。美術は権威の象徴として、信仰の対象として、あるいは暮らしを彩るために、人々の心を楽しませるために、長い歴史のなかで育まれてきました。先人の生み出した多様な造形を手がかりに、日本文化の成り立ち、そこに宿る特質、美術を通して見えてくる歴史を学びます。

【到達目標】

- ①日本美術の歴史に対する基礎的な理解。
- ②「美しい」と評されてきた美術作品を鑑賞することで、「美しさ」に対する感性を育む。
- ③美術について感じたことを、自分の言葉で語れるようになる。上記を学習目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3, DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、パワーポイントを使用したデジタル画像による作品解説を中心に授業を進めます。またリアクション・ペーパーの提出を課し、授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、縄文文化（ものを飾る—日本美術史のはじまり）	ガイダンス、および日本美術の歴史のはじまり・縄文文化について。
第2回	弥生・古墳時代の文化（大陸文化と日本）	大陸文化の大きな影響下で展開する弥生・古墳時代の文化について。
第3回	飛鳥時代の文化（仏教伝来と美術1）	6世紀に日本へ仏教が伝来して以後、仏教文化圏に入ってから日本の美術について。
第4回	白鳳時代の文化（仏教伝来と美術2）	7世紀後半を中心とする仏教美術の展開について。
第5回	天平時代の文化（奈良の諸仏）	8世紀を中心とする仏教美術の展開について。
第6回	平安時代の文化1（平安前期の仏教美術）	平安前期を中心とする密教などに由来する仏教美術について。
第7回	平安時代の文化2（平安後期の仏教美術）	平安後期を中心とする浄土教に由来する仏教美術について。
第8回	平安時代の文化3（絵巻）	絵で長大な物語や説話を表現する絵巻について。
第9回	平安時代の文化4（和歌・文学と美術）	和歌や物語文学と美術との関わりについて。
第10回	鎌倉文化（運慶と仏教美術）	運慶を中心とした迫真的な鎌倉彫刻について。
第11回	室町文化（水墨画）	中国から日本にもたらされたモノクローム絵画世界・水墨画について。

- 第12回 桃山文化（狩野派） 狩野派作品を中心に、戦国武将が好んだ壮大な襖絵や屏風について。
- 第13回 桃山・江戸文化（風俗画） 身近な暮らしを題材とする風俗画の成立と展開について。
- 第14回 試験・まとめと解説 今期の授業を振り返り、理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考書を授業の予習復習に活用し、特に授業を振り返り、自身が抱いた思いや印象などを書き留めるなど、復習を充実させてください。また授業外の時間に美術館、博物館、寺院などに積極的に行き、実際の美術を自身の目で確かめてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

- 『カラー版 日本美術史 増補新装』（美術出版社、1991年初版、1,900円+税）
- 辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会、2005年初版、2,800円+税）
- 山下裕二・高岸輝『日本美術史』（美術出版社、2014年、2800円+税）
- ※上記三冊は日本美術史全般を概観する参考書です。
- 日高薫『日本美術のこぼれ』（小学館、2003年初版、1,800円+税）
- ※上記は日本美術史の用語の解説から理解を深める参考書です。

【成績評価の方法と基準】

- リアクション・ペーパーの提出と内容 40%
- 期末試験 50%
- 平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義だけでなく、相互のやりとりを授業内に取り入れていきたいと考えます。

【Outline (in English)】

Students learn a Japanese Art History from the Jomon period to the early Edo period in this course. At the end of this course, students get basic understanding of Japanese art history, and improve the aesthetic of arts. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports: 40%, in class contribution: 10%

LIN200TC（言語学/Linguistics 200）
日本文法論(春期スクーリング)
松浦 光
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語学の基礎を確認しながら、現代日本語の文法的な規則を振り返る。そして、認知言語学による現代日本語文法へのアプローチを検討する。そこから、国語教育をはじめとした社会につながる国語力を身につけていく。

【到達目標】

- (1) 国語教員がおさえておきたい日本語文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
- (2) 日本語文法の逸脱・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいため、様々な問題・課題を授業内で与える。
- ▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。
- ▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業に関するオリエンテーション・アンケート	自分が気になる文法現象についてまとめる。
第2回	認知言語学の文法観	認知言語学における文法観を理解する。
第3回	社会の中の国語力と学校の中の国語力	自分の国語学習経験を振り返る。
第4回	推論と意図理解	推論と意図理解のメカニズムについて理解する。
第5回	<文字通りでない意味>の日常性	<文字通りでない意味>が反映された表現を考える。
第6回	似ていない比喩	換喩・提喩のメカニズムを理解する。
第7回	文法とレトリック	文法とレトリックの連続性を理解する。
第8回	物語における<文字通りでない意味の理解>	テキストと意味の関係を検討する。
第9回	比喩からみた慣用句	慣用句の成立と比喩的な動機づけを理解する。
第10回	文章に書いていないことを読む	言葉の言外の意味について考える。
第11回	文法と視点	多様な視点が反映される言語表現を考える。
第12回	話しことばにおける<文字通りでない意味>の理解	話しことばの特性と意味解釈のメカニズムを理解する。
第13回	現代日本語の用例の収集と整理の方法	現代日本語の用例の収集と整理の方法を学ぶ。
第14回	授業のまとめ	授業の内容の復習を行い、期末レポートに備える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。テキストを読み込み、授業の内容について理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

菅井三実(2021)『社会につながる国語教室: 文字通りでない意味を読む力』東京: 開拓社。(¥2,200)

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート50%、②小課題30%、③平常点・授業参加への積極性20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces modern Japanese grammar by cognitive linguistics for Japanese public junior high schools, and points out some irregularities or bugs in it.

Learning Objectives: The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

LIN100TC（言語学/Linguistics 100）

日本語学概論(春期スクーリング)

古牧 久典

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
- ・多角的な視点からことばを観察することができる。
- ・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、事例を取集・整理する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「日本語学概論」の概要
第2回	ことばの常識を疑う	言語についての常識
第3回	言語学とは？	言語の学問
第4回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第5回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第6回	心とことばの関係は？	心理言語学
第7回	ことばはどう習得される（する）のか？	言語習得論
第8回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第9回	「方言」とは？	地域方言学
第10回	ことばの世代差とは？	年齢差の社会方言学
第11回	ことばのジェンダーとは？	ジェンダーの社会方言学
第12回	ことばの比喩とは？	レトリック・比喩論
第13回	対人関係を築くことば遣いとは？	ポライトネス理論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を取集、検討してみる。毎回簡単な課題が出るので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70%）、期末レポート（30%）
（ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields, such as the areas of approaches to language as a sign system (general linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), and sociology of language (sociolinguistics).

Learning Objectives: The goals of this course are to introduce students to different perspectives on language issues.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports (70%); term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文学研究特講・現代(春期スクーリング)
高口 智史
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦時下の日本文学を読む

「戦時下の文学」というとどのような文学を思い浮かべるだろうか。多くの人は国策・戦争に協力した文学が大量生産された不毛の時代を思い浮かべると思う。たしかに表現で戦争に抵抗することは重要だが、しかしそれを戦時下の表現に求める事は難しい。亡命でも出来れば別だが、職業作家は検閲でマークされると発表の場を失うからだ。それは失業を意味していた。

もちろん、だからといって批評としての文学が死んだわけではなかった。

私たちの良く知る太宰治や中島敦は、日中戦争の開始、国家総動員法の制定から敗戦までのわずか八年の間に精力的に作品を発表している。このことは改めて考えなければならない問題だと思う。

当然彼らは時代を選ぶことは出来ない。文学を手放さないためには、そのような過酷な状況でもそれを宿命として引き受けざるを得なかった。そして状況との対話を通してそれぞれの思索や表現を深めていったのだった。

旧来の権力や戦争に抵抗した、しないという「色分け」では、あまりに大雑把すぎて彼らが状況の中でどのように思索を深め、何を表現しようとしたのかは見えない。しかし改めてなぜ彼らの戦時下の作品が今日まで読み継がれる普遍性を持ち得ているのか立ち止って考える必要があるだろう。結論から言えば、彼らが格闘した問題とは、戦時下の〈同調圧力〉に塗り込められた(牢獄)のような社会のなかで孤独に耐えながら、個を見失わないで如何に生きるか、ということだったのではないかと思う。そしてそのことが同じく生きていく現代を生きる読者の共感を得ているのではないかと思う。

もちろんリアリズムの死滅した戦時下の小説は、表層の物語を押さえるだけでは作者のメッセージを捉える事はできない。この授業では井伏鱒二「へんろう宿」太宰治「富嶽百景」「待つ」堀辰雄「曠野」中島敦「山月記」「李陵」など今日でも読まれる戦時下の作品を取り上げて、それぞれの作品の表現構造や状況との関係を丁寧におさえながら、戦時下の文学者の思索と表現の今日的可能性を明らかにしていきたい。また加えて、間に小林秀雄、坂口安吾の評論を挟みながら、今日的な視点から戦時下の文学の意味を様々な視点から捉え直して再評価していきたい。

【到達目標】

- ・戦時下文学の歴史の意味を理解する。
- ・日本の戦時下文学の批評性が現在にどのような意味を持つのか理解する。
- ・小説の基本的な構造分析と読みの方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。作品ごとに、授業に入る時にその作品についての感想を提出してもらおう。また終了時には、どういう発見、どういう事を学ぶことが出来たか、または授業の質問などについて提出してもらおう。そしてそれらを授業冒頭で適宜発表したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①この授業の方向性について ②戦時下の文学をなぜ読むのか
第2回	第一回 井伏鱒二「へんろう宿」を読む	①基本的な構造分析 ②戦時下の思想と方法 —アレゴリーと韜晦
第3回	第二回 太宰治「富嶽百景」を読む①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（私小説）
第4回	第三回 太宰治「富嶽百景」と「待つ」を読む②	②戦時下の思想—批評としてのプリコラージュ
第5回	第四回 堀辰雄「曠野」①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（古典）
第6回	第五回 堀辰雄「曠野」②	①戦時下の思想—戦時下を如何に生きるかという問い
第7回	第六回 中島敦「山月記」①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（古典）
第8回	第七回 中島敦「山月記」	①戦時下の思想—自己幻想を開く意味
第9回	第八回 戦時下の批評を読む—坂口安吾・小林秀雄	安吾「文学のふるさと」「日本文化私観」、小林「無常ということ」「戦争について」などをめぐる戦争への対峙方

第10回	第九回 中島敦「李陵」を読む①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—「一」の表現の意味（「山月記」からの発展として）
第11回	第九回 中島敦「李陵」を読む②	①戦時下の思想—「二」司馬遷の物語が問いかけるもの
第12回	第九回 中島敦「李陵」を読む③	①戦時下の思想—「三」李陵の物語が問いかけるもの
第13回	第十回 まとめ	戦時下の文学の達成と戦後文学との関係（坂口安吾「白痴」を補助線として）
第14回	学期末試験と解説	①授業の理解を確認する試験 ②試験の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。さらに今回取り上げる戦時下から戦後の時代についても歴史を予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてほしい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストや資料は、事前に学習システムを通して配布する。いずれも文庫本で手に入りやすいテキストなので、できればその作家の他の作品にも目を通してもらいたい。

【参考書】

- ・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
- ・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎）手に入りやすいが、読み方をめぐる最良の入門書。探しても読んでほしい。
- ・廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
- ・『日本の歴史25 太平洋戦争』（中公文庫）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点＝各作品をめぐる感想や授業コメント等（50%）
- ・授業に対する取り組み姿勢（作品をしっかり読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等）
- ・学期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
- ・話が早くして理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けたい。

【Outline (in English)】

Course Theme: Reading Literature in Wartime

Course Outline: As in the past, judging whether literary people resisted war during wartime is not the only way to understand wartime literature. For example, Dazai Osamu and Nakajima Atsushi, with whom we are familiar, vigorously published their works during the period of only eight years between the start of the Sino-Japanese War, the enactment of the National Mobilization Law, and the defeat of Japan. Of course, they were not pandering to war. But why do their works have the universality that allows them to be read to this day? With these questions in mind, we will reconsider what literary people thought and tried to express during wartime.

Learning Objectives: In this class, we will focus on wartime works that are still read today, such as Ibuse Masuji's *Henrōyado*, Dazai Osamu's two works, *Fugaku hyakkei* and *Matsu*, Hori Tatsuo's *Arano*, and especially Nakajima Atsushi's two works, *Sangetsuki*, and *Riryō*. Although it is difficult to capture the author's message from works published under severe censorship, students will learn to explore the possibilities of wartime literature in the modern age, while gaining a careful understanding of the expressive structure of each work and its relationship to the wartime situation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to have read each work before the class in which it is discussed. They should also try to gain a broad grasp of the circumstances of the time, by revising the history of the war years and post-war years.

Grading Criteria/Policy: written reactions to the works and comments on the content of each lecture (50%); final examination (50%).

HIS300TD（史学/History 300）

日本近代史(春期スクーリング)

柏木 一朗

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近代から現代へと時代が移行した昭和時代に焦点をあて、日本はなぜ戦争への道を選んだのか。戦前・戦中・戦後の昭和史を政治・外交・軍事の各分野から紐解き、開戦から敗戦に至る過程を理解することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本の歴史の大きな流れを把握する。昭和時代、日本が戦争への道を選んだ要因について、特定の歴史観やイデオロギーに偏らず実証を旨とし歴史を考察する力を会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で講義をすすめ適宜プリントを配布する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから何点か取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに ワシントン条約体制と幣原外交	第一次世界大戦後の世界と日本について考察する。
2	大正デモクラシーと普通選挙の実施	政党政治と普通選挙について考察する。
3	田中内閣と張作霖爆殺事件	田中内閣の外交政策と張作霖爆殺事件について考察する。
4	浜口内閣とロンドン海軍軍縮条約	統帥権干犯問題をめぐる政党と軍部について考察する。
5	満州事変と満州国の承認	満州事変と軍部の台頭について考察する。
6	岡田内閣と天皇機関説事件	天皇機関説事件をめぐる天皇と政党について考察する。
7	軍閥と二・二六事件	陸軍の派閥抗争と政党政治の終焉について考察する。
8	盧溝橋事件と上海事変 戦争の長期化	日中戦争の勃発と戦局の推移について考察する。
9	ノモンハン事件と第二次世界大戦の勃発	満ソ国境紛争と第二次世界大戦の勃発について考察する。
10	北部仏印進駐と日独伊三国同盟の締結	近衛内閣の外交政策について日独伊三国同盟を中心に考察する。
11	近衛新体制と革新官僚	新体制運動と大政翼賛会の結成について考察する。
12	日米交渉から開戦への道	太平洋戦争開戦と戦局の推移について考察する。
13	終戦と日本占領 おわりに	終戦と米国の対日占領政策について考察する。
14	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の歴史の大きな流れを把握しておくこと。テキストをよく読み要点をノートにまとめておくこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『昭和史講義』筒井清忠編 筑摩書房 ちくま新書1136 2015年 968円（税込）

【参考書】

テキスト各章毎に記載されている「さらに詳しく知るための参考文献」を適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】

最終講義で実施する試験（授業内試験）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの文字の大きさ、マイクの音量に注意する。

【Outline (in English)】

Focusing on the Showa era, when transitioned from modern to post modern, why did Japan go to war?

Focusing on the history of the Showa era from pre-war to post-war in the field of politics diplomacy and military, our purpose is to understand the process from the start of the war to the defeat.

You can understand flow of modern Japanese history from a broader perspective.

Without having a particular historical view or ideology, you can acquire the ability to consider the historical factors that led Japan to go to war in the Showa era by proofs.

Before you take a class, you must understand flow of Japanese history.

You must read the textbook and summarize the main points in your notebook, spending 2 hours learnings.

Your grade will be evaluated by exam held in the final class.

HIS100TD（史学/History 100）
日本史概説(春期スクーリング)
安田 寛子
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際化の進展のなかで、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響したといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、そこで生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】

今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本がどういう国なのかということをおよそ自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本のなかに多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいく。これにより、自分たちの国についての理解を深め、ひいては物事の本質を見抜き、判断する力を養うことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形態で実施する。まず江戸幕府の成立過程を概観し、そこから徳川政権の特質について考え、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていく。なお、授業内で課す課題などに対するフィードバックはすべて授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立 1	天下統一と民衆への対応
第3回	江戸幕府の成立 2	武家への対応、朝廷への対応①
第4回	江戸幕府の成立 3	朝廷への対応②、宗教への対応、徳川政権の特質
第5回	幕府法令	触書の形成過程、伝達交付、発令手順、高札とその意義
第6回	慶弔儀礼 1	「鳴物停止令」とその変質
第7回	慶弔儀礼 2	「鳴物停止令」と在日外国人
第8回	慶弔儀礼 3	儀礼における対外摩擦
第9回	近世の村 1	近世の村の特徴と機能
第10回	近世の村 2	法令・史料などから見る近世農村の実態
第11回	近世の村 3	結婚・離婚などから見る近世女性の地位
第12回	宗教と武家・民衆 1	幕府の宗教政策、宗教と民衆との関係
第13回	宗教と武家・民衆 2	宗教と武家・民衆との関係
第14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習は特に必要としない。

ただし、授業開始後の復習は必ず行い、内容を理解出来ているか、毎回きちんと確認すること。

復習および関連の学習時間は、1回につき4時間以上を目安とする。

【テキスト（教科書）】

教科書等は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

児玉幸多・佐々木潤之介編『新版 史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996年）4180円（税込み）

この他の参考図書については、授業のなかで紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすく、ゆつくりと話すように心がける。

【Outline (in English)】

We will discuss the characteristics of the control system that supported the Edo period and the people who lived there, and consider why it became such a peaceful and stable long-term government and why it collapsed.

The goal of this course is to develop the ability to see and judge the essence of things.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the Term-end examination:100%

HIS300TD（史学/History 300）

東洋史特講（東南アジア史）（春期スクーリング）

澁谷 由紀

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：
 授業形態： | 単位数：2単位
 期間：春期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・東南アジア史の特徴を理解すること
- ・東南アジア史の諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) まずそれぞれの時代の概要について解説し、(2) その後、課題となる史料や先行研究を紹介するという形で進めます。課題については、個別にコメントをお返すか、提出していただいた内容の一部を（匿名で）とりあげ、授業中にご紹介します。期末レポートについては、個別にコメントをお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「東南アジア」概念の成立	東南アジアの地域認識
第2回	東南アジア地域の地理的概観	生態的背景
第3回	青銅器文化と初期国家の形成	先史時代から9世紀
第4回	中世国家の展開	10～14世紀
第5回	交易の時代前期	15～16世紀前半
第6回	交易の時代後期	16世紀前半～17世紀
第7回	近世国家群の展開と再編	18～19世紀前半
第8回	植民地支配の進展	19世紀後半
第9回	東南アジア経済の再編成	19世紀後半～1930年代①
第10回	ナショナリズムの勃興	19世紀後半～1930年代②
第11回	第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立	1940年代～1950年代
第12回	冷戦への主体的対応	1950年代半ば～1970年代半ば
第13回	経済発展・ASEAN10・民主化	1970年代半ば～1990年代
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書、新赤版 1883）2021年、岩波書店
 通教テキスト『東洋史特講（南海史）』第1版、河原正博、1978年は使用しません。

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社
 池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社
 その他の参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、期末レポート（60%）
 期末レポートの詳細は別途配布します。
 期末レポートについては第10回の授業が終わるころまでに予定しているテーマと関連する文献を報告していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

レポート作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」(<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>)を参考にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時には「通教 LMS」を使用します。また課題提出のためにワードファイルを作成し、課題をメール添付で送ることができる環境が必要です。

【その他の重要事項】

2022年度春期スクーリングとはほぼ同内容です。

【Outline (in English)】

This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Grades will be based on the written assignments (including final papers and in-class writing assignments).

HIS300TD (史学/History 300)
史学演習（東洋）（春期スクーリング）
宇都宮 美生
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

晋の陸翹の撰による『鄴中記』を講読することにより、中国古代史についての知識を身に付けるだけでなく、東洋史の卒論作成にあたって必要とされる漢文史料の読解能力を養い、関連資料の探し方や使い方を学ぶ。

【到達目標】

『鄴中記』は後趙の石虎の時代の鄴の宮殿や風俗等を記した歴史書であり、比較的平易な文法構造である。したがって、授業では句読点のない原文を用い、訓点、送り仮名、訓読という日本独自の漢文の読み方に習熟し、原文講読に対する基礎的な能力の向上を目指す。また、講読に必要なとされる工具書に関する知識や使い方を学び、使えるようにするだけでなく、考古資料、関連論文等の資料を自分で探し、それを併用して広範囲な意味の解釈をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回担当者に訓読と現代語訳という形で報告をしてもらい、全員でその部分について議論するという形で進めていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの紹介、授業の進め方の説明、工具書の使い方。
第2回	『鄴中記』講読 1	担当者の報告と参加者全員による議論。
第3回	『鄴中記』講読 2	担当者の報告と参加者全員による議論。
第4回	『鄴中記』講読 3	担当者の報告と参加者全員による議論。
第5回	『鄴中記』講読 4	担当者の報告と参加者全員による議論。
第6回	『鄴中記』講読 5	担当者の報告と参加者全員による議論。
第7回	『鄴中記』講読 6	担当者の報告と参加者全員による議論。
第8回	『鄴中記』講読 7	担当者の報告と参加者全員による議論。
第9回	『鄴中記』講読 8	担当者の報告と参加者全員による議論。
第10回	『鄴中記』講読 9	担当者の報告と参加者全員による議論。
第11回	『鄴中記』講読 10	担当者の報告と参加者全員による議論。
第12回	『鄴中記』講読 11	担当者の報告と参加者全員による議論。
第13回	『鄴中記』講読 12	担当者の報告と参加者全員による議論。
第14回	学習のまとめ	学習のまとめ(試験)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、担当者以外にも回答を求めるため、全員予習をしておく。高校での漢文の基礎的な知識があることを前提に授業を進めるため、初心者は基礎的知識に関して自宅学習を求める。授業ではそれを用いて説明をするため、事前に目を通しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

予習と授業中の積極的な参加と予習状況を基準とした平常点(50%)及び期末試験あるいは期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。
既習事項を確実に理解し、同様の文型に応用してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

『漢和辞典』

【その他の重要事項】

写真撮影・録音をすべて禁止する。

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This course introduces an understanding of Chinese History by reading of Old Chinese Literature The aim of this course is to help students acquire reading Chinese Literature and history.

Learning Objectives: The goals of this course are to read old Chinese texts, to learn the knowledge and usage of various tools required for reading and to search for archaeological materials, related papers and other materials.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (50%) and term-end examination or report (50%).

HIS200TD（史学 / History 200）

西洋史概説(春期スクーリング)

竹下 和亮

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。本年度は、とくにこれまでまとめて言及されることの少ない重要なヨーロッパの小国（ベネルクス、北欧諸国、スイス、バルト三国など）に焦点を当てる予定である。

【到達目標】

中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

王家の系図と年表を詳細に検討しながら、講義をします。質問は、授業内、授業終了後、通教 LMS などいつでも受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。授業の内容と日程は、受講の関心等により多少変更されることもあります。授業内容の順番は適宜変更されることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	時代区分と主要な概念
第2回	ローマ帝国の崩壊とゲルマン諸王国の成立	フランス王国、ドイツ王国、イタリア王国の成立
第3回	ベネルクス諸国の歴史 I	オランダの歴史 I
第4回	ベネルクス諸国の歴史 II	オランダの歴史 II
第5回	ベネルクス諸国の歴史 III	ベルギーとルクセンブルクの歴史
第6回	北欧諸国の歴史 II	デンマークの歴史
第7回	北欧諸国の歴史 II	スウェーデンの歴史
第8回	北欧諸国の歴史 III	ノルウェーの歴史
第9回	北欧諸国の歴史 IV	フィンランドとアイスランドの歴史
第10回	スイスの歴史	スイスの歴史
第11回	バルト三国の歴史 I	エストニアとラトビアの歴史
第12回	バルト三国の歴史 II	リトアニアの歴史 I
第13回	バルト三国の歴史 III	リトアニアの歴史 II
第14回	まとめ	ヨーロッパの小国と世界の歴史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメと資料を配布します。

【参考書】

百瀬宏『小国一歴史にみる理念と現実』岩波現代文庫、2022年

【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）
人文地理学演習(春期スクーリング)
前畑 明美
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島は1万5千余の島々から構成され、そこでは太古から多様な島々を舞台に、相互補完の沿岸交易によって社会的ネットワークが立ち上げられてきました。この多島海における島々の社会的ネットワークのあり様は、人間社会の盛衰とも密接に関わっています。今回講読していくのは近年に出版された『日本ネシア論』であり、動態的な島々の姿を捉えた「日本ネシア」という新しい概念が登場しています。また、日本の島々が12のグループに区分され、様々な島の事例が考察されています。本書の読解と全体議論を通して、日本列島の社会システムについて理解を深めていくことを目指します。スクーリング終盤では、受講者による論文紹介や研究テーマの発表など、卒業論文を見据えたトレーニングを行います。

【到達目標】

まずは説得的なレジュメを作成すること、テキスト内の大切なポイントや問題点を的確に捉え、議論を重ねた上で根拠ある見解を確立していくことを目標としたいと思います。また、海と島々の融合的空間についての認識を深め、そこで生起する諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることも本演習の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・オンライン授業とし、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行う予定です。
- ・初回時に講読書の分担箇所を決定し、第2回からは担当者による発表と、出席者全員での議論を中心に、解説を加えながら授業を進めていくこととします。論文紹介や研究テーマの発表についても同様といたします。
- ・課題（最終日に提出いただくレポート）については、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。
- ・履修や授業に関するご質問は、授業の前後や通教LMSにてお伺いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、「海と島」「島嶼地理学」について	授業の概要とテキストの説明、担当箇所の割り振り、重要事項の説明
第2回	テキストの講読 (1)	担当箇所の発表、および議論
第3回	テキストの講読 (2)	担当箇所の発表、および議論
第4回	テキストの講読 (3)	担当箇所の発表、および議論
第5回	テキストの講読 (4)	担当箇所の発表、および議論
第6回	テキストの講読 (5)	担当箇所の発表、および議論
第7回	テキストの講読 (6)	担当箇所の発表、および議論
第8回	テキストの講読 (7)	担当箇所の発表、および議論
第9回	テキストの講読 (8)	担当箇所の発表、および議論
第10回	テキストの講読 (9)	担当箇所の発表、および議論
第11回	卒論トレーニング (1)	地理学関連論文の紹介、および議論 (1)
第12回	卒論トレーニング (2)	地理学関連論文の紹介、および議論 (2)

第13回	卒論トレーニング (3)	研究テーマの発表、および議論 (1)
第14回	卒論トレーニング (4)	研究テーマの発表、および議論 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ事前にテキストを入手し、一通り目を通しておくこと。各回の授業では、発表・議論を踏まえて自身の知識や意見を補足・修正していくことにご注力ください。

【テキスト（教科書）】

長嶋俊介編著（2019）：『日本ネシア論』藤原書店 ¥4,200 + 税
山口不二雄著（1992）：『地理調査法（人文編）』法政大学通信教育部

【参考書】

参考文献は初回時をはじめ授業内で随時紹介していきますが、ぜひ授業前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる島関連の一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。

- ・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳（2018）：『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局 ¥4,400 + 税
 - ・田辺悟（2015）：『島』法政大学出版局 ¥3,200 + 税
- 法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

【成績評価の方法と基準】

レジュメ・発表・議論の内容50%、レポート50%（最終日に提出）。レジュメの作成や発表、議論への参加など、積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を設けながら、ぜひ双方向的な学びをしていただける機会としていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にてZoomを使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況をご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

The Japanese archipelago is made up of more than 15,000 islands. From time immemorial, social networks have been established between the various islands through mutually complementary coastal trade. The state of the social network of islands in this archipelago is closely related to the prosperity and decline of human society. This time, we are going to read "Nihon-nesia-ron" which was published in recent years. In this book, a new concept "Nihon-nesia" that captures the dynamics of the Japanese archipelago appears, and the Japanese islands are classified into 12 groups and various island cases are considered. In this course, we aim to deepen our understanding of the social system in the Japanese archipelago based on reading comprehension and overall discussion of this book. In addition, at the end of the schooling, we provide training that focuses on the graduation thesis, such as introducing the thesis and presenting the research theme by the students.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :

in class contribution : 50%, term-end reports : 50%

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

地理情報システム(GIS) (2) (春期スクーリング)

沼尻 治樹

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理情報システムの発達とともに、専門的な商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで地理情報の高度利用が行われてきただけでなく、地理情報の「見える化」がWebGISなどを通じて日常生活に普及してきた。そこで本授業では、講義と実習、課題を行いながら基本的な地理情報の種類・構造、分析の理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

地理情報システムの基礎を学び、地理学的課題のみならず社会的課題に対して有効なツールとして地理情報システムを活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、地理情報システムに初めて触れる受講生に合わせて、まず地理情報システムの構造や考え方、地理情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーションソフトウェア、データを使用して授業を進める。

受講者からの質問やコメントの重要なものについては、授業内で取り上げ、受講者全体にフィードバックする。

オンライン実習となった場合、各自で実習環境を構築する必要がある。実習用に用意した各自のパソコンに、GISアプリケーションを自身でインストールする。実習は、Windows環境を想定している。GISの実習であるので基本的なWindowsの操作についてはフォローしない。また、MAC、Linux環境での受講も認めるがトラブル時に十分なフォローができるか保証できない。Windowsは32ビット、64ビットを問わないが、パソコンのスペックによってはデータ処理に時間がかかってしまう可能性もある。オンラインによる実習では、LMSを用いた資料の配付・課題の提出を実施する。また実習内容などについては、配付資料と動画配信にて解説する。

実習回ごとに、課題の提出と出席確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システムとは何か 地理情報システムアプリケーションに触れる	地理情報システムについて構造やデータについて説明する
第2回	地理情報データのマッピング	地理情報システムアプリケーションでデータを表示しレイアウトを変更する
第3回	地理情報データと統計データ	統計データが入力されたベクタ型地理情報データを扱う
第4回	地理情報データの統計演算 (1)	ベクタ型地理情報データに統計データを新規追加する
第5回	地理情報データの統計演算 (2)	ベクタ型地理情報データに入力された統計データの変換・演算を行う
第6回	地理情報データの統計演算 (3)	属性データの演算とグラフを表示させる

第7回	数値標高モデル (DEM) による地形解析	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第8回	地物の取得	地理院地図を使いながらラインデータやポリゴンデータの自作やGNSSを用いた位置情報の取得と表示を行う
第9回	地理情報解析の実践 (1)	空間内挿を行い地理情報の推定を行う
第10回	地理情報解析の実践 (2)	ベクタ型地理情報データの加工の基礎
第11回	地理情報解析の実践 (3)	ベクタ型地理情報データのCRS変換・ジオメトリの解析と集計
第12回	地理情報の分析と考察 (1)	課題に対して地理情報を選択する
第13回	地理情報の分析と考察 (2)	地理情報の処理を行う
第14回	地理情報の分析と考察 (3)	処理した地理情報から考察を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を用いて事前学習を行い、授業後には復習・自習を行って実習内容の確認または課題を行う。それぞれ2時間を目安とする。

また、この授業ではパソコンを利用する。Windowsによるパソコンの操作方法は解説しないので、受講生は基本操作が十分出来ることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを使用する。

【参考書】

「地理情報学入門」(野上道男ほか、東京大学出版会、2001年)
「国土を測る技術の基礎 ―地理空間情報技術者を目指す人のために―」(高木方隆、(公社)日本測量協会、2018年)(改訂第2版)
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、レポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に地理情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点として出席点が30%と小課題点が30%、レポートが40%である。

小課題点は、実習ごとに提出する課題であるが、提出物の完成度は問わない。

【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また地理情報システムの知識と技術を同時に身につけることを目指している。さらに、地理情報システムの社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起らないようにしている。

資料はなるべく丁寧に作成するよう心がけているが、受講学生の習熟度を上げるため、シラバス前半は細かに手順を記載するが、後半は実習済みの内容については省略して手順を記載する。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では電算室を利用する。またネットワークを用いて資料の配付や課題の提出も行うので、USBメモリなどの外部記録装置を各自用意して欲しい。私物のノートパソコンで実習を行ってもよい。またオンラインになった場合は、各自で実習用のパソコンを用意することになる。また資料の配付や提出物の回収はLMSを用いるのでオンラインに対応できるネットワーク環境も必要になる。

【その他の重要事項】

この授業では、講義・実習を通して地理情報システムの理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーション、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

Windowsの基本操作が十分できることが望まれる。

オフィスアワーは授業の前後、また、質問はメールでも受け付ける。

【Outline (in English)】

The purpose of this lesson is to understand the geographic information

system and learn the spatial analysis method. We learn the structure and analysis method of geographic information data from lecture and practical training. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
財政学A / I（春期スクーリング）
天利 浩
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府の活動が資源配分や人々の幸福度に与える影響を評価するため、経済学の手法を学ぶ。多くの経済活動が市場を通して行われ、社会の資源が有効に使われている。しかし公害問題や公共財の市場に関しては、政府が資源配分を是正する必要がある。また、景気悪化の際には、政府は財政政策を実施し、景気を安定化する。さらに政府は累進的な所得税などを通して所得再分配を行う。基本的な経済モデルを学び、個別の市場に対する政府の介入の効果、政策が個人の選択に与える影響、財政収支と政府債務との関係などを分析する。学生は、経済モデルを様々な場面に応用することで、政策効果が発現する理由を理解できるようになる。

【到達目標】

市場における資源配分を是正するため、政府が果たすべき役割を理解し、政府が取るべき対策を提言できる。公共財の市場では、政府が適切な公共財の数量を提供することが難しい事情を説明できる。税制のあるべき姿を学び、現実の税制の問題点を指摘できる。課税が個人の行動に与える影響や、最終的に誰が税を負担するかをグラフで分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を行う。

グラフや簡単な数式を使って、ミクロ経済学の経済モデルを学習し、それらのモデルで財政学に関する分析を行う。宿題は採点して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財政学とは、政府の三機能、政府の規模	財政学についての案内、政府の3機能（資源配分、所得再分配、景気安定化）
第2回	日本の財政制度 政府部門、一般会計予算	一般政府の定義、政府の諸活動
第3回	予算制度	財政民主主義、予算の原則、予算編成、決算
第4回	市場の機能	生産者余剰、消費者余剰、社会的余剰 部分均衡分析による余剰分析
第5回	公共財（公共財の性質、最適供給）	排除不可能性、非競合性、ただ乗り問題、公共財の最適供給
第6回	外部性	ピグー税、コースの定理
第7回	租税の基礎理論（租税の分類、租税原則、租税の帰着）	租税三原則、直接税と間接税、課税ベース（所得課税と消費課税）
第8回	個別物品税の効果	個別物品税がもたらす非効率性、価格弾力性
第9回	最適消費	無差別曲線、予算制約線、所得効果と代替効果

第10回	超過負担、労働所得税の効果	超過負担、無差別曲線を使った労働所得税の分析、所得控除と税額控除
第11回	資産課税	利子所得税の効果（無差別曲線による分析）、ロックイン効果
第12回	財政収支	基礎的財政収支、構造的財政収支、循環的財政収支
第13回	財政の持続可能性	ドーマー命題、予算制度と政府債務
第14回	公的年金	賦課方式と積立方式、公的年金の経済効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

財政学あるいは公共経済学の標準的な内容を講義するので、教科書で予習する。その後、講義で経済分析を学ぶと、経済分析を理解できるようになるはずなので、確かに経済分析の部分まで理解できているか確認する。復習では、経済モデルのグラフを自分でノートなどに描き、自分自身に説明するようにする。学生の自習は、準備時間2時間、復習時間2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『財政学15講』麻生良文、小黒一正、鈴木将寛著、新世社、2018年 2350円＋税 ISBN978-4-88384-269-8
<https://www.hosei.ac.jp/library/shien/syllabus.html>

【参考書】

『図説日本の財政』各年度 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

提出課題25%、期末試験75%。

政策の効果をグラフで表し、文章で説明できることが重要。限界費用と限界便益を比較することにより、個人にとって最適な数量や、社会的にとって最適な取引量を分析できる。財政学および経済学の基本的な概念を正確に理解する。日本の財政や税制の現状をそれらの概念を使いながら説明できる。

【学生の意見等からの気づき】

受講や予復習がしやすいように心がけます。

【Outline (in English)】

Economic analysis is used to evaluate the effects government activities have on the resource allocation and the social welfare. Three major roles of the government are resource allocation, income redistribution and stabilization. Students will be expected to learn what the government should do for the society. They will be able to analyze how the government activities affect the decision making of people and whether they can improve the efficiency of the markets. Students should spend four hours of study for each class. Students will be quite familiar with basic economic analysis of demand and supply curves and optimizing behaviors of firms and consumers. Keeping abreast of the current state of the public sector is another requirement. The overall grade will be based on assignments (25%) and the final exam (75%).

ECN200TF（経済学/Economics 200）
経済学特講(春期スクーリング)
金子 憲
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。

【到達目標】

市場の動きや政府の役割についての理解を深めるとともに、政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要
第2回	市場の失敗	公共財の理論
第3回	市場の失敗	外部性、ピグー税、コースの定理
第4回	市場の失敗	公共部門による所得再分配政策
第5回	市場理論	市場均衡の数学的分析
第6回	市場理論	余剰分析と政策効果
第7回	市場理論	課税のミクロ経済分析
第8回	消費者理論	無差別曲線と効用最大化
第9回	消費者理論	予算制約下での効用最大化
第10回	消費者理論	異時点間の最適消費選択モデル
第11回	情報の経済学	「情報の非対称性」による市場の失敗
第12回	情報の経済学	アカロフ「レモンの原理」
第13回	情報の経済学	スペンス「シグナリング理論」
第14回	総括	講義のまとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の重要論点をまとめる。問題演習を通して講義内容の理解を深める。本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてレジユメ等を配布する。

【参考書】

講義の際、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）の結果によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、本年度新規科目である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course presents theory of microeconomics, focusing on various policy issues that current Japan faces. At the end of the course, students are supposed to be familiar with the status of the policy discussions in Japan.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講[商社活動とCSR I](春期スクーリング)
小林 一夫
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業の社会的責任〔CSR〕に基軸をおいた健全なビジョンに基づく事業活動をおこなうことが、今日の企業の経営には必須です。社会的責任と企業経営の観点から、日・米・欧における「企業の社会的責任」の歴史を概括します。次に、SDGs、サステナビリティ・トリプルボトムライン・ESG等の考え及び企業とは・会社とは何かについて整理し、グローバル活動を前提にする総合商社等の具体的事例を紹介しつつ、基本的な見方とあるべき問題意識を持てる様になります。

【到達目標】

「企業とは何か」につき基本的な知識を得、理解できるようにします。企業としての立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、また、サステナビリティ・CSR・CSV・ESG・SDGs・トリプルボトムライン等概念の基本を把握します。企業活動と「企業の社会的責任」について、普遍の見方ができるようにします。そのうえで、グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び事業活動の本質について基本的な理解を深められるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業の際は、講義と、双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について考えたことや疑問点などの提出をもとめることを組み合わせて進めます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。企業とは何か「社会的責任」「グローバル社会」「地球環境」などテーマごとに、様々な見方や考え方があり得ます。自ら調べ考えたことを提出することで、理解を深められるように学習します。初回-第3回は「企業とは何か」について学習します。第6回-7回目、三井物産サステナビリティ・レポート等を参照し進めます。オンライン授業に移行した際には、Zoom形式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任」(CSR)、イントロダクション	ガイダンス

第2回	総合商社と「企業の社会的責任」その①	企業とは、また会社とは何かにつき、学習します。本邦企業の実業の観点からの見方と、企業の社会的責任について、基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」まえがき、序章、第1-2章、あとがき
第3回	総合商社と「企業の社会的責任」その②	総合商社の事業活動を題材に企業の社会的責任（CSR）について基本的知識を得ます。
第4回	総合商社と「企業の社会的責任」その③	企業の社会的責任（CSR）について基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりからCSRをとらえます。SDGs、ESG、CSR、CSV、サステナビリティ、トリプルボトムラインについて理解に努めます。ステークホルダーとは何か、理解に努めます。
第5回	コーポレート・ガバナンスと内部統制	企業経営の基軸であり且つCSR経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制について、概念の基本を理解します。企業経営の枠組みについて基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第4章
第6回	内部統制の構築	実際に内部統制の確立と浸透を図る際、大規模な企業ではどのように実践しているか、総合商社活動の実際の例から基本的知識を整理し得るようにします。
第7回	コンプライアンスその①	コンプライアンスとはなにか、総合商社の現場における対応について基本的知識を得ます。
第8回	コンプライアンスその②	コンプライアンスの概念についての基本的な知識を得、整理できるようにします。大規模な企業における不祥事の本質について考察し、あるべき対応につき理解を深められるように努めます。
第9回	リスク・マネジメント、事業リスク、環境・CSRリスクへの対応	環境・CSRリスク、事業リスク等総合商社の現場におけるリスク管理の考え方と、対応について、又、「リスクとは何か」について基本的知識を得ます。「第三版 商社活動と企業の社会的責任」第6章
第10回	マネジメント・システムとは	ISO14001環境、ISO26000社会的責任ガイダンス規格などマネジメントシステムについて基本的理解ができるようになります。
第11回	内部監査概論	事業活動全般を対象とする内部監査の実践が大規模な企業では必須とされます。内部監査について基本的理解ができるようになります。
第12回	企業の社会的責任（CSR）の観点から人権と労働慣行について	企業の社会的責任の観点から、人権と労働慣行についての基本的知識を得ます
第13回	「企業の社会的責任（CSR）」の観点から、気候変動問題へのありべき対応と考え方について	パリ協定を踏まえ、「企業の社会的責任」の観点から、気候変動問題への認識とあるべき対応について基本的な知識を整理し得るようになります。

第14回 総合商社の企業活動と「企業の社会的責任(CSR)」[まとめ] グローバル活動が前提の事業運営と企業経営について概括し、「企業の社会的責任(CSR)」についての理解を深められるようにします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週の授業テーマについて、あらかじめテキストを読み疑問点などを整理しておくようにして下さい。また、日経新聞等をグローバル経済把握のため、読むようにして下さい。その日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。

本授業外の準備・復習時間は、少なくとも4時間/週とるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

指定教科書「第三版 商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破滅につながる) (図書文化社、小林一夫著、2021年10月1日刊、第3版、1,600円+税)

気候変動対応等資料等改訂を加えた第三版を使うようにして下さい。

【参考書】

講義時に、必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：70%

平常点：30%

その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気づきにつながるものは、加点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

効果的に講義を受講できるよう、テキスト(教科書)を使います。「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

【学生が準備すべき機器他】

教室授業で必要に応じスクリーン・DVDを使い講義を進めます。

【その他の重要事項】

受講者は日経新聞等を読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。

【Outline (in English)】

Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. From the viewpoint of social responsibility and corporate management, we outline the history and current situation of "corporate social responsibility" concepts in Japan, as well as in the USA, and Europe. We also learn basic concepts of SDGs, Sustainable Development, triple bottom line, ESG and so forth.

We will learn what a company is and what it should be. In addition, we will learn typical business activities of General Trading Firms (Sogo-Shosha), their management, and the basic idea of risk avoidance.

Students will strive to study by themselves, think logically, compose reports, and learn how to communicate their ideas in their own words, with confidence.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
簿記Ⅲ（春期スクーリング）
市川 佳功
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日商簿記検定2級レベルを意識した商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定2級では商業簿記と工業簿記の双方の知識が要求されますが、簿記Ⅲでは商業簿記のみを学習します。実際の日商簿記2級検定試験では、連結財務諸表が出題範囲に含まれるようになりましたが、授業実施回数に制限があることから、この講義では連結財務諸表の学習は省略します。他方、2級よりレベルの高い内容もいくつか取り扱っていきます。

【到達目標】

学習範囲について正確に仕訳ができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学, 会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次の授業の冒頭で紹介し前回授業の復習となり理解が深まるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財務諸表 商品売買	財務諸表の様式 一般商品売買と3分割法の意味
第2回	税金・当座勘定照合表	費用になる税金と費用にならない税金の会計処理 貸借対照表上の当座預金勘定残高の確定方法
第3回	手形取引1	自己宛為替手形 自己指図為替手形 手形の裏書
第4回	手形取引2	手形の割引 不渡手形 クレジット売掛金 電子記録債権・債務
第5回	有価証券	有価証券の4つの保有目的と有価証券の期末会計処理
第6回	固定資産	有形固定資産・無形固定資産の会計処理
第7回	繰延資産	繰延資産とは何か、繰延資産の会計処理
第8回	社債の発行とその他負債	企業の資金調達手段としての社債の発行とその他の負債
第9回	引当金1	引当金とは 貸倒引当金 商品保証引当金 修繕引当金
第10回	引当金2	売上割戻引当金 役員賞与引当金 退職給付引当金
第11回	純資産	資本金・資本準備金の増加 剰余金の処分

第12回	決算手続	決算手続きの全体像
第13回	本支店会計1	支店独立会計制度
第14回	本支店会計2及び期末試験	本支店合併財務諸表 支店純損益の本店帳簿への反映 時間中に期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

市販されている日商2級レベルの問題集をたくさん解いてください。簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

神谷健司 市川佳功『簿記Ⅲ』法政大学通信教育部

【参考書】

渡部裕巨/片山覚/北村敬子編著『検定簿記講義2級商業簿記』（2022年度版）中央経済社850円＋税 授業開講前に新版が出るかもしれません。ただし、当該書籍は指定テキストと収録内容が一致しているわけではありませんので、その点ご注意ください。

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100%）を行います。

【学生の意見等からの気づき】

仕訳の意味が分かるように丁寧に説明します。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn Commercial Bookkeeping of Nissho Bookkeeping Test Level 2. However, consolidated financial statements are excluded.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
監査論 I（春期スクーリング）
市川 佳功
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が公表する財務諸表に対する監査の必要性、監査制度、監査手続がテーマです。財務諸表は企業が作成する自社の活動結果についての報告書であり、その企業に関心をもつ者（利害関係者）にとっては企業の状況を理解するためのほとんど唯一の情報源です。もし、財務諸表が適正に作成されたものでなければ企業に対する利害関係者の判断を誤らせてしまいます。そこで、公認会計士または監査法人が財務諸表の適正性をチェックする監査が重要な役割を果たします。「監査論 I」では、監査を理解するための導入部分として、財務諸表監査とは何か、我が国の監査制度、監査手続について学習していきます。

【到達目標】

授業で学習した基礎概念と監査制度についての理解をとおして、財務諸表監査が有する機能とその限界について自ら考察するための基礎知識を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次回の授業の冒頭で紹介し前回授業の復習及び理解に厚みが出るようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業会計と財務諸表 1	監査の対象である財務諸表を理解
第2回	企業会計と財務諸表 2	財務諸表作成の基礎となる会計のルールを紹介
第3回	財務諸表監査の制度化	監査の必要性と制度化の必要性
第4回	会社法監査制度 1	会社法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第5回	会社法監査制度 2	株式会社の機関構成と監査との関係
第6回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第7回	監査規範としての監査基準	監査基準の性質と必要性
第8回	一般基準 1	専門的能力、公正不偏の態度と独立性、正当な注意、重要な虚偽表示の可能性、監査計画、監査調査
第9回	一般基準 2	監査の品質を維持するための制度
第10回	内部統制	財務諸表監査と内部統制の関係
第11回	要証命題と経営者の主張	財務諸表監査特有の概念である経営者の主張とは
第12回	監査証拠	監査証拠の種類と証拠力
第13回	監査手続	具体的な監査の技術を学ぶ

第14回 中間監査基準と四半期レビュー基準
期末試験 「監査基準」とは異なる監査のルールを紹介する授業。中に期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論 九訂版』同文館出版 3,800円＋消費税

【参考書】

蟹江 章/井上 善弘/栗濱 竜一郎【編著】『監査論スタンダードテキスト（第6版）』中央経済社 4,800円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100%）を行います。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を多用することなく、丁寧な説明をしていきます。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn accounting audit theory conducted by CPA. The main learning content is the necessity of audit, audit system, audit procedure.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営管理論 I（春期スクーリング）
松本 潔
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営管理論 I においては、経営管理の基礎的な理論を取り上げ、それらを解説していく。春期の講座では、伝統的管理論としての F. W. テイラーの「科学的管理法」、アンリ・ファイヨールの「管理過程論」などをとりあげる。また、続いて E. メイヨー、F. J. レスリスパーガーの「人間関係論」、そして「行動科学（組織行動論）」として認識される、C. アージリス、D. マグレガーなどの「近代的モチベーション論」を取り上げ、それらの理論の有する意味・意義を現在の状況に合わせて読み解いていく。

【到達目標】

- ・経営管理の伝統的理論および行動科学の学説の意義を理解することができる。
- ・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、企業などの経営管理活動の実際を、映像資料などを活用して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および経営管理の理論的変遷を考察する。
第2回	伝統的管理論 I	「科学的管理法」の理論的意義 (F. W. テイラー)
第3回	伝統的管理論 II	「管理過程論」の理論的意義 (アンリ・ファイヨール)
第4回	伝統的管理論の実際	伝統的管理手法が与えた影響と課題
第5回	人間関係論	前期人間関係論の理論的意義 (E. メイヨー & F. J. レスリスパーガー)
第6回	人間関係論の実際	前期人間関係管理手法が与えた影響と課題
第7回	行動科学 I（モチベーション理論）	心理学的アプローチとパーソナリティの成熟理論 (A. H. マズロー、C. アージリス)
第8回	行動科学 II（モチベーション理論）	Y理論による企業の人間的側面理解 (D. マグレガー)
第9回	行動科学 III（モチベーション理論）	動機づけ・衛生理論によるモチベーション・アプローチ (F. ハーズバーグ)
第10回	モチベーション理論の実際	近代的モチベーション手法が与えた影響と課題
第11回	行動科学 IV（リーダーシップ理論）	システム 4 の参加型リーダーシップ論 (R. リカート)
第12回	行動科学 V（リーダーシップ理論）	リーダーシップの形態理論（三隅二不二、R. R. ブレーク & J. S. ムートン）
第13回	リーダーシップ理論の実際	近代的リーダーシップ手法が与えた影響と課題

第14回 経営管理論 I 総括 & 経営管理論 II への展望および授業時間内の定期試験

これまで学習してきた経営管理の諸理論の振り返り、秋期の経営管理論 II を展望し、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくとう理解が促進される。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布されるプリント教材を使用する。

【参考書】

各授業スケジュールごとに適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、教室内での定期試験（70%）および平常点（30%）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年のアンケートからは、できる限り実際の企業事例を経営管理の理論や学説とを関連づけながら、その理解をいかにして深めることができるかに改善の努力を傾けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません

【Outline (in English)】

Basic theory of business management is taken up and explanation is being added at this session. I have for my object to take up traditional management theory (scientific management and management process theory), theory of human relations and behavioral science (modern motivation theory and modern leadership theory) etc. by this term and acquire those theory as knowledge.

MAN200TG（経営学 / Management 200） 経営学特講[サービス・マーケティング](春期スクーリング)
松本 潔
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経営学特講として、経営学におけるマーケティングの領域、特にサービスのマーケティングに焦点を合わせてその基礎的な理論を学習する。具体的には、企業の営業活動におけるサービスという行為の位置づけを理解するとともに、そこに必要とされる理論的な知識を習得することを本講義の目的とする。なお、サービス・マーケティング学習の理解促進のために、企業における営業活動におけるサービス活動やサービス商品の具体的な取り組み事例の研究も取り上げながら解説を加えていく。

【到達目標】

- ・現代の消費社会におけるサービスのあり方およびまたそのマーケティングの手法を習得することができる。
- ・具体的な事例を通じてサービス・マーケティングの思考（考え方）を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、企業におけるサービス・マーケティングの活動の実際を、事例研究として映像資料などを活用しながら解説を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の概要、進め方、などについて確認を行う。また、企業におけるマーケティングにおけるサービスの位置づけ解説を行う。
第2回	サービス化社会について	・消費者の価値観の変化とその多様化についての理解を深める。また、現代社会におけるサービス化の進展とその要因の把握に努める。
第3回	商品としてのサービス	・サービスの意味と私たちの体験事例についての検討を行いながら、サービス商品の特徴について理解を深める。
第4回	サービス商品・活動の創出	・サービス商品とモノ商品の違いについての検討を行い、サービス商品の構成要素について理解を深める。また、企業や店舗における接客態度とその基本原則について習得する。

第5回	サービス活動・商品のケース・スタディ①	・企業、特に製造業におけるサービス活動・商品のケース・スタディを取上げ、サービス活動・商品における顧客ニーズ把握の重要性の理解を深める。
第6回	顧客ニーズの捉え方	・サービスが顧客にもたらす影響と従業員の役割の重要性の理解を深め、顧客ニーズの捉え方を改めて確認する。
第7回	サービスの分類と構成要素	・サービス活動・商品の分類方法がどのようになされるかを理解し、さらにサービスの構成要素の分類を学習する。
第8回	サービスの品質	・サービスの品質保証の重要性について学習し、その特徴や基準の理解を深める。
第9回	顧客ニーズ・価値実現のための組織のあり方	・顧客ニーズと価値実現を達成するための企業の組織体制のあり方について検討を加え、その理解を深める。
第10回	サービス・マーケティング・ミックス	・サービス活動・商品の開発の具体的な方法論としての「サービス・マーケティング・ミックス」の概念を学習し、その理解を深める。
第11回	サービス活動・商品のケース・スタディ②	・企業における配達サービス活動・商品のケース・スタディを取り上げ、現場にどのような仕組みが創意工夫されているかを理解する。
第12回	サービス・コンセプトの構築	・サービス・マーケティング・ミックスおよびサービス・コンセプトとの関連性を検討し、その重要性の理解を確認する。
第13回	サービス・マネジメントの構築およびサービス活動・商品のケース・スタディ③	・サービス・マネジメント・システムの構成要素とサービス・コンセプトの構築について検討する。また、宿泊業におけるケース・スタディを取上げ、リレーションシップ・マーケティングの理解を深める。
第14回	「サービス・マーケティング」のまとめ、および授業時間内の定期試験	・サービス・マーケティングについての振り返りと総括を行い、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において使用したテキストおよび配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求されます。また、事前に各授業のスケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくことにより、学習の理解が促進されます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『サービス・マーケティング（第2版）』、近藤隆雄、生産性出版、2010年。（2500円＋税）、および授業時に配布されるプリント教材

【参考書】

各授業スケジュールの回数ごとに適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、教室内での定期試験（70%）および平常点（30%）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度からのアンケートからは、サービス・マーケティングにおける理論と実際の企業事例との関連性を詳しく解説することが望まれる意見があり、その改善の努力をしていきたいと思えます。また、企業の事例を取り上げる際に、時代的に新しい事例を紹介することも検討していきたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

In this lecture, as a special lecture on business administration, we will focus on the field of marketing in business administration, especially the marketing of services, and learn the basic theory. Specifically, the purpose of this lecture is to understand the position of the act of service in the business activities of a company and to acquire the theoretical knowledge required there. In addition, in order to promote understanding of service marketing learning, we will add explanations while taking up research on service activities and specific efforts of service products in sales activities in companies.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講[ロジスティクス論](春期スクーリング)
恩田 登志夫
カテゴリー：春期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロジスティクスは、経営戦略の一つであり、企業成長を図るうえで重要なシステムです。したがって、最近の企業では、調達・生産・物流システムの有機的連携を図った事例が多く見られます。これらの事例を通して、これまでの物流の概念とは異なるロジスティクスの概念を学ぶことができます。

【到達目標】

授業の終了時には、以下のことが修得できる。

- ①ロジスティクスは経営戦略であることを説明できる。
- ②収益性劣化率の計算式を使用して、どの輸送手段が最善なのか判断できる。
- ③ロジスティクスの重要性についてレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な授業のほかに、統計資料や写真等を採用し、理解しやすいように工夫して授業を勤めます。さらに、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジスティクスの概要	ロジスティクスの定義 棚卸資産粗利益率の考え方
2	ロジスティクスと物流の相違	ロジスティクス管理 物流管理
3	物流管理の問題点とABC分析手法	物流管理の問題点 ABC分析
4	ロジスティクス管理手法（1）	収益性劣化率の概要 収益性劣化率の計算
5	ロジスティクス管理手法（2）	収益性劣化率の利用事例
6	ロジスティクス管理手法（3）	収益性劣化率から輸送手段の選択手法 海上、国際複合、航空輸送
7	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（1）	仕出し弁当企業の事例紹介
8	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（2）	仕出し弁当企業の調達、製造、配達システムの概要
9	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（3）	仕出し弁当企業と他企業との企業分析比較
10	自動車メーカーの生産システムの概要	自動車メーカーの販売・生産計画策定 自動車メーカーの部品調達システム

11	自動車メーカー物流システムの概要	自動車メーカーの物流システムの概要 ミルクラン輸送 中継地物流
12	ロジスティクスの類型	1 PL, 2 PL, 3 PL, 4 PLの相違と具体例
13	3PLの現状と課題	3PL市場規模 3PL企業動向の特徴 3PLビジネスの課題
14	3PL事業の事例研究	国際物流事業者による3PL事業への取り組みの現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前にテキストを確認して要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要なパワーポイントのスライドを提供する。

【参考書】

自前テキストを提供する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業により、学生と直接触れることがなくなり、授業の理解度について確認できずにいたが、学生とメールで連絡を取れることになり、随分解消されたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】

Logistics is one of the management strategies, and it is an important system to promote corporate growth. Therefore, recent companies often see examples of organically coordinating procurement, production, and distribution systems. Through these examples, we can learn the concept of logistics different from the concept of physical distribution so far.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習[貿易概論](春期スクーリング)

恩田 登志夫

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル経済が進展すると海外との貿易取引が活発になります。米国と中国の貿易戦争のように保護主義の主張とTPPのように貿易を活発化させる取組みも進展しています。この講義では、貿易取引の基礎的な物の流れやお金の流れを理解することにより、貿易ビジネスの実態を学ぶことができます。

【到達目標】

貿易取引に関する国際ビジネスの観点から国際物流、輸出入通関に関する基礎的知識を習得することができる。さらに、秋期スクーリングにて開講される国際物流を履修することにより、国際流通全般を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な授業のほかに、統計資料や写真等を採用し、理解しやすいように工夫して授業を勧めます。さらに、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全般の説明と貿易取引の全体像の理解	貿易取引と国内取引の相違
2	日本の貿易の現状	日本の貿易収支 産業組織の変化 輸出入の流れ
3	貿易取引全体の理解	貿易取引のしくみ 貿易取引と関係機関 貿易取引の種類
4	貿易保険	貨物海上保険 貿易保険 製造物賠償責任保険（PL保険）
5	貿易取引契約条件	取引交渉の全体像 各種取引条件
6	貿易条件とトレードタームズ（1）	インコタームズ2000と インコタームズ2010の比較
7	貿易条件とトレードタームズ（2）	インコタームズの具体例 FOB, CFR, CIF等
8	取引一般条件	取引一般条件と契約書の概要 ウィーン売買条約の概要
9	貿易代金決済	信用状決済の概要と仕組み
10	通関手続きと関税	通関制度の概要 AEO制度の概要 保税制度の概要
11	貨物輸送と船積書類（1）	海上貨物の船積み手続きの概要
12	貨物輸送と船積書類（2）	航空貨物の積み込み手続きの概要

- 13 貨物輸送と船積書類（3） 国際複合輸送の概要と国際複合輸送の国際ルール
- 14 貿易書類の概要 インボイス
バックングリスト
船積依頼書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。

復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時に自前テキストを配布いたします。

【参考書】

『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

『ジェットロ貿易ハンドブック』ジェットロ、2022年、1650円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】

毎回、熱心に講義を聴講している学生が多く、質問等も適切な内容が多かった。質問を受けた件で、講師からの回答に時間がかかるケースもあったが、学生に要望に応えられるように講義の質を高めていきたい。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

航空会社に約20年勤務していたことから、貿易と国際輸送に関する内容において実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】

Trade transactions with overseas will become active as the global economy progresses. As in the trade war between the United States and China, protectionism advocacy and efforts to activate trade like TPP are progressing as well. In this lecture, you will be able to learn the realities of trading business by understanding the flow of basic trade transactions and the flow of money.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

CUA100TA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100）
文化人類学（ゴールドデンウィークスクーリング）
ベル 裕紀
カテゴリー：ゴールドデンウィーク 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキーから現代までの文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付ける。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後には毎回リアクションペーパーの提出を課す。回答は次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と構造	ソシュールの構造主義言語学を踏まえた上で、レヴィ＝ストロースの構造主義人類学について、彼独特の概念である「記号」と「変換」を中心に学習する。
第七回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。

第八回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十回	機械と産業の人類学	工場は労働力と機械とモノの流通の結節点として捉えることができる。工場で作られる製品はそうした流通と生産のネットワークの中で捉えることができる。この授業では、人類学における科学技術論などを参照しながら、製品のオーサiershipやあるいは機械そのものに対する理解を深める。
第十一回	文化とは何か？ 人類学はどのような学問なのか？	80年代以降、人類学は、植民地状況ないし、ポスト植民地状況の中で発展してきたという歴史的な経緯に、より自覚的になった。それとともに、そうした植民地主義による影響を捨象し、「異文化」の抽出に取り組んできた、それまでの民族誌に対する批判がなされた。この授業では、そうした視点を踏まえ、人類学が前提としてきた文化とは何なのか？ 人類学とはどのような学問なのか？ ということについて考えていく。
第十二回	まとめと試験	「文化」と、その理解について問い直ししながら、これまでの議論を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を通じた復習および予習にそれぞれ2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『新版 文化人類学のレッスン フィールドからの出発』2017 梅屋潔・シンジルト共編 学陽書房
『ブックガイドシリーズ基本の30冊 文化人類学』2011、松村圭一郎、人文書院。
『文化人類学の思考法』2019、松村圭一郎、中川理、石井美保（編）、世界思想社。
『はじめて学ぶ文化人類学 人物・古典・名著からの誘い』2018、岸上伸啓（編著）、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】
論述試験70%、毎回のリアクションペーパー30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎日の授業終了後にリアクションペーパーの提出を求め、授業の冒頭に紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【Outline (in English)】
【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss evens at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(30%). The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(70%).

LAW200TB（法学 / law 200）
法学特講（ゴールドデンウィークスクーリング）
島村 健太郎
カテゴリー：ゴールドデンウィーク 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生活する自由経済社会では、市場における競争が基盤となっています。独占禁止法は、公正かつ自由な競争の促進を目的としており、我が国における自由経済秩序を維持・促進するために制定された経済活動に関する基本法とされています。経済法は、市場における経済秩序に関する様々な法制度を含む法概念ですが、本講義では、経済法の中心と位置付けられる独占禁止法について解説します。具体的には、独占禁止法の規制（不当な取引制限規制、私的独占規制、不正な取引方法規制及び企業結合規制）の内容及び手続を解説します。

本講義を通じて、独占禁止法に関する知識を習得し、今日の経済システムの根本となる法制度を理解することを目的とします。

【到達目標】

独占禁止法の位置付けを理解した上で、独占禁止法の基本概念や各規制の解釈論・手続に関する知識を習得し、事業者の経済活動について独占禁止法の観点から検討、分析できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメ及び資料を配布しますので、レジュメに沿って授業を行います。授業では、必要に応じて独占禁止法の条文を参照しますので、最新の六法（コンパクトのもので構いません）を持参してください。

講義テーマのほか、最新の独占禁止法・公正取引委員会に関するニュースや公正取引委員会の報道発表資料等について授業中に簡単に紹介・解説することがあります。

授業中にリアクションペーパーの提出を求めます（第1回目の授業とその後3回程度の合計4回程度の子定）。リアクションペーパーへのコメント等によりフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	経済法の概説、独占禁止法の概要等
第2回	独占禁止法の目的、基本概念	独占禁止法の目的、基本概念（事業者、一定の取引分野、競争の実質的制限、公正競争阻害性、公共の利益等）
第3回	独占禁止法の措置・手続	公正取引委員会の組織・違反処理手続等、刑事制裁、民事的救済制度
第4回	不当な取引制限①	不当な取引制限の行為要件、市場効果要件
第5回	不当な取引制限②、事業者団体規制①	不当な取引制限のエンフォースメント、事業者団体規制の概要
第6回	私的独占①	私的独占の行為要件、市場効果要件

第7回	私的独占②、企業結合規制①	私的独占のエンフォースメント、企業結合規制の概要等
第8回	企業結合規制②	企業結合規制の手続等
第9回	不正な取引方法①	不正な取引方法の概要、不当な差別的取扱い
第10回	不正な取引方法②	不当対価取引、事業活動の不当拘束
第11回	不正な取引方法③	優越的地位の濫用、不当な顧客誘引・取引強制、不当な取引妨害・内部干渉
第12回	試験、解説等	教場試験、試験の解説等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸井大太郎ほか『経済法』（有斐閣、第9版補訂版、2022年）
 ※『経済法』、『独占禁止法』、『独禁法』といったタイトルであれば、上記以外の教科書でも構いません。ただし、できるだけ令和元年までの独占禁止法改正を反映した最新版の教科書を準備するようにしてください。

【参考書】

- ・ 金井貴嗣ほか編『経済法判例・審決百選（第2版）』（有斐閣）
- ・ 公正取引委員会ホームページ
<https://www.jftc.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

試験（60%）、平常点（40%）
 ※平常点は、主に、出席とリアクションペーパーで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・ 公正取引委員会事務総局における実務経験も踏まえて独占禁止法の解説を行います。
- ・ 最新の六法（コンパクトのもので構いません）を持参してください。

【Outline (in English)】

In a free economic society, competition in a market is the foundation. The Antimonopoly Act aims to promote fair and free competition, and is regarded as a basic rule for business activities enacted to maintain and promote free economic order in Japan. Economic law is a legal concept that includes various legal systems related to economic order in a market. This lecture will focus on the Antimonopoly Act, which is positioned as the core of economic law. This lecture will take up regulations and procedures of the Antimonopoly Act (unreasonable restraint of trade, private monopolization, regulations on unfair trade practices, and merger control).

The goal of this lecture is to acquire a knowledge of the Antimonopoly Act and an understanding of the legal system that is fundamental to today's economic system.

BSP100TF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
総合特講（ゴールデンウィークスクーリング）
齋藤 経史
カテゴリー：ゴールデンウィーク 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ICT [Information and Communication Technology（情報通信技術）] の発達・普及により、IoT [Internet of Things（モノのインターネット）]、クラウド、AI [Artificial Intelligence（人工知能）] の活用に注目が集まっています。本講座では、これらのICTを利用するデータ活用を包括的に学習します。受講者はIoTによるデータ収集・クラウドへのデータ蓄積・プログラミングやAIによるデータ分析の全体像と各論を学ぶことができます。

【到達目標】

受講生は「IoTによるデータ収集」「クラウドによるデータ蓄積」「プログラミングやAIによるデータ分析」の全体像と各論を総合的に理解することができます。IoTやクラウドサービスに関する概要を事例とともに理解できます。また、データ活用の概要に加えて、RESAS、Excelを活用したデータ分析の基礎技術を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3、DP5」「日本文学科：DP1、DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1、DP2、DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体とする授業を行います。講師が実際のPC画面を投影してRESASやExcelの操作を実演することで受講生はツールの使い方や分析手順を習得することができます。質問は授業時間内、リアクションペーパーで受け付けます。また、最後の第12回においては、受講生の理解度や習得技能を確認する試験を実施します。なお、試験後には試験に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	IoTとデータ収集技術 [講義]	IoTの概論とデータ利活用の全体像を示します。また、IoTのデータ収集技術を紹介しします。
第2回	xRとロボット [講義]	xR(AR、MR、VR)の概要と利用事例を紹介しします。また、IoTの一種としてロボット・ドローンを示しします。
第3回	ビッグデータとオープンデータ [講義]	ビッグデータとオープンデータのそれぞれの特徴と利用例を紹介しします。
第4回	RESAS(地域経済分析システム)の活用 [実演]	ウェブブラウザを使って地域データを可視化するRESAS(地域経済分析システム)の実演を行います。
第5回	クラウドの定義と分類 [講義]	クラウドの意味と出自を説明し、クラウドのサービスモデル、実装モデルの概要と事例を示しします。
第6回	クラウドの特性と新たな利用方法 [講義]	クラウドに関連する特性やデータ分析などに利用するクラウドの使い方を示しします。
第7回	基本統計量の作成 [実演]	代表的な基本統計量の意味を示し、Excel使った統計量の作成を実演しします。

第8回	相関と回帰分析 [実演]	相関分析、回帰分析の特性、用途、出力をExcelの分析ツールを利用して実演しします。
第9回	APIと改正個人情報保護法 [講義]	API (Application Programming Interface) の概要と利用例を示しします。また、デジタル技術と関連する個人情報保護法の概要を示しします。
第10回	人工知能とICT利活用事例 [講義]	近年の人工知能に関する技術の進展を示し、ICTの活用事例を分野別に紹介しします。
第11回	プログラミング、RPA、BIツール [実演]	プログラミングによるデータ活用の実演を行い、RPA (Robotic Process Automation)、BI (Business Intelligence) ツールの特性を示しします
第12回	試験	授業の理解度を確認するための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講師が作成に携わった総務省ICTスキル総合習得プログラム (https://www.soumu.go.jp/ict_skill/) に準じた講座となるため、概要把握や予習・復習を行うことができます。なお、授業時間や効果的な学習を考慮して、総務省ICTスキル総合習得プログラムの再編成を行い、情報をアップデートした教材で授業を行います。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各授業での教材投影・プリント配付を行うため、教科書は使用しません。

【参考書】

必要に応じて、ICTスキル総合習得プログラムの参考文献リスト (https://keijisaito.info/pdf/hosei_ict_ref.pdf) を参照してください。

【成績評価の方法と基準】

最終日の12コマ目に理解度を確認する試験を行い、成績評価を行います。また、授業への参加度を平常点として成績に反映することもあり得ます。(1)理解度確認試験：90～100% (2)平常点：0～10%

【学生の意見等からの気づき】

製品・サービスの事例が豊富で分かり安かったという意見が多かったため、可能な限り、最新事例にアップデートした教材で講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

RESASやExcelの実演は、講師が操作するPC画面を投影する形で行うので、学生が準備すべき機器はありません。ただし、学生自身でPCを持参し、電源/ネットワーク環境を用意すれば、講座時間内にも操作再現が可能です。

【その他の重要事項】

PCのウェブブラウザを使ってインターネット閲覧、Microsoft Excel を使った表やグラフの作成ができる程度の基本的なPCスキルを前提とします。

【Outline (in English)】

This lecture shows the overall picture of data utilization related to "Information and Communication Technology". Students comprehensively learn "data collection by IoT", "data accumulation by cloud service", and "data analysis by programming and AI".

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（ゴールデンウィークスクーリング）
木島 豊希
カテゴリー：ゴールデンウィーク 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通の基本的な仕組みや役割について理解することを目指します。

【到達目標】

流通の基本を幅広く学ぶことを通じて、流通の今日的課題を具体的に理解し、それを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、教科書に沿って講義形式で行います。試験に対するフィードバックは、第12回の試験終了後に口頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	流通と商業のはたらき	流通・商業の仕組みや役割を理解する。
第2回	発展する商業	小売業・卸売業の歴史的な発展を理解する。
第3回	流通・商業とそれを取り巻く環境	流通・商業の外部環境や消費者の変化による影響を理解する。
第4回	システム革新と流通・商業	流通・商業に関する情報・物流システムを理解する。
第5回	進展する流通チャネルの再編成	大規模小売組織主導の流通再編成などを理解する。
第6回	激変する小売業	小売業の構造変化や大規模小売企業の動向を理解する。
第7回	存在意義を問われている卸売業	卸売業の構造変化や卸売業の機能を理解する。
第8回	時空間を超えるニュービジネス	ネット小売を理解する。
第9回	流通活動空間の広がり	流通の国際化を理解する。
第10回	流通・商業と社会	地球環境、まちづくり、公正競争を理解する。
第11回	まとめ	試験に向けて、これまでの授業内容を再度確認する。
第12回	試験、解説	試験を実施した後に、試験内容を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。教科書を読んでください。

【テキスト（教科書）】

原田英生・向山雅夫・渡辺達朗『ベーシック流通と商業〔第3版〕－現実から学ぶ理論と仕組み』有斐閣、2021年3月、税抜2,000円。

【参考書】

坪井晋也・河田賢一編著『流通と小売経営〔改訂版〕』創成社、2021年4月、税抜2,600円。

【成績評価の方法と基準】

平常点を40%、期末試験（スクーリング最終日に実施する試験）による評価を60%として、成績評価を行います。試験では、持ち込み不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

質問は授業終了後に受け付けます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand system and role of the distribution.

Please read the textbook outside of class.

The grade evaluation is 40% for normal grades and 60% for final examination grades.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（大阪市スクーリング）
機部 芳恵
カテゴリー：大阪市 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

（進め方）

テキストのReading Partはクラス全体で音読を行い、内容とそれ以外のExercisesはその場で指名した人に答えてもらいます。

（方法）

「語彙力」と「読解力」を育成し、「音読」も行います。

また、提出された課題のEx. 6（English Composition）については模範解答を提示します。

Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation composition

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスオリエンテーション	テキスト紹介など。
	Unit 1	語彙、訳読。
	Why is Gold so Valuable?	内容理解問題、音読、英作文。
2	Unit 2	語彙、訳読。
	Why does Breathing Helium Make Your Voice Sound So High?	内容理解問題、音読、英作文。
3	Unit 3	語彙、訳読。
	How do People Survive Lightning Strikes?	内容理解問題、音読、英作文。
4	復習	Unit 1-3

5	Unit 4	語彙、訳読。
	Why do Golf Balls Have Dimples?	内容理解問題、音読、英作文。
6	Unit 5	語彙、訳読。
	What Causes Allergies?	内容理解問題、音読、英作文。
7	Unit 6	語彙、訳読。
	How does the Dry-Cleaning Process Work?	内容理解問題、音読、英作文。
	TOEIC practice test	
8	復習 2	Unit 4-6
9	Unit 7	語彙、訳読。
	Why are Hurricanes Seasonal?	内容理解問題、音読、英作文。
10	Unit 8	語彙、訳読。
	Why does Food Rot?	内容理解問題、音読、英作文。
11	Presentation	Unit 1-10
12	復習とまとめ	復習と授業内テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課をあらかじめ予習し、本文を訳したものとEx. 6（English Composition）を提出すること。授業後は繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Science for Inquiring Minds（成美堂）1,900円。

【参考書】

毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、宿題（30%）、プレゼンテーション（10%）とテスト（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。

【その他の重要事項】

- ・欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
総合特講（大阪市スクーリング）
中丸 宣明
カテゴリー：大阪市 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19世紀20世紀の文学。文学的近代とは何かということについて論ずる。普通、明治時代以降の小説や詩を近代文学として考えることになっている。本講義ではその常識を再考し、江戸期からの連続として文学を捉え直すことを目的とする。なお下記の時間割のテーマは授業の進行具合、スクーリング時の状況により変化することがある。

【到達目標】

これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて明治以降の日本近代のあり方を相対化する。また文学研究の今日的論点を理解する。

To relativize the common sense and established theories of Japanese literary history, and understand the current issues of literary research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。See "Outline and objectives."

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1、オリエンテーション	1、本講義の概要 2、口承から写本へ
第2回	2、文学史の時代区分について1	3、印刷から出版へ・商品としての書籍 4、IT時代へ
第3回	3、文学史の時代区分について、2	5上の文学／下の文学・古代の文学
第4回	4、文学史の時代区分について、2	6、上の文学／下の文学・勅撰集の問題
第5回	5、文学史のダイナミズム1	7、上の文学／下の文学・演劇の展開
第6回	6、文学史のダイナミズム2	8、上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開
第7回	7、文学史のダイナミズム3	9、上の文学／下の文学 散文文学の展開
第8回	8、文学史のダイナミズム4	10、書籍以前
第9回	9、文学史のダイナミズム5	11、古活字と整版印刷
第10回	10、メディア論1	12、整版印刷から活字印刷へ
第11回	11、メディア論2	13、デジタルメディア論
	12、メディア論3	14、これからの読書
	13、メディア論4	
	14、本講義のまとめ	

第12回 テスト 理解度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各6時間を標準とします。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 6hours to understand the course content. See "Outline and objectives."

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要な場合はプリントによる。

None. I'm a textbook.

【参考書】

講義中に適宜指示。

Instructions during the lecture.

【成績評価の方法と基準】

テスト（70%）。出席（30%）。

Our overall grade in the class will be decided based on the following:Final day test(60%),Attendance (40%).

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

【Outline (in English)】

See the Japanese text. Those who do not understand the Japanese language are not eligible. Because this class is an academic lecture on Japanese literature, it requires more Japanese ability than daily conversation does.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（大阪市スクーリング）
畑 憲司
カテゴリー：大阪市 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、企業分析を実施するために必要な前提知識として、主に公知情報の情報収集方法や読み方の基礎を整理する。経営戦略を策定するために必要となるアプローチについて、経営学的知見と経済学的知見の接続論点について高度な理解を図る。総まとめとして、事業計画策定のアプローチを理解する。

【到達目標】

学生は、企業分析に必要な分析の諸相について理解することを目標とする。分析の領域は、マクロ経済を含む市場動向分析、業界構造分析、企業のポジショニング分析から構成される。各回の内容に関連する経済学的トピックスの紹介に相当程度の時間を投下する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式と、学生によるディスカッションを併用して進行する。各回の授業内容について、理解度や疑問点を解消するためのアンケートを行う。

授業は対面で行う。授業内にて、小テストの配布・回収を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業分析の枠組み	・3C 分析など企業分析の枠組み ・企業の事業領域
第2回	企業が置かれている環境	・マクロ経済を含めた、最近の企業が置かれている競争環境 ・付加価値概念と GDP
第3回	最近の消費動向	・家計調査報告などを含めた最近の消費動向 ・統計調査とサンプリング
第4回	市場分析の方法	・実務的な市場分析の方法 ・MECEと推定
第5回	業界構造分析の枠組み	・5F 分析を中心とする業界構造分析の枠組み ・ポジショニングと RBV
第6回	業界の競争環境	・業界の寡占度の違いによる競争環境の違い ・独占的競争
第7回	新規参入と代替のメカニズム	・新規参入の脅威と新技術による代替の脅威 ・イノベーションのジレンマ
第8回	サプライチェーンと産業組織	・サプライチェーンの発展動向についての理解、価格交渉のメカニズム ・垂直統合戦略
第9回	企業戦略と事業戦略 マーケティング戦略	・事業ポートフォリオと事業戦略の構成要素 ・規模の経済と範囲の経済 ・STP+4P 分析 ・事業戦略と製品戦略

第10回	公知情報の活用方法	・有価証券報告書、企業HPの活用方法 ・経営者と投資家
第11回	フィールドワークの方 法	・店舗や売り場を実際に見る際のポイント ・リアルとウェブ
第12回	事業戦略の策定 事業計画の策定	・11回の授業のまとめ ・定量的事業計画の構成要素、事業戦略との整合性確保

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回について、4時間程度の復習時間を想定する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ただし授業中に日本経済新聞の記事や参考図書を紹介する場合がある。

【成績評価の方法と基準】
平常点：60%
小テスト：40%

【学生の意見等からの気づき】
平常点は、授業中の質問による授業運営への貢献で評価する。登録学生にまんべんない発言機会を与える主旨ではなく、質の高い質問ができる発言者を優先する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
各日の授業実施後の時間帯に、30分程度オフィスアワーを設けて、質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
Understanding and acquiring general knowledge and procedure for company analysis in strategic context.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）
化学3（講義）（仙台市スクーリング）
向井 知大
カテゴリー：仙台市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現在の我々の生活を支えているエネルギーについて紹介していきます。エネルギーを題材にして身の回りの現象について理解を深めることを目的としています。

【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標として下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料をスクリーンに投影し、解説する形式で対面授業を行います。資料は紙媒体で配布します。授業時間内、授業終了後に質問を受け付けます。最終回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義やエネルギー変換についての概説
第2回	原子の構造	原子を構成する成分とそれらの性質について
第3回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて
第4回	放射性同位体	原子核の壊変について
第5回	原子力発電	核分裂連鎖反応について
第6回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界量について
第7回	電磁波のエネルギー	電磁波の性質と光量子仮説について
第8回	化学結合のエネルギー	原子どうしが結合するしくみについて
第9回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造
第10回	エネルギー物質	火薬の成分や構造について
第11回	元素の循環	地球上での炭素、窒素原子の循環について
第12回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やWeb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎回資料を紙媒体で配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

最終時限に実施する試験(配分100%)で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるよう努めます。

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The aim of the course is to improve students' science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (20%) and term-end examination (80%).

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（仙台市スクーリング）

宇津川 香子

カテゴリー：仙台市 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に自然地理学（特に地形学）の観点から、身の回りにある「自然環境と人間社会とのつながり」に気が付ききっかけとなるような自然地理学に関する基礎知識と教養を身につけます。本授業は「旅」をコンセプトに、娯楽としての「旅」だけではなく、自然界における様々な「旅」にも目を向けます。

【到達目標】

多面的な視野をもって自然地理学的観点から「世界のなかの日本」を能動的に捉えられるように、①地理的思考および②「自然の原理」と「人間の生活の営み」を関連づける思考力を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。毎回スライドを投影し、プリントを配布します。リアクションペーパーによる質問やコメントを毎時間受け付け、次の授業あるいは翌日にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然地理学とは、導入・旅×地図	主題図と一般図、古地図、GIS
第2回	旅×風土	衣食住、気候、海外
第3回	旅×森	植生分布、遷移、土壌
第4回	旅×日本列島	プレートテクトニクス、付加体、フォッサマグナ
第5回	旅×火山	火山フロント、温泉、火山灰
第6回	旅×河川	侵食—運搬—堆積過程、河川地形
第7回	旅×海岸	ラグーン、海岸砂丘、海岸侵食
第8回	旅×岩石	火成岩、堆積岩、変成岩、景観
第9回	旅×ジオパーク	地域振興、エコツーリズム、世界遺産
第10回	旅×自然災害	誘因と素因、自然災害伝承碑、ハザードマップ
第11回	旅×地球	宇宙船地球号、環境問題
第12回	試験および解説	筆記試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で適宜紹介する参考図書を手にとってもらいたいです。授業では時事問題も取り上げますので、新聞やニュースには日常的にふれておきましょう。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

適宜、授業回の参考文献を紹介します。全体的に参考になる文献は以下のとおりです。

松山 洋・川瀬久美子・辻村真貴・高岡貞夫・三浦秀樹著『自然地理学』（ミネルヴァ書房）

松原彰子著『自然地理学（第6版）』（慶応義塾大学出版会）

また、授業を通して地図帳が1冊あるとよいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験（100%）により評価

【学生の意見等からの気づき】

他の受講生と意見交換をできる機会を設けたいと考えていますが、当日の教室環境等で勘案します。また、リアクションペーパーのコメントのうち、教員が受講生全員と共有したいと思った質問・コメントは授業開始時にできるだけ紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course focuses on "the connection between the natural environment and human society" to understand the perspective and basis knowledge of physical geography (especially geomorphology).

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW200TB（法学 / law 200）
法律学特講（仙台市スクーリング）
田中 開
カテゴリー：仙台市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑事手続法の概要を講義する。
 受講生が、刑事手続について、基本的な法的知識を習得し、法的推論の能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

受講生が捜査に始まる刑事手続の流れ、刑事手続の基本理念、判例、通説、実務の運用につき基礎的な知識と理解を得、適切な法解釈をなす能力を涵養することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な教科書、判例集を用いて講義形式で行う。
 必要な参考資料は適宜配布する。
 フィードバックは授業内で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	刑事手続の目的と基本理念、捜査の概要	法定手続の保障と手続の適正、捜査の流れ、強制処分法定主義、任意捜査の原則、令状主義につき概説する。
第2回	捜査の端緒、逮捕と勾留	職務質問・所持品検査、逮捕・勾留につき概説する。
第3回	捜索・差押え・検証	捜索・差押え・検証、その他の処分につき概説する。
第4回	被疑者の防御、公訴の提起	被疑者の防御、公訴の提起の手続・方式につき概説する
第5回	公判手続	公判手続につき概説する。裁判員裁判にも触れる。
第6回	訴因と公訴事実	訴因の特定、訴因変更の要否・可否につき概説する。
第7回	証拠法 I	証拠法の基礎、自白法則につき概説する。
第8回	証拠法 II	伝聞法則、違法収集証拠の排除につき概説する。
第9回	公判の裁判、上訴	公判の裁判、上訴につき概説する
第10回	確定後救済手続、特別手続	確定後救済手続、特別手続につき概説する
第11回	総復習と質問	総復習を行い、質問を受ける。
第12回	試験とまとめ	試験と授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中開・寺崎嘉博・長沼範良「刑事訴訟法」（第6版）（2020）（有斐閣）
 井上正仁・大澤裕・川出敏裕編（別冊ジュリスト）「刑事訴訟法判例百選」（第10版）（2017）（有斐閣）

【参考書】

井上正仁・酒巻匡編（ジュリスト増刊）「刑事訴訟法の争点」（新・法律学の争点シリーズ6）（2013）（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

最終日に実施する試験による（100点満点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Lecture of criminal procedure.

The objective is to get basic understanding of law of criminal procedure.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）
生物学3（講義）（前期週末スクーリング）
大槻 涼
カテゴリー：前期週末 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

COVID-19の世界的パンデミックを経験し、正確で科学的根拠に立脚した生命観がより重要になると考えられます。このために本講義では、生物学における2つの軸、「普遍性」と「多様性」それぞれについて理解を深め、様々なスケール（分子レベルから地球規模まで）の生物学を俯瞰することを目的とします。それぞれの個別の情報を覚えるだけでなく、つながりを意識した理解を目指します。

【到達目標】

生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探ることができる。

講義で理解した事柄を文章で説明することができる。

生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。

大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はPowerPointをつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。

毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌日に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生物学とはどのような学問か？生物学の2つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの4つのなぜ
第2回	生命の階層性	・分子-細胞-集団-生態系でかわる生物観 ・生物学研究の方法と特徴
第3回	生命誕生前夜	・地球誕生から生命まで ・小惑星探査とわれわれのつながり ・宇宙生物学のいま
第4回	細胞誕生	・「地球型生命体」の特徴とは？ ・細胞の2つのカタチ ・「全球凍結」がもたらした変化
第5回	生物のこれまで 全生物の系統関係とは	・二界説から3ドメイン説、2ドメイン説まで ・分子系統学がもたらしたあらたな生命観 ・生命観の変遷と最新の話題
第6回	われわれの生命をささえる物質たち	・水：異質な物質としての水 ・タンパク質：多様性と機能 ・核酸：しなやかで変化する特性 ・脂肪：ユニークで大事なしごと

第7回	細胞のしごと、タンパク質のしごと	・細胞の中の化学反応 ・エネルギーをどうやって得るか？ ・酵素が支える化学反応
第8回	進化とは何か？種分化とは何か？	・普遍性と多様性の架け橋としての進化 ・進化のしくみと種分化
第9回	適応放散と共進化	・「超高速進化現象」としての適応放散 ・ユニークな生物の姿と生物のふしぎ ・生物間相互作用の世界
第10回	生物上陸作戦	・植物、動物それぞれの陸上世界への進出 ・陸上植物の進化多様性
第11回	生物の大量絶滅	・過去5回の大量絶滅 ・地球環境の変化と生物の進化 ・生命が地球を変える
第12回	生物多様性とは何か？まとめ試験	・生物多様性の「多様性」 ・多様性を理解するために必要なこととは？ ・地球環境問題とこれからの生態系

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】

岩波 生物学辞典、巖佐庸 ら（編）、岩波書店、2013、第5版、ISBN-13：978-4000803144

キャンベル生物学 原書11版、池内昌彦 ら（監修、翻訳）、丸善出版、2018 ISBN-13：978-4621302767

【成績評価の方法と基準】

最終日に実施する試験(100%)によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

After the experience of the global pandemic of COVID-19, an accurate and scientifically based view of life will become more important. To this end, this lecture aims to deepen students' understanding of the two axes of biology, "universality" and "diversity," respectively, and to provide an overview of biology at various scales (from the molecular level to the global scale). The aim is not only to memorize each individual piece of information, but also to understand them with an awareness of their connections.

【Learning Objectives】

Understand basic content related to biology. To be able to do their own research on topics related to the latest science.

【Learning activities outside of classroom】

Students will summarize information in notebooks based on the lecture content. Also, prepare for the lecture based on the problems presented in the lecture.

【Grading Criteria / Policy】

All grades will be based on the final exam.

LAW200TB（法学 / law 200）
法律学特講（前期週末スクーリング）
荻村 慎一郎
カテゴリー：前期週末 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会における法
 ・本講義では、企業活動と就業・労働の領域を対象に、法学の方法論を用いて、グローバル化の深化・拡大に伴って生じている諸問題について考察します。
 ・具体的には、地球規模で展開されている自動車産業の動向をおさえつつ、2018年から2020年にかけて世界の耳目を集めたカルロス・ゴーン日産自動車元会長の逮捕および国外逃亡事件の全体像を正確に理解することができるように、労働法、会社法、刑事法、国際関係法の基本を段階的に学修していきます。

【到達目標】

本講義では、以下の3点の修得を目指します。
 ・労働法、会社法、刑法、刑事訴訟法、国際法、国際私法という実定法系科目の基本事項を理解する。
 ・法史学（法制史）、法社会学、比較法・外国法学という基礎法系科目の方法論の基礎を理解する。
 ・多角的かつ総合的な視点を用いて先端的な社会問題を考察する思考技法を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、視聴覚教材を適宜用いた講義形式の授業です。
 ・講義は基本から応用へと段階的に展開されるので、予備知識は必要ありません。
 ・学生のみなさんとの簡単な対話を織り込みつつ、参加者の理解度を確認しながら進めます。
 ・個別のご質問については、授業の前後の時間に対応させていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の展望	多角的かつ総合的な視点の重要性について
第2回	就業・労働に関する法①	労働法の基本知識①
第3回	就業・労働に関する法②	労働法の基本知識②
第4回	就業・労働に関する法③	グローバル社会における労働法
第5回	企業活動に関する法①	会社法の基本知識①
第6回	企業活動に関する法②	会社法の基本知識②
第7回	企業活動に関する法③	グローバル社会における会社法
第8回	企業活動に関する法④	グローバル社会における労働法および会社法
第9回	国際関係法と刑事法①	国際法と国際私法の基本知識

第10回	国際関係法と刑事法②	刑事法の基本知識と法における国境の問題
第11回	この授業のまとめ	法学の持つ可能性について
第12回	試験および解説	スクーリング試験および解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 ・配布される印刷教材に掲載された復習課題・予習課題に取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】

オリジナル教材（印刷教材）を配布します。

【参考書】

オリジナル教材（印刷教材）の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験(100%)
 ・授業最終回に実施する筆記試験によって成績評価を行います。
 ・授業時における復習課題・予習課題の学修が自然な形で試験準備へとつながるように配慮しています。
 ・本講義の講義内容の理解を問う問題と普段の学修の成果を活かせる問題の2種類を出題することにより、偏りのない評価となるように努めます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Law in Global Society
 Using legal methodology, we will examine the problems that arise with the deepening and expansion of globalization, targeting the areas of corporate activities and employment and labor.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（前期週末スクーリング）
畑 憲司
カテゴリー：前期週末 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、企業分析の実管理 ID：施するために必要な前提知識として、主に公

知情報の情報収集方法や読み方の基礎を整理する。経営戦略を策定するために必要となるアプローチについて、経営学的知見と経済学的知見の接続論点について高度な理解を図る。総まとめとして、事業計画策定のアプローチを理解する。

【到達目標】

学生は、企業分析に必要な分析の諸相について理解することを目標とする。分析の領域は、マクロ経済を含む市場動向分析、業界構造分析、企業のポジショニング分析から構成される。各回の内容に関連する経済学的トピックスの紹介に相当程度の時間を投下する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式と、学生によるディスカッションを併用して進行する。授業は対面で行う。授業内にて、小テストの配布・回収を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	企業分析の枠組み	・3C 分析など企業分析の枠組み ・企業の事業領域
第2回	企業が置かれている環境	・マクロ経済を含めた、最近の企業が置かれている競争環境 ・付加価値概念と GDP
第3回	最近の消費動向	・家計調査報告などを含めた最近の消費動向 ・統計調査とサンプリング
第4回	市場分析の方法	・実務的な市場分析の方法 ・MECEと推定
第5回	業界構造分析の枠組み	・5F 分析を中心とする業界構造分析の枠組み ・ポジショニングと RBV
第6回	業界の競争環境	・業界の寡占度の違いによる競争環境の違い ・独占的競争
第7回	新規参入と代替のメカニズム	・新規参入の脅威と新技術による代替の脅威 ・イノベーションのジレンマ
第8回	サプライチェーンと産業組織	・サプライチェーンの発展動向についての理解、価格交渉のメカニズム ・垂直統合戦略
第9回	企業戦略と事業戦略 マーケティング戦略	・事業ポートフォリオと事業戦略の構成要素 ・規模の経済と範囲の経済 ・STP+4P 分析 ・事業戦略と製品戦略

第10回	公知情報の活用方	・有価証券報告書、企業HPの活用方法 ・経営者と投資家
第11回	フィールドワークの方 法	・店舗や売り場を実際に見る際のポイント ・リアルとウェブ
第12回	事業戦略の策定 事業計画の策定	・11回の授業のまとめ ・定量的事業計画の構成要素、事業戦略との整合性確保

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回について、4時間程度の復習時間を想定する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。ただし授業中に日本経済新聞の記事や参考図書を紹介する場合がある。

【成績評価の方法と基準】

平常点：60%

小テスト：40%

【学生の意見等からの気づき】

平常点は、授業中の質問による授業運営への貢献で評価する。登録学生にまんべんない発言機会を与える主旨ではなく、質の高い質問ができる発言者を優先する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

各日の授業実施後にオフィスアワーを30分程度設け、質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Understanding and acquiring general knowledge and procedure for company analysis in strategic context.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（前期週末スクーリング）
市川 佳功
カテゴリー：前期週末 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業で配布する資料に基づき、講義形式で授業を進めます。この授業では、不動産の流動化方法の一つであるREIT（リート：不動産投資信託）とは何かについて学習します。REITが経済社会の中でどのように機能しているのかを理解することを目的とします。

【到達目標】

株式が証券取引所に上場されていることはよく知られているところですが、REIT（リート）が証券取引所に上場されていることは知らない人がいるかもしれません。この授業では不動産投資信託であるREIT（リート）の仕組みを説明できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

配布資料に基づく講義形式で授業を進めていきます。授業中にととき質疑応答を盛り込んでいく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不動産の利用方法	不動産のビジネス上の利用方法（賃貸借・譲渡）について説明します。
第2回	不動産の開発規制	土地の開発や建物の建築に対する規制の概要を説明します。
第3回	不動産の評価方法	一物一価ではない不動産の評価方法を紹介します。
第4回	REITの仕組み	REIT（不動産投資信託）の基本的な仕組みを説明します。
第5回	投資法人に対する規制	REITの主体である投資法人を規制するルールとその目的を説明します。
第6回	不動産投資に対するリスク	REITへの投資にはリスクがつきものです。どのようなリスクがあるかを説明します。
第7回	不動産投資に対するリスクの顕在事例	不動産リスクがどのように現実化するのかその事例を紹介します。
第8回	REITの投資対象	REITはさまざまな不動産に投資をしています。それぞれのREITの個性ある投資対象を紹介していきます。
第9回	信託受益権とは	REITの投資対象の一つである信託受益権の仕組みを説明します。
第10回	上場REITの時価の変動	どのような事由が上場REITの時価に影響を与えるのかを考えていきます。

第11回	上場されていないREIT（私募REIT）	私募REITの情報は取りにくいのですが、どのような商品なのか、その概要を説明します。
第12回	REITの課税関係試験の実施	REITを組成する際に重要視されている課税関係を説明します。講義終了後に試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はありません。授業で配布する資料で学習を進めます。

【参考書】

新家寛ほか編「REIT（リート）のすべて（第2版）」民事法務研究会7,200円＋消費税が参考になりますが、授業中でこの参考書を具体的に使用する予定はありません。

【成績評価の方法と基準】

授業最終回に実施する筆記試験のみ（評価割合100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

事例を用いると学習することに興味をより深く持てるようなので、事例を多用して講義を実施します。

【Outline (in English)】

Based on the materials distributed in the class, the class will proceed in a lecture format. In this class, we will learn about what is "REAL Estate Investment Trust", which is one of the real estate securitization methods. The purpose is to understand the function of "REAL Estate Investment Trust" in the economic society.

LIT100TA (文学 / Literature 100)
文学 (夏期スクーリング)
中澤 忠之
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが、しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義中心です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第3回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第4回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第5回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治10から20年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第6回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治30から40年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第7回	文学史第1期（明治20～40年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第8回	文学史第2期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第9回	文学史第3期（1920年代）	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。

第10回	文学史第4期（1930年代）	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。
第11回	文学史総括	文学史全体の流れを復習し、現代の表現とも関係させる。
第12回	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをし、その後に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が取まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人はTSUTAYAの棚陳列がどういようジャンル区分に従っているのかよくわかっているはずですが、坂道やAKB48のファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはずですが、文学も同じです。

小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の3冊を読み比べてみてください。

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度（平常点）も評価したい。評価の割合は最後の筆記試験が70%、平常点を30%とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline (in English)】

-Course outline

The purpose of this lecture is to acquire the skills and culture for reading novels using works of modern Japanese literature. There is no one way to write or read a novel. In this lecture, you can learn that there are various ways to write and read novels. Let's start by confirming the origin of the novel. And if we trace the history of literature, we can see that the way we write and read novels has changed.

-Learning Objectives

We aim to acquire the skills and education to objectively evaluate creations.

-Learning activities outside of classroom

Read into literary works even a little. I recommend reading with the genre in mind. Standard time for class preparation and review is 2 hours each.

-Grading Criteria /Policies

The final exam will be the main evaluation. The evaluation percentage is 70% for the final exam and 30% for the student performance in the classroom.

HIS100TA（史学/History 100）
日本史（夏期スクーリング）
矢越 葉子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本古代史を研究する上で欠かすことのできない史料群である正倉院文書を対象として、正史や法制史料を交えつつ、日本古代の社会のあり方を検討する。それを通じて、歴史学における史料の扱い方や研究方法を学ぶ。

【到達目標】

日本古代の社会のあり方について、要素を個別に把握するのではなく、その関連性を理解して総合的に考える姿勢を養う。また、史料を分析し、先行研究を踏まえて論理を構築し実証する歴史学の研究方法を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まず歴史学で扱う史料の大枠を示し、その中で正倉院文書の占める位置を学ぶ。その上で、個別の律令公文にかかる規定を学び、具体的に史料を読んでいく。

課題等の提出およびフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	歴史学で扱う史料のあり方を学ぶ。
第2回	正倉院文書とは	正倉院文書の伝来、史料としての特徴を学ぶ。
第3回	戸籍に関する諸規定	戸籍を検討する上での基礎となる法制上の規定について学ぶ。
第4回	戸籍を読む	現存する戸籍を具体的に読み、検討する。
第5回	計帳に関する諸規定	計帳を検討する上での基礎となる法制上の規定について学ぶ。
第6回	計帳を読む	現存する計帳を具体的に読み、検討する。
第7回	計会帳に関する諸規定	計会帳を検討する上での基礎となる法制上の規定について学ぶ。
第8回	計会帳を読む	現存する計会帳を具体的に読み、検討する。
第9回	正税帳に関する諸規定	正税帳を検討する上での基礎となる法制上の規定について学ぶ。
第10回	正税帳を読む	現存する正税帳を具体的に読み、検討する。
第11回	輪租帳・封戸租交易帳を読む	法制上の規定を学んだ上で、輪租帳および封戸租交易帳を読み、検討する。
第12回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）高校までの教科書が手許にある場合は、古代史部分について事前に目を通しておくことが望ましい。その上で、下記の参考書や授業中に紹介する文献を読み、知識を習得すること。

（復習）配付したレジュメを読み返しておくこと。また、史料もしっかり目を通し、史料に基づいて考察する姿勢を養って欲しい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料を配付します。

【参考書】

丸山裕美子『正倉院文書の世界—よみがえる天平の時代』（中公新書、2010年）

栄原永遠男『正倉院文書入門』（角川学術出版、2011年）

【成績評価の方法と基準】

記述式試験100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we will study the Shosoin documents, an indispensable group of historical materials in ancient Japanese history, and compare them with official and legal historical materials to explore the actual situation of ancient Japanese society. Through that, we will learn the methods of historical science and materials.

The goal of this course are to develop an attitude of thinking comprehensively about the state of society by understanding the relationship between the elements rather than grasping them individually, and to understand the research methods of historiography which constructs and demonstrates logic based on historical materials and previous research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination.

PHL100TA（哲学 / Philosophy 100）
哲学（夏期スクーリング）
編澤 和彦
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、問題の原理的な解明によって、その解決を探求する人間の知的営みです。夏期スクーリングでは、わたしたちが日々の生活の中で遭遇するテーマを取り上げ、ディスカッションを通じて、哲学の考え方を学んでいきます。学習内容としては、わたしたちの身の回りで起こる差別、抑圧、暴力、また、これらの解決策として赦し、寛容、仁恵、さらに、現代文明の喫緊の課題であるAIと人間の知性を取り上げます。本授業は、これらの問題について自分で考える力、討議する力、表現する能力をつけることをねらいとします。

【到達目標】

- ①日常生活で出会う様々な出来事から哲学・倫理学の問題を捉え、原理的に探究する思考法を身につけることができる。
- ②具体的な事例に即して哲学・倫理学の概念や学説を理解し、それを文章にまとめたり、口頭で発表することができる。
- ③グループディスカッションと全体発表を通じて、自他の見解の相違を知り、自分の考えをより一層深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は対面の形式で行われます。毎回授業プリント、リアクションペーパー、出席票を配布します。質問と感想は、授業開始時に配布するリアクションペーパーに記入してください。質問のフィードバックは、次回授業時に行います。さらに、各テーマの終了時に、グループワーク（ディスカッションなど）を行い、授業内容の定着と内容理解の深化を図ります。出席票は授業終了時にお渡しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：哲学とは何か	シラバスの内容を説明するほか、哲学の課題と方法について説明します。
第2回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波てんでんこ」	暴力と悪の概念及びその多義性、「津波てんでんこ」とその解釈の多義性、赦しと約束の可能性について説明します。
第3回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波てんでんこ」	東日本大震災における大川小学校の悲劇、赦しの課題と倫理、時間概念の変換、語り伝えることの意義と役割について解説します。
第4回	グループディスカッションと全体発表	暴力や悪の根源、赦しの可能性について少人数のグループで考えていきます。
第5回	共同体と寛容：教科書第2章「境界線上のエリア」	共生と寛容、その限界（パラドクス）、反知性的なものとの対決について考えます。
第6回	信頼と仁恵：教科書第4章「生命・医療倫理とゲシュタルトクライス」	人格的転回と医学的人間学、ゲシュタルトクライス、パトス（信頼・仁恵）の概念について説明します。

第7回	グループディスカッションと全体発表	寛容と仁恵の可能性について少人数のグループで考えていきます。
第8回	AIと人間の知性：教科書第3章「AIにはなにができないか」	人工知能（AI）の概念、その飛躍的發展、AIの二つの道を解説します。
第9回	AIと人間の知性：教科書第3章「AIにはなにができないか」	知識及び認識の概念、経験論と合理論、人間に可能なことと不可能なことを説明します。
第10回	グループディスカッションと全体発表	AIと人間の関係について少人数のグループで議論します。
第11回	授業全体のまとめ	概念整理と質疑応答
第12回	筆記試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は、授業前に教科書の該当箇所に目を通し、あらかじめ内容を把握しておいて下さい。また、受講生は、参考書や関連書籍を使って、専門用語の意味等を理解してください（2時間）。復習：受講生は、授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。質問がある場合は、私宛にメールを書いて質問してください。また、受講生は、グループワークでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えや理解をノートにまとめてください（2時間）。

【テキスト（教科書）】

牧野英二・小野原雅夫・山本英輔・齋藤元紀（編）『哲学の変換と知の越境－伝統的思考法を問い直すための手引き』（法政大学出版局、2019年、本体価格3,000円+税）ISBN 978-4-588-13026-7

【参考書】

- ①三木清著『哲学入門』（岩波新書、赤版R8、1976年、本体価格780円+税）ISBN 4-00-400008-4 C0210。（青空文庫にも所収）
- ②リチャード・J. バーンスタイン著/齋藤元紀監訳『暴力 手すりなき思考』（法政大学出版局、2020年、ISBN 978-4-588-01126-9C1310、本体価格4200円+税）

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、①授業への取り組みとグループワークの司会担当（20%）、②期末試験の成績（80%）の総合評価とします。評価については（A）問題設定、概念、方法を適切に理解できているかどうか、（B）問いに対する答えという仕方、文章の構成と表現が、読者に理解できるように書かれているか、という点を基準にします。試験問題は、概念の説明と論説問題からなります。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（ディスカッション）の時間を十分に取ります。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業後に実施しますので、その時に教員と話したり、質疑応答を行うことができます。

【Outline (in English)】

Philosophy is a human intellectual activity that seeks solutions to problems by elucidating their principles. In the summer schooling, we will take up themes in our daily lives and learn the philosophical way of thinking through group work. In the lectures, we will discuss discrimination, oppression, and violence. Then forgiveness, tolerance, and humanity as solutions to these problems. And we learn about AI and human intelligence, which are pressing issues in modern civilization. These lectures aim at developing the ability to think, discuss and express oneself on these issues. Please read the textbook and find points you do not understand (2 hours). Review whether your questions find an answer (2 hours). If you have any questions, please write me your questions by email. Grading will lay on a comprehensive evaluation of (1) class effort and group work moderating responsibilities (20%) and (2) final exam results (80%). The evaluation standard will lie in (A) whether you have a correct understanding of Kant's problem setting, concepts, and methods, and (B) whether the structure and expression of the assignments and reports, in the form of answers to questions, are written in a way that readers can understand.

GEO100TA（地理学 / Geography 100）
自然地理学（夏期スクーリング）
加藤 美雄
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生の意見等により授業内容を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	気候の概論	気象と気候の違い、気候地名、気候景観、都市の認知度などにより気候学の概要を講義する。
3	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。
4	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
5	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。

6	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
7	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
8	人為による気候の改変1（ヒートアイランドI）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
9	人為による気候の改変2（ヒートアイランドII）	ヒートアイランドが人間社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。
10	人為による気候の改変3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
11	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
12	異常気象2（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する講義資料は必ず読んでおくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著. インデックス・コミュニケーションズ
- ・成層圏オゾンが生物を守る. 関口理郎著. 成山堂
- ・ここまでわかった「黄砂」の正体. 三上正男著. 五月書房
- ・ヒートアイランドと都市緑化. 山口隆子著. 成山堂
- ・カルスト-その環境と人々とのかかわり. 漆原和子編. 大明堂
- ・新百万人の天気教室. 白木正規著. 成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、降水などにより分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities. The following seven goals are to be achieved. To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology. To consider the effects of human activities on the natural environment. To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment. To consider the predictions of change in the natural environment. To consider and summarize problems and measures of changes

in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、Quizzes : 40%、in Class Participation: 20%

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）
生物学3（講義）（夏期スクーリング）
大槻 涼
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

COVID-19の世界的パンデミックを経験し、正確で科学的根拠に立脚した生命観がより重要になると考えられます。このために本講義では、生物学における2つの軸、「普遍性」と「多様性」それぞれについて理解を深め、様々なスケール（分子レベルから地球規模まで）の生物学を俯瞰することを目的とします。それぞれの個別の情報を覚えるだけでなく、つながりを意識した理解を目指します。

【到達目標】

生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探ることができる。

講義で理解した事柄を文章で説明することができる。

生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。

大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はPowerPointをつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。

毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌日に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生物学とはどのような学問か？生物学の2つの「軸」	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの4つのなぜ
第2回	生命の階層性	<ul style="list-style-type: none"> ・分子-細胞-集団-生態系でかわる生物観 ・生物学研究の方法と特徴
第3回	生命誕生前夜	<ul style="list-style-type: none"> ・地球誕生から生命まで ・小惑星探査とわれわれのつながり ・宇宙生物学のいま
第4回	細胞誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球型生命体」の特徴とは？ ・細胞の2つのカタチ ・「全球凍結」がもたらした変化
第5回	生物のこれまで 全生物の系統関係とは	<ul style="list-style-type: none"> ・二界説から3ドメイン説、2ドメイン説まで ・分子系統学がもたらしたあらたな生命観 ・生命観の変遷と最新の話題
第6回	われわれの生命をささえる物質たち	<ul style="list-style-type: none"> ・水：異質な物質としての水 ・タンパク質：多様性と機能 ・核酸：しなやかで変化する特性 ・脂肪：ユニークで大事なしごと

第7回	細胞のしごと、タンパク質のしごと	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の中の化学反応 ・エネルギーをどうやって得るか？ ・酵素が支える化学反応
第8回	進化とは何か？種分化とは何か？	<ul style="list-style-type: none"> ・普遍性と多様性の架け橋としての進化 ・進化のしくみと種分化
第9回	適応放散と共進化	<ul style="list-style-type: none"> ・「超高速進化現象」としての適応放散 ・ユニークな生物の姿と生物のふしぎ ・生物間相互作用の世界
第10回	生物上陸作戦	<ul style="list-style-type: none"> ・植物、動物それぞれの陸上世界への進出 ・陸上植物の進化多様性
第11回	生物の大量絶滅	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5回の大量絶滅 ・地球環境の変化と生物の進化 ・生命が地球を変える
第12回	生物多様性とは何か？まとめ試験	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の「多様性」 ・多様性を理解するために必要なこととは？ ・地球環境問題とこれからの生態系

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】

岩波生物学辞典、巖佐庸 ら（編）、岩波書店、2013、第5版、ISBN-13：978-4000803144

キャンベル生物学 原書11版、池内昌彦 ら（監修、翻訳）、丸善出版、2018 ISBN-13：978-4621302767

【成績評価の方法と基準】

最終日に実施する試験(100%)によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

After the experience of the global pandemic of COVID-19, an accurate and scientifically based view of life will become more important. To this end, this lecture aims to deepen students' understanding of the two axes of biology, "universality" and "diversity," respectively, and to provide an overview of biology at various scales (from the molecular level to the global scale). The aim is not only to memorize each individual piece of information, but also to understand them with an awareness of their connections.

【Learning Objectives】

Understand basic content related to biology. To be able to do their own research on topics related to the latest science.

【Learning activities outside of classroom】

Students will summarize information in notebooks based on the lecture content. Also, prepare for the lecture based on the problems presented in the lecture.

【Grading Criteria / Policy】

All grades will be based on the final exam.

PHY100TA（物理学 / Physics 100）
物理学3（実験）（夏期スクーリング）
吉田 智
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで物理学は、長い年月をかけて実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって発展してきました。この授業は、光・波・重力・エネルギーなどの日常諸現象に関する実験を学生自らが行うことによって、それらの現象の本質を理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

身の周りの物理現象に関する実験を通じて、物理に関する知識を深めると共に、物理的な物の見方を修得することを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

学生自身が行う4種類の実験を中心にして授業が行われます。高校での物理の基礎知識が無くても実験内容の理解が深められるように、配布資料や一部映像を使用して講義も行います。なお、4日間で4種類の実験をローテーションで行うため、場合によっては下記の授業計画に記載されている実験の順番が前後します。質問などに対するフィードバックは講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及び光の性質	授業全体の進め方について説明をし、その後、実験3と4に関する光の性質について講義を行う。
第2回	太陽電池とLED	第1回に続き光の性質や、太陽電池とLED（発光ダイオード）の構造について講義を行う。
第3回	落体の法則	実験1に関する落体の法則について講義を行う。
第4回	実験1（落体実験）	重力によって落下する物体の様子を調べ、落下の法則やエネルギー保存則について理解を深める。
第5回	熱エネルギー	実験2に関する熱とエネルギーについて講義を行う。
第6回	実験2（熱の仕事当量の測定）	熱の仕事当量を測定することにより、熱についての理解を深めると共に、エネルギー変換について理解を深める。
第7回	実験3（光スペクトルの観察）	蛍光灯やランプなどが放つ光の波長を測定することによって、原子からの発光のメカニズムについて理解を深める。
第8回	光の二重性	光の性質に関連して、光や電子などが持つ二重性について講義を行う。

第9回	実験4（LEDの実験）	LEDを発光させるために必要な電気エネルギーと光の色との関係を調べることによって、光の性質について理解を深める。
第10回	万有引力の法則	落体の法則に関連して、万有引力の法則について講義を行う。
第11回	無重力状態での物理現象	日常では経験できない無重力状態での物理現象について紹介する。
第12回	超伝導現象	日常では見ることができない超伝導現象について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験をスムーズに行うために、実験前に予め配付プリントの該当箇所を読んでおくこと、更に実験後のデータ解析とレポート作成が必要となります。授業の準備やレポート作成を含めた予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配付プリントを使用するため、教科書は使用しません。

【参考書】

特に指定はしません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は実施せず、実験のレポート(80%)と平常点(20%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具に加えて、15cm程度の定規と電卓（携帯電話やスマートフォンのアプリでも可）を持参してください。更に、手書きでレポートを作成する場合は、市販のA4サイズで横書きのレポート用紙も用意してください。一方、ワープロソフトでレポートを作成する場合は、各自で印刷できることが必要となります。

【Outline (in English)】

In this course, students carry out experiments related to physical phenomena such as light, wave, gravity, and energy by themselves. The goals are to understand various fields in physics by experimental methods, and to acquire the physical perspective. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to prepare reports. Grading will be decided based on reports (80%), and in class contribution (20%).

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
基礎特講（夏期スクーリング）
及川 智洋
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個人と社会、国家、世界との関係について考える

【到達目標】

社会の中の自己と「公共」の概念、政治・経済の基本的枠組みについて理解し、論理的に説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心にして、アンケートやその講評などを適宜行う。受講者の人数によってはテーマ討論などを行う場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生きてゆく私	現代はどんな時代か、個人が送る人生と、その中での学びの意味について考える
第2回	社会と公共	社会とは何か。自分はどんな役割を持っているのか、他者と共に生きるのに必要な「公共」の概念
第3回	ルールを作る	社会的な慣習と倫理、法律とそれを決める政治の機能
第4回	市場・共同体・政府	それぞれの機能と役割について、私たちはどんな場面でそれらが必要としているか
第5回	民主政治と個人	民主主義に基づく政治体制と、個人の政治参加について
第6回	家族の変容と社会	人権の確立に伴って家族の形はどのように変化し、社会にどう影響したか
第7回	社会保障と少子高齢化	福祉制度の変遷と近年の人口減少までと、その対策を考える
第8回	市場経済と生産者・消費者	経済活動の自由と必要な規制、サービスと対価の関係
第9回	国際関係と平和構築	世界の中にある私たちの位置を知り、国家間・民族間の紛争の原因と解決について
第10回	メディアとコミュニケーションの変化	伝統的なマスメディアの役割と、ソーシャルメディアの発達が社会と人間関係に及ぼす影響
第11回	調べることと伝えること	誰もが発信者になりうる時代、正確な情報を得て整理し、的確に他者に伝えるには
第12回	まとめと試験	前半で授業内容を整理して振り返り、後半で論述式の筆記試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

下村健一『10代からの情報キャッチボール入門』岩波書店、2015年、1600円＋税
 外岡秀俊『発信力の育てかた』河出書房新社、2015年、1300円＋税

【成績評価の方法と基準】

最終授業での論述形式の試験で決定する。社会の中の自己と「公共」の概念、民主政治の機能について理解し、論理的に説明できているかを基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

初年度授業のためなし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the relationship between individuals and society, state, and the world.
 relations between individual and society , states, the world.

【Learning Objectives】

You can understand and logically explain the concept of self in society and "public" , and the basic framework of politics and economics.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
英語 S (1) (夏期スクーリング)
JAMES O ESSEX
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースの主な目的は、英語の俳句と川柳について学び、それを書くことである。受講生は、すでに書かれた俳句や川柳、またクラスメートの俳句や川柳を分析し、議論日本語の俳句・川柳と英語の俳句・川柳には大きな違いがあり、俳句・川柳の起源や歴史に触れた後、その違いに注目する。

このコースの第一の目的は、英語の俳句・川柳を鑑賞し、学び、書くことである。受講生は、すでに書かれた俳句・川柳、およびクラスメートの俳句・川柳を分析し、議論する機会を与えられる。

このコースの目標は、特に英語で書かれた俳句や川柳への理解を深めること、そして教授のワークショップ方式、仲間との俳句や川柳の分析・討論を生かした英語の俳句や川柳のポートフォリオを作成することである。

【到達目標】

The goals of this course are to foster an appreciation for haiku and senryu, especially those written in English and to produce a portfolio of English-language haiku and senryu that draw on the professor's workshop approach, and analysis/discussion of haiku and senryu with peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- Lecture
- Workshop/seminar
- Class discussion
- Peer feedback

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation and introduction to haiku and senryu	- What is a 'haiku'? - What is a 'senryu'? - The 'haiku' moment
第2回	Linguistic and aesthetic differences between Japanese and English haiku	- Syllables - Form/Layout
第3回	Old haiku masters	- Basho - Issa - Shiki - Buson - and others
第4回	Modern haiku masters	A look at the work of modern-day haiku poets (there are too many to single out here).
第5回	Kigo and kidai (1) Spring / Summer / Autumn / Winter	- Season words - Words that allude to the seasons

第6回	Kigo and kidai (2)	- Season words - All seasons/no season
第7回	Creating a kiyose and saijiki	Creating a 'saijiki' (a dictionary of season words using example haiku) and a kiyose (a glossary of word list of terms used in haiku.
第8回	Kireji	'Cutting' words
第9回	Translating haiku	- Can haiku be translated? - Should haiku be translated? - How can haiku be translated? - What are the problems posed and caused by translating haiku?
第10回	Senryu	- Identifying the differences between haiku and senryu - Writing senryu
第11回	Ginko walk	Taking a walk - a 'haiku walk' - to find the 'haiku moment' and inform haiku writing
第12回	Final exam and portfolio submission	Short exam based on Professor's lectures, required readings and classroom discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read specific handouts prior to the next day's lesson. Some of the readings may take an hour or more. Homework will be set for each class of the course.

Handouts can be accessed from the shared folder at this URL: tiny.one/haikuandsenryu

※ This folder will be empty until 7/20 (PM)

生徒は、翌日の授業前に特定のプリントを読むことが期待されます。読書には1時間以上かかるものもあります。コースの各クラスに宿題が出されます。

プリントはこのURLの共有フォルダからアクセスできます。
tiny.one/haikuandsenryu

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Materials/handouts will be provided.

【参考書】

Materials and handouts will be shared using the following shared folder (no sign-up required). The professor will direct students to specific handouts and resources, and they will be expected to read them at home prior to the subsequent class.
tiny.one/haikuandsenryu

【成績評価の方法と基準】

Haiku and Senryu Portfolio: 80%

Participation: 12%

Final Exam: 8%

【学生の意見等からの気づき】

This is a new class for students at Hosei University. Feedback at the end of the course is welcomed.

法政大学の学生を対象とした新しい授業です。コース終了時のフィードバックは歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

A notebook (preferably not loose-leaf paper)

Pencil

A black sign pen

C-531 Information Cards Size: 5 x 3 (Plain/Blank)

【その他の重要事項】

No previous experience required, even in Japanese haiku. This course of for novices and experts alike.

日本の俳句の経験も問いません。この講座は、初心者から上級者まで、幅広く対応します。

【None】

There are no pre-requisites.

【Outline (in English)】

There are vast differences between the form of haiku and senryu written in Japanese and those written in English and this course, after exploring the origins and history of haiku and senryu, will draw students' attention to these differences.

The primary aim of this course is to foster an appreciation for, learn about - and write - English-language haiku and senryu. Students will be given opportunities to dissect and discuss haiku and senryu already written, and those of their peers in the class.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（2）（夏期スクーリング）
高井 美紀子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語の実践的な諸技能を学ぶとともに、クリティカル・シンキングの技法も学びます。毎回の授業で、現代社会の様々なトピックを扱った500語程度の英文を2つ程度読み、ヴォキャブラリーやイディオムなどの様々なアクティビティに取り組んだ後で、批判的思考を養うためのライティング・アクティビティに取り組みます。学習の中心となるのは、英文エッセイのリーディングです。100分の授業で500語程度の英文エッセイを2つ読みこなすには速読が不可欠です。本授業では、5文型などの英文構造の理解を徹底し、パラグラフ・リーディングの技法を身に着けることにより、より正確で効率的な英文読解能力を獲得することを目指します。速読はリスニング・アクティビティと並行して行います。最終的に、話すスピードに近い速さで英文を読めるようになることを目指します。学生が、現代世界においてあらゆる情報リソースの宝庫である英語を有効活用して21世紀世界を生きていく力を涵養することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業を通して学生は以下の能力を身に着けます。

- ①英文5文型の理解を徹底させ、リーディングやライティングに活用できるようにする。
- ②パラグラフ・リーディングの技法を身に着け、パラグラフの中心となる中心センテンスやキーワードを意識しながら文章を読む。
- ③無限にあるヴォキャブラリーやイディオムを効率よく覚えるためのイメージ力を身に着ける。
- ④喋るスピードに近い速さで英文を読めるようになる。
- ⑤英文ライティングの基本を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。速読の授業ですので、授業内で読解のための時間はとりません。そのために準備学習が必須となります。授業の最初に、準備学習として取り組んだVocabulary List.の単語の意味をチェックし、リスニング・アクティビティに取り組み、読解チェックを行います。読解後にイディオムや内容理解のアクティビティを行い、最後にライティングに取り組みます。演習形式ですので、学生の積極的な授業参加が求められます。

最終授業（第12回授業）で行う筆記試験のフィードバックは、試験の後に講評において行います。試験内容や採点の基準について解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や、授業準備のやり方、評価方法などの方針説明。
第2回	1. A Dream for all Nations 2. Brain Drain	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。

第3回	3. Cosmetic Tourism 4. Changing Breakfasts	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第4回	5. Modern Love	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第5回	6. Special Need 7. Culinary Diplomacy 8. 2nd-and 3rd-Generation Immigrants	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第6回	9. Happily Single 10. The Magic of the Smartphone	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第7回	11. Mindfulness	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第8回	12. Marriage 13. The Power of Learning a Foreign Language	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第9回	14. Sleep 15. The Space Business 16. Passport Strength	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第10回	17. Fake News	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第11回	Writing Training	テキストで学習した内容をもとに英文ライティング演習を行う。学習の定着度を確認するための筆記試験（60分）、筆記試験の内容・採点基準の解説、質疑応答等（40分）
第12回	筆記試験 試験フィードバック	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、準備学習を重視します。準備学習として、授業で扱うUnitのVocabulary List.に出ている単語を全て辞書で引いて意味を調べて授業に臨んでください。また、各Unitのリーディング記事にも目を通しておいてください。準備学習に必要な時間は1時間を標準とします。復習は特に指定しません。

【テキスト（教科書）】

【テキスト】 Reading for Bright Future

【著者】 Abhay Joshi

【出版社】 南雲堂

【出版年】 2022年

【価格】 2640円

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（40%）、筆記試験（60%）の合計100%で評価します。全授業12回のうち8回以上出席していることが筆記試験受験の条件となります。遅刻や早退は0.5コマとしてカウントされます。

【学生の意見等からの気づき】

昨年は、扱ったテキストの英文が長すぎたために授業時間内にリーディングを読み終わらずに抜粋する形で読みました。今年は適度の長さの英文を選び、予習を必須として、テキストを全部読み終わることを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業開始前までに各自テキストを購入しておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire practical skills in English language as well as critical thinking skills. Students read two essays with around 500 words in each lesson and do exercises in vocabulary, idiom, and writing. The core of learning in the class is rapid reading. In order to achieve this goal, this course introduces comprehensive understanding of the basic structure of English sentence, especially the thorough understanding of 5 sentence patterns, and skills in paragraph reading to students. These learnings enhance the development of students' skill to read English articles both with accuracy and rapidity.

The goals of this course are to

- ① be able to read English passages at a pace close to a speaking pace.
- ② get better understanding of 5 sentence patterns and make use of them in reading and writing.
- ③ learn skills in paragraph reading and be able to read articles noticing a key sentence and key words in each paragraph.
- ④ have image of words and idioms to increase vocabulary.
- ⑤ learn the basic skills in English writing.

Before each class meeting, students will be expected to have read through a reading text in each unit and check the words in Vocabulary List. using a dictionary. Your required study time is at least an hour for each class meeting.

Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（3）（夏期スクーリング）
Robert Durham
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an English course to assist students to further develop their English proficiency, via content-based English-learning. Your teacher hopes that discussing many International topics will assist students to speak up more boldly, to say their opinions in English. Students will be urged to learn to explain in English their answers to questions about Current International News videos.

【到達目標】

Students will learn about cultures & social practices from around the English-speaking world; and will also learn how to explain Japanese culture to English-speaking people in this Global Society. Students will be encouraged to learn how to think critically [in-depth] about important Global Issues; and will be urged to effectively express their own thoughts and opinions in modern English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; & recent world events.] Introductions, in smoothly, natural, friendly English. English video #1	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto. Students will be asked to express English opinions, re: English video.
第2回	Video #1, part 2: asking students to express active opinions in English.	How to say (speak) your own opinions, in English...and how to EXPLAIN them.
第3回	Using the Future tense in English, to explain your weekend or future plans.	Active English spoken expressions, re: future plans.
第4回	Using English Past tense to explain your weekend activities, in spoken English.	Actively speaking about the recent Past, in spoken English, using the English Past Tense.

第5回	"How are you?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"/ "How are you doing?"/ etc.
第6回	Expressing your opinions about Current Affairs News video #2, in active, dynamic spoken English.	Pair practice: saying (speaking) your opinions about English videos, in modern English.
第7回	Speaking (^elaborating in detail), in modern English, about your five active hobbies.	Pair practice & questions about hobbies: students will learn how to speak their opinions (in English) to classmates.
第8回	News or documentary video #3	Lots of practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.
第9回	Explaining how to ask for (& give/speak) street directions, in clear English.	Practicing asking/giving English directions, as pair practice.
第10回	Current news or documentary video #3	Much practice in spoken English, to explain student opinions about the topics raised by the video.
第11回	Using 'would' & Past tense, vs. "will' & Present tense.	Pair practice & questions, re: 'would' / Past Tense; & 'will' / Present Tense.
第12回	Final 'wrap up' & summary, including questions about Summer plans.	Pair practice subjects learned, & re: Summer plans.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazukke"]; please try to arrive in class ON TIME [not late]; please try not to do too much overtime work; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen.

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. (On the other hand: textbooks are expensive....) Some inexpensive handouts will be distributed and/or e-mailed to students.

In addition, some News videos & video documentaries may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions to answer about those videos).

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 25%); speaking exam(s) spoken replies (approximately 25%); attendance/on-time arrival (approximately 15%); class participation/motivation (20%); and homework (15%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE

【学生の意見等からの気づき】

-

【学生が準備すべき機器他】

Please bring to each class: a notebook/binder; a black pen; a red pen; an English-Japanese/Japanese-English dictionary [paper or electronic]; an English language LARGE namecard; and a daily planner/schedule book [a 'techo', in Nihongo].

A fast COMPUTER with a large screen, a full keyboard, and fast Wi-Fi, will be useful in viewing any News video homework; and in typing up answers to bring to class. (Smartphones are TOO SMALL to do homework effectively.)

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; please sit together with other students, in class, AT THE FRONT OF THE ROOM; and please speak together with your classmates, using lots of eye contact, smiling, & good Body Language. If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

Class etiquette: please cover your mouth, if/when you cough/sneeze/yawn. If a student becomes ill, he/she should stay home, to avoid infecting classmates & the teacher.

【Outline (in English)】

This class will include English conversations about everyday topics (for example, asking/answering "How are you?" / "How was your weekend?" / "What are your plans for this weekend?" / etc.)

+ Also included: discussion about timely, current International News topics. (Some recent News videos may be shown/watched.)

+ IF there's enough time (& IF there is student interest): we can watch & discuss some English TED TALK videos.

+ Student requests are welcome: if enough students request a topic for study, your teacher might be able to practice/study that, in English.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（4）（夏期スクーリング）
大曲 陽子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ2023年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は12回全てを対面授業とします。

本授業で扱うUnitは、次に指定する6つのUnit とする。

Unit 1, 4, 5, 9, 10, 12

予習の際気をつけること。

ほぼ2回の授業で1つのUnitを学習する。1回目の授業ではDefinitionで語彙を学習し、Examplesを完成させる。ニュースの音声聞いてディクテーションし、リスニングに挑戦する。2回目の授業では、ニューススクリプトの内容理解を行い、TF問題で仕上げをする。

Unit一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

グループワークを行うことがある。

課題等に対するフィードバック方法

毎回課題の提出がある。次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	初回授業説明
	Unit 1 Ukraine's Comedian-turned-president	definition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニューススクリプトの完成させる。
第2回	Unit 1 ウクライナ ゼレン スキー大統領の軌跡 をたどる	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第3回	Unit 4 No Mere Fill-In	Unit 1 語彙テスト definition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニューススクリプトの完成させる。
第4回	Unit 4 NY州初の女性知 事！ キャシー・ホー クル氏とは？	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第5回	Unit 5 Look but Don't Speak	Unit 4 語彙テスト definition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニューススクリプトの完成させる。

第6回	Unit 5 先進諸国で最低レベ ル 女性の政治参加 が進まない日本	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第7回	Unit 9 Allies Against Authoritarianism	Unit 5 語彙テスト definition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニューススクリプトの完成させる。
第8回	Unit 9 「ミルクティール同盟」 アジアの若者たちが 反権威主義掲げ結束	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第9回	Unit 10 Suggestive Revelations	Unit 9 語彙テスト definition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニューススクリプトの完成させる。
第10回	Unit 10 世界の指導者たちの 秘密取引を暴く！？ 「バンドラ文書」公開	スクリプト、ニュース内容の確認（和訳） 内容のTF問題
第11回	Unit 12 Miraculous Footwork	Unit10 語彙テスト definition、Examplesの確認。 全員でリスニングをしてニューススクリプトの完成させる。
第12回	Unit 12 下半身麻痺の男性 脊髄インプラントで 再び歩行可能に 期末試験	内容のTF問題 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業前の準備としては、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストのDefinition、Examplesはしっかりと調べて完成させておく。

その他未知な語彙があれば徹底的に調べておく。

ニュースのリスニングは、授業で一緒に行いますが、適宜和訳も行うので、授業前に音声を聴いておいたほうがより効果的です。

翌日前半授業の冒頭で前日の語彙テストを行います但那ときの出題範囲はJudgments To Makeのページとします。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（24）

朝日出版 2200円（+税10%）

【参考書】

特になし。

辞書必携。

【成績評価の方法と基準】

● 授業内課題提出 20%

● 小テスト 10点×5回分 50点 30%

● 期末試験 50%

* 6日間合計12コマのうち8コマ以上の出席していること。（各コマの遅刻、もしくは早退は、0.5コマ分の出席としてカウントする。）

* 最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントする。（欠席は2コマ分の欠席、遅刻、早退は1コマ分の欠席とする。）

【学生の意見等からの気づき】

Unitに関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

課題にリスニングが含まれるので、教科書のQRコードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

出欠席について

* 6日間合計12コマのうち8コマ以上の出席していること。（各コマの遅刻、もしくは早退は、0.5コマ分の出席としてカウントする。）

* 最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントする。（欠席は2コマ分の欠席、遅刻、早退は1コマ分の欠席とする。）

担当教員に質問などの連絡がある場合は、以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【 Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

class contribution 20%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（5）（夏期スクーリング）
妻鹿 裕子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNNのニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

一つのunitを二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半はExamplesを小テストとして行い、DefinitionとExamplesの答え合わせをした後、Blanks to Fill inでリスニングをし、答えの確認をします。後半はJudgments to Makeを小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Makeの答え合わせをします。小テストのフィードバックは授業中に、学期末試験のフィードバックは試験終了後に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
第2回	Unit 1	Ukraine's Comedian-turned-president (listening)
第3回	Unit 1	Ukraine's Comedian-turned-president (reading)
第4回	Unit 2	Four-Footed Refugees (listening)
第5回	Unit 2	Four-Footed Refugees (reading)
第6回	Unit 3	Nobel Journalism (listening)
第7回	Unit 3	Nobel Journalism (reading)
第8回	Unit 4	No Mere Fill-In (listening)
第9回	Unit 4	No Mere Fill-In (reading)
第10回	Unit 5	Look but Don't Speak (listening)
第11回	Unit 5	Look but Don't Speak (reading)
第12回	試験・まとめと解説	学期末試験と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半はDefinitionとExamplesを予習をしましょう。後半はスクリプトの訳をし、Judgments to Makeの答えを探しておきましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNNビデオで見る世界のニュース(24)』（朝日出版社）

【参考書】

学習用音声ストーリーミング配信 <https://text.asahipress.com/free/player/index.html?bookcode=215677>

【成績評価の方法と基準】

テスト35%、小テスト35%、平常点30%で評価します。試験の受験資格として出席要件が定められていますので、各自確認しておいて下さい。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項等の丁寧な説明と質問しやすい雰囲気づくりを心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を使用します。

【Outline (in English)】

Course Outline

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Study time will be one hour for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 35%
2. Mini Tests 35%
3. Classroom Participation 30%

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（6）（夏期スクーリング）
吉田 季実子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外向けのニュース番組という最新の身近な題材を通して、英語の Listening, Reading, Writing, Speaking の技能を高める

【到達目標】

実際に放送されている英語での海外向けニュース映像を見て、身近な話題に関しては日本語字幕なしでも内容が理解できるようになる
 また実際に話されている文章についてもある程度まで聞き取れるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの課題に添って進めていくが、各章の終わり事に確認の小テスト、問題演習を行う。

テキスト内で使用されている音声を、別途ダウンロードして視聴が必須となるがそちらについては毎回指示

最終授業で、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit1	単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第2回	Unit1	聞き取りと本文の和訳 英作文
第3回	Unit1/2	Unit1の小テスト Unit2
第4回	Unit2	単語や表現を確認 映像をみての問題演習 聞き取りと本文の和訳 英作文
第5回	Unit2/3	Unit2の小テスト Unit3
第6回	Unit3	単語や表現を確認 映像をみての問題演習 聞き取りと本文の和訳 英作文
第7回	Unit3/4	Unit3の小テスト Unit4
第8回	Unit4	単語や表現を確認 映像をみての問題演習 聞き取りと本文の和訳 英作文
第9回	Unit4/5	Unit4の小テスト Unit5
第10回	Unit5	単語や表現を確認 映像をみての問題演習 聞き取りと本文の和訳 英作文

第11回 Unit5/6 Unit5の小テスト

Unit6
単語や表現を確認
映像をみての問題演習
聞き取りと本文の和訳
英作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
 小テストに合わせて前回学習範囲の復習をすること
 また各章冒頭、表題とその下のページは予習の時に目を通しておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE6
 山崎達朗
 金星堂 2023年 2400円（税別）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 80 %
 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

辞書
 また、自宅学習用のオンライン教材があるので
 それを再生できる PC スマートフォンなどのメディア機器があると望ましい

【その他の重要事項】

感染症拡大等の状況でオンライン授業になる場合はYouTube動画配信予定です

【Outline (in English)】

This course introduce students 4 skills of English (Reading, Writing, Listening, Speaking) through NHK news.
 The goals of this course are to understand the familiar topics in English.
 Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour.
 Your overall grade in the class will be based on the following,
 Short tests 80%, in class contribution 20%

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（7）（夏期スクーリング）
小田井 勝彦
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス蔓延以降、海外旅行を行う機会も失われてしまった。この授業では様々な国の文化を扱った教科書を使用し、外国文化に触れる機会を持ち、国際理解に関する見識を高めるとともに、**Reading, Listening, Writing, Speaking** といった英語の総合運用能力を身につける。

【到達目標】

- ・海外の文化や社会、歴史についての見識を高める
- ・国際理解についての見識を高める
- ・上記に必要な英語の語彙を習得する
- ・「読む」「書く」「聞く」「話す」といった英語の総合運用能力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

下記に記載の教科書に沿って授業を進める。事前に本文の読解、各問題に解答することが求められる。授業では、まずは教科書本文を学生が1文1文日本語に直すことにより内容理解をする。その後**Reading Exercises**により本文の内容理解を確認する。その後、**Conversation**について内容理解、会話練習、要約練習などを行なう。本文の和訳や問題の1部をリアクションペーパーとして回収する。回収したものについては適宜コメントや解説をつけてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス Chapter 1 Canada	授業の進め方、評価について説明する。その後教科書に入り、カナダの自然に恵まれた調和文化についての文章の読解、会話演習を行う。
第2回	Chapter 2 Thailand	タイの香り文化についての文章の読解、会話練習を行います。
第3回	Chapter 3 Germany	環境先進国ドイツについての文章の読解、会話演習を行う。
第4回	Chapter 4 Turkey	トルコの人情文化についての文章の読解、会話演習を行う。
第5回	Chapter 5 Russia	ロシアの極寒の中で生きる文化についての文章の読解、会話演習を行う。
第6回	Chapter 6 Israel	イスラエルの伝統と技術についての文章の読解、会話演習を行う。
第7回	Chapter 7 South Africa	南アフリカの親睦文化についての文章の読解、会話演習を行う。
第8回	Chapter 8 The United States	自動車大国アメリカについての文章の読解、会話演習を行う。
第9回	Chapter 9 France	効率重視のフランス文化についての文章の読解、会話演習を行う。

第10回	Chapter 10 Bangladesh	バングラデシュの混沌とのどかさについての文章の読解、会話演習を行う。
第11回	これまでの復習とまとめ	これまでに学んだことの復習とまとめを行なう
第12回	まとめと試験	前回到続きこれまでに学んだことのまとめを行い、その後内容理解、習熟度を確認するために試験を行う(60分)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。事前に、教科書の本文については読むこと、各問題に解答することが求められます。

【テキスト（教科書）】

松井夏津紀, 飯田泰弘, 金田直子, ケン・ウィング・ブーン『世界の衝撃アイテムから学ぶ15の国の文化と人々』（南雲堂, 2021, 1900円+税）

【参考書】

『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい。電子辞書でも良い。

【成績評価の方法と基準】

平常点(予習の有無、授業での参加度) 30%
試験 70%

※試験の受験資格として、6日間合計12コマ（1日2コマ×6日）のうち8コマ以上出席していることが求められます（各コマの遅刻もしくは早退は、0.5コマ分の出席としてカウントする。最終日のみ、前半授業を2コマとしてカウントする（欠席は2コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は1コマ分とします）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This class is aimed at improving students' international understanding and learning comprehensive English abilities by using a textbook about a variety of cultures.

[Learning Objectives]

1. Students can read English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for reading English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about foreign cultures.

[Learning activities outside of classroom]

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour for a one-credit course.

[Grading Criteria / Policy]

- ・ term test 70%
- ・ activities in class 30%

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（8）（夏期スクーリング）
今井 澄子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文読解を通じて大学生に必要な英語の基礎を固めるとともに、構文把握能力を高め、よく使われる英語表現の習得を目指す。

【到達目標】

基本的な文法、熟語の知識を生かして英語の構文を把握し、600単語程度の基本的英文読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めに教科書の問題で英語音声のListening小テストを行う。Reading Passage 英文について要点、構文・語彙を説明したのち、音読・日本語訳を各自に課し、内容についての問題で理解を確認する。授業中に行った小テスト、問題について解答・解説によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス Unit1 Health and Social Welfare	授業に関する説明 健康と社会福祉
第2回	Listening小テスト1 Unit2 Care Workers from Overseas	Unit1 Dictation 外国人介護労働者
第3回	Listening小テスト2 Unit3 Critical Knowledge	Unit2 Dictation 批判知
第4回	Listening小テスト3 Unit4 Child Poverty	Unit3 Dictation 日本の子どもの貧困
第5回	Listening小テスト4 Unit5 Empowering Women	Unit4 Dictation 女性のエンパワーメント
第6回	Listening小テスト5 Unit6 Sport Psychology	Unit5 Dictation スポーツ心理学
第7回	Listening小テスト6 Unit9 Healthy Bones	Unit6 Dictation 骨の健康のために
第8回	Listening小テスト7 Unit10 Child Maltreatment	Unit9 Dictation 児童虐待

第9回 Listening小テスト8
Unit11 SDGs
Unit 10 Dictation
持続可能な開発目標

第10回 Listening小テスト9
Unit14 DOMSi: An Example of Social Enterprise in Japan
Unit 11 Dictation
こむの事業所

第11回 Listening小テスト10
Unit7, 8, 12, 13, 15
Unit14 Dictation
Sammary解説・解答による
Unitの内容概説
並べ替え英作文問題の追加説明

既習Unitの文法・作文
第12回 学習内容のまとめと
筆記試験を実施する
解説・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とする。教科書英文は基本的だが、初歩的な英文法を中心とした構成にはなっていない。ひたすら英文読解をしていくので、意味のわからない単語を辞書で調べておくなど、あらかじめ目を通すと音読・日本語訳を課されたときに対応しやすく、説明も理解しやすくなる。Reading Passageの一部を使ったListening小テストを行うが、教科書には音声ダウンロード/ストリーミングがついているので、音声を事前に聴くことができる。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Human Life and Society「人間生活と社会福祉を読み解く新たな視点」南雲堂

【参考書】

英和辞書

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%とする。平常点内訳は授業参加度 20%、Listening小テスト平均点10%、Writing、小テスト、課題等20%。評価点100点満点のうち60点以上で合格。なお、授業初めのListening小テストに参加できれば遅刻とするが、終了後は欠席とする。なお、最終試験の受験資格は以下の通り。

<終日3日型>

(1) 3日間合計12コマ（午前・午後各2コマ×3日）のうち8コマ以上の出席、かつ毎日出席していること（各コマの遅刻もしくは早退は、0.5コマ分の出席としてカウントする）。

(2) 最終日（試験日）の午後のみ、前半授業を2コマとしてカウントする（欠席は2コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は1コマ分の欠席）。

【学生の意見等からの気づき】

夏期スクーリング終日クラス新規担当につき、前年度アンケート結果なし。他の担当授業と同様に、わかりやすい解説を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

授業には英和辞書を持参すること。

【その他の重要事項】

質問等にはできるだけ教室で対応する。質問内容は常識的なものに限る、あまりに漠然としたもの、対応に時間がかかって個別指導になるようなものは公平性の観点から不適切なので避けていただきたい。

【Outline (in English)】

In this class, students read basic English passages and study essential English grammar and expression. At the end of the course, students are expected to have an appropriate ability to read basic English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant unit from the text. Students' required study time is at least two hour for each class meeting. Their overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, and in class contribution 40%.

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）
独語S（夏期スクーリング）
三ツ石 祐子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はドイツ語を初めて学習する学生のための授業です。ドイツ語文法の基礎の基礎を身につけることを目標とします。その際、ドイツ語やドイツ語圏の文化を断片的ではありますが紹介します。ドイツ語やドイツ語圏の文化に対する興味や理解を深めることによって、日本や他の文化圏に対する理解が深まることを期待します。

【到達目標】

この授業を履修することで以下のことが出来るようになります。

- 1) 発音ルールを覚え、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 挨拶ができる。
- 3) 基本的な文法事項を習得する。
- 4) 簡単な文（1週間の予定、1週間の出来事など）が理解できる。
- 5) 数字を使った表現（時間や値段を確認するなど）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・アルファベットやウォーミングアップ的な発音練習の後、一緒に教科書を読み進めます。
- ・内容の理解を深めるためにペア、あるいはグループワークを行います。
- ・学習した内容を応用した会話練習なども行い、実際に自分で声に出して発音します。
- ・法政大学の2023年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。
- ・提出物などのフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	ドイツ語のアルファベット、母音の綴りと発音、子音の綴りと発音、あいさつ
第2回	名詞（1）	名詞の性と定冠詞、名詞の複数
第3回	名詞（2）	不定冠詞、人称代名詞、所有冠詞、形容詞
第4回	動詞（1）	人称と定動詞、値段の言い方
第5回	動詞（2）	4格支配の動詞、人称代名詞の4格
第6回	動詞（3）	3・4格支配の動詞、人称代名詞の3格
第7回	枠構造（1）	話法の助動詞、時刻の言い方
第8回	枠構造（2）	完了形
第9回	前置詞（1）	3格支配の前置詞、4格支配の前置詞
第10回	前置詞（2）	3・4格支配の前置詞、前置詞句を支配する動詞
第11回	動詞（4）	3基本形、過去人称変化
第12回	まとめ	第1回から11回までの振り返り、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありませんが、毎回の授業で学習した内容の復習は必須です。各回で学習したことを定着させるには個人差があると思いますが、平均的に毎回1時間程度の復習を標準とします。また授業進度によっては、標準復習時間とは別に、練習問題や簡単な作文の宿題を課す場合もあります。

【テキスト（教科書）】

『はじめてのドイツ語』 福本義徳著、講談社現代新書1073、1991年初版、¥800＋税、ISBN 978-4-06-149073-4

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』 新野守広・飯田道子・梅田紅子編著、高文研 2017年初版 ¥1700＋税

『ドイツ語のしくみ<新版>』 清野智昭著 白水社 2014年 ¥1300＋税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度（ペアワーク、グループワーク等含む）、宿題、発言など）50％＋試験50％とし、60％以上（各30％以上）で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の方からいただいた「もっと深く学びたかった」というご意見を踏まえた教科書を選びました。

【学生が準備すべき機器他】

可能な限り辞書をご用意ください（電子辞書でも構いません）。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度や内容の一部など、状況により変更する可能性があります。

質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先でも随時受け付けます。

メールアドレス：yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Outline】

This course is designed for students who are learning German for the first time. The aim is to provide students with a basic grounding in German grammar. In doing so, students will be introduced to the German language and the culture of German-speaking countries, albeit in fragments. By deepening your interest in and understanding of the German language and German-speaking cultures, we hope that you will deepen your understanding of Japan and other cultural areas.

【Learning Objectives】

By taking this class, you will be able to.

- (1) Learn pronunciation rules and be able to pronounce words and sentences that are new to you.
- (2) Be able to greet people.
- (3) Acquire basic grammatical matters.
- (4) Understand simple sentences (e.g. weekly schedule, what happened during the week).
- (5) Be able to use numerical expressions (e.g. checking time and prices).

【Learning activities outside of classroom】

No specific preparation is required, but review of what is learnt in each lesson is essential. Although it may take different individuals to consolidate what they have learnt in each session, on average, about one hour of review is standard for each session. Depending on the progress of the class, students may also be required to do some homework in addition to the standard review time, such as exercises or simple writing assignments.

【Grading Criteria/Policy】

The grade is 50% of normal marks (e.g. class participation (including pair work, group work, etc.), homework, comments, etc.) plus 50% for the examination, with a minimum of 60% (minimum of 30% each).

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）
仏語S（夏期スクーリング）
柴崎 秀穂
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学習する学生のためのクラスです。フランス語の初歩的な会話と文法を学びます。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞いて、書いて、読めるようになること。実用フランス語技能検定試験の5級レベルに対応します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

CDを聞き、教師が解説した後、学生たちに基本例文を暗記してもらいます。その後、指名された学生が口頭で発表します。単語についても同様に暗記します。テキストの練習問題は適当に飛ばし、2回の授業でテキストの1課を終える予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
	Leçon 1	アルファベ 国籍を言う
第2回	Leçon 1	主語人称代名詞 「～である」
第3回	Leçon 2	職業・身分を言う
第4回	Leçon 2	er 動詞現在形
第5回	Leçon 3	名詞の性と数
第6回	Leçon 3	否定文
第7回	Leçon 4	「持つ」 否定の冠詞
第8回	Leçon 4	疑問文
第9回	Leçon 5	所有形容詞 疑問詞
第10回	Leçon 5	形容詞の性と数
第11回	Leçon 6	定冠詞
第12回	期末試験とまとめ	期末試験とその解説、総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、1時間程度の復習は必ずすること。まず文法事項を確認し、テキストの「対話」を繰り返し音読してください。

【テキスト（教科書）】

『新装 カフェ・フランセ』、ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社

【参考書】

『ゼロから始めるフランス語』、猪狩著、三修社

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より理解しやすいように、授業資料を加筆・修正しました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般についてアドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

This is a course for students who start to study French. You will learn especially French conversation.

・ Learning objectives

At the end of the course, students are expected to speak basic French.

・ Lecture/Exercise

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

HSS100TA（健康・スポーツ科学/Health/Sports science 100）
健康・スポーツ科学概論（夏期スクーリング）
中澤 史
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリートやスポーツチームの心理支援に適用するスポーツ心理学の理論と方法は、日常生活で直面する心理的諸問題の解決に資する手段ともなる。本授業では、講義、文献講読、グループワーク等を通してスポーツ心理学の理論と方法について学習し、獲得した知識が日常生活やビジネス場面に援用可能なことを理解するとともに、その援用方法について検討する。

【到達目標】

1. スポーツ心理学の理論および方法が、日常生活やビジネス場面に援用可能なことを理解する。
2. スポーツ心理学の理論および方法を日常生活やビジネス場面に援用する方法について述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、夏期スクーリング期間中に連続6日間（1日2コマ）実施される。授業は、指定した教科書の内容を踏まえた講義、文献講読、グループワーク等から構成され、授業中の活動に対する参画状況に加え、リアクションペーパー、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の詳細については初回ガイダンスの際に説明する。なお、授業内で行ったリアクションペーパーやレポート等の課題に対する講評や解説は次回授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、スポーツと心	授業の概要説明、スポーツと心の関係について学ぶ
第2回	チームワーク	グループワークを通して「他者からみた私」を知る
第3回	パーソナリティ	パフォーマンスとパーソナリティの関係について学ぶ
第4回	チームビルディング	自他の理解を深めるグループワークに取り組む
第5回	リラクゼーション	不安、あがり、緊張について学ぶ
第6回	楽観主義と悲観主義	防衛的悲観主義について学ぶ
第7回	動機付け	目標設定とモチベーションの関係について学ぶ
第8回	コミュニケーション	言葉がけの効果について学ぶ
第9回	アスリートの支援者	ソーシャルサポートについて学ぶ
第10回	色彩心理学	スポーツと色の関係について学ぶ
第11回	自信	自信とムーンスパイラル現象の関係について学ぶ
第12回	総括、授業内レポート	総括、授業内レポートに取り組む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 教科書の内容を踏まえたアサインメントを課すため、それに取り組んでください。
2. 指定した文献等がある場合には、事前に講読しておくようにしてください。
3. テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その取り組みによって講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

中澤 史（2016）「アスリートの心理学」日本文化出版 1,650円（税込）

【参考書】

特定の参考書は使用しません。

【成績評価の方法と基準】

1. 次の基準に従い総合評価します。
 - 1) レポート：70%
 - 2) リアクションペーパー、授業中の活動に対する参画状況：30%
 - 3) 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的にかかわることを評価の対象とするという意味です。
 - 4) リアクションペーパーおよびレポートでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。
2. 試験受験資格に係る出席要件
 - 1) 6日間合計12コマ（1日2コマ×6日）のうち8コマ以上出席していること
 - 2) 最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントします（欠席は2コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は1コマ分の欠席として扱います）

【学生の意見等からの気づき】

今回が初めての授業担当のため、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

1. 初回授業からテキスト（教科書）を持参してください。
2. 授業にはノートパソコンまたはそれに代わるモバイル機器を持参してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明およびリアクションペーパー等を実施するため、初回授業から出席してください。
2. 授業計画等は、受講者数や授業の進捗状況に応じて変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The theories and methods of sports psychology applied to psychological support for athletes and sports teams can also contribute to solving psychological problems faced in everyday life. In this course, students learn about the theories and methods of sports psychology through lectures, literature reading and group work, and understand that the knowledge acquired can be applied to everyday life and business situations, and then consider how to apply it.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Understand that sport psychology theory and practice can be applied to everyday life and business situations
2. Describe how sport psychology theory and practice can be applied to everyday life and business situations.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. The specific content of this work is as follows.

1. Assignments based on the textbook, so please work on them.
2. If there is assigned literature, etc., please make sure you have lectured on it in advance.
3. Please make a habit of paying attention to various sports-related information from TV, newspapers, the web, etc. This will deepen your understanding of the lecture content.

【Grading Criteria/Policy】

1. Overall evaluation according to the following criteria.

- 1) Reports: 70%.
- 2) Reaction papers and participation in class activities: 30%.

3) Participation in class does not simply mean attendance, but rather proactive involvement in discussions and various class management is subject to evaluation.

4) Reaction papers and reports are evaluated on whether the students are able to adequately describe what they have learnt in class.

2.Attendance requirements for eligibility to sit the examination

1) Attendance for at least 8 out of a total of 12 (2 sessions per day x 6 days) sessions over a period of 6 days.

2) On the final day (examination day) only, the first half of the class will be counted as two sessions (absence will be treated as two sessions of absence and late arrival or early departure will be treated as one session of absence).

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）
スポーツ総合演習（夏期スクーリング）
藤岡 成美・伊藤 マモル
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業では、我が国のスポーツ政策を理解した上で、健康・体力に関する自己分析を行い、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することを目指します。また、グループワークによって人格的な発展や健康・体力に関する思考の発展および課題の解決等に繋げることで、そのための具体的な目標を以下に示します。

1. 我が国のスポーツ政策や関連する法・計画を説明できる。
2. 政策プロセスに関するワークを通じ、スポーツ政策に関わる組織や業務内容を述べられる。
3. 身体活動の意義や役割を様々な視点から理解する。
4. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用できる。
5. 健康に関する測定情報を分析を通じて、自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を考察できる。
6. 卒業後の社会生活において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションや、他者と協力して問題解決等に取り組む時、スポーツが資する役割を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、夏期スクーリング期間中に**連続6日間**（1日2コマ）実施されます。

授業は、2名の教員が担当し、グループワーク、講義、健康・体力に関する測定、トレーニング実習、スポーツ実習等を行い、授業中の活動に対する参画状況に加え、リアクションペーパー、小レポート及び試験等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与します。本学のダイバーシティ宣言の観点から、広く履修者を受け入れます。ただし、以下の点を踏まえ、履修者自らの**運動経験、体力、既往歴、身体障害の有無などを考慮**して履修にのぞんでください。

- 1) 夏季猛暑下において連続6日間通学することに不安はない
- 2) 夏期スクーリング期間中の健康管理を適宜行える
- 3) 身体活動を伴う**授業（1コマ100分）を2コマ連続**で履修することに不安はない
- 4) 水分摂取を適宜行い熱中症の予防に努められる 等

本授業の詳細については、初回ガイダンスの際に説明します。なお、授業内で行ったグループワーク後の発表やリアクションペーパーに対する講評や解説は当日または次回授業時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1) ガイダンス 2) アイスブレイキング	①授業内容の説明 ②他人紹介 ③健康に関する自己評価（1回目）

第2回	1) 健康管理 2) 身体組成と柔軟性の測定	①測定の意義と方法 ②コンディショニング記録の方法と実際（スマホアプリ） ③除脂肪体重と体脂肪量 ④長座位体前屈およびその他の柔軟性測定 ⑤ストレッチング ⑥リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト（Googleフォーム使用）
第3回	スポーツ政策と健康	①健康状態の確認 ②身体組成測定 ③スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ④スポーツ実施状況とその環境（ワーク） ⑤自治体のスポーツ行政（ワーク）
第4回	1) 筋力測定 2) 自重トレーニング	①握力 ②反復横跳び ③垂直跳び ④上体おこし ⑤閉眼片脚立ち ⑥その他の筋力測定 ⑦自重トレーニング ⑧リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト（Googleフォーム使用）
第5回	1) スポーツ障害 2) トレーニング理論	①健康状態の確認 ②身体組成測定 ③スポーツ活動中の発生頻度が高い外傷と障害 ④スポーツ傷害の予防 ⑤運動の原理・原則 ⑥負荷手段とトレーニングの順序 ⑦効果を高める運動条件と方法 トレーニング施設の利用と諸注意
第6回	1) トレーニングマシンの取り扱い 2) トレーニングマシンの操作体験	①トレーニングマシンの操作方法 ②筋力トレーニングマシンの操作 ③ランニングマシンの操作 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト（Googleフォーム使用）
第7回	トレーニングマシン実習	①健康状態の確認 ②身体組成測定 ③筋力トレーニングマシンの操作 ④ランニングマシンの操作 ⑤トレーニングの計画と記録
第8回	ニュースポーツの考案	①運動の目的 ②運動の要素 ③ニュースポーツの考案 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト（Googleフォーム使用）
第9回	ニュースポーツの試作試行	①健康状態の確認 ②身体組成測定 ③考案したニュースポーツの予行演習 ④考案したニュースポーツの改善点（リスク、ルール、運動量等）
第10回	ニュースポーツの体験	①ニュースポーツの発表 ②ニュースポーツの体験と検証 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト（Googleフォーム使用）

- 第11回 ニュースポーツの実践 ①健康状態の確認
②身体組成測定
③ニュースポーツの実践
- 第12回 1) 総括 以下の①～⑥の総括を行う。
2) 試験 ①我が国のスポーツ政策
②身体活動の意義や役割
③学生生活や社会生活におけるスポーツ活動
④健康に関する測定情報の分析
⑤社会生活におけるスポーツの役割
⑥健康に関する自己評価（2回目）
⑦試験（総括を踏まえたレポート作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト（アンケートを含む場合がある）が実施されます。
2. 各自のコンディションを日常的な記録を実施します。
3. 以上1～2を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が必要に応じて紹介します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 次の基準に従い総合評価します。
 - 1) 授業中の活動に対する参画状況、授業習熟度確認テスト、リアクションペーパー等の授業内評価は**60%**（授業担当教員は各30点：計60点）です。
 - 2) 授業内評価では、授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）も評価に含まれます。
 - 3) 総括において作成するレポート：**40%**
2. 試験受験資格に係る出席要件は以下の通りです。
 - 1) 6日間合計12コマ（1日2コマ×6日）のうち**10コマ**以上出席していること
 - 2) **最終日のみ**、前半授業を2コマとしてカウントする
 - 3) 最終日の前半授業の欠席は2コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は1コマ分の欠席として扱います

【学生の意見等からの気づき】

夏期スクーリングの出会いを大切に考え、**新たな人間関係の構築**を促進することに配慮して授業を進めます。また、夏季の気象条件にも配慮し、履修者の健康状態に留意して、安全安心な授業運営に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

1. 授業ではGoogleフォームを利用するため、円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス等を各自で準備してください。
2. 以下の①～③に示した継続的に記録可能なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細は1回目の授業ガイダンスで説明します）。
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
3. 毎日、何らかの身体活動を行うため、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
4. **飲料水**は各自で準備してください。体育館には冷水器や飲料用自動販売機が設置されています。
5. **貴重品**は自己管理が原則です。盗難や紛失などへの対応はできません。
6. 更衣室のロッカーや体育館施設等の説明、授業中の事故への対応等は1回目の授業ガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

1. 履修者は**40名**を上限とします。
2. 授業では感染症対策を講じるとともに、原則としてマスク着用を推奨します。ただし、**マスク着用は強制しません**。

3. 授業内容に関する説明および健康に関する自己評価を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
4. 授業当日の健康状態が悪い場合の**欠席は自己判断**してください。個別の相談には応じられません。
5. 教材として扱う身体活動を行う時は、自分の体力を過信して過剰な負荷をかけないでください。
6. **医師から運動を制限されている場合は**、本授業の履修について熟慮してください。
※本授業の目標は健康の保持増進を促すことにありますが、授業において無理を重ね、健康を害することになっては本末転倒です。そのようなことを決して生じさせないためにも、**体力に不安がある人は、通信学習やメディア教材の利用を検討**してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The classes are held for six consecutive days (two sessions per day) during the summer schooling period.

The classes are taught by two teachers and include group work, lectures, measurements related to health and physical fitness, training practice and sports practice, etc. Credits are awarded based on a comprehensive evaluation of the students' participation in the activities during the classes, as well as the evaluation of assignments such as reaction papers, small reports and examinations.

From the perspective of the University's Diversity Declaration, the course is open to a wide range of students. However, students are advised to take the following points into consideration when taking the course: their own exercise experience, physical fitness, medical history and physical disabilities.

- (1) No concerns about commuting to school for six consecutive days during the summer heat wave.
- (2) Can manage their health during the summer schooling period as appropriate.
- (3) Have no concerns about taking two classes in a row that involve physical activity (100 minutes per class).
- (4) Can take appropriate measures to prevent heat stroke by drinking water as necessary, etc.

Details of this class will be explained at the initial guidance. Critiques and explanations of the presentations and reaction papers after the group work conducted in class will be given on the day of the class or at the next class.

【Learning Objectives】

The aim of this course is for students to understand Japan's sports policy, to carry out self-analysis on health and fitness, and to acquire behavioural changes that will contribute to improving their own health in the future. In addition, group work will lead to personal development, the development of thinking about health and fitness, and the resolution of issues. Specific objectives for this are listed below.

1. Be able to explain the sports policy of our country and related laws and plans.
2. Through work on the policy process, be able to describe the organisations and work involved in sports policy.
3. Understand the significance and role of physical activity from various perspectives.
4. be able to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
5. be able to consider the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through the analysis of measured health-related information.
6. Consider the role of sport in communicating with others and solving problems in cooperation with others, which is considered extremely important for being active in social life after graduation.

【Learning activities outside of classroom】

1. a reaction paper or class proficiency test (which may include a questionnaire) will be administered.
2. a daily record of each student's condition will be conducted.
3. 2 hours each of preparation and review time for this class, including 1-2 above, is standard.

【Grading Criteria /Policy】

1. overall evaluation according to the following criteria.

(1) In-class evaluation of participation in class activities, class proficiency tests, reaction papers, etc. is 60% (30 points each for the class teacher: 60 points in total).

(2) The in-class evaluation also includes learning activities to be done outside of class (preparatory study and review).

(3) Report to be prepared in the summative: 40%.

2. Attendance requirements for eligibility to sit the examination are as follows.

(1) Attendance for at least 10 out of a total of 12 sessions over 6 days (2 sessions per day x 6 days).

(2) Only on the last day (examination day), the first half of the class is counted as two sessions.

(3) Absence from the first half of the class on the last day is counted as two absences, and late arrival or early departure is counted as one absence.

LAW300TB（法学 / law 300）
国際法総論（夏期スクーリング）
田中 佐代子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法の総論分野を学ぶ。

【到達目標】

現代国際法の総論分野における基本的な概念や法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。これに加えて、各概念・制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会の構造とその変化をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について検討する。講義形式の授業だが、教科書の内容について受講生との質疑応答を交えつつ進める。特定の分野について理解を深めるためのゲスト講義も実施することを検討している。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	主体（1）	序説、国家
第2回	主体（2）	国際機構、私人・私的団体
第3回	国家の主権（1）	基本原則
第4回	国家の主権（2）	管轄権
第5回	国際法の存在形式（1）	条約
第6回	国際法の存在形式（2）	慣習国際法、法の一般原則
第7回	国際法の国内的实施（1）	体系的関係、国際法平面における国内法
第8回	国際法の国内的实施（2）	国内法平面における国際法
第9回	国際法の国際的实施（1）	国家責任法
第10回	国際法の国際的实施（2）	国際コントロールほか
第11回	領域	基本原則、領域権原論、裁判による領土紛争の解決
第12回	総括、試験	全体の復習と試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記掲載の教科書（玉田・水島・山田『国際法〔第2版〕』）第1章～第6章を事前に読んでおくこと。

ざっと目を通しておく程度でもかまわないが、短期集中のスクーリング授業に対応するためには、予習によって全体像を把握しておくことがきわめて重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第2版〕』（有斐閣）

『国際条約集』（有斐閣）

教科書と条約集、いずれも必ず授業に持参すること。なお、条約集は、ここ数年のものであれば、最新年度版でなくてもよい。

【参考書】

森川幸一、兼原敦子、酒井啓亘、西村弓編『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）
 その他は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（60%）および平常点（40%）。
 詳細は初回授業で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of public international law with reference to general topics including but not limited to: historical development of contemporary international legal system, sources of law, law of treaties, relationship between international and municipal law, States and its territory, diplomatic and consular relations, jurisdiction and immunity, international responsibility of States, and international organizations.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300TB (法学 / law 300)
行政法 (夏期スクーリング)
西田 幸介
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないところである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にあらう。行政法も、法の一つであるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政作用の適法性あるいは法的統制が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法の概略、行政法とはどのような法なのか、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組み、行政法の基本原理（法律による行政の原理、法の一般原則の行政作用や行政上の法律関係への適用）について学ぶ。

【到達目標】

- ①行政法とは何かを説明することができる。
- ②行政主体と行政機関について説明することができる。
- ③法律による行政の原理について、その意義と内容を説明することができる。
- ④信義誠実の原則、権利濫用禁止の原則、比例原則および平等原則が行政法の基本原理となり得るか、また、それらが行政作用や行政上の法律関係にどのようにして適用されるかについて、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。プリントは配布せず、指定テキストと六法のみを用いて授業を実施する。テキスト（教科書）を持参しないと、授業が理解できないので、注意すること。フィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政法とは何か	行政と行政法 行政法の三分野 行政法典の不在
第2回	行政とは何か	行政の意義と分類
第3回	行政法と民事法	公法私法二元論 民事法の適用
第4回	行政主体と行政機関 (1)	行政主体の意義と種類
第5回	行政主体と行政機関 (2)	行政機関の意義と種類
第6回	法律による行政の原理 (1)	意義と内容
第7回	法律による行政の原理 (2)	形式性とその克服 実効性確保
第8回	法の一般原則 (1)	信義誠実の原則
第9回	法の一般原則 (2)	権利濫用禁止の原則
第10回	法の一般原則 (3)	比例原則
第11回	法の一般原則 (4)	平等原則
第12回	総括・試験	全体の総括 試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として指定テキストの該当箇所を読んでおくこと。復習としては、授業中に適宜示される設例について検討すること。宿題はとくに課さない。

【テキスト（教科書）】

通教テキスト『行政法』第2版、西田幸介著、2023年

*必ず第2版を用いること。初版には書かれていない事項についても授業で取り上げる予定である。

【参考書】

とくに指定しない。ただし、この授業というよりも、行政法を学ぶために重要であると考えられる文献については、初回の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50%）と小テスト（50%）による。

筆記試験は、第12回の授業内実施とする。第12回の授業では、授業全体の総括を行ったうえで、筆記試験を実施する。筆記試験では、指定テキストと小型の六法（いずれも紙媒体に限り、コピーを不可とする）の参照を認める。

小テストは、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回（つまり、最終日を除く毎日の2コマ目）に実施する。毎回、10問出題する。このため、成績評価のうえで1問あたり1点となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Administrative Law is whole body of Laws concern to Public Administration. Although Administrative Law regulate legal relationship between Nation and Natural or Legal Person, in Administrative Law, legality of acts that Administrative Agency do is very important matter. In this course, Students learn about outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

At the end of the course, students are expected to understand outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report:50%, Short reports:50%.

LAW300TB（法学 / law 300）
労働法（夏期スクーリング）
山本 圭子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法の基礎を身につけることを目的とする。学生が、労働法の意義を理解し、労働基準法、労働契約法、労働組合法の基礎を身につけることを目標とする。

【到達目標】

学生が、以下の事項について、条文・判例・学説に基づいて正しく理解し、論理的に説明できることを目標とする。

- ①学生が労働契約の成立・展開・終了について条文・判例・学説を説明できる。
- ②学生が労働条件（賃金・労働時間・休暇等）の基準について条文・判例。学説に基づき説明できる。
- ③学生が労働基本権について、条文・判例・学説に基づいて論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

初日にレジュメを配布し、パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。

授業内で課題等を出題した場合は、そのフィードバックは、授業において、適宜、行う。

オフィスアワーについては、授業の前後に教室において質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・労働法とは	労働法の成立過程と労働法の意義を学ぶ
第2回	就職活動と法	労働契約の成立過程について、募集、選考過程、採用、試用期間について学ぶ
第3回	労働契約	労働契約法の意義と内容について学ぶ
第4回	就業規則	労働契約と就業規則の関係、労働条件の決定と変更について学ぶ
第5回	賃金・賞与・退職金	賃金の決定、最低賃金法、賃金の支払方法について学ぶ
第6回	労働時間の原則と例外	法定労働時間、労働時間の意義、休憩、休日、変形労働時間制度について学ぶ
第7回	時間外労働・休暇・休業	時間外労働と割増賃金、休暇・休業について学ぶ
第8回	人事異動・服務規律	人事異動（配転・出向・転籍）、企業秩序と服務規律、懲戒処分について学ぶ
第9回	労働契約の終了	解雇規制、解雇権濫用法理、雇止め、退職について学ぶ
第10回	労働基本権	労働組合法の意義、労組法上の労働組合、労働協約について学ぶ
第11回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済制度を学ぶ

第12回 試験とまとめ 論述式の筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に、教科書の各単元について、テキストを読み、準備学習を行う。各授業前にテキストのQRコードのリーディングケースに目を通すこと。授業後には、復習を行い、テキストの練習問題を解くこと。
- ・本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020年、2900円＋税

【参考書】

【参考書（必ずしも読了・購入の必要はない）】

- ・浜村彰,唐津博,青野覚,奥田香子『ベーシック労働法 第9版』(有斐閣アルマ)、2023年、有斐閣
- ・森戸英幸『プレップ労働法 第7版(プレップシリーズ)』有斐閣、2023年

【成績評価の方法と基準】

論述式の筆記試験で評価する(100%)。すなわち、最終時限の筆記試験を受験して、60点以上の者に単位を与える。

労働基準法、労働契約法、労働組合法等の基礎を理解し、到達目標の①から③について条文・判例・学説に即して論理的に論じ結論を導くことができることを評価の基準とする。

(試験に際してテキストの持込を可とするかどうかは授業時に指示する。持ち込み可とした場合でも、テキストを写しただけの答案では合格点を与えることはない。テキストのコピーや図書館の図書持込は認めない)。

【学生の意見等からの気づき】

テキストのQRコードからリーディングケースを読むことができるのが好評だった。

レジュメは初日に印刷したものを配布する。

試験に際してテキストを持ち込める場合でも、図書館の書籍は禁止する。テキストに何かを貼ったり挟んでいる場合はカンニングペーパーとして扱う。試験に際して、レジュメの持込は今年も禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

試験に際してテキストの持込参照を許可するかは未定であるが、受講にあたっては必ずテキスト、ノート、初日配布のレジュメを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・関連科目：社会政策、法律学特講（国際労働法）
- ・法改正の動向などによって授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】

This course aims to acquire the foundation of labor law.

Students understand the significance of the Labor Law and aim to acquire the foundation of Labor Standards Law, Labor Contract Law, and Labor Union Act.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Your final grade will be assessed by an exam on the last day of summer schooling (100%).

LAW300TB（法学 / law 300）
教育法（夏期スクーリング）
村元 宏行
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、教育法の基礎と現代的課題について、国家と教育との関わりと、学校における子どもの人権という二つの側面から進めていきます。

【到達目標】

教育法制の全体像を把握する。
 教育をめぐる主な裁判について理解する。
 教育法制の改正動向について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教育法は最近立法や法改正が相次いでおり、また今後もその動きがあります。それを理解するためにも、まずは教育法の基礎をしっかり理解することが必要です。

そのために、講義形式を中心に授業を行います。

フィードバック方法

授業の初めに、前回の授業で提出された小レポート（リアクションペーパー）からいくつかを取り上げてコメントすることで、全体に対してフィードバックを行います。

オフィスアワー（質問への対応）

授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育法の基本原理①	教育法の歴史について
第2回	教育法の基本原理②	教育法の法源について
第3回	憲法・教育基本法制①	旧教育基本法の制定と理念について。その後の教育政策の展開について。
第4回	憲法・教育基本法制②	教育基本法の改正について
第5回	教育三法の改正	教育基本法改正に伴う学校教育法、地教行法、教育職員免許法の改正について
第6回	最近の教育法制の改正動向	教育委員会制度の改革動向等について
第7回	国家の教育内容統制とその限界①	学習指導要領の法的拘束力について
第8回	国家の教育内容統制とその限界②	教科書検定、全国学力テストについて
第9回	学校における子どもの人権：校則	校則について(裁判例を中心に)
第10回	学校における子どもの人権：懲戒・体罰	懲戒・体罰について(現行法制と裁判例)
第11回	学校における子どもの人権：いじめ、その他学校災害	いじめについて(裁判例を中心に)
第12回	学校における子どもの人権：その他学校災害	上記以外の学校災害について 後半は試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教育をめぐる時事問題について、授業前から積極的に学習しておく、授業後の復習に役立ちます。それ以上の本格的な予習は難しいので、授業後の復習を丁寧に行ってください。

これらの予習・復習については、あわせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法2023年版』（北樹出版）を持参してください。

【参考書】

予習・復習用に姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べるができるかを評価します。

リアクションペーパー（50%）：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.
 Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200TB（法学 / law 200）
法律学特講（夏期スクーリング）
朝村 太一
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の発展は、新たな犯罪捜査手法を生み出す。これらの新たな捜査手法は、複雑化・巧妙化を続ける犯罪行為に関する情報収集手段として極めて有用である。他方で、これらの捜査手法については、それが対象者の「プライバシー」等を制約する側面を有することも多いこと、及び現行刑法が主として伝統的な捜査手法を念頭に置いた規定を有していることから、その許容性・許容要件が活発に議論されている。

本講義では、情報技術の発展に伴って生じた新たな捜査手法に対する法的規律についての議論の概況を把握することを通じて、情報社会における犯罪捜査のあり方を考える端緒を提供することを目的とする。

【到達目標】

情報技術の発展に伴って生じた犯罪捜査に関する種々の問題について、立法・判例・学説上どのような解決の試みが行われているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（六法を持参してください）。
 刑事訴訟法を学んだことがない学生であっても内容を理解できるよう、捜査法に関する前提知識からレクチャーする。
 試験に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	問題の所在 本講義で学ぶこと
第2回	捜査法の基本構造	強制処分法定主義 令状主義
第3回	写真撮影と犯罪捜査	公道上の人の容ぼう等の写真・ビデオ撮影
第4回	通信傍受と犯罪捜査①	通信傍受法制定以前の問題状況
第5回	通信傍受と犯罪捜査②	通信傍受法の内容
第6回	GPSと犯罪捜査	GPS大法廷判決以前の問題状況 GPS大法廷判決
第7回	データと犯罪捜査①	平成23年刑事訴訟法改正以前の問題状況
第8回	データと犯罪捜査②	平成23年刑事訴訟法改正の内容
第9回	データと犯罪捜査③	サイバー犯罪捜査の実務
第10回	パスワードと犯罪捜査	問題の所在 パスワード入力の特権と自己負罪拒否特権
第11回	小括	技術発展に伴って生じる種々の問題に対する解決の試み
第12回	試験解説	試験及びこれに対する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

捜査に関する法的規律の概要を把握するに当たっては、池田公博＝笹倉宏紀『刑事訴訟法』（有斐閣、2022年）が有用である。その他の参考文献は、ガイダンス及び各回末に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

（本年度新規科目のため）特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline] The aim of this course is to provide an opportunity to consider the state of criminal investigation in the information society through an overview of the debate on the regulation of new investigative techniques that have arisen with the development of information technology.

[Learning Objectives] The goal of this course is to understand what kind of solutions are being attempted to solve various problems related to criminal investigations that have arisen as a result of the advanced development of information technology.

[Learning Activities Outside of Classroom] Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson.

[Grading Criteria / Policy] The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200TB（法学 / law 200）
法律学特講（夏期スクーリング）
武生 昌士
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである特許法を一通り学ぶことを内容とする。特許法は基本的には民法の特別法と位置付けられるほか、特許権の発生には特許庁という行政庁が関係することもあり、私法・公法両面にわたり学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。

【到達目標】

特許法について制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後特許法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものへの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には、第一に、特許法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、特許法が問題となる具体的な事例（紛争）について、特許法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである特許法について、産業の発達に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。各回に配布する資料をベースに講義を進める。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は授業の前後に受け付ける。回答（フィードバック）はその場で行うほか、質問内容に応じては、授業冒頭で受講生全体に対してもフィードバックする場合がある。最終回の試験に関しては、試験終了後に簡単な解説を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法の概要・権利の客体(1)	特許法の全体像、発明の定義（自然法則の利用要件）
第3回	権利の客体(2)・特許の要件(1)	発明の定義（その他の要件）、特許要件（新規性・進歩性）
第4回	特許の要件(2)	特許要件（先願・拡大先願など）
第5回	権利の主体	発明者、特許を受ける権利、共同発明、冒認出願に対する救済、職務発明など
第6回	権利取得の手続	出願、出願公開、審査、補正など
第7回	審判・審決取消訴訟	各種審判及び審決取消訴訟の目的と概要
第8回	特許権(1)	特許権の内容・存続期間など
第9回	特許権(2)	特許権の制限、法定通常実施権など

第10回	特許権に関する取引	特許権の譲渡、専用実施権、通常実施権など
第11回	侵害と救済	文言侵害・均等侵害・間接侵害・民事的救済など
第12回	まとめと試験	試験の実施及び全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各日程の終了時に、翌日までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない（毎回、講義資料を配布する）。

【参考書】

愛知靖之ほか『知的財産法〔第2版〕』（有斐閣、2023）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）、田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『特許法〔第4版〕』（弘文堂、2019）、鳥並良ほか『特許法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021）、小泉直樹＝田村善之編『特許判例百選〔第5版〕』（有斐閣、2019）など。詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の試験の成績のみによって評価する（試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

同じく特許法を対象とした、2015年度の「法律学特講」（後期週末スクーリング）又は2019年度の「法律学特講」（夏期スクーリング）を受講し単位を修得した者については、内容が相当程度重複するので、履修は推奨しない。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Patent Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to:

— Demonstrate knowledge and understanding of Patent Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW200TB（法学 / law 200）
法学特講（夏期スクーリング）
村元 宏行
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、子どもをめぐる法と行政について学びます。
 従来から、子どもをめぐる行政制度は縦割り行政の弊害等が指摘されてきました。このような中、2022年に「こども基本法」が公布され、こども家庭庁が創設されるなど、大きな変革が起っています。
 この授業では、以上の動向をふまえ、子どもをめぐる行政についてその概要と課題点を学んでいきます。

【到達目標】

子ども行政を考察する前提としての子どもの最善利益について理解している。
 こども基本法とこども家庭庁について説明できる。
 子ども行政を担っている国、地方自治体の諸機関について説明できる。
 子ども行政をめぐる諸課題について自分なりの考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	子どもの最善の利益とは	子ども行政の理念としての、子どもの最善の利益について
第3回	こども基本法①	こども基本法制定の背景
第4回	こども基本法②	こども基本法の逐条考察（前半）
第5回	こども基本法③	こども基本法の逐条考察（後半）
第6回	こども家庭庁①	こども家庭庁創設の背景
第7回	こども家庭庁②	こども家庭庁の概要
第8回	国の子ども行政の課題	国の子ども行政をめぐる今後の課題
第9回	地方の子ども行政①	国と地方の役割分担について
第10回	地方の子ども行政②	地方自治体の子ども行政の実態
第11回	個別考察：子どもの貧困	子どもの貧困について、国、地方自治体、民間の役割等を考察する
第12回	個別考察：子ども虐待 後半は試験	子ども虐待について、行政の役割を考察する 後半は試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや関連文献による復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ハンディ教育六法2023年版』（北樹出版）を持参してください。

【参考書】

授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べる事ができるかを評価します。

リアクションペーパー（50%）：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため無し。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

POL200TB（政治学 / Politics 200）
政治学（夏期スクーリング）
面 一也
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業の実施形態:講義形式で行います。
- (2) オフィス・アワー(質疑応答の方法):授業前後で対応します。
- (3) 資料や課題の配信、課題の回収方法:資料は必要に応じて配布します。また、学習内容の区切りになる箇所、リアクション・ペーパーの提出を課す予定です(学習を通じて考えたことを、200~400字程度で。計2~3回)。
- (4) 翌日の授業時に、提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明します。
第2回	民主政治の起源(教科書第1章)	直接民主政治から間接民主政治へ
第3回	民主政治の変容(第2章)	ナショナリズム、ポピュリズム、全体主義の経験から
第4回	福祉と政治(第3章)	社会民主主義と新自由主義
第5回	民主政治のさまざまな仕組み(第4章)	議院内閣制と大統領制(第4章)
第6回	選挙(第5章)	組織票、無党派、無関心(第5章)
第7回	議会と政党(第6章)	国会無能論、多数者の専制
第8回	政策過程と官僚・利益集団(第7章)	縦割り行政、官僚性の肥大化、族議員
第9回	世論とマスメディア(第8章)	マスメディアの役割、SNSの台頭
第10回	地方自治(第9章)	地方分権改革の問題
第11回	グローバル化(第10章)	グローバル・イシューの噴出
第12回	民主政治の現在(第11章)	フェミニズム、多文化主義、熟議民主主義
第13回	筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第2版』東京大学出版会、2022年、2,420円。

【参考書】

授業内で、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験(70%)、リアクション・ペーパー(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

発展学習に関わる文献紹介などを、いっそう充実させたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

Learning Objectives:

1. The students will acquire the basic concepts of political science and the basic knowledge of political institutions.
2. The students will grasp the problems of contemporary politics through this course.
3. The students will acquire the ability to consider critically the problems of politics.

Learning activities outside of classroom:

120 minutes for preparation and review.

Grading Criteria /Policy:

Written exam (70%) and reaction paper (30%).

LAW300TB（法学 / law 300）
法思想史（夏期スクーリング）
大野 達司
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本法や法思想は、古くは中国の思想、明治以降は西欧の思想から影響を受けて発展してきた。そこで、自分たちの法思想を考えるために、影響を与えてきた諸思想をそれぞれの歴史的・社会的背景を意識しながら振り返り、法の原理の成立を理解する。さまざまな法分野の考え方の出発点を学ぶきっかけをつくる。

【到達目標】

西洋法思想史の大枠を概観し、それらがどのように日本近代法思想に影響を与えたかを理解する。それぞれの法思想の背景と比較する。全体の大きな流れと、それぞれの思想の対立、影響関係について学び、土台の異なる社会での思想の受け入れ方の一例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は原則対面になります。教科書を中心にして、資料を見ながら概要を説明します。授業の休み時間、リアクションペーパーで質問など受け付けます。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章「法と権利」 幕末・明治新期に影響を与えた西洋法思想	日本にはじめて西洋法思想が登場したころの様子をみる。
第2回	第2章「自然法の思想」 西洋の伝統的な自然法思想の概観	自然法思想を、所有権と政治権力の関係を中心にとらえ、日本の「国体」論との比較の前提を理解する。
第3回	第3章「公と知識人」 明治期の「公」公共性の捉え方	明治初期の政府側の「公」論と、社会の知識人公共空間、民権派と保守主義との論争。ルソーとバーク
第4回	第4章「憲法と自治」 憲法制定の議論と地方自治論 第5章「初期明治憲法理論」	国会開設を巡る議論と学問のドイツ化への転換、地方自治と民主主義の関係について、政府側と民権派、政府内部での議論、さらに憲法制定前後での日本の憲法学と国体論争
第5回	第6章「明治民法学」 明治民法制定と初期の民法学者について 第7章「刑法理論の対立」 旧派と新派の考え方の違い、それが日本の当時どのように受け入れられたか	民法・刑法の近代化のなかで、すでにあった、ヨーロッパ（主にドイツ）の論争軸がどのように法典化以降、日本に影響したか。

第6回	第8章「大正デモクラシー」 この時期の日本の民主主義とドイツの民主主義論の枠組み	吉野作造・ケルゼンとシュミット、さらにアメリカの登場と社会主義・女性解放運動とフェミニズム
第7回	第9章「マルクス主義法学」 日本法学へのマルク主義の影響	所有権論・社会法（労働法）と、「反体制」法学への抑圧
第8回	第10章「国際法と国際政治」 国際連盟から大東亜共栄圏にいたる法思想	ケルゼンとシュミットの法思想が与えた影響と、「国際政治」論の台頭
第9回	第11章「国粋主義の法思想」 欧化から国粋化への転換	寛克彦、北一輝、箕田胸喜らによる西洋法思想の咀嚼と反発
第10回	第12章「天皇機関説事件の法思想」 第3回・第2回との関連で、国体論・機関説の法思想をめぐる論争	美濃部達吉の憲法論と政治的批判、国体派の憲法論、とくに里見岸雄
第11回	第13章「総動員体制（新体制）の構築と法思想」 第14章「戦時体制下の法思想」 第二次大戦を用意し、戦時体制を支持した法思想 第15章「新憲法体制の法思想」 敗戦後の憲法改正をめぐる論争	黒田覚の憲法論と、大串兎代夫と尾高朝雄の国家緊急権をめぐる論争 美濃部達吉の新憲法論と尾高朝雄と宮沢俊義のノモス主権論争
第12回	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書該当箇所を目を通しておき、分からないところをチェックする。前日ではなく、できれば早めに全体を通読する。各回の授業外学習時間は準備・復習時間として各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年、2800円

【参考書】

指定しないが、関心のある分野について、教科書xiページにあがっている法思想史の教科書を参考にしてください。個別には教科書のHPで詳細な文献が上がっています。

【成績評価の方法と基準】

教科書と講義の内容を理解しているか。リアクションペーパー（学習に関する質問）などの内容は評価対象としない。評価基準は期末（授業内）試験100%。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教職課程の選択科目になっています。

【Outline (in English)】

(Course outline) The Aim of this lecture is to understand the backgrounds of modern Japanese legal development in ideas and social or political situations.

(Learning Objectives) Students study about not only the modern legal ideas, but also the influences from Chinese philosophy in pre-modern Ara, and of western (legal) philosophy before and after Meiji Restoration.

(Learning activities outside of classroom) Students should read the textbook before lecture.

(Grading Criteria) Examination (100%).

LIT100TC（文学/Literature 100）
日本文芸学概論（夏期スクーリング）
川鍋 義一
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学作品の鑑賞、研究の前提となることがらについて学ぶ。

【到達目標】

具体的に作品に触れながら、読者と作品、作者はいかなる関係にあるのかを検討し、理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

大人数にはならないと予想されるので、受講者には積極的に議論に参加してもらおう。リアクションを授業中あるいは授業後に作成してもらおう。課題等のフィードバックは授業中に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、および文芸学とはどういうものか	11回の授業の概観。および、文芸学とはどういうものか
第2回	文学鑑賞と研究方法①	小林秀雄、小田切秀雄、前田愛 ①——作者と読者
第3回	文学鑑賞と研究方法②	小林秀雄、小田切秀雄、前田愛 ②——空白とはなにか
第4回	樋口一葉「たけくらべ」を読む①	討論と発表
第5回	樋口一葉「たけくらべ」を読む②	文学作品における空白とはなにか
第6回	樋口一葉「大つごもり」に「ごりえ」を読む	一葉が空白という方法を獲得するまで
第7回	芥川龍之介「羅生門」、「藪の中」を読む①	討議と発表①——「羅生門」、「藪の中」はどういう物語か
第8回	黒澤明「羅生門」を鑑賞する	原作との相違に注意しながら映画を鑑賞する
第9回	芥川龍之介「羅生門」、「藪の中」を読む②	討議と発表②——映画と比較することでなに見えるか
第10回	芥川龍之介「羅生門」、「藪の中」を読む③	「羅生門」のラストと、「藪の中」の構造について考察する
第11回	まとめ	空白という問題を通じて、作者と読者と作品の関係を考える
第12回	試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記5作品を事前に読み、意見を持って授業に参加することを必須の条件とする。これができている者には単位は認定されない。また偶数回（12回を除く）では、上述のようにリアクションを求める。この授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

樋口一葉「大つごもり」「ごりえ」「たけくらべ」（『大つごもり・十三夜 他五篇』、『ごりえ・たけくらべ』ともに岩波文庫）。芥川龍之介「羅生門」「藪の中」（『羅生門・鼻・芋粥・偷盗』、『地獄変・邪宗門・好色・藪の中 他七篇』ともに岩波文庫）。他社版、青空文庫、電子ブックなどの利用も可。

【参考書】

『文芸学講義』小田切秀雄、青柿堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

試験80%、討論時の発言およびリアクション20%とし、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が課題に取り組んでいることを前提に、わかりやすい授業に努める。

【学生が準備すべき機器他】

持っていればノートパソコン、タブレットなど（リアクションに使う可能性あり）。

【その他の重要事項】

刺激し合うこと、自己研鑽などを目的として、リアクションは名前・番号など個人情報を伏せた上で、他の学生と共有する。

【Outline (in English)】

Students learn about the prerequisites for appreciating and researching literary works.

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文芸史 I（夏期スクーリング）
伊海 孝充
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ◆秋学期は中世（院政期～室町時代）と近世（安土桃山時代～江戸時代）の文学史・芸能史を学ぶ。
- ◆芸能史の展開を辿りながら、主要な文学作品についても解説していく。

【到達目標】

- ◆古典文学・古典芸能の特色・表現を知る。
- ◆古典文学・古典芸能の歴史的展開を知り、日本文化の大枠を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。基本的に講義形式で進め、適宜発言を求める。質問と意見は授業内。授業間に口頭で受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説・『平家物語』	古代から中世
第2回	『徒然草』	兼好像の変化
第3回	『宇治拾遺物語』	猿楽の発想
第4回	『太平記』	田楽の風景
第5回	『風姿花伝』	物真似とは
第6回	中世和歌略史	古今伝授
第7回	幸若舞曲	判官物と曾我物
第8回	御伽草子	奈良絵本と御伽草子
第9回	人形浄瑠璃	近松門左衛門の作風
第10回	歌舞伎	市川團十郎家
第11回	舌耕文芸	笑話の展開
第12回	まとめ及び試験	授業全体を踏まえたまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。中世・近世の文芸は12回で収まりきれないほどの多様性がある。授業で紹介する参考文献をもとに、自身で興味を広げる研究をしてほしい。

【テキスト（教科書）】

- ◆シグマベスト『原色シグマ 国語便覧』増補三訂版（文英堂、2010年）
- ◆毎回資料を配布する。

【参考書】

ジャンルごとに授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 80% 平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the history of literature and performing arts in the medieval and early modern periods. Learning Objectives: The goals of this course are to acquire an overview of classical literature and the classical performing arts.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to use this class as an opportunity to expand their own interests. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (80%), and in class contribution (20%).

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文芸史Ⅱ（夏期スクーリング）
山田 稔
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、近代以降の日本文学の歴史について、作品の鑑賞を通して認識を深めていきます。特に、第二次世界大戦後の文学を中心に、そこに至る過程やその後の作品への影響や現在性についても考察し、理解を深めていきます。

【到達目標】

第二次世界大戦後の日本文学について、史的アプローチによる認識を深め、戦後文学に現れた鋭い問題意識を理解すると共に、現在における意義についても考えを深め、最終的には、自らの一定の見解を打ち立てることを目標とする。

また、日本近代現代文学全体への史的理解を深め、その特色や時代との関わり、文学史的意義について、個々の作家の作品を通し具体的に考察できるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、小説の概念と日本近代文学の成立から始め、そこから日本近代文学史を作品を中心に概括し、戦後文学とその後の文学について史的アプローチから学んでいく。そして、その問題意識の現在性についても考えていく。

基本は講義形式である。出席者との対話や発言も取り入れていく予定なので、取り上げる作家と作品について事前に学習して、授業に参加して欲しい。また1日の終わりに課題の提出を求めます。「フィードバック」については、提出された課題からいくつかピックアップして、授業の中で講評する。「オフィスアワー」については、授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文学という概念、日本近代文学の出発点について	明治の始まりと文学、定説としての、坪内逍遙「小説神髓」と二葉亭四迷「浮雲」について考える。
第2回	近代・小説という概念について	古典の物語と近代の小説の違いについて、三島由紀夫「小説とは何か」を参考に考える。
第3回	「文学史」という考え方、文学研究について	「テキスト論」（バルト）と「作品論から文学史へ」（三好行雄）を参考に、文学史と研究について考える。
第4回	近代文学と言語について	和文の成立から近代日本語の成立と国語という問題について考える。
第5回	近代文学の嚆矢、近代詩の成立について	感情の表出、自意識としての批評性について、『新体詩抄』、北村透谷、島崎藤村の詩について考える。
第6回	近代文学、小説の始まりについて	個人の内面描写と文体について、二葉亭四迷『浮雲』と森鷗外『舞姫』を中心に考える。

第7回	近代文学の確立・自然主義について	島崎藤村と夏目漱石の文学的意義について、『破戒』、『吾輩は猫である』などから考える
第8回	近代文学の成熟と文学の可能性について	芥川龍之介『羅生門』、宮沢賢治の詩と『銀河鉄道之夜』、中野重治を中心に、近代文学の行き詰まり、文学の可能性、文学における社会性（政治）について考える。
第9回	敗戦直後の文学状況について	志賀、太宰、安吾の立ち位置について、志賀直哉『灰色の月』、坂口安吾『墮落論』、太宰治『斜陽』などから考える。
第10回	戦後文学の誕生について1	近代文学派と戦後派作家について、小田切秀雄と雑誌「近代文学」、武田泰淳などから考える。
第11回	戦後文学の誕生について2	植谷雄高と大岡昇平について考える。
第12回	第三の新人以後、現代の文学について	安岡章太郎、遠藤周作、大江健三郎、村上春樹、小川洋子、村田紗耶香などについて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画に書かれている作家や作品を事前に学習しておくこと。また、一般的な近代日本文学史について、できれば参考書に挙げた本を読んで、一定の認識を持っておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

中村光夫『日本の近代小説』『日本の現代小説』（岩波新書）
 小田切秀雄『日本文学の百年』（東京新聞出版局）
 柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫）
 磯田光一『鹿鳴館の系譜』（講談社文芸文庫）
 本多秋五『物語戦後文学史』（岩波現代文庫）
 江藤淳『成熟と喪失』（講談社文芸文庫）
 その他、授業計画に示してある、各作家の作品。（文庫などでかまわない。特にどの出版社のものなどと、本の指定はしない）

【成績評価の方法と基準】

授業内での小課題の提出または発表（10％）と、最後に講義全体の中で取り上げたテーマについての論述課題の提出（80％）を行います。また、授業への参加度（出席、質疑応答など）（10％）で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

取り上げる作品が多く、作品を限定して提示する。

【Outline (in English)】

In this course, we will deepen our awareness of the history of Japanese literature since modern times by appreciating the works. In particular, we will deepen our understanding by considering the process leading up to it, its influence on subsequent works, and its presentness, focusing on the literature after World War II.

LIT100TC（文学/Literature 100）
日本文芸研究特講・上代（夏期スクーリング）
坂本 勝
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話について講義する。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義池意識によって進める。授業内容の理解度を確かめるためにリアクションペーパーの提出を求める。最終授業で、講義内容のまとめや復習だけでなく、提出されたリアクションペーパーについて解説や講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代日本の神話について	授業全体の概説
第2回	賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城国風土記の神話	自然と文化の共生
第3回	日本の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第4回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第5回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第6回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第7回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます
第8回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第9回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第10回	《海》の神話	同前
第11回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第12回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

『古事記』岩波文庫（漢字の原文が付いているテキストであればその他の『古事記』のテキストでもよい。たとえば、『新日本古典文学全集 古事記』小学館、『日本古典文学大系 古事記』岩波書店など）

【参考書】

『はじめての日本神話』坂本勝、ちくまプリマー新書、（紙の本がない場合は電子版でも結構です）

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（60％）出席状況（40％、リアクションペーパーなど）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

作品を丁寧に読むことの重要性。

【学生が準備すべき機器他】

特にはないです

【その他の重要事項】

テキスト（古事記）を必ず用意してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 Lecture on the myths of ancient Japan.

【到達目標（Learning Objectives）】

To understand the reason why we have created a mode of thought called myth, and the meaning of this creation.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Evaluation will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, reaction papers, etc.).

LIT100TC（文学 / Literature 100）
日本文芸研究特講・中古（夏期スクーリング）
庄司 敏子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、平安時代に成立した日記文学作品の流れを追いながら、関連する周辺作品も取り上げていきます。日記文学作品の作者は、他にもすぐれた作品を残していることが少なくありません。また、日記文学作品内部には同時代の（あるいはそれまでの）文学作品に言及しているものもあります。そこで、日記文学を核としながら、平安時代の様々なジャンルの作品群にも目を向け、それらの関わりを学んでいきます。あわせて、同時代の社会状況や文化などにも触れ、この時代に成立した作品の理解を深めていくことを目指します。

【到達目標】

- ①平安時代における日記文学作品の知識を深めます。
- ②様々なジャンルの作品に触れ、作品相互の関連性や影響関係を理解します。
- ③個々の作品成立の背景を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。数回コメントシート記入の時間を設けます。コメントシートのフィードバックは次回授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／中古日記文学概説	「日記文学」とは何か、全体的な説明を行います。
第2回	『土佐日記』と紀貫之	『土佐日記』と作者紀貫之、および成立事情について見ていきます。
第3回	『土佐日記』と『古今和歌集』	貫之が選者の一人である『古今和歌集』の基礎的事項を確認します。
第4回	『蜻蛉日記』と私家集	『蜻蛉日記』の基礎的事項を説明します。また、周辺で生成された私家集を見ていきます。
第5回	『蜻蛉日記』と物語	『蜻蛉日記』に見える「物語」への意識を考えていきます。『伊勢物語』など、この時代までに成立した物語作品にも触れます。
第6回	『蜻蛉日記』と手紙	『蜻蛉日記』における手紙のありかたを見ていきます。
第7回	『和泉式部日記』と和歌	『和泉式部日記』における和歌のありかたを見ていきます。また、平安時代の「和歌の役割」を考えます。
第8回	『紫式部日記』と紫式部	『紫式部日記』および作者についての基礎的事項を確認します。
第9回	『紫式部日記』と『源氏物語』	『紫式部日記』中に見える『源氏物語』について考えます。

- 第10回 『紫式部日記』と女房 『紫式部日記』中に名の見える女房を紹介します。『枕草子』などにも触れ、同時代の「女房による文学活動」のありかたを考察します。
- 第11回 『更級日記』と物語 『更級日記』の基礎的事項を確認します。また、『夜半の寝覚』『浜松中納言物語』など、物語作家としての一面を考察します。
- 第12回 最終試験およびまとめ ここまでの内容を総括します。最後に、理解度を確保するための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。取り上げる作品が多岐にわたるので、授業内で個々の作品を熟読することはできません。興味をもった作品を各自でじっくり読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

各回、講師作成のプリントを配布します。

【参考書】

- ①平安時代の文学作品・文化を概観する
 - ・秋澤互、川村裕子編『王朝文化を学ぶ人のために』（世界思想社、2010）
 - ・川村裕子『王朝文学入門』（角川選書、2011） など
 - ②平安時代の日記文学を概観する
 - ・久保朝孝編『王朝女流日記を学ぶ人のために』（世界思想社、1996） など
 - ③作品本文・現代語訳など
 - ・角川ソフィア文庫が入手しやすく、現代語訳付きで便利です。ほかに、小学館新編日本古典文学全集・新潮日本古典集成などにも現代語訳がついています。
- ※その他、授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（60％）とコメントシートの内容による平常点（40％）を合算して評価します。授業内容を理解した上で、到達目標①～③をどの程度達成しているかにより判断します。

【学生の意見等からの気づき】

単調な講義にならないよう、資料の提示方法や話し方を工夫します。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the flow of literature in diary form established in the Heian period and also know related peripheral works. The aim of this course is to help you acquire interrelationships between works of various genres.

LIT100TC（文学/Literature 100）
日本文芸研究特講・中世（夏期スクーリング）
中司 由起子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世に成立した能を扱う。本年度は世阿弥作の能（鶴）をとりあげ、作品を読んで鑑賞し、主題やねらいを考えていく。能の歴史にも目を配りつつ、能の魅力を味わうために必要な知識を深める。

【到達目標】

能に関する基本的知識を理解することができる。
 現代に生きる古典芸能に関心をもつことができる。
 能の作品の主題・趣向を考え、それを文章にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。毎回の講義終了時にリアクションペーパーの提出を求める。オフィス・アワーを講義終了時に設ける。講義の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから質問をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	能の梗概	能の基本的事項をおさえる。
第2回	能の歴史	能の歴史や流儀、役籍等について知る。
第3回	世阿弥	世阿弥の功績と、夢幻能の特色について学ぶ。
第4回	能の素材	『平家物語』の内容をおさえる。
第5回	〈鶴〉を読む・観る1	1・2段を解釈する。
第6回	〈鶴〉を読む・観る2	3・4・5段を解釈する。
第7回	〈鶴〉を読む・観る3	6・7・8段を解釈する。
第8回	〈鶴〉を読む・観る4	9・10段を解釈する。
第9回	世阿弥伝書に見える〈鶴〉	世阿弥の鬼の能について考える。
第10回	主題と趣向	〈鶴〉の主題と趣向をまとめる。
第11回	現代の能	現代における能の問題点を考える。
第12回	まとめ・試験	これまでのまとめと筆記試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
 講義内で示される参考文献や配布資料を読む。
 可能であれば能楽堂などで催される実際の舞台にできるだけ足を運ぶ。難しい場合は、インターネット上の能の動画を視聴する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配布する。

【参考書】

『謡曲集』上、新潮日本古典集成、新潮社
 『謡曲集』上、日本古典文学大系、岩波書店
 小林實ほか『能楽大事典』（筑摩書房）
 西野春雄・羽田昶編『新版 能・狂言事典』（平凡社）
 『岩波講座 能・狂言』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%（毎回のリアクションペーパーの提出とその内容などにより判断）・期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will deal with Noh plays that were established in the Middle Ages. In this year's course, we will focus on Noh play "Nue" by Zeami, reading and appreciating the play and considering its themes and aims. We will also look at the history of Noh, and deepen our knowledge of what it takes to appreciate the appeal of Noh.

LIT100TC（文学 / Literature 100）
日本文芸研究特講・近世（夏期スクーリング）
牧野 悟資
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

和歌と狂歌の關係に注目しつつ、狂歌史を概観することによって、近世狂歌の位置づけを理解する。

【到達目標】

- ・狂歌の定義を理解する。
- ・狂歌史の知識を身につける。
- ・和歌と狂歌の關係を理解する。
- ・自分で考えたことを文章で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。テーマに関する概説をした後で実際に作品を読んでいく。毎回課題を出し、受講者が積極的に授業参加できるかたちにする。フィードバックは授業内に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	和歌と狂歌	ガイダンス 狂歌の定義について
第2回	戯歌	戯歌概説 戯歌を読む
第3回	俳諧歌	俳諧歌概説 俳諧歌を読む
第4回	中世の狂歌	中世の狂歌概説 中世の狂歌を読む
第5回	職人歌合・落首・道歌	職人歌合・落首・道歌概説 職人歌合・落首・道歌を読む
第6回	近世初期狂歌	近世初期狂歌概説 近世初期狂歌を読む
第7回	上方狂歌1－貞柳の狂歌－	上方狂歌（貞柳狂歌）概説 上方狂歌（貞柳狂歌）を読む
第8回	上方狂歌2－上方狂歌の諸流派－	上方狂歌（諸流派）概説 上方狂歌（興歌）を読む
第9回	江戸狂歌1－天明期の狂歌－	江戸狂歌（天明期狂歌）概説 江戸狂歌（天明期狂歌）を読む
第10回	江戸狂歌2－真顔の俳諧歌－	江戸狂歌（俳諧歌）概説 江戸狂歌（俳諧歌）を読む
第11回	江戸狂歌3－天明調・文政調・天保調－	江戸狂歌（天明調・文政調・天保調）概説 江戸狂歌（天保調）を読む
第12回	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として各回ともにテーマについて簡単に下調べしておくこと。復習として各回ともに配布資料及び授業ノートを読み直して内容について理解すること。毎日、簡単な課題を出す。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書として作成した資料を配付する

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題（55%）と第12回に実施する試験（45%）を中心に平常点を加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

見やすい資料、分かりやすい説明を心がけ、なるべく学生のみなさんも参加できるかたちの授業作りをしたいと思います。

【Outline (in English)】

The object of this class is to understand the significance of early modern kyōka by taking a general view of kyōka history while paying attention to a relationship between waka and kyōka.

LIT100TC（文学/Literature 100）
日本文芸研究特講・近代（夏期スクーリング）
沼田 真里
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正岡子規、夏目漱石、森鷗外の作品を中心に、日本の近代文学について学びます。日本近代文学史の知識を深めると同時に、研究方法や新しい研究分野についても学びます。これらにより、文学作品を読む際の自身の観点の持ち方や発想の独自性を磨きます。

【到達目標】

- 本授業から、以下の能力を身につけることを目標とします。
1. 文学作品を自ら読み解き、独自の観点や論点を見つけることができる。
 2. さまざまな研究手法を学び、それらを自分の分析や考察に活かす。
 3. 他者との意見交換や発表により発信力を身につけ、多様な意見を踏まえながら、自らの論を発展させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・基本的には講義形式ですが、定期的に授業内で学生一人一人の意見や感想を聞く機会を作り、全体で意見交換を行います。なお、授業の終わりには随時質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス。日本近代文学研究について	本授業のガイダンス。日本近代文学研究のオーソドックスな研究手法、テーマの見つけ方、参考文献の紹介といった基本的な知識を共有。
第2回	明治の文豪、子規・漱石・鷗外について	正岡子規、夏目漱石、森鷗外についてテーマで考え、比較検討する。
第3回	正岡子規	正岡子規とその作品についての講義。（『墨汁一滴』を中心に）
第4回	夏目漱石	夏目漱石とその作品についての講義。（『ころ』、『硝子戸の中』）
第5回	森鷗外	森鷗外とその作品についての講義。（『阿部一族』、『高瀬舟』）
第6回	学生の発表	全体での意見交換。
第7回	研究分野の開拓——郷土文学の発掘	新しい研究分野や手法の開拓について、実践例を紹介する。
第8回	研究分野の開拓——文学とコンテンツツーリズム、メディアと文豪	新しい研究分野や手法の開拓について、実践例を紹介する
第9回	文学とメディア	映像化された文学作品や、文豪をモデルとしたドラマを鑑賞し、原作との比較・検討をする。（漱石作品、鷗外作品など）
第10回	文学とメディア	映像化された文学作品や、文豪をモデルとしたドラマを鑑賞し、原作との比較・検討をする。（漱石作品、鷗外作品など）
第11回	学生の発表	全体での意見交換
第12回	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる作品（正岡子規『墨汁一滴』、夏目漱石『ころ』『硝子戸の中』、森鷗外『阿部一族』『高瀬舟』）を読んで受講することが望ましい。

定期的に全体の感想や意見交換を求めるので、活発な意見交換のためにも、テキストを事前に読んでおくことと、授業にテキストを持参することを薦める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

正岡子規『墨汁一滴』（岩波文庫）、夏目漱石『ころ』『硝子戸の中』（岩波文庫、新潮文庫他）、森鷗外『阿部一族』（岩波文庫、新潮文庫他）『高瀬舟』（岩波文庫、新潮文庫他）。いずれの作品も『青空文庫』で公開されており、個人全集や文学全集などでも読める。その他のテキストは、適宜プリントで配布する。

【参考書】

可能ならば、正岡子規『病牀六尺』、夏目漱石『坊っちゃん』、森鷗外『最後の一句』も参照できるとなおよい。参考書としては、『日本文学史 近代から現代へ』（中公新書、奥野健男、2002年）、『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』（ひつじ書房、日本近代文学会、2016年）などがあるが、授業内でも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験は70%で、最終時間に授業内試験を行います。講義でとりあげた作家・作品の一つを選び、自分の観点で論じる記述式試験です（800～1200文字程度）。

平常点は30%で、リアクションペーパーや、授業内の発表や発言などを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自ら発表をし、他の学生から意見や感想を受け取る形式が好評だったため、可能な限り今回もその形式を取り入れます。

【Outline (in English)】

In this class, we will learn about Japanese modern literature, focusing on works by Shiki Masaoka, Soseki Natsume and Ogai Mori. Students will deepen their knowledge of the history of Japanese modern literature, while also learning practically about work analysis and writer research. Through these, we aim to deepen the uniqueness and creativity of the research method as well as the way of having a viewpoint in the study of modern Japanese literature.

LIT100TC（文学/Literature 100）
日本文芸研究特講・漢文（夏期スクーリング）
永井 弥人
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代ではほぼ廃れてしまいましたが、戦前までは、尚盛んに漢文が実作されておりました。江戸の遺風が存していた、ということでしょう。今期夏スクでは、井上寅軒が物した九州旅行記『鴻爪餘録』（大正15年発行）を扱います。漢学の専門家ではなく、実業界の方の手に成る著作ですが、それだけに、判りやすい漢文で書かれています。また、内容も国内の旅行記ですので、親しみを覚えやすいかと思えます。

※ 毎授業、復文練習を行います。字数を決めた上で、書き下し文を原文に戻す練習です。江戸、明治の頃は、漢作文に向けた導入的練習として、大いに励行されておりました。現在におきましても、復文練習の実践により、句形・句法を理解する上で、大きな効果を見込むことが出来ます。

【到達目標】

訓点・添え仮名（送り仮名）付きの漢文を読解出来る様にする。漢文の基本的な句法（文法）を理解する。簡単な復文に習熟する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1 復文の答え合わせと解説。 2 テキストを講師が朗読。 3 テキストの解説、訳。 4 全員で朗読。

※授業中のご質問は、解説の切れ目辺りでお願い致します。授業後、ご質問下さっても勿論大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト及び復文の解説。熊本城（前半）	テキスト・復文の説明。熊本城をめぐり紀行文（前半）
第2回	熊本城（後半）	熊本城をめぐり紀行文（後半）
第3回	復文1 隈府（上）	隈府をめぐり紀行文（上）
第4回	隈府（中）	隈府をめぐり紀行文（中）
第5回	復文2 隈府（下）	隈府をめぐり紀行文（下）
第6回	西郷南洲故宅（前半）	西郷隆盛の旧居をめぐり紀行文（前半）
第7回	復文3 西郷南洲故宅（後半）	西郷隆盛の旧居をめぐり紀行文（後半）
第8回	川口雪蓬逸事	西郷隆盛の旧友川口雪蓬のエピソード。
第9回	復文4 甕府所見（前半）	鹿児島市をめぐり紀行文（前半）
第10回	甕府所見（後半）	鹿児島市をめぐり紀行文（後半）
第11回	復文5 青島	青島神社をめぐり紀行文
第12回	試験および授業内容の振り返り	前半は各自授業内容の振り返り含質疑応答。後半1時間で実施。持ち込み不可。 ①如何なる問題が出るか。②それぞれの問題の出題箇所。スクーリング第5回目について、教場にて説明致します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 時間程。毎回の復文の解答を作成しておいて下さい。また、その日学習した文章を一度でよいので読み返し、翌日扱う文章に一通り目を通して置いて下さい。

【テキスト（教科書）】

『鴻爪餘録』コピーを配布。（講師が訓点と送り仮名を付けたもの。）

【参考書】

漢和辞典 お手持ちの物で結構です。新しくお買い求めになる場合は、新明解（三省堂）漢字源（学研）新字源（角川）辺りがお勧めです。文法書 『漢文を読むための助字小字典』内山書店

【成績評価の方法と基準】

試験 70 % 平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

前回のスクーリング時に寄せられたコメントを参考にします。

【その他の重要事項】

※ 実際の授業進捗は、多少遅速が生じる可能性があります。早めにテキストをやり終えた場合には、続きの文章を学習致します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the reading skill in classical Chinese. — 1

LIN200TC（言語学/Linguistics 200）
日本文芸研究特講・言語（夏期スクーリング）
尾谷 昌則
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学作品の表現上の「ひねり」を取り上げ、それらについて言語学的に考える。「美しい表現だ」とか「味わい深い」とか主観的に感じるのではなく、論理的に考えることを重視する。

【到達目標】

様々な表現に込められた「ひねり」について、言語学観点から分析できるようになることと、それを他者に説明ができるようになること。また、そのために必要な言語学的知識を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

配付資料に沿って、講義形式で行う。配付資料には、文学作品を中心に様々な表現が取り上げられている。それらの解釈について受講生の感想を聞きながら、言語学的に検討する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	入門の入門	文法的に思考するとはどういうことかについて考える。
第2回	格について	「私だけ愛してた」、「海に／へ落ちる」といった表現について考える。
第3回	名詞について	「冬よ、僕に來い」といった表現から、名詞の種類や選択制限について考える。
第4回	動詞の自他	「扉が閉まります／扉を閉めます」といった表現から、動詞の自他について考える。
第5回	受け身	「クラムボン死んだよ／殺されたよ」といった表現から、受け身について考える。
第6回	主語と述語	「月が出た出た」と「出た出た月が」といった違いから、主語と述語について考える。
第7回	「は」と「が」（1）	「恋人は／がサンタクロース」といった表現から、主語と主題について考える。
第8回	「は」と「が」（2）	「生き残った虫のひとつは火をめぐる」といった表現から、主語と主題について考える。
第9回	テンスとアスペクト	「ロンドン橋落ちた」から、時制（テンス）と相（アスペクト）について考える。
第10回	ル形とタ形	「春が来た」「ああ、ムカムカする」といった表現から、タ形とル形について考える。
第11回	モダリティ	「結構です」「肩をお揉みください」といった表現から、丁寧さ・依頼・勧誘について考える。

第12回 試験および解説 学習内容の定着を確認する試験を実施し、後半ではその解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

『表現を味わうための日本語文法』（森山卓郎著、岩波書店）
 ※残念ながら現在は絶版。入手できる人は古本を購入してもらいたい。が、教室内で補助資料を配付するので、授業に支障はない。

【参考書】

『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』（庵功雄著、スリーエーネットワーク、1800円+税）

【成績評価の方法と基準】

論述試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

「文学は好きだが、言語学（文法）は苦手だ」との意見がよく寄せられる。そこで今回は、敢えて文学作品の表現を題材に取り上げることにした。主観的に「感じる」ことも必要かもしれないが、論理的かつ言語学的に「分析する」ことをしっかり練習してもらいたい。また、他者に何かを説明する際には、「分かりやすい具体例」が大切であることも学んでもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline:
 We will learn how to analyse linguistically a variety of ingenuities in linguistic expressions cited from all works of literature.

Learning Objectives:
 The objectives of this class are (1)to learn how to analyze the meanings and the structures of linguistic expressions linguistically and logically, and (2)to acquire the ability to explain them with a lot of examples.

Learning Activities Outside of the Classroom:
 Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy:
 Your overall grade in the class will be decided based on the term-end exam(100%).

LIT200TC（文学 / Literature 200）

日本文芸研究特講・韻文（夏期スクーリング）

土屋 聡

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

堀口大學の詩歌を通じて日本の近現代詩を学ぶことを目的とする。

歌人であり詩人、そして翻訳家として知られた堀口大學（明治25年～昭和56年）は数えて十八歳の明治四十二年に雑誌「スバル」へはじめて短歌を投稿し、やがてその創作を自由詩へと広げてゆく。その後外交官である父のもと、明治末年から大正期の多くを海外で過ごしつづつ大學は創作を続け、その経験が大正から昭和の時代の日本に、フランス語を中心とした新しい詩の息吹を紹介する契機となる。詩人とはその時代の空気をその作品に反映する性質を持つものであり、この講義では明治から昭和前期にかけての堀口大學による短歌と自由詩、翻譯詩を一つの軸とし、佐藤春夫や萩原朔太郎など大學に関わりのある詩人、およびその時代を代表する詩人による作品をとりあげてゆく。

文語から口語、定型詩から自由詩へと移り変わる作品の素材や形式の変化や、作品に内在する文学内容の普遍性と新しい方法の変化への試みなどを意識しつつ、日本近代の詩歌の歩みを考えてゆく。

【到達目標】

詩歌それぞれの形式の特性とその内容をきちんと理解するとともに、さまざまな詩歌の表現に親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

また、毎回授業のおわりに出席表を兼ねてリアクション・ペーパーの記入を求める。これは的確な文章表現力を身に付けるためのよい訓練ともなるので、積極的に記入すること。必要があれば講義の内容の充実に反映させてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方と堀口大學について
第2回	明治末期の詩歌	短歌による出発
第3回	ロマン派の短歌の世界	明治期の連作の短歌を味わう
第4回	自由詩への広がり	佐藤春夫との関わり
第5回	大正期の詩歌（1）	鞆旅と恋愛
第6回	大正期の詩歌（2）	萩原朔太郎との関わり
第7回	大正期の詩歌（3）	外国の詩と日本の詩
第8回	昭和期の詩歌（1）	発想の転換と近代化
第9回	昭和期の詩歌（2）	新しい要素と詩のかたち
第10回	戦後の詩歌	普遍的な視点への到達
第11回	まとめ	学習した内容の総括と補足
第12回	試験及び総括	学習した内容の理解度を問う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容を各自で復習を行うこと。配布したプリントのすべての内容を授業時間内で扱うことはできないため、復習はその確認をふくめて丁寧に行うこと。また、次回の授業までに目を通すように指示された場合は、きちんと読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、必要に応じプリントを配布する。

【参考書】

特に指定しないが、講義の展開により必要が生じた場合は適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー10%、最終日に実施する論述試験の90%で評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to study the characteristics and development of poetry in modern and contemporary Japanese literature, based on reading of poetry works of DAIGAKU HORIGUCHI.

Daigaku Horiguchi was born in Japan in the middle of the Meiji era and later became known as a translator. His full-fledged literary career began in the field of poetry during his youth.

He was first involved in the writing of tanka. In the Meiji era, Hiroshi Yosano became one of the masters of one of the classic poetry styles of Japan, waka, which was updated to a modern style of tanka. Daigaku was also under the influence of Hiroshi's wife Akiko Yosano.

His father, a foreign diplomat, gave him the opportunity to live abroad intermittently, unusual for Japanese at the time. Living in the Japanese Embassy and the Japanese Embassy's residence, he acquired French, the official language of diplomacy at the time. In two different languages, French and Japanese, the world of his poetry extends to tanka and the creation of unconventional free poems. Translations of verses and prose, mainly in French literature, fueled his attempt to expand the world of literature.

Modern Japanese poetry has evolved between a style based on the characteristics of the Japanese language and the content and style of foreign poetry formed by different styles in different languages. His translation works had a new impact on modern Japanese poetry.

We learn the development of poetry in modern and contemporary literature in Japan, and at the same time, from various perspectives, consider how the poetry works are written, published in magazines and other media, and the collection of poetry is eventually created.

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）
日本文芸研究特講・祭りと芸能（夏期スクーリング）
今泉 隆裕
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1896年近代オリンピックはギリシアで開催された。いうまでもなく、近代オリンピックはフランス人・クーベルタン男爵によって発案された。とはいえ近代オリンピック以前、ヨーロッパで「オリンピック」を冠した運動競技会は開催されていた。

じつはルネサンスの影響はフィレンツェから遠く離れた島国イギリスにも波及し、古代ギリシア研究はかの地でも花開く。イギリスの歴史学者や考古学者は古代ギリシアの研究に強い関心を示し、古代オリンピックの故事に関しても研究発表が行われていた。それが一般の人々にも知られるようになると1612年イギリス中部バーミンガムにほど近いチップリング・カムデンに住む弁護士ロバート・ドーバーは、自ら所有していた牧場を古代オリンピアのクロノスの丘に見立て「コッツワルド・オリンピック」という運動競技会を毎年春に開催しはじめる。大会はピューリタン革命の影響を受けて、1643年には中止され、1660年の王政復古でチャールズ2世が王位につくと、一時的に再開されるが、長くつづくことはなかった。また1850年にイギリス中西部のシュロンプシャー州マッチ・ウェンロックでウィリアム・ブルック博士が「マッチ・ウェンロック・オリンピック」なる運動競技会をはじめた。

のちにチップリング・カムデンにひとつの記念碑が建てられた。そこには「ロバート・ドーバーの有名なオリンピック競技大会は、およそ1612年から1852年まで行われた」と記されている。これはコッツワルド・オリンピックが中断をはさんで、マッチ・ウェンロック・オリンピックで復活したとの理解らしい。この記念碑を訪れたクーベルタンは近代オリンピックのアイデアを膨らませ、今日のオリンピック大会となったのである。

オリンピックが再生したように「ルネサンス」は「再生」を意味する。では、古代ギリシアにおけるオリンピックとは何だったのか。古代ギリシアにおけるオリンピックは、聖なる場所で、聖なる時間を実施される、聖なるゲームであり、神々を称える崇拜行事であった。さらにいえば、古代ギリシアにおいては死者を弔うために運動競技会が開催されていたのである（これをしばしば「葬祭競技」という）。われわれは運動競技を芸能や芸術と同列に扱うことがあまりない。しかし、これらはすべて同列に扱われてきたのである。そして運動競技も、芸能も、芸術もすべて宗教と未分化であったのである。芸能の起源は宗教儀礼にあるという理解は一般的である。

日本民俗学では折口信夫がそのことについて言及している。またそのアイデアに影響を与えたとされるジェーン・E・ハリソン『古代の芸術と祭祀』（Jane Ellen Harrison "Ancient Art and Ritual"）はよく知られる。芸能史や民俗学におけるハリソンの引用は、多くの場合、芸能の信仰起源を説明する際になされる。しかし原題にあるように宗教儀礼が芸術（芸能を含む）を胎動させたことについて論じられているのであり、ハリソンは芸能のみを射程にはしていなかった。しかも日本においてもト占行事のなかに綱引きや相撲、流鏝馬などがあるとすれば、われわれが考える運動競技の起源も宗教儀礼と無縁でないことがわかるだろう。

また「スポーツ」なる言葉の原義についても講義では言及するが、一般にスポーツが宗教起源であると考える人は少ないだろう。少なくとも日本ではスポーツは運動とほぼ同義で信仰を結びつけてイメージする人はほほいなのではないか。

本講義では、今日われわれが競技と考えるものをも含めて芸能と解し、それらと祭り（祭祀儀礼）との関係について、その一端を垣間みることとした。

【到達目標】

芸能が信仰を起源としながらも、芸能そのものに興味が転移し、それ自体が目的と化すことや、それらの芸能が当初の目的とは異なる利用のされ方をするなどで生きながらえることなどについて考えをめぐらして欲しい。歴史社会とのかかわりのなかであらゆることは変化する。そのことについて理解を深めてほしい。興味の対象の変化、目的の転移（トランジット）について一緒に考えたい。また、現代のわれわれからすると一見無関係にみえるものが、じつは深いつながりをもつことを知ってもらいたい。同時に近代化以降の世界が、それまでの人類の営みと断絶していることにも目を向けてほしい。日常では意識されない連続性、あるいは断絶性に想いを馳せてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式とする。フィードバックのために毎回リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーの内容についても必要とき言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義の進め方についての概要
第2回	祭りと芸能	白川静の議論などを紹介しつつ、「祭」「芸」「能」の字義について
第3回	「まつり」等の語義について	白川静の議論などを紹介しつつ、「まつり」等の語源や語義について考える。
第4回	祭りについて①「祭りと祭礼」	日本民俗学における祭りの諸説について紹介する。おもに柳田国男『日本の祭』の内容に言及することになるであろう。
第5回	祭りについて②宗教学にみる祭りについて	宗教学者・竹中信常、および柳川啓一の宗教儀礼、および祭りに関する諸説を紹介する。
第6回	芸能信仰起源説について①折口信夫	折口信夫『芸能史六講』について紹介する。あわせて、それに対する疑義についても紹介する。
第7回	芸能信仰起源説について②J・E・ハリソン	J・E・ハリソン『古代の芸術と祭祀』について紹介する。ハリソンはJ・フレイザーをよく参照することで知られる。そこで文化人類学についても言及する。
第8回	祭礼と競技（オリンピック）	古代オリンピックについて①古代オリンピックについてVTRなどを見ながら儀礼と運動競技について考える。
第9回	祭礼と競技（オリンピック）	古代オリンピックについて②葬祭競技、および近代五輪についても言及する。
第10回	祭礼と競技（日本）	オリンピック以外、日本における祭礼と競技について考える。相撲と鎮魂を取り上げる
第11回	祭礼と競技（日本）	オリンピック以外、日本における祭礼と競技について考える。流鏝馬等、弓について取り上げる
第12回	まとめ、および試験	講義のまとめ、および授業内レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習時間は、各2時間を標準とします。本授業の準備・授業内で指示した課題にしっかり取り組む。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

柳田国男『日本の祭』（角川文庫）、折口信夫『芸能史六講』（講談社学術文庫）、ジェーン・E・ハリソン『古代芸術と祭式』（ちくま学芸文庫）

そのほか授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と、学期末の授業内レポート（試験）を持って評価する。目安としてはレポート80%、平常20%とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとしします。

また講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、質問の意味を理解していないものが散見されます。

図書館等を積極的に活用し、自主学習にも取り組んで理解を深めてほしいです。

【学生が準備すべき機器他】

使用しません。

【その他の重要事項】

※それぞれのテーマを何回講義するかは未定である。

※取り上げるテーマは進捗等、都合により変更されることがあります。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will discuss the relationship between festivals and performing arts. Performing arts were generated from the ceremony. This is also the theory. Eventually, the religiousness is lost from the performing arts, and interest in the performing arts itself shifts. Think about the historical background in this lecture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%) .

LIT200TC（文学/Literature 200）
中国文芸史（夏期スクーリング）
遠藤 星希
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第2回	神話	中国の古代神話とその特徴について
第3回	詩経	中国最古の歌謡集である『詩経』の歌謡を読む
第4回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第5回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の書を読む
第6回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第7回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第8回	西晋の文学	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第9回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記録された怪異譚「志怪小説」についての概説
第10回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第11回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第12回	試験とまとめ	試験及び総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトになるべく多く閲覧しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
 ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
 その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%スクーリング教室試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, the lecture will be focused on the literature and the underlying social background of the most ancient periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) would arguably be one of the most familiar writings for Japanese, and we will learn how literature prior to the period of Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry, looked like.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties.
- B. Through reading representative literary works of each period, learn about various genres of Chinese literature, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture.
- C. Acquire the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term end examination: 100%

LNG200TC
日本語史（夏期スクーリング）
間宮 厚司
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の歴史について、様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、教室での対面形式です。プリントを使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。授業終了後に小レポートに当たるリアクションペーパー（質問・コメント・感想等）を提出してもらい、次の時間に紹介したり、答えたりします。また、授業中に出席確認を行うため、プリントを読んでもらったり、時々発言を求めたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス。	授業の進め方。 参考文献の紹介。 小レポートと大レポートの説明。
第2回	奈良時代の言語的特徴。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第3回	平安時代の言語的特徴。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第4回	鎌倉時代の言語的特徴。	プリントで解説し、授業中に小レポートを提出。
第5回	室町時代の言語的特徴。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第6回	江戸時代の言語的特徴。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第7回	明治から戦前までの言語的特徴。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第8回	戦後・昭和の言語的特徴。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第9回	平成・令和の言語的特徴。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第10回	方言の言語史。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第11回	未来の言語について。	プリントで解説し、授業後に小レポートを提出。
第12回	日本語の歴史について。	この授業中に大レポート提出とて、映像で学習する。授業の総まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。図書館等を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、プリントを使用します。

【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する小レポート（50%）と最終授業までに提出する大レポート（50%）の内容を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が疑問に思ったことを自ら調べ、考えて解決できるよう能動的に学習に取り組めるようにしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

大レポートは、パソコンまたはスマホ（ワープロ打ち）か手書きで作成し、第12回の授業終了までに教室で提出していただきます。

【Outline (in English)】

In this lecture, you are going to use several handouts that I'm going to give you in the class. The lecture introduces the history of Japanese Language to students taking this course.

LIT300TC（文学 / Literature 300）
書道実技（夏期スクーリング）
井澤 秀彦
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法
 姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

【到達目標】

中学校国語科書写における知識・技能の習得
 基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得
 中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノート提出する。
 講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ1：1くらいである。
 最終授業内で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で書いた作品の講評や通信添削課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは 楷書の基本点画	書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習（書字のきまり1）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習（書字の決まり2）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について 楷書の許容される書き方	教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴1	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴2	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習1	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習2	漢字（楷書・行書）と仮名の調和 「散らし書き」の理解と習得

第11回	楷書の古典	楷書の成立と唐の四大家 『九成宮醴泉銘』の学習
第12回	行書の古典	行書の成立と王羲之 『蘭亭序』の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかりと持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。
 本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『国語科書写の理論と実践』 全国大学書写書道教育学会編 荻原書房 ￥1,000 + 税
 通教テキスト「書道教本」
 ※『明解書写教育【増補新訂版】』も経過措置テキストとして使用可

【参考書】

指定なし

【成績評価の方法と基準】

授業参加30%、授業ノート（作品を含む）40%、試験30%

【学生の意見等からの気づき】

書道用具に関してですが、自らが中学生のころに使用していたものではうまく書けないようです。筆は大筆・小筆とも使用に耐えられず（やはり小中学生用はその程度です）、書道セットに入っていたような固形墨は上手に磨っても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年います。将来、教壇に立つ者として、相應の書道用具をそろえてください。
 また、墨で服を汚さぬよう各自工夫してください。

【その他の重要事項】

持ち物
 ①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はNG）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（B5・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり
 ※特に筆・墨・半紙は安価なものはいくつものが多い。
 上記テキストは必携のこと。

【Outline (in English)】

Practical skill and teaching method centered on teaching of junior high school Japanese language department calligraphy

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
論文作成基礎講座 I（夏期スクーリング）
山口 恭子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートや卒業論文を執筆するうえで基礎作業となる、先行研究の検索方法や文献の記述の方法について実習を通じ学びます。

【到達目標】

1. レポート、論文を執筆するうえで、先行研究を踏まえることの重要性について理解する。
2. インターネットを利用し、先行研究（研究書、雑誌論文）の検索方法を複数、習得する。
3. 先行研究の引用方法と、研究書、雑誌論文名の記載方法を習得する。
4. 大学図書館等の専門図書館の活用方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・はじめに、レポートや論文を執筆するうえで、先行研究を踏まえることの重要性を説明します。つぎに、法政大学図書館の利用方法やデータベースの活用を習得します。また、インターネットを利用した先行研究の検索方法を実習形式で学び、あわせて、収集した文献の記載方法も実習形式で学びます。
- ・授業時、あるいは授業後に寄せられた質問やコメントについては、翌日の授業においていくつか取り上げながら、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	レポート、卒業論文執筆に向けて（1）	よいレポート、論文を書くうえで大切なことは何かを考える。
第2回	レポート、卒業論文執筆に向けて（2）	先行研究の種類（研究書、雑誌論文）について理解する。
第3回	大学図書館について（1）	法政大学図書館の利用ガイダンスを受ける。
第4回	大学図書館について（2）	ガイダンスで得た知識を生かしつつ、図書館の活用方法を知る。
第5回	文献検索の方法（1）	国会図書館データベースを中心にその利用方法を学ぶ。
第6回	文献検索の方法（2）	国文学研究資料館の論文目録データベース等の利用方法を学ぶ。
第7回	文献検索の方法（3）	CiNii等の利用方法を学ぶ。
第8回	文献の記述方法	文献の引用と表記の方法を学ぶ。
第9回	文献の検索と収集	文献を検索するプロセスを実習（1）文献を検索してみよう

第10回	文献の検索と収集	検索した文献を大学図書館で入手するまでのプロセスを実習する。
第11回	課題実習（1）	自らテーマを設定し、文献の検索と収集を行う。
第12回	課題実習（2）	課題実習（1）を踏まえ、先行研究一覧を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したデータベースの利用方法は、授業外においても復習し、習熟すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『日本文学科のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧（2023）』

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

第11・12回で行う、課題実習の完成度により成績評価を行う。配分は100%。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの要望や習熟度にできるだけ応えるよう配慮して進めてゆきたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業は情報実習室で、同室備え付けのパソコンを利用して行います。
- ・授業時に作成したデータを保存するためのUSBメモリを各自用意してください。

【その他の重要事項】

- ・オフィスアワーとして、授業の後の時間に対応します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the search method of prior research and description method of the references.

This is the basis for writing reports and graduation thesis.

(Learning Objectives)

1. Understand the importance of taking into account previous research when writing reports and dissertations.
2. Learn how to search for previous research using the Internet.
3. Learn how to cite previous research.
4. Understand how to utilize specialized libraries such as university libraries.

(Learning activities outside of classroom)

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade is evaluated by the degree of completion (100%) of the assignment training.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
論文作成基礎講座Ⅱ（夏期スクーリング）
佐藤 未央子
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートや卒業論文の作成に向けて、文章の読解能力や調査力、自らの言葉で書く表現力を養う。近代文学の研究フローを通して段階的な演習を行い、「論じる」ための基礎的なスキルを体得する。教材としては、法政大学の教員を務めたことがある小説家・内田百閒の短篇「旅順入城式」を読み、考察レポートを作成する。作品への注釈作業や先行研究の調査を行い、小説を考察して自分の言葉で論じる力をつける。

【到達目標】

- ・文献を扱うためのルールについて理解している。
- ・情報を調査収集・分析し、問いを立てることができる。
- ・明確でわかりやすく、論理的な文章の表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

辞典を使用した注釈作業や、先行研究の調査検討、自分の意見をまとめるなどの段階的な取り組みを経て、最後に1500字程度のレポートを作成する。課題提出や質問は授業の前後やメールを通して受け付ける。提出物は添削を通してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	レポートを書くための基礎的な知識を確認する。内田百閒の人生や作風を学び、「旅順入城式」を読む。
第2回	大学図書館について	法政大学図書館の基礎ガイダンス動画を視聴し、文献の調べ方を学ぶ。
第3回	注釈を付ける	「旅順入城式」を読解するにあたり、わからない単語や固有名詞の意味を辞典で調べる。
第4回	注釈の発表	調べたことを発表し、情報を共有する。
第5回	先行研究の検討	先行研究の読み方や問いの立て方を学ぶ。文献引用に関するルールについても確認する。
第6回	先行研究の要約	ひとり1本の文献を選び、内容の要約と疑問点をまとめて提出する。
第7回	論文の構成①	先行研究をすり合わせ、研究史を確認する。注釈と先行研究の要約を含めた論文全体の構成を考える。
第8回	論文の構成②	学術的な文章のアウトラインや、論理の立て方について学ぶ。
第9回	論文演習①	レポートの前半部分を執筆する。
第10回	相互批評（ピア・サポート）	学生同士でレポートの相互批評を行う。自らの課題を見つけ、伝わりやすい文章にはいかなる工夫が必要かを考える。

- 第11回 論文演習② レポートの後半部分を執筆する。
- 第12回 相互批評（ピア・サポート） レポートの相互批評を行った後、全体の復習を経て、学習の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布したプリントは必ず読んでください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業内容に応じてプリントを配布します。

【参考書】

授業で取り扱う「旅順入城式」は、初回授業時にプリントで配布します。

岩波文庫から『冥途・旅順入城式』が刊行されていますので、他の作品もご一読をお勧めします。

ほか、適宜講義で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業ごとの提出物：40%
 - ・発表：10%
 - ・最終レポート：50%
- 8コマ以上の出席を単位取得の条件とします。
 ※遅刻・早退は0.5コマ分の出席となります。
 ※最終日のみ、前半の授業を2コマとしてカウントします。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に意見を交換できる場を作れるよう努めます。不安なことや質問があればご遠慮なくお問い合わせください。

【学生が準備すべき機器他】

・事前に「市ヶ谷情報センター利用ユーザーID」（※通信教育部が発行するWeb学習サービスのユーザーID、パスワードとは異なります）の取得をお勧めします。資料検索をはじめ、学内ネットワークのサービス利用に役立ちます。発行した場合、授業内でIDとパスワードを使用しますので、必ず控えておいてください。

・図書館資料を利用するため、「ライブラリーカード」の発行も推奨します。

・パソコンと文書作成ソフト（Microsoft Word等）があれば、自宅でもレポートの作成が進められるため、用意していただくことを推奨します。

・レポート提出は最終授業で提出していただくか、授業終了後にメールで提出していただきます。その場合はメールソフトが必要です。

【その他の重要事項】

レポートとメール作成や、資料検索のためのパソコンスキルが不可欠な授業となります。授業前にならず操作方法を確認し、習得したうえで授業に臨んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, we aim to acquire reading, researching and writing skills necessary for preparation of report or of graduation thesis. By conducting step-by-step exercises through the research flow of modern literature, students acquire basic skills to "argue". And this course will focus on Hyakken Uchida's short story, "Ryojun Nyujoshiki". Students discuss their views by making notes on novels and researching references.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- Understand the rules for dealing with literature.
- Examine and analyze data and raise issues.
- Write intelligible and logical sentences.

【Learning activities outside of classroom】

Before / after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report(50%), presentation(10%), in-class contribution(40%).

HIS100TD（史学/History 100）

日本史概説（夏期スクーリング）**安田 寛子**

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際化の進展のなかで、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響したといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、そこで生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

【到達目標】

今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本がどういう国なのかということをお我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本のなかに多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいく。

これにより、自分たちの国についての理解を深め、ひいては物事の本質を見抜き、判断する力を養うことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形態で実施する。まず江戸幕府の成立過程を概観し、そこから徳川政権の特質について考え、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていく。

なお、授業内で課す課題などに対するフィードバックはすべて授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立	天下統一と民衆・武家・朝廷・宗教への対応
第3回	鷹場制度 1	鷹場制度とは、なぜ放鷹なのか
第4回	鷹場制度 2	鷹場制度の維持基盤
第5回	鷹場制度 3	鷹場制度の解体
第6回	享保の改革 1	近世の政治改革、享保の改革第1期①
第7回	享保の改革 2	享保の改革第1期②、第2期、第3期
第8回	寛政の改革 1	定信政権の性格・危機感、経済政策、社会政策
第9回	寛政の改革 2	医療改革、朝幕関係、対外関係、国防体制
第10回	天保の改革 1	背景、物価対策、風俗・情報統制、農村復興策、将軍権威
第11回	天保の改革 2	対外政策
第12回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習は特に必要としない。

ただし、授業開始後の復習は必ず行い、内容を理解出来ているか、毎回きちんと確認すること。

復習および関連の学習時間は、1回につき4時間以上を目安とする。

【テキスト（教科書）】

教科書等は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

児玉幸多・佐々木潤之介編『新版 史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996年）4180円（税込み）

この他の参考図書については、授業のなかで紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすく、ゆっくり話すように心がける。

【Outline (in English)】

We will discuss the characteristics of the control system that supported the Edo period and the people who lived there, and consider why it became such a peaceful and stable long-term government and why it collapsed.

The goal of this course is to develop the ability to see and judge the essence of things.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the Term-end examination:100%

HIS200TD（史学/History 200）
史学概論（夏期スクーリング）
秋山 千恵
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツの歴史学の歴史をふり返りながら、ドイツの歴史学界およびドイツ社会における諸論争の紹介をとおして、近年の歴史研究の動向・世界史認識の問題点を整理し、現代における歴史学について考えます。

【到達目標】

ドイツの歴史学の歴史から、歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、世界史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、その歴史を検討しつつ、現代の歴史学が直面する諸問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP2,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義中心です。はじめにドイツの国民国家成立史をふりかえり、それからドイツの歴史学の歴史とドイツの主要な歴史論争を紹介します。理解を深めるために、プリント配布し地図なども提示しながら授業を進めていきます。

リアクションペーパー等のフィードバックは授業中に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ドイツ国民国家の成立(1)	国民国家とは何か
第2回	ドイツ国民国家の成立(2)神聖ローマ帝国からドイツ連邦まで	市民社会の誕生とドイツ国民意識
第3回	ドイツ国民国家の成立(3)1848年革命からドイツ帝国の成立	ドイツ統一問題とドイツ国民
第4回	ドイツの歴史学の歩み(1)ドイツ帝国	ランケの歴史学
第5回	ドイツの歴史学の歩み(2) ヴァイマル共和国から第三帝国	伝統史学
第6回	ドイツの歴史学の歩み(3) 戦後ドイツ	第二次世界大戦後のドイツ歴史学界とフィッシャー論争
第7回	ドイツの歴史学の歩み(4) 1960年代から1970年代にかけてのドイツ社会	社会史論争
第8回	ドイツの歴史学の歩み(5)	「特有の道」論争
第9回	ドイツの歴史学の歩み(6) 1980年代のドイツ	歴史家論争
第10回	ドイツの歴史学の歩み(7)	ドイツ統一問題と歴史学

第11回 ドイツの歴史学の歩み(8) 歴史学界自体の「過去の克服」

現代歴史学の状況

第12回 まとめと試験 論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

毎回の配布プリントで当該授業の参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

論述試験（100％）で評価します。授業内容の理解とそのまとめ方を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつひとつわかりやすい説明に努めます。

【その他の重要事項】

本授業は、2019年夏期スクーリング「史学概論」と、一部2022年夏期スクーリング「史学概論」の内容と重複します。授業の進行上、シラバスの内容を一部変更することがあります。

【Outline (in English)】

This course introduces German History and Historiography of German History to students taking this course.

HIS200TD（史学/History 200）

西洋史概説（夏期スクーリング）

内田 康太

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代地中海世界に成立した諸国家のうち、アテナイ民主政とローマ共和政の国制について概説する。個々に独立した分析だけではなく、両者の比較という方法でそれぞれの特徴を把握することにより、歴史研究における比較史の有用性も学ぶ。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。
 ・アテナイ民主政とローマ共和政の国制について基礎的知識を習得する。
 ・両者の国制について、類似点と相違点を説明できる。
 ・両者の国制を比較することの意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、第5日目までは毎日、その日の講義内容に対するリアクションペーパーを書いてもらい、翌日の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アテナイ民主政とローマ共和政
第2回	アテナイ民主政の国制（1）	参政権
第3回	アテナイ民主政の国制（2）	投票
第4回	アテナイ民主政の国制（3）	民会
第5回	アテナイ民主政の国制（4）	役人・政務官
第6回	アテナイ民主政の国制（5）	裁判
第7回	ローマ共和政の国制（1）	参政権
第8回	ローマ共和政の国制（2）	投票
第9回	ローマ共和政の国制（3）	民会
第10回	ローマ共和政の国制（4）	役人・政務官
第11回	ローマ共和政の国制（5）	裁判
第12回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波新書、2022年。

鳥田誠『世界史リブレット3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80%）
 リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic. Not only analyzing them individually but also comparing each other to identify their characteristics, it also helps students learn the usefulness of comparative history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic.
- Students are able to explain similarities and differences between them.
- Students are able to understand the significance of comparing them each other.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200TD（史学/History 200）
東洋史概説（夏期スクーリング）
塩沢 裕仁
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

隋唐の長安・洛陽成立前史として中国古代王朝の都を考えて行きます。

授業の目的・意義

古代中国史を彩った王朝文化の中心である都の有様と研究の現状をみることによって、長大な中国史の流れを実感し、東アジアの歴史文化に対する認識を深めることができます。

【到達目標】

中国古代王朝の政治・経済・文化の中心として機能してきた都の有り様とそれに関連する遺跡や文物を理解することで中国古代史の大きな流れと発展の状況を理解することができます。また同時に中国文化と深い関係にあった日本文化に対しても新たな認識をえることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

隋唐の長安・洛陽の成立に至る過程を中心に中国古代王朝の都に関する発掘状況や保存状況をみていきます。また、都の近傍に展開する陵墓の状況を通して各王朝の皇帝とその偉業などについても触れていきます。

学生からの質問に関しては授業の最後に受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二里头・偃師商城・鄭州商城	夏王朝の存在と夏殷交代期の問題を考える。
第2回	殷墟遺跡	殷墟をめぐる諸問題を考える。
第3回	周原・宗周豊鎬京	西周王朝をめぐる問題を考える。
第4回	成周洛邑	東周王朝をめぐる問題を考える。
第5回	邯鄲・侯馬・臨淄・新鄭	春秋戦国期の都を考える。
第6回	秦の雍城・咸陽	秦王朝の都を考える。
第7回	前漢の長安	前漢の長安とその都市圏を考える。
第8回	後漢の洛陽	後漢洛陽とその都市圏を考える。
第9回	魏晋南北朝の鄴都	鄴都という都の性格を考える。
第10回	六朝の建康	建康と南朝文化を考える。
第11回	北魏の平城・洛陽	遊牧都市の性格を考える。
第12回	隋唐の長安・洛陽	隋唐の長安と洛陽の性格を考える。
第12回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国王朝の流れ、地理環境、行政区分など、基本的な問題は下記の参考書などを通じて理解しておくようにしてください。また、授業中に配布する資料には必ず目を通しておくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

『千年帝都洛陽』塩沢裕仁、雄山閣、定価：3,990円（税込）

『中国の歴史 上（古代－中世）』（2009年改訂版）愛宕元・富谷至、昭和堂、定価：各2,415円（税込）

『ビジュアル版世界史5、中国文明の成立』、講談社、定価2,625円（税込）。

『ビジュアル版世界史8、東アジアの世界帝国』、講談社、定価2,625円（税込）

【成績評価の方法と基準】

記述式試験100%

【学生の意見等からの気づき】

全員が初めて受ける内容であると思ってください。したがって、高等学校において世界史を選択したか否かは問題ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On a survey of the Oriental identity and development from perspectives of the World History, we will be able to understand the various issues on the Chinese History, the Asian Peoples and Culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

HIS300TD（史学/History 300）

史学演習（日本）（夏期スクーリング）

大塚 紀弘

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：1群午前
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』を講読する。今年度は、文治4年（1188）4月23日条から講読を始める予定である。担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論し、中世の日本漢文を読解する基礎的な力を養成することを目的とする。

【到達目標】

日本漢文で書かれた中世の史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解して内容を整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを作成し、第12回の最初に提出することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回・第2回・第12回は、講義形式で進める。第3回～第11回は、演習形式で進める。担当者がレジュメに基づいて発表した後、その内容に基づいて、司会者の進行のもと、原則として全員が発言し議論する。担当者は、発表当日の最初の時間にレジュメを提出する。レジュメはこちらで人数分印刷する。課題等のフィードバックは授業中に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第2回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と講読の進め方の解説
第3回	『吾妻鏡』講読（1）	読解の報告と議論
第4回	『吾妻鏡』講読（2）	読解の報告と議論
第5回	『吾妻鏡』講読（3）	読解の報告と議論
第6回	『吾妻鏡』講読（4）	読解の報告と議論
第7回	『吾妻鏡』講読（5）	読解の報告と議論
第8回	『吾妻鏡』講読（6）	読解の報告と議論
第9回	『吾妻鏡』講読（7）	読解の報告と議論
第10回	『吾妻鏡』講読（8）	読解の報告と議論
第11回	『吾妻鏡』講読（9）	読解の報告と議論
第12回	講読内容の総括	レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者全員が事前に講読する部分の訓読文・現代語訳文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。第10回までに講読した部分の訓読文・現代語訳をレポートとしてまとめ、第12回の最初に提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新訂増補国史大系『吾妻鏡』（吉川弘文館）
 購入する、または図書館で講読する予定の部分（文治4年4月23日条から6月19日条）をコピーしておくこと。

【参考書】

五味文彦『増補 吾妻鏡の方法』（吉川弘文館、1990年）

西田友広編『吾妻鏡 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（KADOKAWA、2021年）
 その他は授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点24%、発表点40%、レポート点36%の合計で評価する予定である。4回以上欠席した場合、あるいは正当な理由なく発表やレポートを怠った場合はD評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

議論が活発になるように努める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students read the medieval Chinese texts. The goals of this course are to train the ability to understand the contents deeply. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 36%, in class contribution: 64%.

HIS300TD（史学/History 300）
史学演習（日本）（夏期スクーリング）
松本 剣志郎
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることを目的とする。

【到達目標】

- ①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
- ②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
- ③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
- ④史料の解釈について討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学生の報告および討議が中心である。『江戸町触集成』の史料を担当者が書き下し、現代語訳、語句説明および史料の位置づけをレジュメにして発表する。こうした課題等に対するフィードバックは授業内ですべておこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の説明、近世史研究入門
第2回	史料読解の基礎	近世史料の読み方
第3回	調査研究の実践（1）	図書館の使い方
第4回	調査研究の実践（2）	研究論文の探索
第5回	史料講読（1）	『江戸町触集成』1～3号
第6回	史料講読（2）	『江戸町触集成』4～6号
第7回	史料講読（3）	『江戸町触集成』7～9号
第8回	史料講読（4）	『江戸町触集成』10～12号
第9回	史料講読（5）	『江戸町触集成』13～15号
第10回	史料講読（6）	『江戸町触集成』16～18号
第11回	史料講読（7）	『江戸町触集成』19～21号
第12回	総括と質疑応答	卒論執筆に向けた準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『江戸町触集成』（塙書房）。ただし、該当部分をコピーして配布するので、購入する必要はない。

【参考書】

『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか

【成績評価の方法と基準】

到達目標に即した評価基準とする。1 報告（80%）。担当者は、レジュメを作成し、出席者全員にコピーして配布する。2 質疑応答（20%）。報告順番を決めるので第1回および第2回の授業への欠席は原則認められない。

【学生の意見等からの気づき】

卒論を書ける力を養成していきます。

【Outline (in English)】

This course deals with the early modern history of Japan, reading Edo City Ordinances. At the end of the course, participants are expected to read historical documents aloud and translate them into modern Japanese. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant document. Your required study time is at least 4 hour for each class meeting. Grading will be decided based on students presentation(80%), and the quality of the students' performance in the class(20%).

HIS300TD（史学/History 300）
史学演習（日本）（夏期スクーリング）
内藤 一成
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を研究する上では、史料（資料）や文献を博捜し、内容を深く読み込まなければならぬ。また先行研究を正しく「批判」し、自らの創造的な意見を打ち立てなければならない。本授業では、こうした能力の習得をめざす。

【到達目標】

日本近代史を研究するのに必要な能力の習得を目標とする。特に以下の4点を重視する。①一次史料の解読能力を身につける。②多様な史料（資料）の特徴を理解する。③学術論文を「批判的」に読み込む能力を身につける。④発表を通じてプレゼンテーションやディスカッションの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式をとる。史料解読および、個人またはグループによる発表を基本とする。史料解読は事前に配布した史料をテキストとして、輪読形式で行う。発表は『犬養木堂書簡集』をテキストに、各書簡について、①語句の説明、②内容の要約、などをレジュメ形式にして行う。授業は対面で実施する。

これら課題等に対するフィードバックは、すべて授業内で行う。

※なお、受講生の人数や授業の進捗状況等によって弾力的に授業内容を組み替えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第2回	歴史史料の調べ方	史料解読テキストの説明
第3回	学術論文の探し方、読み方	歴史研究に関する基礎知識
第4回	史料解読1 発表1	史料解読 犬養書簡報告1
第5回	史料解読2 発表2	史料解読 犬養書簡報告2
第6回	史料解読3 発表3	史料解読 犬養書簡報告3
第7回	史料解読4 発表4	史料解読 犬養書簡報告4
第8回	史料解読5 発表5	史料解読 犬養書簡報告5
第9回	史料解読6 発表6	史料解読 犬養書簡報告6
第10回	史料解読7 発表7	史料解読 犬養書簡報告7
第11回	史料解読8 発表8	史料解読 犬養書簡報告8
第12回	まとめ	授業総括・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料解読は、事前に解読文を作成しておく。授業後には、字句や内容の意味を確認しておく。発表では、発表者以外の学生も積極的な議論が行えるよう予習を進めておく。授業後には、関係する参考文献や論文に目を通すなどして理解を深めるようにする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『犬養木堂書簡集』（岡山県郷土文化財団復刻）、ただし授業では関係部分をコピーで配布する（購入の必要はなし）。このほか国立国会図書館憲政資料室が所蔵する日記・書簡のコピーを史料解読のテキストに用いる。

【参考書】

『シリーズ 日本近現代史』（岩波新書）全10冊、黒沢文貴・季武嘉也編『日記で読む近現代日本政治史』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

史料解読（おおむね20%）、発表（おおむね70%）内容、ディスカッションへの参加（おおむね10%）を総合化し、これを平常点（100%）として評価する。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

議論が活発になるように努める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is twofold. The first is to search for historical materials and scholarly books in modern Japan and read the contents deeply. The second is to properly criticize previous research and establish one's own creative opinion. Through this course, I aim for students to acquire such abilities.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the ability to decipher historical materials, read academic papers critically, and presentations and discussions.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Learning activities outside of classroom)

Final grades are calculated according to the process of presentation, discussion and in-class contribution. Combine all elements to make 100%

HIS300TD（史学/History 300）
史学演習（西洋）（夏期スクーリング）
高澤 紀恵
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史家たちはヨーロッパの過去に対してどのような問いを投げかけ、どのように歴史を描こうとしてきたのでしょうか。この授業は、主にフランスと日本の歴史家たちの営みから、この問題を考えたいと思います。ヨーロッパの歴史に親しむだけでなく、歴史を学ぶ意味、歴史を捉える方法について一緒に学んでいきましょう。

【到達目標】

歴史が過去に問いかける人の営みによって描かれ、伝えられることを、ひとりのフランス人歴史家とひとりの日本人歴史家との知的対話を通して学びましょう。

それはまた、中世のヨーロッパと日本・フランスの二〇世紀史について学ぶことに繋がるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スクーリング開始までにテキストを読んできてください。第一日目に担当をきめますので、二日目以降は担当者による発表、質疑、議論によって授業を進めます。授業は対面で行います。演習ですから、受け身ではなく、授業と一緒に作るつもりで積極的に参加してください。

リアクション・ペーパーは月曜から金曜まで最後の時間に書いてもらいます。フィードバックは、翌日の授業開始時に行います。オフィスアワーは、授業時間の前に設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の紹介 講師、受講生の自己紹介
第2回	『マルク・ブロックを読む』誕生の背景	書物を読む読み方の紹介
第3回	第一講「時代に立ち向かうブロック」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.1~p.28)
第4回	第一講「時代に立ち向かうブロック」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.29~p.52)
第5回	第二講「学問史のなかのブロック」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.53~p.69)
第6回	第二講「学問史のなかのブロック」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.69~p.92)
第7回	第三講「作品の仕組みを読む」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.93~p.128)
第8回	第三講「作品の仕組みを読む」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.129~p.161)
第9回	第四講「作品の仕組みを読む(つづき)」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.162~p.192)
第10回	第四講「作品の仕組みを読む(つづき)」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.193~p.219)
第11回	第五講「生きられた歴史」	講読・質疑・解説 (テキスト p.220~p.264)

第12回 総括 小エッセイの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者に割り当てて、概要を報告してもらいますので、事前にテキストを入手し、読んできて下さい。

自分はこの箇所を担当したいかを考えながら、疑問をもちながら読むことをおすすめします。

本授業の予習・復習時間は、各二時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波書店、(岩波現代文庫版) 2016年。

【参考書】

高澤紀恵「高橋・ルフェーブル・二宮——「社会史誕生」の歴史的位相」『思想』1048号、2011年10月号。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表（40％）

議論への参加（20％）

最終回におけるエッセイ（40％）

【学生の意見等からの気づき】

2022年度の経験では、学生はきわめて熱心に参加し、授業中に多くの質問をしてくれました。授業は、教員と学生が一緒に作っていくものであると、あらためて思いました。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメを作成するためのワープロがあることが望ましい。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course aims to understand how historians have treated and described the past of Europe. We will focus on the struggle of Japanese and French historians in the 20th century and today like Marc Bloch, Hiroyuki Ninomiya and so on.

Attendants are expected to read assignments in advance.

HIS300TD（史学/History 300）

史学演習（東洋）（夏期スクーリング）

兼平 充明

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午前
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

北宋の司馬光の著した歴史書『資治通鑑』を講読することにより、漢文史料の読解能力を養い、あわせて中国古代史についての基本的な知識を身に付ける。

【到達目標】

『資治通鑑』は、戦国時代から五代に至るまでの中国の歴史を編年体で記した通史であり、中国だけでなく日本をはじめとする漢字文化圏の国々において、古くから知識人に読み継がれてきた歴史書である。本演習では浩瀚な『資治通鑑』の中から漢紀の後漢末の部分を選び講読を行う。到達目標としては①訓読(書下し文)という日本独自の漢文の読み方に習熟する。②漢文史料の読解の際に必要とされる工具についての知識を身に着ける。③教員による解説を通じて史料の扱う時代について理解を深める。という三点をめざす。以上の目標の達成度については最終試験で評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：毎回担当者に訓読(書下し)と現代語訳という形で報告をしてもらい、そのあと全員でその部分について議論するという形で進めていく。また必要な箇所での時代の政治・制度・社会などについて説明を加えることにより、一層深いテキストの理解をめざす。

フィードバック方法：授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方および『資治通鑑』についての説明。
第2回	『資治通鑑』講読	魯粛の劉備訪問（一）
第3回	『資治通鑑』講読	魯粛の劉備訪問（二）
第4回	『資治通鑑』講読	諸葛亮の大論陣（一）
第5回	『資治通鑑』講読	諸葛亮の大論陣（二）
第6回	『資治通鑑』講読	曹操からの降服勧告
第7回	『資治通鑑』講読	周瑜の諫言（一）
第8回	『資治通鑑』講読	周瑜の諫言（二）
第9回	『資治通鑑』講読	孫権の決意
第10回	『資治通鑑』講読	決戦前夜
第11回	『資治通鑑』講読	赤壁の戦い
第12回	『資治通鑑』講読	まとめ・最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当日読む部分については参加者全員が予習しておく。予習をする際には史料に出てくる人名・地名等についてもできる限り調べておくようにする。予習・復習に必要な時間は一回につき四時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に資料を配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、最終試験(70%)

【学生の意見等からの気づき】

質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

Reading of classical Chinese

HIS300TD (史学/History 300)
日本古代史（夏期スクーリング）
杉本 一樹
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の古代という時代について、あらためてこの時代を歴史学の対象として「学ぶ」こと。これ自身が授業の目的です。そのために実際にはどのようなアプローチがあるのか。いくつかのトピックを挙げて話を進めます。主たる対象時期は8世紀。この時代の諸相を知るためには、時代の骨組みを通時的・共時的に表現する六国史・律令格式のような包括的・体系的な史料と、そこに歴史個別具体性に富んだディテールを付け加える正倉院文書や木簡などの史料との双方が欠かせません。この二つを柱に、美術工芸や建築などの分野も視野に入れながら講義を行います。

【到達目標】

- (1) 日本古代史についての基本史料とその特質について知り、その中でも特に正倉院文書についての理解を深める。
- (2) 「史料の記事内容」を「研究の材料」としてのみとらえるのではなく、その中間に「対象の理解」を介在させ、これまでの諸研究の辿った道筋を再確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で行なうことを予定しています。

- (1) 資料は適宜プリントを配布します。
- (2) 授業の区切りごとに、授業中に出された小課題への回答、授業の感想・質問や自分の発見などを記入したリアクションペーパーの提出を求めます。ここで述べられたコメントは、次回以降、授業内の関連箇所で紹介するなど、授業に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本古代史を学ぶということ	導入とガイダンスを行なう。
第2回	古代史料の概要（その1）	六国史ほか日本の史書について説明する。
第3回	古代史料の概要（その2）	律令格式ほか法制史料について説明する。
第4回	古代史料の概要（その3）	正倉院文書の概要について。所在・現況・整理・研究資源化について説明する。
第5回	古代史料の概要（その4）	木簡と出土文字資料、金石文について説明する。
第6回	日本古代史を知るための材料（その1）	仏典と漢籍について説明する。
第7回	日本古代史を知るための材料（その2）	美術工芸品を歴史資料として利用することについて。
第8回	正倉院文書の主要文書（その1）	律令制公文書について、歴史学・古文書学の立場から説明する。
第9回	正倉院文書の主要文書（その2）	写経所文書の諸類型を紹介する。また国文学・国語学・書道史からのアプローチについて説明する。
第10回	正倉院文書の主要文書（その3）	写経所文書の諸類型、構造と機能について説明する。
第11回	日本古代史を学ぶための手法	古代史研究の諸分野と研究のツールについて説明する。

第12回 再び日本古代史を学ぼうとまとめで全体にわたる補足説明ということ。を行なった後、試験を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じて資料プリントを配布します。

【参考書】

- 杉本一樹『日本古代文書の研究』吉川弘文館（2001-2）
- 杉本一樹責任編集『皇室の名宝 05 正倉院 文書と経巻』朝日新聞社（1999-5）
- 杉本一樹編『正倉院の古文書』至文堂 日本の美術 440 （2003-1）
- 杉本一樹『正倉院 歴史と宝物』中公新書 1967 （2008-10、韓国語版2015、電子版2019）
- 杉本一樹『正倉院宝物の世界』山川出版社 日本史リブレット 74 （2010-6）

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況（授業の区切りに提出するリアクションペーパーを含む）を「平常点」（40％）として、期末に実施する試験の結果（60％）とあわせて評価を行ないます。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの受講生の感想等を反映しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn about the ancient times of Japan based on the method of history.

Sources of this period are *Rikkokushi* (六国史), the officially compiled chronicle of the dynasty, and *Rituryou* (律令), the comprehensive code of law. In addition, historical materials such as *Shosoin Documents* (正倉院文書) and *Mokkan* (木簡), which have specific content, are also important.

I will consider what approaches to the purpose of the class mentioned at the beginning, and introduce some topics necessary for that. In addition, classes will be conducted with a view to arts, crafts and architecture.

HIS300TD（史学/History 300）

日本中世史（夏期スクーリング）

仁平 義孝

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：1群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の幕府政治史を概観する。幕府内部で繰り返された内紛と、幕府の政治意志決定のあり方を中心に、関連する史料を読みながら検討していく。

【到達目標】

鎌倉幕府政治史の流れを理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。配布する講義資料に沿って進めていく。
 質問は授業終了後などに受け付ける。全受講生で共有すべき事柄については、次の授業で紹介する。
 最終授業では、試験終了後に試験の解説、授業のまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明。
第2回	源頼朝執政期の幕府政治(1)	寿永2年10月宣旨、文治勅許など。
第3回	源頼朝執政期の幕府政治(2)	頼朝上洛、建久7年の政変、頼朝執政期の評定など。
第4回	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(1)	比企氏事件、頼家・実朝期の評定など。
第5回	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(2)	和田合戦、承久の乱、政子期の評定など。
第6回	執権北条泰時・経時期の幕府政治(1)	伊賀氏事件、御成敗式目など。
第7回	執権北条泰時・経時期の幕府政治(2)	泰時期の評定、経時の制度改革など。
第8回	執権北条時頼・長時期の幕府政治(1)	寛元の政変、宝治合戦など。
第9回	執権北条時頼・長時期の幕府政治(2)	引付、得宗時頼など。
第10回	得宗北条時宗期の幕府政治	引付廃止・再設置、寄合、二月騒動など。
第11回	得宗北条貞時・高時期の幕府政治	霜月騒動、平禅門の乱、評定・寄合など。
第12回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献、配布資料をよく読む。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料を配布する。

【参考書】

本郷恵子『京・鎌倉 ふたつの王権』（小学館、2008年）
 川合 康『源平の内乱と公武政権』（吉川弘文館、2009年）
 小林一岳『元寇と南北朝の動乱』（吉川弘文館、2009年）
 近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書、2016年）

その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験100%

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study political history of the Kamakura Shogunate.

HIS300TD（史学/History 300）
東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）
齋藤 勝
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

台湾の歴史と現在
 歴史の学習を通じて台湾への理解を深め、日本・中国との関わりについて考えていく。

【到達目標】

歴史を辿りながら、現在の台湾が抱える国際問題、政治問題、民族問題の根源を理解し、その歴史の当事者の一人であった日本人の責任についても認識を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

台湾の歴史について通史的に講ずるとともに、現代の台湾を描いた映画を通して台湾への理解を深めていく。レポートについてのフィードバックは、最終回の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	台湾と日本、台湾の現勢	日台関係と台湾人の日本人観、台湾の民族構成と経済
第2回	先史時代・大航海時代・清朝	原住民とオランダ支配、鄭氏政権から清朝の支配へ
第3回	日本の台湾支配(1)	日清戦争から前期武官総督時代
第4回	日本の台湾支配(2)	文官総督時代から終戦まで
第5回	国民党の支配へ	光復から二・二八事件
第6回	蒋介石時代	台湾の中華民国化
第7回	台湾人と支配者達(1)	『悲情城市』と二・二八事件(1)
第8回	台湾人と支配者達(2)	『悲情城市』と二・二八事件(2)
第9回	蔣経国時代、李登輝時代	台湾の孤立と転換、台湾の民主化と台湾化
第10回	陳水扁時代、馬英九時代	現代の台湾の政治と社会の変容
第11回	現代の台湾社会(1)	『海角七号』に描かれた台湾社会(1)
第12回	現代の台湾社会(2)	『海角七号』に描かれた台湾社会(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。プリントを配布します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%
 講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

時間の配分に気をつけます。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of Taiwan.
 Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history of Taiwan and consider the relationship with China and Japan.
 Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
 Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS200TD（史学/History 200）

日本考古学（夏期スクーリング）

小倉 淳一

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：3群終日
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史的解明がテーマである。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。
 各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義形式で行う。プリント等の資料も利用する。質問等へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／時代概要	授業の概要と方法・評価基準／各時代の概要解説
第2回	旧石器時代の生産と技術（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第3回	旧石器時代の生産と技術（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第4回	縄文時代の生産と技術（1）	縄文土器の起源と製作
第5回	縄文時代の生産と技術（2）	縄文時代の生業技術
第6回	弥生時代の生産と技術（1）	灌漑水稲耕作の展開
第7回	弥生時代の生産と技術（2）	青銅器の製作技術
第8回	弥生時代の生産と技術（3）	木器・木製品の生産
第9回	古墳時代の生産と技術（1）	須恵器の製作技術
第10回	古墳時代の生産と技術（2）	金属生産・加工技術
第11回	古代の生産と技術	正倉院と古代の技術
第12回	授業のまとめと試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業回で対象とする時代それぞれの概要について参考書を読み、事前に学んでおくことが望ましい。
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史1』岩波新書
 吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史2』岩波新書
 大津透ほか（2013）『岩波講座日本歴史第1巻 原始・古代1』岩波書店

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】

記述式の筆記試験を行う（参照不可・100%）。ただし、平常点については通信教育部の規定に従う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about production and technology in primitive and ancient Japan. Students will be able to understand and describe the main production activities in Japan from the Paleolithic to the Nara period and the various technologies characteristic of each period.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be calculated based on the final exam (100%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
現地研究（夏期スクーリング）
米家 志乃布
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の目的「国東半島の自然・歴史・文化を学ぶ」
 大分県の北東部にある国東半島は、阿子山（720m）の火山活動でできた円形の半島です。火山活動で形作られた土地に様々な歴史や文化、産業が形成されており、自然・人文両方の地理学的観点から地域の特性を学び、理解することができる場所です。

【到達目標】

本授業では、国東半島の自然・歴史・文化に関する以下の点を学び、地域の特性を理解することが目標です。

- 大分県立歴史博物館の展示を見学し、大分県全体の自然・歴史・文化を学びます。
- 宇佐八幡宮を始めとする「六郷満山」を理解し、国東半島における「神仏習合」の歴史を学びます。
- 田染荘（たしぶのしょう）小崎の重要文化的景観を見学し、人々の生業に根差した農村景観を保全することの社会的意義を学びます。
- 平安時代に開かれた富貴寺と大堂など、現存する九州最古の木造建築物（国宝）も見学し、国東半島にある寺院文化と文化財の特徴を学びます。
- 別府湾と火山帯の間に位置する別府市の「地獄めぐり」を通して、温泉地としての観光開発だけでなく、地域の基盤である自然環境も学びます。
- 江戸時代に杵築藩が築いた杵築城とかつての武家地・町人地を歩き、城下町としての歴史と文化、その独特な地形条件を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には屋外での現地見学および施設見学で行います。おおよその行程は以下の通りです。

- 1日目 現地集合 大分県立歴史博物館 八幡総本宮宇佐神社
- 2日目 田染荘小崎の重要文化的景観 富貴寺 国東半島めぐり 別府温泉
- 3日目 地獄めぐり 地獄温泉ミュージアム 杵築城と城下町 現地解散

博物館や寺社・文化財の見学、行政・現地の専門家によるレクチャーなどがあります。フィールドノートを持参し、見学したことや聞き取りをしたことは必ずメモをするようにしてください。健康管理と暑さ対策を十分にしたいうえで参加してください。

後日、設定された期日までにレポートを提出してもらいます。レポートに関するコメントは、web学習サービスで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現地研究1日目（1）	JR宇佐駅集合
第2回	現地研究1日目（2）	宇佐八幡宮見学
第3回	現地研究1日目（3）	大分県の自然・文化・歴史を学ぶ 大分県立歴史博物館見学
第4回	現地研究1日目（4）	豊後高田市泊
第5回	現地研究2日目（1）	田染荘小崎の重要文化的景観を学ぶ
第6回	現地研究2日目（2）	富貴寺とその周辺を歩く
第7回	現地研究2日目（3）	国東半島の自然環境・文化財を学ぶ

- 第8回 現地研究2日目（4） 別府温泉泊
- 第9回 現地研究3日目（1） 地獄めぐり
- 第10回 現地研究3日目（2） 地獄温泉ミュージアム見学
- 第11回 現地研究3日目（3） 杵築城見学
城下町を歩く
- 第12回 現地研究3日目（4） 杵築駅および大分空港で解散

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。本授業に関するパンフレット（配布資料）を参加学生に送付する予定です。その冊子をよく読んで、事前に基本的知識を得ておいてください。また、現地研究対象地の地図は必ず各自でも手に入れて、地域を把握してから現地に入ってください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。事前に送付する本授業に関するパンフレット（配布資料）を使います。

【参考書】

『重要文化的景観への道- エコサイトミュージアム田染荘』アジア遊学153号、2012年
 海老澤衷「重要文化的景観と豊後国田染荘」（海老澤衷編『よみがえる荘園—景観に刻まれた中世の記憶—』2019年、勉誠出版）
 中山穂孝「近代的温泉観光地の形成と都市開発—大分県別府市を事例に一」（人文地理67-2、2015年）
 「杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区」大分県杵築市ホームページ <https://www.city.kitsuki.lg.jp/soshiki/7/bunka/bunkazai/bunkazai/1880.html>
 その他、国東半島の自然・歴史・文化に関する文献を各自で探して読むようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

現地研究への取り組みや討論への参加状況（50%）、事後に提出していただくレポート（50%）によって総合的に評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

全体での学習活動と各自の学習・見学活動をバランスよく取り入れて、参加者が能動的に取り組める授業内容を心掛けていきます。

【学生が準備すべき機器他】

詳細は改めてご連絡いたしますが、現地研究先の地図類は必ず手に入れてください（スマホのアプリも可）。

【その他の重要事項】

本授業の実施期間は、2023年7月24日（月）～26日（水）です。集合場所と時間は1日目午後1時JR宇佐駅、解散はJR杵築駅もしくは大分空港で3日目の午後を予定しています。宿泊場所は豊後高田市と別府市で1泊ずつ、予定しております。詳細は改めてご連絡いたします。現地でかかる費用は、宿泊費と食費、移動交通費などです。暑さ対策のため、参加者の体調管理を考えて、全日貸切バスでの移動を予定しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Learning about nature, history and culture of the Kunisaki Peninsula.

【Learning Objectives】 Understanding the characteristics of the region from both natural and human geographical perspectives, as various histories, cultures, and industries have been formed on land shaped by volcanic activity.

【Learning activities outside classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (50%), and in-class contribution (50%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
現地研究（夏期スクーリング）
佐々木 達
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群後半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方中枢都市である宮城県仙台市を対象として、仙台藩城下町の軌跡をたどりつつ、100万都市へと移り変わってきた都市の構造変化を現地調査を通じて把握する。

【到達目標】

- 1) 伊達政宗はなぜこの地に仙台藩を形成したのかを理解する。
- 2) 仙台市役所にて、現在のまちづくりや震災復興の施策展開を学習する。
- 3) 観光地である松島を訪問し、観光の現状と課題を把握する。
- 4) 都市の産業について、現地を訪問して理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

現地研究は教室外で実施するフィールドワークであり、今回の現地研究の行程は以下の通りです。

- 1日目：仙台駅西口集合。仙台藩の城下町を散策することで、なぜ伊達政宗はこの地で仙台藩を構築したのかを学習します。
- 2日目：仙台市役所訪問。震災復興やまちづくりに対する行政の見解を学習します。その後、松島に行き、現在の観光状況を視察します。
- 3日目：都市の産業振興を考える。工場見学（ビール工場・蒲鉾工場）を視察し、仙台駅で解散とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1日目	仙台の歴史を探索①	仙台駅西口集合 八木山動物公園から青葉城址へ移動
1日目	仙台の歴史を探索②	奥州街道を歩く
1日目	仙台の歴史を探索③	奥州街道を歩く
1日目	仙台の歴史を探索④	仙台駅周辺の再開発を視察
2日目	仙台の現状を知る①	仙台市役所にて聞き取り調査① 震災復興
2日目	仙台の現状を探索②	仙台市役所にて聞き取り調査② まちづくり
2日目	仙台の現状を探索③	仙台市役所にて聞き取り調査③ 観光の現状と課題
2日目	仙台の現状を探索④	観光地松島を歩く
3日目	仙台の可能性を発見する①	ビール工場見学から産業立地を考える
3日目	仙台の可能性を発見する②	かまぼこ工場見学から産業振興を考える
3日目	仙台の可能性を発見する③	博物館めぐり
3日目	仙台の可能性を発見する④	交通網から見た地方中枢都市

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本現地研究に関するテーマについて事前学習が不可欠です。事前学習としては、仙台の歴史や仙台の特徴などについて文献資料やインターネットで情報を収集しておくといでしょう。また本現地研究終了後、レポートの提出を求めます。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特にありませんが、現地で資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

全日程の出席が成績評価の前提です。授業への積極的な姿勢（50%）と事後に提出が求められるレポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

訪問先での説明や聞き取りの際、筆記用具とノートを準備してください。行先がわかる地図を用意してください。

【その他の重要事項】

夏の暑い時期に屋外を移動します。動きやすい服装と十分な暑さ対策を行ってください。

【Outline (in English)】

The aim of this field study is to understand the changes in urban structure by taking Sendai as a case study.

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）
人文地理学演習（夏期スクーリング）
伊藤 達也
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人文地理学演習は4年生時に作成する卒業論文にとって必要な知識、手段について、ゼミ形式の中で獲得を目指します。学生はゼミに参加する中で、発表し、意見を述べ、議論をします。具体的にはテーマを設定した上でのプレゼンテーションをします。授業外での質疑は、授業終了後対応します。

【到達目標】

最終的には、客観的でオリジナリティあふれる卒業論文の作成が目標です。そのための「客観性」の獲得と「オリジナリティ」の理解を目指します。ここでの「客観性」とは、感情的にならず、データに基づいた論理的に説明をする能力をさします。そのうえで「意見には必ず理由が求められる」、「理由には説得力のあるもの」といふものがある、「先行研究の先にしかオリジナリティはない」ことの理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式で行います。学生は授業内での発表、議論を行います。質問や疑問はゼミの中で積極的に提出することによって、その解消を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミガイダンス	ゼミの案内、発表の順番の決定
第2回	レポートの書き方	レポートの書き方について学びます。
第3回	文献の探し方	文献の探し方について学びます。
第4回	学生a,bによるテーマ発表	テーマに従って学生a,bがプレゼンテーションを行う。
第5回	学生c,dによるテーマ発表	テーマに従って学生c,dがプレゼンテーションを行う。
第6回	学生e,fによるテーマ発表	テーマに従って学生e,fがプレゼンテーションを行う。
第7回	学生g,hによるテーマ発表	テーマに従って学生g,hがプレゼンテーションを行う。
第8回	学生i,jによるテーマ発表	テーマに従って学生i,jがプレゼンテーションを行う。
第9回	学生k,lによるテーマ発表	テーマに従って学生k,lがプレゼンテーションを行う。
第10回	学生m,nによるテーマ発表	テーマに従って学生m,nがプレゼンテーションを行う。
第11回	学生o,pによるテーマ発表	テーマに従って学生o,pがプレゼンテーションを行う。
第12回	ゼミのまとめ	学生発表についての講評、学生間の議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションのテーマは「卒業論文のテーマ」です。発表可能な情報、材料を集め、「先行研究のまとめ」と「自らの研究目的」「研究方法」「準備状況」を必ず含めた発表にしてください。プレゼンテーションは原則パワーポイントで行いますが、パワーポイントが難しい場合はワードでも可とします。パソコンでの発表が難しい時は紙によるプレゼンテーションも可能です。プレゼンテーションの準備は授業開始後では間に合わない場合があります。事前に発表可能なレベルの準備をしておいてください。本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

伊藤達也（2023）『水資源問題の地理学』原書房
 伊藤・小田・加藤編（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房
 山崎 朗ほか（2016）『地域政策』中央経済社
 藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
 浮田典良（2010）『地理学入門改訂版－マルチ・スケール・ジオグラフィ－』原書房
 R.J. ジョンストン著／立岡裕士訳（1997、1999）『現代地理学の潮流（上・下）』地人書房
 本多勝一（2015）『新版 日本語の作文技術』朝日文庫
 木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

成績評価はゼミでの発表内容と討論への参加程度で行います。「発表50% 討論50%」

【学生の意見等からの気づき】

徹底的に議論を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの発表、テーマ発表については、パワーポイントでの発表、次善の策としてワードでの発表が望ましいです。義務ではありませんが、パソコンを用意することが望ましいです。

【その他の重要事項】

授業外での質疑は、授業終了後対応しますが、まずは授業内での質疑を積極的に行ってください。

【Outline (in English)】

(Course outline) (Learning Objectives) The Human Geography Exercise aims to acquire the knowledge and means necessary for a graduation thesis created in the 4th grade. Students make presentations, give their opinions, and have discussions as they participate in the exercises. Specifically, we will make a presentation after setting the theme. (Learning activities outside of classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) Grades are evaluated based on the content of presentations in seminars and participation in discussions. "Presentations 50%, Discussion 50%"

GEO400TE（地理学 / Geography 400）

自然地理学演習（夏期スクーリング）

宇津川 喬子

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午前
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の卒業論文を書くための方法を学ぶ。

【到達目標】

本授業を通じて、自然地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とする。研究テーマ・対象地域の選定、文献の収集、レジュメの作成、テーマに沿ったプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による演習形式で行う。毎日、各内容に関する課題を出す（授業内で作業内容を説明し、授業内でもある程度時間を設けて取り組む。授業時間内に終えられなかった場合には持ち帰って翌日提出する）。課題の解説およびフィードバックは翌日の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然地理学の研究とは	自然地理学の卒業論文を仕上げるにあたって必要なスキルを確認する
第2回	研究の方法	研究テーマ・対象地域の選定・研究方法について考える
第3回	文献を読む	文献の読み方・まとめ方について学ぶ
第4回	地理写真を撮る	卒業論文をまとめる際に必要な写真について学び、実際に撮影した写真にキャプションをつける
第5回	テーマ設定	卒業論文のテーマを設定する上でのポイントを学ぶ（個別相談あり）
第6回	文献レビュー①	各自の研究テーマに関する文献を収集する
第7回	文献レビュー②	同上
第8回	レジュメの作成①	各自の研究テーマについてレジュメをまとめる
第9回	レジュメの作成②	同上
第10回	レジュメの作成③	同上
第11回	研究課題発表①	研究テーマ発表と意見交換を行う
第12回	研究課題発表②	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマ設定を考えたり、文献収集や発表準備など授業時間外での取り組みが必要となる。
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度、教員が用意した印刷物を配布する。

【参考書】

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』。古今書院, 120 p.

加賀美雅弘・荒井正剛編（2018）：『景観写真で読み解く地理（東京学芸大学地理学会シリーズⅡ 3）』。古今書院, 108p.

【成績評価の方法と基準】

到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。試験は行わない。
 課題：50%、発表：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし（演習中にMicrosoftOfficeソフトウェアを使用するため、基礎的な使用方法をあらかじめ理解しておくことが望ましい。レジュメ作成はWordを使用する。使い慣れたノートPCを持参しても構わないが、その場合はあわせてUSBメモリの持参が望ましい）

【Outline (in English)】

This course deals with learning of basic skills required for writing a graduation thesis in physical geography; research review, reading paper and presentation.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on short tasks (50%) and presentation(50%).

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
地誌学特講（夏期スクーリング）
村田 陽平
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1964年と2020年の日本の地図帳を比べながら、時代の変化と地域の変遷を読み解く。受講生は身近な地域の問題を理解できるようになることを目標とする。

【到達目標】

日本という地域の自然、環境と生活、文化、生業と産業、国土開発などのありようや風土、人口、交通、観光／ツーリズム、まちづくりなどが抱える矛盾・問題点を認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を利用して、さまざまな資料や情報を検索し、リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の説明
第2回	北海道地方	北海道の地域問題
第3回	東北地方	青森県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、山形県の地域問題
第4回	関東地方（1）	茨城県、群馬県、栃木県、埼玉県 の地域問題
第5回	関東地方（2）	東京都、千葉県、神奈川県 の地域問題
第6回	甲信越・北陸地方	新潟県、長野県、山梨県、富山 県、石川県、福井県の地域問題
第7回	東海地方	静岡県、愛知県、岐阜県、三重 県の地域問題
第8回	関西地方（1）	滋賀県、京都府、奈良県の地域 問題
第9回	関西地方（2）	大阪府、兵庫県、和歌山県の地 域問題
第10回	中国地方	岡山県、広島県、山口県、鳥取 県、島根県の地域問題
第11回	四国地方	香川県、徳島県、愛媛県、高知 県の地域問題
第12回	九州・沖縄地方	福岡県、佐賀県、長崎県、大分 県、宮崎県、熊本県、鹿児島県、 沖縄県の地域問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やSNSなどのメディアで取り上げられる出来事などへも目配りすることを忘れないようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

松井秀郎編（2020）『1964年と2020年くらべて楽しむ地図帳』山川出版社、¥2200

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業毎に提出するリアクションペーパー（100%）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できる機器（スマートホン、ノートパソコン、iPad等）があることが望ましい。情報実習室で行なう予定です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to know the regional geography of JAPAN.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
測量学及び測量実習（1）（夏期スクーリング）
木村 勲
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】

測量に関する基礎理論を学び、測量実習を体験することで測量に関する基礎的知識を習得できる。また、測量に関する誤差理論や誤差要因を解明することで、測量数学のみならず、測量の精度や品質について理解できる。特に水準測量の講義と実習では、水準測量の役割や誤差等についての基礎知識や水準儀を用いた測量技術を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

測量の歴史から測量の基準・測量に関係する法律等の事項や様々な測量方法の紹介はスライド等で講義する。また、測量の観測データの処理や誤差の扱い、測量数学等の基礎的理論もスライドによる講義と練習問題を解答していただきながら進める。特に、基本的測量の1つの水準測量は、講義と野外での測量機器を使った実習を行い、観測データの処理方法や測量機器の取り扱いを体験する。疑義については努めて授業内で解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	測量の概要	測量とは何か、測量の歴史など測量の概要とについて講義する。
第2回	測量法及び資格について	測量の関する法律と測量の資格について講義する。
第3回	地球と測量の基準について	地球の大きさや形状とそれを基にした測量の基準（特に座標系や我が国の測量基準の歴史・役割）について講義する。
第4回	様々な測量と公共測量について	距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量などの原理及びそれらを用いて実施する公共測量について講義する。
第5回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器等について講義する。
第6回	測量の誤差について	測量の誤差について誤差の種類や誤差の取り扱いや三角関数などの測量数学について講義する。
第7回	測量の誤差について	水準測量の誤差を中心にその処理方法などを講義と計算実習を行う。
第8回	水準測量の実習	水準測量の方法・水準儀（レベル）の使い方について実習する。
第9回	水準測量の実習	構内において自動水準儀を用いた水準測量を実習する。

第10回	水準測量の実習	構内において自動水準儀を用いた水準測量を実習する。
第11回	水準測量の実習	水準測量のデータ処理を実習する。
第12回	まとめ・試験	データ処理の結果をまとめ、測量精度等を評価する。 試験後模範解答の説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの序章～3章及び7章を中心に予習しておくこと。授業時間内に計算問題やデータ作成・整理等も実施しますので、努めて講義期間内に終わらせること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川昌弘・川端良和 「改訂三版 基礎測量学」電気書院 ¥3,630（税込）

「改訂二版 基礎測量学」、「改訂新版（第一版）基礎測量学」も可能

【参考書】

書店には測量学、また測量の種類により様々なテキスト、図解テキストが置かれている。測量のデータ処理には数学が欠かせないものの、自分のレベルや興味に応じ、以下の本などを参考にするとよい。
中堀義郎ほか著「絵で見る基準点測量 第2版」日本加除出版、斎藤博ほか著「新版 教程 基準点測量」山海堂、大滝三夫ほか著「公共測量教程 水準測量」東洋書店、大滝三夫ほか共著「公共測量教程 測量計算」東洋書店

【成績評価の方法と基準】

成績評価は試験40%程度と授業中・実習等の態度60%程度を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

関数電卓を使用した経験がないとの意見が多く、度分秒の10進数変換や三角関数について授業の中で習得します。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓（スマートフォンアプリ、例えば「関数電卓Panecal」、「電卓Air」でも可能）

【その他の重要事項】

測量に関連する授業として、測量学及び測量実習（2）（冬期スクーリング）があります。本授業（夏期スクーリング）では全体を網羅できていないので、合わせて履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This course will give a lecture about the land surveying, which is the method to obtain geospatial information about location, with a particular focus on the leveling surveying.

In this class, you can also experience practical training together with the lecture in order to learn not only the basic theories concerning surveying but how to use them at the actual situation.

Students are expected to study 2 hours in total before and after each class meeting in order to understand the content of the course.

The overall grade of this course will be determined based on the following evaluation: 40% for the result of the final exam and 60% for the contribution to the class.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
地理情報システム（GIS）（1）（夏期スクーリング）
中山 大地
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群後半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無料で使用できるデスクトップ型地理情報システムであるMANDARA10と表計算ソフトのエクセルを用いて、GISの基本的な操作方法・分析方法を習得する。

【到達目標】

本授業では、インターネットから無料で取得できるGISデータと、エクセルで作成した様々な表を地図上に表示する手法を学ぶ。本授業の到達目標は、卒業論文などで使えるコロプレスマップをMANDARAを用いて作成できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

20分程度の講義と80分程度の実習で1回の授業とする。初日と二日目には提出物を作成し、内容について授業内で講評を行う。最終日は最終レポートを作成し、試験としてプレゼンテーションを行う。最終レポートはある課題に対してMANDARAを用いた分析を数名のグループで行い、その結果を8分以内のプレゼンテーション（パワーポイントで作成）にまとめる。プレゼンテーションに対しては各自に採点表を配付し、自己採点と相互採点を行い、教員による講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	GISの基礎的な概念を解説する。
第2回	コロプレスマップの基礎（提出物1）	基本的な地図であるコロプレスマップの作成方法を学ぶ。
第3回	MANDARAの基礎	MANDARAの基礎的な操作方法を学ぶ。使用データは適宜配付する。
第4回	都道府県コロプレスマップの作成（提出物2）	都道府県別の人口マップと人口密度マップを作成し、考察を加えて提出物を作成する。
第5回	エクセルとMANDARAを用いた地図の作成（提出物3）	表計算ソフトであるエクセルでデータを処理し、その結果をMANDARAで地図化する方法を学ぶ。
第6回	統計データの活用	総務省統計局のホームページから統計データをダウンロードし、エクセルを使って分析を行う。結果を地図化する。
第7回	統計データを用いた地図の作成（提出物4）	e-statからダウンロードしたデータを用い、人口統計に関する地図を4枚作成する。
第8回	市区町村別マップの作成（提出物5）	市区町村別マップの作成（提出物5）
第9回	グループワーク1：課題の検討	グループごとに一都三県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の市区町村（東京都の島嶼部を除く）における少子高齢化に関する事象を示す地図を作成し、考察を行う。

第10回	グループワーク2：データの入手と地図の作成	e-statなどから必要なデータをダウンロードし、エクセルなどを用いてデータ処理を行い地図を作成する。
第11回	グループワーク3：考察とプレゼンテーション	作成した地図を元に考察を行い、8分以内（目安としてパワーポイント10枚程度）のプレゼンテーションを作成する。
第12回	グループワーク4：発表会	発表会を行い、自己採点と相互採点を行う。相互採点の結果からベストプレゼンテーションを選ぶ。作成したプレゼンテーションは最終レポートとして提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。エクセルなどの表計算ソフトについて基本的な操作方法を学習しておくこと。参考書などを用いてMANDARAの基本的な概要について学習しておくこと。授業時に指示される方法での復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

谷謙二（2018）『フリーGISソフト MANDARA10 パーフェクトマスター』古今書院、¥3,800＋税、ISBN9784772281195

【成績評価の方法と基準】

授業内で提出する提出物（5回、合計50%）と最終プレゼンテーションにおける自己・相互採点（50%）で成績を評価する。

提出物の評価基準：コロプレスマップの作成方法（階級区分の方法、各階級の塗り分け、階級のシンボルなど）がきちんと理解できていること。増減を表す図が適切に作成できていること。作成した図を適切に考察できていること。

最終プレゼンテーションの評価基準：自分のグループのプレゼンテーションと、他のグループのプレゼンテーションに対して5段階で評価を行う。評価の基準は以下である。適切なデータを用いているか、適切な分析がなされているか、適切な図が作成できているか。

最終レポートの課題は以下である。

一都三県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の市区町村（東京都の島嶼部を除く）における少子高齢化に関する事象を示す地図を作成し、考察を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。データ持ち帰り用のUSBメモリ（空き容量8GB程度）を持参すること。初回の授業時に色鉛筆を使用する（10色程度）ので持参すること。

【Outline (in English)】

This class aims to learn basic operation and analysis methods of GIS using MANDARA (free desktop geographic information system) and Excel (spreadsheet software).

HUG200TE（人文地理学 / Human geography 200）
人文地理学特講（夏期スクーリング）
小原 文明
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は地理学（主として都市地理学、経済地理学、社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ、都市開発について学ぶものです。都市開発がどのような事象に関わって展開されているのか、都市開発にはどのような利点や問題点があるのかなど、都市開発の諸側面について考えていきます。

【到達目標】

本授業を通じて、都市開発に関わる諸事象を題材にして、地理学、とりわけ都市地理学の見方・考え方を修得することを目標とします。また、都市開発を考えるには都市地理学の見方・考え方のみでは不十分であることから、隣接学問分野の考え方や見方も含めて身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。まず、都市開発との概念や種類など基本事項の理解に努めます。それを踏まえ、土地利用や土地所有、地価・地代、立地、デベロッパーなど都市開発に関わるさまざまな側面について学び、その上で都市開発の功罪（利点や問題点）などについて考えていきます。

本講義では、授業で扱う内容について受講生自身が考えることを求めます。それゆえ、適宜、授業内課題（小レポート課題）を課すことになるので、積極的に取り組むことを期待します。それら課題のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／都市開発の概要	講義の進め方／都市開発の基本概念・種類
第2回	土地利用①	都市の水平的拡大／都市的土地利用
第3回	土地利用②	都市の垂直的拡大／高度化・高密度化
第4回	土地所有	土地所有の変遷／土地所有者の意思決定
第5回	地価・地代	地価の変遷／都市開発と地価の関係性
第6回	立地と開発①	住宅地の立地・開発
第7回	立地と開発②	マンションの立地・開発
第8回	立地と開発③	業務施設（オフィス）の立地・開発
第9回	立地と開発④	商業施設の立地・開発
第10回	都市再開①	都市再開の法制度／都市再開の歴史的展開
第11回	都市再開②	アクターからみた都市再開
第12回	試験・総括	試験／まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示する課題（授業内小レポート課題）に取り組んでもらうことがあります。また、授業で紹介する参考文献を自主的に読むことを望みます。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・復習時間）は4時間を標準としますが、スクーリング期間中にそれだけの授業外学習を行うのは困難であると考えますので、スクーリングの事前に課題を出す可能性があります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

- ・橘川武郎・粕谷 誠編（2007）：『日本不動産業史』名古屋大学出版会。
- ・實 清隆（2008）：『都市における地価と土地利用変動』古今書院。
- ・全国市街地再開発協会編（1991）：『日本の都市再開発史』同協会。
- ・堤 純（2009）：『土地利用変化のメカニズム』古今書院。
- ・松原 宏（1988）：『不動産資本と都市開発』ミネルヴァ書房。
- ・渡辺尚志・五味文彦編（2002）：『土地所有史』山川出版。
- ・その他の参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小レポート課題等）：30％、筆記試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心がけます。

【Outline (in English)】

This course introduces urban developments, especially the advantages and problems of the phenomena from the point of view of geography to

students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of urban developments and to acquire the way of geographical thinking.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70%) and short reports (30%).

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
自然地理学特講（夏期スクーリング）
小寺 浩二
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学の中でも重要な分野である「海洋・陸水学」の基礎理論を習得し、この分野での研究方法について理解を深める。水文学分野を中心とするが、貴重な学習の機会なので、分野には限らない地理学の調査・研究方法に関しても、理解を深められるようにする。

【到達目標】

「海洋・陸水学」の基礎知識を習得し、研究テーマの選定、先行研究の文献レビュー、資料・データ収集、データ解析、各種主題図の作成、まとめなど、研究論文を書く上で必要な能力について理解を深める。あわせて、地理学全般の分野で調査・研究を行う能力についても、同様に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、「海洋・陸水学」の基礎について講義し、理解を深める。その上で、研究・論文作成のための具体的な手法についても学ぶ。

事前に授業に関係する分野からテーマを設定し、先行論文のレビューを行った上で、授業に入る。そして、事前準備内容の修正をしながら、正しい研究の仕方、論文の書き方について、毎時間指導する。特に、データ解析や各種主題図の作成法については、コンピュータとGISを活用する方法について理解を深める。

授業は、対面形式で行い、資料提示や課題提出に関しては、ネット上のドライブを利用したシステムなどを活用する予定である。

毎回、リアクションペーパーを提出してもらい、その内容を踏まえて、次回以降の授業に反映させる。途中で提出していただく中間レポートに関しても、講評し、レポートの書き方について指導する。

その結果を踏まえて、講義後には、改めて内容を充実させた最終レポートを提出していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1) 海洋・陸水学とは？ 2) 研究テーマの選び方	いくつかの具体的なテーマの中から選定する方法を学ぶ。
第2回	1) 流域の水収支と物質循環 2) 対象地域の選び方	個別テーマに従って、対象地域を選定する方法について学ぶ。
第3回	1) 河川学の基礎 先行研究のレビュー 2) ①（文献リスト）	文献リストの作成法について学ぶ
第4回	1) 地下水学の基礎 2) 先行研究のレビュー ②（論文要旨のまとめ方）	いくつかの論文の要旨をまとめ、比較しながら研究課題を見つける方法について学ぶ。
第5回	1) 湖沼学の基礎 2) 資料・データの収集法	インターネットなどを活用した資料・データを収集する方法について学ぶ。
第6回	1) 雪氷学の基礎 2) データの解析法	主に、Excelを用いたデータ解析について学ぶ
第7回	1) 海洋学の基礎 2) GISを用いた主題図作成法①	日本全国スケールでの主題図について学ぶ
第8回	1) 河川学の応用 2) GISを用いた主題図作成法②	都道府県スケールでの主題図について学ぶ
第9回	1) 地下水学の応用 2) GISを用いた主題図作成法③	市町村スケールでの主題図について学ぶ
第10回	1) 湖沼学の応用 2) 結果のまとめ方	様々な図表などを用いたまとめ方を学ぶ
第11回	1) 雪氷学の応用 2) 論文の記述法	実際に論文を書く上で必要な具体的なポイントについて学ぶ
第12回	1) 海洋学の応用 2) 中間レポートの評価・講評	提出された中間レポートについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) 事前準備：受講確定後、テーマを決定し、文献リストを作成する。

「シラバスで示されている海洋陸水学の分野からテーマ（具体的で、身近なもの）の一つを選定し、以下のようなサイトから文献を探してダウンロードし、リスト化して授業に参加してください。受講時の作業やレポート作成のためには、事前に行っておくことが必須です。」

J-STAGE トップ (jst.go.jp)

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/

2) 事後学習：受講時に提出した中間レポートに対する講評を受けて、期限までに修正したものを提出する。

3) 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1) 小寺浩二・三井嘉都夫（2019）:自然地理学「海洋・陸水学」、法政大学通信教育部、1800円

【参考書】

1) 小寺浩二（2020）：自然地理学概論、法政大学通信教育部、1,800円

2) 後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・坪井聖太郎・加藤一郎(2013)：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版-地図化すると見えてくる-』古今書院, 2,600円（絶版になっているが、古本などで、なるべく入手してください）

「フリーGISソフトMANDARA10入門」でも結構ですが、上記のものの方が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

①事前学習、②平常点、③中間レポート ④最終レポート を総合的に評価。原則として、①20点、②20点、③20点、④40点のように配点するが、全員の結果を踏まえて微修正する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、受講生の反応を確認しつつ、講義内容について修正しながら授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】

受講時に自分自身のパソコン（Windows）を持参することが望ましい。自分のノートパソコンであれば、講義中にカスタマイズすることができ、今後も活用することができるが、無理な人に対しては、大学で用意したパソコンを貸与して授業を行う。

【その他の重要事項】

海洋陸水学の基礎知識とGISの活用が前提なので、事前にテキスト・参考文献を用いて自習しておくことが必要である。

オフィスアワーは、毎回の授業開始前15分、終了後30分とするので、個別の質問などがあれば、その時間を活用していただきたい。

【Outline (in English)】

Acquire the basic theory of "ocean and limnology," which is one of the most important fields of physical geography, and deepen your understanding of research methods in this field. Although the focus is on the field of hydrology, it is a valuable learning opportunity, so we will also be able to deepen our understanding of survey and research methods of geography, which is not limited to any field.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Comprehensive evaluation of (1) prior study, (2) normal score, (3) interim report, and (4) final report. In principle, points will be allocated as follows: (1) 20 points, (2) 20 points, (3) 20 points, and (4) 40 points, but minor adjustments will be made based on everyone's results.

ECN100TF（経済学/Economics 100）

社会経済学A/社会経済学 I（夏期スクーリング）

船木 恵子

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現代経済を歴史的・理論的に考察することによって「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」について学ぶ。経済学は理論のための「理論」ではなく、現実の経済を批判的に分析し、深く思考するための理論である。社会経済学A/Iでは、基本的にマルクス経済学にもとづきながら、資本主義が発生した歴史的条件、基本的性格そして基礎概念について学ぶことにする。

【到達目標】

1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解すること。
2. 経済学の専門諸科目で学ぶ現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、プリントを配布する予定です。
- ・オフィスアワーとして授業の後に質問を受け付ける予定です。詳しくは、最初の授業時に説明します。
- ・授業中にリアクション・ペーパーや小テストなどを適宜おこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・授業の進め方 ・社会経済学の対象と課題	テキスト序章
第2回	市場経済（1）市場とは何か	テキスト第1章第1節
第3回	市場経済（2）商品形態、商品の物神的性格	テキスト第1章第2節
第4回	市場経済（3）貨幣の成立と貨幣の諸形態	テキスト第1章第3節・4節
第5回	資本と生産（1）資本主義的生産と賃労働	テキスト第2章第1節
第6回	資本と生産（2）機械制大工業の成立と発展	テキスト第2章第2節
第7回	資本と生産（3）現代の情報化	テキスト第2章第3節
第8回	雇用と蓄積（1）失業と人口法則	テキスト第3章第1節①②
第9回	雇用と蓄積（2）相対的過剰人口と産業予備軍	テキスト第3章第1節③
第10回	雇用と蓄積（3）現代における労働市場①	テキスト第3章第2節
第11回	雇用と蓄積（4）現代における労働市場②	テキスト第3章第2節、第3節
第12回	授業のまとめ	夏季スクーリングの内容整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とし、事前にはテキストを読んでおくことを前提とします。

【テキスト（教科書）】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学〔新版〕』有斐閣、2007年。

【参考書】

- ・柳沢哲哉著『経済学史への招待』2018年
- ・原伸子著『ジェンダーの政治経済学-福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーや小テストを含む)30%、期末レポートもしくは確認試験の70%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更により、現在フィードバックすることができませんが、様々な学科の学生が受講することを考慮し、わかりやすく経済全般に配慮した授業にしたいと考えます。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn "why a basic theory of economics is necessary" by considering the modern economy historically and theoretically. Economics is not a "theory" for the sake of theory, but a theory for critically analyzing and thinking deeply about the real economy. In Socioeconomics A/I, we will study the historical conditions, basic characteristics, and basic concepts of capitalism based on Marxian economics.

[Learning objects] 1. To understand the basic structure of the capitalist economy historically and theoretically. 2. Acquire the basic theories necessary to clarify various problems of modern capitalism learned in specialized economics subjects.

[Learning activities outside of classroom]

Read the text in preparation before class. After class, review the content and complete the assignment.

[Grading Criteria /Policy] Evaluation is based on 30% of normal scores (reaction papers or quizzes) and 70% of final reports or confirmation exams.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
日本経済論A/日本経済論 I（夏期スクーリング）
秋元 大輔
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論A/Iでは、国際政治経済学（IPE）の理論と歴史を学ぶことで「国際政治の中の日本経済」というグローバルな視点から、国際紛争や世界貿易が日本経済に与えてきた影響について理解することを目的とする。

【到達目標】

国際政治経済学（IPE）の理論・概念・分析枠組みを援用し、国際紛争や世界貿易が日本経済に与えてきた影響について考察し、論述する能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面の講義形式。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際政治経済学（IPE）とは何か	オリエンテーション（講義概要、参考図書紹介、評価方法）
第2回	国際政治経済の理論①	重商主義、貿易差額主義、産業保護主義、重農主義、自由主義
第3回	国際政治経済の理論②	マルクス主義、従属論、世界システム論、構造的暴力論、構成主義
第4回	二つの世界大戦と国際政治経済体制	「平和の経済的帰結」、世界恐慌、ブロック経済、金本位制の崩壊
第5回	冷戦の時代とブレトンウッズ体制	ブレトンウッズ協定、IMFと世界銀行、マーシャルプラン
第6回	マクロとミクロの対外政策決定過程	マクロとミクロの分析レベル、広報外交、領土問題、経済外交
第7回	経済発展と民主化・政治体制	経済成長の諸段階、新国際経済秩序、政経不可分論と民主的平和論
第8回	国際経済と安全保障	経済安全保障、国際輸出管理レジーム、防衛予算、防衛産業
第9回	国際連合および世界銀行の使命と課題	国連の予算、持続可能な開発目標（SDGs）、世界銀行とGFF
第10回	欧州とアジア太平洋における地域経済統合	国際統合論、TPPとRCEP、インド太平洋経済枠組み（IPEF）
第11回	パンデミック時代の国際政治経済	人間の安全保障、国際保健、「新しい資本主義」のグローバルな展開
第12回	再生可能エネルギーの国際政治経済	環境問題、ピグー税、東日本大震災、再生可能エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は、各2時間が標準。予習に関しては、講義に関連する内容について、事前にインターネットもしくは参考書等で調べることを。復習については、講義ノートを読み返すこと。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟（著）『国際政治経済学・入門』（『Introduction to International Political Economy』）（有斐閣、2007年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席点）12%、レポート88%（アカデミック・ライティングとしての構成、講義との関連性、エビデンスなどを重視し、ワードで2000字程度）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, students will learn and understand the impact of global politics on the Japanese economy from the perspective of International Political Economy (IPE).

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to deepen their knowledge on the Japanese economy and cultivate their abilities to explain how global politics has influenced the Japanese economy by employing key concepts and theoretical frameworks of IPE.

【Learning Activities Outside of Classroom】

On average, this course requires students to study two hours for preparation and review of class. In preparation for class, students are expected to read recommended references and research relevant issues online. As for review of class, students are encouraged to read their lecture notes and write a report.

【Grading Criteria/Policy】

Mark given for class participation = 12%.
Report (approximately 2000 words) = 88%.

BSP100TF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（夏期スクーリング）

川邊 安彦

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群夜間

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要は、国際ビジネスとカントリーリスクについて学びます。グローバル企業や従来の日本国内事業のみを行ってきた中小企業も現在は、グローバルに事業を展開し市場の拡大を図っています。これらの企業が、日本国内事業展開では想定出来なかった課題を総合特講では、具体的な事例をあげて課題と対応策を検討・確認し、分析する手法を学びたいと考えています。

【到達目標】

- ①グローバル環境下での各リージョン（対象地域）のビジネスについてのカントリーリスクを説明できるレベルに到達する。
- ②カントリーリスクが発生するメカニズムを理解し、各地域の直近情報から近未来のリスクを想定できるスキルを身につけるレベルまで目指して頂きたい。
- ③国際ビジネスにおける事業機会のオポチュニティとリスクの評価が定量的にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習：各回の講義資料を講義時に配布します。各自、教員がポイントや自ら重要な項目にラインマーカで判るようにマーキングしてください。

講義時の注意事項：内容の理解を深める為に教員へ声掛けをし、質問をしてください。

事後学習：講義内で説明した内容・質疑応答を各自のノートに記述し整理しておく。

もし、質問・疑問があれば次回の講義の最初に教員へ質問を挙手の上で行って下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際ビジネスの現在の課題・最近のカントリーリスクの事例説明	国際ビジネスとカントリーリスクの理解を深める練習を行います
第2回	国際ビジネスにおける商品軸またはサービス軸について	商品としては、石油、天然ガス、自動車、綿、海産物などを対象とする
第3回	FTA・EPAとHSコードについて具体的に学ぶ	興味のある事例：何故、TPPにアメリカが不参加でも問題が出ないのか？ グローバルな物流の世界を理解する
第4回	グローバル視点での事例	大きな影響を持つ中国の外交・安全保障について（過去・現状と未来の推定）
第5回	ロシアの紛争の目的を考察してみよう！	ウクライナの産業と将来性、また次の課題を招くリージョン（地域）の推定手法
第6回	アセアンの国々の方向性	産業発展レベルから見た経済分析の手法

第7回	アメリカ合衆国の課題	ビジネスの安定性の研究
第8回	中南米諸国の過去・現状・将来	経済情勢の研究から見える将来性
第9回	オーストラリアとニュージーランドのビジネスから見た将来性	南半球の新規産業への期待値
第10回	アフリカ大陸の課題と将来性	人種・民族・統制・弾圧・現在の治安情勢から見える将来像
第11回	EU・イギリスの現状と未来を産業から分析すると何が見えるのか？	新規産業の発展性を学ぼう！
第12回	試験とまとめ	講義の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間以上を標準とします。パソコン・携帯等でネット情報などで正しい情報を入手してください。

【テキスト（教科書）】

講義資料は、当日配布します。試験は、資料から出ますので欠席した場合は必ず次回の講義で前回分を配布していますので持ち帰り学習ください。

【参考書】

ネット情報などから必ず、事前学習を行ってください。

【成績評価の方法と基準】

第12回目の講義時の試験の成績が100点満点とし、60点以上が合格となります。

事務局側が、併せて出席率も加味していますので規定以上の欠席には注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の実績（夏期・冬期）及び2022年度の学生からの意見及び意向を反映しています。また、学生が希望する内容のセッションは自由に取り入れたいので要望を講義中にフィードバックください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・携帯等の通信機器で講義時に内容確認をして頂ければ、理解度が深まると考えています。自由に講義内で情報確認し、教員へ質問・フィードバックを直ぐに行ってください。

【その他の重要事項】

社会人学生の実務での課題について本講義と内容や事象が直接関係していることについての質問は、挙手の上で他の学生に配慮（特に質疑・応答に要する時間）し、講義参加学生全員に理解（共有）できる質問の仕方です。教員へ問いかけてください。

尚、回答については即時可能な場合と調査・確認後、翌日に説明できる場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline: International business and country risk
Learning Objectives:

- 1) Explain the country risk in the business of each region in the global environment.
- 2) Understand the mechanism by which country risk occurs.
- 3) Evaluate the opportunities and risks of business in international business. Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time is 4 hours or more each.

Please search for online information on your mobile phone.

Grading Criteria/Policy: The grade of the examination at the time of the 11th lectures and examination is 100 points, and 60 points or more are passed.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（夏期スクーリング）
馬 欣欣
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の前半ではマクロ経済学の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因、企業と個人の行動のメカニズムを理解してもらい、講義の後半ではミクロ経済の視点から労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、中国国有企业改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macro-and micro-economic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic growth, mechanisms of firms, households and individuals based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて対面講義形式で行う。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと社会主義市場経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、社会主義市場経済の概念、2つの移行パターンを紹介する
第2回	経済発展	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点
第3回	経済成長	人口転換、高齢化と経済成長および対外貿易と外需依存型成長からの転換
第4回	経済成長と所得格差	経済成長と格差の実態と経済理論
第5回	教育と社会保障	中国教育体制と社会保障政策の改革
第6回	地域振興と環境	中国地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷および環境問題の実態
第7回	世界の工場	対中直接投資の原因と構造変化、産業構造の転換と「中国製造2025」
第8回	農村経済	中国農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化、および貧困実態と地域間の差異

第9回	金融と不動産市場	株式市場と国有企业、国有銀行の改革、および住宅・不動産市場の変化
第10回	国有企业の改革	国有企业の改革背景、改革経緯および問題点
第11回	労働雇用と賃金	中国雇用賃金制度の改革と実態
第12回	まとめと試験	授業内容をまとめ、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を配布する。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著(2016)『中国経済入門 第4版』日本評論社。
2. 加藤弘之(2016)『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
3. 梶谷懐・藤井大輔編著(2018)『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
4. 中兼和津次編著(2013)『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫(2013)『21世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）

期末試験（50％）

両者の組み合わせ：100％

1. Regular performance and homework (50%)

2. Final examination (50%)

Combination of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

1. 地域経済研究に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。
2. オフィスアワーに関しては、7月24-29日の2限終了後～13:10を目安に講義教室にて行います。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The first part of the lecture introduces the trajectory of China's economic growth, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy from macroeconomic perspective. The students should understand the factors behind China's economic growth. The second part of the lecture discusses some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, market segmentation in China and understand the facts, issues, and mechanism of economy transitions in emerging market economies from a microeconomic perspective.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macro-and micro-economic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic growth, mechanisms of firms, households and individuals based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Area Economy Studies(e.g., development economics, macroeconomics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. The learning materials will be distributed in each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (50%)

2. Final examination (50%)

Combination of both: 100%

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（夏期スクーリング）
宇都宮 仁
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではビジネスの世界での現象を経済学のツールを用いて分析する。本講義の目的は、これまでミクロ経済学などで学んでいた経済理論を現実の現象に応用する力を身に着けることである。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎理論を理解する。
- ・ミクロ経済学で学んだ経済学のツールを特定の現実の現象に応用できる。
- ・ビジネスの世界での現象を経済学のツールを用いて考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

講義中にフォームなどを利用して受講生のコメントや考え、クイズの答えなどを集め、それについて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ビジネス・エコノミクスとは	ビジネスの現場で起こっている様々な現象を、経済学のツールを使って分析できることを概観する。
第2回	価格引き下げ戦略	デフレ期の吉野家の価格引き下げを例にとり、需要の価格弾力性を用いてその戦略の是非を考える。
第3回	価格差別化	映画の料金やダンピングなどから価格差別化について学ぶ。
第4回	市場の論理	資本主義と計画経済の対比から市場の機能を学ぶ。
第5回	市場の限界	市場の失敗から市場をうまく活用する方法について学ぶ。
第6回	ゲーム理論とは	囚人のジレンマゲームを用いてゲーム理論の基本的な考え方を学ぶ。
第7回	ゲーム理論の応用	地方百貨店やオークションの例からゲーム理論の応用方法を学ぶ。
第8回	インセンティブとは	報酬体系からインセンティブはどのように機能するかについて学ぶ。
第9回	モラルハザード、シグナルの理論	銀行や労働市場を例にモラルハザードやシグナルについて学ぶ。
第10回	限定合理性とは	レストランのメニューや商品の価格付けから限定合理性について学ぶ。
第11回	総復習	試験前の総復習を行う。
第12回	期末試験と解説	期末試験を行う。その後、全体の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

伊藤元重「ビジネスエコノミクス第2版」日本経済新聞出版、2021年
 今井誠、坂井豊貴（編著）「そのビジネス課題、最新の経済学で「すでに解決」しています。」日経BP、2022年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンを持ってきてください。（QRコード読み取りのため）
 ない場合や忘れた場合は別途対応しますので、講義ごとに申し出てください。

【Outline (in English)】

This course introduce the use of economic tools to analyze real-world phenomena.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Understand basic microeconomic theory.
 - Apply the tools of microeconomics to real-world phenomena.
 - Consider real-world phenomena using economic tools.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in-class contribution: 40%

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（夏期スクーリング）
中田 大悟
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障政策の経済分析について学ぶ。特に、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な経済理論を用いて、社会保障制度が有する機能と効果についての理解を深める。これにより、現実の社会保障政策をめぐる議論の要点やパースペクティブを得ることを目的とする。

【到達目標】

社会保障に関する見解にはさまざまなものが考えられるが、政策論議においては、自らの意見が、どのような理念、理論に基づくものなのかを理解した上で議論する能力が強く求められる。そのために、まず現実の社会保障制度の枠組みと現状について正確に理解する。その上で、制度が有する経済学的な機能について整理し、理解する。さらに、これらの知識を基に、日本経済が置かれた現状を鑑みながら、これらの制度のあるべき方向性について、主体的に考え、発信できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で実施する。まず、講義スライドを用いながら各回における要点を講義する。社会保障制度は、毎年、制度改正が行われるとともに、新たなホット 이슈が生まれることから、政府資料や統計を用いた議論のアップデートはここで行う。それを受けて、各回授業の後半において、受講生に短い論述課題を課す(問題形式は教科書の演習問題と類似したもの)。受講生は、この論述課題を毎時間、提出する必要がある。なお、一部の論述課題については教室内のグループディスカッションの中で取り組む予定である(ただし感染拡大状況を鑑みてグループディスカッションは取りやめる場合もある)。そのため、受講生は、事前に教科書の該当箇所を入念に学習しておく必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会保障の歴史1	(教科書第1章前半) 救貧法の成立過程、社会保険制度の確立
第2回	社会保障の歴史2	(教科書第1章前半) 福祉国家の誕生と展開
第3回	効率性と公平性	(教科書第1章後半) 政策介入の経済学的根拠
第4回	社会保険の経済分析	(教科書第2章前半) リスク選好、モラルハザード、逆選択
第5回	給付と負担の経済分析	(教科書第2章後半) 租税と社会保険料の転嫁と帰着
第6回	所得格差の評価	(教科書第3章前半) 社会厚生、功利主義、潜在能力
第7回	所得格差の測定	(教科書第3章後半) 等価尺度、ジニ係数、アトキンソン指標
第8回	社会保障財政	(教科書第4章) 再分配機能と財源調達

第9回	貧困概念の展開	(教科書第5章前半) 社会的排除、貧困線、相対的貧困、相対的剥奪
第10回	生活保護と所得保障	(教科書第5章後半) 扶助、負の所得税、ベーシックインカム
第11回	年金制度	(教科書第14章) 積立方式、賦課方式、公的年金制度
第12回	試験とレビュー	これまでの学習内容について試験するとともに、重要なポイントについてレビューを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『社会政策－福祉と労働の経済学（有斐閣アルマ）』、駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂著、有斐閣、2015年、¥2,750、ISBN 978-4-641-22058-4

【参考書】

『はじめての社会保障（有斐閣アルマ）』、椋野美智子・田中耕太郎、有斐閣、最新版(ほぼ毎年改訂版が出版される)、¥1,980(注:18版の価格)

【成績評価の方法と基準】

各授業で課せられる論述課題 40%
筆記による期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

基礎的なミクロ経済学の知識を事前に修得していることが望ましい

【Outline (in English)】

This lecture focuses on the economic analysis of social security policies. In particular, we will use elementary economic theories and concepts from microeconomics and macroeconomics to enhance our understanding of the functions and effects of social security programs. By the end of the course, students should be able to grasp an essentials and perspective on the debate surrounding actual social security policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（夏期スクーリング）
島澤 諭
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

入門レベルのマクロ経済学の基礎理論を用いて日本経済が抱えるマクロ経済的な諸課題について講義する。現実のマクロ経済問題を考える際の基礎となるマクロ経済指標の読み方からマクロ理論モデルの基本概念及び最近のトピックスまでを日本経済を題材にしつつ幅広く紹介する。

【到達目標】

現実のマクロ経済を理解するうえで欠かすことのできない、オーソドックスなマクロ経済理論について、理解する。また、日本のマクロ経済を取り巻く問題を把握する。その上で、日本のマクロ経済を取り巻くさまざまな環境変化を考慮したとき、今後の日本経済がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

主に、講義用スライドを用いながら講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新のマクロ経済情勢を踏まえながら、日本のマクロ経済が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学と日本経済	日本経済の抱えるマクロ問題の把握。特に世界経済との関係について
第2回	統計資料（1）	国民経済計算とGDP。日本の経済規模を把握する
第3回	統計資料（2）	国民経済計算とGDP。日本経済と世界経済のつながりを把握する
第4回	乗数モデル（1）	国民所得の決定メカニズムを考察する
第5回	乗数モデル（2）	乗数メカニズムと経済対策の効果
第6回	失業とインフレーション	インフレやデフレの決定メカニズムを考察する
第7回	開放経済	国際収支、為替レート制度について理解する
第8回	日本の経済成長と経済成長モデル	ハロッド=ドーマーモデル、新古典派成長モデル、内生的成長モデル、人口と経済成長、日本の高度成長と失われた20年
第9回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス、日本の投票率が低いことは問題なのか？
第10回	財政の持続可能性	ドーマー条件、ドーマー命題、MMT、プライマリーバランス
第11回	金融政策	信用乗数

第12回 復習と試験 今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】

- [1]井堀利宏『入門マクロ経済学 第3版』、新世社、2011年
- [2]齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『マクロ経済学 新版』、有斐閣、2016年
- [3]浅子和美・倉澤資成・加納悟『マクロ経済学 第2版』、新世社、2009年
- [4]竹田 陽介・小巻 泰之『マクロ経済学をつかむ』、有斐閣、2006年
- [5]島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学 世代間対立克服への戦略』、日本経済新聞出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業態度（40%）、筆記テストによる期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
該当しない。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】

In this course, you can learn about the economic data related with the basic macro economic model.

To understand orthodox macroeconomic theory, which is indispensable for understanding the real macroeconomy. This course will also provide an understanding of the issues surrounding the Japanese macroeconomy. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to formulate their own opinions on what the Japanese economy should be like in the future, taking into account the various changes in the environment surrounding the Japanese macroeconomy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

MAN300TG（経営学 / Management 300）

人的資源管理論 I（夏期スクーリング）

田上 皓大

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：1群夜間
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源管理（Human Resource Management）は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を行う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理論 I では特に①を中心に学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度と慣行について、理解を深めることができます。

【到達目標】

人的資源管理論 I では、人的資源管理の基礎について理解することを学習目標とします。

- ①人的資源管理の基本的な考え方を習得する。
- ②人的資源管理に関わる論点を知る。
- ③日本企業における人的資源管理の現状と変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。配付資料に沿って講義を進めます。また、毎回の授業で10～15分の時間をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、授業内容に関連した設題に回答する形式とします。リアクションペーパーについては翌日の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明、基本的概念の整理
第2回	雇用管理	採用、配置・異動、雇用調整、定年
第3回	人事制度	職能資格制度、人事考課制度、昇進
第4回	能力開発	人的資本、企業内教育訓練・OJT、Off-JT・自己啓発
第5回	賃金管理と福利厚生	賃金決定、賃金体系、年功賃金、賃金制度、福利厚生
第6回	雇用システムと社会保障	日本的な経営・雇用慣行・人事管理の特徴
第7回	労働時間と勤務場所	長時間労働、労働時間短縮、弾力的な労働時間制度、テレワーク
第8回	労使関係	労働組合、集团的・個別的労使関係
第9回	多様な人材	女性、高齢者、外国人、ダイバーシティ・マネジメント
第10回	多様な働き方	非正社員、雇用類似の働き方、副業、ボランティア・NPO、労働者協同組合
第11回	まとめ	日本的な経営・雇用慣行・人事管理とその改革
第12回	試験	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習として、テキストの該当箇所を読んでおいてください。復習として、参考書の該当箇所や、関心のあるトピックを扱った学術論文を探して読んでみましょう。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。

【テキスト（教科書）】

『よく分かる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、¥2,600+税

【参考書】

『新しい人事労務管理 第6版』、有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2020年、¥2,100+税

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、試験60%で評価します。平常点には、毎回のリアクションペーパーへの評価も含まれます。試験では、①人的資源管理の基本的な考え方を理解しているかだけでなく、②示されたデータから要点を読み取ることができているか、③論理的な記述をできているか、を重要な評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望には、可能な範囲で応えるようにします。意見や要望は、授業の前後に直接、あるいは毎回のリアクションペーパー上で受け付けます。

【その他の重要事項】

冬期開講予定の人的資源管理論IIと合わせて受講することで、人的資源管理についてより深く理解することができます。本講は学術的に人的資源管理論を学ぶことを目的とする講義で、経営・労務における実務的なノウハウやスキルを教授する講義ではありません。

【Outline (in English)】

Human Resource Management (HRM) is a field of study in business administration and commerce that deals with the management of "human" as management resources. In this course, students will learn (1) basic concepts of HRM, (2) issues and problems related to HRM, and (3) current situation and changes of HRM in Japanese companies. In Human Resource Management I, by focusing on (1) in particular, students will be able to deepen their understanding of the systems and practices related to HRM in companies and workplaces.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（夏期スクーリング）
韓 載香
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、20世紀の日本における代表的産業を時代別に取り上げながら、産業のあり方の変化に光を充て、産業を成り立たせる基盤（市場、システムなど）や成長要因（技術、マネジメント、労働等）について説明します。特定の国において、特定の時期に、ある産業が形成、成長し、時には衰退するあり様に注目し、その背景となる経済発展及び競争条件や企業者活動によるダイナミックな変化を織り込みながら、企業活動の舞台となる産業を歴史立体的に理解することを目的とします。

【到達目標】

- (1) 産業とは何かについて説明することができる。
- (2) 産業発展の背景となったマクロ的な経済の特徴について述べるることができる。
- (3) 産業が成長する条件や基盤について、特定分野を取り上げて説明することができる。
- (4) 特定産業の形成、成長、成熟までを、外部環境の条件を考慮しながら、企業活動に関連付けて解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生は事前に教員が提示する参考資料を読んで授業に参加してください。

講義形式で進めますが、講義中のグループで議論することがあります。受講者状況(人数など)により、講義関連のクイズと回答に対する(授業にて口頭で行う)フィードバックを取り入れる可能性があります。これについては初回にて説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	産業史 I のためのイントロダクション：産業とは？	・「企業と産業と経済発展の歴史」から学ぶこと ・「日本標準産業分類」と産業構造
第2回	I 産業史という方法：経済発展の鳥瞰	産業構造変化の国際比較
第3回	II 戦前 ①経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：産銅業の産業化と環境問題	生産の急増は自然が提供する原料の供給量とのバランスを狂わせたが、自然との調和のなかで営んでいた鉱山周辺の農業にも影響を及ぼし、環境問題を発生させた。その結果としての企業の対応過程を追いかけ、その意味合いについて考える。

第4回	II 戦前 ②経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：別子暴動事件	産業化と働くということ：急激な需要増加によって生産増加が要求されたとき、産业内、企業はどのように対応し、産業成長の軌道に乗ることができるのでしょうか。労働の管理方法の変化やそれによる働き方の変容が見えてきます。
第5回	II 戦前 ③経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業(1)	輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第6回	II 戦前 ④経済発展と産業のあり方の変容、そして諸問題：製糸業(2)	輸出産業化とジェンダー：繊維産業の発展は多くの国において女子労働に支えられる特徴を持っている。産業の在り方にジェンダーの側面がどのように関連したか、就労の意思決定に影響する要因はなにか、労働過程における労働管理の在り方に与えた結果に注目しながら、産業成長と日本経済の発展についてジェンダーの視点から考える。
第7回	第2次世界大戦後の世界経済	戦前とは異なるマクロ経済の在り方の変容と国際経済の環境について解説します。
第8回	III 戦後 ⑤機械産業の発展とトヨタ生産方式	機械産業は中小企業を含む広い範囲の諸産業との関連性があり、且つ大量の雇用を生み出すため、高度成長をけん引する分野として意義深いです。日本と他国の自動車産業を比較します。
第9回	III 戦後 ⑥機械工業と部品工業	中小企業群は技術的制約から成長に対しては懐疑的見方で見られていました。中小企業の成長可能性について、成長していく自動車における組立メーカーと部品企業の深い取引関係から考えます。
第10回	III 戦後 ⑦サービス産業化(1)——パチンコ産業の成長	民族マイノリティが関わる分野について、ドキュメンタリー映画「在日」から、彼らのおかれた環境に注目して考えます。
第11回	III 戦後 ⑧サービス業化(2)——多様なニーズをビジネスに、焼肉の普及(映画鑑賞「焼肉ドラゴン」から焼肉レストランの発祥について考える)	日本に定着した焼肉食文化はどのようにして始まったのでしょうか。マイノリティ集住地域に注目して、この点について考えます。
第12回	総括(40分)及び期末テスト(60分)	授業を振り返りながら総括し、期末テストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。
参考資料あり（Web学習サービス）

【参考書】

武田晴人『日本経済史の事件簿』日本経済評論社、2008年、ジャネット・ハンター『日本の工業化と女性労働』阿部武司他訳、有斐閣、2008年、中林真幸『近代資本主義の組織』東京大学出版会、2003年、橘川武郎『日本電力発展のダイナミズム』名古屋大学出版会、2004年、宮本又郎他編『1からの経営史』碩学舎、2014年、加藤健太・大石直樹『ケースに学ぶ日本企業』有斐閣、2013年、武田晴人『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会、1995年、ジェームズ・P・ウォーマック他『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える。最強の日本車メーカーを欧米が追い越す日』経済界、1990年、和田一夫『ものづくりの寓話』名古屋大学出版会、2009年、韓載香『パチンコ産業史』名古屋大学出版会、2018年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】

(1)時事的な問題に関して歴史的観点からどのような理解が可能かを取り上げて解説します。
 (2)学生から受けた質問を受講者全員に共有していただけるように解説します。
 (3)講義以外の学習方法として、関連映画や動画なども使用し、多方面の知的刺激を受けるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course Outline】 The purpose of this course is to understand the industry's history as the stage of business activities. In this course, while focusing on representative industries in Japan by era, I will examine the foundations (market, systems, etc.) that made up the industry and growth factors (technology, policies, management, labor policies etc.), shedding light on the changes in the state of industry. I will pay attention to how an industry forms, grows, and sometimes declines in a specific country and incorporates three dimensions in the underlying economic development, competitive conditions, and dynamic changes due to corporate activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do following:

To explain what industry is.

To explain how an industry develops and conditions and foundations for the growth dividing the time periods based on the example of that industry.

To explain the formation, growth, and maturity of a specific industry in relation to corporate activities, considering the conditions of the external environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one or two hours to read the material provided by me.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to a final examination (100 %).

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（夏期スクーリング）
神谷 健司
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、メディア授業（会計学入門）では十分時間を取れなかった3つの事項について、少し時間をかけて解説し、受講生とともにいくつかの課題を具体的に考えていきたい。今回扱う課題は、①企業研究における当該企業の変節点による分析の検討、②新しい収益認識会計基準における基本的考え方の検討、③各企業が公表している「統合報告書」の構造と内容についての検討である。①に6コマ、②に3コマ、③に3コマ程度を予定している。

【到達目標】

ある企業を考察した場合、その企業の変節点を見出し、総合的にその企業の評価を行なうことが出来るような思考を身に付けてもらいたいと思う。また新しい収益認識基準の基本的な部分を理解するとともに、「統合報告書」における非財務情報の情報としての重要性も各自確認していただきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

パワポあるいは、レジュメに基いて授業を進める。一通り説明を行った後に、受講生から意見を求めたりすることによって理解を確認したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財務データ等を用いた企業研究の方法	企業研究の研究にはさまざまなやり方があるが、そのうちの基本的な方法について紹介する。またさまざまな資料、データの入手方法にも触れる。
第2回	企業の変節点の分析について考えてみる。	変節点を発見する際には、どのような観点から考えるべきか、いくつかの可能性について考える。
第3回	カルビーの経営改革	カルビーの発展史と2010年代に実施された経営改革について検討する。
第4回	売上高営業利益率の本質	1つの目標指標となった売上高営業利益率について、その利益率の意味について考える。
第5回	各企業のドメインの変更と企業経営について考える。	企業ドメインとは何か。またそれ変更することは企業経営的に何を意味するのかを考えていく。
第6回	カルビーの変節点の分析の考察とレポートの作成	カルビーの変節点はどこであるのか具体的に考えてみる。
第7回	従来の実現の概念に基づいた収益の認識について	伝統的な実現概念に基づく収益の認識について考える。
第8回	新しい収益の認識基準における収益の認識について	新しい収益の認識基準における考え方について検討する。

第9回	新しい収益の認識基準について	新しい収益の認識基準における考え方について検討する。
第10回	統合報告書の記載内容の確認と実際にカルビーの報告書を読む。	カルビーの統合報告書を読み、カルビーの経営施策について考える。
第11回	カルビーの報告書を読む。統合報告書についてのレポートの作成。	前回に続き、残りの部分を読む。
第12回	今回の講義のまとめと最終的試験	重要事項の確認と60分の最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
 本授業を履修する学生は、あらかじめカルビーのホームページから、企業情報、会社の沿革・歴史、商品の歴史などを調べておくこと。またカルビーの統合報告書、中期経営計画等についても一通り読んでおいて欲しい。カルビーの現在のさまざまな取り組み状況についても把握しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に必要無し。資料などは授業中に配布する。

【参考書】

①については、榊原清則『企業ドメインの戦略論』中公新書、1992年、および榊原清則『経営学入門（上）』日経文庫、2002年の第4章のドメインの議論が参考になる。③については、統合報告書について書かれた各種解説本。

【成績評価の方法と基準】

授業中に書いてもらったレポート（30点）と最終的な試験（70点）の合計点による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。本年度から開講。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The issues to be dealt with this lecture are (1) Consideration of analysis method based on turning points of the company in corporate research, (2) basic thinking on the new revenue recognition accounting standard, and (3) the structure and content of the "Integrated Report" published by each companies.

Before/after each lectures, student will be expected to read text book at least 2 hours.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(30%), term-end examination(70%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（夏期スクーリング）
小池 祐二
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、社会には解決しなければならない課題がたくさんあります。そして企業にはSDGsへの積極的な取り組みなど、社会的な課題解決に大きな役割を果たすことが期待されています。この講義では企業の社会貢献という切り口から、企業経営のあり方やイノベーションについて議論していきます。フィランソロピーや社会的責任投資、メセナ、CSR、MDGs、SDGs、CSV経営、BOPビジネス、ソーシャルビジネス、パーパス経営など、企業の社会貢献に関する歴史や様々な背景、世界における企業の経営思想、経営戦略などについて学び、取り組みの事例を学習します。そうした基礎知識をもとに、現代の中小企業や大企業経営における社会貢献の意味や役割などを考えます。企業の社会貢献とは、顧客や従業員、取引先、地域社会といった利害関係者、また社会全体に広く配慮し、長期的に企業価値を高めることを意味しています。この講義では、さまざまな分野で社会貢献に取り組む方々にもゲストとしてご参加いただき、最前線の現場のお話も伺います。

【到達目標】

- ①世界における企業の社会貢献活動と社会問題解決のための取り組みを学び、経営学の現代的課題を学びます。
- ②現代の日本企業がどのような社会貢献を行っているのか、その背景や考え方、実践を知り、社会的課題への対応を知り、未来における企業経営のありかたを考える素養を身につけます。
- ③企業が、その社会貢献のために、どのような製品開発を行い、ソリューションを探索し、イノベーションを起こしてきたか、について理解する論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面の講義、グループワーク、ゲストスピーカーのお話（教室とゲストの方をネットで結んでのオンライン講演になる場合もあります）の組み合わせとなります。また、学生の皆さんには、授業中のグループワークの成果のプレゼンテーションを行ってもらいます。なお、新型コロナウイルス等の感染拡大の状況や、受講者数、ゲストスピーカーの方の都合によって、進め方や予定を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この講義の進め方を説明します。また講義の基本として資本主義経済と企業経営がどのように発達してきたのかを振り返ります。
第2回	メセナとフィランソロピー	メセナは芸術や文化の支援、フィランソロピーは奉仕的活動を指すことばです。高級ブランドを作り上げた女性企業家シャネルや鉄鋼王カーネギーなどを例に挙げながら、メセナやフィランソロピーの歴史と現代的意味を考えていきます。

第3回	CSRとCSV経営、マーケティング	企業の社会貢献としてよく行われているCSRと、社会貢献をビジネスの中心にして利益と企業の社会的価値の向上を目指すCSV経営について考えます。また、マーケティングの手法からの企業の社会貢献を考えます。
第4回	途上国経済と企業	途上国の経済開発に果たす企業の役割を、BOPビジネス、ソーシャルビジネスなどの切り口から考えます。
第5回	ゲストスピーカーのお話（途上国支援を考える）	途上国支援と関わりが深い方をゲストにお迎えし、途上国の状況と、そのビジネスの実際の現場について、お話を伺う予定です。
第6回	SDGsやパーパスと企業経営	現在、大きな社会的トレンドとなっているのがSDGsです。その成り立ちと基本的な考え方、そして企業経営との関わりについて考えます。また、最近、注目を集めているパーパス経営について考えます。
第7回	ゲストスピーカーのお話（SDGs経営を考える）	SDGsへの積極的な取り組みが評価されている企業からゲストをお迎えし、SDGs経営の実際についてお話を伺う予定です。
第8回	企業の社会貢献と投資	現在、ESG投資など、企業の社会に対する貢献度を評価する投資が広がっています。ここでは企業の社会貢献と投資の関わりを考えます。
第9回	グループワーク	学生の皆さんをいくつかのグループに分け、起業家の立場に立って、自分たちだったら、どのような社会貢献ができる企業を起業してみたいか、プランをまとめてもらいます。
第10回	グループワーク（続き）	第9回に引き続き、グループでプランをまとめてもらいます。
第11回	プレゼンテーション	グループワークの成果を、各グループごとにプレゼンテーションしてもらいます。
第12回	授業のまとめと試験	授業全体を振り返ります。また、授業内試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。テキストや参考書、シラバスの記載などを利用して、それぞれの授業の内容に関連する事柄の基礎を学んだうえで授業に参加してください。学生の皆さんどうしでのディスカッションなどが展開されることを、おおいに期待しています。学生の皆さんからのリアクションペーパーの内容をフィードバックして、毎日の授業の質を高めていきたいと考えています。

【テキスト（教科書）】

洞口治夫・小池祐二編著『集中講義 高校生の経営学 経営学部の受験を逃している人に』文真堂、2018。

【参考書】

適宜、授業中に紹介しますが、
 ・コトラー他『コトラーのマーケティング5・0』朝日新聞出版、2022。
 ・ユヌス『3つのゼロの世界 貧困0・失業0・CO₂排出0の新たな経済』早川書房、2018。
 ・名和高司『CSV経営戦略一本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する』東洋経済新報社、2015。
 ・南他『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波書店、2020。
 ・シュワブ他『ステークホルダー資本主義』日経ナショナルジオグラフィック、2022。
 は、簡便で参考になります。

【成績評価の方法と基準】

第12回目の授業で行う授業内試験が40%、グループワークのプレゼンテーションの品質が30%（同一グループは全員に同じ点数を付与します）、リアクションペーパーの提出と品質が30%とします。第1日（第1回）から第4日目（第8回）までの授業は、1日ごとにリアクションペーパーを提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、学生の皆さんはゲストスピーカーのお話に、たいへん興味を持たれていたため、今年度も学生の皆さんに期待に叶うゲストをお招きする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、PC、タブレットなど、ネットに接続できるものがあれば持参してください。

【Outline (in English)】

Companies, governments, and individuals contribute to attaining the Sustainable Development Goals (SDGs) agreed upon at the UN Summit in 2015. In this class, we will study the theoretical and practical aspects of corporate efforts to achieve the SDGs goals. Particularly, we shall invite guest speakers, including business managers and entrepreneurs who aspire to contribute to society and solve social issues, to talk about their efforts. They will discuss how corporate management and innovation should be from the perspective of addressing the SDGs. We shall also clarify the historical background of the emergence of the SDGs and their relationship with corporate social responsibility (CSR) and creating shared value (CSV). Based on this basic knowledge, we will consider the meaning and role of corporate efforts toward the SDGs goals in managing modern small and medium-sized enterprises and large corporations. In this lecture, we shall use case studies of companies that make social contributions in various fields, with participants from each company.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（夏期スクーリング）
猪狩 良介
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの企業ではマーケティング活動を通じて商品や広告、販売などの戦略を検討し、実施しています。本講義では、消費者のニーズを踏まえた商品やサービスの開発、価格設定、広告プロモーションなどの戦略と消費者の購買行動についての基礎的な内容を事例を紹介しながら説明します。本講義を通じて、マーケティングに関する基礎的な方法論を理解し、知識として定着させることを目的としています。

【到達目標】

- ・マーケティング活動に関する基礎的な方法論の内容やキーワードを理解し、知識として定着している。
- ・消費者の購買などに関する行動を理解し、関連したキーワードを理解し、知識として定着している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

マーケティングの基礎概念、特にマーケティング4P (Product, Price, Place, Promotion)を中心に学習します。

授業はパワーポイントのスライドを用いて講義形式で行います。また、授業で扱ったテーマについて簡単なグループワークを行います。また、最終回の試験後にポイント解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／マーケティングとは	本授業の概要と進め方について説明します。マーケティングとは何か、どのように変遷してきているのかについて学びます。
第2回	マーケティング戦略と立案プロセス1 (STP)	マーケティングにおいて重要な概念であるセグメンテーション(S)、ターゲティング(T)、ポジショニング(P)について学びます。
第3回	マーケティング戦略と立案プロセス2 (4P)	マーケティングミックスの概念について学びます。また、マーケティング4P (Product, Price, Place, Promotion)を学習します。
第4回	競争地位別マーケティング戦略	市場シェアに基づく競争地位(リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー)による戦略について学習します。
第5回	市場機会の発見	企業の市場における外部環境と内部環境の要因を学びます。また、環境を分析するいくつかの方法について学びます。
第6回	製品戦略	製品の種類と製品ミックス、新製品開発のプロセス、製品のライフサイクルマネジメントについて学びます。

第7回	価格戦略	価格設定のための様々な方法について学びます。
第8回	流通戦略	流通チャネルの種類と機能、政策について学びます。
第9回	プロモーション戦略1	コミュニケーションの種類と、広告について学びます。
第10回	プロモーション戦略2	セールスプロモーションやインターネット広告について学びます。
第11回	ブランド戦略	ブランドの定義と種類、機能について学びます。また、ブランド資産についての考え方を学びます。
第12回	期末試験	理解度を確認します。また、授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前にテキストをよく読んで予習します。また、日常生活で身近にある製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているかよく考えます。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・山本晶(2012)『コア・テキスト マーケティング』新世社。
- ※授業時には上記教科書に基づく教材プリントを配布して説明します。

【参考書】

- ・沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣。
- ・石井淳蔵・廣田章光(2020)『1からのマーケティング 第4版』碩学会。
- ※それ以外の参考書については、授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】

- ・企業の事例を多く扱います。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業で使用する資料は事前にWeb学習サービスに掲載します。授業中に紙での配付も行いますが、事前学習に必要であれば各自でプリントアウトしてください。

【その他の重要事項】

- ・実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Companies consider and implement strategies such as products, advertisements, and sales promotions through marketing activities. In this course, strategies for developing products and services based on consumer needs, pricing, advertising promotion, etc., and basic contents of consumers' purchasing behavior will be explained through some examples. The purpose is to understand the basic methodology of marketing and establish it as knowledge through this course.

[Learning Objectives]

Students understand the contents and keywords of basic methodologies related to marketing activities.

[Learning activities outside of classroom]

Students will read the textbook well in advance and prepare for the course. In addition, students should think carefully about how marketing is developed for the products and services they are familiar with in their daily lives.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Final exam:100%.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（夏期スクーリング）
齋藤 邦明
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、近世から近代までの日本経済を解説します。かつて途上国であった日本は、どのようにして経済成長の軌道に乗り、アジアで最初の産業革命を成し遂げたのでしょうか。現在、私たちが所与としている市場、制度、企業組織、環境は一体いつ・なぜ成立したのか、どのように変化してきたのでしょうか。こうした問いに、歴史的資料・データに基づいて応えていきます。本講義を通じて、「過去と現在との絶え間ない対話」を行い、私たちの生きる現代経済社会の理解を深めるための、知的基盤を提供します。

【到達目標】

受講生が本講義の受講終了時点で、日本の経済発展の長期的な特徴を理解するとともに、特定の時代における政治・経済・社会状況について、史実やデータに基づいた認識をもち、長期的な観点からの思考・考察ができるようになることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

対面での講義で進めます。また必要に応じてリアクションペーパーの提出を求めることがあります。リアクションペーパーや授業内課題に対するフィードバックは、スクーリングの各日の1時間目に口頭もしくは配布資料にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本経済や日本企業を理解するうえで、歴史的なアプローチが有効であることを解説します。
第2回	近世経済社会の制度形成：家と村	日本経済が発展の軌道にのったとされる、江戸時代の経済を概観します。特に日本社会の特質である「家」と「村」について解説します。
第3回	近世の市場経済： 「世界初の先物取引市場」堂島米市場を中心に	世界で最初の先物市場・大坂堂島米市場の特徴と取引を中心に、近世の市場経済について解説します。
第4回	近世近代移行期の日本経済：幕府の政策、幕末開港	江戸後期から幕末までの幕府と各藩の経済政策を解説します。中央・地方政府によるガバナンスと産業振興について、江戸時代を事例に学びます。
第5回	明治維新期の日本経済	近代国家となった日本の政治・経済・社会の制度設計について解説します。
第6回	日本の産業革命	日本の産業革命について、紡績・製糸・鉄道・金融・海運など諸産業の展開を踏まえつつ、その特徴を解説します。

第7回	日清・日露戦争と日本経済	近代における国家と戦争の関係を踏まえつつ、日清・日露戦争と戦争後の経済政策について解説します。
第8回	明治・大正期の消費生活空間	明治・大正期の人々の生活について、西洋化・和洋折衷化・伝統の残存に着目しながら、衣食住を中心に解説します。
第9回	第1次世界大戦期の日本経済／百年前のパンデミックと日本社会	第一次世界大戦とスペイン風邪の流行による日本経済・社会への影響について解説します。
第10回	戦間期の日本経済	1920～30年代の重化学工業化・都市化・震災などの変化と、日本経済の現代化について解説します。
第11回	戦時・戦後の日本経済：現代への展望	日中戦争・アジア太平洋戦争期の日本経済について解説し、戦後日本経済への影響を解説します。
第12回	まとめ・スクーリング試験	本講義のまとめと筆記試験（論述）を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業準備は授業各回の時代に関わる予習を参考書などを参考に事前学習を行うこと。

復習は授業時に配布した資料を読み直し、時代の流れ・重要事項（出来事、人物、学術用語）・資料料の解釈を確認すること。さらに最終試験において論述での回答を行えるよう、論述の準備や授業内容の要約を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。授業資料を配付します。

【参考書】

- 『日本経済史 1600-2015』浜野潔ほか著 慶應義塾大学出版会 2017年 ISBN：978-4-7664-2335-8
 - 『ハンドブック日本経済史 徳川期から安定成長期まで』平井健介・島西智輝・岸田真編 ミネルヴァ書房 2021年 ISBN：978-4623091942
 - 『近現代日本経済史要覧 補訂版』三和良一・原朗編 東京大学出版会 2010年 ISBN：978-4-13-042136-2
 - 『経済史 いまを知り、未来を生きるために』小野塚知二著 有斐閣 2018年 ISBN：978-4-641-16515-1
 - 『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西聡編著 名古屋大学出版会 2013年 ISBN：978-4-8158-0733-7
 - 『日本経済史 近世から現代まで』沢井実・谷本雅之著 有斐閣 2016年 ISBN：978-4-641-16488-8
 - 『岩波講座 日本経済の歴史 1～6』深尾京司・中村尚史・中林真幸編著 岩波書店 2017～2018年
- その他、各回に関わる参考文献は授業内でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

This course deals with the economic history of Japan from the early modern period to the modern era. How did Japan, once a developing country, get on track for economic growth and achieve the first industrial revolution in Asia? When and why were the markets, institutions, corporate organizations, and social environment that we now rely on established, and how have they changed over time? These questions will be answered based on historical data. Through this course, we will engage in a "constant dialogue between the past and the present" and provide an intellectual foundation for a deeper understanding of the contemporary economic society in which we live.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（1）（データ演習） / コンピュータ入門（1）（データ演習）（夏期スクーリング）
児玉 靖司
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBAという）について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークやWordによる文書作成を行う。その後、Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBAの文法から応用問題について解説する。

【到達目標】

コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般について解説し、そのマクロ言語としてのVBAを解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。

毎回、Classroom から Google フォームにて授業アンケートをとり、次回の授業の最初にフィードバックする。さらに、質問は、Classroom や、チャットにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBAの起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】

特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、提出されたレポート、最終試験（50%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータ、講義資料を多用し詳しく解説する。Classroom 上で情報をやり取りする。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（2）（表計算） / コンピュータ入門（2）（表計算）（夏期スクーリング）
入戸野 健
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】

ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、基本的な情報の編集・集計・利用等ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

PC利用の初級者を対象として基本操作から始め、文書作成・表計算を中心に実習形式で学習を進めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、後半は表計算まで学習を進めるため、文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。普段から実務等で既にワープロや表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。

課題等についての講評は適宜、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションとWindowsの基本操作	授業の概要と、Windowsのアプリケーションの起動、ファイル整理等の基本操作を学習します。
第2回	文書処理(1) 文字の入力と書式設定	文字の入力方法、文書の書式設定、フォントの設定等について学びます。
第3回	文書処理(2) 定型文書の作成	一般的な定型文書の作成に必要な箇条書きや段落設定などを学習します。
第4回	文書処理(3) 表の作成	文書内に表を作成して体裁の整った文書を作成する方法を学びます。
第5回	文書処理(4) 図形の利用	文書内にイラスト挿入したり、簡単な案内図を作成する方法について学習します。
第6回	電子メールとインターネット検索	電子メールの送受信、メール文面の書式やマナー等に加えて、検索サイトの利用について学びます。
第7回	表計算(1) 表計算ソフトの基本操作	基本的なデータの入力方法とそれらを計算する方法を学びます。
第8回	表計算(2) 関数の利用	各種の関数を利用してデータを効果的に集計する方法を学習します。
第9回	表計算(3) グラフの利用	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの基本的なグラフの作成方法を学習します。

第10回	表計算(4) 様々な処理への応用	応用的な関数やグラフのの機能を利用して様々な処理を行う方法を学習します。
第11回	表計算(5) 他のソフトとの連携	作成した表やグラフをWord等の文書内で連携しながら利用する方法を学びます。
第12回	試験とまとめ	演習形式の試験を実施し授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の実習でやり残した部分があった場合は、各自で完成させておく等の事後学習を行って下さい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「30時間でマスター Excel2019」実教出版 ISBN978-4-407-34837-8

【参考書】

進捗状況に応じて授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題20%、テスト60%とします。毎回授業に参加して、各回の実習で課題等をきちんとこなしながら、それらを着実に身につけて行くことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の学習状況に合わせて丁寧な授業進行に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業は情報実習室に設置のPCを使用して行います。

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this course is to acquire information literacy using word processing, spreadsheets, and the Internet.

(Learning objectives) The goal is to provide fundamental skills for accumulating, editing and summarizing information using word processing, spreadsheet and internet application software.

(Learning activities outside of classroom) If you are not able to reach the assigned goal in class, it is recommended that you complete it on your own before the next week's class.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on in-class contribution (20%), mid-term reports (20%), and term-end examination (60%)

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（3）（データベース）／コンピュータ入門（3）（データベース）（夏期スクーリング）
渡辺 英人
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。2023年度は対面授業で開講する予定です。みなさんが自宅で使用しているパソコンを最大限有効活用できるように解説します。Microsoft Word、Excel、あるいはPowerPointやAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではWindows PCとMicrosoft WordおよびExcelを使います。Apple MacBookやiPad等でも復習できるように解説いたします。自宅ですべてのPC機器類を有効活用し、大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを使います。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにMicrosoft「Word」と「Excel」は確実に覚えましょう。

講義と実習を併用するこの授業では、分からないことがあった場合にはすぐに質問し、いっしょに解決しましょう。授業中、授業後にも質問時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）。	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで。	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。

第4回	ワープロ操作（Wordによる文章入力の実習）インターネットとWordを使った課題作成。	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作法。基本操作）Excelの操作法。	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法（計算機能と関数。表作成、グラフ作成）。	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。（課題作成）	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的な情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS（データベースソフト）の利用方法について解説する。（Excelで代用可能）
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。（課題作成準備）	マイクロソフトACCESS、またはExcelを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	課題作成	オリジナルテーマに基づくデータベースを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書の準備はありません。必要に応じて資料を配付します。詳細については開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

Word、Excel、Access等を使って、課題（50%）を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50%）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用にUSBフラッシュメモリ等を用意してください。詳細については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

〔受講上の注意〕

大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにしてねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【質問について】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Introductory information processing course for university students. Everyone who studies social sciences and humanities using representative software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, Access, etc., will explain the knowledge and skills that are useful at universities, and even in society and at home, in an easy-to-understand manner, You will learn. Practical content on how to search, collect, and efficiently organize and use useful information from literature and the Internet. It will always be useful in college, at work, at home and in the future! Beginners welcome! !

All students accurately understand how to deepen their research and learning by efficiently using information devices, especially personal computers and software, for various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to apply it. Let's acquire "useful" skills not only for research and study at university but also for society and home! Beginners are welcome! !! I want people who are not good at it to participate! !! !!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Create an assignment (50%) using Word, Excel, Access, etc. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（4）（表計算） / コンピュータ入門（4）（表計算）（夏期スクーリング）
高田 美樹
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】

ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、情報を収集し、集計してレポートを作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

実習室のパソコンを利用して表計算、文書作成、インターネットからの情報収集を行います。

パソコンの初級者を対象として基本操作から始めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、毎回の講義で積み上げていきます。毎回の講義を一つひとつ身につけていきましょう。文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。普段から実務等で既に文書作成や表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。Classroomを利用して、講義資料を配布し、課題の提出を行います。課題のフィードバックもClassroom上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作と電子メール操作	アプリケーションの起動、ファイルの整理などの基本操作とメールの仕組みを学びます。
第2回	表計算による表の作成	罫線などで表を整え、データを入力し、表を作成します。
第3回	表計算による計算	表計算の計算式について学びます。
第4回	表計算による関数（1）	表計算でよく使う関数を学びます。
第5回	表計算による関数（2）	少し高度な表計算の関数を学びます。
第6回	インターネット情報検索	インターネットからデータを収集する方法を学びます
第7回	情報の可視化	グラフを作成し、収集したデータを可視化します。
第8回	文書の作成	長い文書を作成するときに必要なスキルを学びます。
第9回	レポートの書き方	アカデミックライティングの詳細を学びます。
第10回	アプリケーションの連携	表計算により作成したグラフを取り込んでレポートを作成する方法を学びます。
第11回	最終課題とまとめ	収集したデータを可視化・集計して考察します。

第12回 最終課題とまとめ これまで学んだことをすべて利用して最終課題としてレポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を確認し、内容を把握してください。講義終了後は、その日の目標を完成させてください。課題は2つあります

1. Excel ファイルの作成（前半）

2. データ解析レポートの作成（後半）

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提供します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間課題40% 最終課題60%とします。毎回授業に参加して、各回の実習をこなし、積み上げていくことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】

前半のExcelの関数部分は、もともとのスキルの差に対応することが求められており、練習問題などで対応します。

【学生が準備すべき機器他】

教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】

実習室のパソコンにログインするためのIDとパスワードが配布されます。

ログイン情報を教室に持参してください。

【オフィスアワー】

授業時間内に積極的に質問してください。

時間外には、メールで対応します。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

(Course outline)

You will learn information literacy through word ,Excel, and the Internet.

(Learning Objectives)

You can write your report with collecting data from the Internet.

(Learning activities outside of classroom)

It takes about 2 hours.

(Grading Criteria /Policy)

40% intermediate assignment; 60% final assignment.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（5）（データ演習）／コンピュータ入門（5）（データ演習）（夏期スクーリング）
高田 美樹
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBA という）について学ぶ。Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】

ExcelVBAマクロプログラミングを実習し、プログラミングの考え方やプログラミングによるデータ解析の手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel の使い方を解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Excel マクロ VBA の文法とアルゴリズムを理解し、プログラミングの基本を実習を通して学ぶ。

Classroom を利用して、講義資料を配布し、課題の提出を行う。課題のフィードバックも Classroom 上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと Excel の基礎	学習計画を把握し、マクロとは、プログラミングとは、という概念を学ぶ。
第2回	サブルーチン	マクロ自動記録を用いて、サブルーチンの呼び出しと実行順序について学ぶ。
第3回	値と式、および書式の設定	マクロで値や式、書式を自動的に設定する方法を学ぶ。
第4回	繰り返し処理(1)	Excel シートの全行に同じ処理を行う構文を学ぶ。
第5回	範囲選択	変更部分の範囲を指定して元に戻す処理を行う。範囲が上下しても対応できる方法を学ぶ。
第6回	繰り返し(2)	集計処理を学ぶ。
第7回	選択	条件による二者択一を学ぶ。
第8回	繰り返しと選択の組み合わせ	最大値をはじめとした簡単なアルゴリズムを学ぶ。
第9回	多肢選択(1)	3 択以上の中から条件により選択する方法を学ぶ。
第10回	多肢選択(2)	範囲のある条件分岐を学ぶ。
第11回	配列的な考え方	インデックスを用いてデータを指定する方法を学ぶ。
第12回	繰り返し(3)	回数がわかっている場合の繰り返し処理の構文を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を確認し、内容を把握する。
講義終了後は、その日の目標を完成させて提出する。おおむね2コマに1つの課題提出を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】

適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題で評価を行う（100%）

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】

実習室のパソコンにログインするためのIDとパスワードが配布されます。

【オフィスアワー】

メールなどで対応する
miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.

(Learning Objectives)

You can understand programming concepts and method for data analysis.

(Learning activities outside of classroom)

It takes about 2 hours.

(Grading Criteria /Policy)

Every quizzes 100%

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（6）（データベース）／コンピュータ入門（6）（データベース）（夏期スクーリング）
渡辺 英人
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のための情報処理入門講座です。2023年度は対面授業で開講する予定です。みなさんが自宅で使用しているパソコンを最大限有効活用できるように解説します。Microsoft Word、Excel、あるいはPowerPointやAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではWindows PCとMicrosoft WordおよびExcelを使います。Apple MacBookやiPad等でも復習できるように解説いたします。自宅ですべてのPC機器類を有効活用し、大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを使います。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにMicrosoft「Word」と「Excel」は確実に覚えましょう。

講義と実習を併用するこの授業では、分からないことがあった場合にはすぐに質問し、いっしょに解決しましょう。授業中、授業後にも質問時間を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コンピューターとは何か（ハードウェアとソフトウェア）。	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで。	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。

第4回	ワープロ操作（Wordによる文章入力の実習）インターネットとWordを使った課題作成。	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作法。基本操作）Excelの操作法。	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法（計算機能と関数。表作成、グラフ作成）。	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。（課題作成）	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的な情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS（データベースソフト）の利用方法について解説する。（Excelで代用可能）
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。（課題作成準備）	マイクロソフトACCESS、またはExcelを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	課題作成	オリジナルテーマに基づくデータベースを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書の準備はありません。必要に応じて資料を配付します。詳細については開講時に説明します。

【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

Word、Excel、Access等を使って、課題（50%）を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況（平常点：50%）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

【学生が準備すべき機器他】

データ保存用にUSBフラッシュメモリを用意してください。詳細については開講時に説明します。

【その他の重要事項】

〔受講上の注意〕

大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにしてねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！ 大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

【質問について】

授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

Introductory information processing course for university students. Everyone who studies social sciences and humanities using representative software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, Access, etc., will explain the knowledge and skills that are useful at universities, and even in society and at home, in an easy-to-understand manner, You will learn. Practical content on how to search, collect, and efficiently organize and use useful information from literature and the Internet. It will always be useful in college, at work, at home and in the future! Beginners welcome! !

All students accurately understand how to deepen their research and learning by efficiently using information devices, especially personal computers and software, for various problems in "social science" and "humanities" studied at university. The goal is to be able to apply it. Let's acquire "useful" skills not only for research and study at university but also for society and home! Beginners are welcome! !! I want people who are not good at it to participate! !! !!

If necessary, we will distribute materials that describe the content of the lesson in advance, so please do not only review but also prepare for the lesson.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Create an assignment (50%) using Word, Excel, Access, etc. We will evaluate each person's level of understanding and participation in the class (normal score: 50%).

教育の制度・経営（夏期スクーリング）
新井 秀明
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本の学校制度・組織を枠づけ、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること、また、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることです。これには危機管理や安全対策・地域との連携も含まれます。

【到達目標】

現代日本の学校教育に関する制度的及び経営的な問題を取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営にかかわる基礎知識の理解と習得をめざします。学校組織・経営の基礎知識には危機管理や安全対策、学校と地域の連携も含まれます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は対面授業で行います。資料や課題の配布、回収は授業を通じて行います。リアクションペーパーの提出やディスカッション等も授業で行います。フィードバックは授業内で行う。授業の前半は、公教育や教育行財政の法制度やしくみをテーマにします。授業の後半は、学校の織・経営の諸側面をテーマにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校制度改革について【教科書・本書で学ぶみなさんへ】
第2回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教育制度の目的、生涯学習【教科書・第1、2章】
第3回	教育行政の制度	国と地方の教育行政、文部科学省、教育委員会、学校管理規則【教科書・第4、8章】
第4回	教育課程と教科書制度	教育課程行政、学習指導要領、教科書検定・採択、カリキュラムマネジメント【教科書・第11章】
第5回	教育の無償制と教育財政制度	教育の無償制、国庫負担金と補助金、地方交付税、就学援助・教育扶助【教科書・第3、6章章】
第6回	教育を受ける権利と学校制度	義務教育制度、学校制度とその改革、教育機会保障【教科書・第3、7章】
第7回	学校の組織と経営	自律的学校経営、校長とミドルリーダー、職員会議、校務分掌、少人数学級【教科書・第9章】
第8回	教員の成長と同僚性	教員の職能開発、教員免許・養成・採用・研修、同僚性【教科書・第5章】
第9回	教員の評価と労働条件	教員評価・人事管理と労働条件【教科書・第5、9章】
第10回	子どもの人権と学校の課題	子どもの権利条約と学校（校則、体罰、いじめ）【教科書第9、10章】

第11回	チーム学校と地域連携	チーム学校政策、新たな教育専門職、学校と地域の連携、コミュニティ・スクール【教科書第9章】
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校保健安全法、災害等の危機管理、教員の安全対策と責任【教科書・第6、9章】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。テキストを事前に通読してください。またプリント教材、自作ノート等を利用して復習してください。

【テキスト（教科書）】

新・教育の制度と経営（三訂版）、本岡愛実・末富芳編著、学事出版、2020、2100円+税
プリント教材を毎回配布し、使用します。

【参考書】

文部科学省及び都道府県・市町村教育委員会のホームページ

【成績評価の方法と基準】

最終時間の試験が80%、授業内の活動（コメントペーパー作成、ディスカッション等）が20%、これらを目安として総合的に判断します。試験は論述式問題です。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット環境が利用できる情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後を利用します。

【Outline (in English)】

The topics of this class are focused not only contemporary Japanese law and system in educational administration and finance, but also on school organization and management, including risk management, safety measure, and corporation with local community.

教育方法論（ICT活用を含む）（夏期スクーリング）
中園 有希
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

【到達目標】

- ①資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。
- ②授業と学びの様々な方法やその現代的課題を理論的、実践的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育の方法に関する理論的知見を講義形式で具体的に提示するとともに、技法については演習形式で実践を重視する。視聴覚資料や情報通信機器を活用し、グループワークにおける協働を受講者に求める。リアクションペーパー、課題等については講義内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：教育方法、情報通信技術活用（学習指導と校務）と教師の専門性	授業の概要説明と内容の導入を行う。本講義の内容を教師の専門性と関連づけて理解する。
第2回	教育方法の基礎的理論と実践	授業や学びを巡る様々な理論や実践の諸形態を理解する。
第3回	情報通信技術を活用した学習指導と校務の推進（統合型校務支援システムを含む）、教育情報セキュリティ	学習指導や校務における情報通信技術の活用の現代的意義や方法、教育情報セキュリティの重要性を理解する。
第4回	主体的・対話的で深い学びを実現する教育方法、情報通信技術活用の意義と理論	情報通信技術の活用の意義と理論を踏まえつつ、個別最適な学びと協働的な学び、主体的・対話的で深い学びを実現する教育方法について理解する。
第5回	情報活用能力（情報モラルを含む）の教科横断的育成と各教科等の特性に応じた指導方法	情報活用能力（情報モラルを含む）の教科横断的な育成と各教科等の特性に応じたその指導方法について理解する。
第6回	授業の観察と批評	授業研究の方法と意義について理解する。
第7回	教育目標と授業のデザイン	授業デザインにおける教育目標の意義やその設定方法について理解する。
第8回	学力と評価の観点、学習評価（教育データの活用を含む）	指導と一体化した学習評価のあり方（教育データの活用を含む）やその観点、方法について理解する。

第9回 個に応じた指導の工夫、特別支援における情報通信技術の活用
個に応じた指導の工夫の意義と方法、特別支援における情報通信技術の活用の意義と留意点について理解する。

第10回 教材の作成・活用と情報通信技術の活用
教科書や情報通信技術の活用方法の実際や教材の作成方法について理解する。

第11回 発問や板書、情報通信機器などの指導技術
発問、板書、情報通信機器など指導技術の実際について理解する。

第12回 試験・まとめと解説
期末試験及び授業のまとめ、解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

- ①佐藤学『教育の方法』左右社、2010年
- ②秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』、放送大学教育振興会、2010年
- ③中川一史／苑復傑『教育のためのICT活用〔改訂版〕』、放送大学教育振興会、2022年
- ④中学校・高等学校学習指導要領（最新版）
- ⑤「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（各校種・教科版）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー：20%

提出課題：30%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ノートパソコン、タブレット等のICT機器を持参すること。
- ・本授業の課題等の提出はGoogle Classroomを通じて行う。
- ・大学の教室には、HDMI等各種の回線、投影器具などが備え付けられている。

【その他の重要事項】

新聞やそれに準ずる媒体に毎日必ず目を通し、教職も含めた時事的課題について関心を持ち理解しておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course situates the use of information and communication technologies within educational methods and techniques, and teaches the basic theories, concepts, and practical applications. With this knowledge and skillset, students will be able to design effective lesson plans aimed at cultivating aptitudes and abilities of children.

【Learning Objectives】

- Students can not only acquire basic knowledge and skills on educational methods, techniques, and information and communication technologies to cultivate aptitudes and abilities of children, but also will be able to design effective lesson plans.
- Students can acquire both theoretical and practical understanding of various methods of teaching and learning, as well as contemporary issues related to them.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports: 30%, Minute paper: 20%

教育相談（夏期スクーリング）
藤平 敦
カテゴリー：夏期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談は、担当者のみが課題を抱えている生徒のみを対象に、別室で1対1のみで行うものではなく、教職員全員が教育活動のあらゆる機会をとらえて、全ての生徒に対して行うべきものである。本授業では、主に学級をフィールドとして、さまざまな実践事例を題材にしながら、受講者である学生が教育相談の意義と支援の在り方について理解することを主目的としつつ、学級及び授業づくりに必要な視点を学ぶこととする。

【到達目標】

- ①教育相談の意義と支援の在り方について理解できる。
- ②生徒とかかわる基本原理を理解できる。
- ③生徒同士のつながりを意図した働きかけについて考えることができる。
- ④「個別支援計画」の必要性を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は原則として、①前回の復習（約10分）、②（本時のトピックに対する）講義（約25分）&グループディスカッション等（約40分）、③Quiz（事例検討）（15分）の3構成で進める。学生の主体的な授業参加とともに、毎回、自分自身の言葉で振り返りができることを目標とする。なお、フィードバックの方法は、授業内（上記①前回の復習）で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育相談とは何か①	①オリエンテーション ②講義（教育相談の意義や生徒との関わり方について理解する） ③グループディスカッション
第2回	教育相談とは何か②	①第1回の復習 ②講義（教育相談における支援の在り方について理解する） ③グループディスカッション
第3回	不登校の問題から教育相談を考える①	①第2回の復習 ②講義（長期欠席と不登校の違いについて理解する。不登校の状況と対応等についての基本的な考え方を理解する） ③グループディスカッション
第4回	不登校の問題から教育相談を考える②	①第3回の復習 前回の復習 ②講義（不登校の出現について、不登校新規出現者と不登校継続者の違いを理解する） ③グループディスカッション ④Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第5回	いじめの問題から教育相談を考える①	①前日（第1回～第4回）の復習 ②講義（いじめ問題について考える。近年のいじめの社会問題化について考える） ③グループディスカッション

第6回	いじめの問題から教育相談を考える②	①第5回の復習 ②講義（いじめの初期対応と未然防止について考える） ③グループディスカッション
第7回	学級・授業づくりに活かす教育相談①	①第6回の復習 ②講義（生徒と好ましい人間関係を築いていくうえで必要な視点を、教育相談の発想から理解する） ③グループディスカッション
第8回	学級・授業づくりに活かす教育相談②	①第7回の復習 ②講義（授業等の場面における教育相談の視点の必要性を理解する。一斉授業の場面において、教育相談の視点を持った（生徒たちへの）働きかけについて考える。/グループ学習や個別学習の場面において、教育相談の視点を持った（生徒たちへの）働きかけについて考える） ③グループディスカッション ④Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第9回	実践事例から学ぶ教育相談の在り方①	①前日（第5回～第8回）の復習 ②講義（全国各地の実践事例の紹介①） ③グループディスカッション
第10回	実践事例から学ぶ教育相談の在り方②	①第9回の復習 ②講義（全国各地の実践事例の紹介②） ③グループディスカッション
第11回	連携して進める教育相談の在り方	①第10回の復習 ②講義（教職員や保護者と連携するために必要な視点を理解する。具体的な連携の在り方について考える） ③グループディスカッション
第12回	個別支援計画について考える	①第11回の復習 ②講義（個別支援計画の必要性について理解する。計画の立案方法、留意点について考える） ③小試験（Quiz&本日の振り返り含）（要提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。次回のテーマに向けて、必ず、事前に各自まとめてくること。

【テキスト（教科書）】

・「研修で使える生徒指導事例50」藤平 敦 学事出版 978-4761922917
→ 毎回のQuiz（事例検討）で使用する。
・講義でのパワーポイントの資料は毎回、配布する。

【参考書】

『生徒指導提要』文部科学省 令和4年12月
https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf
*デジタル版のみ

【成績評価の方法と基準】

・授業内容に関する記述式小試験 40%（最終日に実施）
・毎回のQuiz 30%（10×3日間）
・毎回授業の振り返り 30%（10×3日間）

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義では、全国の学校現場のスライド等を用いて、受講者の学生が視覚的にイメージを持ちやすいように工夫をしていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Educational consultation is not something that should be conducted only by those in charge of students with problems, on a one-on-one basis in a separate room, but should be conducted by all teachers and staff for all students, taking advantage of every opportunity in their educational activities. In this class, the main objective is for students to understand the significance of educational consultation and the nature of support, while learning the viewpoints necessary for classroom and class building, using various practical examples mainly in the classroom as a field of study.

LAW100TA (法学 / law 100)
法学(日本国憲法)(後期メディア)
金子 匡良
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法を支える基本原理やその歴史的背景を理解するとともに、個別的な憲法条文に関する解釈や判例を学ぶことを通じて、憲法学的な視点と思考方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①憲法の機能や役割を理解する。
- ②憲法の意味や歴史、憲法の土台となっている基本原理、および憲法の構造を理解する。
- ③憲法問題を考える際の基本的な視座や、憲法解釈の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンライン形式で実施する。まず、憲法の歴史や変遷、憲法を支える基本原理について学んだ上で、人権や国家機構にかかわる個別的な論点について論じていく。受講者の多様性を考慮し、基本的な法律用語の解説にも時間を割く予定である。質問があった際は、適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけや機能、あるいは憲法の目的について学ぶ。
第2回	憲法の歴史①	近代憲法の成立過程について学ぶ。
第3回	憲法の歴史②	近代憲法の現代の変容について学ぶ。
第4回	日本憲法史	明治憲法の成立と運用、および日本国憲法の成立過程とその問題点について学ぶ。
第5回	人権の種類	人権の種類と各人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第6回	平等権	平等権の内容やそれに関する主要な判例、および今日的な問題点について学ぶ。
第7回	思想・良心の自由、 信教の自由、政教分離原則	思想・良心の自由、信教の自由、および政教分離原則の内容やそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。
第8回	表現の自由①	表現の自由の意義や内容、およびそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。
第9回	表現の自由②	表現の自由の限界、およびそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。
第10回	社会権	社会権の意義や内容、およびそれに関する主要な判例、今日的な問題点について学ぶ。

第11回	権力分立制	権力分立制の意義と目的、および日本の権力分立制の特色と問題点について学ぶ。
第12回	司法権と違憲審査制	司法権の範囲と限界、および違憲審査制の意義や種類について学ぶ。
第13回	司法権の独立	司法権の独立の意義と目的、および日本における司法権の独立をめぐる問題点について学ぶ。
第14回	憲法改正	憲法改正の意義と種類、および憲法改正をめぐる問題点について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前及び授業後に資料をよく読み、問題点を明らかにしておくこと。また、スクーリング開始前に、憲法の条文にひととおり目を通しておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、資料に基づいて授業を行う。

【参考書】

初歩的なものとして、君塚正臣（編）『高校から大学への憲法〔第2版〕』（法律文化社、2016年）、入門的なものとして、毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）、標準的なものとして、芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）、発展的なものとして、宍戸常寿ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）などがお勧めの参考書である。

【成績評価の方法と基準】

スクーリングの中間に行う中間試験と期末に行う期末試験によって成績評価を行う。（それぞれ50%）

【学生の意見等からの気づき】

新規科目につきアンケートを実施していない。

【Outline (in English)】

In this class, students will understand the basic principles underpinning the Constitution and its historical background, as well as study interpretations and case law on individual constitutional articles.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on midterm examination (50%) and term-end examination (50%).

ECN100TA（経済学 / Economics 100）
経済学(資本と利子から経済を考える)(後期メディア)
水野 和夫
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基本を学ぶことで、現在世界的に問題となっている格差、先進国経済の長期停滞、および日本のデフレの原因などを説明することができ、さらに、どうすれば解決の方向に向かうことができるかを学ぶことができる。

後半では、経済学が根底にもっている考え方を学ぶことができる。

【到達目標】

アベノミクスの成否、バイデン大統領が今後とるであろう対中政策、EUは維持されるのか解体されるのか、21世紀の抱える課題について、みずから判断できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

メディアスクーリング上で講義形式で進める。
 中間課題に対しては、システム上で採点を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	経済学の基本概念・・・資本について①	資本とはなにか、①現在の主流の考え方（フィッシャーの資本概念）、②マルクスの資本概念、③両者の違いについて
第2回	経済学の基本概念・・・資本について②	ケインズの資本概念と「利子生活者の安楽死」について
第3回	経済学の基本概念・・・ストックとフローについて	GDPとは、ストックである資本とフローである所得（GDP）の関係
第4回	経済学の基本概念・・・利子率について	フィッシャー方程式、名目利子率=実質利子率+期待インフレ率
第5回	日本とドイツの10年国債利回りゼロの原因	利子率ゼロはなにを意味しているのか、17世紀初頭のイタリア・ジェノバの「利子率革命」と現在の日独の比較
第6回	資本と利子率の関係について	資本係数とは、資本の過剰と利子率ゼロの関係について
第7回	グローバリゼーションと新自由主義について	グローバリゼーションが1980年以降、台頭してきた背景、金融化現象について
第8回	グローバリゼーションがもたらした結果について	格差の拡大の現状、中間層の没落の背景など
第9回	グローバリゼーション論争について	グローバリゼーションは近代の現象か否か、グローバリゼーションは近代システムを崩壊させるのか

第10回	グローバリゼーションの現状と米国保護主義台頭の背景	米国中産階級の現状
第11回	13世紀の資本論	中世ヨーロッパで「利子」が公認された背景
第12回	近代の始まりにおけるイギリスの資本主義について	東インド会社、南海会社、イングランド銀行、「海賊資本主義」、「陸と海のたたかい」
第13回	18世紀後半以降の産業革命とは	経済成長におけるエネルギーの重要性
第14回	21世紀の社会はどうなるのか	IoT、ビッグデータ、AIなどの技術革新と経済政策
第15回	まとめ	第1回から14回までの講義のなかで説明が不十分だった箇所や、全体を通じて重要なことを再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントで作成した資料を事前に読むことで、授業の内容が理解できる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書、2014）
 『閉じてゆく帝国と逆説の21世紀経済』（水野和夫、集英社新書、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（30%）と期末のメディアスクーリング試験（70%）の合計。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the Principles of Micro Economics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.

Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics? There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

POL100TA（政治学 / Politics 100）
政治学概論(I)(後期メディア)
及川 智洋
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的な概念と分析の手法、政治制度についての講義を行う。

【到達目標】

政治学と政治制度に関する基本的な知識を習得し、政治学的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義をメディア教材を通じて行う。履修生は授業ごとにその回の内容に関する選択式の小問題に答え、自動採点システムで回答を確認のうえで次の回に進む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	なぜ「政治」は嫌われる	政治とは何か・政治学の目的
2	公権力と支配	「権力」と公権力の違い、支配のシステム
3	代表と議会	代表制と議会の形成はどのように進んだか
4	立憲制度	憲法の役割とは何か、三権分立の意味
5	選挙と政党	政党の形成と選挙権の拡大
6	市場・共同体・政府	それぞれの機能の違い、政治の役割
7	非「自由民主主義」体制	選挙と議会さえあれば民主主義、とは言えない
8	民主主義の弱点	民主主義の不完全さ 多数決は結果の正しさを保証するものではない
9	世論とメディア	「世論」は選挙以外でどう政治に反映されるか
10	政治参加と多元社会	中間団体の機能と政治への影響
11	政策と政権交代	議院内閣制と大統領制 政策と官僚
12	保守とリベラル	右と左の政党・政治勢力
13	政治不信とポピュリズム	政治的な「二極化」と増える無関心層、「大衆迎合政治」
14	政治と政治学の未来	論点整理と政治的思考力の意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017年、2200円（税込）。

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013年、836円（税込）。

『今を生きるための政治学』山口二郎 岩波書店、2013年、2100円（税別）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020年、1034円（税込）。

【成績評価の方法と基準】

論述式の期末試験によって成績を決める。授業の理解度と思考力を評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、理論や概念に加えて現実の政治的な課題を例示して分析する。

【学生が準備すべき機器他】

放送授業にアクセスできるパソコンなどの機器。

【Outline (in English)】

You will study about basic concept and method of analysis and system of politics by lecture.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S(1)(後期メディア)
今井 澄子
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習の基礎となる英文読解力を「仕事」「動物」「音楽」「外国」という4つのトピックに関連する英文を読みながら養成し、あわせて読解に必要な英文法・構文、基本的語彙の知識を確実にする。

【到達目標】

基本的な英文法・構文の知識をもとにして、平易な語彙で書かれた230語程度の英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

第1講で英文読解の基本となる文要素と文型について講義する。第2～4講ではテキスト各ユニットにある文法項目すべての解説を行う。第5講からは英文読解に入り、各講につき2ユニットずつ（英文 passage 2つずつ）を読み、内容に関する問題の解答・解説を行う。各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	文要素と文型	文要素 SVOC 5文型
第2回	時制と進行形・完了形	Unit1～7の Grammar 現在形、現在進行形、過去形、未来形、現在完了形 1・2・3
第3回	受動態と助動詞・準動詞 1（不定詞）	Unit8～15の Grammar 受動態、助動詞 1・2・3、不定詞 1・2・3・4
第4回	準動詞 2（動名詞・分詞）と分詞構文	Unit16～20の Grammar 動名詞 1・2、分詞、分詞構文 1・2
第5回	英文読解	Unit1 The Dog Walker Unit2 An Interview with a Paramedic
第6回	英文読解	Unit3 The Video Game Tester Unit4 The Trainee Chef
第7回	英文読解	Unit5 Working on an Oil Platform Unit6 The Hippopotamus
第8回	英文読解	Unit7 Amazing Travelers Unit8 The Animals of the Camargue
第9回	英文読解	Unit9 Just a Piece of Seaweed? The Leafy Sea Dragon Unit10 Racing Across Snow and Ice
第10回	英文読解	Unit11 Learning a Musical Instrument Unit12 How to Make a Glass Orchestra

第11回	英文読解	Unit13 Rock School Unit14 An Ancient Musical Instrument
第12回	英文読解	Unit15 Music Therapy Unit16 On Vacation in Guatemala
第13回	英文読解	Unit17 The Maldives Unit18 The Maori
第14回	英文読解	Unit19 Russia Unit20 Monaco

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第4講までの文法項目は、あらかじめ教科書の該当 Unit にある Grammar 問題を解いておく（ただし第1講は教科書に該当箇所なし）。第5講からの英文読解は、辞書を使って英文を精読し、Understanding the main ideas と Reading for detail 問題を解いておく（とよい）。なお、テキスト音声のダウンロード/ストリーミングが可能だが、音声なしでも授業には支障がない。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「Break Away 1（最新速読演習・基礎編）」成美堂

【参考書】

各種英和辞書。英文法などの参考書。

【成績評価の方法と基準】

評価は中間テスト、および、期末試験（いずれも100点満点）の得点の平均を算出し、60%以上の得点、すなわち、平均点が100点満点中の60点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度の期末試験を提出する際、指定された方法と違うもので答案を作成した受講生が数名いた。答案の印刷事務処理作業に支障が出たため、必ず所定の提出方法を守っていただきたい。
- ・単位取得のためには中間テストと期末試験の両方とも提出し、成績評価の方法と基準にある合格点を取る必要がある。
- ・メディア内部の例文、小テスト等の問題文・和訳は、一部例外はあるものの基本的にテキストおよびテキスト付属のものを使用している。このため、小テストや試験問題に関する質問、メディア内部、中間テストや期末試験に対する変更要求は受け付けていない。また、諸般の事情により質問には回答しかねる場合もある。

【Outline (in English)】

This class deals with reading an English passage. At the end of the course, students are expected to have sufficient knowledge of grammars and sentence constructions as well as basic lexicon. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (50%), and term-end examination (50%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S(2)(後期メディア)
石原 紀子
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ことばと文化は切り離せない」とよく言われます。確かに皆さんも日本語の使い方、たとえば敬語などに日本の文化や価値観が表われていると感じることがあるかもしれません。では英語はどうでしょうか。この授業では、英語の待遇表現を中心に、英語圏の文化がどのように反映しているのかを皆さんと一緒に解析していきます。一方で、英語は国際語として世界の様々な文化を表象する言語ともなってきました。世界の英語や、その他の言語の慣習も時おり垣間見ること、言語文化の多様性を味わってみましょう。

【到達目標】

英語の待遇表現について学ぶことで、状況に応じたことばの社会的意味を理解し、その文化背景や社会通念を理解したり説明したりできるようになっていきます。また、多文化間コミュニケーションの際に文化的な違いから生じる得る相互の誤解について認識を深め、衝突を解消することばの使い方や言動を考えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は日本語と英語の両方を使い、スライドに沿って講義形式で進めつつ、皆さんに考えてもらう問いを立て、参加していただきます。指示に従って、講義を一時停止して考え回答を書き留めたり、サンプルの会話を何度も聞いたり、辞書を使ったり、毎回の講義で学んだことを省察したりして自分のペースで学習しましょう。毎回の講義の後には小テストがあります。提出直後に採点されますので、その場で復習できます。このテストは復習として何度でも受けられます。

中間テストは学習システム上で行う確認テストです。結果を受け取り、全体講評の解説を読んで復習しましょう。

期末のリポート試験の前には、ディスカッション機能を使って、他の受講者の方とことばや文化について話し合い、理解や気づきを深めましょう。その結果を期末のリポート試験に採り入れて考察してください。個別フィードバック、全体講評、サンプル解答の掲示のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入 Introduction	ことばと文化、ことばとコンテキスト、英語の待遇表現
2	挨拶 Greetings	挨拶のことばとコンテキスト
3	呼称 Address terms - 1	人の呼び方とポライトネス
4	呼称 Address terms - 2	様々な呼称とその社会的文化的意味
5	ほめことば compliments - 1	ほめことばから見る文化と社会
6	ほめことば compliments - 2	ほめことばへのこたえから見る文化と社会

7	コミュニケーション方略 Communication strategies	英語コミュニケーションにおける誤解、その原因、解決に向けた方略
8	忠告 Advice-giving - 1	忠告からみる社会と文化
9	忠告 Advice-giving - 2	忠告のことば遣いとコンテキスト
10	依頼 Requests - 1	依頼から見る社会と文化
11	依頼 Requests - 2	依頼のことば遣いとコンテキスト
12	断り Refusals - 1	断りからみる社会と文化
13	断り Refusals - 2	断りのことば遣いとコンテキスト
14	皮肉・ユーモア irony/humor	英語圏の皮肉・ユーモア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語表現が難しいと感じる場合には、こまめに講義ビデオを停止し、辞書などを使って自主的に内容理解に努めましょう。そして講義内の解説を参考に、会話例の音声・動画を何度も視聴して考察を深めましょう。和訳が提示されることもありますので参考にしてください。内容が易しいと感じる場合には、音声や動画の英語をシャドーイング練習して紹介される待遇表現を流暢に発話できるようになりましょう。

授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。

本授業の準備・復習時間は、計2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にありませんが、辞書を使って復習してください。英語に自信のある方、特に英語力をつけたい方は英英辞典を使ってみましょう。また多文化や英語の待遇表現に興味のある方は以下の参考書をご利用ください。

【参考書】

愛場吉子、アーサー・ウィン (2015). 『相手を必ず味方につける英会話のロジック』アルク

デイビッド・セイン、佐藤淳子 (2018). 『礼儀正しく、的確に伝える敬語の英語』Japan Times

石原紀子、アンドリュー・D・コーエン (2015) 『多文化理解の語学教育 語用論的指導への招待』研究社

【成績評価の方法と基準】

中間テスト (40%)、リポート試験 (60%) を合算して評価します。学期の後半にはディスカッション機能を使って課題を他の受講者の方と話し合う課題があります。ディスカッション自体は評価されませんが、そこから学んだ視座を、リポート試験の指示に従って明確に組み入れてリポート作成してください。

また、中間テストとリポート試験の両方を必ず受験してください。どちらかでは単位取得に至りませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目ですので、来年度より記載します。

【その他の重要事項】

ひとりでメディアスクーリングを受講してコツコツ学習するのは大変ですし、仲間の受講者から学ぶことも多いはずですので、後半にはディスカッション機能を使った交流を採り入れました。お互いへの見解からともに学ぶ楽しさをぜひ体験してみてください。毎回の講義に何か発見があり、皆さんの人間関係を豊かにするものであることを願っています。一緒に英語圏の文化や、世界の言語文化を味わってみましょう！

【Outline (in English)】

This course looks into linguistic politeness especially of English (or Lingua Franca Englishes) to explore how language use is related to its deep culture. By focusing on both language and context, students will develop an awareness of how context influences language choice and how language in turn helps shape the context. Students will thus be able to understand the social meaning of linguistic politeness in context and explain why certain expressions are often socially preferred in the given culture. Students will also observe and analyze potential causes of intercultural misunderstandings and possible ways to resolve language-related conflicts.

During the course, students are asked to participate in activities by listening to audios or videos multiple times and answering discussion questions on their own. Doing so will prepare them for the mid-term exam conducted online. The outcome of the mid-term exam counts toward 40% of the final grade.

In the latter half of the course, students are invited to communicate with their peers through a discussion function to exchange their observations of linguistic politeness and relevant cultural practice. Such observations should be incorporated into the final paper, in which students are to reflect on the peer discussions and analyses. The final paper will comprise 60% of the course grade.

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）
仏語S(後期メディア)
近江屋 志穂
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初修者を対象とした入門クラスです。初級文法の前半部分を学習します。

【到達目標】

・フランス語の初級文法を理解し、フランス語を正しく発音できるようになることを目指します。実用フランス語技能検定試験（仏検）5級～4級レベル到達を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

・文法項目を説明した後、練習問題を解き、その解説を行います。
 ・理解度確認のため、毎回通教LMS上で選択式の小テストを行います。
 ・資料や課題の配信/回収、課題や試験へのフィードバックは、通教LMSを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Leçon 0	・フランス語の綴り字の発音
第2回	Leçon 1	・名詞の性と数 ・定冠詞／不定冠詞／部分冠詞
第3回	Leçon 1	・主語人称代名詞 ・動詞 être と avoir
第4回	Leçon 2	・er動詞の現在形 ・否定文と疑問文
第5回	Leçon 3	・ir動詞の現在形 ・命令法
第6回	Leçon 3	・動詞 partir ・疑問副詞
第7回	Leçon 4	・動詞 faire と prendre ・否定文における冠詞の変化
第8回	Leçon 4	・人称代名詞の強勢形 ・指示形容詞
第9回	Leçon 5	・形容詞の位置と性・数 ・所有形容詞
第10回	Leçon 6	・動詞 aller と venir の現在形 ・近接未来／近接過去
第11回	Leçon 6	・定冠詞の縮約
第12回	Leçon 7	・比較級 ・最上級 ・疑問形容詞
第13回	Leçon 7	・動詞 vouloir, pouvoir, devoir
	Leçon 8	・非人称構文
第14回	Leçon 8	・補語人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・自分の発音が正しいかどうか自信がなくても、繰り返し発音練習を行って下さい。
 ・早く上達したい方は必ず授業の復習を行って下さい。
 ・本授業の準備/復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近江屋志穂・竹本研史著 ≪ Apprenons les bases du français 文法と文化で学ぶ基礎フランス語 ≫ 朝日出版社, 2023年 (税込2530円)

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社（2008年）

*説明が詳しく、自習向きの参考書です。

【成績評価の方法と基準】

音読録音ファイル提出30%、メディアスクーリング試験70%を目安とします。

*音読録音ファイル提出に関しては、下記「その他の重要事項」をご覧ください。

【学生の意見等からの気づき】

期末試験では記述式問題だけでなく選択式問題も出題するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書をお持ちになることをおすすめします。

【その他の重要事項】

中間リポート/中間テストにかえて、音読録音ファイルを通教LMS上に提出していただきます。教科書の指定した箇所を音読・録音し、ファイルに変換し、ファイルを提出していただくということです。一番簡単な方法は、たとえばWindows10であれば、標準装着されている「ボイスレコーダー」機能（スタートボタンから選択することができます）を使うことです。授業が開講しましたら、詳細をご説明します。やり方が分からない場合は個別に対応します。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100） 健康・スポーツ科学概論(スポーツコーチングの基礎)(後期メディア)
荒井 弘和
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは、体育・スポーツのコーチが求められる資質能力を習得することです。

【到達目標】

わが国のスポーツ界では、体罰などのハラスメントが長く横行していたと言われます。2012年に大阪の市立高校において、バスケットボール部の顧問教諭の体罰によって、バスケットボール部員が自死した事件に端を発し、文部科学省に「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議」が設置されました。その後2016年に、日本スポーツ協会（当時は日本体育協会）は、コーチに求められる資質能力を確実に習得するために必要な内容として「モデル・コア・カリキュラム」を提示しました。

この授業では、このモデル・コア・カリキュラムに基づいて作成されたテキスト「グッドコーチになるためのココロエ」（培風館）を元に行います。テキストの「第1章 コーチングの理念・哲学」「第2章 対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション」「第3章 トレーニングのミニマム」「第4章 アスリートの健康」「第5章 現場のマネジメント」「アクティブ・ラーニング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、日本スポーツ協会のモデル・コア・カリキュラムに基づいて作成されたテキスト「グッドコーチになるためのココロエ」（培風館）を元に行います。モデル・コア・カリキュラムは、大きく「人間力」に関する部分と「知識技能」に関する部分に分けられます。「人間力」は、「思考・判断」（コーチングの理念・哲学）と「態度・行動」（対自分力と対他者力）から構成され、「知識技能」は「トレーニング科学」（トレーニングのミニマム）、「スポーツ医・科学」（アスリートの健康）、「現場における理解と対応」（現場のマネジメント）から構成されます。

以上の内容を習得することによって、現代社会においてコーチが果たす役割を具体的に考え、適切なコーチングを実践できるようになることを目指します。

この授業は、コーチングに関心のない学生にも履修を勧めます。コーチが身につけるべき資質能力は、仕事や日常生活にも役立つためです。なお、小テストに対する自動採点の結果をもって、受講生へのフィードバックに代えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／第1章 コーチングの理念・哲学	「はじめに・あとがき」「1-1 日本のコーチングの今」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
2	第1章 コーチングの理念・哲学	「1-2 多様なコーチング文脈」「1-3 コーチに求められるもの」「1-4 コーチの学び」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。

3	第2章 対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-1 コーチのセルフコントロール」（前半）を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
4	第2章 対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-1 コーチのセルフコントロール」（後半）を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
5	第2章 対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-2 コーチのコミュニケーション」（前半）を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
6	第2章 対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-2 コーチのコミュニケーション」（後半）を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
7	第2章 対自分力と対他者力：セルフコントロールとコミュニケーション	「2-3 コーチングとリーダーシップ」「2-4 多様な思考法に基づくコーチング」「2-5 運動部員の進路・キャリアデザイン」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
8	第3章 トレーニングのミニマム	「3-1 スポーツトレーニングの基本的な考え方」「3-2 体力トレーニング」「3-3 技術トレーニング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
9	第3章 トレーニングのミニマム	「3-4 メンタルトレーニング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
10	第4章 アスリートの健康	「4-1 食事と栄養、サプリメント」「4-2 アスリートの休養・睡眠」「4-3 アンチ・ドーピング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
11	第5章 現場のマネジメント	「5-1 発育発達に合わせたコーチング」「5-2 女性アスリートのコーチング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
12	第5章 現場のマネジメント	「5-3 障害のある人のコーチング」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
13	第5章 現場のマネジメント	「5-4 コーチングにおけるリスクマネジメント（体罰・ハラスメント）」「5-5 運動部活動の外部指導者を探す・活用する」「5-6 運動部活動顧問の役割と負担」を理解し、コーチングの実践に活用できるようになる。
14	まとめ	これまでの授業内容を復習し、コーチングの実践で確実に活用できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平野裕一・土屋裕睦・荒井弘和（編）「グッドコーチになるためのココロエ」培風館

【参考書】

日本スポーツ協会（編）「リファレンスブック」日本スポーツ協会
PHP研究所（編）「実践！グッドコーチング」PHP研究所
PHP研究所（編）「実践！グッドコーチング ジュニア指導編」PHP研究所
荒井弘和（編著）「アスリートのメンタルは強いのか？—スポーツ心理学の最先端から考える—」晶文社

【成績評価の方法と基準】

授業の到達目標と対応した期末試験（レポート試験）で100%評価します。中間課題（中間レポート）は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・「とても知りたい分野でしたので、受けて良かったです」
→スポーツ指導に関わっている方々から、同様のコメントをいただいております。ありがたいことです。
- ・「先生の熱意が伝わってくる分かりやすい授業だった。レジュメも詳細に作られていた。事例も豊富にあげてくださっていた。他の資料も豊富に使われていた。『クロスロード』もとても興味を持てる内容だった。『柔』の熱唱も素晴らしかった。次はリアル講義で受講したいです」
→熱意には絶対の自信を持って授業を担当しましたので、素直に嬉しく思います。次はリアル講義でお会いしましょう。
- ・「緊張されてようで、時々『囁んで』いるときがあった。下を向いてテキストに目を落とし続けているように思える場面がしばしばあった」これはおっしゃるとおりです。滑舌の悪さは自分でも痛感しましたので、あれから努力を重ねました。今は大幅に改善しています。次の機会を楽しみにしてください。
- ・「スポーツという枠組みを超えたマネジメント、人材育成と言った視点はビジネスマンにとってもプラスになる内容であったと思います。その中でも私たちが良く知っているスポーツ選手の引用などで興味を持つことが出来ました」
→嬉しい感想です。皆さんのビジネス場面でのご経験を教えていただき、それをスポーツ場面に活かす機会があれば願っています。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【Outline (in English)】

(Course outline) The theme of the class is to acquire the qualities and abilities required of physical education and sports coaches. (Learning Objectives) This class is based on the textbook "Kokoroe for Becoming a Good Coach" (Baifukan), based on this model core curriculum. The students will be able to understand and utilize the following sections of the text: 'Chapter 1: Coaching Philosophy', 'Chapter 2: Competence for Oneself or Others: Self-Control and Communication', 'Chapter 3: Training Minimums', 'Chapter 4: Athlete Health', 'Chapter 5: On-Site Management' and 'Active Learning,' and use them in their coaching practice. (Learning activities outside of the classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) The final exam (report exam), which corresponds to the course objectives, will assess 100%. There will be no mid-term assignment (mid-term report).

BSP100TB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
総合特講(東南アジア現代史)(後期メディア)
佐々木 研
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「東南アジア現代史」では、ミャンマーを事例として、①現代世界における諸問題を理解するため、②国際社会のしくみと近現代史を整理した上で、③諸問題が発生してきた背景について検討してゆきます。その過程で複合的に世界を捉えることが出来るようになることを目指します。

【到達目標】

通信手段の発達によりインターネット等を介した日本を含めた国際社会の動向に関する情報の収集が以前より格段に迅速、容易になってきています。国際社会の動向について自ら情報を収集しながら分析するためには、マス・メディアやソーシャル・メディアなどから得られる情報の中から、歴史的な背景や地域特有の事情を理解した上で有用なものを選択する力をつけることが必要となります。講義で扱う現在進行中の諸問題について、それに関連する歴史的な背景とを結びつけてこれらの因果関係を説明できるようになること目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。講義内容に対する質問、レポートに対するフィードバック等は通教LMSを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：現代のミャンマー情勢	授業の概要と予定について説明する。また、ケーススタディーとして扱うミャンマーの情勢について、2011年の民政移管以降における少数民族武装勢力との和平プロセス、ラカイン州における難民発生、クーデターによる軍政への逆行等について概観する
第2回	国連と集団安全保障	国連は、第二次世界大戦後に集団安全保障体制によって世界平和を維持することを目的に設立されたが、冷戦によって間もなくその機能が制約を受けることになった。この推移について振り返ることとする
第3回	国際社会による介入	国際社会の秩序を維持するうえでは内政不干渉が原則であるが、内戦では深刻で悲惨な人権侵害が生起することがある。内戦下で悲惨な状況に置かれている市民を保護するための介入は正当化されるのか、どのような場合に正当化されるのかといった議論について取り上げる。

第4回	植民地時代の終焉	現在のミャンマーにおける諸問題の背景を検討していくための準備として、植民地時代から第二次世界大戦を経て独立に至るまでの推移を概観する。
第5回	和平プロセスの推移①	ミャンマーでは独立前後から国軍と武装勢力による戦闘が断続的に継続されてきた。他方で、政府と武装勢力の間で停戦に向けた交渉も続けられてきた。主に軍政期における停戦交渉について取り上げる。
第6回	和平プロセスの推移②	民政移管以降、全国規模停戦合意という新たな枠組みによる停戦交渉が開始されている。この新たな枠組みを軸にした和平プロセスの進展について取り上げる。
第7回	少数民族武装勢力の動向①	ミャンマーで最古の少数民族武装勢力であるカレン民族同盟は、2012年に入ってようやく政府との停戦合意に至った。反政府勢力として活動してきたカレン民族同盟やそこから派生した勢力の推移について見ていく。
第8回	少数民族武装勢力の動向②	第5回に引き続き、カレン（カイン）民族の武装勢力の推移と、最近の動向について見ていく。
第9回	ミャンマーの内戦と周辺国①	ミャンマーの内戦には、部分的とはいえ周辺国の政変や冷戦期における東西両陣営のイデオロギー対立が反映されてきた。まずは、中国との国境域に焦点を当て、内戦に対する周辺国などの関与について見ていく。
第10回	ミャンマーの内戦と周辺国②	前回に引き続き、ミャンマーの内戦に対する周辺国などの関与について見ていく。この回ではタイとの国境域に焦点を当て、難民の状況も含めながら見ていく。
第11回	ラカイン州における諸問題	ミャンマー西部のラカイン州では、ムスリム系住民を巡る国籍、コミュニティ衝突、出稼ぎに関連した人身売買、武装蜂起、難民流出といった様々な問題が山積している。これら諸問題について概観する。
第12回	ラカイン州における難民流出	2017年、ムスリム系武装勢力による武装蜂起とこれに対する治安部隊による掃討作戦により、大量の難民が隣国のバングラデシュに流出した。この事案の推移について見ていく。
第13回	難民流出を巡る国際社会の反応	大量の難民流出によって、ミャンマーは国際社会から厳しい非難を浴びることになった。国際社会とミャンマーの応酬について見ていくことにする。
第14回	まとめ：グローバル化した現代世界の問題	ここまでの講義内容を総括しつつ、全体に通じるテーマについて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国際社会のしくみとミャンマー情勢について、下記、参考文献を予習と復習に役立ててください。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。講義の中で関係する文献・書籍を紹介するので、関心に応じて読み進めてください。

【参考書】

ジョセフ・S.ナイ『国際紛争：理論と歴史』（第10版）有斐閣、2017年。
防衛大学安全保障研究会『安全保障学入門』（第5版）亜紀書房、2018年。

根本敬『物語 ビルマの歴史：王朝時代から現代まで』中公新書、2014年。

宇田有三『ロヒンギャ 差別の深層』高文研、2020年。

中西嘉宏『ロヒンギャ危機：「民族浄化」の真相』中公新書、2021年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, the current situation in Myanmar(Burma) is treated as a case study. The purpose of this course is to be able to understand situations of the world from multiple point of views. Grade will be counted by the final report.

LAW100TB (法学 / law 100) 民法総則(民法典全体に共通するルール)(後期メディア)
明石 真昭
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則は、主として物権法、債権法に共通するルールを定めていますが、これにとどまらず、私法における共通のルールを定めています。この講義では、民法総則における基礎的な知識について、判例や学説の動向などを理解しながら修得することを目的とします。

【到達目標】

- ①民法総則の基礎的な知識を身に付ける。
- ②具体的な事例について、判例・学説を踏まえて自分の考えを論理的に展開する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、スライドを使用しながら講義形式で進めていきます。初学者にも理解しやすいように、基本的な用語についてはきちんと説明し、可能な限り事例を多く用いて内容をイメージしやすい講義となるよう努めるつもりです。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。なお、フィードバックは通教LMS上で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	民法の全体像を説明し、民法の意義・基本原理
第2回	権利の主体①：自然人の権利能力	自然人の権利能力について説明します。
第3回	権利の主体②：行為能力	自然人の行為能力について説明します。
第4回	権利の主体③：法人	法人の意義、種類等について説明します。
第5回	権利の客体（物）、法律行為、意思表示①：心裡留保	「物」の種類、心裡留保について説明します。
第6回	意思表示②：通謀虚偽表示	通謀虚偽表示について説明します。
第7回	意思表示③：錯誤、詐欺①	錯誤、詐欺について説明します。
第8回	意思表示④：詐欺②・強迫、意思表示の到達	詐欺、強迫、意思表示の到達について説明します。
第9回	代理①：代理の基礎	代理の基本事項について説明します。
第10回	代理②：代理行為、無権代理	代理行為、無権代理、無権代理の場合の法律関係について説明します。
第11回	代理③：無権代理と相続、表見代理	無権代理と相続、表見代理について説明します。

第12回	無効、取消、条件、期限	無効・取消し、条件・期限について説明します。
第13回	時効①：取得時効と消滅時効	取得時効と消滅時効について説明します。
第14回	時効②：時効の援用、完成猶予・更新	時効の援用、完成猶予・更新の制度について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。六法（『ポケット六法（有斐閣）』等、コンパクトなもので良い）を参照しながら受講してください。
※2020年4月より改正民法が施行されました。新しい六法を使用してください。

【参考書】

民法判例百選Ⅰ 総則・物権（第9版）有斐閣
 法律学小辞典（第5版）有斐閣
 ※2020年4月より改正民法が施行されました。参考書類は新しいものを選ぶようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

提出されたレポート課題で評価致します。

【学生の意見等からの気づき】

全くの初学者を念頭に置いて講義をする予定です。できるだけ平易な言葉遣いを心掛け、難しい用語も可能な限りその場で説明しながら進めていきたいと思ひます。

【Outline (in English)】

This course introduces the general provisions of the Civil Code. For example, Capacity to Act, Juridical Act, Agency, and so on. The aim of this course is to help students obtain basic knowledge about the general provisions of the Civil Code.

LAW300TB（法学 / law 300）
商法総則・商行為法(Ⅱ)(後期メディア)
桜沢 隆哉
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の基礎的理解

【到達目標】

この講義は、全14回の講義で商取引法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引(企業活動)を理解することにより、会社法等の企業関係法への理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では商法の中で、第一編総則(商法1条～31条)および第二編商行為(商法501条～617条)を中心に、その他関連する法令や実務などについてもできる限り言及し、商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。

なお、中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	第1章：商行為総則 (1) 一商行為の特則	商行為の営利性、契約の成立、債務者の連帯等について
第2回	第2章：商行為総則 (2) 一商行為の特則	債権担保、有価証券に関する特則について
第3回	第3章：商事売買	国内商事売買と国際商事売買について
第4回	第4章：消費者取引 (1)	消費者取引の全体像と消費者契約法について
第5回	第5章：消費者取引 (2)	割賦販売法と特定商取引法について
第6回	第6章：交互計算とその他の決済手段	企業取引の決済手段、交互計算、その他の決済手段（ネットینگ等）について
第7回	第7章：匿名組合	匿名組合、その発展的な仕組みとしての資産流動化、ファイナンスリースについて
第8回	第8章：仲立営業	仲立営業と仲立人、仲立人の権利義務について
第9回	第9章：問屋営業	他の仲介営業との比較、問屋の内部関係と外部関係について

第10回	第10章：運送営業 (1)	運送契約と商法・海商法との関係、物品運送（当事者の権利義務、運送人の責任）について
第11回	第11章：運送営業 (2)	相次運送・複合運送、運送書類、運送取扱人、旅客運送について
第12回	第12章：倉庫営業	倉庫寄託契約、倉荷証券について
第13回	第13章：場屋営業	場屋営業と場屋営業者の責任について
第14回	第14章：保険取引	損害保険契約、生命保険契約、傷害疾病保険契約について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。特に判例百選（参考書(6)の文献）は、実際の裁判例とその解説が書かれてありますので、講義中に出てきた知識と実際とをつなげる理解を得るために有益です。

【テキスト（教科書）】

大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法< 有斐閣アルマ>』（有斐閣、第3版、2019年）

【参考書】

- (1) 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法I総則・商行為< 有斐閣Sシリーズ>』（有斐閣、第6版、2019年）
- (2) 近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第9版、2023年）
- (3) 弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法』（有斐閣、第3版、2019年）
- (4) 北村雅史編『スタンダード商法I 商法総則・商行為法』（法律文化社、第2版、2022年）
- (5) 青竹正一『商法総則・商行為法』（信山社、第3版、2023年）
- (6) 神作裕之=藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト243号、有斐閣、2019年）

上記のテキスト(教科書)および参考書は、平成29年民法改正法・平成30年商法改正に対応しているものを挙げた。テキスト(教科書)は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、その内容を参考書(5)で重要判例を補う必要がある。(1)～(4)は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(1回/30%)およびメディアスクーリング試験(70%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】

Understanding Principal of Commercial Transaction Law

LAW300TB（法学 / law 300）
国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア)
岡松 暁子
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

主として国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際法の基本原理	国際法概念、近代国際法の特徴
第2回	法源	法源の意義、国際慣習法、条約、法の一般原則、学説・判例、衡平と善
第3回	条約法	条約の締結手続き、条約の留保、条約の効力、条約の無効、条約の終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家の要件、国家承認、政府承認、国家承継
第6回	国家・国家機関（2）	国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的展開
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性、国際組織の権能、国際連合
第10回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国家責任の発生要件
第11回	国家責任法（2）	違法性阻却事由
第12回	国家責任法（3）	国家責任の解除、国家責任の追及
第13回	国家領域（1）	国家領域
第14回	国家領域（2）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任、領域権原の取得原因、新国家の成立と承認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分をよく読んでから受講すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年
 岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第2版]』有斐閣、2011年

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（50%）、中間レポート課題（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、質問への対応につとめます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course introduces the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300TB（法学 / law 300）
行政救済法(後期メディア)
西田 幸介,氏家 裕順
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、行政救済に関する法を取り上げる。行政救済とは、行政作用によって不利益を受けこれを不服とする私人が、行政を相手に自己の権利や法的利益を主張して、その回復を求めるための制度をいう。これは、行政争訟と国家補償とに区別される。行政争訟は行政上の法律関係をめぐる争訟（ないしそのための制度）であり、行政事件訴訟や行政上の不服申立てを含む。国家補償とは行政作用を中心とする国家活動により損害または損失を受けた私人がそれに対する賠償または補償を求めるための制度の総称である。

各種の行政救済のうち、この授業では、行政事件訴訟について、その概略と解説したうえで、それが抱える現代的課題について検討する。行政事件訴訟は、行政上の法律関係について争いがある場合に利害関係者または法定の原告からの訴訟の提起に基づき裁判所が特殊な訴訟手続を通して争いを解決するものである。

この授業の受講者は、行政事件訴訟法を修得し、とりわけ取消訴訟の訴訟要件について具体的な事例に当てはめて検討することができるようにするとともに、具体的な紛争事例について、抗告訴訟・当事者訴訟・民事訴訟のいずれを提起すべきかを選択でき、またそこでどのような請求をなすべきかを判断できるようになることが期待される。

【到達目標】

- ①行政事件訴訟の各類型の概要を説明することができる。
- ②取消訴訟の訴訟要件について説明することができる。
- ③取消訴訟の判決について説明することができる。
- ④取消訴訟における仮の救済について説明することができる。
- ⑤具体的な紛争事例について、取消訴訟の提起が可能かどうか、および、仮の救済が認められるか否かを判定することができる。
- ⑥取消訴訟以外の抗告訴訟について、取消訴訟との差異を意識しながら、それぞれの訴訟要件、認容要件および仮の救済について説明することができる。
- ⑦当事者訴訟の類型と訴訟要件を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。
 中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	行政救済法の意義	行政法の体系と行政救済法 行政事件訴訟 行政上の不服申立て
第2回	行政事件訴訟の意義と類型（1）	抗告訴訟、当事者訴訟
第3回	行政事件訴訟の意義と類型（2）	民衆訴訟、機関訴訟

第4回	取消訴訟の概略	取消訴訟の意義 訴訟要件、認容要件 教示制度 取消訴訟の排他的管轄
第5回	取消訴訟の訴訟要件（1）	処分性（取消訴訟の対象）
第6回	取消訴訟の訴訟要件（2）	原告適格
第7回	取消訴訟の訴訟要件（3）	訴えの利益
第8回	取消訴訟の訴訟要件（4）	出訴期間 被告適格 審査請求前置 裁決主義 裁判管轄
第9回	取消訴訟における仮の救済	仮の救済の意義 仮処分の排除 執行停止制度
第10回	取消訴訟の判決	取消訴訟の終了原因 判決の類型 取消判決の効力 事情判決
第11回	無効等確認訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第12回	差止訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第13回	不作為の違法確認訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第14回	非申請型義務付け訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづいて学習する。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

フィードバックは通教LMS上で行う予定である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

- 稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）
- 宇賀克也『行政法概説Ⅱ [第7版]』（2021年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法Ⅱ行政救済法 [第6版]』（2019年、有斐閣）
- 芝池義一『行政救済法』（2022年、有斐閣）
- 原田尚彦『行政法要論 [全訂第7版補訂2版]』（2012年、学陽書房）
- 藤田宙靖『行政法総論（下）』（2020年、青林書院）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政救済法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

【学生の意見等からの気づき】

とくに改善を要すると思われる点は、学生の意見からは見出せなかったが、今後とも、授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course student learn the outline of Administrative Remedy Law. After taking this course, student will be able to:

- Explain the outline of the main Acts concerning administrative relief.
- Choose a legal means to obtain an appropriate solution for resolving administrative disputes.

- Understand the distinction between the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions and the Public Law-Related Actions and explain the suit requirements and judgments in these actions.
- Explain types of administrative appeals, its requirements, its ruling, and its difference with the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term report (40%) and term-end examination (60%).

LAW300TB（法学 / law 300）
保険法・海商法(Ⅱ)(後期メディア)
桜沢 隆哉
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険契約法と海上運送・海上企業に関する基本的知識の習得

【到達目標】

この講義は、全14回の講義で海上運送法（海商法）上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とします。海商法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に海商法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとすればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、海商法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、海上運送・海上企業組織に関する基本的知識の習得を目的とする。海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうち、保険法・海商法（Ⅰ）では保険法を扱い、保険法・海商法（Ⅱ）では「海商法」を扱う。本講義で扱う海商法は、船舶を手段とする海上企業・海上運送に関する法制度である。船舶は、物品の運送に関しては今日でもなお主要な地位を占めている。われわれの社会は、様々な物資によって支えられており、それは海上運送をはじめとする輸出入に依存しているところも少なくない。本講義では、海上企業の組織、その活動（海上物品運送）および海上危険について概説する。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の揭示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海商法の対象と沿革	海商法の対象、海商法の歴史と変化、海商法の意義・特異性、海商法の法源
第2回	船舶	船舶の意義・種類、船舶の国籍や公示手段
第3回	船舶運航主体とその補助者	船舶所有者・共有者、賃借人および定期傭船者
第4回	船舶所有者等の責任制限	船主責任制限制度
第5回	海上物品運送契約の意義および種類	海上物品運送契約の意義および法規整
第6回	船荷証券の意義及び発行	船荷証券の意義、船荷証券の発行と記載事項
第7回	船荷証券の効力	船荷証券の債権的効力、物権的効力、実務上の諸問題

第8回	海上物品運送契約の履行	運送品の船積み、航海および運送品の荷揚げ、運送品の引渡しなど
第9回	海上物品運送人の責任	運送人の責任原因、賠償額の定型化および高価品特則
第10回	海上物品運送人の責任制限と免責	運送人の責任制限、免責、免責約款など
第11回	海上旅客運送契約	海上旅客運送契約の意義および法規整、海上旅客運送人の責任
第12回	船舶衝突	船舶衝突の法規整、船舶衝突責任と損害の分担など
第13回	海難救助・共同海損	海難救助および共同海損の意義・性質と要件・効果など
第14回	船舶先取特権・船舶抵当権	船舶先取特権および船舶抵当権の意義、目的物など、船舶に対する強制執行等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。

判例・裁判例については、テキスト等に掲載されていないものや最新の判例も出されている。そのため、下記の参考書(5)・(6)など近年刊行されたもの等を参照して理解を深めていただきたい。また、本講義は、平成29年民法改正および平成30年改正への対応をしております。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

箱井崇史『基本講義現代海商法〔第4版〕』成文堂、2021年

【参考書】

<平成30年商法改正前のもの>

- (1) 鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第2版）』有斐閣、1993年
 - (2) 戸田修三『海商法〔第5版〕』文真堂、1995年
 - (3) 重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
 - (4) 中村真澄・箱井崇史『海商法〔第2版〕』成文堂、2013年
- <平成30年商法改正に対応するもの>
- (5) 神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選（別冊ジュリスト243号）』有斐閣、2019年
 - (6) 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集〔第8版〕』有斐閣、2020年
 - (7) 江頭憲治郎『商取引法〔第9版〕』弘文堂、2022年
 - (8) 岡田豊基『現代保険法・海商法』中央経済社、2020年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（1回/30%）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

【Outline (in English)】

Understanding Principal of Maritime & Aviation Law

SOC300TB（社会学 / Sociology 300）
労使関係論（I）（後期メディア）
細川 良
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係のことを指します。そして、諸外国と比べた場合、日本における労使関係は、企業を中心として形成されてきた点に大きな特徴があるとされてきました。もっとも、こうした日本独自の発展を遂げた労使関係システムは、それを支えてきたいわゆる「日本的雇用慣行」およびそれを取り巻く社会的・経済的環境が変化するに伴い、変化への対応が迫られています。本講義では、こうした労使関係の現在について考えるうえでの基本的な制度や仕組み、社会的背景について学ぶとともに、現在の労使関係が抱えている様々な課題について考えたいと思います。

【到達目標】

受講する学生において、労使関係、あるいは労働組合というものに対する知識や関心は様々であろうと考えられます。しかし、日本の労働組合や労使関係が有していた日本の社会的に対する影響力が低下し、その存在意義が問われているということについては、大なり小なり共通する認識を有しているのではないのでしょうか。そこで、本講義では、本来、労使関係や労働組合は労働社会の中でどのような機能や役割が期待されてきたのか、日本の労使関係や労働組合がどのような役割を果たしてきたのか、そして、日本の労使関係がどのような課題に直面し、なぜそのような事態が生じたのかについてを知り、理解してもらいたいと思います。そして、これからの労使関係はどのように変わっていく必要があるのか（あるいは、変わる必要がないのか、労使関係に未来はないのか）という問いについて、自分なりの答えを見つけ出してほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学科学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいです。具体的には、①日本の労使関係の基本的な特徴と展開を概観し、②それを支える集団的労使関係に関する法制度を理解したうえで、③日本における労使関係の現代的な課題を考えたいと思います。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。授業内容についての質問や、課題について気になる点があれば、積極的に提示してください。適宜、フィードバック等の補足を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係について学ぶ意義、本講義の進め方等について説明します。

2	労働組合の団結～その歴史	そもそも、労使関係の基礎となる労働組合およびその活動は、どのような歴史的経緯で生まれしてきたのか、なぜ労働組合の権利が保障される必要があるのか、労使関係の基礎的な前提について説明します。
3	日本的雇用慣行の形成と労使関係	日本の労使関係は、いわゆる「日本的雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本的雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係の特徴について考えます。
4	労使関係の多様性～諸外国との比較	「労使関係」と一口に言っても、そのあり方は、国によって大きく異なります。そこで、この回では、諸外国におけるさまざまな労使関係のあり方について、その概要を説明し、それとの比較を通じて、日本の労使関係の特徴を改めて考えたいと思います。
5	公務員の労使関係	かつて、日本の労働組合運動において、極めて重要な課題となっていたのは、公務員に労働組合の権利を認めることでした。この問題は、いわゆる公務員制度改革をめぐる、ふたたび脚光を集めています。この回では、公務員の労使関係とそれをめぐる問題について考えます。
6	労働組合と労働者～プロスポーツ選手は「労働者？」	労使関係の担い手である労働組合は、労働者が集まって作った団体です。ところで、このような労働組合を結成することは、誰でもできるのでしょうか。この問題は、実は労使関係を考えるうえでの重要な論点です。この回では、労働組合を結成する「労働者」の意義について考えます。
7	労働組合～その基本的な活動とルール	労使関係の主要な担い手である労働組合ですが、実際、労働組合がどのような組織で、どのようなことをしているのか、そこにどのようなルールがあるのかは、案外知られていないのではないのでしょうか。この回では、労働組合の実際とその活動をめぐるルールについて考えます。
8	団体交渉と争議	労働組合の重要な役割は、組合員（労働者）の労働条件や職場環境について使用者と交渉し、よりよい条件を勝ち取ることでしよう。この回では、こうした労働組合の団体交渉と、闘争手段である争議についての法規制について考えます。
9	労働組合の活動を守るために～不当労働行為制度	労働組合との良好な労使関係を形成しようとする使用者・企業がある一方で、労働組合を毛嫌いし、その活動を妨害しようとする使用者・企業があるのも事実です。この回では、こうした使用者による組合活動の妨害から保護する、不当労働行為制度について考えます。

- 10 労働組合と紛争解決 労働組合の活動については、労働条件や職場環境の向上という目的に注目が集まりがちですが、もう一つの重要な機能として、「紛争の解決」という役割があります。この回では、労働関係における様々な紛争解決制度も踏まえつつ、労働組合の紛争解決の機能について考えたいと思います。
- 11 労働組合の直面する課題～雇用の多様化と働き方の多様化 労働組合の組織率や影響力が長期低落傾向にあることはしばしば指摘されていることですが、そもそも、なぜ労働組合の組織率や影響力が低下しているのでしょうか。この回では、現在の労働組合を取り巻く状況について考えます。
- 12 法律による規制と「労使自治」 近年、労働関係について多くの法律が作られるようになってきました。この背景にはいろいろな事情がありますが、労使が自分たちで適切なルールを作出・運用し、問題を解決する能力が疑われていることもその一因でしょう。他方で、労働を取り巻く関係について、なんでも法律による規制でコントロールするのが適切かどうかは、議論のあるところですが。この回では、法律による規制と「労使自治」との関係について考えてみたいと思います。
- 13 労使関係の意義～労使コミュニケーションがもたらす効果 日本における労使関係は、その影響力の低下がしばしば指摘される一方で、良好な労使関係が労働条件や企業経営に良い影響を与える例もしばしばみられます。この回では、現在において労使関係が良好に機能する実際的な例を見ながら、労使関係の意義について考えてみたいと思います。
- 14 労使関係の課題～労使関係は何のために存在するのか これまでの講義で触れてきたように、現在は労使関係の存在意義が大きく問われている時代です。この回では、これまでの講義を踏まえつつ、そもそも労使関係は何のために存在するのか、という根本的な課題について考えてみたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

最終成績は基本的に単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）授業をよく復習し、労使関係を取り巻くシステムをよく理解したうえで、その課題を考えてください。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には、講義の内容を丁寧に復習し、理解の定着を図ることが求められます。

もともと、労使関係は、現実の社会の中にも多く存在し、また現在進行している様々な労働に関する法政策にも深く関係しています。したがって、新聞やニュースなどを通じて、労働組合や労使関係はもちろん、労働に関係する様々な事象について、日ごろからアンテナを延ばしてチェックするよう心掛けてほしいと思います。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定はありません

【参考書】

指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

LAW200TB (法学 / law 200)
法学特講(国際労働法)(後期メディア)
山本 圭子
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働者保護法、労働基本権、雇用保障について、国際比較を行い、日本の労働法令の現状と課題を学ぶ。

【到達目標】

日本の労働法は、国際条約や先進諸国の労働法の議論の影響を強く受けている。そこで、近年、日本において法改正や新たな議論が起きている14のテーマについて、比較法的検討を行い、日本の労働政策への影響を検証し、詳細に説明できることを目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

現代における労働をめぐる諸問題について、比較法的視点を加味しながら、分析し理解することが目標です。ビデオ収録後に法令改正がなされたものについては、その都度、新しい法令のリファレンスを行います。

中間課題に対しては、採点もしくは個別評価・添削して返却によりフィードバックを行います。試験については、全体講評によりフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	労働者性	労働法の適用対象である「労働者」の範囲について国際比較を行い、雇用類似の働き方に関する制度も検討する
第2回	高齢者雇用	各国の高齢者の就業実態と法令を、日本の高年齢者雇用安定法の変遷と比較する。
第3回	外国人雇用	外国人労働者（移住労働者）に関する国際条約の状況と、日本の外国人労働者に対する労働法の適用関係を比較法的に考察する。
第4回	障害者雇用	障害者雇用をめぐる条約の状況と、日本における障害者雇用促進法の変遷を学ぶ。
第5回	雇用保険制度	離職時の生計を維持するための雇用保険制度について、国際比較を行う。
第6回	最低賃金制度	各国で制定されている最低賃金制度の状況、日本における最低賃金法の改正の経緯と課題について学ぶ。
第7回	労働時間規制	労働時間の上限規制の内容と適用除外の範囲について、国際比較を行う。
第8回	ワークライフバランス	仕事と私生活の調和に関する法政策について、欧米の例と日本の現状とを比較する。

第9回	テレワーク	通信機器を利用したテレワーク、在宅ワークの普及状況と、労働関係法令の適用について、比較法的考察を行う。
第10回	職場におけるハラスメント	職場におけるハラスメントについて、2019年のILO条約の内容、各国の法制と日本の施策の国際比較を学ぶ。
第11回	過労死・過労自殺	長時間労働による健康障害を防止するための措置について、日本の法令の現状を学び比較法的考察を行う。
第12回	公務員の労働基本権	公務員の労働基本権の制限について歴史的展開と現状、国際比較を学ぶ。
第13回	パート・有期・派遣	パート・有期・派遣労働者に関する法規制の国際比較を行う。
第14回	企業組織変動と労働者保護	企業の組織変動にともなう労働者の帰属、整理解雇法理について、比較法的考察を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の法令についての基礎知識を身につけてから視聴する。日本の法令の改正状況については開講時にお知らせ欄で知らされる参考文献及び参照すべきURLを通読してから視聴する。手元に六法と条約集を備え、法令や条約を確認する。メモを取りながら視聴し、受講内容のノートを作成する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

労働六法編集委員会編『労働六法（2023年版）』、旬報社、6,050円（税込）、ISBN9784845117567

【参考書】

- 濱口桂一郎『新・EUの労働法政策』（独立行政法人労働政策研究・研修機構、2022年、4180円（税込み））
- 香川孝三編著『アジア労働法入門』晃洋書房、2022年、3200円（税別）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートにおいてC-以上の評価を受けたうえで受験した試験（60%）と中間レポート（40%）の総合評価（中間レポートに合格しなければ試験を受けることはできない）を行う。レポート及び試験においては、国際条約・先進諸国の法令と日本の制度との異同を理解し、「比較法的観点」から詳細に考察できることが評価の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

LMSで配布される追加資料は、動画と同様に重要であり、動画を修正・補完するものであることからレポート課題作成に当たっては必ず目を通して欲しい。開講時に参考文献の重要性をリファレンスをして、最新の法改正の状況を反映させたい。

【学生が準備すべき機器他】

メディアスクーリングを視聴できる機器及びワードファイルでレポートを提出できる環境。

【その他の重要事項】

労働法(働き方に関する法ルール)、労働法(労働法II)を学び、さらに各種制度の国際比較をしたい、労働問題を社会・経済情勢を踏まえて学びたいという方々向けの講義内容を目指しています。労働法(働き方に関する法ルール)、および労働法(労働法II)を学んでからの履修が望ましいですが、前後しても支障はありません。法律が大きく改正されており、お知らせ欄などで最新の参考文献を示している。これらを読まずに作成したレポート及び答えは不合格となっているので、注意のこと。中間レポートに合格していない場合には、試験を受けることはできない。レポートはワードファイルで提出のこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will conduct an international comparison on Labor Standards Law, Labor Union Law, Employment Security, and learn the current situation and issues of labor law in Japan.

【Learning objectives】 The goal is to conduct a comparative law study of labor law, examine the impact on Japan's labor policy, and explain it in detail.

【Learning activities outside of classroom】

Students acquire basic knowledge about Japanese labor law before watching videos.

Students read through references and URLs to refer to before watching the video.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation of the test (60%) and the interim report (40%) taken after receiving an evaluation of C- or higher in the interim report.

LIT100TC（文学/Literature 100）
日本文芸研究特講・上代(万葉集を読む)(後期メディア)
萩野 了子
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集の和歌の解釈や、その問題点などの解説を通じて、古典作品読解の基礎的能力を身に付けると共に、古代の人々の心の有り様について理解を深める。

【到達目標】

万葉集やその他の上代文献を読みながら、現代と共通する点、全く異なる点などを理解することで、我々の文化のルーツに迫ることが出来る。同時に多様な価値観への理解を深めることが出来る。また、現代日本語と異なる古典文法の基礎を身に付け、古典作品解釈に抵抗なく取り組めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3、DP5」「日本文学科：DP1、DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1、DP2、DP3」「経済学科：DP4、DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行い、毎回授業後に小テストを行う。中間、期末課題では、毎回の小テストよりも具体的な事柄を問うので、講義内容をよく復習しておくこと。

【課題等に対するフィードバック方法】

課題に対しては、個別の採点の後、模範解答の提示を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	万葉集概説	上代文学史及び万葉集の内容について
第2回	和歌の表現形式	寄物陳思歌と正述心緒歌について
第3回	歌の発生	歌謡の特徴及び歌われる場について
第4回	万葉集の表記	漢字で和歌を表記することについて
第5回	雄略天皇御詠	万葉集冒頭歌とその表現について
第6回	大和三山の歌	大和三山に伝わる伝承について
第7回	ひむかしの歌	万葉集の校異について
第8回	大津皇子と大伯皇女	挽歌の表現について
第9回	富士山の歌	長歌と反歌、山の讚美表現について
第10回	風土記伝承と天香具山	歌風の変容について
第11回	山上憶良の歌	和歌の題材について
第12回	人麻呂歌集	人麻呂歌集の成立について
第13回	東歌・防人歌	都と鄙の表現の違いについて
第14回	春愁三首	大伴家持詠の特異性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 万葉集』
角川書店編、角川書店、平成13年、680円

【参考書】

講義中適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間試験50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to read MANYOSHU. Learning Objectives: The goals of this course are to acquire: 1. the skills needed to read MANYOSHU; and 2. knowledge of Jodai literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (50%); Mid-term examination (50%).

LIT100TC（文学/Literature 100） 日本文芸研究特講・中古（『竹取物語』を読む一かぐや姫の“実像”）（後期メディア）
園 明美
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多くであろう。また、2013年末にはアニメ映画化されて話題になった。しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。

実は、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫とはかけ離れた、かぐや姫の驚くような言動や、他の登場人物たちの滑稽な言動を描く箇所が散見するのである。本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通じて、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

【到達目標】

『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。なお、「受験のための古文」の学習ではなく、「文学としての『竹取物語』」を読むことを目的とするので、文法等に過剰にこだわるのではなく、「何が語られているのかについての理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、中学・高校時代に古文が苦手だったという人も心配する必要はない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

『竹取物語』の本文を、14講を通して少しずつ区切りながら読み進め、毎講関連する史的背景や他の作品の本文等を紹介しつつ、作品の読みを深めてゆく。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	『竹取物語を読む』そ	『竹取物語』の概説と冒頭の1
②	『竹取物語を読む』そ	求婚者殺到 翁の説得の2
③	『竹取物語を読む』そ	求婚者に対する無理難題の3
④	『竹取物語を読む』そ	求婚者の受難Ⅰ 石作の皇子の恥辱とくらもちの皇子の謀略の4
⑤	『竹取物語を読む』そ	求婚者の受難Ⅱ くらもちの皇子の撃退の5
⑥	『竹取物語を読む』そ	求婚者の受難Ⅲ 阿倍の大臣の落胆の6
⑦	『竹取物語を読む』そ	求婚者の受難Ⅳ 大伴の大納言の勇猛さの7
⑧	『竹取物語を読む』そ	求婚者の受難Ⅴ 大伴の大納言の災難の8

- ⑨ 『竹取物語を読む』そ 求婚者の受難Ⅵ 石上の中納言の悲劇の9
- ⑩ 『竹取物語を読む』そ 帝の求婚Ⅰ かぐや姫に振られる帝の10
- ⑪ 『竹取物語を読む』そ 帝の求婚Ⅱ かぐや姫との文通の11
- ⑫ 『竹取物語を読む』そ かぐや姫の昇天Ⅰ 阻もうとする人々の12
- ⑬ 『竹取物語を読む』そ かぐや姫の昇天Ⅱ 地上に思いを残しての13
- ⑭ 『竹取物語を読む』そ かぐや姫の昇天Ⅲ 遣された人附・中世の説話と『竹取物語』の14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト及び参考書として紹介した書籍等を読み、理解を深める助けとすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

室伏信助訳注『竹取物語』（角川ソフィア文庫）

【参考書】

平安貴族の環境（至文堂 1994）

平安時代の信仰と生活（至文堂 1994）

平安時代の儀礼と歳事（至文堂 1994）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50%）及びレポート試験（50%）の内容によって評価を行う。

（注意事項1）

中間レポートとレポート試験は、両方とも提出しないと評価対象とならないので、必ず両方提出すること。

（注意事項2）

中間レポートの内容によっては、コメントを付けた上で再提出を指示する場合がある。この場合、指定された期間内に再提出されない場合はやはり評価対象とならないので、必ず期間内に書き直し、提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

メディアスクーリングの性質上、疑問点があってもなかなか質問できないというコメントがあったが、教員に直接質問し、回答を得るためのフォームも用意されているので、是非とも遠慮なく活用してほしい。中には、質問内容について、「こんな基礎的なことは聞いてはいけないのではないか」と感じることもあるようだが、どんな些細なことでも、学びの深さにつながるものだと考えるし、基礎的なことゆえに大切なこともあるので、大歓迎である。

【Outline (in English)】

This course introduces to "The tale ob Taketori" students taking this course.

At the end of the course, participants are expected to understand contents of "The tale ob Taketori".

LIT100TC（文学/Literature 100）
日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア)
浅沼 博
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

俳諧連歌（連句）という座の文学が全盛を極めた近世文芸を、その背景もふくめて理解すること。

【到達目標】

井原西鶴による独吟連句（俳諧大句数）を読み解き、「知の共有化」が成立した近世文芸の諸条件を考究する。わけても連句のルール（式目）の中心をなす「付合と転じ」つまり理想と変化について、具体的な作品に即して説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一句の解釈、二句の付合、三句の転じ、序破急の流れと射程距離を広げていく。その際、テキストを叩き台に、他の学説もみながら連句の多様性について学ぶ。

各回の小テストについては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	連句概要	知の共有化について 百韻形式における連句用語
第2回	作家・作品解説	俳諧師としての西鶴 俳諧大句数の成立 〔自序〕の解釈
第3回	花にきてやの巻 序の一	緩やかな導入部 発句・脇・第三の作法 雅語と俗語・あしらい 中世と近代のせめぎ合い
第4回	序の二 四～七句目	四句目ぶり 月の定座・起情の付 映画的手法
第5回	破の一 初表八～裏三句目	自由で起伏に富んだ展開部 向付による述懐 其人の付
第6回	破の二 初裏四～七句目	恋句の流れについて 謡曲取り・逆付
第7回	破の三 初裏八～十二句目	名所付 抜け 釈教
第8回	破の四 初裏十三句目～ 二の表二句目	定座の移動について 発話体の取成し 故事付
第9回	破の五 三の表七～十句目	拍子・夜分 其場の付
第10回	破の六 三の表十一～十四句 目	指合（観音開き） 句意付・会釈
第11回	破の七 三の裏一～四句目	短句下七の四三調について 病体・人名・時分

第12回	破の八 三の裏五～九句目	数詞の指合 遠輪廻
第13回	急の一 名残の裏一～四句目	軽く速やかな終結部 会話体の転じ
第14回	急の二 名残の裏五句目～拳 句	句いの花 拳句の作法・意義
第15回	まとめ	序破急と付合の諸相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな連句用語が出てくるので、予習・復習を徹底すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新編日本古典文学全集『連歌集 俳諧集』暉峻康隆ほか・訳注（小学館）2001年

【参考書】

『俳文学大辞典』普及版（角川書店）2008年
『西鶴という鬼才』浅沼璞・著（新潮社・電子ブック）2008年
『俳句・連句 R E M I X』浅沼璞・著（東京四季出版）2016年

【成績評価の方法と基準】

メディアスクーリング試験（会場試験）による評価。
スライド資料をそのまま写すのは不可。必ず文章化すること。
持込不可。

【学生の意見等からの気づき】

西鶴の俳諧関連書籍は絶版・品切れ重版未定などが多いため、入手可能なものを当シラバス「参考書欄」に列記した。

【Outline (in English)】

To understand the literary arts in the early modern period when the haikai (renku) was the best, including its background.

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文芸研究特講・児童文芸(後期メディア)
構 大樹
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

宮沢賢治の童話作品をテーマ毎に取りあげ、テキストとしての同時代性を踏まえながら読み解きます。

宮沢賢治の死後の受容について、児童文学の観点から整理します。

【目的】

宮沢賢治を通じて、大正～昭和の童話をめぐる状況や児童文学の評価をめぐる力学、童話作家としての〈生〉についての理解を深めます。

【到達目標】

- 宮沢賢治という童話作家についての知見を広げる。
- 児童文学というジャンルについての理解を深める。
- 受容という観点をを用いて作家や作品について考察できる。
- 児童文学テキストの同時代的な社会・文化状況が意識できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3、DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1、DP2、DP3」「経済学科：DP4、DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

通信学習。各回のテーマ・内容に示された作品は、必ず読んでください。また各回小テストが課されます。

中間レポートとレポート試験があります。フィードバックは個別評価・添削をもって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	宮沢賢治という童話作家についての概要	・イントロダクション ・作家としての〈生〉について ・「炭十公園林」など
第2回	宮沢賢治の初期童話①	・賢治における童話執筆という営みについて ・「インドラの網」、「サガレンと八月」、「注文の多い料理店」の「序」など
第3回	宮沢賢治の初期童話②	・賢治の初期童話の特徴 ・「蜘蛛となめくじと狸」、「貝の火」、「シグナルとシグナレス」など
第4回	宮沢賢治童話における民話・伝承	・伝承や民話という視点について ・「狼森と策森、盗森」、「ざしき童子のはなし」など
第5回	宮沢賢治童話における他者①	・異種間のコミュニケーションの不可能性という視点について ・「雪渡り」など
第6回	宮沢賢治童話における他者②	・境界の揺らぎという視点について ・「注文の多い料理店」など
第7回	宮沢賢治の童話作家としての評価①	・プロレタリア運動という視点について ・「オツベルと象」など

第8回	宮沢賢治の童話作家としての評価②	・ユートピア志向という視点について ・「ボラーノの広場」など
第9回	宮沢賢治の童話作家としての評価③	・童話作家としての同時代性と生前評価について
第10回	宮沢賢治の童話作家としての評価④	・戦後の評価について ・「どんぐりと山猫」など
第11回	「雨ニモマケズ」と宮沢賢治の童話①	・献身・自己犠牲の文脈からの受容について ・「グスコープドリの伝記」
第12回	「雨ニモマケズ」と宮沢賢治の童話②	・献身・自己犠牲の文脈からの受容について ・「グスコープドリの伝記」
第13回	宮沢賢治のやわらかい受容	・現代におけるナイーブな感性のなかでの受容について ・「銀河鉄道の夜」
第14回	テキストとしての児童文学	・作品の細部にめをむけるための読みのポイントについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。

【参考書】

- 構大樹『宮沢賢治はなぜ教科書に掲載され続けるのか』（大修館書店）
- 米村みゆき『宮沢賢治を創った男たち』（青弓社）
- 安藤恭子『宮沢賢治〈力〉の構造』（朝文社）
- 押野武志『宮沢賢治の美学』（翰林書房）
- 宮沢賢治没後七十年「修羅はよみがえった」刊行編集委員会編『修羅はよみがえった』（宮沢賢治記念会）

【成績評価の方法と基準】

各回の小テスト10%、中間レポート40%、レポート試験を50%で評価します。レポートの評価基準は論旨が明解であるか、バランス感覚のある考察ができてきているか、です。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからの質問や感想は随時受け付けております。それを通じて理解を深めることも重要ですので、どうぞ遠慮なさらずにお声がけください。

【Outline (in English)】

【Outline】

This course will focus on Kenji Miyazawa's fairy tales.

【Goal】

Through Kenji Miyazawa, Students will deepen their understanding of the situation of Children's Literature in the Taisho and Showa periods.

LIN200TC（言語学/Linguistics 200）
日本語史(後期メディア)
問宮 厚司
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語史の中でも、特に沖縄古語に焦点を絞り、沖縄を象徴する言葉の語源・文法・表記について、大和古語（主に奈良・平安時代の言語）と比較しながら、解説します。

【到達目標】

文献資料に記録された沖縄古語の研究法を学ぶことで、論理的思考力を養い、卒業論文等作成の際に役立つならば良いと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

日本語の歴史に関する参考文献の紹介と日本語の歴史の概略を話した後に沖縄の古代歌謡『おもろさうし』の言語について、テキストを用いて、担当教員の専門としている研究を解説します。沖縄方言の古い姿を明らかにできるならばと思います。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	参考文献とテキストの紹介	日本語の歴史に関する参考文献の紹介や日本語の歴史の概略を説明します。
第2回	グスクの語源	沖縄で「城」の字を当てるグスクの語源について考えます。
第3回	テダの語源	沖縄で太陽の意を表すテダの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第4回	オモロの語源	沖縄の古代歌謡集『おもろさうし』のオモロ（神歌）の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第5回	按司の語源	沖縄で首長の意を表す按司（アジ）という語の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第6回	ミルヤ・カナヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語ミルヤ・カナヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第7回	アマミヤ・シネリヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語アマミヤ・シネリヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第8回	オボツ・カグラの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語オボツ・カグラの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第9回	係り結びの種類と用法	『おもろさうし』の係り結びの種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。

第10回	形容詞の種類と用法	『おもろさうし』の形容詞の種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。
第11回	助詞ガの表記	『おもろさうし』の助詞ガの表記の実態について調査結果を報告し考えます。
第12回	助詞テの表記と語釈	『おもろさうし』の助詞テの表記と語釈について考えます。
第13回	類推表記をめぐって	『おもろさうし』で「国」を「くに」以外に「こに」と書いた類推表記について再考します。
第14回	チャウ（門）の語源とウリズンの語源	沖縄のチャウ（門）の語源とウリズンの語源について考えます。
第15回	自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音	『おもろさうし』の自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを受講前によく読んでおくとう理解しやすくなります。また、機会があるならば、法政大学沖縄文化研究所を訪ね、利用して下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

問宮厚司『沖縄古語の深層—オモロ語の探究 [増補版]』（森話社、2014年、1900円＋税）

【参考書】

第1回の授業で、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間リポート（40%）とリポート試験（60%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、リポートの課題内容を変えていますので、既に履修した学生に聞いても、その点は参考になりません。

【Outline (in English)】

In the history of Japanese language, especially I will focus on Okinawa-Kogo (the ancient Okinawa language) and explain the origin, grammar, and notation that symbolize Okinawa with comparing Yamato-Kogo (the ancient Yamato language).

Learning objectives of this class:

Learning the way to study for Okinawa-Kogo (Okinawa Ancient Language) written on literature helps developing your logical thinking ability and it helps to acquire the necessary skill and knowledge for writing graduation thesis.

Learning activities outside of classroom:

Before each class, students need to read the textbook and it helps to understand the class better. I recommend students to visit the Hosei University Institute of Okinawa Studies if they have a chance. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Midterm Report (40%) & Report Test (60%).

HIS100TD（史学/History 100）	
日本史概説（東アジアのなかの古代日本）（後期メディア）	
浜田 久美子	
カテゴリー：後期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・東アジアのなかで展開してきた日本古代の歴史を学び、現代社会や地域社会に通じる問題関心を持てるようにする。
・史料や先行研究を用いて分析する歴史学研究の手法を学ぶ。
・文献探索や図書館の活用法を学び、レポートを作成できるようにする。

【到達目標】

・日本古代の歴史が東アジアのなかで展開してきたことを理解する。
・史料や先行研究を批判的に分析する歴史学研究の方法を理解する。
・調べた情報を整理して、考察に踏み込んだレポートを作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

動画の講義を視聴し、復習小テストに回答すること。

【課題等に対するフィードバック方法】

中間レポートについては、全体講評及び模範解答や優秀レポート等の掲示を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この講義の内容と学習の進め方、図書館の活用法について学ぶ。
第2回	レポートの書き方	文献探索の方法やレポートの書き方について学ぶ。
第3回	古代史を学ぶための基礎知識	古代という時代の特性や古代の史料などを学ぶ。
第4回	6世紀から7世紀へ	新羅の台頭と隋の建国が東アジアに与えた影響を学び、遣隋使派遣に関する史料を読む。
第5回	7世紀の東アジア	唐の建国が東アジアに与えた影響を学び、倭国の権力集中（乙巳の変）の史料を読む。
第6回	7世紀から8世紀へ	百済・高句麗の滅亡と天智・天武・持統朝の律令国家形成について学び、白村江の戦いに関する史料を読む。
第7回	律令国家の外交(1) 唐・新羅との外交	遣唐使の派遣と新羅と外交から、律令国家の外交姿勢について学び、遣唐使関係の史料を読む。
第8回	大仏造立と東アジア(1)さまざまな社会不安	東大寺の大仏造立の背景となる奈良時代の社会不安について学び、国分寺建立の詔を読む。
第9回	大仏造立と東アジア(2)大仏造立へ	大仏造立を唐や新羅との交流のなかに位置付け、大仏造立の詔を読む。

第10回	律令国家の外交(2)渤海との外交	渤海使の来日と安史の乱の発生から、藤原仲麻呂政権の外交について学び、渤海と日本との外交文書を読む。
第11回	9世紀の転換(1)海商の来日	交易の拡大に伴う国際関係の転換について学び、張宝高との交易をめぐる記事を読む。
第12回	『入唐求法巡礼行記』を読む	9世紀の入唐僧円仁が書いた『入唐求法巡礼行記』の一部を読み、その史料的価値について学ぶ。
第13回	9世紀の転換(2)「境界」の生成	幼帝即位と相次ぐ自然災害、新羅海賊への警戒などが生み出す「境界」について学び、貞観地震などの記事を読む。
第14回	東アジア世界の変質	唐、渤海、新羅の滅亡を迎えて変質する東アジア世界のなかで日本日本の文化受容を考えると、これまでの講義を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
予習として事前に配布した「本日の史料」を読み、復習として講義資料のほか、授業で紹介した文献を読むことを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

・鈴木靖民監修、高久健二・田中史生・浜田久美子編『古代日本対外交流史事典』八木書店、2021年
・浜田久美子『日本史を学ぶための図書館活用術』吉川弘文館、2020年
その他のものは、各回の講義資料末尾に記す。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）と期末レポート（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

国立国会図書館司書の経験を生かして、文献探索の方法や図書館活用術を講義する。

【Outline (in English)】

・ Learn about the history of ancient Japan, which developed in East Asia, and have an interest in contemporary issues and local communities.
・ Learn the methods of historical research to analyze using historical materials and previous research.
・ Learn how to search for documents and how to use the library, and be able to create a report.

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）
歴史地理学(Ⅱ)(後期メディア)
米家 志乃布
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、歴史地理学における古地図や画像資料の利用方法やそれに基づく研究のあり方を学びます。

【到達目標】

地域の個性や景観の歴史を読み解く歴史地理学においては、古文書などの記録だけでなく、古地図や絵画・写真などの画像資料などの空間的な分析を通して研究を行うことが必要です。本授業では、史資料の分析をもとに「歴史地理学的考え方」ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

秋学期（2）の講義では、主に古地図や鳥瞰図、風景画、写真などの画像資料の分析・考察から、どのような歴史地理学的な考え方ができるのかを中心に取り上げます。中間のレポート課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

（課題等に対するフィードバック方法については、必要に応じて追記やご修正をお願いいたします。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	歴史地理学と地図・画像資料	本授業の概要 歴史地理学の史料批判
第2回	世界・日本の古地図	世界や日本における様々な古地図の概観
第3回	古地図と世界像	古地図にみる様々な世界像を読み解く
第4回	日本と国土空間	様々な日本図から国土空間を読み解く
第5回	古地図と都市	様々な都市を古地図から読み解く
第6回	古地図と地域	地域を描いた地図から、地域像を読み解く
第7回	屏風絵・鳥瞰図	風景画と地図のあいだともいえる屏風絵・鳥瞰図の画像を読み解く
第8回	地図と芸術	地図のような絵画、絵画や工芸品に描かれた地図などから、地図と芸術の関係を読み解く
第9回	絵画と景観・風景（ヨーロッパを中心に）	イタリアの景観画やフランスの印象派、イギリスの風景画など、様々な絵画をもとに景観・風景を読み解く
第10回	絵画と景観・風景（日本を中心に）	山水画、真景図、浮世絵、風景画など様々な日本の絵画をもとに景観・風景を読み解く
第11回	写真と景観・風景	日本の写真史をもとに、写真に映し出された景観・風景を読み解く

第12回	彫刻・銅像と都市景観	戦前の銅像写真集の分析をもとに、彫刻・銅像と都市景観との関係を読み解く
第13回	絵図と測量図	江戸幕府撰絵図および伊能忠敬の測量図を対象とした近年の歴史地理学的研究動向を学ぶ
第14回	地図・画像資料の活用～歴史地理学の課題	歴史地理学的研究における古地図や画像資料を用いた分析・考察の重要性をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

多くの文献や史料を参考にしますので、各回の授業内で適宜紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines how to use old maps and image materials in historical geography. **【Learning Objectives】** The goals of this course is to understand research methods in historical geography.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for class.

【Grading Criteria】 Mid-term report (30%) and term-exam(70%).

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
地学概論(Ⅱ)(後期メディア)
宍倉 正展
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地学」は地球とそれを構成する岩石圏、気圏、水圏を対象とする自然科学の総称であり、学校教育においては天文分野も含まれる。本講義は地学概論Ⅰから続くものであり、おもに地球表面で起こると諸現象と人間活動について学び、地学の自然科学的な側面だけでなく、それが及ぼす自然災害の影響評価など社会的な貢献についても習得する。

【到達目標】

地球上に住む生命がどのように誕生して進化してきたのか、また大気や海洋の構造やその変化がもたらす気候変動、そして地震や火山噴火など地球上での様々な現象によってもたらされる自然災害といった、地球と人類との関係を理解することを目標とする。また普段から地学に関連したニュースや科学番組に接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

宇宙から始まり、地球の構造と構成物質、地球内部から働く営力としてプレートテクトニクスとそれに付随する地震、地殻変動、火山活動について紹介していく。秋学期（2）では地球表層で起こる様々な事象を取り上げ、生命の歴史から気候変動、自然災害等について説明する。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地球表層の諸現象（ガイダンス）	地学概論Ⅱで学ぶ地球表層の現象と人間活動についてダイジェストで紹介する。
第2回	地球誕生からの歴史1	地球誕生46億年の歴史のうち地球ができてから多様な生命が誕生するまでを説明する。
第3回	地球誕生からの歴史2	地球誕生46億年の歴史のうちおもに古生代以降の生命の進化について説明する。
第4回	大気と海洋	大気と海洋の構造、表層や深層の循環などについて説明する。
第5回	気候変動1	おもに第四紀の氷期・間氷期サイクルとそのメカニズムについて説明する。
第6回	気候変動2	歴史時代の気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第7回	侵食と堆積1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動や水河地形について説明。
第8回	侵食と堆積2	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積について説明。
第9回	侵食と堆積3	地球表層で生じる外的作用として海岸や海底の侵食・堆積について説明。

第10回	気象災害	台風など大雨を誘引とした斜面崩壊や河川氾濫による災害について考える。
第11回	地震災害	地震の揺れに伴う液状化や活断層による地盤の変位などの災害について考える。
第12回	津波災害	津波の浸水による災害と防災対策について考える。
第13回	火山災害	火山噴火に伴う災害と防災対策について考える。
第14回	防災教育と地学	地学の防災上の意義と社会的貢献について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から自然災害のニュースや行政の防災施策などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成等に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。

【参考書】

「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス地学図録」数研出版
<https://www.chart.co.jp/goods/item/rika/35056.php>
 宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>
 大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）
 メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

新規開講のため学生の意見はまだない

【Outline (in English)】

【Course outline】

Geoscience is generally known as a natural science covering the earth and its lithosphere, atmosphere, and hydrosphere, including astronomy in the case of school education. This course is a continuation of Chigaku-Gairon-I (Introduction to Geoscience I). Students will learn not only the natural science aspects of geoscience, but also the sociological contributions of geoscience, such as the assessment of the impact of natural disasters on human activities.

【Learning Objectives】

The goal is to understand the relationship between the Earth and humankind, including how life on Earth was born and evolved, the structure of the atmosphere and oceans, climate change caused by changes in these structures, and natural disasters brought about by earthquakes, volcanic eruptions, and various other phenomena on the Earth. In addition, students will be exposed to news and science programs related to geoscience on a regular basis and will acquire an attitude of knowing the latest developments in science beyond the scope of ordinary textbooks.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on recent topics related to natural disaster news and government disaster prevention measures through newspapers, magazines, the Internet, and other media, and use this information to prepare reports and other materials. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Mid-term report (30%)
 Media schooling examination (70%)

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
自然地理学(地形)(Ⅱ)(後期メディア)
前 壱 英明
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。秋学期（2）では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。日本列島の地球規模からみた位置。
第2回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクス理論が発見された歴史、その概要を説明する。
第3回	プレートテクトニクスと大地形（2）	地球の内部構造とプレート運動の原動力、プレリュムテクトニクスについて概説する。
第4回	プレートテクトニクスと大地形（3）	プレートテクトニクスによって出来る地形、内作用と変動帯、広域的地殻変動などを概説する。
第5回	断層と断層変位地形	断層とは何か？断層によって作られる地形にはどのようなものがあるのか？
第6回	活断層と地震	断層運動と地震の関係、それによって地表面に現れる新鮮な断層変位地形。
第7回	津波の原理と過去の津波	津波と普通の波は何が違うのか？過去に発生した津波を地形や地質から明らかにする方法。
第8回	火山活動と火山地形	火山とマグマの関係、噴火の様式、様々な火山地形
第9回	気候変化と氷河性海水準変動	10万年スケールでの気候変化と海水準変動
第10回	氷河性海水準変動と海成段丘	10万～数1000年スケールで変動する海水準変動と海成段丘の形成のメカニズム

第11回	地震性地殻変動による隆起海岸地形と過去の巨大地震	日本のような変動帯には、沿岸で発生する巨大地震により海岸が隆起し、その地形が保存されている。それらを紹介し、過去の地震を解き明かす過程を概説する。
第12回	アイスタシーによる海岸地形の変動	海水や氷床変動により、陸地は変動する。それらによってどのような地形が形成され、どのようなことがわかるのか概説する。
第13回	広域火山灰と地形研究	地形の編年学的研究に大きな影響をあたえた火山灰編年学について概説する。
第14回	年代測定法	地形研究で利用されるいくつかの代表的な年代測定法について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年

『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～

『図説地球科学』杉村 新ほか、岩波書店、1988

『地震と断層』島崎邦彦・松田時彦、東京大学出版会、1994

『大地の動きをさぐる』杉村 新、岩波科学の本、1973

『プレートテクトニクス』上田誠也、岩波書店、1989

『変動する地球』笠原慶一・杉村 新、岩波地球科学選書、1991

『火山とプレートテクトニクス』中村一明、東京大学出版会、1989

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）

メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

中間レポートの課題はなるべく後半のテーマからは出さないように気をつけたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to get fundamental knowledge of geomorphology. The goals of this course are to understand landform processes and to recognize geological time scale. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

自然地理学(気候・気象)(Ⅱ)(後期メディア)

山口 隆子

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：後期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

地球温暖化をはじめとした今日的課題を理解出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】**【授業の進め方と方法】**

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学んでいきます。

【課題等に対するフィードバック方法】

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第2回	大気大循環	大気大循環とは何か
第3回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第4回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第5回	世界の降水量分布	世界の水収支
第6回	世界の気候区分	さまざまな気候区分
第7回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第8回	異常気象	エルニーニョとラニーニャ現象を事例として
第9回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第10回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第11回	酸性雨	大気汚染
第12回	砂漠化	砂漠化の実態
第13回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化、歴史時代以降の気候変化
第14回	気候学を学び続ける	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、144p。
 今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のしくみ』。産業編集センター、208p。¥1,600＋税
 稲津 将（2022）：『気象学の教科書』。成山堂書店、203p。¥2,200＋税

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、メディアスクーリング試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and World climate to students taking this course. The goals of this course are to understand today's issues such as global warming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
自然地理学(海洋・陸水)(Ⅱ)(後期メディア)
小寺 浩二
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内の具体的な課題を中心とするが、海外の事例に関しても紹介する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。海洋陸水学の分野の中からそれぞれテーマを選定し、現地調査を行ったうえで、中間レポート・最終レポートを提出する。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施することで、最終レポートへの方向性を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎知識を踏まえて、高度な理論と応用を理解する
第2回	河川学の理論と応用	流域特性と流域GIS物質収支モデル
第3回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第6回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第7回	その他・水文学の理論と応用	水文学の基礎知識を踏まえて理論と応用を理解する。
第8回	調査研究事例（河川）	河川を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第9回	調査研究事例（地下水）	地下水を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第10回	調査研究事例（湖沼）	湖沼を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第11回	調査研究事例（雪氷）	雪氷を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第12回	調査研究事例（沿岸域・汽水域）	沿岸域・汽水域を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第13回	調査研究事例（自然災害）	自然災害を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。

第14回	調査研究事例（流域圏）	流域圏を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第15回	水環境の諸問題・まとめ	その他の水環境の諸問題と海洋陸水学の理論の実践の総合的な理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小寺浩二・三井嘉都夫（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』,法政大学通信教育部

【参考書】

・小寺浩二（2020）：『自然地理学概論』,法政大学通信教育部
 ・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏－海洋と陸水』,東海大学出版会, 211p, ¥2,700
 ・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』,古今書院, 168p, ¥2,700
 授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート・最終レポートを総合して評価する。配点は、中間レポート45%、最終レポート55%を原則とするが、いずれにしても、総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

地球規模や国外の事例よりも、国内の事例についての要望が多いため、国内の具体的な調査・研究事例を重点的に扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回PowerPointを活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーとGISに関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

海洋・陸水学Ⅱは、原則として海洋・陸水学Ⅰを履修した後で履修して下さい。基礎を学んでいることを前提に、応用面に関する講義、課題に取り組むため、やむを得ずⅠを未履修ながら履修する場合は、事前にテキストなどで基礎的な学習を行っておくこと。

また、メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to systematically acquire knowledge and develop application skills in "ocean and limnology," which is an important field in learning physical geography. Lectures will focus on specific domestic issues, but will also introduce overseas cases.

Acquisition of basic knowledge on research topics in oceanography/limnology, hydrogeography, and hydrology, and development of applied skills in dealing with specific problems.

By deepening our studies in this field, we will explore the role of rivers, lakes, etc. in the process of water circulation on the earth, which exists in various forms in the complex region of the geosphere, hydrosphere, atmosphere, and biosphere, focusing on the relationship with human activities. Introduce the theory and application of water balance and water circulation, and deepen consideration while working on specific issues.

For midterm assignments, either (1) grade or individual evaluation/correction, (2) overall review, or (3) display of model answers or excellent reports, etc. will be carried out.

Collect and organize information on water environment in general. For newspaper articles in particular, cut them out and summarize them according to the specified format. In addition, students are encouraged to attend relevant seminars, symposiums, and conferences. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation of interim and final reports. In principle, 45% of points will be allocated for the interim report and 55% for the final report.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）	
世界地誌(1)(アジア)(後期メディア)	
小寺 浩二	
カテゴリー：後期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照	
備考（履修条件等）：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並ぶ重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。最終レポートの対象国についての自然誌については、可能であれば、訪問したことがある国を対象とし、現地の写真や体験を記述するようにするが、そうでない場合も、できる限り国内において様々な資料などを関係機関に出向くなどして具体的に入手し、その結果をまとめて中間レポートと最終レポートに反映させるようにする。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施し、最終レポートに向けた方向性を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。 アジアの特殊性についての概要。
第2回	アジア総論（1） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第3回	アジア総論（2） 水文・気候・植生	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第4回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。香港・マカオも
第5回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第6回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。 (タイ・ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマーなど)
第7回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。 (マレーシア・インドネシア・フィリピンなど)

第8回	南アジア（1） 南アジア全域・インド・スリランカ	南アジア全域とインド・スリランカの概要。
第9回	南アジア（2） インド・スリランカ以外の南アジア	パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第10回	中央アジア（1） 中央アジア全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第11回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギス・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第12回	西アジア（1）	アフガニスタン・イラン・イラク・トルコ・キプロス
第13回	西アジア（2）	サウジアラビア・クウェート・カタール・アラブ首長国連邦・オマーン・イエメン
第14回	西アジア（3）	シリア・ヨルダン・レバノン・イスラエル・エジプト・コーカサス
第15回	まとめ	講義で紹介したアジア地域の地誌を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。また、特に講義を受けた後の復習に力を注いで頂きたい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

多田文男(1972)：『世界地誌Ⅰ(アジア)』,法政大学通信教育部,291p.
古い教科書であるため、その他の図書も参考に。

現在、新しい教科書を執筆中であり、その内容は、講義の資料に多くを示しているため、講義資料からしっかり学んでいただきたい。

【参考書】

河野通博編(1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』,大明堂, 242p.

岩田慶治編(1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』,大明堂,212p. など。

講義資料では、最近の参考図書を多く示しているため、参照されたい。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(40%)と最終レポート(60%)の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限内に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

【Outline (in English)】

In geography, understanding the basics of "geography" which is as important as systematic geography, and in particular learning the concrete topography of Asia as the target area of the world topography and wide-area topography, various regional characteristics and its topography Learn how to write. First, we will understand Asia in the world, and then we will give an overview of the individual regions of Asia.

Understand the nature of Asia, which is geographically closest to Japan, and the lives of the people who live there. On the premise of understanding the "natural history" that focuses on the characteristics of various natural environments such as climate, topography, vegetation, and water environment, students will also understand cultural and social characteristics and learn how to describe topography.

From an overview of Asia as a whole, lectures will be given on the topography of each region and individual country. While utilizing old materials, we also introduce the latest research results and show the current situation of old and new Asia.

In addition, we will guide you to deepen your understanding of "description of topography" by devising ways to understand it yourself from specific data. Regarding the natural history of the target countries of the final report, if possible, we will target countries that we have visited and describe local photos and experiences. We will visit the relevant organizations to obtain specific materials, etc., and summarize the results and reflect them in the interim and final reports.

For mid-term assignments, either (1) marking or individual evaluation/correction, (2) overall review, or (3) display of model answers or excellent reports, etc., will be carried out to indicate the direction for the final report.

I would like you to keep a close eye on developments throughout Asia on a regular basis, and always be aware of the problems in TV news and newspaper articles. Also, I would like you to focus on reviewing, especially after taking lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Comprehensive evaluation of interim report (40%) and final report (60%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
地図学 (II)(後期メディア)
若林 芳樹
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタル化によって進化した地図や地理空間情報を使いこなすためには、GIS（地理情報システム）について理解する必要がある。この授業では、GISで地図を作成・利用するのに必要な地図学・地理情報科学の知識と技術を学び、その応用の仕方を修得することを目標とする。

【到達目標】

- 1) 地図の基礎的事項を理解した上で、GISを用いて地図が作成できる。
- 2) 地理空間情報の基本構造と利用の仕方を理解し、活用する技能を修得する。
- 3) 社会との関わりでみたGISの役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、地図のデジタル化にともなってGISが登場した背景と発展の過程をたどり、地理空間情報の基本構造とGISの基本機能と活用方法を解説する。後半では、ウェブGISとフリーソフトを用いて実際にPCでGISを利用するとともに、社会での応用の仕方を学ぶ。最後に、この授業で学習したGISの知識と技術をふまえて、各自で地図を作成し、その利用の仕方を考えてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地理空間情報としての地図、授業計画
第2回	地理空間をデータ化する方法	GNSS、ジオコーディング、ベクタとラスター
第3回	地理空間情報の特質	地理行列、空間的自己相関、可変地域単位問題
第4回	GISの機能	空間検索、空間解析、可視化
第5回	GISと空間的思考	空間的概念、空間的表現、空間的推論
第6回	参加型GIS	OpenStreetMap、ボランティア地理情報
第7回	ウェブ地図の利用(1)	地理院地図
第8回	ウェブ地図の利用(2)	今昔マップ、Google Maps/Earth、ハザードマップ（国交省、NHK）
第9回	ウェブGISの利用	jSTAT MAP、RESAS
第10回	オープンデータの利用	国土数値情報、統計GIS、基盤地図情報
第11回	MANDARAによる地図作成	インストール、データ作成、地図描画
第12回	QGISによる地図作成(1)	インストール、データ作成、地理座標系、地図描画
第13回	QGISによる地図作成(2)	バッファ、ポリゴン図、オーバーレイ

第14回 GISが切り開く未来 Society5.0、スマートシティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身の回りにあるGISの応用技術を探して実際に使ってみる。またウェブ地図や簡易GISを操作して、その内容・表現・用途を吟味しながら地図を作成する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】

『GIS地理情報システム』（矢野桂司著、創元社、2021年）、『地理情報科学—GISスタンダード』（浅見泰司ほか編著、古今書院、2015年）、『増補版 フリーGISソフトMANDARA10入門』（谷謙二著、古今書院、2022年）、『QGIS入門 第3版』（今木洋大・伊勢紀著、古今書院、2022年）

【成績評価の方法と基準】

小テスト60%、レポート40%で総合評価

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン、EXCELの操作ができること。

【Outline (in English)】

With the progress of digitization, it is necessary to understand GIS (geographic information systems) to make full use of maps and geospatial information. The aim of this class is to learn the knowledge and skills of cartography and geographic information science necessary to create and use maps with GIS, and to learn how to apply them properly. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (60%) and term-end examination (40%).

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア)
狩野 真規
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気中で起きている現象について、様々なスケールから注目し、日々の生活と気候との関係性について考える。

【到達目標】

1. 講義で扱った現象やその成因を説明できる。
2. 身の回りで起きていたり、注目されている事柄へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一回ごとにテーマを絞り、それらについて講義を進める。映像（講義）を見終わったら確認テストを実施してもらい、内容の定着度を確認する。Web上の映像を見る形なので、映像（講義）の内容に関して適宜ディスカッションのコーナーで質問などを投げかけるつもりなので、積極的な発言を期待する。

中間レポートに対しては、個別に添削を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	地理学や気候学について、その存在意義を考える。
第2回	放射収支とその仕組み	地表における気温の定まる仕組みを考える。
第3回	気候変動 その成因について	近年の温暖化の原因とその影響などを考える。
第4回	気候変動 過去の変動の実態	過去の気候変動を探る。
第5回	食料生産と気候・気象に関して	気象と農業生産との接点を探りつつ、将来への展望について考える。
第6回	豪雨・豪雪に関して	日本における災害の原因ともなる降水現象を考える。
第7回	何故、日本の夏は暑いのか？	熱的ストレスの原因となる日本の猛暑について考える。
第8回	山岳の気候・気象について	山岳地域の気候と気象が原因の山の事故について探る。
第9回	統計データの扱い方	平均値をはじめとする気候値の見方考える。
第10回	気候景観について	気候により形作られる景色について探り、地理的な視点を養う。
第11回	小気候現象について	生活空間で発現する現象について考えていく。
第12回	都市気候 その実態	ヒートアイランド現象の実態や成因などについて考える。
第13回	都市気候 その緩和策	熱的な影響が大きい都市での緩和策について考える。
第14回	これまでのまとめ	ここまでの取り扱いの内容から、改めて大気現象と生活との接点を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修にあたり、教科書は特に指定はしない。ただし、気候学・気象学に関連する文献はいろいろと手に取るべきであろう。あえてあげるならば『身近な気象の科学 熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版、1987年）などから読み始めるといいであろう。また、自然地理学についてこれまで関心の無かった場合は入門書として、地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版、2008年）などを手に取るといいかもしれない（ただし、この文献は自然地理学全般を取り扱っている）。その他に本学通信教育課程テキストの『自然地理学（気候・気象）』（佐藤典人、法政大学出版、2015年）などを手に取ってみると良い。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

『身近な気象の科学 熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版、1987年）
 地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版、2008年）
 『自然地理学（気候・気象）』（佐藤典人、法政大学出版（本学通信教育課程テキスト）、2015年）

【成績評価の方法と基準】

今年度は中間レポート提出と期末テストの受験の双方が必須となる。レポートの評価基準については以下の通りとする。まず、講義の内容を正しく理解できていることが確認できるレポートが書いているかを重視する。特に、講義で学んだ内容に関連した事柄について、その原理や付随する問題について論理的に説明しているレポートをまとめられているかが求められる。また、レポートの体裁（原稿用紙の使い方に準じているか、参考文献を適切に明示しているか、制限字数を意識しているかなど）も評価に関わるので注意してもらいたい。

次に、期末テストであるが、基本的には講義内容を元に出題するので、中間レポートと同様に講義内容の理解が大切であるが、応用問題も若干含まれるので内容を記憶するだけの学習では対応できないものがあるので注意すること。

評価の比率は中間レポートが40%、期末テストが60%である。また、ディスカッションでの発言内容が他の受講生にも参考になるようなものがあれば加点することもある。最後に、教室に赴いて受講することの代わりなのだから、しっかりと受講が前提である。よって、視聴履歴がしっかりついていない場合には単位認定を行わないこともある。要は、しっかり取り組むことが大切である。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートへの回答数が豊富ではないものの、過去の意見をいくつか挙げると、個々のレポートに赤を入れたうえでコメントをつけて返却されたことで今後の学習への参考になったという声や、季節の推移と講義内容を絡めた話題を適宜ディスカッションで投げかけられたことが双方向の授業であることを意識できたなど、好意的なコメントをいただいた。これらを受けて今年度も同じような進め方を継続したい。一方で、フィールドワークなどが実施されないことに不満を感じたという意見もあったが、オンデマンドでのオンライン受講であったり、海外にも受講者がいる場合には対応できないなどの課題が解決できないため、今後もその対応については難しいので、ご容赦いただきたい。

【Outline (in English)】

Course outline : This course deals with the relationship between daily life and climate on various scale phenomena occurring in the atmosphere.

Learning Objectives: The goals of this course are to

- (1) Be able to explain the phenomena in the atmosphere and theories of the phenomena.
- (2) Apply theories or findings to real world situations.

Learning activities outside of classroom : Students need about 4 hours to prepare and review the content each time.

Grading Criteria /Policy : Reports (40%) and tests (60%)

ECN100TF（経済学 / Economics 100）
経済学入門B / 経済学入門Ⅱ（後期メディア）
森田 裕史
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、マクロ経済学を理解する上で必要となる経済変数の定義と基本的な経済モデルについて学びます。

【到達目標】

基本的な経済変数の定義と作成の方法を理解する。マクロ経済モデルに基づいて経済政策の効果を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式の授業を行う。
 中間課題に対しては、システム上で採点を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	GDPとは	総生産の定義、GDPの作成方法
第2回	GDPに関連した概念	支出面から見たGDPの分類、物価指数
第3回	長期モデル1（1）	長期モデルにおける財市場の設定
第4回	長期モデル1（2）	経済政策の財市場への影響
第5回	長期モデル2（1）	長期モデルにおける貨幣市場の設定
第6回	長期モデル2（2）	経済政策の貨幣市場への影響
第7回	短期モデル（1）	短期モデルの設定
第8回	短期モデル（2）	短期モデルにおける経済政策の効果
第9回	人々の将来予想と経済変動（1）	民間消費と家計の将来予想
第10回	人々の将来予想と経済変動（2）	企業の将来予測と価格設定
第11回	経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造
第12回	経済成長モデル（2）	定常状態と資本の黄金律水準
第13回	経済成長モデル（3）	人口成長、技術進歩と経済成長
第14回	日本経済とマクロ経済学	失われた10年に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義後に出される課題に取り組むこと。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古沢泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学-次につながる基礎固め-（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【参考書】

塩路悦朗、『やさしいマクロ経済学（日経文庫）』、日本経済新聞出版社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）とメディアスクーリング試験（60%）に基づいて、成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The course introduces a definition of economic variables and the basic models for understanding the actual macroeconomic phenomenon. The goal of this course is to understand the macroeconomic structure using the knowledge of macroeconomic data and models. Students will be expected to address the problem sets after each lecture. Grading will be decided based on the mid-term exams (40%) and final exams (60%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
金融論B / 金融論II（後期メディア）
武田 浩一
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを知り、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生が、まず金融の面白さに触れ、さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説する。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。中間課題に対しては、システム上で採点を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第2回	金融市場	短期金融市場について
第3回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第4回	外国為替市場	外国為替市場について
第5回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第6回	資産証券化	資産証券化とは何か
第7回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第8回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第9回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルードレンス政策について
第10回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第11回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第12回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第13回	金融と情報の非対称性	金融取引における情報の非対称性について
第14回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がける。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊、2,200円）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

成績は試験によって評価する。メディアスクーリング試験（配分90%）だけでなく中間テスト（配分10%）も受講すること。

授業への出席が単位認定の前提条件となる。全てのメディアコンテンツを視聴・学習して小テストを受講した上で中間テストやメディアスクーリング試験を受講すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after classes. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (90%) and Mid-term examinations (10%).

ECN300TF（経済学/Economics 300）
経済政策論B／経済政策論II（後期メディア）
酒井 正
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の応用として、雇用や教育、医療等に関する諸施策について理解を深めます。特に、エビデンスに基づいた議論をおこなえるようにします。

【到達目標】

受講者が、本講義を通じて、諸制度が直面している課題や論点を把握することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

諸施策について、理論的なフレームワークを紹介した後に、現実の状況を見てゆきます。ミクロ経済学の知識は必ずしも前提としませんが、理論の検討に（経済政策論Aよりも）多くの時間を割きます。また、諸施策を議論するのにあたって実証分析の結果を検討する必要があるため、実証分析手法のエッセンスについても紹介します。それらの中には、やや高度な内容も含まれます。スライド資料にはいくつもの「問い」を提示するので、受講者自身でもその答を考えることが期待されます。各回の小テストではシステム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	実証分析の考え方	政策の効果を計測するための方法
2	労働供給のモデル（基礎）	労働供給モデルを理解する
3	労働供給のモデル（応用）	労働供給モデルを応用することで諸制度を分析する
4	外国人労働問題	外国人労働力の受け入れがもたらす影響を分析する
5	最低賃金制度	最低賃金制度の影響を理解する
6	差別の経済学	労働市場における差別を経済学的に分析する
7	賃金格差・雇用の二極化	賃金格差をもたらす諸要因について分析する
8	教育施策（1）	人的資本理論等について理解する
9	教育施策（2）	少数数学級等の個別の教育施策の効果に関する経済学の分析を紹介する
10	補償賃金格差	補償賃金格差の理論とその応用について見る
11	貧困	貧困の測定法や時間貧困について見る
12	医療サービスの特徴	需要面と供給面の双方から医療サービスの特徴について理解する
13	失業	失業の定義や失業の要因について見る

14 まとめ

本講義の整理とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義内容をよく復習し、毎回、自分で議論を整理してみることが求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

特になし（関連する文献は各回の講義内で紹介）

【成績評価の方法と基準】

期末におこなうレポート（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについては、問題の趣旨を明確にするよう心がけます。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to understand social policies by applying micro-economics to them. Empirical evidences from economic researches are mentioned in every lecture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based only on term paper (100%).

ECN200TF（経済学/Economics 200）

ミクロ経済学B／現代経済学Ⅱ（後期メディア）

平井 俊行

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：後期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学B/現代経済学Ⅱでは不完全競争市場・外部性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。ゲーム理論やミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。
 中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論(1)	戦略形ゲームの導入。
3	ゲーム理論(2)	最適反応戦略、(弱)支配戦略、ナッシュ均衡。
4	ゲーム理論(3)	戦略形ゲームの応用：オークション
5	ゲーム理論(4)	混合戦略ナッシュ均衡。
6	不完全競争市場(1)	独占市場。
7	不完全競争市場(2)	数量競争寡占市場。
8	不完全競争市場(3)	価格競争寡占市場。
9	ゲーム理論(5)	展開形ゲーム。展開形ゲームの戦略形ゲーム表現。
10	ゲーム理論(6)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
11	ゲーム理論(7)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
12	外部性(1)	外部(不)経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
13	外部性(2)	公共財の自発的供給と効率的な供給。
14	外部性(3)	メカニズムデザイン。VCGメカニズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。
 事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

第1回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト30%、期末試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学Aの内容を前提とします。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition and externalities. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations.

[Learning objectives] Students should surely acquire the contents of this course since game theory and microeconomic theory are essential foundations for advanced topic courses.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading criteria] 30% for midterm exam, 70% for final exam.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
マクロ経済学B / マクロ経済学 II（後期メディア）
奥山 利幸
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代経済学には、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の2つの基礎理論群があります。その内の「マクロ経済学」は、一国全体での所得や消費といった集計量を対象に、景気循環、景気変動、経済成長などの仕組み、また、それらに対する経済政策の影響を探求します。「マクロ経済学A/I」では1960年代までのマクロ経済学を中心に入門から初中級レベルで学びましたが、本講「マクロ経済学II/B」では日本経済のデフレや膨大な財政赤字の現状を踏まえ、ケインジアン理論における物価変動、インフレ/デフレ現象のとらえ方とその問題点、さらには1980年代以降のマクロ経済学の発展を見て行きます。

【到達目標】

- ・専門用語の理解：定義を述べられるか否か、具体的な例、数値などを示せるか
- ・理論の理解：図説が可能か、式で示せるか
- ・上記の応用力：現実に行っている例に適用したときに何が言えるのか（インプリケーション）、どういったことが今後、発生すると
言えるのか（予測）、理論はどの程度の説明力があるのか、その限界は何か（発展、新たな研究課題の発掘）

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

ケインジアン理論が、どのようにインフレ/デフレを説明しようとしたのかを見たのちに、時間の概念を明示的に導入した分析を見て行きます。そうした中で、1980年代以降のマクロ経済学を取り扱う予定です。

初回から最後の講義まで、すべて、講義形式の授業です。毎回の授業において、その授業にて明らかにする問題意識を提示します。学習する専門用語や概念をキーワードとして示しますので、一つ一つ、理解するように努めてください。そして、その回の授業の問題意識に対し、どのような答えを得たのか、最後に考えてみましょう。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	「マクロ経済学B/II」	「マクロ経済学A/I」で学んだこのトピックスと問題意識
第2回	AD・AS分析(1)AD 曲線	IS・LM分析から物価水準と均衡GDP水準の関係をみます。
第3回	AD・AS分析(2)労働 市場	IS・LM分析では分析対象としていなかった労働市場を分析します。
第4回	AD・AS分析(3)AS 曲線	第03講で学んだ労働市場の分析をベースに、生産者・生産要素側から見た物価水準とGDP水準の関係をみます。

第5回	AD・AS分析(4)「古典派」の命題群	ケインジアン理論をベースに物価水準とGDP水準の決定の理論を構築します。そのような理論であっても、古典派の各種命題が成り立つ条件を確認します。
第6回	AD・AS分析(5)「ケインジアン」の仮定と命題群	第05講で確認した古典派の命題群が成り立つ条件を満たさないときの分析を行います。
第7回	フィリップス曲線(1)	第06講までの分析は、時間の概念を明示的に扱わないIS・LM分析をベースにしています。本講以降は、時間軸を明示的に扱う分析に移ります。その最初としてフィリップス曲線を扱います。
第8回	フィリップス曲線(2)	時間の概念を明示的に考えると、どうしても、将来の出来事を予想しなければなりません。期待形成の仮説と政策の実施の仕方の関係を見ます。
第9回	ニュー・クラシカル (1)消費(1)	1980年代以降の「古典派」である「ニュークラシカル」の消費理論をみます。消費の「ライフサイクル仮説」や「恒常所得仮説」は、「ニュークラシカル」の消費理論の特殊理論であることをみます。
第10回	ニュー・クラシカル (2)消費(2)	「ニュークラシカル」の消費理論は、ケインズ型消費関数とは、まったく異なる振る舞いをし、その結果、財政政策の効果はケインジアン理論とは異なる結論を導き出すことを見ます。
第11回	ニュー・クラシカル (3)実物景気循環理論	ノーベル経済学賞の対象となった「ニュークラシカル」の景気循環理論を概観します。
第12回	ニュー・クラシカル (4)財政・金融政策の 効果	「ニュークラシカル」における財政・金融政策の効果を見ます。「古典派」の命題群が成り立つことが理解できます。
第13回	内生的成長理論	ケインジアンでもニュー・クラシカルでもとらえられない経済成長の問題を扱います。
第14回	ニュー・ケインジアン (1)80年代以降の ケインジアン	日本経済のデフレ現象や財政赤字の解決方法を見出せないIS・LM分析への反省にたった新しいケインジアン分析をみます。
第15回	ニュー・ケインジアン (2)「新しい新古典 派総合」	21世紀に入ろうとする頃、「ニュークラシカル」の分析にケインジアン要素を取り入れようとする「新しい新古典派総合」の動きが始まります。その理論構成、そして、展望・限界を見ます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習問題（Web）を行い、理解度を確認してください。経済学の理論は、積み上げになっていますので、過去に学んだことを確実に消化することが、次の講義の最大の準備学習になります。学んだ専門用語、理論に対し、曖昧さを無くすように復習しましょう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書は、ありません。

【参考書】

[注意] 以下は、講義内容が理解できない場合に参考にするという図書（あいうえお順）
 エーベル/バルナンケ『マクロ経済学』CAP
 ゴードン『マクロエコノミクス』多賀出版
 ブランチャール『マクロ経済学』東洋経済
 ホール/テイラー『マクロ経済学』多賀出版
 マンキュー『マクロ経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】

中間レポート30%、試験70%、但し、中間レポートの提出は必須：
専門用語・理論の理解80%、応用力20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

・ Course outline

This course deals with macroeconomics. It also enhances the development of students' skill in economic applications.

・ Learning Objectives

The goals of this course are to understand and explain macroeconomic terminology and theories, and to apply them to actual phenomena.

・ Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

・ Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%) and term-end examination (70%).

ECN200TF（経済学/Economics 200）
国際経済論B／国際経済論Ⅱ（後期メディア）
田村 晶子
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。世界各国の為替制度の選択や欧州統一通貨など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を解いてもらい、練習問題の解答や解き方を解説します。中間課題に対しては、全体講評、または、模範解答や優秀レポート等の掲示、を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表	日本の国際収支表の見方
第2回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第3回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第4回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第5回	短期為替レート決定	アセットアプローチ
第6回	金融政策と為替レート	金融政策が与える影響
第7回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第8回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第9回	短期の産出と為替レート	金融政策、財政政策の効果
第10回	固定為替レートと外国為替市場介入	外国為替市場介入の効果
第11回	国際通貨制度	政策目標と変動相場制支持論
第12回	金融のグローバル化とリスク	リスク要因と為替レート
第13回	最適通貨圏とユーロ	固定相場制の範囲
第14回	発展途上国と通貨危機	発展途上国における問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ著 『クルグマン国際経済学 理論と政策：下 金融編（原著第10版）』丸善出版、2017年

【参考書】

清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）と期末レポート（60%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on midterm report(40%) and term-end report(60%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
環境経済論 B / 環境経済論 II（後期メディア）
松波 淳也
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学のひとつの応用分野である「廃棄物・リサイクルの経済学」を学ぶ。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、最近、理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げる。本講義受講により、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

中間課題に対しては、①採点、②採点基準の提示、③優秀レポートの掲示、を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック、プラスチック問題、食品ロス、衣料品ロス
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3Rの優先順位、2つの基本理念、サーキュラー・エコノミー
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」「サーキュラー・エコノミー」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のイニシアティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR II - E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法、PCリサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A/I（環境経済学の基礎理論・概念）を既習であることが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

時政・藪田・今泉・有吉編著：『環境と資源の経済学』、勁草書房。
 細田衛士：『グッズとバツズの経済学』、東洋経済新報社。

【参考書】

環境省ホームページ <https://www.env.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(50%)とレポート試験(50%)の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the economics of waste management, which is one application field of the environmental economics. The goal of this course is to acquire the basic concepts and methods of the economics of waste management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report(50%), term-end report(50%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
開発経済入門B(後期メディア)
池上 宗信
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発途上国の貧困家計の直面するリスクを概観し、不確実性および不完全情報のもとでの家計の意思決定の理論モデルを学びます。そして、それらに基づいて、貧困家計の保険、分益小作、信用、貯蓄、起業を概観します。

【到達目標】

途上国では貧困削減政策としてマイクロファイナンスなどが実施されています。このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心になりますが、授業中に演習問題があるので、ビデオを一時停止し、受講生自身で解く努力をしてから、ビデオを再生、解答を見てください。

中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	アドバース・セレクション	完全情報のケース、不完全情報のケース、保険の例
2	スクリーニング	保険の例
3	分益小作1	小作人の生産性とスクリーニング
4	分益小作2	小作人の努力水準とモラル・ハザード
5	分益小作3	自作農の努力水準と効用最大化
6	分益小作4	マーシャルの非効率性、リスク分散
7	分益小作5	実証研究モラル・ハザード
8	信用1	アドバース・セレクション
9	信用2	グループ貸付、投資選択
10	信用3	努力選択、返済行動、実証研究
11	貯蓄	異時点間効用最大化、実証研究
12	労働需要	企業の利潤最大化
13	起業1	信用制約、一般均衡
14	起業2	貧困の罠、実証研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。予習・復習として各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献を読んでください。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義のスライドは、各授業のスライドの最後にある参考文献リストの文献、特にリストの一番上の文献に基づきます。

以下のような文献などです。

- 高野久紀(2014,2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号
- ディーン・カーラン, ジェイコブ・アベル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房
- アビジット・バナジー, エスター・デュフロ (2012)『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

オンラインシステム上の中間テスト20%、期末（メディアスクーリング）テスト80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開発経済入門Bの内容の多くは、開発経済入門Aの第9-14回で学んだ、リスク、モラル・ハザードに基づいています。開発経済入門Aを履修した後に、開発経済入門Bを履修することをおすすめします。昨年度は授業改善アンケートへの回答がありませんでした。回答へのご協力をよろしくおねがいいたします。

【Outline (in English)】

Course outline

We will review the risk which poor households in developing countries face. We will study household decisions under uncertainty and asymmetric information. Based on these models, we will study insurance, share cropping, credit, saving, and entrepreneurship for poor households in developing countries.

Learning Objectives

In developing countries, poverty alleviation policies such as microfinance have been implemented. The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture. Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exams on online system (20%) and end-term exam (80%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

国際貿易論B(後期メディア)**武智 一貴**

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：後期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関(World Trade Organization, WTO)の歴史、役割について紹介します。

【到達目標】

世界の貿易ルールをつかさどる国際機関であるWTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例にWTOの機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いてWTOの下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。

中間レポートに対しては、採点結果の返却および模範解答を掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT,WTOとは何か
2)	WTOの理念	国際機関の設立の理念史
3)	WTOルール	WTOにおける自由貿易促進の原則
4)	関税の影響	小国と大国、社会的余剰
5)	関税戦争	交易条件効果と関税
6)	WTOの存在意義	協調関税引き下げメカニズム
7)	WTOの紛争処理	紛争処理システム
8)	内国民待遇と日本の酒税	日本の酒税に関する紛争の帰結
9)	セーフガードとは何か	WTO下における数量制限
10)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガードの分析
11)	アンチダンピング	アンチダンピングとは何か
12)	日本によるアンチダンピング税の分析	アンチダンピング税の影響
13)	補助金相殺関税の分析	補助金相殺関税とは何か、補助金の認定と補助金の影響の分析
14)	WTO原則の例外	一般例外と安全保障例外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を元に学習を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）およびレポートの結果等(70%)により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the role of the international organization (World Trade Organization (WTO)), which governs the rule of international trade. Our learning objective is to understand the role of WTO in international trade. Students are expected to study four hours to prepare for the class. Grading will be determined by the performance of midterm report (30%) and final report (70%).

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
経済地理(Ⅱ)(後期メディア)
近藤 章夫
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済学と集積①	集積の利益とは何か
第3回	経済学と集積②	経済成長と集積の関係
第4回	集積論の潮流①	A.WeberとA.Marshallの集積論
第5回	集積論の潮流②	外部経済と集積の経済
第6回	現代の集積論①	新しい集積論の系譜、経済理論の発展
第7回	現代の集積論②	空間経済学とクラスター論
第8回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	自動車産業の集積①	生産システムと近接性
第11回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第12回	ハイテク産業の集積①	知識経済とイノベーション
第13回	ハイテク産業の集積②	産学連携とシリコンバレーモデル
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
 川端基夫（2008）『立地ウォーズ』新評論
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
 山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report(20%) and term-end report(60%), and each-class requirement(20%)

LAN300TF
ビジネス英語B(後期メディア)
中谷 安男
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本を代表する企業のグローバルリーダーのケーススタディを通してビジネス英語力をつける。実際のとても興味深いビジネスの成功事例を理解しながら楽しく英語を学ぶ。英国オックスフォード大学のディベートやリーダーシップの構築方法を学ぶ

【到達目標】

実際のビジネスケーススタディを英語で学びながら、ビジネスにおけるリーダーシップ、ビジネス戦略、国際マーケティングの基礎知識を身に付ける。国際ビジネスリーダーになるためのオックスフォード大学式ディベートとリーダーシップについて学ぶ。

Learning real business case studies in English while acquiring fundamental knowledge of leadership, business strategy, and international marketing. Exploring the Oxford University-style debate and leadership to become an international business leader.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP6,DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

有名企業のビジネスケースを扱い、語彙、リスニング、リーディングの演習を行う。

教科書を熟読しディベートやリーダーシップについて自学する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	Intel in It Initiating World's Biggest Joint Marketing Project
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola ディベートを知ろう
3	Enhancing Luxury Brand Identity	Chanel & Dior 逆の立場から考えよう
4	Changing a Big Company with Management of Technology	Sapporo オックスフォード大学の伝統とは
5	Reviving a Leading Brand	Ryohin Keikaku オックスフォード・ユニオン
6	Negotiating with Headquarters	Intel TQC プレジデントへの道
7	Making a Challenging Business Profitable	JR Kyushu Jet Ferry ディベート力をいかに身に付けるか
8	Becoming a Representative Corporate Citizen in China	Shiseido China ロールモデル理論

9	Developing New Business in Emerging Markets	Toshiba Vietnam なぜ？という問いに答える
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Marketing Mix 課題を見極めよう
11	Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand	Hakata Torimon どうすればフォロワーに伝わるのか
12	Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies	Global Muji 英語と日本語のコンテキストの違いとは
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido 低コンテキストの英語スピーチの基本とは
14	Konica Minolta	Business Culture 英国の国家リーダーのコミュニケーション戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

Preparation and review:

The standard allotted time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan. 2nd Revised Edition 金星堂 Nakatani, Y. & Smithers, R. 必ず2nd Editionを手に入れる

『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』中谷 安男 中央経済社

（書き込みなどあるものは不可:カンニングとみなします）

【参考書】

『ケース・メソッド入門』石田英夫 他 慶應義塾大学出版

【成績評価の方法と基準】

中間レポート4割

期末レポート6割

・ビジネス英語の基礎力がついているか

・テキストで取り扱うビジネスリーダーシップの理解ができているか

・ビジネスケースの簡単な要約が英語でできるか

・ディベートやリーダーシップの重要性が把握できているか

40% for the midterm report

60% for the final report

The assessment will focus on the following criteria:

Proficiency in Business English fundamentals.

Understanding of business leadership concepts covered in the textbook.

Ability to provide a brief summary of business cases in English.

Awareness of the importance of debate and leadership.

【学生の意見等からの気づき】

ディベートの自学自習を指示する。

【その他の重要事項】

ビジネス英語の履修目安の英語力としてはTOEIC480点、英検2級以上とする。

中谷の担当する「経済学特講」を必ず履修すること

【Outline (in English)】

The objective of this course is to develop your understanding of the basic principles, strategies, and tactics of effective negotiation in business contexts. By using case study approaches, this course improves your business English and debating skills.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
労働経済論B(後期メディア)
佐野 晋平
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学を応用し労働市場の機能を分析手法とその応用例を講義する。労働経済論Bでは、労働経済論Aで習得した内容に応用し、様々な労働問題について講義する。

【到達目標】

労働経済学の基礎理論と統計データに基づき、労働問題を理解できるようにすることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

資料に基づき講義を進める。労働経済学Aで学んだ内容を応用し様々な労働問題を分析する。具体的には、学校教育（学校資源、教師、早期教育）、職場内訓練、内部労働市場、多様な雇用形態、所得格差、失業に関して、理論をどのように応用して問題を分析するのか、関連する統計や研究について紹介する。

中間課題に対しては、システム上で採点を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	人的資本とシグナリング	学歴間賃金格差を説明する2つの理論を対比させつつ学ぶ
2	教育の生産関数	学校教育を分析するツールである教育の生産関数を学ぶ
3	学校資源	クラスサイズ、ピア効果に関する議論を紹介する
4	教員の労働市場	教員の労働市場に関する議論を紹介する
5	経済格差と教育格差	経済格差と教育格差に関する議論を紹介する
6	所得格差の計測	ジニ係数など所得格差を計測する方法を学ぶ
7	職場訓練の理論	職場訓練（一般訓練、企業特殊訓練）と費用負担の関係を議論する
8	賃金プロフィール	年齢や勤続年数に応じて賃金が上昇することを説明する理論を紹介する
9	技術革新と二極化問題	技術革新、仕事・賃金の二極化について学ぶ
10	失業1	失業に関する統計事実やマクロ経済との関連を学ぶ
11	失業2	賃金の硬直性によって生じる失業について学ぶ
12	失業3	ジョブサーチ理論について学ぶ
13	多様な雇用形態	いわゆる正社員、パートタイム労働など、多様な雇用形態の論点について学ぶ
14	長時間労働問題	長時間労働に関する論点について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。統計学・計量経済学の知識があると理解がより深まる。復習を重視すると共に、参考書を精読すると理解が深まる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料に基づく。関連する文献は適宜紹介する。

【参考書】

川口大司『労働経済学』有斐閣

宮本弘暁『労働経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）+メディアスクーリング試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

・Course outline: This course introduces students to the method of economic analysis of labor market. Especially, we focus on various issues of labor market based on Labor Economics A.

・Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the issues of labor market based on economic theory and statistics.

・Learning activities outside of classroom: Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

・Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process mid-term examination 40% and final examination 60%.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

会計学入門Ⅱ（後期メディア）

神谷 健司

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：後期
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学入門Ⅰでは、基本的な財務諸表の読み方、財務会計で用いられる基本的な考え方、会計用語の基本的なものについて学習してきたが、続く会計学入門Ⅱでは、会計基準を適用した具体的な会計処理や計算方法について学習を進め、財務会計の基本的テキストの内容を十分理解することを目標とする。最後の部分で原価計算と管理会計の基礎等についても触れることにする。なお財務会計のより専門的な学習は通教課程の『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』で学ぶことになる。

【到達目標】

財務会計の基本的な考え方、重要な会計基準に基づく具体的な会計処理の方法、財務諸表の作成に対する基本的な考え方について学んでいく。後半の2回においては原価計算、管理会計、監査論の基礎などにも触れ、企業会計全体の領域も考えていきたい。テキストに出てくる重要な概念、専門用語については十分理解していただきたい。重要な部分については講義でも示していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストに基づいてパワーポイントを用いた講義を行う。わかりにくい事例については具体的な計算例や事例に触れて説明を行う。各回の小テストについては、システム上で採点を実施し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総論	会計学入門Ⅰの内容を確認するとともに、会計の意義、会計の種類、会計の役割、会計学の研究対象等について学ぶ。
第2回	企業会計の仕組み	財務諸表、財産法と損益報、棚卸法と誘導法、会計公準、会計原則等について学ぶ。
第3回	企業会計制度	会社法による会計規定、金融商品取引法による会計規定、法人税法による会計規定等について学ぶ。
第4回	資産会計（1）	資産と資産会計の意義、資産の分類、資産の評価基準、および流動資産のうち当座資産、棚卸資産の部分について学ぶ。
第5回	資産会計（2）	流動資産のうち前回触れなかった部分と、固定資産、繰延資産の会計処理について学ぶ。ここでは固定資産の減損処理についても言及する。
第6回	負債会計	負債と負債会計の意義、負債の分類、負債性引当金、流動負債、固定負債、負債の表示について学ぶ。リース債務について触れる際にリース取引の会計処理についても言及する。

第7回	資本会計（1）	資本と資本会計の意義、資本の分類、純資産と株主資本、資本金、資本剰余金について学ぶ。
第8回	資本会計（2）	利益剰余金、自己株式、評価・換算差額、新株予約権について学ぶ。
第9回	損益会計（1）	損益会計の意義、損益項目の分類、損益会計の諸原則、営業収益について学ぶ。わが国の「収益認識に関する会計基準」の基本的な考え方についても学ぶ。
第10回	損益会計（2）	営業費用、営業外損益、特別損益、法人税等について学ぶ。
第11回	財務諸表の作成（1）	財務諸表の意義と種類、会社法、金融商品取引法、法人税法に基づく財務諸表について学ぶ。
第12回	財務諸表の作成（2）	財務諸表の作成方法、財務諸表の作成例について学ぶとともに、連結財務諸表を作成する意義、目的、および基本的な考え方について学ぶ。
第13回	原価計算と管理会計の基礎	原価計算の目的、原価概念、原価計算の体系等について学ぶ。また管理会計の役割、管理会計の体系、短期利益計画と予算管理等についても学んでいく。
第14回	監査論と税務会計論の基礎と、この講義全体のまとめ	今まで話してきた内容でとのかかわりで監査論と税務会計論の基本的で重要な部分に言及する。また会計学入門Ⅱの講義全体での重要箇所について確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを十分学習するとともに、テキスト各章末の研究問題を解くことが求められる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新井清光・川村義則『現代会計学（第3版）』中央経済社、2020年この本について講義開始前までに必ず準備してください。

【参考書】

上野清貴『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社、2018年、桜井久勝『財務会計講義（最新版）』中央経済社、通教課程テキスト：神谷健司・市川佳功『簿記Ⅲ・Ⅳ』、『会計法規集』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

最終的な試験によって評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

できれば『会計法規集』を用意して、講義に関連する会計等にも目を通していただきたい。

【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があり、「会計学入門Ⅰ」程度の知識（基本的な財務諸表が読める）程度の知識があることがこの科目履修の前提である。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『簿記Ⅳ』といった科目があげられる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equity items, revenues, and expenses items. We also will learn the basic subjects of consolidated financial statements, and management accounting.

Before/after each lectures, students will be expected to read text book at least 4 hours. Grading will be decided based on term-end examination(100%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営戦略論Ⅱ（後期メディア）
李 瑞雪
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、『経営戦略論Ⅰ』と合わせて経営学における中核領域の一つである経営戦略論に関する概論の内容を学びます。主に全社戦略とサプライチェーン戦略に関する基本的な理論や概念を理解するとともに、具体的な企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を分析する能力を養うことを目的とします。

【到達目標】

主要な全社戦略とサプライチェーン戦略に関する理論と概念を使って、現実の戦略的行動とその効果を説明し、分析することができるようになることを、本講義の主たる到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア授業の性格上、基本的には講義方式を採用します。授業中に提示される演習問題を使いながら練習・復習することによって、内容の理解を深めます。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	ネットワーク外部性と競争優位	ネットワーク外部性、互換性、デファクト・スタンダード獲得戦略（クローズド戦略とオープン戦略）、クリティカル・マス、Fast Mover Advantage。
第02回	イノベーションと競争優位Ⅰ	イノベーションの定義と分類、イノベーションの特徴とそのマネジメント、イノベーションと競争優位との関係、「新結合」、「迅速な追随者」
第03回	イノベーションと競争優位Ⅱ	イノベーションのジレンマ、持続的技術と破壊的技術、「死の谷（デスバレー）」、知的財産戦略（イノベーションの収益化）、オープン・イノベーション、リーバス・イノベーション、ブルーガル・イノベーション
第04回	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム、強みの源泉の専有化、経営資源の不確実性、暗黙知と形式知、強みの累積、先手の連鎖、戦略フィット、活動システム、柔道ストラテジー
第05回	多角化と企業戦略Ⅰ	企業戦略、事業展開の方向、企業優位、多角化戦略の定義、多角化の誘因、多角化の類型

第06回	多角化と企業戦略Ⅱ	多角化戦略の動機、多角化度、多角化の程度と経営パフォーマンスの関係、ダイナミックな学習プロセスとしての多角化、多角化の犯しやすい間違い
第07回	垂直統合と企業戦略Ⅰ	垂直方向の事業展開、垂直統合度、Make or Buyの意思決定、第3の取引形態
第08回	垂直統合と企業戦略Ⅱ	取引統治メカニズムの類型（スポット市場契約、完備契約、逐次契約、関係性に基づく契約、内部市場、官僚制、クラン）、垂直統合と持続的競争優位との関係、垂直統合のための組織
第09回	国際化と企業戦略Ⅰ	国際化の類型、国際化戦略における範囲の経済、海外顧客の購入意思と購入能力、輸入障壁
第10回	国際化と企業戦略Ⅱ	OLIフレームワーク、統合化と適応化、国際企業戦略の類型、CAGEフレームワーク、AAA戦略
第11回	合併買収と企業戦略Ⅰ	M&Aの類型、戦略的関連性の源泉、M&A戦略の動機、M&A戦略と企業パフォーマンスとの関係
第12回	合併買収と企業戦略Ⅱ	ベンディング企業の経営者の規範、ターゲット企業の経営者の原則、ターゲット企業の行動、ターゲット企業の対抗策の経済的効果
第13回	戦略提携と企業戦略	戦略的提携の定義と形態、戦略的提携と業界構造、戦略的提携の動機、提携におけるリスク
第14回	ロジスティクス／SCM戦略	ロジスティクス戦略、サプライチェーン戦略、プロセス管理、SCMと競争優位

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃に日本経済新聞、日経ビジネス、Bloomberg Businessweekなどの経済紙、ビジネス誌を読む習慣を身につけ、とりわけ企業の戦略的取り組みをめぐる記事や論説を読んで考えることをお勧めします。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣

【参考書】

M. E. ポーター『競争の戦略』ダイヤモンド社、デビッド・J. コリス+シンシア・A・モンゴメリー『資源ベースの経営戦略論』東洋経済新報社、Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）とレポート試験（60%）の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として経営戦略論Ⅰがある。あわせて履修することが望ましい。まずⅠを履修し、その後Ⅱを履修した方が理解が深まるため、Ⅰ、Ⅱの順で履修すると良い。主な関連科目として、経営学総論、経営分析、日本経営論、経営組織論、マーケティング論などが挙げられます。

【Outline (in English)】

In this course, we will study the introductory content related to strategic management, which is one of the core areas in management studies. The primary focus in this course is on understanding basic theories and concepts related to corporate strategy and supply chain strategy, and we aim to develop the ability to analyze strategic actions of companies through examining their connection with specific business initiatives.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
マーケティング論Ⅱ（後期メディア）
竹内 淑恵
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のマーケティングの課題は、製品やブランドを日常生活の一部にする、活発でインタラクティブな消費者のコミュニティを創造することです。本講義では、顧客価値を創造し、ロイヤル顧客を獲得する方法を学びます。内容は5つの主要なテーマから構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

この講義によって、今日のマーケティングの本質をとらえた革新的な顧客価値と顧客リレーションシップの枠組みを理解することができます。

【到達目標】

以下に挙げる点が本授業の達成目標です。

- ・マーケティングの概念と理論を中心に学び、マーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得する。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。
- ・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・マーケティング論Ⅱもマーケティング論Ⅰと同様、講義形式で授業を進めます。
- ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説しますが、随時いろいろなケースを取り上げます。
- ・中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	マーケティングの本質	マーケティングの定義、マーケティングの5つのステップのうち「顧客ニーズの理解」、「顧客とのリレーションシップの構築」、「顧客からの価値の獲得」について学ぶ。
第02回	企業とマーケティング戦略	マーケティングの5つのステップのうち、第1回で取り上げなかった「顧客主導型マーケティング戦略の設計」、「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。

第03回	競争優位の創造	競合他社の明確化と競合他社の分析、自社のポジションの規定、競争的マーケティング戦略について学ぶ。
第04回	マーケティングの基本枠組み	マーケティングの基本枠組みであるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。
第05回	マーケティング情報とカスタマー・インサイト	潜在的なニーズの掘り起こし、マーケティングに関する重要な情報の管理、カスタマー・インサイトについて学ぶ。
第06回	消費者の購買行動	消費者行動のモデル、消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプ、購買者の意思決定プロセスについて学ぶ。
第07回	製品、サービス、ブランド	製品の定義、製品・サービスに関する意思決定、サービス・マーケティング、ブランディングについて学ぶ。
第08回	新製品開発と製品ライフサイクル戦略	新製品開発プロセスとそのマネジメント、製品ライフサイクル戦略、グローバルな展開について学ぶ。
第09回	マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供	サプライ・チェーンと価値提供ネットワーク、チャンネル・コンフリクトとマーケティング・システム、チャンネル設計に関する意思決定、マーケティング・ロジスティクスについて学ぶ。
第10回	価格設定	価格設定戦略、価格調整戦略、価格変更について学ぶ。
第11回	コミュニケーションによる顧客価値の説得	コミュニケーション・ミックス、統合型マーケティング・コミュニケーション、予算とコミュニケーション・ミックスについて学ぶ。
第12回	広告とパブリック・リレーションズ	広告の定義、広告戦略の展開、広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学ぶ。
第13回	人的販売と販売促進	人的販売、セールス・フォースの管理、人的販売のプロセス、販売促進について学ぶ。
第14回	ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング	ダイレクト・マーケティングの捉え方とその形態、オンライン・マーケティングの実施について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。

今年度の授業資料では、
 ・新しいデータを追加したり、
 ・1枚のスライドを複数枚に分割したり、
 ・まとめ方を修正したり、
 ・参考図書等の画像を新たに追加したり、
 ビデオ内での説明や画面の内容と若干異なる改訂版を配布します。準備学習や復習等に役立ててください。なお、修正・追加箇所については該当するページに明記してあります。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コトラー, P., G. アームストロング, 恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。
- ・西尾チツル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。

・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
・竹内淑恵編著 『リレーションシップのマネジメント』 文眞堂(2014年)。この書籍は、特にマーケティングをテーマにした卒業論文に取り組む方の参考になるとと思います。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト1,2を各々25%計50%、そして、レポート試験を50%とし合算して評価します。

(注)2回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がありますが、レポートだけ(最高でも50点)では単位取得できませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】

メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて、具体的、かつ、わかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

Course outline: Today's marketing challenge is to create lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. In this course, students learn how to create customer value and acquire loyal customers. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

BSP100FA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
統計学入門(後期メディア)
高橋 慎
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学が注目を集めています。経営分野において、マーケティング戦略の決定や投資行動などの意思決定を適切に行うには、データに基づいて客観的に決定する必要があります。そこで利用するのが、統計学です。この授業では、統計学の基本的な理論について学びます。

【到達目標】

- ・統計学の基本的な考え方を理解し、他の人に説明できる。
- ・データの整理・要約ができる。
- ・データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
- ・授業で学習した内容について、小テストを解いて理解を深めます。
- ・各回の小テストについて、次の回に解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/統計学とは	授業の概要と進め方について説明します。また、データと母集団などの統計学の基本的概念を学びます。
第2回	1次元のデータ：図表の作成	データをわかりやすく図表にまとめる方法として、度数分布表とヒストグラムの作り方を学びます。
第3回	1次元のデータ：中心を表す標本特性値	データの中心を表す3つの特性値（平均、中央値、最頻値）の定義と特徴および利用方法を学びます。
第4回	1次元のデータ：ばらつきを表す標本特性値	データのばらつきをの程度を表す分散と標準偏差を学びます。
第5回	2次元のデータ：範囲と割合の関係	データの範囲と分布の割合について、経験的な関係とその応用例を学びます。
第6回	2次元のデータ：散布図/共分散	散布図を利用して2つの変数の大まかな相互関係を把握する方法を学びます。また、2つの変数間の相関関係を表す共分散を学びます。
第7回	2次元のデータ：相関係数/相関係数の注意点	2つの変数間の相関関係を表す相関係数を学びます。また、相関と因果関係の違いなど、相関係数の見方や解釈について注意すべき点を学びます。
第8回	確率変数	確率変数と確率分布の定義、期待値や分散などの基本概念を学びます。

第9回	確率分布1：離散確率分布	代表的な離散確率分布として、ベルヌーイ分布と二項分布を学びます。
第10回	確率分布2：連続確率分布	代表的な連続確率分布として、正規分布を学びます。
第11回	母数の推定1：基本概念	データから母集団の特性値（母数）を推測すること（推定）の考え方、推定量と推定値などの基本概念を学びます。
第12回	母数の推定2：点推定	母集団の平均（母平均）の推定量の統計的性質を学びます。
第13回	母数の推定3：区間推定	母平均が存在すると思われる区間の推定（区間推定）を学びます。
第14回	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的なトピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後にテキストや資料を見直し、基本概念の理解度を確認します。
- ・小テストを課題として解きます。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Diez・Cetinkaya-Rundel・Barr著、国友・小暮・吉田訳(2021)『データ分析のための統計学入門』("OpenIntro Statistics, 4th Edition") 日本統計協会、ISBN 978-4-8223-4105-3
PDF版は以下のリンクからダウンロードできます。
[http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open\(S\).pdf](http://www.kunitomo-lab.sakura.ne.jp/2021-3-3Open(S).pdf)

【参考書】

- ・藪友良(2012)『入門 実践する統計学』東洋経済新報社
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会
- ・その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト：50%
- ・期末テスト：50%

【学生の意見等からの気づき】

より発展的な内容も参考文献とともに紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で行う演習や練習問題を解くには、統計計算ができる電卓またはエクセル（あるいはGoogleスプレッドシート）を使える端末（スマートフォン、タブレット、パソコン等）が必要となります。

【その他の重要事項】

- ・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
- ・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Recently, statistics has attracted attention from both business and academia. Making good business decisions, such as marketing and investment strategies, requires objective evidence based on data, i.e. statistics. In this course, we will learn the basic theories of statistics.

The primary goals of this course are: to understand the basic concepts of statistics and to be able to explain them to others; to be able to organize and summarize data; and to be able to discuss trends in data from summary statistics and graphs.

You will be expected to review the textbook and materials after class to check your understanding of the basic concepts. You will be required to complete practice questions as assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be based on 40% assignments and 60% final exam.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
税務会計Ⅱ（後期メディア）
大下 勇二
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題（新しい事業体の課税問題、交際費・寄附金の課税問題、役員給与の課税問題、不良債権の課税問題、減価償却の諸問題、企業組織再編とグループ課税の問題、国際課税の問題など）を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方の応用的な側面を学習します。

【到達目標】

新しい事業体の課税問題、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日的なテーマにそって、受講生は法人課税上の諸問題を理論的に整理し、深く考える能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、わが国法人税課税上、重要な問題となっている主要項目を、スライドに基づき解説する形で進めていきます。また、各回の最後に受講生には簡単な問題を回答してもらい、理解の程度を確認しながら次に進みます。また、中間レポートを提出してもらいます。中間レポートに対しては、提出期間終了後に模範解答を開示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	事業形態の多様化と課税問題	ベイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
②	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
③	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
④	給与の支給形態の多様化と課税問題(1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
⑤	給与の支給形態の多様化と課税問題(2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
⑥	不良債権の償却の課税問題(1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
⑦	不良債権の償却の課税問題(2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
⑧	固定資産の減価償却-その2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
⑨	固定資産の減価償却-その2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。

⑩	企業活動の集団化と課税問題(1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
⑪	企業活動の集団化と課税問題(2)	グループ法人税制(グループ法人単体課税制度と連結納税制度)の特徴とその考え方を学習する。
⑫	企業活動の国際化と課税問題(1)	国際課税の基礎理論を学習する。
⑬	企業活動の国際化と課税問題(2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて学習する。
⑭	企業活動の国際化と課税問題(3)	移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んでおく必要があります。中間レポートの作成・提出が求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ(第2版)』法政大学,2019年

【参考書】

テキストの「参考文献」を参照。

【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提に修了試験(100%)により成績を評価します。中間レポートの提出がない場合には、修了試験の結果にかかわらず、成績評価は「D」評価となりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

関心のある身近な事例をできるだけ取り上げたい。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

財務会計、国際会計、税務会計

〈研究テーマ〉

フランス会計制度研究

プラン・コンタブルの国際比較研究

税務会計における会計基準の利用問題

〈主要研究業績〉

① 単著『連単分離の会計システム-フランスにおける2つの会計標準化-』法政大学出版局,2018年。

② 共著『プラン・コンタブルの国際比較』（野村健太郎編著）中央経済社、2005年。

③ 共著『IFRS・IAS(国際財務報告基準・国際会計基準)徹底解説』（菊谷正人編著）税務経理協会,2009年。

【Outline (in English)】

The objective of Tax Accounting II is to understand the problems of corporate income taxation in Japan. In this course, we will take up various problems of current corporate income taxation (for example, new business entities, entertainment expense, donation, executive compensation, disposal of bad loans, corporate reorganization, group taxation and international taxation). Student will be expected to have completed mid-term report. Your overall grade will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
国際金融論Ⅱ（後期メディア）
横内 正雄
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化（金融化）が著しく進んできている。日々のニュースなどでは、この金融グローバル化に関連した出来事がしばしば取り上げられてきている。国際金融論Ⅱでは、国際金融の基礎的な理論を理解した上で、金融グローバル化が進んできた歴史的な過程と国際金融の現状について学ぶ。

【到達目標】

国際金融論Ⅱは、国際通貨体制や国際金融の現象について、第一次大戦前の国際金本位制から現在に到るまでをだどりながら、その背後にある流れを捉え、国際金融の現状をより深く理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際通貨体制とは何か。その定義と分析視角について学ぶ。
第2回	第一次大戦前の国際金本位制	第一次大戦前の国際金本位制の基本的な特徴について学ぶ。
第3回	両大戦間期の国際通貨システム	両大戦間期の再建金本位制がなぜ短命に終わったのかを学ぶ。
第4回	I M F の形成	1930年代の国際金融の混乱と戦後の国際通貨体制を構想したブレトンウッズ会議での議論について学ぶ。
第5回	ブレトンウッズ体制(1)	戦後のブレトンウッズ体制の基本的な特徴について学ぶ。
第6回	ブレトンウッズ体制(2)	戦後のブレトンウッズ体制の問題点とその崩壊過程について学ぶ。
第7回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所と短所および様々な為替相場制度の特徴について学ぶ。
第8回	石油危機と累積債務問題	1970年代の石油危機が国際金融にもたらした影響と1980年代の途上国の累積債務問題について学ぶ。
第9回	1980年代の日米経常収支不均衡	1980年代以降生じている日米の経常収支不均衡の問題について学ぶ。

第10回	国際金融の政策協調	1980年代のドル高を是正するための国際政策協調の過程と国際政策協調の理論について学ぶ。
第11回	1990年代の円高問題	1990年代の円高をもたらした要因と内外価格差の原因について学ぶ。
第12回	欧州通貨統合	ユーロの導入に到る欧州の通貨統合の過程について学ぶ。
第13回	通貨危機	1990年代の3つの通貨危機についてその過程をたどるとともに通貨危機の理論を学ぶ。
第14回	通貨危機から金融危機へ	1997年のアジア通貨危機から2008年のリーマンショックに到るまでの国際金融の流れを学ぶ。
第15回	ユーロ危機	ギリシャの経済危機に端を発するユーロ危機についてその過程と背景について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持つておくことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

- 初級レベルの参考書
 - ・西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020年
 - ・山本栄治『国際通貨システム』岩波書店、1997年
 - ・石見徹『国際通貨・金融システムの歴史』有斐閣、1995年
- 中級レベルの参考書
 - ・上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007年
 - ・上川孝夫『国際金融史』日本経済評論社、2016年
 - ・田中素香・岩田健治編『現代国際金融』有斐閣、2008年
 - ・勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011年
 - ・川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』[第4版]有斐閣、2012年
- 資料集
 - ・神田真人編『図説国際金融2015-2016年版』財経詳報社、2015年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）と試験（60%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In the course of International Finance II, students will learn the history and current status of international finance, starting with the international gold standard, based on their understanding of International Finance I. Specifically, this lecture will trace the evolution of the international monetary system, including the international gold standard, the Bretton Woods system, and the floating exchange rate system, and will cover topics such as currency crises, currency unification, and global imbalances. The goal of this lecture is to understand the nature of financial globalization that is currently underway. Students are expected to read reference books in advance and prepare a mid-term report for the class as study outside of class time. It is also helpful to keep up with daily news related to international finance. Evaluation will be based on the mid-term report (40%) and the final exam (60%).

MAN300TG（経営学 / Management 300）
管理会計論Ⅱ（後期メディア）
北田 皓嗣
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基本	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	責任センター	コストセンター、プロフィットセンター
第3回	事業部制組織の管理会計1	事業部の業績評価、内部振替価格、事業部の利益概念
第4回	事業部制組織の管理会計2	ROCE, RI, 本社費・共通費の配賦
第5回	バランスド・スコアカード (BSC)	4つの視点
第6回	コストマネジメント1	原価計算の考え方
第7回	コストマネジメント2	ABCとABM
第8回	コストマネジメント3	原価企画
第9回	コストマネジメント4	原価維持, 原価低減
第10回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第11回	CSR 2	CSR マネジメントの基礎
第12回	ESG投資	環境, 社会, ガバナンスを考慮した投資活動
第13回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計

第14回 MFCA (マテリアル 資源生産性の管理
フローコスト会計)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に資料を読むなどの復習を通じて知識の習得を行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

【参考書】

浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館

【成績評価の方法と基準】

「中間レポート」40%と「メディアスクーリング試験」60%との総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an understanding of management accounting, which is an essential tool for business decision-making. We will delve into various aspects of management accounting, including cost accounting, budgeting, and performance evaluation, among other topics.

Upon successful completion of this course, students will be able to:

- Understand the role of management accounting in business decision-making.
- Apply various cost accounting methods and concepts.
- Prepare and analyze budgets and forecasts for business planning.

Outside of class time, students are expected to:

Complete assigned readings from the textbook and other resources.

Grades for this course will be determined based on examinations and reports.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア)
平田 英明
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論（経済学入門 I/A）程度の内容）を踏まえ、企業行動を中心に理解していくことを目標とします。単に理論の理解をするだけではなく、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることを目標にしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

ビジネスの現場で起きている事象や具体的なケースを、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

中間課題に対しては、全体講評を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	外部性 1	外部性の意味と実際の例を理解します。
第2回	外部性 2	外部性の存在が市場にもたらす影響を学びます。
第3回	公共財と共有資源 1	公共財とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第4回	公共財と共有資源 2	共有資源とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第5回	生産の費用 1	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、基礎的なコストの概念を学びます。
第6回	生産の費用 2	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、企業活動に関連するコストの種類を理解します。
第7回	生産の費用 3、競争市場における企業 1	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、コストの種類をなぜ区別して理解する必要があるのかを理解します。
第8回	競争市場における企業 2	競争市場の企業のバリエーションの違いがもたらす影響を学びます。独占企業の基本的特徴を考えます。
第9回	競争市場における企業 3、独占 1	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業と完全競争企業の違いを理解し、違いの源泉を理解します。

第10回	独占 2	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業としての合理的な行動を理解します。
第11回	寡占 1	寡占企業の行動様式を学びます。
第12回	寡占 2	ゲーム理論を使った寡占の理解の基礎を紹介します。
第13回	独占的競争	独占的競争の下での企業行動を学びます。合理的な独占的競争下の企業はどのような戦略をとり、利潤を最大化していくのかを理解します。
第14回	番外編（グローバル金融危機と日本経済）	リーマンショックに代表される金融危機をミクロ経済学の視点から考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『マンキュー経済学I ミクロ編（第4版）』N.グレゴリー・マンキュー著（東洋経済新報社）第3版でも大丈夫です。

【参考書】

『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート40%、レポート試験60%で評価する予定です。いずれも4択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。

【学生の意見等からの気づき】

中間試験、期末試験後、解答を求める声が多くなっていますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにしてもらいます。最大3問まで返答します。

中間試験の結果が良くても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろな理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】

過去に試験について、Yahoo知恵袋で質問をしているケースが見られました。同様の不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。

また、オンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間レポート、レポート試験ともにきわめて限定した期間（2日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行という国際機関におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えています。

【Outline (in English)】

This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

This lecture covers basic theory of microeconomics of firms. The ultimate objective is to let students think by themselves what is going on in the goods and services markets. Students will get familiar with a logical explanation of the market economy.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG（経営学 / Management 300）
事業創造論（後期メディア）
稲垣 京輔
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通教』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、ベンチャー企業や中小企業の経営者の組織化にまつわる行動について明らかにすることによって、企業家が事業を取り巻く環境をどのように変えて行くのかについて理解することです。

【到達目標】

本講義では、国内外で発展してきた企業家活動やベンチャー企業経営に関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。講義全体を通じて、「事業創造における経営戦略」、「スタートアップ・プロセス」、「事業創造とネットワーク」「事業創造における組織づくり」の4つを主要テーマとして設定し、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。

各回の内容については以下の通りです。テキストはとくに設定しませんが、各テーマの講義において、以下の本をもとに講義の内容を作成しておりますので、是非これらを手にとって、事業で取り上げる箇所とその周辺領域をより深く学ぶようにしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、ビデオ学習の形式です。講義資料は要約しか記述されていないので、ノートを取りながら学習するようにしてください。また、習熟度を知るための小テストを利用して、授業内容の要点を学習してください。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	導入－事業創造を取り巻く環境と日本の新規開業者	日本の新規開業企業にみる開業者のプロフィール。事業機会型と非事業機会型。
第02回	導入－企業家と経営戦略	企業家とは何か。企業家の人格と戦略作成。企業家とビジョナリー・リーダー。企業家アプローチの前提条件。
第03回	スタートアップ・プロセス－事業構想とスタートアップ	ベンチャー企業の創業経緯。事業構想とは何か。顧客を獲得するための戦略。事業を始めるリスク。
第04回	スタートアップ・プロセス－ベンチャー企業の成長と組織設計	成長過程における3つの死の谷。ベンチャー企業の存続率。経営チームの組成と組織デザイン。社長によるガバナンスと企業成長。
第05回	ベンチャー企業と戦略－ベンチャー企業の内なる戦略	ベンチャー企業の人的資源と組織設計。自社の資源を活用する事業のしくみの設計。

第06回	ベンチャー企業と戦略－ベンチャー企業の外への戦略	変化と競争優位性。産業のライフサイクル。産業組織の変化。戦略的変革のマネジメント。
第07回	事業創造とネットワークと組織	経営環境の変化への対応。個人のおかれた環境の変化。資源の獲得とマネジメント。組織と市場とネットワーク。
第08回	事業創造とネットワーク－戦略的ネットワーク	戦略的ネットワークとは何か。ヒエラルキー組織から戦略的ネットワークへ。
第09回	事業創造とネットワーク－相互行為のネットワーク	相互行為的ネットワークとは何か。中小企業ネットワークにおける相互行為的なコミュニケーション。商店街の衰退と活性化。組合活動における相互行為的ネットワーク。
第10回	事業創造とネットワーク－事業システム戦略とネットワークの活用	事業システムとは何か。イタリアの中小企業にみる分業のしくみと事業システムの構築。
第11回	事業創造における組織マネジメント－実践のコミュニティ	実践のコミュニティとは何か。実践のコミュニティの形態。ほかの組織とどこがどのように違うのか。
第12回	事業創造における組織マネジメント－人的資源の管理	ベンチャー組織の人材マネジメント。動機づけの基本的プロセス、マズローの欲求段階論、X理論とY理論など。
第13回	事業創造における組織マネジメント－事業創造とリーダーシップ	ベンチャー企業のリーダーシップ。リーダーシップにおける2つの理論軸。変革型リーダーとは。
第14回	新事業創造支援－大企業における社内ベンチャーと事業創造戦略	社内ベンチャーの仕組みと機能。日本とアメリカの伝統的事例からみる、社内ベンチャーのしくみの違い。
第15回	新事業創造支援－大学発ベンチャーと産学官民連携	大学発ベンチャーとは何か。大学によってベンチャー創出活動になぜ、格差が生まれるのか。産学官連携の難しさ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事業創造論は、経営者の視点に立つことによって、日頃から企業の経営に関わるさまざまなことに関心を持つことが重要です。日経新聞から出版されている各種のビジネス雑誌は、もともと新鮮な話題を提供しているので、是非そうした情報ソースを活用して役立ててください。ただし、これらの情報は幅広く、その時々常に新しいビジネスの形態について教えてくれますが、これらの経営現象には、一定の傾向や理論的な枠組みに基づいており、そのことをより深く学ぶことが大切です。

本講義を学習するに当たっては、是非、このようなテキストを参照することでより深い洞察や観察力を養いながら、事業創造にまつわる経営現象や組織現象を理解するようにしてください。

本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。各回のスライドの最後に参考文献を表示します。

【参考書】

- ① 導入部分：日本政策金融公庫・鈴木『新規開業企業の軌跡』勁草書房 忽那・安田（2005）『日本の新規開業企業』白桃書房
- ② 事業創造における経営戦略：山田（2000）『新事業開発の戦略と組織』白桃書房 ミンツバグ他（1999）『戦略サファリ』東洋経済新報社 榎原・大滝・沼上（1989）『事業創造のダイナミクス』白桃書房
- ③ スタートアップ・プロセス：長谷川（2010）『ベンチャーマネジメント「事業創造」入門』日本経済新聞社 シューン・金井・渡辺（2005）『大学発ベンチャー』中央経済社 桐畑（2010）『日本の大学発ベンチャー』京都大学学術出版
- ④ 事業創造とネットワーク：若林（2009）『ネットワーク組織』有斐閣 朴（2003）『ネットワーク組織論』ミネルヴァ書房 稲垣（2003）『イタリアの起業家ネットワーク』白桃書房 加護野・井上（2007）『事業システム戦略』有斐閣アルマ

⑤ 事業創造における組織づくり：金井（1991）『変革型ミドルの探求』白桃書房 金井（2004）『組織行動の考え方』東洋経済新報社
ロビンス・高木（2009）『組織行動のマネジメント 新版』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末レポートで判定します。

中間レポート = 50%

期末レポート = 50%

【学生の意見等からの気づき】

中間レポートはほぼ自由な作文を求めています。いつもさまざまな視点があることに気づかされます。そうした視点を伸ばせるよう、少しでもインタラクティブでありたいと思います。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

This lecture is in the form of video learning. Lecture materials only contain summaries, so be sure to take notes while studying. Also, use the quiz to know your proficiency level and learn the main points of the lesson content.

For intermediate assignments, one of (1) scoring or individual evaluation / correction, (2) overall comment, and (3) posting of model answers and excellent reports will be carried out.

This lecture will be judged by the interim report and the term-end report.

Intermediate report = 50%

Year-end report = 50%

Regarding additional learning, it is important for business creationism to be interested in various things related to corporate management on a daily basis by taking the perspective of the manager. The various business magazines published by the Nikkei newspaper offer the freshest topics, so please make use of those information sources.

ECN300TG（経済学 / Economics 300）
ファイナンス論Ⅱ／現代ファイナンスB(後期メディア)
山崎 輝
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンスの中核をなすデリバティブ理論（金融派生商品のしくみ）とポートフォリオ理論（複数銘柄の証券投資）が授業のテーマとなります。これら2つの理論はノーベル経済学賞を受賞し、学術界のみならず金融実務にも革命的な変化をもたらしました。こうした理論には難解な部分もありますが、極力シンプルに理論の本質や金融実務での有用性を理解することを目的に授業を展開します。

【到達目標】

本授業では、ファイナンス理論の中でも重要なデリバティブ（金融派生商品）取引とポートフォリオ理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、デリバティブ市場のしくみや役割、デリバティブの価格決定手法、ポートフォリオ理論による合理的な投資意思決定です。授業の到達目標は、①デリバティブ市場の基礎知識や用語を習得する、②デリバティブ取引のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③ポートフォリオ理論に基づく投資決定方法の説明ができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

デリバティブ市場や関連する金融市場の概観を説明した後に、個別のデリバティブ取引のしくみと無裁定価格理論に基づく価格評価の考え方を解説します。講義後半では、ポートフォリオ理論の初歩的な説明をします。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書しますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。

中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀レポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	「短期資金・為替・貸出・預金市場の概要」	デリバティブ市場の予備知識として、短期資金市場・外国為替市場・貸出市場・預金市場の概要について講義します。
第02回	「デリバティブ市場の概要」	デリバティブ市場の概観を解説した後に、主要なデリバティブ市場である先物市場、先渡市場、スワップ市場、オプション市場について講義します。
第03回	「先渡・先物分析入門(1)」	先渡取引のしくみ、代表的な先渡取引、先物取引のしくみ、代表的な先物取引、金融実務での活用例について講義します。

第04回	「先渡・先物分析入門(2)」	無裁定条件、為替ヘッジ付きドル運用による為替予約の価格評価、FRAヘッジ付きロール運用による金利先渡の価格評価、キャッシュ&キャリアー戦略による株価指数先物の価格評価について講義します。
第05回	「スワップ分析入門(1)」	金利スワップと通貨スワップを例にスワップ取引のしくみと金融実務での活用例について講義します。
第06回	「スワップ分析入門(2)」	金利スワップ取引の入門的な価格評価手法や損益計算の方法について講義します。
第07回	「オプション分析入門(1)」	オプション取引の種類やしくみを解説した後に、オプションのペイオフに関する数学について講義します。
第08回	「オプション分析入門(2)」	ブットコールパリティや金融実務でのオプション取引の活用例、オプションをもちいた投資戦略について講義します。
第09回	「オプション分析入門(3)」	1期間2項モデルをもちいたオプションの価格評価方法、複製ポートフォリオ、リスク中立確率について講義します。
第10回	「オプション分析入門(4)」	2期間2項モデルをもちいたオプションの価格評価方法、動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタについて講義します。
第11回	「ポートフォリオ理論入門(1)」	ポートフォリオ理論の概要を説明した後に、確率変数・期待値・分散・標準偏差などの確率統計の基礎について講義します。
第12回	「ポートフォリオ理論入門(2)」	共分散・相関係数・独立などの2変数の確率統計の基礎、効用関数、期待効用、リスク回避の投資家の投資行動などについて講義します。
第13回	「ポートフォリオ理論入門(3)」	証券のリスクとリターン、効用無差別曲線、リスク・プレミアム、投資機会集合、効率的フロンティア、接点ポートフォリオなどについて講義します。
第14回	「ポートフォリオ理論入門(4)」	最適ポートフォリオ、トービンの分離定理、マーケット・モデルなどの他に、回帰分析の基礎について講義します。
第15回	「ポートフォリオ理論入門(5)」	市場ポートフォリオ、資本市場線、証券市場線、リスクの市場価格、CAPM、ジェンセンのアルファなどについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の復習を十分に行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スライド以外には特に指定しません。

【参考書】

①『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009年）、②『新・証券投資論Ⅰ（理論篇）』（小林孝雄・芹田敏夫著、日本経済新聞出版社、2009年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価の割合は中間レポート40%、レポート試験60%とします。ただし、どちらか一方のみの提出では不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションや質問には、極力迅速に対応します。

【その他の重要事項】

現代ファイナンスB/ファイナンス論IIは、現代ファイナンスA/ファイナンス論Iの知識を前提としています。現代ファイナンスB/ファイナンス論IIを受講する方は事前に現代ファイナンスA/ファイナンス論Iを受講することをお勧めします。担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with essentials of finance theory, including financial derivatives, modern portfolio theory, and asset pricing.

[Learning objective] This course has three objectives: (1) To introduce fundamental knowledge of financial derivatives and derivatives markets. (2) To explain some types of derivative contracts and valuation methods for derivative products such as futures, swaps, and options. (3) To give an introduction to modern portfolio theory, including the mean-variance approach and the capital asset pricing model.

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

[Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Mid-term report: 40%, final report: 60%.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG（経営学 / Management 300）
消費者行動論(後期メディア)
新倉 貴士
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。また、マーケティングとブランド構築への応用のための消費者行動に関する体系的な理解について講義します。履修生は、消費者行動に関する体系的な知識の獲得と、マーケティングとブランド構築のための応用的知識の獲得を目指します。

【到達目標】

- 当科目の履修生には、以下の3つの目標を掲げます。
- ①消費者行動に関する基礎的かつ体系的な知識とこれまでの歴史的展開を理解できるようになることを目指します。
 - ②消費者行動とマーケティングに関する応用的な実務的な知識の獲得を目指します。
 - ③消費者情報処理という視点から、消費者行動の背後にある細やかな認知や微妙な態度にも配慮できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、消費者行動論を体系的に学ぶために、授業を5部構成として設定します。第Ⅰ部は「消費者行動分析の基本フレーム」、第Ⅱ部は「環境要因の変化と消費者行動」、第Ⅲ部は「消費者情報処理の分析フレーム」、第Ⅳ部は「購買意思決定プロセスと情報処理」、第Ⅴ部は「購買意思決定の特性とマーケティング」です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書を行いますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とは何か、市場の把握と消費者理解、マーケティングの今日的課題と消費者行動分析について講義します。
第02回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルについて講義します。
第03回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流と系譜、モチベーション・リサーチの系譜、ブランド選択モデルの系譜、消費者情報処理研究の系譜、近年の展開について講義します。
第04回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費行動分析の3つのアプローチ、消費様式の選択メカニズムについて講義します。

第05回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化をどう捉えるか、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について講義します。
第06回	情報処理のメカニズム	情報処理システムとしての消費者、処理能力と処理資源の限界とその克服、消費者情報処理モデル、消費者情報処理とマーケティング対応について講義します。
第07回	情報処理の動機づけ	動機としての問題認識、動機づけとしての目標と目標階層、動機づけられるメカニズム、動機づけられた状態としての関与について講義します。
第08回	情報処理の能力	情報処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について講義します。
第09回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセス、伝統的な意思決定理論、情報過負荷の影響、情報処理の多様性について講義します。
第10回	購買前の情報処理	情報の内部探索、情報の外部探索、情報の解釈メカニズム、解釈の多様性について講義します。
第11回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について講義します。
第12回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について講義します。
第13回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスを捉える視点、情報処理プロセスとマーケティング・マネジメント、購買意思決定とマーケティングとの関わりについて講義します。
第14回	購買意思決定の特性とマーケティング	購買意思決定と提案価値のデザイン、購買意思決定と価値伝達のデザイン、購買意思決定とインターネットについて講義します。
第15回	ブランド構築と統合型マーケティングコミュニケーション	コモディティ化からの脱却とブランド構築、ブランド構築のための視点、CBBEから見たマーケティング・マネジメントについて講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当する章を事前に読んでおいてください。授業の内容は、スライドに要約してありますので、参照してください。また、各回が終了したら、その内容を再度復習して、次回への準備としてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司、有斐閣アルマ、2012年）。

【参考書】

『消費者行動論：購買心理からニューロマーケティングまで』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）。
 『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房、2005年）。
 『ケースに学ぶマーケティング』（青木幸弘編著、有斐閣、2015年）

【成績評価の方法と基準】

1～2までの中間テストは各々25%として、トータル50%を平常点として扱い、レポート試験を50%として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

ご質問に対しては、できる限り迅速に、且つ丁寧にフィードバックをさせて頂きたいと思っております。また本年度も、できるだけ多くの方が履修できるようにしたいと思っております。

【その他の重要事項】

マーケティング関連科目を履修しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is a series of lectures, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.

To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn consumer information processing model.
- To understand the relationship between consumer and brand.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
広告論（後期メディア）
竹内 淑恵
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のマーケティングでは、優れた製品を開発して、魅力的な価格を設定し、入手しやすくするだけではなく、現在および潜在的な顧客とコミュニケーションをとる必要があります。したがって、多くのマーケティング者にとっての問題は、コミュニケーションをとるべきかどうかではなく、何を言うべきか、いつ、どのように、誰に、そしてどのくらいの頻度で伝えるかということです。このような観点から、企業はコミュニケーション活動を戦略的に設計し、管理する必要があります。本講義では、コミュニケーション活動の大きな比重を占める広告に焦点を当て、マーケティング・コミュニケーション活動への理解を深めることを目的としています。

【到達目標】

以下に挙げる点が本授業の達成目標です。
 ・マーケティング・コミュニケーションの中でも、特に広告の理論と実務について学び、理解を深める。
 ・新製品の場合、広告によって認知形成が行われることも多い。新発売の告知情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。
 ・企業が発信している広告を通じて企業経営に対して関心を持つ。
 ・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業はパワーポイントを使って、講義形式で進めます。
 ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
 ・広告論の基礎となるマーケティング論について理解が十分でないと感じる場合は、参考書に挙げた書籍を用いて復習してください。
 ・中間課題に対しては、システム上で採点を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	広告とは何か	広告の定義、広告の種類、広告機能の再検討、広告機能の変化の方向について学ぶ。
第02回	マーケティング計画と広告	広告戦略立案の基礎となるマーケティング、およびマーケティング・コミュニケーションについて学ぶ。
第03回	マーケティング・コミュニケーション組織	広告会社の機能と役割、広告会社と広告主の組織、広告業務の流れを学ぶ。
第04回	広告計画の構造と調査	どのようなプロセスを経て広告計画が立案され、広告が投稿されるのかを学ぶ。あわせて、必要なデータを見極めることの重要性を学ぶ。

第05回	広告戦略の立案	広告活動を方向づけるための戦略立案について理解し、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの決定を学ぶ。
第06回	広告予算の決定方法	日本の広告費の規模を確認した上で、合理的な予算決定方法について学ぶ。
第07回	広告コミュニケーション過程と効果	媒体接触からブランドの使用経験までのプロセスを理解するとともに、消費者行動の観点から広告効果を学ぶ。
第08回	表現計画	広告主の伝えたいメッセージをいかに表現化するのか、広告表現の制作プロセス、表現アイデアの開発について学ぶ。
第09回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴、オーディエンスの概念と測定方法、媒体計画の立案プロセスを学ぶ。
第10回	インターネット広告戦略	インターネット広告の概略、分類、戦略について学ぶ。
第11回	広告効果の測定①	広告表現内容による効果とプロモーション効果(短期的なポジティブ効果)、広告への誤認による広告効果プロセスに対する影響(広告のネガティブ効果)について学ぶ。
第12回	広告効果の測定②	広告表現内容による長期的な効果と店頭における販売実績への影響(長期的なポジティブ効果)、広告への飽き(長期的なネガティブ効果)について学ぶ。
第13回	広告関連の法規と規制	表現の自由と広告の自由、広告規制の意義と根拠、日本の広告規制の現状、今後の広告規制について学ぶ。
第14回	グローバル広告戦略	グローバル広告の可能性、標準化とローカル化、グローバル広告管理の課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告は、例えば通勤・通学中の電車内の交通広告、TVドラマで放映されるCM、いつも読んでいる新聞や雑誌に掲載された広告、インターネット上の広告、街頭で見かけるデジタルサイネージなど、毎日の生活で接することができます。その際、単に視聴者という立場で見るだけでなく、企業がどのような戦略で広告を実施しているのかを考えながら見るという姿勢を持つと講義内容への理解がより進むでしょう。授業で学習した内容を各自フィールドワークをする気持ちで、実生活のさまざまなメディアを通じて確認することをお勧めします。

今年度の授業資料では、
 ・新しいデータを追加したり、
 ・1枚のスライドを複数枚に分割したり、
 ・まとめ方を修正したり、
 ・参考図書等の画像を新たに追加したり、
 ビデオ内での説明や画面の内容と若干異なる改訂版を配布します。準備学習や復習等に役立ててください。なお、修正・追加箇所については該当するページに明記してあります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・岸志津江・田中洋・嶋村和恵(2017)『現代広告論第3版』有斐閣(有斐閣アルマ)。
 ・竹内淑恵(2010)『広告コミュニケーション効果－ホリスティック・アプローチによる実証分析－』千倉書房。
 ・田中洋・岸志津江・嶋村和恵(2021)『現代広告全書－デジタル時代への理論と実践』有斐閣。※授業では主に伝統的なメディアを扱っていますが、最終レポート課題は、新しい情報環境下という観点から出題する予定です。レポート作成時にこの書籍が必要になります。具体的な内容・詳細については12月中旬に発表します。

【参考書】

・コトラー, P, G. アームストロング, 恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

特に、第11章「コミュニケーションによる顧客価値の説得」、第12章「広告とパブリック・リレーションズ」を参考にしてください。
・西尾チヅル編著(2007)『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版。
特に、第7章「コミュニケーション・デザイン」を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト1,2を各々25%計50%、そして、レポート試験を50%とし合算して評価します。

(注)2回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がいますが、レポートだけ(最高でも50点)では単位取得できませんので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張って広告論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】

メーカーのマーケティング本部広告制作部でブランド広告の企画制作に携わり、広告会社の戦略プランニング室で多数のクライアントの広告プランニングを立案した経験(計20年間勤務)を有する教員が、広告の理論と実務の融合の観点から、多くの事例を取り上げて講義します。

【Outline (in English)】

Course outline: Today's marketing calls for more than developing good products, pricing them attractively, and making them accessible. Companies must also communicate their present and potential customers. For more marketers, therefore, the question is not whether to communicate but rather what to say, when and how to say it, to whom, and how often. From such a point of view, companies need to strategically design and manage communication activities. This class focuses on advertising which accounts for a large part of communication activities.

Learning Objectives: The students will get a better understanding of marketing communication activities. They will acquire advertising knowledge and skills and will be able to explain the significance and role of advertising.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG（経営学 / Management 300）
会計情報論 I（後期メディア）
坂上 学
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、会計情報システムの構築における会計データモデルの基本について学ぶ。

会計データモデルは、Sorterの事象アプローチをきっかけとして、主としてデータベース理論の一領域であるデータモデル論の展開とともに進展してきた。具体的には、階層モデル、網モデル、関係モデル、実体関連モデル、オブジェクト指向モデルなどのモデルが提唱されてきたが、これらの集大成であるREA会計モデルについて学習する。

【到達目標】

会計データモデルの到達点であるREA会計モデルが開発されるに至るまでの展開を概観し、会計データモデルの意義と、その背後にあるデータベース理論の基礎を理解することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによるオンライン授業で実施し、授業動画を視聴した後に、小テストを受験すること。小テストは採点を実施し、期末の成績評価に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	会計データモデル論へのイントロダクション	会計データモデル論についての全体像と講義の進め方を解説する。
第2回	事象理論の形成	テキスト第1章「序論」および第2章「事象理論の形成」について学ぶ。
第3回	事象理論研究の展開	テキスト第3章「事象理論研究の展開」について学ぶ。
第4回	データモデリングの基本とANSIX3/SPARCの3層スキーマ	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」のデータモデルの基本について学ぶ。
第5回	階層モデルおよび網モデルによる会計データモデル論の展開	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の階層モデルおよび網モデルについて学ぶ。
第6回	関係モデルにおけるデータベースの構造	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの構造）について学ぶ。
第7回	関係モデルにおけるデータベースの一貫性	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの一貫性）について学ぶ。
第8回	関係モデルにおけるデータ操作言語	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データ操作言語）について学ぶ。

第9回	オブジェクト指向モデルによる会計データモデルの展開	テキスト第4章「会計データモデル論の展開」のオブジェクト指向モデルについて学ぶ。
第10回	REA会計モデル①－概念モデル研究の展開	テキスト第5章「REA会計モデル」の概念モデル研究の展開について学ぶ。
第11回	REA会計モデル②－REA会計モデルの開発	テキスト第5章「REA会計モデル」のREA会計モデルの開発について学ぶ。
第12回	会計事象の体系化とオントロジー	テキスト第6章「会計事象の体系化とオントロジー」のオントロジーの基礎について学ぶ。
第13回	REA会計モデルのオントロジー分析	テキスト第6章「会計事象の体系化とオントロジー」のREA会計モデルのオントロジー分析について学ぶ。
第14回	会計データモデル論のまとめ	会計データモデル論に関するまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

坂上学（2016）『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』中央経済社。

【参考書】

増永良文（2003）『リレーショナルデータベース入門－データモデル・SQL・管理システム〔新訂版〕』サイエンス社。

【成績評価の方法と基準】

各回の授業時に実施する小テストの得点と、レポート試験の得点を総合的に判断して評点を計算する。

計算された評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

レポート試験未提出: E

【学生の意見等からの気づき】

テクニカルな用語がたくさん出てくるので、理解するのが大変かもしれないが、頑張ってもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にはなし。

【その他の重要事項】

「ITパスポート」程度のコンピュータ全般に関する知識は、本授業の理解を大いに助けることになると思われるので、余裕があれば合わせて「基本情報技術者試験」「応用情報処理技術者試験」といった資格の取得も目指して欲しい。

また、本講義は「データベーススペシャリスト試験」に必要な内容を一部カバーしているため、将来データベーススペシャリストを目指す場合には、大いに役立つものとなるだろう。

・基本情報技術者試験：https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/fe.html

・応用情報技術者試験：https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/ap.html

・データベーススペシャリスト試験：https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/db.html

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>会計学、会計情報システム

<研究テーマ>事象アプローチによる会計情報開示システムの構築、機械学習を用いた企業評価方法の探索、財務諸表データのテキストマイニング。

<主要研究業績>

- ・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016年。（2016年度経営分析学会森脇賞受賞）
- ・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," *The Japanese Accounting Review*, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
- ・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) *Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics*, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
- ・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) *Accounting, Auditing & Accountability Journal*, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
- ・『新版 会計人のためのXBRL入門』（単著）、同文館、2011年.
- ・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008年.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The objective of this lecture is to acquire basic knowledge of the accounting data model for building accounting information systems.

The design and development of accounting information systems proceeds on the premise of a fixed database management system (DBMS) and what is key at this time is the accounting data model. This lecture gives an overview of the development of accounting data model theory as represented by the REA accounting model with the objective of having students understand the fundamentals of accounting data models.

(Learning Objectives)

The goal of the course is to provide students with an overview of the development of the REA accounting model, the significance of the accounting data model, and the basic knowledge of the database theory behind it.

(Method)

This classes are conducted in online lectures (video-on-demand system). Students must take a mini-test after watching the class video.

(Learning activities outside of classroom)

This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.

(Grading Criteria/Policy)

The evaluation will be based on the total score of the mini-test and the term report.

Grading will be based on the following percentages:

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

No term report: E

PRI100TG（情報学基礎 / Principles of informatics 100） データサイエンス入門B(後期メディア)
児玉 靖司、高田 美樹、坂上 学、長谷川 翔平、高橋 慎、伊藤 克亘、彌富 仁
カテゴリー：後期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビッグデータが社会の中でどのように役立っているのか、実例を学び、実際にインターネット等で収集できる実データを扱ったデータサイエンスを体験する。

【到達目標】

本物のデータを収集・分析・可視化する過程を理解する。データサイエンスの社会における貢献と役割を理解し、インターネットからのデータの収集方法、一般的に使われる分析法、そして、分析結果の解釈や可視化、さらにはその活用というデータサイエンスにおいて重要な3つの要素を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP3,DP4」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドシステムにより講義資料と動画を配信する。学習の後、同じくオンデマンド上の章末問題にて知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	この講義の概要と学習内容について
第2回	事例紹介1 会計・金融におけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、会計・金融における事例を通じて知る
第3回	事例紹介2 ファイナンスにおけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、ファイナンスにおける事例を通じて知る
第4回	事例紹介3 マーケティングにおけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、マーケティングにおける事例を通じて知る
第5回	事例紹介4 植物・医療におけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、植物医科における事例を通じて知る
第6回	事例紹介5 音声処理におけるデータサイエンス・AIの活用	データサイエンス・AI技術がどのように活用されているかを、音声・音響処理における事例を通じて知る
第7回	e-Statの使い方 データの収集	e-Statを例に実データの取得方法について学ぶ
第8回	データの分析1 ヒストグラムと箱ひげ図	ヒストグラムや箱ひげ図といった具体的なデータ処理手法を体験する
第9回	データの分析2 平均・分散・標準偏差	平均・分散・標準偏差といった代表的な統計処理手法を体験する
第10回	データの分析3 散布図と相関係数	散布図や相関係数といった具体的なデータ処理手法を体験する

第11回	データの分析4 帰	具体的なデータ処理手法として帰帰を体験する
第12回	データ表現（可視化）	データを適切に可視化する手法を学ぶ
第13回	質的なデータの解析	質的なデータの集計する方法、並びに、集計した結果からの解析手法について学ぶ
第14回	まとめ	授業内総合テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。オンデマンドで課される章末テスト等に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

オンデマンドシステムより講義資料と映像を提供する。

【参考書】

- ・大学生のためのデータサイエンスI オフィシャルスタディーノート 滋賀大学データサイエンス学部編
- ・社会人のためのデータサイエンス入門 オフィシャルスタディーノート 総務省統計局

【成績評価の方法と基準】

各回の章末テスト（85%）、授業内総合テストと毎回のアンケートの提出の合計点（15%）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

質問に対する回答を迅速に行うように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドのため、動画を視聴し、オンデマンドシステムにアクセスすることのできる端末。

Excelをインストールして実行できるパソコン

【Outline (in English)】

Learn real examples of how big data is useful in society and experience data science that deals with real data that can actually be collected from the Internet and other sources.

HIS100TA（史学/History 100）
西洋史(秋期スクーリング)
竹下 和亮
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきたことも事実である。本講義ではその両面をみすえた上で、西洋近代の歴史を概観し、基本的な歴史用語を解説する。

【到達目標】

西洋近代の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

指定教科書に沿って、講義をしていきます。質問は、授業内、授業終了後などで受け付けます。課題等のフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	時代区分論
第2回	フランスとドイツ I	フランス革命とナポレオン以降のヨーロッパ
第3回	フランスとドイツ II	ヨーロッパの新秩序—ウィーン体制
第4回	フランスとドイツ III	1848年革命とヨーロッパ
第5回	フランスとドイツ IV	フランス第二帝政とドイツの統一
第6回	フランスとドイツ V	ブルジョワ共和政下の国民統合
第7回	自由を求める南ヨーロッパ I	19世紀のヘゲモニーをめざして
第8回	自由を求める南ヨーロッパ II	イタリア統一への道
第9回	19世紀ロシアの嵐 I	改革か停滞か—19世紀前半のロシア
第10回	19世紀ロシアの嵐 II	改革か革命か—帝政末期のロシア
第11回	ヴィクトリア時代のイギリスの光と影 I	産業革命の時代
第12回	ヴィクトリア時代のイギリスの光と影 II	改革の時代/繁栄の時代
第13回	ヴィクトリア時代のイギリスの光と影 III	帝国主義の時代
第14回	まとめ	西洋近代と世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定された箇所や配布資料を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史22 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』中公文庫、2009年

【参考書】

木村靖二・岸本美緒・小松久男編『もういちど読む 山川世界史plus—ヨーロッパ・アメリカ編』山川出版社、2022年
 J・H・エリオット（立石博高・竹下和亮訳）『歴史ができるまで』岩波書店、2017年

【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Antiquity onwards, and the basic terminology for the historical research. At the end of the course, students are expected to have a basic idea about the European history. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination.

HIS100TA（史学/History 100）

東洋史(秋期スクーリング)

板橋 暁子

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

家族・ジェンダー・セクシュアリティに関する伝統的秩序が比較的強固に存続してきた東アジア世界においても、近年、それらの見直しを求める声が高まっている。

そのような伝統的秩序の少なくない部分が中国の文化や制度に由来するものであり、現代日本も例外ではない。

本科目では、東アジア世界への影響もふまえながら、主に前近代の中国史上における家族・ジェンダー・セクシュアリティの展開を学ぶ。

【到達目標】

現代へと連なる東アジア世界の家族・ジェンダー・セクシュアリティ構造が、中国を範例として如何に形成されてきたかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

Powerpointを用いた講義形式でおこないます。講義資料は紙で配布いたします。

課題に対するフィードバック（解答の提示等）は、授業の最終回におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	祖先祭祀と父系社会
第2回	秦漢①	戸籍と律にみる家族
第3回	秦漢②	外戚と宦官
第4回	魏晋南北朝①	貴族と婚姻
第5回	魏晋南北朝②	仏教・道教と信仰生活
第6回	隋唐①	女帝の誕生
第7回	隋唐②	妓女と文人
第8回	宋元①	都市と庶民生活
第9回	宋元②	朱子学と礼法
第10回	明清①	纏足の普及
第11回	明清②	節婦・烈女の顕彰
第12回	明清③	同性愛の位置づけ
第13回	近代①	「男らしさ」の変遷
第14回	近代②	近代化と生殖コントロール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】**【中国史全体の流れ】**

・岸本美緒著『中国の歴史』筑摩書房、2015年
・尾形勇／岸本美緒編『中国史』上・下巻、山川出版社、2019年

【中国史とジェンダー】

・関西中国女性史研究会編『中国女性史入門：わたちの今と昔 [増補改訂版]』人文書院、2014年
・小浜正子編『ジェンダーの中国史（アジア遊学191号）』勉誠出版、2015年

・小浜正子 [ほか] 編『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会、2018年

・坂部晶子編著『中国の家族とジェンダー：社会主義的近代化から転形期における女性のライフコース』明石書店、2021年

・小浜正子 [ほか] 編『東アジアの家族とセクシュアリティ：規範と逸脱』京都大学学術出版会、2022年

・小浜正子・落合恵美子編『東アジアは「儒教社会」か？：アジア家族の変容』京都大学学術出版会、2022年

【世界史・歴史学とジェンダー】

・三成美保／姫岡とし子／小浜正子編『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』大月書店、2014年

・早川紀代 [ほか] 編『歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』御茶の水書房、2015年

・ソニア・O・ローズ著、長谷川貴彦／兼子歩訳『ジェンダー史とは何か』法政大学出版局、2017年

・ジョン・W・スコット著、荻野美穂訳『ジェンダーと歴史学 [30周年版]』平凡社、2022年

【成績評価の方法と基準】

最終回の試験（70%）および平常点（30%）

※出席要件（実授業日数の2分の1以上に出席）を満たしていない場合、試験を受けることができません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な質問を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を実施する限り、特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: Learning gender, sexuality and family system in premodern Chinese history

Learning objectives: Understanding how the structure of gender, sexuality and family had been developed in pre-modern China and how the structure has exerted an influence on East Asian countries

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 70%, in class contribution 30%

LAW100TA (法学 / law 100)
法学(秋期スクーリング)
陳 志明
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、刑法、民法、労働法の基本構成と基本原則、国際法の基礎的な知識に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 犯罪と法①	講義概要（シラバス）の説明 刑法とは何か 罪刑法定主義 法益の保護
第2回	犯罪と法②	犯罪の成立 構成要件 違法性と責任
第3回	民法総論①	民法とは何か 民法の基本原則 権利と義務
第4回	民法総論②	契約と法律行為 権利能力と行為能力 法人と会社
第5回	財産関係と法①	契約の成立と効果 双務契約における債務 契約の履行と不履行
第6回	財産関係と法②	所有権 不法行為 損害賠償
第7回	家族関係と法①	家族法 親族 夫婦
第8回	家族関係と法②	親子 扶養 相続
第9回	労働と法①	労働法の概観 労働関係の当事者 労働条件の決定

第10回	労働と法②	労働契約の成立 人事 賃金
第11回	国際社会と法①	主体 国家の主権 国際法の存在形式
第12回	国際社会と法②	国際法の国内的实施 国際法の国際的实施 領域
第13回	国際社会と法③	海洋 南極と上空 人権
第14回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びに まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005年）
 末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014年）
 井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第6版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022年）
 野村豊弘『民事法入門〔第8版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022年）
 玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第2版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2022年）
 小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法〔第4版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2023年）
 その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋期末の授業内試験（教室レポート）（80%）及び平常点（20%）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、教養科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic structure and principles of criminal law, civil law and labor law, and the basic knowledge of international law. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

SOC100TA（社会学 / Sociology 100）
社会学(秋期スクーリング)
徐 玄九
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目標は、社会学が近代（Modern society）という時代を理解するための概念や理論を学ぶことにある。具体的には、「合理化論」「大衆社会論」「管理社会／監視社会論」「リスク社会論」などに学びながら、社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付けることである。

【到達目標】

- (1)社会現象の記述に用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解できる。
- (2)近代社会の秩序を構想、強制、維持する基本原理について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、身近なものから抽象的なものへと話題を進める。さらに、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる予定である。また数回、グループディスカッションとリアクションペーパーを兼ねたミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2	時代区分としての近代	E・H・カー『歴史とは何か』を軸に歴史区分としての「近代」の基本的な捉え方を学ぶ
3	「合理/合理性」の意味	M・ウェーバー『職業としての学問』を参照しつつ「合理/合理性」の意味を学ぶ
4	「世俗化」と意味喪失	P・バーガー『聖なる天蓋』とM・エリアーデ『聖と俗』を軸に世俗化について学ぶ
5	近代的時間	近代的時間の誕生がもたらした社会変化について学ぶ
6	科学的管理法とフォーディズム	『モダン・タイムス（Modern Times）』（1936年、Charles Chaplin主演）を題材に生産の合理化がもたらす明暗を学ぶ
7	中間テスト	中間まとめおよび中間テストを実施する
8	「官僚制」と近代	M・ウェーバーとR・K・マーティンの官僚制に関する議論を学ぶ
9	合理化による非合理化	G・リッツァ『マクドナルド化する社会』を参照しながら、「合理化論」の理解を深める
10	道具的理性とコミュニケーション的理性	J・ハーバーマスのいう「システムによる生活世界の植民地化」に関する議論を通して合理的体制の非合理性の一端を学ぶ

11	大衆社会論	オルテガ『大衆の反逆』、E・フロム『自由からの逃走』など、大衆社会論の古典の一部講読の一部講読
12	監視社会論	M・フーコー『監獄の誕生』の一部を参照して監視社会論の基本を学ぶ
13	リスク社会論	U・ベック『危険社会』、A・ギデンズやN・ルーマンの「リスク」論を学ぶ
14	期末テスト	授業内テストおよび総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれもPDF形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントパウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。

・期末テスト（30%）、中間テスト（30%）、リアクションペーパー課題（20%）、グループディスカッション参加（20%）

【学生の意見等からの気づき】

より多く質疑応答を時間を設けて受講生との疎通を図る。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (30%), midterm exams (30%), preparation and review tasks (20%) and participation in biweekly group discussions (20%).

PHY100TA（物理学 / Physics 100）
物理学 3（講義）（秋期スクーリング）
石川 壮一
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、形や色の認識、更には情報伝達手段として、日常生活の中でありふれた存在である一方で、自然界の法則を理解する上で重要な研究対象でもある“光”に関して学ぶ。

【到達目標】

- ・光、色といった身の回りに日常的に起こっている現象と、その背後にある基本的法則を理解する。
- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・配付する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための演習問題を出題する。
- ・演習問題の解説は授業中あるいは配付資料によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義内容の紹介と基礎事項の確認を行う。
第2回	波動(1)	波動とは何か、音波の速さの測定、縦波と横波との違い
第3回	波動(2)	ドップラー効果、波の重ね合わせ、波の回折と干渉
第4回	波としての光(1)	屈折、分散、全反射に関する現象
第5回	波としての光(2)	偏光、電磁波、光の速さの測定方法
第6回	波としての光(3)	光の回折と干渉
第7回	粒子としての光(1)	エーテルとは何か、熱放射
第8回	粒子としての光(2)	光電効果、原子スペクトル
第9回	原子モデルと原子スペクトル	原子の模型と光の放出・吸収
第10回	光の性質	光の波動性と粒子性のまとめ
第11回	物の色と光(1)	物を見る仕組み
第12回	物の色と光(2)	風景の物理、虹、空の色
第13回	物の色と光(3)	天体の観測とその成果
第14回	授業のまとめ・試験	授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設定しませんが、講義資料を配付します。

【参考書】

シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）、J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
 「歴史で学ぶ物理学入門」、足利裕人著（ふくろう出版、2015）
 （その他、必要に応じて授業中に紹介します。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末試験（80%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

数式、計算が出てくる場合は、できるだけ丁寧に分かり易く説明します。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of physics related to light, wave, atoms, etc.

At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (80%) and in class contribution (20%).

MAT100TA (数学 / Mathematics 100)
数学2 (秋期スクーリング)
若井 健太郎
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学などを例として、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

数学で用いられる基本的な考え方に接し、それを「手にとって」親しんでもらうことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業で扱う項目は、グラフ理論、組合せ数学、微分法と近似計算。また、様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。

そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

課題に対するフィードバックは授業内で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論	基本事項
第2回	グラフ理論	オイラーグラフ
第3回	グラフ理論	重み付きグラフと最小全域木 1
第4回	グラフ理論	重み付きグラフと最小全域木 2
第5回	グラフ理論	オイラー多重グラフ
第6回	組合せ数学	鳩の巣原理
第7回	組合せ数学	包除原理 1
第8回	組合せ数学	包除原理 2
第9回	組合せ数学	数の分割 1
第10回	組合せ数学	数の分割 2
第11回	微分法と近似計算	1変数関数の微分 1
第12回	微分法と近似計算	1変数関数の微分 2
第13回	微分法と近似計算	テイラー展開
第14回	微分法と近似計算	テイラー展開の応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

通教テキスト『数学』第1版、安東祐希・池田宏一郎・倉田俊彦、2008年

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う(100%)。出席状況・レポート等を評価の参考にする場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Mathematics is used in various places. In this lesson, learn about various calculation methods by taking discrete mathematics etc. as an example.

(Learning Objectives)

The goal is to get in touch with the basic idea used in mathematics and get it "in your hands" familiar with it.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S (1)(秋期スクーリング)
青山 恵子
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は英語のテキストを正確に読解しながら、日本が直面する様々な課題と将来の展望について考えていくことを目的としています。

【到達目標】

1. 適切な音読ができるようになること。
2. 文章の内容を正確に理解できるようになること。
3. ディクテーションが正確にできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：

演習形式で行います。

1. paragraph reading（リーディング）
2. dictation（リスニング）
3. comprehension check（読解の確認）

フィードバック方法：

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Fertility Decline and Initiatives 少子化対策 #1	1. orientation オリエンテーション 2. reading the first paragraph of Chapter 1
2	Fertility Decline and Initiatives 少子化対策 #2	Understanding issue: 1. listening & reading aloud 2. paragraph reading
3	Fertility Decline and Initiatives 少子化対策 #3	Exercise 1. Comprehension Check 2. Dictation 3. Vocabulary Check
4	Digitization and Public Administration デジタル化と行政 #1	Understanding issue: 1. listening & reading aloud 2. paragraph reading
5	Digitization and Public Administration デジタル化と行政 #2	Exercise 1. Comprehension Check 2. Dictation 3. Vocabulary Check
6	Foreign Technical Intern Trainees 外国人技能実習生 #1	Understanding issue: 1. listening & reading aloud 2. paragraph reading
7	Foreign Technical Intern Trainees 外国人技能実習生 #2	Exercise 1. Comprehension Check 2. Dictation 3. Vocabulary Check

8	Heading to the Country 地方移住 #1	Understanding issue: 1. listening & reading aloud 2. paragraph reading
9	Heading to the Country 地方移住 #2	Exercise 1. Comprehension Check 2. Dictation 3. Vocabulary Check
10	Does Dedication Require Overtime? 仕事への献身 #1	Understanding issue: 1. listening & reading aloud 2. paragraph reading
11	Does Dedication Require Overtime? 仕事への献身 #2	Exercise 1. Comprehension Check 2. Dictation 3. Vocabulary Check
12	Refugee Status 難民認定 #1	Understanding issue: 1. listening & reading aloud 2. paragraph reading
13	Refugee Status 難民認定 #2	Exercise 1. Comprehension Check 2. Dictation 3. Vocabulary Check
14	Review & Test	Final Test 学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業1回あたり1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James M. Vardaman, Japan's Dilemmas and Solutions: 15 Topics You Need to Consider (『考えよう日本の論点15』, 音羽書房鶴見書店, 2023年) ¥2,000+税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 (40%)

学期末試験 (60%)

実授業日数のうち2分の1以上の出席がない場合、試験の受験資格を失うので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では英文読解の説明が分かりやすかった、授業内容自体も興味深かったとのコメントが多く寄せられました。今年度も「英語を読む」だけでなく「英語で読んだ内容について考える」ことを引き続き行いたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）

【Outline (in English)】

In this class, you will read English texts that focus on current social issues in Japan. You will practice not only systematic reading but listening skills to check your comprehension.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S(2)(秋期スクーリング)
光野 昭雄
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This class will show you how your English reading skill on America can be developed. One hour is required for learning before and after class.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、歴史、宗教、経済、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳して行く。課題やレポートの説明は授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	授業の説明	試験的に和訳し進度等を説明する。
第2回目	Blacks and Whites	人種問題その①
第3回目	Blacks and Whites	人種問題その②
第4回目	Blacks and Whites	人種問題その③
第5回目	Blacks and Whites	人種問題その④
第6回目	Blacks and Whites	人種問題その⑤
第7回目	Blacks and Whites	確認テスト
第8回目	The American Indians	インディアン問題その①
第9回目	The American Indians	インディアン問題その②
第10回目	The American Indians	インディアン問題その③
第11回目	The American Indians	インディアン問題その④
第12回目	The American Indians	インディアン問題その⑤
第13回目	The American Indians	確認テスト
第14回目	総復習	13回目までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA Richard Musman 金星堂 2017 ￥1300

【参考書】

アメリカ概説史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。期末試験80%、平常点20%

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S (3)(秋期スクーリング)
井上 紗央里
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内企業のグローバル化に着目した英文記事の読解を通して、国内、国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることを目標とします。

【到達目標】

1. ディクテーションやシャドーイングを通じて英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 英文記事の読解を通して英語の文法、語彙を強化する。
3. 日本の社会、特に国内企業のグローバル化への取り組みについての理解を深め、自分の意見を英語でアウトプットできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

指定テキスト Global Leadership（金星堂）を使用し、テキスト内の演習問題、英文読解、リスニングのディクテーション、リアクションペーパーの作成を行います。秋学期はテキストの偶数 Unit を使用します。授業では予習箇所について学生を指名し発言を求めます。各ユニットごとにテキスト内の演習問題を授業内課題として出題します。フィードバックは授業内での解説や E-mail を使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション, Case 2 ①	授業の説明、Unit 2 のプレ授業、受講生同士での簡単な自己紹介
2	Case 2 ②	Case 2 の Reading, Listening, Assignment
3	Case 4 ①	Case 4 の vocabulary, Reading 前半
4	Case 4 ②	Case 4 の Reading 後半, Listening, Assignment
5	Case 6 ①	Case 6 の vocabulary, Reading 前半
6	Case 6 ②	Case 6 の Reading 後半, Listening, Assignment
7	Case 8 ①	Case 8 の vocabulary, Reading 前半
8	Case 8 ②	Case 8 の Reading 後半, Listening, Assignment
9	Case 10 ①	Case 10 の vocabulary, Reading 前半
10	Case 10 ②	Case 10 の Reading 後半, Listening, Assignment
11	Case 12 ①	Case 12 の vocabulary, Reading 前半
12	Case 12 ② Case 14 ①	Case 12 の Reading 後半, Listening, Assignment. Case 14 の Vocabulary, Reading 前半
13	Case 14 ②	Case 14 の Reading 後半, Listening, Assignment

14 最終試験とまとめ 第1回から第13回までの授業を試験範囲として最終試験を実施。全体のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定したテキストの演習問題を解き、Readingの英文を読んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Global Leadership - 2nd Revised Edition, Case Studies of Business Leaders in Japan 「ビジネスケースで学ぶグローバル人材の条件 [改訂第2版]」 著者 中谷安男 / Ryan Smithers（金星堂 2022）1900円（+税）ISBN: 978-4-7647-4154-6

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 50%、平常点（予習、授業内での発言などの貢献度、課題提出）50%で評価します。最終試験を受けるためには実授業日数の2分の1以上の出席が必要です。遅刻、早退は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にあった速度で進めていきたいと思います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, writing, and listening skills through reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S（4）(秋期スクーリング)
中垣 恒太郎
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TVCMは「文化・時代の鑑」としばしば称されるように、その文化・時代のいわゆる「文化コード」を反映しながら成立している。本授業ではTVCMを素材にした英語総合教材『TVコマーシャルで学ぶ異文化の世界』を用いることにより、TVCMを通じた異文化理解を目指す。

英語総合教材を用いて基礎英語力を増強させながら、教科書の題材を発展させる形で、メディア環境の変化、消費文化の傾向など、広義のメディア論をも展望してみたい。

【到達目標】

- (1) リーディングパートを軸に、早くと確に内容を掴む能力を育成する。
- (2) リスニング力の増強をはかる。
- (3) ディスカッションに必要な準備の仕方、会話表現を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

演習として教室にて教科書の課題を毎回進めていく。課題に対しては、全体の講評を授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書『TVコマーシャルで学ぶ異文化の世界』についての導入	教科書『TVコマーシャルで学ぶ異文化の世界』の構成について。
第2回	教科書の演習（第1章）	Unit 1 "Meijer—Higher Standards, Lower Prices"
第3回	教科書の演習（第2章）	Unit 2 "This Calls for a Bud Light"
第4回	教科書の演習（第3章）	Unit 3 "Anti-Discrimination Campaign"
第5回	教科書の演習（第4章）	Unit 4 "McDonald's-King of Fast-Food Restaurants"
第6回	教科書の演習（第5章）	Unit 5 "Relax, it's FedEx"
第7回	教科書の演習（第6章）	Unit 6 "BMW—A Car beyond Reason"
第8回	教科書の演習（第9章）	Unit 9 "Pepsi—Ask for More"
第9回	教科書の演習（第11章）	Unit 11 "Disney—Magic Happens"
第10回	教科書の演習（第12章）	Unit 12 "Coca-Cola—For Everyone"
第11回	教科書の演習（第13章）	Unit 13 "Anti-Smoking Campaign"
第12回	教科書の演習（第14章）	Unit 14 "Counterfeit Mini Coopers"
第13回	教科書の演習（第15章）	Unit 15 "Hallmark of a Teacher"

第14回 まとめ

教科書の「まとめ」および英語の自主学習の方法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木雅幸『TVコマーシャルで学ぶ異文化の世界——English in 30 Seconds』（南雲堂、2009年）。

【参考書】

スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習を軸とする平常点 = 70 %
 学期末試験 = 30 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度は「スクーリング」の科目であるのに、オンデマンド型を軸とするオンライン授業での実施となった。本年度もなおも感染状況の懸念は払拭できていないが、対面授業を展開することができるようになり、実際に校舎に通学して授業を行うことの意義や効果について今後も考えていく必要がある。とりわけ通信教育課程におけるスクーリング授業は、授業の進行を定期的に確認することができる点で学習を進めやすい利点がある。2022年度は対面授業を継続すること自体に意義があったが、より効果的な授業運営を探っていきたい。

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to actual TV commercials at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in broadcast English. The ultimate goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the broadcast and pick out necessary information.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S(5)(秋期スクーリング)
大和久 悌一郎
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

【到達目標】

- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。授業期間中に、数回、アンケートとしてリアクション・ペーパーで回答必須の質問をだし、小テストとして成績に含めます。質問・感想へのフィードバックは次回の授業で行い、課題などについての解説も行います。必要に応じて、指示した箇所の予習をおこなうことをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 7(例文読解)	商店街での日常表現
第3回	Unit 7(文法)	接続詞について
第4回	Unit 8(例文読解)	観光旅行での日常表現
第5回	Unit 8(文法)	過去完了形について
第6回	Unit 9(例文読解)	新幹線でもちいる日常表現
第7回	Unit 9(文法)	話法について
第8回	Unit 10(例文読解と文法)	旅行先での日常表現／話法
第9回	Unit 11(例文読解と文法)	お土産を買うさいの日常表現／関係代名詞について
第10回	Unit 12(例文読解と文法)	友人と会話するさいの日常表現／関係代名詞について
第11回	Unit 13(例文読解と文法)	日本について説明するさいの表現／関係副詞について
第12回	Unit 14(例文読解と文法)	思い出を語るさいの日常表現／仮定法について
第13回	Unit 15(例文読解と文法)	挨拶のための日常表現／仮定法について
第14回	まとめ	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに扱う章について、事前に予習しておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！-続・イングリッシュ・ワンス・モア！- Introduce Japan in Easy English-English Once More! II-』朝日出版社、2016年

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト、アンケートへの回答など）60%、期末テスト40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）
独語S（秋期スクーリング）
宮城 学
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋期では春期で学んだ語形変化をさらに応用していきます。語形の変化がある体系のもとで行われていることに自らが気づき、それを応用できるようにすることが目標です。

【到達目標】

助動詞や再帰表現、完了形を学んで表現の幅を広げられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

春スクと同じく、授業では、毎回教師がテキストに沿って解説し、そのあと皆さんにテキストやプリントの練習問題を解いていただきます。

※事情によりオンライン授業となった場合は以下の要領で授業を進めます。

まず毎回解説動画を配信しますのでテキストをみながら学習してください。学習したあと、教師が指示する練習問題を解いて期限内に提出していただきます。動画のURL等についての指示は、毎回配信する「授業ガイダンス」で指示します。

フィードバックの方法について

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと復習	受講にあたっての注意。春期の復習。
第2回	人称代名詞	人称代名詞の格変化。
第3回	命令形	「～せよ、してください」などの表現。
第4回	話法の助動詞	英語の can や must にあたる助動詞の変化。
第5回	未来形	werden の変化。
第6回	再帰表現	自分に行為が返ってくる言い方とは。
第7回	副文と間接疑問文	通常の疑問文とどのように違うのか。
第8回	形容詞の格変化(1)	形容詞の弱変化。
第9回	形容詞の格変化(2)	形容詞の強変化。
第10回	zu不定詞	英語と比較しながら構造を学びます。
第11回	形容詞の名詞化	形容詞を名詞のように使うとは。
第12回	動詞の3基本形	動詞の基本となる形とは。
第13回	完了形	過去分詞を用いる構造。
第14回	到達度の確認	秋学期の到達度を確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようになしてください。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ドイツ語文法の基礎

著者：成田 節 櫻井 麻美

出版社：同学社

価格：2400円+税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題(60%)と到達度確認課題(40%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けています。総合的に満足のいく評価をいただいておりますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思っております。

【その他の重要事項】

「オフィスアワー制度」についてはメールにて行います。質問期間は初回（第1回）

資料配布から第13回課題提出期限までとします。初回の授業資料にメールアドレスをお知らせします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The student will further study the word forms. The goal is to become aware of a system, under which the words change, and to be able to apply it to other words.

【Learning Objectives】

The students will learn auxiliary verbs, recursive expressions, and perfect forms to expand your range of expressions.

【Learning activities outside of classroom】

Homework and assignments are important preparations, so be sure to do them. Also, be sure to check the previous lessons before going to class.

The standard time for preparation and review of this class is 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Assessments are based on assignments (60%) and achievement tasks at the end of the semester (40%).

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）
仏語S (秋期スクーリング)
石川 典子
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初学者が文法や会話表現を学ぶ授業です。最低限の文法知識をもとに、簡単なフランス語が聞き取れ、運用することができるようになることを目指します。フランス語を身近なものに感じること、フランスの文化について理解を深めてゆきましょう。春学期の私の授業か、独習やほかの授業で、近接未来程度までを終えていることが受講条件です。まったく初めて学習する人は受講できません。

【到達目標】

フランス語で過去のことについて話せるようになる。
 フランス語で未来のことについて話せるようになる。
 フランス語で仕事や社会のことを話せるようになる。
 フランス語で関心のある分野について話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法文学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

文法の解説が中心ですが、フランス語を聞いて、理解する力の伸長にも取り組みます。各回授業の初めに、前回の授業の疑問点や課題などに対して、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アイス・ブレイク、 Leçon 11	夏学期の復習、vouloir, pouvoir の直接法現在、非人称構文
第2回	Leçon 11, Leçon 12	命令法、人称代名詞強制形
第3回	Leçon 12	過去分詞、直接法複合過去
第4回	Révision 3, Leçon 13	Leçon 11, 12 の復習、devoir の 直接法現在、時刻の表現、強調 構文
第5回	Leçon 13	形容詞・副詞の比較級・最上級
第6回	Leçon 14	目的語人称代名詞
第7回	Leçon 15	代名動詞の直接法現在、代名動 詞の用法
第8回	Leçon 16	関係代名詞
第9回	Leçon 16、Révision 4	受動態、Leçon 13 から Leçon 16 までの復習
第10回	Leçon 17	直接法半過去、指示代名詞
第11回	Leçon 18	直接法単純未来
第12回	Leçon 18, Leçon 19	中性代名詞、条件法現在
第13回	Leçon 19	現在分詞、ジェロンディフ
第14回	まとめと試験	これまでのまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。家でも声を出して練習してみましょう。その際は、付属の音声ファイルや「書き込み復習ノート」を活用してください。

【テキスト（教科書）】

『À pied!（ア・ピエ！—フランス語初級文法）』、西部由里子著、朝日出版社、2022年、2200円＋税

【参考書】

参考書は指定しませんが、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での毎回の取り組み50%、期末試験50%で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語を運用するための基本的な文法確認をしっかりとおこないます。その上で、学習したことを実際に活かす演習をおこないます。

【学生が準備すべき機器他】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】

This course is the continuation of my French course in spring. Students who learn at the first time can't attend.

This course is for students who start to study French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to express themselves in French.

After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LAW300TB（法学 / law 300）
商法総則・商行為法(秋期スクーリング)
石井 宏司
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

商法第二編商行為法についての講義を行う。商行為法は商人の行為、特に商人の取引に関する法規制に関するものである。商行為法は個人商人と会社の双方に適用されるものであり民法の特別法である。民法と商法を比較しつつ、商人がかかわる契約の成立等や商人間の売買に関する規制を学ぶ。この他に商行為法において規制される交互計算や匿名組合、仲介営業や運送営業など各種の営業などに商行為法独自の法制度を学ぶ。

本講義においては法学概論および民法等を未修であっても受講者が理解できるよう法学や民法の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する

学生は商行為法の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商行為法の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

【到達目標】

商行為法の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。

さらに民法との関係において商法の特殊性を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式授業を行います。

配布資料は教科書の要点を中心にイラストをまじえさらにわかりやすくしたものであり、配布資料と教科書を同時並行で読むことが望ましい。さらに配布資料においては小テストと答えを添付するので事後的な復習に利用して欲しい。

授業においては質問等を行い、簡単な議論を行ってもらうことがある。質問やディスカッションを通じて商法や法律全般についての理解を深めてもらうこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商行為法総則①	授業の進め方を説明する 商行為法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商行為法総則②	商行為法総則のうち、契約の成立に関する規定と債務の履行・債権担保に関する規定を学ぶ
第3回	商行為法総則③	商行為法総則のうち、有価証券に関する規定を学ぶ その際、有価証券概念について説明を行う。
第4回	商行為法総則④	代理及び委任に関する規定と商行為の営利性が重視された規定を学ぶ

第5回	売買①	商事売買と消費者売買の区分の意義について学ぶ 商事売買の法規制を学ぶ
第6回	売買②	商事売買の法規制を学ぶ 消費者売買に関する法規制を学ぶ
第7回	交互計算	交互計算の意義および効果について学ぶ
第8回	匿名組合	匿名組合の意義およびその法規制を学ぶ 民法の組合との違いについて学ぶ
第9回	仲立営業	仲立営業の意義およびその法規制を学ぶ
第10回	問屋営業	問屋営業の意義およびその法規制を学ぶ
第11回	運送営業①	物品運送の意義およびその法規制を学ぶ
第12回	運送営業②	旅客運送の意義およびその法規制を学ぶ
第13回	運送営業③ 運送取扱営業	旅客運送・運送取扱営業の意義およびその法規制を学ぶ
第14回	寄託	寄託営業の意義およびその法規制を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する学生は予習と復習を行うこと。

本授業の予習に関しては10分程度でよいが復習時間は多めに1時間程度を標準とします。復習を多くするようにしてください。授業内で説明を行います。

学生は復習については配布プリントと教科書をしっかり見直すことが望ましい。また授業内で指摘した文言や学説等についての問題意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法(第9版)』（有斐閣、2023）

【参考書】

『商法判例百選〔No.243〕』（有斐閣、2019）

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内試験により成績を評価する（配分：100％）

【学生の意見等からの気づき】

商行為の総則部分には抽象的難解な文言が多く非常にわかりにくいので最新の判例を踏まえ、具体的な説明を加えて授業を行うようにしています。

商行為の運送等においては配布資料で現実に使われている約款等の実際の事例等を活用しわかりやすく現実社会での役に立つようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

対面型授業においては筆記用具、小型六法、教科書を所持して出席すること。

資料等の参照時にインターネットを用いることがあるのでパソコンまたはスマホ等があることが望ましい。

オンライン型授業においては資料を受取ることができるメールアドレスおよび資料を読むことができるPCやスマホ等が必要なる。また、カメラやリアルタイム配信授業中に通信が安定してつながる環境、Zoomのアプリ（アカウント）が必要となる。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course is intended to provide understanding of The Commercial Acts. In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as commercial transactions, open account, and silent partnership agreement. Through this course, students will learn the history, the case law and the doctrine of The Commercial Acts.

LAW300TB（法学 / law 300）
会社法(秋期スクーリング)
笹久保 徹
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。
 受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
 ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

本授業は、教室での対面授業である。フィードバックは授業内で行う。

なお、本授業の受講者は、できれば春期スクーリングの「会社法」を受講しておいて頂きたい（もちろん秋期スクーリングから受講してもかまわない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、及び、会社法を学ぶための前提知識・用語等の解説
第2回	株式会社の設立1	発起人、定款等に関する解説
第3回	株式会社の設立2	出資の履行、役員を選任等に関する解説
第4回	株式会社の設立3	設立の瑕疵に関する解説
第5回	株式会社の設立4	設立の論点等に関する解説
第6回	株式1	株式の概要、株主の権利、株式の種類等に関する解説
第7回	株式2	株券、株主名簿等に関する解説
第8回	株式3	株式譲渡に関する解説
第9回	株式4	自己の株式の取得に関する解説
第10回	株式5	株式の併合・分割等に関する解説
第11回	募集株式1	募集株式の概要に関する解説
第12回	募集株式3	募集株式の発行手続きに関する解説
第13回	募集株式3	募集株式の発行等を争う方法に関する解説
第14回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回につき、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2014）。
 ・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリストNo.254（有斐閣、2021）。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末の定期試験による（定期試験100％）。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。

テキスト及び参考書は、改訂版が出版される可能性がある。購入を考えている受講生は、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law.

The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 100%.

LAW200TB（法学 / law 200）
刑法総論(秋期スクーリング)
LEBRETON CAROLINE
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法とは、何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰が科されるかを規定する法律であり、この内刑法総論が刑法典第1編（72条まで）を基礎として各犯罪のいわば共通項としての一般的成立要件を中心に論ずるものである。本授業では、その一般的成立要件について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

刑法総論の勉強は、犯罪の成立要件と阻却自由を単に覚えるのではなく、条文から厳格な理論を展開しつつ、実際上も妥当な結論を導くという、特有の思考様式が必要となる。このような思考方法の基礎を身につけることを目的とする。刑法典における一般的な成立要件について、判例・学説で問題とされている基本的な論点に関して、解釈論を展開することができる。以上のような解釈論の結論を事例に適用し、犯罪の成立を議論することができることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で学説（内容・根拠）を議論し、判例を検討する。フィードバックは試験採点后にオンラインでアクセスできる資料として提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	刑法の意義、罪刑法定主義
第2回	成立要件①	成立要件（構成要件）とは何か、構成要件の様子
第3回	成立要件②	不作為論
第4回	成立要件③	因果関係論
第5回	違法性①	違法性の基礎、阻却事由の紹介、35条
第6回	違法性②	正当防衛
第7回	違法性③	緊急避難
第8回	故意・過失	過失論
第9回	故意・過失	錯誤論（事実の錯誤、法律の錯誤）
第10回	責任	責任の意義、責任の要素、責任阻却事由
第11回	未遂犯	未遂とは、中止犯、不能犯
第12回	共犯①	共犯とは、共犯の処罰根拠、共同正犯
第13回	共犯②、罪数	教唆犯、補助犯、共犯と身分
第14回	まとめ、試験	全体的なまとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を中心に行う。（ただし、判例の事前確認がお勧めです）具体的には、講義の説明及びレジュメと照らし合わせながら、各自で教科書及び判例集の判例を読んで、理解すること。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田典之「刑法総論(第3版)」(弘文堂)
山口厚, 佐伯仁志, 橋爪隆「判例刑法総論〈第八版〉」(有斐閣)

【参考書】

別冊ジュリスト刑法判例百選1 総論[第7版](有斐閣)

【成績評価の方法と基準】

最終時限に試験評価する。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

判例の予習ができるように、事前に授業中で検討する予定の判例番号（西田典之、山口厚, 佐伯仁志, 橋爪隆「判例刑法総論〈第七版〉」の判例番号）を指摘するようにします。

【学生が準備すべき機器他】

小型六法(「デイリー六法」三省堂など、オンラインで閲覧することも可)

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, we will focus on the basic principles in criminal law, and the common elements of criminal offenses. In that regard, we will be focusing on the discussions regarding their interpretation(doctrines, jurisprudence).

Learning objectives: The main goal is for students to understand the foundations of criminal law thinking and the common elements of any offense. Mainly

1- understand how to read a section of the law and apply it to an actual situation

2- understand the different doctrines(the reason of the differences in interpretation and the practical consequences of those differences) and the position of the jurisprudence

Learning activities outside the classroom: Before/after each class meeting, each student should spend approximately four hours to understand the course content.

Grading criteria : Final examination 100%

LAW300TB（法学 / law 300）
行政法(秋期スクーリング)
氏家 裕順
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動もっており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政法という科目において学習することは多岐にわたる（西田幸介『行政法』〔法政大学通信教育部、2016年〕、あるいは、通信学習「行政法」シラバスを参照のこと）が、秋期スクーリングでは、行政法の基本的事項といえるものを学習する。具体的には、行政法の法源、法律による行政の原理、行政の各種の行為、行政行為、行政上の強制執行、行政契約について学ぶ。

法源に関しては様々な議論が存在するが、行政法の法源は、行政活動をめぐる紛争が生じた際にこれを裁判所が裁断する際の基準となるものである。そのうち、成文法には、上位法と下位法があり（例えば、法律と命令が上位法と下位法の関係にある）、それらの関係（階層構造）の理解が、法律の法規創造力の原則、委任命令の限界などの学習にとって必要不可欠であるといえる。

法律による行政の原理は、行政の行為の適法性を問うための基本的な法原理である。このなかには、法律の法規創造力の原則、法律の優位の原則および法律の留保の原則が含まれ、これらを適切に理解できることが期待される。

行政の各種の行為について、従来、行政法学は、行政の無数の行為を、行政立法、行政行為、行政契約、行政指導などの各種の行為（行政の行為形式、行為形式ともいう）に分類したうえで、それらの行為の法的規制について考察してきた。その分類基準である、法行為および事実行為、権力的行為および非権力的行為の各概念も、行政法学にとって基本的なものである。

行政の各種の行為のうち、行政行為と行政契約は、私人の権利・義務を具体的に変動する行為であるという点で共通するものである。両者の定義上の違いは、行政行為が相手方の同意を権利義務変動の要件としないのに対して、行政契約が相手方の同意をその要件とする点に存在する。これらの点に着目して各行為形式の意義（加えて行政行為については法効果による分類）を学ぶとともに、それらの法的規制について学習する。

行政上の強制執行とは、私人が行政上の義務を任意に履行しないときに、行政自らが将来に向かって直接的にあるいは間接的に義務を履行させまたは義務の履行があったのと同じ状態を作り出すことをいう。このための手段として、代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収がある。これらのうち、一般法のある代執行と、個別法で範とされることのある国税滞納処分を中心に学習する（以上について、参照、前掲・西田11頁、109頁、337頁、348頁など）。

【到達目標】

- 行政法の法源について説明することができる。
- 法律による行政の原理について説明することができる。
- 行政の各種の行為（行政の行為形式）について説明することができる。
- 行政行為の意義、分類および法的規制について説明することができる。
- 行政上の強制執行について、代執行および行政上の強制徴収を中心に、説明することができる。
- 行政契約の意義と法的規制について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。フィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政法の法源	成文法と不文法 各種の法の階層構造
第2回	法律による行政の原理（1）	法律の法規創造力の原則 法律の優位の原則
第3回	法律による行政の原理（2）	法律の留保の原則
第4回	行政の各種の行為（1）	法行為と事実行為 権力的行為と非権力的行為
第5回	行政の各種の行為（2）	抽象的行為と具体的行為 行政の各種の行為の意義
第6回	行政行為（1）	意義 法効果による分類
第7回	行政行為（2）	実体的規制（違法事由）
第8回	行政行為（3）	手続的規制（行政手続法の規定する申請に対する処分の手続）
第9回	行政行為（4）	手続的規制（行政手続法の規定する不利益処分の手続）
第10回	行政上の強制執行（1）	行政における自力救済 代執行
第11回	行政上の強制執行（2）	執行罰・直接強制の紹介 行政上の強制徴収
第12回	行政契約（1）	意義 実体的規制
第13回	行政契約（2）	手続的規制 行政契約の履行強制手段
第14回	まとめに代えて	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクーリングの開講日までに、後掲の参考書のいずれかを通読することによって、行政法を大まかに理解するように努め、また、疑問点を明確にしておく（準備学習）。授業後、毎回、参考書に当たりながら、自筆のまとめノートを作成することによって、授業内容を把握する（復習）。

準備学習および復習が適切かつ充分に行われるべきであり、少なくとも、準備学習には計30時間、復習には各2時間を要すると考えられる。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配布するレジメ・資料を用いる。

【参考書】

- 宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第7版〕』（有斐閣、2020年）
- 大橋洋一『行政法Ⅰ〔第4版〕』（有斐閣、2019年）
- 塩野宏『行政法Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2016年）
- 芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
- 芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）
- 曾和俊文＝山田洋＝互理格『現代行政法入門〔第4版〕』（法律文化社、2019年）
- 西田幸介『行政法』（法政大学通信教育部、2016年）
- 原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』（学陽書房、2012年）
- 藤田宙靖『新版行政法総論(上)』（青林書院、2020年）
- 室井力編『現代行政法入門（1）〔補訂版〕』（法律文化社、2005年）

【成績評価の方法と基準】

第14回授業において実施する試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習と復習が授業内容を理解するために必要である。

【学生が準備すべき機器他】

六法。

【その他の重要事項】

後に行政救済法も履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law; specifically, (1) to study sources of law, the rule of 'the executive function bounded by legislation', and classes of acts performed by executive agencies (hereinafter these acts are simply referred to as 'acts'), (2) to know what effect acts have on individual rights and obligations, and (3) to understand acts which may be done for a purpose of ensuring that an individual administrative obligation should be satisfied. As concern this (3), there are some mechanisms, but you are expected to chiefly learn (a) a measure, a procedure, and requirements, all of which are laid down in the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c. 48) and (b) measures and process, both of which are provided in the National Tax Collection Act 1959 (c. 147). These all studies would concern about your understanding of administrative relief.

As concern the above (1), the rule of 'the executive function bounded by legislation' is comparable though not identical idea of 'the rule of law'. Concerning the above (2), there are final and unilateral acts: acts which shall decide rights, obligations, and other legal status finally without consent of the person(s) to whom it is addressed. On the other hand, there are also bilateral acts: acts which shall decide rights, obligations, and other legal status finally but only with consent of the person who it makes (these bilateral acts are similar to conclusion of government contract in the parties which is relevant and in the fact that these acts are subject to special legal controls). About (3) mentioned above, an 'individual administrative obligation' is imposed by administrative law or acts. That measure, laid down in the Act 1948, may be employed by executive agencies in order to fulfil the above-mentioned obligation on behalf of the individual. That process, created by the Act 1959, may be began by executive agencies so as to collect national tax arrears.

After completing this course, you should be able to:

- Explain sources of administrative law in Japan;
- Explain the rule of 'the executive function bounded by legislation';
- Explain how acts are classified into several sorts (classification based on their nature);
- Explain meaning, sorts, and legal controls of above final and unilateral acts;
- Explain mechanisms which are provided in order to ensure that an individual administrative obligation should be fulfilled, but among them, mainly spell out what are laid down in the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c. 48) and in the National Tax Collection Act 1959 (c. 147); and
- Explain meaning and legal controls of above bilateral acts.

LIT200TC（文学 / Literature 200）
中国文芸史(秋期スクーリング)
吉井 涼子
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

親しみのある歴史上人物の話テキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
 当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
 有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
 毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方角性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
 授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第2回	『史記』刺客列伝を読む(1)	『史記』の刺客列伝から荆軻の部分を精読する。
第3回	『史記』刺客列伝を読む(2)	当時の中国がどのような状況であったのかを理解しつつ読み進める。
第4回	『史記』刺客列伝を読む(3)	精読することで、燕国と秦国の状況や荆軻の置かれた立場などを理解する。
第5回	『史記』刺客列伝を読む(4)	太子と荆軻の認識の差などに留意しつつ読解する。
第6回	『史記』刺客列伝を読む(5)	秦王暗殺を試みる場面を精読する。
第7回	『史記』刺客列伝を読む(6)	荆軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていたのかを理解する。
第8回	『史記』刺客列伝を読む(7)	荆軻列伝全体の流れを整理し、『史記』の他の部分ではこの事件がどう記されているかを見る。
第9回	『史記』秦始皇本紀を読む(1)	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。
第10回	『史記』秦始皇本紀を読む(2)	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第11回	『史記』秦始皇本紀を読む(3)	始皇帝の本紀から、当時の人々の思想などを読み解く。
第12回	『史記』秦始皇本紀を読む(4)	秦の滅亡と、その後の項羽と劉邦の争いに触れる。
第13回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
 予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』（漢和辞典）
 高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・できれば紙のものが望ましいが、アプリ等でも構わないので漢和辞典・高校の副教本(便覧・要覧)など。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we learn how to read classical Chinese using stories about familiar historical figures. We read longer passages, reading them carefully while touching on Chinese culture and stories, in order to strengthen basic skills in reading classical Chinese.

Learning Objectives: Students will learn the basic structures of classical Chinese and gain an understanding of the *kundoku* method for reading Chinese in literary Japanese. They will also deepen their knowledge of the history and culture of ancient China by reading famous works of literature, historical stories and episodes.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students should prepare by examining the materials distributed in advance. Chinese-Japanese dictionaries and Chinese character dictionaries are necessary for preparation (printed versions preferable, but apps may be used). The preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on the following: a general grade based on contents of regular reaction papers and short assignments (70%), and a final examination (30%). Attendance is assumed.

Lecture format: Chinese materials with *kunten* (punctuation marks, *kaeriten*, *okurigana*) are distributed as texts and we read them carefully as I explain the structure of the sentences. I will also explain the historical background necessary for reading and knowledge of ancient Chinese culture in a timely manner. In each class, you will submit a reaction paper or sub-assignment, which checks the students' understanding and interests, and I will explain the sections and questions that need to be supplemented in the next class. The "contents" of each lesson plan may be added to as appropriate. In addition to dictionaries, high school supplementary textbooks will also be of use.

Remarks for International Students: This class is conducted through *kundoku*, a method for reading ancient Chinese in literary Japanese. I think that it may be difficult for international students from China, Taiwan, etc., but please pay attention to this point before deciding to take the course. Classes are held at a gentle pace.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）

西洋美術史(秋期スクーリング)

濱西 雅子

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。授業では、古代から20世紀にかけての時代の、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる西洋の美術作品について考察するなかで、その造形的表現の特質を学ぶ。

【到達目標】

西洋美術の名作について、図像(主題・内容)、(時代・地域・個人)様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3,DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一昨年度の秋期スクーリング及び昨年度の冬期スクーリングでは、(キリスト教)図像を中心に授業を進めたが、今回のスクーリングでは、(時代)様式を軸に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序、古代ギリシア・ローマ	授業全般の説明、美術史の方法論、《パルテノン神殿》
第2回	初期キリスト教・ビザンティン	《サン・ヴィターレ聖堂》
第3回	初期中世	《ケルズの書》
第4回	ロマネスク	《サンティアゴ・デ・コンポステラ大聖堂》
第5回	ゴシック	《シャルトル大聖堂》
第6回	イタリア・ルネサンス マニエリスム	ラファエロ《アテネ(アテナイ)の学堂》
第7回	北方ルネサンス	ホルバイン《大使たち》
第8回	バロック ロココ	レンブラント《夜警》 ヴァトー《シテール(キューテラ)島の巡礼》
第9回	新古典主義 ロマン主義	ダヴィッド《皇帝ナポレオンの聖別式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠》 フリードリヒ《山上の十字架》
第10回	写実主義 印象主義	ミレー《落ち穂拾い》 モネ《睡蓮の池(日本の太鼓橋)》
第11回	後期印象主義	ゴッホ《タンギー爺さんの肖像》
第12回	アール・ヌーヴォー	クリムト《アデーレ・ブロッホ＝パウアーの肖像I》
第13回	20世紀	モンドリアン《赤、黄、青のコンポジション》
第14回	ヨーロッパの美術館、まとめ	ヨーロッパの美術館とその所蔵作品についての紹介、小テスト、最終課題レポート提出等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず通史概説書を通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。予習として、【授業計画】に記載されている、各回の授業で取り扱う主要作品を中心に、図像内容、(時代・地域・個人)様式等について、専門書や配布資料等で確認し、自分の考えをまとめる(各回120分)。復習として、授業で取り扱った主要作品を中心に、授業中のディスカッションや解説を踏まえつつ、図像内容、(時代・地域・個人)様式、技法、造形的表現の特質といった美術史的な観点から総合的な理解を深める(各回120分)。

また学期末最終課題レポートに備え、下記を参考に事前にある程度の準備をしておくことが望ましい。

<インターネット以外による検索について>

●図書館利用時の注意事項：

図書館を利用する際は、事前のOPAC検索や取寄せ、滞在時間の短縮化に努める等、安全管理に留意する。

●ネット公開論文ではなく、実物の文献(本・論文)を参照する場合の注意事項：

実際に用いた文献データは、参照ページを含め、文末の参考文献表に表示し、添付する必要があるため控えておくこと(専門誌掲載論文の場合は、著者、論文のタイトル、掲載誌名、号数、発行年、参照ページの順で記載する。書籍の場合は、著者名、書名、出版社名、発行年、参照ページの順で記載する。詳細については、授業で解説する)。

またネット公開論文ではなく、実物の文献(本・論文)を参照する場合は、参照した部分(実物でもコピーでも可)をスマートフォンやデジタルカメラで撮影し、Word文書の最終課題レポートの末尾に、参考文献表とともに張り付けて提出する必要があるため、図書館等で参照する際には、本の基本データとともに、必ず参照ページの画像記録(テキスト部分、図版部分、ページ番号部分も欠けないように)も取っておくこと。

<インターネットによる検索について>

●検索対象：

インターネット検索の際は、専門家以外の人物の記述物(Wikipedia、個人のBlogやHP等)を参照することは厳禁とする(部分的にも利用した場合は、評価の対象外)。大学の紀要論文等、「西洋美術史・西洋建築史」の専門家による学術論文や、美術館の公式HPの専門家による解説等を複数参照すること(他分野の専門文献は基本的に不可。ただし文学の専門家の論文は、美術史的な観点からも詳細に論じているものは可。なお斎藤氏によるラファエロ関連論文や、一条氏によるレオナルド関連論文等、医学等の専門家による、題目からは判断が難しい文献には特に注意すること)。参考文献の著者は、「氏名 研究者情報」等のキーワードで検索し、美術史(ないし建築史)の専門家かどうかよく確認してから参照すること。また、田中氏等の博士論文の要旨、学会の大会報告等、美術史の専門家によるものであっても「論文の本文」でない場合も参照不可。

●検索先：

1. IRDB(学術機関リポジトリデータベース) IRDB 検索画面：<https://irdb.nii.ac.jp/> (「学術機関リポジトリ」とは、大学等学術研究機関における教育・研究活動等の成果物を収集し、電子的形態による恒久的な蓄積・保存を行い、ネットワークを通して学内外に無償公開・還元するシステム。なおIRDB検索では、左の「すべて」ではなく、右の「本文あり」の方をクリックしてから検索をかけると、本文が公開されている論文のデータが検索可能。)

2. CiNii(サイニー、サイニイ、サイニイ)国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii 検索画面：<https://ci.nii.ac.jp/ja>

3. Googl 等での検索(論文でないものも検出されるので要注意。キーワードの「論文」に傍線が引かれて「含まれない」表示が、最後の行に出ていたら不可)

●検索キーワード：

1.「画家名」(よくある名前の場合、ファーストネームのイニシャルも入れる。例：C. D. フリードリヒ) 2.「作品名」 3.「論文」 4. その他(よくある名前の場合等)「美術」といった分野名等各自様々に工夫をこらし検索をかける。

<最終課題レポートについて>：

●レポート全体の注意事項：

授業で取り扱った作品の中から気に入った一つの作品を選択し論考する。ただし、以前「西洋美術史」の試験やレポートで詳しく論じた作品は選択不可。

下記各項目を含め、選択した作品の基本データ（制作者名・作品名・制作年代・素材・大きさ・所蔵先等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、画像内容、(時代・地域・個人)様式、技法、造形的表現の特質といった美術史的な観点から、2000字以上かけて総合的に論じること。

画家の伝記や、複数の作品についてではなく（比較のために少し言及するのは可）、一つの作品について論考する。

文献は実物とインターネットを併せて二点以上参照すること（これには美術辞典類を含めない。三冊目以上に記載するのは可。）

手書きレポートの場合、スマートフォンやデジタルカメラで撮影し、画像データとした上で、Word文書に張り付けて提出すること（困難な場合は要相談）。

●レポート表紙に表示する事項：

・授業名、提出日
・授業出席番号（採点整理のためこの授業限定で発行する番号。初回授業までに連絡する。）

・学科、学年、学生証番号、氏名

・選択した作品の（できれば解像度の高いカラー）図版とその図版出典（図版に関してのみ、Wikipedia、個人のBlogやHP等の参照可。アドレスのない文献データ参照元も明記すること。）

・選択した作品の基本データ（制作者名・作品名・制作年代・素材・大きさ・所蔵先等）

●レポート文末に表示する事項（参考文献表、参照ページの画像）：

・総字数（Word→「校閲」→「文字カウント」→「総文字数（スペースを含めない）」、Word以外→一行何文字×何行＝何文字（例：40文字×55行＝約2200字）

・参考文献表（実際に用いた複数の文献の参照ページを含めたデータ）

・実物の文献（本・論文）を参照した場合は、参照したページの画像（テキスト部分、図版部分、ページ番号部分も欠けないように）レポートWord文書の末尾に張付け提出すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。下記の参考書等を参照すること。

【参考書】

<通史概説書>

高階秀爾監修『増補新装 カラー版 西洋美術史』美術出版社 2002年 (2,090円)

H. W. ジャンソン他著 木村重信他訳『西洋美術の歴史』創元社 2001年 (3,740円)

<美術辞典類>

諸川春樹監修『西洋絵画の主題物語・1 聖書編』美術出版社 1997年 (絶版)

諸川春樹監修『西洋絵画の主題物語・2 神話編』美術出版社 1997年 (絶版)

柳宗玄、中森義宗編『キリスト教美術図典』吉川弘文館 1990年 (9,460円)

J. ホール著 高階秀爾監修訳『西洋美術解説事典』河出書房新社 2004年 (5,390円)

『新潮世界美術辞典』新潮社 1985年 (絶版)等

<美術全集>

『世界美術大全集』西洋編 全28巻 小学館 1992-97年 (各30,800円)等

その他、画家別の画集、時代様式や作品について一冊論じられた専門書等を参照すること。

【成績評価の方法と基準】

・平常点30%、学期末小テスト30%、最終課題レポート40%で、上記到達目標に照らした各回の授業の理解・習熟度を総合的に評価する。

・最終課題レポートでは、西洋美術史の専門文献で得た知識を基に深く考察を行い、美術史的な観点から総合的に論ずる力を見る。

【学生の意見等からの気づき】

映像機器を多用すること等から、外濠校舎教室の使用が望ましい。

【学生が準備すべき機器他】

スライドショーの際、暗くてメモが取りにくい場合は、各自ペン型ライトを持参すること。

また単眼鏡等を用意すると、画像をより鮮明に詳細まで見ることができる。

【その他の重要事項】

<市ヶ谷情報センター利用ユーザーIDの取得について>

今回のスクーリングは対面授業のため、Google Meet等を使用しない。ただし学期末に行われる最終課題作品レポートの回収や学期末小テスト等に、受講生個人のメールアドレスが必要となる（困難な場合は要相談）。そのため必須ではないが各種セキュリティの観点から、受講生は「市ヶ谷情報センター利用ユーザーID」（法政大学のアカウント）をあらかじめ取得しておくことが望ましい。（これには、すでに年間（4 - 3月 6,000円）利用の申請手続きを経ている者以外は、半期（10 - 3月 3,000円）利用の申請が必要。詳細は『法政通信』等を参照。学生証番号の頭にc（半角小文字）のついたユーザーIDが使用可能となる。学外からの図書館オンラインデータベース等の利用もこれを前提とする。）

【Outline (in English)】

【Course outline】

Art History is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture. In the lecture, studying the artistic expressions of Western art from the ancient to the twentieth century, considering Western art works taking various forms of expression such as architecture, sculpture, painting, crafts and so on.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to comprehensively discuss masterpieces of Western art from the viewpoint of art history, such as iconographic content, (era / region / individual) style, technique, and characteristics of sculptural expression.

【Learning activities outside of classroom】

Pre-study: As a preparatory lecture, check the iconography, style, artists, etc. described in the [Lecture Schedule] in reference books (two hours).

Post-study: As a review, focusing on the main subject works handled in the class, based on the commentary during the class, comprehensively from the viewpoint of art history such as iconographic content, (era / region / individual) style, technique, and characteristics of sculptural expression. Deepen your understanding(two hours).

【Grading Criteria /Policies】

Comprehension and proficiency in each lesson will be comprehensively evaluated in light of the above goals, with a 30% normal score, 30% final quiz, and 40% final assignment report.

LIT200TC（文学/Literature 200）
日本文芸史 I (秋期スクーリング)
小林 ふみ子
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【テーマ】 中世後半～近世（鎌倉時代末～江戸時代）の文学史時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、韻文・散文、さらに芸能も含むさまざまなジャンルの特徴について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解し、その文体にも触れます。有名作品を紹介してだけでなく、近代文学が生まれてくるまで約500年間にわたる文学のダイナミズムを学びましょう。

【到達目標】
 (A) 中世・近世文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
 (B) 中世・近世文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
 講義と資料（デジタル）に触れてもらう時間、皆さん自身に作品を読解してもらう時間を交互に交えながら展開します。わかったこと、考えたことHoppiiに1日以内に書き込んでもらい（リアクションペーパー）、フィードバックしながらできるだけ双方向を確保できるように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

回	テーマ	内容
第1回	『徒然草』が拓く世界 -中世1	鎌倉時代の末の成立ののち実は江戸時代になって広く読まれるようになった『徒然草』の影響を探ります。
第2回	武者たちの物語の展開 -中世2	室町時代の軍記物語『太平記』に触れ、その英雄たちがその後の文芸や芸能のなかで活躍するさまを見てみましょう。
第3回	昔話の由来 -中世3	「御伽草子」として知られる一群の作品について学び、昔話とのつながりを確認します。
第4回	漢詩と和歌（1） -中世から近世へ1	日本文学史を貫く重要ジャンルである漢詩と和歌が中世～近世前半にどのように展開したのかを学びます。かの一休も登場！
第5回	連歌と俳諧 -中世から近世へ2	和歌の席の遊戯として始まった連歌と、そこから派生した俳諧が近世文芸の重要ジャンルとして確立するまでを学びます。
第6回	近世小説のはじまり - 近世1	太平の世を迎えて出版を通じて文学が流通し始める時代、どんな文学が生み出されたのか、その多様な展開に触れます。
第7回	「浮世」の楽しみ - 近世2	17世紀の末、大坂に西鶴が登場します。前代とは異なる画期性はどこにあるのか、その次世代の作者たちがどんな工夫で先人を乗り越えようとしたのかを見ていきます。
第8回	劇場の愉楽 - 近世3	江戸時代らしい演劇として歌舞伎と人形浄瑠璃が発展します。双方を紹介しつつ、とりわけ人形浄瑠璃がどんな芸能なのかを理解します。
第9回	俳諧のその後、そして川柳 - 近世4	芭蕉による俳諧の文芸性確立から以後の全国展開、そこから派生した雑俳・川柳が派生するさまを学びます。
第10回	詩心のゆくえ：漢詩と和歌（2） - 近世5	江戸時代中期以後、漢詩や和歌も、近世らしい素材を扱う時代がやってきます。
第11回	世にも奇妙な物語：近世編 - 近世6	文芸思潮の展開と共に学びましょう。浮世草子の時代から移りかわり『雨月物語』をはじめとする前期読本が生まれてくるさまをみてみましょう。

- 第12回 古典と戯れ、知で笑う：18世紀なかば以降、知的なしかけに江戸の知識人文芸
- 近世7 富んだ笑いの文芸が江戸で流行します。黄表紙・洒落本・狂歌など、さまざまなジャンルに触れていきましょう。
- 第13回 落語はどのようにしてできたのか
- 近世8 江戸時代に入って以来、上方でも江戸でも作られてきた笑話集から落語ができるまでを概観します。
- 第14回 事件、冒険、恋、笑い：読者層が拡大した19世紀、大衆に歓迎されるさまざまなジャンルが展開します。今日のエンタメにもつながるその諸相を学びましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 授業後のリアクションペーパーに10分程度。4～5回に1度、数回分の授業内容を踏まえたミニ・レポートを課しますので、毎回しっかり復習しましょう。本授業の準備学習30分程度、復習時間3時間程度を標準とします。中間・期末課題への取り組みで一コマあたり4時間になります。

【テキスト（教科書）】
 各回、学習支援システムを通じて資料を配付します。

【参考書】
 作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
 毎回のリアクションペーパー（Hoppii・採点対象）50%、4～5回に1度計3回の小レポートで（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
 なにより、楽しかった、興味が持てたといってもらえるように、各ジャンルのエッセンスをお伝えします。中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成します。単なる知識の習得に終わらないよう、現物やデジタル資料ももちいて、文学＝書物のリアリティを体感できるように工夫します。文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは創作においても言語分析においても不可欠だからです。前向きに履修しましょう！

【その他の重要事項】
 (通学の学生のみみなさんへ) 担当教員の専門が近世であることから、中世についてはのちの時代につながる、影響の大きいジャンルや作品を中心に扱います。中世を重点的に学びたい人は、水曜2限の阿部先生の日本文芸史IBを選択することをオススメします。とはいえ、高校までの教科書では接点が限られていた近世文学の豊かな世界、きっと楽しめるはずですよ！

【Outline (in English)】
Course Outline: Learning the history of Japanese literature from the medieval (late 12th to 16th c.) to early modern (17th to early 19th c.) times in various genres.

Learning Objectives: The goal of this course is to learn about each genre of the literature of the time, understanding them in the flow of their history.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. In addition, 3 short reports are required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIN200TC（言語学/Linguistics 200）
日本文法論(秋期スクーリング)
松浦 光
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知言語学・構文文法の観点から、日本語文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

【到達目標】

意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1)そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2)そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようにすること、の2点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

▼基本的には講義形式で進めるが、ずっと受身で話を聞くだけではなく受講生にも積極的に考えてもらいたいので、様々なトピックについて議論を行うこともある。

▼授業の理解を確認するため、小課題を課すこともある。

▼リアクションペーパー等における質問やコメントへのフィードバックは次の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	これまでの学習の復習を行う。
第2回	視点とことば	視点が関与する言語表現を考える。
第3回	主観的移動と主観的变化	主観的移動と主観的变化が反映された表現を理解する。
第4回	知覚・経験と存在	知覚・経験と存在と言語表現について考える。
第5回	話し手としての「私」	話者と人称の関係を検討する。
第6回	人称と視点	人称と視点の関係から言語表現を考察する。
第7回	視点からみた日本語らしさ	他の言語と日本語について検討する。
第8回	モノの性質からみた知覚と行為	モノの性質と身体性による意味づけについて考える。
第9回	イメージ・スキーマ	イメージ・スキーマの例と言語表現の関係を考える。
第10回	多義語	多義語の例を考えて、分析する。
第11回	事物の意味とフレーム	フレームが反映された言語表現を考える。
第12回	概念メタファー	概念メタファーの働きについて理解を深める。
第13回	自己と主観性	自己と主観性が反映された言語表現を考える。
第14回	まとめ	本講義の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・小課題（2時間）

その日の講義の復習（2時間）

【テキスト（教科書）】

本多啓(2013)『知覚と行為の認知言語学: 「私」は自分の外にある』東京: 開拓社。(¥2,090)

【参考書】

教場で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末レポート50%、②小課題30%、③平常点・授業参加への積極性20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期でそれぞれ扱うテキストは異なる。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to cognitive linguistics and construction grammar. We will focus on grammatically exceptional expressions or extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Objectives: The objectives of this course are (1) to acquire the ability to differentiate normal (grammatical) expressions and grammatically extended expressions, and (2) to situate the latter expressions in the networks of our linguistic knowledge.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (50%), short reports (30%), in-class contribution (20%).

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）
書道史(秋期スクーリング)
山口 恭子
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史の事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（葦原書房、2005年）

・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）

・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）

そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）平常点（30％）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史の事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんともにも考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

LIN100TC（言語学/Linguistics 100）
日本語学概論(秋期スクーリング)
古牧 久典
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】

- ・言語学の基礎知識を習得する。
- ・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
- ・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要と目的、授業の方法について
第2回	「ことば」を考えると は？	ことばの学問
第3回	ことばの様々な側面と は？	言語学の射程
第4回	言語学の隣接領域とは？	学際分野としての言語学
第5回	コミュニケーションと は？	語用論・コミュニケーション論
第6回	ことばの意味とは？	意味論
第7回	文法とは？	文法論
第8回	文の構造とは？	統語論
第9回	単語とは？	形態論
第10回	言語音には何種類ある のか？	音声学
第11回	同じ発音とは？ 違う発 音とは？	音韻論
第12回	ことばの相違性をどう 考えるか？	言語類型論
第13回	ことばの共通性をどう 考えるか？	言語普遍論
第14回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題が毎回出る。その課題に取り組む中で、疑問が生じた場合には、(質問も歓迎するが) 図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
 斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
 斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
 その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題（70%）、期末レポート（30%）
 (ただし、提出物の遅延提出や未提出があった場合には、合格評価とはならない。)

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

同科目Aを履修済みであることが望ましい。(必須ではない。)

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics).

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports (70%); Term-end report (30%). (You will not pass this course without submitting each report.)

HIS300TD（史学/History 300）

日本近世史(秋期スクーリング)

中山 学

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

戦国時代の地域社会の動向をふまえつつ、「近世の村」の成立について学習します。

【到達目標】

「近世の村」の成立過程を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回授業を除き、教材による事前学習を前提として講義を実施します（毎回次回用の教材を配布して予習を促します）。なお、質問には授業終了後に対応します。また質問用紙（書式自由）を提出された場合は、後日回答をまとめ、直接お返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	近世の村	村の景観と構造
2	近世の村	村運営の仕組み
3	近世の村	村請制と領主支配
4	近世の村の源流	甲賀郡域の歴史をもとに考える1
5	近世の村の源流	甲賀郡域の歴史をもとに考える2
6	近世の村の源流	甲賀郡域の歴史をもとに考える3
7	近世の村の源流	甲賀郡域の歴史をもとに考える4
8	近世前期の村	伊那郡域の歴史をもとに考える1
9	近世前期の村	伊那郡域の歴史をもとに考える2
10	近世前期の村	伊那郡域の歴史をもとに考える3
11	近世の村の成立	村方騒動と村内秩序の変容1
12	近世の村の成立	村方騒動と村内秩序の変容2
13	近世の村の成立	村方騒動と村内秩序の変容3
14	おわりに	近世の村の成立過程を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習及び復習（各2時間）

【テキスト（教科書）】

(A)水本邦彦『(シリーズ日本近世史②) 村 百姓たちの近世』(岩波書店、2015年)

(B)吉田ゆり子『(日本史リブレット84) 兵と農の分離』(山川出版社、2008年)

【参考書】

佐々木潤之介『日本の歴史15 大名と百姓』(中央公論社、2005年版)

渡辺尚志『近世百姓の底力—村からみた江戸時代』(敬文舎、2013年)

【成績評価の方法と基準】

小レポート2回(40点)、期末レポート(60点)

【学生の意見等からの気づき】

授業実施1週前に教材(学習用ガイド)を配付し、事前準備(予習)をサポートします。

【その他の重要事項】

- ①各自の準備学習の実施を前提として講義を実施します。
- ②自宅における予習・復習のためにインターネットの使用を指示する場合があります。
- ③各自、テキスト(A)(B)の2冊を購入してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Learn about the establishment of "modern villages" based on the trends of local communities during the Sengoku period.

【Learning Objectives】 Explain the formation process of Japan's "modern villages".

【Learning activities outside of classroom】 Preparation and review using designated textbooks and handouts.

【Grading Criteria/Policy】 2 reports (40 points), final report (60 points)

HIS300TD（史学/History 300）
日本史特講（対外関係史）（秋期スクーリング）
宇都宮 美生
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、日本の対外関係史について理解を深めていく。

【到達目標】

日本が諸外国とどのように交流していったか、日本の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

試験あるいはレポートを通して、自分の意見を論理化・体系化して相手に伝え、かつ相手の意見を理解するコミュニケーション能力を備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているかを具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業の最後に受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交1	倭国の対外関係1
第2回	古代の外交2	倭国の対外関係2
第3回	古代の外交3	遣隋使
第4回	古代の外交4	遣唐使1
第5回	古代の外交5	遣唐使2
第6回	古代の外交6	遣唐使3
第7回	中世の外交1	日宋貿易
第8回	中世の外交2	日元貿易と元寇
第9回	近世の貿易1	日明貿易
第10回	近世の貿易2	日清貿易1
第11回	近世の貿易3	日清貿易2
第12回	近世の貿易4	日清貿易3
第13回	近代の外交	日欧外交
第14回	学習のまとめ	学習内容の確認（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。

最後のレポートに関係するので、各回学習終了後、時代の特徴をまとめておく。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年
 鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税

村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税
 中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税
 箕原俊洋・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税
 田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円+税

*このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

出席30%、期末試験あるいはレポート70%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。
 身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

当該授業を履修した者（合格者）の再履修はできません。残りの単位はレポートで取得ください。

写真撮影・録音をすべて禁止します。

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Japanese history in respect to international relations with other Asian countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of History of Japanese international relations, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200TD（史学/History 200）

東洋史概説(秋期スクーリング)

塩沢 裕仁

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

世界史的な視点から東洋の独自性と人類社会の普遍的な営みを概観・考察することで、21世紀の世界において極めて重要な役割を果たすことになるアジアという地域の歴史、民族などに対する知識の拡大を図り当該地域に対する理解を促進することができます。

【到達目標】

アジアという地域の歴史に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては世界史上の新たな歴史認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、世界史の流れの中にもみるアジア世界、特に東アジアの歴史とその問題点への理解を深めてもらいたいと思います。

学生からの質問に関しては授業の最後に受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業のねらい
第2回	文明発生論と新石器時代の文化	文明の一元・多元発生論、並びに新石器時代の諸問題
第3回	草創期の国家	夏・殷・周三代王朝の性格と研究の現状
第4回	春秋戦国時代の意義	封建制度の問題と文化変革期としての春秋戦国時代
第5回	統一王朝の成立	秦始皇帝の統一と崩壊、並びに漢帝国の成立と拡大
第6回	東アジアが経験した最初の民族問題	三国世界の崩壊、並びに五胡十六国、南北朝の盛衰と諸問題
第7回	東アジアの国際化	隋唐王朝の盛衰と大運河・シルクロードをめぐる流通問題
第8回	経済国家宋の登場	時代区分論における宋登場の意義と宋の経済・文化
第9回	北アジア遊牧民族Ⅰ	モンゴル帝国登場以前の草原遊牧騎馬民族の興亡
第10回	ベトナム王朝国家の成立	秦漢から唐までの中国支配とベトナム独立王朝の成立
第11回	中央アジアオアシス国家の興亡	タクラマカン砂漠におけるオアシス国家の興亡とその性格
第12回	朝鮮半島の諸王朝	朝鮮半島における王朝興亡史（渤海を含む）と現在の朝鮮半島
第13回	北アジア遊牧民族Ⅱ	モンゴル帝国の盛衰と北京
第14回	明・清と東アジアの近代社会	中国近代社会の様相と西洋世界との接触

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定の教科書は使用しませんが、講談社『ビジュアル版世界史』シリーズの内、『5、中国文明の成立』『8、東アジアの世界帝国』『17、東アジアの近代』『12、東南アジア世界の形成』などには目を通していただきたいと思います。写真や図版が多用されており比較的
理解しやすい参考書であると思いますので。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜教材としてプリントは配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして講談社『ビジュアル版世界史』シリーズや『東アジア史入門』（布目潮風・山田信夫著、法律文化社、1995年改訂版）、『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009年改訂版）を紹介しておきます。『ビジュアル版世界史』シリーズについてはすでに市販されてはいますが、公立の図書館には備え付けられていないと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。欠席は理由の如何を問わず自己責任とします。欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On a survey of the Oriental identity and development from perspectives of the World History, we will be able to understand the various issues on the Chinese History, the Asian Peoples and Culture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

CUM200TD（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）
歴史資料学（日本近代）（秋期スクーリング）
鈴木 隆春、山下 大輔
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、主として独立行政法人国立公文書館及び外務省外交史料館の所蔵資料を中心に、文字資料等、様々な形態の資料の読解や内容解説を行います。授業を通じて、日本近代史における史料の探し方、読み方を学び、自らの研究テーマに関わる史料を渉猟し、内容を理解し、活用する能力を身に着けることを目指します。

【到達目標】

日本近代史の研究において必要となる、自らの研究テーマに関連する史料を探し、理解するための基礎的な能力の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。授業では、事前配布した実物資料の複写物等をテキストとして使用し、事前課題を出題するので、受講生は必ず予習を行ってください。また、受講者に発言を求めるともあるので、積極的に参加してください。

課題等のフィードバックについては、事前課題に関しては、次の回の講義で解説を行い、個別の質問等に関しては、メールで受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス(前半)	授業全体と各回の概要について説明を行います
第2回	国立公文書館の概要	国立公文書館の概要と所蔵資料について、公文式・公式令を中心とした公文書の様式について
第3回	公文書の作成過程(昭和22年以降)	皇室法・関係法令廃止後、慣例としての様式の踏襲と変化について
第4回	終戦の詔書を読む	原本と活字の比較、史料の来歴調査について
第5回	板垣遭害一件を読む	板垣退助襲撃事件の報告書(「板垣遭害一件」)を読む、複数の資料の比較・検討を行います
第6回	歴史絵画を読む	聖徳記念絵画館の壁画を題材に、絵画と基礎資料を比較して、絵画の考証を試みる
第7回	まとめに代えて	第1回～第6回の復習、公文書管理法について
第8回	ガイダンス(後半)	外交史料館の概要紹介と、歴史史料の読み方レクチャーを行います
第9回	史料を読む①	条約条約の読解を通じて、国家間の取り決めをどのように行うかを理解する
第10回	史料を読む②	訓令・電報訓令・電報の読解を通じて、史料の構造を理解する
第11回	史料を読む③	訓令・電報訓令・電報の読解を通じて、史料の構造を理解する
第12回	史料を読む④	訓令・電報訓令・電報の読解を通じて、史料の構造を理解する

第13回	史料を読む⑤	訓令・電報訓令・電報の読解を通じて、史料の構造を理解する
第14回	まとめと解説	授業全体の振り返りと試験(試験については、筆記形式で授業内試験を行う)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、各授業前に資料を配布し、それをもとに授業を行います。なお、資料の再配布は行いません。

【参考書】

岩壁義光・小林和幸・広瀬順昭編『史料で透視する近代日本』（ゆまに書房、2004年）
 歴史学研究会編『日本史史料[4] 近代』（岩波書店、1997年）
 熊本史雄『近代日本の外交史料を読む』（ミネルヴァ書房、2020年）
 児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版）

【成績評価の方法と基準】

評価は授業最終回に実施する試験及び授業での学習状況や参加度を評価する平常点で行います。(試験60%、平常点40%)
 なお、オンライン形式に移行した場合、出席の確認はZoomのチャット機能を用いて毎回行うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業の際は、できる限り、受講者からの発言、質問を受けつつ、双方向の授業になるように努めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業前に資料を配布します。オンライン形式に移行した場合は、パワーポイント、ワードもしくはpdf形式のファイルを読める環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

教員は国立公文書館職員として、公的機関に対する専門的技術的助言や利用者に対する利用・普及活動に関する実務経験を有している。これらの経験に基づき、歴史学研究の基礎的技術となる資料の検索、読解等に関する内容を主に講義を展開する。オフィス・アワー制度については、後日、授業資料に記載するメールアドレスにて行う。

なお、オンライン形式に移行した場合、出席に関しては、Zoomのチャット機能にて出席を確認する。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the classes, reading comprehension and explanation of various forms of materials, such as textual materials, are mainly provided in the possession of the National Archives of Japan and the Ministry of Foreign Affairs. Through classes, I aim to learn how to find and read historical materials in modern Japanese history, explore historical materials related to my research topic, and acquire the ability to understand and utilize the contents.

【Learning Objectives】

Relating to one's own research themes necessary for the study of modern Japanese history It aims to acquire basic abilities to search and understand historical materials.

【Learning activities outside of classroom】

The text of this course will be distributed in advance, so please check the contents and add up the meaning of the words. Be sure to check the parts that are not included. preparatory learning and review of this course The standard time is two hours each.

【Grading Criteria / Policy】

The evaluation will be conducted in the last session of the course, and the study status and participation of the course Perform at a normal point for evaluating degrees.(60% report, 40% normal point) In addition, if you move to online format, you can confirm your attendance on Zoom.

Be careful as it is done every time using the function.

HIS300TD（史学/History 300）
史学演習（日本）（秋期スクーリング）
中川 洋
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業近代化の過程で遺されてきたモノ史料である産業遺産（近代化遺産）の調査・研究・保全に関する学問＝産業考古学について基礎的な知識を習得する。

【到達目標】

- 1) 日本近現代の産業遺産に関する概念・理論・現状と課題を理解し、産業遺産の調査・研究および保存・活用の知識を含む産業考古学全般の基礎を習得する。
- 2) 日本の近代化について、産業遺産を通して、自分なりの見方、考え方を持つ手がかりを得る。
- 3) 近代史研究の方法の一つとして、産業考古学を援用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式とするが、演習的な要素も採り入れる。
- 2) 産業遺産に関連する文献・論文・報告・史料・映像・画像等を参照しながら、担当教員の講義と受講生との質疑応答を通して、産業考古学全般への理解を深める。
- 3) 事前に配布する資料は、次回講義開始までに読んでおくこと。
- 4) 毎回、講義の終わりに小課題を含むリアクションペーパーの提出を求める。
- 5) 授業の初めに、前回提出されたリアクションペーパーから質問等をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容と進め方、スケジュール、評価の方法等についてシラバスに沿って解説。
第2回	産業考古学入門講座1 産業考古学史	産業考古学の発祥から現在に至るまでの学史、研究史を繙き、産業考古学の進歩と社会との歴史的な関わりを学ぶ。
第3回	産業考古学入門講座2 産業考古学の理念	永年培われてきた産業考古学の基本的な理念と、学問としての到達点、課題について学ぶ。
第4回	産業考古学入門講座3 日本における産業遺産の概観	日本の産業遺産の現状について概要を学び、日本における産業考古学の今日的な使命について考える。
第5回	産業考古学応用講座1 日本近代史研究における産業考古学	日本近代史研究における産業考古学の位置づけ、役割、学問的貢献について、具体的事例から考える。
第6回	産業考古学応用講座2 現代日本社会と産業考古学	現在の文化財行政、観光行政の両側面を軸に、現代日本社会の中での産業考古学の意義と課題について考える。
第7回	ケーススタディ1 日本の交通関連産業遺産	国内の交通事業に関連する産業遺産を紹介し、その歴史的意義、調査研究、活用の事例を学ぶ。

第8回	ケーススタディ2 海外の交通関連産業遺産	海外の交通事業に関連する産業遺産を紹介し、その歴史的意義、調査研究、活用の事例を学ぶ。
第9回	ケーススタディ3 バーチャルツアー 産業遺産を歩く	教室で映像等によるエクスカーション(見学ツアー)を実施し、理解を深める。
第10回	産業考古学応用講座3 産業考古学の最前線	近年の産業考古学関連文献・論文・報告をベースに、研究動向と最新の研究成果について学ぶ。
第11回	産業考古学実践講座1 産業遺産の調査と研究	産業遺産の調査と研究の視点、方法などを、具体例から学び、実践的に考える。
第12回	産業考古学実践講座2 産業遺産の保存と活用	産業遺産の保存と活用の視点、方法などを、具体例から学び、実践的に考える。
第13回	産業考古学実践講座3 産業考古学実務演習	産業遺産の調査と保全に関わる実務を、実際に体験して理解を深める。
第14回	まとめと解説 試験	講義の総括、補遺。 筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 配布資料の予習・復習を行い、理解を深めるとともに、知識の定着に努める。
- 2) 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使わない
- ・毎回プリントを配布する

【参考書】

- ・北河大次郎ほか編『図説 日本の近代化遺産』（河出書房新社）、伊東孝『日本の近代化遺産』（岩波新書）、平井東幸ほか『産業遺産を歩こう』（東洋経済新報社）、二村悟『これだけは見ておきたい日本の産業遺産図鑑』（平凡社）
- ・その他、講義のなかで適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回、リアクションペーパーで理解度を確認する。
- ・最終回に、筆記試験を実施する。受験資格については、他の科目と同じ。
- ・平常点(小課題を含むリアクションペーパーの評価)50%、試験50%の配分で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講生の意向も聴きながら、双方向的な授業運営を行う。
- ・受講生の能動的な学習を促すために、作業的学習や質疑応答を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・とくになし。

【その他の重要事項】

- ・講義に関する受講生の質問や疑問等には、講義終了後、教室において直接対応する。リアクションペーパーからも質問できる。

【Outline (in English)】

This course has two main points. The first point is to study the Japanese modern history through modern industrial heritage. The second is to obtain a basic knowledge on the industrial archaeology and the heritage of industrial modernization.

HIS300TD（史学/History 300）
史学演習（西洋）（秋期スクーリング）
山野 貴彦
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は聖書という書物の歴史性（と神話性）を、南レヴァントの考古発掘調査研究の方法論や報告書も含めて検討する。本年度はとくにエルサレム神殿を軸に議論を進める。

【到達目標】

- 1) 歴史に大きな影響力を有し続けてきた聖書の宗教に関する内実性を知る
- 2) 国外における考古学の調査方法と適用の一側面を知る
- 3) 歴史学が聖書学や考古学など隣接諸学と連携しつつ展開されるものであることを知る
- 4) 各自の関心・視点に応じた文献収集力および調査力を獲得する
- 5) レジュメ・口頭発表・レポートの作成力を実際の演習発表を通して獲得する
- 6) 演習を通してこれまで以上の聴解、議論、問題解決力を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回は以下の作業を軸に展開される：

- 1) 該当する聖書箇所および参考資料の概観
- 2) 考古学的情報の検討

教員が概観を行う回を除く各回においては、担当者の発表を受けて担当者以外の参加者が各自の見解・疑問点・掘り下げたい部分について言及し全体討議を行い、その後、教員が講評を加えることとする。各人は担当箇所（第1回目に決定する）について、当日の自身の発表前までにレジュメを用意して配布することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	史料としての聖書	史料としての聖書の特性について教員が概論を行う。 また、演習の進め方や報告担当者の割り当てなどを決定する。
第2回	聖書考古学の方法論	聖書考古学とは何か、また、どのような手法で行われているかについて教員が概論を行い、全員で問題点や疑問点を整理する
第3回	前神殿時代：幕屋を聖所とする遊牧民族の歴史	発表担当者による概要報告と質疑応答
第4回	イスラエル王国時代Ⅰ：第一神殿の建設	発表担当者による概要報告と質疑応答
第5回	イスラエル王国時代Ⅱ：神殿体制の展開	発表担当者による概要報告と質疑応答
第6回	イスラエル王国時代Ⅲ：王国分裂と神殿体制および預言者の伝統	発表担当者による概要報告と質疑応答
第7回	イスラエル王国時代Ⅳ：王国滅亡と神殿崩壊	発表担当者による概要報告と質疑応答

第8回	バルシャ時代における神殿再建：第二神殿時代	発表担当者による概要報告と質疑応答
第9回	ヘレニズム時代における神殿蹂躪と再奉獻	発表担当者による概要報告と質疑応答
第10回	ヘロデ大王の大改築工事：クムラン教団、洗礼者ヨハネ、ナザレのイエスの批判	発表担当者による概要報告と質疑応答
第11回	ローマ時代におけるエルサレム神殿体制	発表担当者による概要報告と質疑応答
第12回	二度の戦争におけるエルサレムとその神殿：第一次ユダヤ戦争および第二次ユダヤ戦争	発表担当者による概要報告と質疑応答
第13回	ユダヤ教とキリスト教の分離：「神殿」概念の新しい表象	既回の歴史的状況をふまえつつ、ユダヤ教からキリスト教が分離してゆく状況をエルサレム神殿という要素を軸に、考古学と文献学の両方の視点から検討する
第14回	総括：歴史と宗教の接点—とりわけ聖書学、考古学、歴史学的視点から	聖書文学、聖書考古学から見た聖書の時代についてエルサレム神殿という要素を軸に総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「準備」においてはその回で扱う項目の精読（レジュメを作成する発表者はもちろんであるが、議論の時間があるので発表者以外もこれを行う）および参考文献の精読が、「復習」においてはその回に扱った文書に関する議論をふまえた再読・参考文献の確認が該当する。演習に際して挙げられる諸文書は様々な相互関連性があるので、取り組めば取り組むほどその成果が期待できるものとなる。

【テキスト（教科書）】

日本聖書協会『聖書新共同訳 旧約聖書続編つき』を推奨する：様々な版があるが、標準サイズ（小型）の『聖書 新共同訳 旧約聖書続編つき』は¥3,600+税、ハンディタイプは¥3,100+税 ※その他の翻訳聖書（聖書協会共同訳、岩波旧約聖書翻訳委員会訳、岩波新約聖書翻訳委員会訳、田川建三訳、フランシスコ会訳など）でもかまわない。

いずれにせよ、旧約と新約の両方を参照できるようにしておくことを望む。

【参考書】

- ・荒井献／石田友雄（翻訳版監修）『旧約新約聖書大事典』、教文館、1995年（第2版）
- ・上村静『宗教の倒錯——ユダヤ教・イエス・キリスト教』岩波書店、2008年、¥2,800+税
- ・左近義慈（翻訳版監修）『聖書考古学大事典』講談社、1984年
- ・佐藤研『聖書時代史 新約篇』（岩波現代文庫）岩波書店、2003年、¥1,100+税
- ・杉本智俊『図説 旧約聖書の考古学』河出書房新社、2021年、¥2,100+税
- ・杉本智俊『図説 新約聖書の考古学』河出書房新社、2021年、¥2,150+税
- ・田川建三『新約聖書 訳と註』（8分冊） 参考URL <https://sakuhinsha.com/list/bible.html>
- ・長谷川修一『聖書考古学 遺跡が語る史実』（中公新書）中央公論新社 2013年、¥840+税
- ・山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』（岩波現代文庫）岩波書店、2003年、¥1,300+税
- ・M. ティリー／W. ツヴィッケル『古代イスラエル宗教史』（山我哲雄訳）教文館 2020年、¥4,200+税

・フラウィウス・ヨセフス『ユダヤ戦記』（秦剛平訳、全3巻）（ちくま学芸文庫）および『ユダヤ古代誌』（秦剛平訳、全6巻——新本では手に入りにくい）が電子書籍化もされており、そちらであれば入手可能。

他にも必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみとする。

なお、基準は以下を予定している

- 1) 文書精読の予習度および精度：30%
- 2) 担当文書発表の内容：40%
- 3) 質問・討議への参加度など授業への積極的参加度：30%

このような成績評価の方法と基準であるため、出席は評価基準ではなく大前提となるので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と異なる内容になるため特になし

【Outline (in English)】

This course will focus on the historicity (and mythology) of the Bible, including reference to the archaeological methodology and archaeological reports of excavations and surveys in the South Levant.

In this year the Jerusalem Temple in particular will be at an emphasis of our study.

GEO400TE（地理学 / Geography 400）
自然地理学演習(秋期スクーリング)
中山 秀晃
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理関連の地理情報を扱った主題図作成と分析

【到達目標】

受講者が各自のテーマに沿った主題図をGISを使用して作成・分析できるようにする。

At the end of the course, students are expected to create and analyze thematic maps according to their own themes using GIS.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

めざましく進化するGIS及びデジタル地図の技術を仕事や研究にどのように活用するのか。実際にコンピュータを操作しながら基本を理解し技術を習得する。講義前半は簡単な統計量を手作業で分析し主題図作成の基礎を学ぶ。後半は「Excel」、「MANDARA10」、「カシミール3D」、「QGIS」等のソフトを活用し情報の分析と作図演習を行う。最終的には受講者が各自のテーマに沿った主題図を作成し分析ができるようにしたい。演習科目のため課題の提出を求める。受講には継続する意欲とある程度のPC操作への慣れが必要となる。なお、本講座では自然地理関連（特に気候と地形）のデータをより多く扱う予定である。学習方法は本講座ホームページと通教LMSを活用し、対面での授業と演習課題の作成および復習を中心とする。提出された課題に対しては講評をつけて返却する。なお、オンライン学習に移行する場合は、演習課題を授業時間までに配信し、ZOOMによるミーティングを開催する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	主題図とは何か	テーマ、講義内容・計画の確認、アンケート、読図の基礎基本(解説と演習)
第2回	手作業で基礎を学ぶ	手作業による主題図作成(解説と演習)
第3回	地形の表現①	演習①地形図からの作図(解説と演習)
第4回	地理統計を使ったデータの処理と地図表現	PCを活用した情報処理と主題図の作成 演習②GISソフトをつかって主題図を作る (MANDARA, 解説と演習)
第5回	地形の表現②	演習③地形図からの作図2 (カシミール3D, 解説と演習)
第6回	地形の表現③	DEM (SR TM, 基盤地図情報) を使用しての作図(解説と演習)
第7回	数値地図の取り込み	データの扱い方と分析の基礎 (国土数値情報, 解説と演習)
第8回	気候気象データ利用①	データの扱い方と分析の基礎2 (アドレスマッチングと観測地点の取り込み, 解説と演習)
第9回	気候気象データ利用②	データの扱い方と分析の基礎3 (アメダスデータを使った主題図作成, 演習④, 解説と演習)

第10回	気候気象データ利用③	データの扱い方と分析の基礎4 (WebGIS との連携, 解説と演習)
第11回	自由課題作成①	自然地理関連のデータ収集と加工 (自由課題, 演習⑤, 解説と演習)
第12回	自由課題作成②	ベースマップの作成と発表準備 (自由課題, 演習⑤, 解説と演習)
第13回	自由課題発表	受講者による自由課題発表と意見交換
第14回	定期考査	考査と課題提出 (オンライン時はレポート) および演習⑤の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習及び演習①～⑤の作成と考査。定期考査の準備。

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and prepare for exercises ① to ⑤.

【テキスト（教科書）】

なし（授業用プリントを使用する）

【参考書】

「カ-GISソフトMANDARA10パーフェクトマスター」谷謙二 著、古今書院、¥3,800 + 税別

「二訂版 QGISの基本と防災活用」橋本雄一 編、古今書院、¥3,000 + 税別

「地理情報科学 GIS スタンダード」浅見泰司・矢野桂司・他編、古今書院、¥3,000 + 税別

【成績評価の方法と基準】

演習①～⑤の作図結果と考査内容 (50%)、定期試験の結果 (40%)、平常点 (10%)、演習の提出については、丁寧に作図をし、考査をしっかりと行うこと。定期試験を論述筆記で実施する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short exercise reports ①～⑤: 50%, Term-end examination: 40%, in class contribution: 10%

【学生の意見等からの気づき】

GIS関係の基礎は別講座にてある程度習得済みの学生が多くなってきたので、本講座では、自然地理関連のデータ（特に気候分野）を中心に扱うようにしたい。また、WebGISの機能が充実してきているので、地理院地図をはじめ各種WebGISの利用法についても適宜紹介していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料はdocx、xlsx、pptx、pdf、zipなどの形式を想定、各自でPC環境を整えて利用できるようしておくこと。

【その他の重要事項】

必要に応じて、データを保存するクラウド上のドライブ、USBメモリなどを準備すること。

【Outline (in English)】

Creating and analyzing a thematic map dealing with geographical information of physical geography

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

写真・読図演習（2）（秋期スクーリング）

沼尻 治樹

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地形図をはじめとした地図は、現実世界を平面上に再構成した仮想世界といえる。この仮想世界を読み取ることは、その場になくても現地の地理情報を知ることができる有益な情報源になる。地形図だけでなく空中写真や衛星データの利用を含めた地図の基礎的な判読方法について実習を通して学習する。ここで学ぶ基礎的な判読方法を使って、地域の特徴を定性的・定量的に明らかにできるようになることが目的となる。

【到達目標】

地形図やリモートセンシングデータを通して、そこに記録された地理情報を判読し理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によって演習に必要な知識を学習し、それをふまえて具体的な演習を行う。基本的には無料のデータやアプリケーションソフトウェアを使用して授業を行う。配信資料は事前に公開するので、各自で印刷等をして利用する。演習内容を反映した課題を行い、演習の成果を確認しながら授業を進める。

受講者からの質問やコメントの重要なものについては、授業内で取り上げ、受講者全体にフィードバックする。

オンライン授業の場合、リモートセンシングの演習においては、各自のPCにGISアプリケーションを自身でインストールする必要がある。リモートセンシングの演習は、PCを利用することが前提のため基本的なWindowsの操作ができることが望まれる。よって基本的なWindowsの操作についてはフォローしない。また、MAC、Linux環境での受講も認めるがトラブル時に十分なフォローができるか保証できない。Windowsは32ビット、64ビットを問わないが、パソコンのスペックによってはデータ処理に時間がかかってしまう可能性もある。オンラインによる演習では、LMSを用いた資料の配信・提出を実施する。また演習内容などについては、動画配信にて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の全体的な内容説明と地図とは何か
第2回	地形図の読み方（1）	地球の表現方法
第3回	地形図の読み方（2）	投影法と縮尺
第4回	地形図の判読（1）	等高線の判読法 図式について
第5回	地形図の判読（2）	等高線の読み方 尾根線と谷線の判読と標高断面図の作成
第6回	地形図の判読（3）	距離の測定 面積の測定
第7回	空中写真の読み方（1）	空中写真の概要
第8回	空中写真の読み方（2）	航空写真判読
第9回	メッシュ図の作成（1）	グリッドダイアグラムの作成

第10回	メッシュ図の作成（2）	グリッドダイアグラムの解析
第11回	リモートセンシング（1）	GISアプリケーションの基本操作
第12回	リモートセンシング（2）	衛星データの演算
第13回	写真・地形図判読の実践（1）	空中写真や地形図から地理情報の判読を行う
第14回	写真・地形図判読の実践（2）	空中写真や地形図から地理情報の考察を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を用いて準備学習を行い、授業後には復習・自習を行って実習内容の確認または課題を行う。それぞれ2時間を目安とする。

また、この授業では適宜PCを利用する。WindowsによるPCの操作方法は解説しないので、受講生は基本操作が十分出来ることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

自作テキストを使用する。

【参考書】

CAD/CG/GIS ユーザーのための航空・衛星写真画像ハンドブック：津野宏介ほか、古今書院
月刊『測量』別冊 いまさら聞けない地形判読：「いまさら聞けない地形判読」編集小委員会、公益社団法人日本測量協会

【成績評価の方法と基準】

本授業は演習科目であることから、平常点も重視する。その他、中間課題、最終レポートによって成績評価を行う。

成績評価の配分は、平常点として出席点が30%、小課題点が30%、中間課題が20%、最終レポートが20%である。

【学生の意見等からの気づき】

最新の地図・測量に関する話題提供を適宜行い、授業と実社会が乖離しないよう努める。演習の感想や意見も随時受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業では電算室を利用する。またネットワークを用いて資料の配信や課題の提出も行うので、USBメモリなどの外部記録装置を各自用意して欲しい。私物のPCで実習を行ってもよい。

【その他の重要事項】

授業の半分はPCを使った演習になることから、Windowsの操作は前もって習熟しておいて欲しい。授業で用いる資料は事前に配布していくので、あらかじめ予習することも望まれる。また、地理情報システム（GIS）（2）を受講しておくこと、よりスムーズに演習を行えるだけでなく、合わせて受講するとより学習効果が高まることが期待できる。

オフィスアワーは授業の前夜、メールにて対応する。

【Outline (in English)】

The purpose of this lesson is to learn how to read geographical information from maps and aerial photographs. A map is a virtual world which reconstructed the real world. We practice reading with a paper map and data processing using a computer. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (30%), and in-class contribution.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
財政学B / II（秋期スクーリング）
島澤 諭
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本財政は現在、(1)少子化、高齢化の進展への対応、(2)財政健全化への対応、(3)世代間格差是正、といった多くの課題を抱えています。

本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、市場主義経済における政府の役割などについて学習します。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政が直面している問題をデータ等により客観的に把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とは何か 政府の4つの機能
第2回	政府の経済活動その1	日本財政の規模 国民負担率
第3回	政府の経済活動その2	小さな政府と大きな政府 福祉レジーム論
第4回	租税理論その1	租税原則、租税の公平性
第5回	租税理論その2	消費税、所得税、税の帰着
第6回	財政政策の効果その1	国民所得決定の理論
第7回	財政政策の効果その2	乗数効果
第8回	所得再分配政策	日本の所得再分配の実態
第9回	財政の持続可能性その1	基礎的財政収支、構造的財政収支、循環的財政収支、財政健全化目標
第10回	財政の持続可能性その2	ドーマー条件、異時点間の政府の予算制約
第11回	公債の負担	新正統派、ISバランス論、国債価格と金利
第12回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス
第13回	世代間不平等の政治経済学その1	世代会計とシルバー民主主義、全世代型社会保障

第14回 世代間不平等の政治経済学その2 国民代表、委任代表、小選挙区制、7条解散、シルバー民主主義のパラドクス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてください。授業内容の理解を確実にするために必ず復習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。レジュメを配布する。

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (3) 上村敏之『コンパクト財政学（第2版）』新世社
- (4) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社
- (5) 林宜嗣等『基礎コース財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

出席40%、期末試験60%
経済理論を用いて、日本財政を分析し、自分なりの処方箋を提示できる

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義にします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.

This will also help you to predict the effects of fiscal policy to your life at a much deeper level.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講(秋期スクーリング)
石川 貴幸
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日本ではバブル経済崩壊以降長期停滞に見舞われている。その中で生産性向上の重要性が叫ばれて久しい。本講義ではこの生産性とは何かを理解する。また無形資産と呼ばれる生産性を向上させる資産とは何か、生産性との関連は何かを理解する。
 ・説明のために一国全体の議論を用いることが多いが、企業を対象とした分析方法や研究の紹介なども行う。

【到達目標】

・労働生産性や全要素生産性といった生産性の指標を理解する。
 ・無形資産とは何かを理解する。
 ・日本経済の問題点に生産性と無形資産がどのように関わっているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義形式で行う。
 ・授業資料を配布し、その内容に従って進める。
 ・授業毎にリアクションペーパーまたは小課題を提出してもらう。
 ・翌授業において、小課題やリアクションペーパーに対する解説やフォローを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	そもそも生産性とは何だろうか？
2	国民経済計算①	日本経済と世界経済の概観 生産性を測るための準備。 一国全体の経済規模の測り方について理解する。
3	国民経済計算②	一国全体の投資と資本蓄積について理解する。
4	生産性①	労働生産性と全要素生産性。 企業ではどのように測るのか。
5	生産性②	経済統計としての生産性。
6	生産性③	生産性を向上させるために必要なのはなんだろうか？
7	生産性④	政策として何をすべきだろうか。
8	無形資産①	無形資産とはなんだろうか？
9	無形資産②	無形資産の重要性を理解する。
10	無形資産③	無形資産が今日の社会を支えていることを理解する。
11	国際間の比較	生産性の収束や生産性の低迷について理解する。
12	日本経済と生産性	日本の現状と生産性向上には何が必要かを近年の研究から考える。
13	期末課題	期末課題についてと取り組み
14	まとめ	講義を振り返り、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

<講義回数に関連している順>

- 宮川努 (2018) 『生産性とは何か——日本経済の活力を問いなす』ちくま新書
- ジョナサン・ハスケル、ステファン・ウェストレイク（山形浩生訳）(2020) 『無形資産が経済を支配する』東洋経済
- 森川正之 (2018) 『生産性 誤解と真実』日本経済出版社
- 深尾京司 (2021) 『サービス産業の生産性と日本経済』東京大学出版会
- 宮川努・浅羽茂・細野薫 (2016) 『インタンジブルズ・エコノミー』東京大学出版会
- R.J. バロー、X. サラ・イ・マーティン（大住圭介訳）(2006) 『内生的経済成長論 [第2版]』九州大学出版会

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (20%)
- ・リアクションペーパーや小課題の出来 (20%)
- ・期末課題 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない

【学生が準備すべき機器他】

- ・実際にデータを用いてグラフの作成などを行い理解に努めてほしい為PCが自宅で使用できることが望ましい。
- ・授業中に特にPCを用いることはない。あると便利程度。

【その他の重要事項】

- ・連絡事項、注意事項の伝達方法については初回の講義で説明する。
- ・積極的な授業中の質問を求める。わからない箇所をわからないまままで講義を終えないこと。
- ・マクロ経済学の知識があることが望ましいが、必要に応じて説明するので必須ではない。また経済理論の話を行う関係から少し数学を用いるが、丁寧に解説するので苦手であっても問題ない。
- ・グラフなどを図示する課題を行うのでExcelが使えること。苦手な場合はWeb等を参照しながらでもよい。
- ・講義内容は学生の理解度に応じて変更することがある。
- ・オフィスアワーについては初回の講義で説明を行う。

【Outline (in English)】

Japan has suffered from secular stagnation after the collapse of the bubble economy. Productivity improving is considered essential if the Japanese economy is to emerge from the secular stagnation. In this lecture, we will understand what productivity is. It will also help participants to understand what assets, known as intangible assets, improve productivity and how they are related to productivity. In this lecture, we will usually focus on a unit of the nation. But we will explain how to extend to firm analysis and also introduce recent research on the firm level.

【Grade】

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ in class contribution (20%)
- ・ tasks & minute papers (20%)
- ・ term-end assignment (60%)

Each student must submit the term-end assignment.

MAN200TG（経営学 / Management 200） 経営学特講「[商社活動とCSR II（事業活動と環境・CSRリスク）]（秋期スクーリング）」
小林 一夫
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

商社活動とCSR II（事業活動と環境・CSRリスク）
 変化が常態である今日、企業の社会的責任（CSR）に機軸をおく健全なビジョンに基づく事業活動を行うことが、企業の経営に必須です。外部性の問題と広くはとらえられる環境問題ですが、甚大な影響を与えうる環境事故の発生を想起するまでもなく、グローバルでの企業活動において環境リスクに起因するマイナスの影響をできる限り回避し、顕在化することが、責任ある企業経営には欠かせません。事業活動と環境・CSRリスクについて、総合商社における具体的事例等から基本的見方とあるべき問題意識について学習します。

【到達目標】

総合商社のグローバル企業活動における環境・CSRリスクについて、具体的事例等を学ぶことで基本的な知識を整理し、概要を理解できるようにします。そして、社会的責任を基軸にした企業経営についての考え方の基本を理解し深められるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業の際は、テキストに加えて、Power Pointやレジメを使い講義形式で進めます。レジメ・資料はプリント配布します。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について短い感想や質問の提出を求めています。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいく

つか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さら

なる議論に活かします。オンライン授業に移行した際には、Zoom形式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事業活動と環境・CSRリスク	講義内容のガイダンス
第2回	社会的責任の観点から企業経営入門	企業経営とは、についての基本的知識を学習します
第3回	企業の社会的責任（CSR）	企業の社会的責任（CSR）概念、サステナビリティ、SDGs、ESG等の概要を把握し理解に努めます
第4回	「環境問題」「環境とは」、及び「リスクとは」何か	公害問題を含め環境問題の歴史から環境リスクをレビューし、環境、リスク、環境リスク・CSRリスクについて基本的知識を得、整理します
第5回	事業活動と環境リスク その①	総合商社の現場とリスク認識、外部性について
第6回	事業活動と環境リスク その②	総合商社のグローバル関係会社と総合商社の事業展開事例から、リスク認識と対応の基本を学びます

第7回	環境影響評価、及び環境政策	環境リスクの把握と整理
第8回	環境マネジメントシステムの戦略的活用 その①	ISO14001環境マネジメントシステム規格等について 大規模な企業と中小規模の企業のあるべき環境マネジメントシステムについて
第9回	環境マネジメントシステムの戦略的活用 その②	総合商社における環境マネジメントシステムの活用、及び事業推進と環境対応・遵守体制の構築について
第10回	環境リスク、外部ステークホルダーに対する開示	サステナビリティ・レポート(三井物産)等を参照することで「開示・説明責任」について基本的考え方を理解します
第11回	資源循環	「有限な地球」 廃棄物の低減と3R(スリーアール)
第12回	気候変動問題への対応とエネルギー問題	パリ協定を踏まえた気候変動問題対応と、日々の生活及び産業活動を支えるエネルギー問題について
第13回	生物多様性と生態系の保全	地球環境問題及び環境リスクの観点から生物多様性について
第14回	商社活動とCSR II 事業活動と環境・CSRリスク [まとめ]	環境・CSRリスクとグローバル企業活動に関し、講義全般をまとめ、理解を深められるようにします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第三版『商社活動と企業の社会的責任』（図書文化社刊、小林一夫著）の「まえがき」、序章、第3章、第6章、第7章、第10章を授業計画に沿い事前に準備学習として読むことを推奨します。理解し難い箇所については、疑問点を整理し授業に臨むようにして下さい。日経新聞等を丹念に読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握することを推奨します。復習ではその日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、少なくとも4時間/週とするようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

第三版『商社活動と企業の社会的責任(儲けるだけでは破滅につながる)』[図書文化社刊、小林一夫著、2021年10月1日付 第三版、1,600円+税]

【参考書】

『失敗学のすすめ』 畑村洋太郎、講談社
 『テキスト経営学[第3版]』 井原久光、ミネルヴァ書房
 『環境学 21世紀の教養』[京都大学で環境学を考える研究者たち] 編 朝倉書店、
 その他必要に応じて、講義時に適宜指示します

【成績評価の方法と基準】

期末試験: 70%
 平常点: 30%
 授業の内容についてリアクションペーパー（短い感想）の提出をもとめることがあります。その際、積極的な意見や質問がなされ授業に活かされたときは加点対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの関連箇所を授業の進捗に合わせ示すことで、関連知識の整理により役立てるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてZoom 及びスクリーン・DVDを使い講義を進めます。

【その他の重要事項】

『商社活動とCSR II（事業活動と環境・CSRリスク）』（秋期スクーリング）に春学期から通年でなく初めて受講する方は、第三版『商社活動と企業の社会的責任』（図書文化社、2021年10月刊）の第1章、第2章に目を通しておくことを推奨します。関連の深いコース:経営学特講「商社活動とCSR I（春期スクーリング）」

【Outline (in English)】

General Trading Firm (Sogo-Shosha) Business and CSR Ⅱ
(Due attention to environmental risk, as well as to CSR risk)
Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. We learn management organization theory of Sogo-Shosha as a representative example of a Japanese company. When considering externality issues, one of the top priorities to be addressed is environment-related. In addition, we will learn "risk management" to avoid possible environmental problems and big CSR issues. For sound corporate management, we will learn to acquire a basic perspective to mitigate risk.

MAN200TG（経営学 / Management 200） 経営学特講[事例で学ぶ人材マネジメント入門](秋期スクーリング)
石川 了
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時代や環境が変化しても、人材を活用し、モチベーションを高めながら、生産性や利益を上げ、企業をサステイナブル（持続的）に維持していくことは、人材マネジメントの普遍的な役割と言えます。SDGsや社会的信用の観点からも法令（ワークルール）を遵守し、適切な人事処遇制度を運用する必要があります。そこで、具体的な事例を基に、賃金や労働時間等人事諸制度の理解を深め、企業・組織と個人（従業員）にとっての最適なマネジメントとは何か、その基礎を学んでいきます。

【到達目標】

事例（ケース）を基に、人材マネジメントの基礎的知識を押さえ、総合的に学ぶことを授業の到達目標とします。具体的には、①「働く」意義と人材マネジメントの歴史と概要、②ワークルール（労働諸法の概要）、③雇用関連指標の見方と使い方、④人事処遇制度の基礎知識、⑤人材育成とキャリアデザイン、⑥老舗の人材重視経営、⑦人事労務管理をめぐる現状の課題や今後の方向などを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、ディスカッション・実習も取り入れます。講義はレジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめるとともに、必要に応じて参考図書を指定します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。また、課題（レポート、試験など）に対する講評も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・ 授業の概要と進め方
第2回	「働く」をめぐる環境変化	・ 事例で見る環境変化 ・ 労働統計の見方
第3回	人材マネジメントの歴史と位置付け	・ 事例で見る歴史 ・ 人材マネジメントの現在
第4回	ワークルール（労働諸法）の概要	・ 憲法/労働基準法 ・ 労働契約法ほか
第5回	採用管理から配置・異動	・ 採用から配置・異動 ・ 出張・転勤、出向など
第6回	労働時間制度①	・ 労働基準法上の制約 ・ テレワーク等柔軟な制度ほか
第7回	労働時間制度②	・ 労働判例から見る最近の事例 ・ メンタルヘルス問題ほか
第8回	賃金制度と賃金管理	・ 職能・職務・役割基準の諸制度（事例） ・ 諸外国との比較 ・ 賞与・退職金ほか
第9回	雇用管理制度の実際①	・ 長期雇用/契約社員 ・ パート・アルバイト ・ 派遣社員など

第10回	雇用管理制度の実際②	・ 女性活躍推進 ・ ダイバーシティ ・ 高齢者雇用（定年・再雇用含む）など
第11回	人材育成・能力開発と人生100年時代のキャリアデザイン	・ 企業の人材育成と能力開発 ・ 人生100年時代のキャリア開発
第12回	事例発表	・ 身近な企業や組織の人事制度
第13回	老舗企業の経営と「人」づくり	・ なぜ日本には長寿企業が多いのか（事例）
第14回	授業の振り返りと今後に向けて	・ ポイント解説とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、レジュメ、関連書籍、ネット情報、新聞報道等いずれかのツールを使って行い、日常の問題意識を授業の入口とします。一方、復習は授業で使用したレジュメ、授業内容のまとめをはじめ、ディスカッションの結果を踏まえたレポート等で行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間以内を標準とします。

【テキスト（教科書）】

主にレジュメを使用、必要に応じて参考図書を指定します。

【参考書】

各回の授業でテーマごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業における取り組み（積極性、協調性、発言内容等）30%、課題・レポート等 30%（講義、ディスカッション等を踏まえた理解力・洞察力、まとめ等）、試験結果40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していませんが、時宜に応じたテーマを優先し、授業の順序を入れ替える場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

Even if the times and environment change, it can be said that the universal role of human resources management is to utilize human resources, increase motivation, increase productivity and profits, and maintain the company sustainably. From the perspective of SDGs and social credibility, it is necessary to comply with laws and regulations (work rules) and operate an appropriate personnel

Therefore, based on specific cases, we will deepen our understanding of personnel systems such as wages and working hours, and learn the basics of what is optimal management for companies / organizations and individuals (employees).

The goals of this course are to learning a basic human resource management and the case of management.

Basically, it will be given in a lecture format, but discussions and practical training will also be included.

Learning is done using one of the tools: resume, related books, online information, newspaper coverage, etc.

Your final grade will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

MAN200TG（経営学 / Management 200） 経営学特講 [マクロ経済学の基礎 / Introductory Macroeconomics](秋期スクーリング)
松岡 秀明
カテゴリー： 秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数： 2単位 期間： 秋期 受講可能な学科・学年：『 法政通信 』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国全体、あるいは国際間の経済の関係を対象とする「マクロ経済学」の基礎を学ぶ。実体経済と金融の仕組み、貿易や為替、物価、財政、労働市場などを扱う。

【到達目標】

- 1) 現実の経済を理解するうえで必要最低限の「経済」を考えるための概念を身につける。
- 2) 経済データの見方を理解することができる。
- 3) ニュースの経済記事に関する基本的な内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義を中心に進める（基本的にテキストに沿って解説する）。
- 2) 基本的な理論の解説と平行して、なるべく実際のデータに当たり、経済の実態を理解するようにする。
- 3) ニュース記事の解説も随時行う
- 4) 授業で、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済の全体像	経済の全体像を理解するための基礎概念の説明（テキスト第1章）
2	中長期的な経済成長の考え方	経済の供給側の説明（テキスト第2章）
3	短期的な経済成長の考え方	経済の需要側の説明（景気動向を示す経済指標の説明）（テキスト第3章）
4	労働市場	雇用情勢と賃金の決定についての説明（テキスト第4章）
5	物価の変動	物価統計と物価変動の背景（テキスト第6章）
6	前半の復習	前半の復習
7	貿易と国際収支	貿易統計と経常収支の説明（テキスト第7章）
8	為替市場	為替の変動の背景と経済に及ぼす影響（テキスト第8章）
9	グローバル化の中の日本経済	直接投資の動向と決定要因について（テキスト第9章）
10	財政をめぐる諸問題	財政赤字と債務残高の動向と破綻リスクの考え方（テキスト第10章）
11	金融政策と資金循環	中央銀行の政策と金融システムの理解（テキスト第11章）
12	社会保障	年金と医療保険制度について（テキスト第13章）
13	全体の復習	中間レポートの解説、全体の復習
14	復習と最終試験	復習と最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「最新日本経済入門（第6版）」小峰隆夫・村田啓子（日本評論社）

【参考書】

「入門・日本経済（第6版）」浅子和美・飯塚信夫・篠原総一〔編〕（有斐閣）

「教養としてのグローバル経済」齊藤誠（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）と最終試験（60%）で評価する予定です。レポート試験の場合には事前に課題を出し、締切日までに提出させる。最終日に論述試験をおこなう（参照の可否問わず）場合には授業内試験とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料はテキストを簡潔にまとめている。

【Outline (in English)】

This course deals with the Basics of Macroeconomics. It also enhances the development of student's skills in understanding economic data.

MAN300TG（経営学 / Management 300）
監査論Ⅱ（秋期スクーリング）
市川 佳功
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査を受けている企業の粉飾事例がしばしば報道されています。現代の財務諸表監査は企業の粉飾を見逃してしまうリスクと常に背中合わせといえます。そこで、財務諸表監査ではリスク概念を制度的に導入し、リスクに注意を払いながら監査をすることが要求されています。これを監査リスク・アプローチといいます。そして、監査が終了した後は、最終結論として財務諸表が適正か否かについて監査意見を表明します。これを監査報告といいます。監査報告の内容は財務諸表の適正性レベルによって異なってきます。「監査論Ⅱ」では、監査リスク・アプローチを理解したうえで、異なる監査報告の内容について学習して行きます。

【到達目標】

リスクに注意を払いながら監査をするといういわば当然の事柄が、現代の財務諸表監査においてどのように制度的に盛り込まれているかを理解するとともに、監査を実施した結果に対応してどのような監査報告をすべきかを適切に判断するために必要な基礎知識を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次の授業の冒頭で紹介し前回の復習及び理解に厚みが出るようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「監査リスクアプローチ」1	財務諸表監査における「リスク」概念一般
第2回	「監査リスクアプローチ」2	「実施基準」基本原則の内容
第3回	「監査リスクアプローチ」3	「実施基準」監査計画の策定
第4回	「監査リスクアプローチ」4	「実施基準」監査の実施
第5回	「監査報告」1	「報告基準」基本原則の内容
第6回	「監査報告」2	「報告基準」監査報告書の記載区分
第7回	「監査報告」3	「報告基準」無限定適正意見の記載事項
第8回	「監査報告」4	「報告基準」意見に関する除外（不適正事項と不適正意見）
第9回	「監査報告」5	「報告基準」監査範囲の制約（監査制約事項と意見不表明）
第10回	「監査報告」6	「報告基準」継続企業の前提
第11回	「監査報告」7	「報告基準」追記情報（強調事項）
第12回	「監査報告」8	「報告基準」後発事象の取扱い
第13回	「監査報告」9	内部統制報告書に対する監査制度
第14回	「監査報告」10	財務諸表監査と内部統制報告書監査との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・松本祥尚・林敏敏『ベーシック監査論 九訂版』同文館出版 3,800円＋消費税

【参考書】

蟹江 章/井上 善弘/栗濱 竜一郎【編著】『監査論スタンダードテキスト（第6版）』中央経済社 4,800円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100%）を行います。

【学生の意見等からの気づき】

難しい用語については逐次解説をしながら、ゆっくりと説明をしていきます。

【Outline (in English)】

In this lecture we will learn about the audit risk approach and audit reports in various cases.

MAN200TG（経営学 / Management 200）

簿記Ⅳ (秋期スクーリング)

市川 佳功

カテゴリー： **秋期** | 予備登録の有無：
 授業形態： | 単位数： **2単位**
 期間： **秋期**
 受講可能な学科・学年：『**法政通信**』 **受講手続き等関連頁を参照**
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日商簿記検定1級レベルの商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定1級では商業簿記と会計学、工業簿記と原価計算の知識が要求されますが、簿記Ⅳでは商業簿記のみを学習します。ただし、テーマを理論的に理解することも含まれます。

【到達目標】

日商簿記検定1級の商業簿記の出題テーマは広範にわたっています。授業でこれらの全てのテーマを取り扱うことはできません。そこで、1級の中でも上場会社に適用されている特に重要であると思われる会計処理に関するテーマを選択して学習していきます。日商1級に合格するというより、実務社会でよく耳にする高度な会計制度の意味が理解できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学、会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は指定テキストを使用した講義形式で進めます。毎回の授業の後に学生から質問を受けます。受けた質問の内容については、次の授業の冒頭で紹介し前回授業の復習となり理解が深まるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	有価証券	有価証券の保有目的と期末の会計処理
第2回	有価証券	有価証券の減損処理と修正受渡基準
第3回	デリバティブ取引	デリバティブ取引と会計処理の基本 先物取引の会計処理 スワップ取引の会計処理
第4回	ヘッジ会計	ヘッジ取引とは何か 繰延ヘッジと時価ヘッジの会計処理
第5回	外貨建取引1	ドル単位で取引が行われた場合の会計処理
第6回	外貨建取引2	為替予約の会計処理
第7回	固定資産1	圧縮記帳の制度趣旨と会計処理
第8回	固定資産2	固定資産の減損処理の意味と会計処理
第9回	税効果会計1	税法上の税金計算方法の概要 税効果会計の意味
第10回	税効果会計2	具体的な税効果会計の会計処理
第11回	税効果会計3	具体的な税効果会計の会計処理
第12回	純資産会計1	純資産の部の表示 株主資本等変動計算書 自己株式の会計処理
第13回	純資産会計2	新株予約権の処理
第14回	組織再編	組織再編の意味 吸収合併

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。市販されている日商1級レベルの問題集をたくさん解いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

神谷健司 市川佳功『簿記Ⅳ』法政大学通信教育部

【参考書】

日商簿記検定1級（商業簿記・会計学）の学習テキスト（各社が出版しています）
 日商簿記検定試験1級の問題集（各社が出版しています）

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に行う試験（期末試験）により成績評価（配分100%）を行います。

【学生の意見等からの気づき】

仕訳の仕方だけでなく、理論的なことについても解説していきます。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn about major themes that are important regarding the first grade of Nissho bookkeeping certificate.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営管理論Ⅱ（秋期スクーリング）
松本 潔
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営管理論Ⅱにおいては、春期の学説・理論の歴史的な流れを踏まえ、まず「近代的組織論」としてのC. I. バーナード、H. A. サイモンなどの「意思決定論」を取り上げて解説を加えていく。また、続いて、組織と環境との適応行動を解く、T. バーンズ&G. M. ストーカーなどの「コンティンジェンシー理論」を取り上げ解説していく。また、その後の新たな理論として、J. G. マーチらの「意思決定のゴミ箱モデル」、E. H. シェインなどの「組織文化論」などにも論及していく。

【到達目標】

- ・経営管理の理論・学説の意義を理解することができる。
- ・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、企業などの経営管理活動の実際を、映像資料などを活用して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および春期スクーリング「経営管理論Ⅰ」の振り返り
第2回	近代的管理論Ⅰ	組織協働の近代的理論（1）（C. I. バーナード）
第3回	近代的管理論Ⅱ	組織の意思決定理論（2）（H. A. サイモン）
第4回	近代的管理論Ⅲ	組織の経営戦略理論（J. G. マーチ&H. A. サイモンおよびH. I. アンゾフ）
第5回	コンティンジェンシー理論Ⅰ	リーダーシップの条件適合理論（F. E. フィードラーのおよびP. ハーシー&K. H. ブランチャード）
第6回	コンティンジェンシー理論Ⅱ	組織構造の条件適合理論（T. バーンズ&G. M. ストーカーおよびJ. ウッドワード）
第7回	コンティンジェンシー理論Ⅲ	組織業績およびコンフリクト解決方法の条件適合理論（P. R. ローレンス&J. W. ローシュ）
第8回	組織文化論Ⅰ	シンボリック・マネジャーによる組織文化形成（T. デイール&A. ケネディ）
第9回	組織文化論Ⅱ	超優良企業の価値観共有による組織文化（T. J. ピーターズ&R. I. ウォータマン）
第10回	組織文化論Ⅲ	組織変革の視点からの組織文化（E. H. シェイン）
第11回	新たな経営管理の理論Ⅰ	意思決定のあいまい理論（J. G. マーチ&オルセン）

第12回	新たな経営管理の理論Ⅱ	組織の進化と組織認識論（K. ワイク）
第13回	新たな経営管理の理論Ⅲ	知識マネジメント論の台頭（野中郁次郎、他）
第14回	経営管理論Ⅱの総括および授業時間内の定期試験	これまで学習してきた経営管理の諸理論の振り返りおよび今後の理論的な展望を行い、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくことと理解が促進される。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布されるプリント教材を使用する。

【参考書】

授業スケジュールの各回において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、教室内での定期試験（70%）および平常点（30%）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度からのアンケートから、できる限り実際の企業事例を経営管理の難しい理論や学説と関連づけながら、その理解をいかにして促進できるよう改善の努力を傾けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

In Business Management Theory II, based on the historical flow of spring theory and theory, first, C.I. Barnard as "modern organizational theory", H. A. Simon will take up "decision-making theory" such as and add commentary. Then, to solve the adaptive behavior between the organization and the environment, we will take up and explain "contingency theory" such as T. Burns & G. M. Stalker. In addition, as a new theory after that, J. G. March advocated "Decision-Making Garbage Can Model". We will also discuss "organizational culture theory" such as E. H. Schein.

MAN300TG（経営学 / Management 300）

演習[消費文化論](秋期スクーリング)

松本 潔

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本演習では、テーマを「消費文化」に焦点を当て、私たちの消費行動とその行動に影響を与える企業の生産・販売活動との関係を考察していく。特に、共通の価値観や嗜好を伴い流行していく「消費の 대중文化と高級文化」の現象を、私たちの消費行動を「衣」、「食」、「住」、「遊（余暇）」などの領域に分けて、講義と演習活動を通じてそこに潜む意味を読み解くことを目的とする。なお、演習活動は、グループで行うことを前提としており、積極的にメンバー間での意見交換やグループの成果発表を行うことができる受講者の参加を希望する。

【到達目標】

- ・現代社会における様々な消費現象の意味を理解することができ、またその意味解
- 積の方法や手法を習得することができる。
- ・我々の身近な生活様式（衣・食・住・遊）を考察することができる。
- ・生活様式と自己のライフスタイルとのかかわりを探り、これからの消費生活に対して新たな発見ができるような感性を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

グループでの演習授業を中心とするが、消費文化現象の解説を促進するため、講義と映像資料の活用などを交えながら進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要と進め方などについて、また「消費文化」の意味と位置づけについて解説を行う。
第2回	文化記号論概説	現代社会における消費現象を解説するツールとしての文化記号論を概説する。
第3回	コンセプトメイキングの手法	企業の事例を通じて、コンセプトメイキングの手法と重要性について学習する。
第4回	遊の生活様式の現状と動向	余暇関連市場の現状と方向性、および我々の余暇に対する価値観の変化を考察する。
第5回	遊の事例研究（エンターテイメントのケーススタディ）	余暇市場開発の事例を取り上げ、その開発コンセプトとライフスタイルとの関連を分析する。
第6回	食の生活様式の現状と動向	食生活構造の変化と課題、および食生活のキーコンセプトについて考察する。
第7回	食の事例研究（和食のケーススタディ）	食文化を演出する店舗を題材として、その開発コンセプトと消費者の価値観との関連を探る。
第8回	衣の生活様式の現状と動向	衣（服飾）文化の動向、および衣文化と我々のライフスタイルとの関連を分析する。

第9回	衣の事例研究（和服のケーススタディ）	衣文化を創造したブランドを事例として取り上げ、我々のライフスタイルとの関連を探る。
第10回	住の生活様式の現状と動向	住まいの歴史、住宅事情、住文化の動向と課題を消費者ニーズとの関連で考察する。
第11回	住の事例研究（様々な住宅形態のケーススタディ）	住文化創造の事例研究として、具体事例を取り上げ、我々のライフスタイルなどとの関連を探る。
第12回	タウンウォッチングからの発想とその概念	街の観察を通じ、地域における資源を把握し個人と地域のアイデンティティや文化形成を探る。
第13回	タウンウォッチングの実際の事例研究	タウンウォッチングの事例研究の解説を加え、ライフスタイルと価値観との関係を検討する。
第14回	消費文化論のまとめと授業時間内での定期試験	消費文化論についての振り返りと総括を行い、最後に定期試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認することが要求される。また、次回の授業テーマについて受講者が自分自身の消費行動について、自問自答しながらその特徴をイメージしていただくことで各回の授業理解が促進される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布するプリント教材を使用。

【参考書】

各授業スケジュールの回数ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、教室内での定期試験（70%）および平常点（30%）の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度のアンケートによる受講者から、できるだけ新しい事例研究（ケース・スタディ）を望む声があがっており、その点に心がけて授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業概要でも確認したが、演習の方法としてグループ・ワークを取り入れるため、グループ・メンバーとの意見交換を積極的に行える受講者の参加が求められる。

【Outline (in English)】

In this exercise, we will focus on the theme of "consumption culture" and consider the relationship between our consumption behavior and the production and sales activities of companies that influence that behavior. In particular, the phenomenon of "pop culture and high-class culture of consumption" that is becoming popular with common values and tastes, and our consumption behavior are "clothing," "food," "living," and "play (leisure)." The purpose is to understand the meaning hidden in the areas through lectures and exercises. It is assumed that the exercise activities will be conducted in groups, and we hope that participants who can actively exchange opinions and announce the results of the group will participate.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講[航空輸送概論](秋期スクーリング)
恩田 登志夫
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

航空事業は、規制緩和が進んだことから既存航空会社間の競争が激しくなり、一企業だけで生存することが厳しくなりました。現在ではグローバル規模の連携やLCCをはじめとする低価格航空会社の台頭など、目まぐるしく変化しています。この講義では、航空ビジネス全般に関する現状と課題を学ぶことができます。

【到達目標】

- ① 運航方式の違いを説明できる。
- ② アライアンスの現状とメリットを説明できる。
- ③ LCCのビジネスモデルを説明できる。
- ④ わが国の空港経営の現状を説明できる。
- ⑤ 航空ビジネスとインバウンドツーリズムとの現状を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な授業のほかに、統計資料や写真等を採用し、理解しやすいように工夫して授業を勤めます。さらに、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンライン授業に移行した場合はZoomによるリアルタイム配信型の授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	航空ビジネスの概要	講義全般の主要なトピックを提示し、講義の方向性を示す。
2	航空輸送の歴史的発展経緯	航空事業の起源 わが国の航空輸送の草分け日本航空の設立
3	国際航空法	シカゴ条約 バミューダ協定以降の航空協定 航空運送人の運送責任
4	規制緩和とオープンスカイ政策	米国の規制緩和 米国のオープンスカイ政策
5	わが国の航空政策の変遷	航空法施行 45・47体制 1986年の新航空政策
6	低コスト航空会社(LCC)	LCCのビジネスモデル
7	運航方式の相違	ハブ・アンド・スポーク運航 ポイント・ツー・ポイント運航
8	サウスウエスト航空のビジネスモデル(1)	ノンフリル 二次的空港の積極的利用 10分間ターン
9	サウスウエスト航空のビジネスモデル(2)	サウスウエスト航空のビジネスモデルをテーマにディスカッション
10	アライアンス	航空会社間のアライアンスの現状 アライアンスのメリット 海運アライアンスとの比較

11	航空貨物輸送の歴史的経緯	航空貨物機の歴史的変遷 旅客機のベリー積載と貨物機による積載方法
12	航空フォワードターとインテグレーターのビジネスモデルの相違	航空フォワードターの現状 インテグレーターの現状 フェデラルエクスプレスの事例研究
13	わが国空港の現状と課題	わが国の空港の現状 わが国の空港が抱える課題
14	わが国の航空ビジネスとインバウンドツーリズム	インバウンド旅行者増加の現状 航空ビジネスとインバウンドビジネスにおける課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。

復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要なプリントを配布する。

【参考書】

『最新航空事業論』井上泰日子、日本評論社、2016年、3024円
『航空産業入門』ANA総合研究所、東洋経済新報社、2017年、2592円
『空港のはなし』岩見宣治・渡邊正己、成山堂書店、2018年、1728円

【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】

毎回熱心に講義を聴講している学生が多く、講師としてもやりがいを感じています。今年度から航空旅客としては、既存の航空会社とLCCとの比較、航空貨物としては、既存の航空会社とインテグレーターとの比較検討を行うが、これも学生からの意見を反映させたものである。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】

In the airline business, competition among existing airlines has intensified due to deregulation, and survival by only one company became strict. Today, global collaboration and the rise of low-cost airlines including LCC are changing quickly. In this lecture, you can learn the current situation and issues related to the airline business in general.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG（経営学 / Management 300）
演習[国際物流論](秋期スクーリング)
恩田 登志夫
カテゴリー：秋期 予備登録の有無： 授業形態： 単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のグローバル化が進んでいます。わが国の企業は、諸外国に積極的に展開し、現地での生産・販売体制を構築・維持しなければなりません。それら企業の国際物流を担う国際物流事業者は、荷主と海運会社、航空会社の中に位置して、国際物流をプロデュースする役割があります。この授業では、国際物流の現状を学ぶことができます。また、実際に国際物流事業者を訪問して、理解を深めることができます。

【到達目標】

- ①ハブ・アンド・スポーク（フィーダー）システムを説明できる。
- ②多国籍企業の発展的4類型を説明できる。
- ③国際物流事業者の関係を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的な授業のほかに、統計資料や写真等を採用し、理解しやすいように工夫して授業を勧めます。さらに、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際物流の現状	国際物流の現状 国際物流業界構造とフレート・フォワーダーの現状
2	国際物流における基礎的理論	ハブ・アンド・スポークの概要と仕組み
3	企業の国際化	多国籍企業とは 多国籍企業の発展的4類型
4	定期船海運	定期船海運の概要 海運同盟の概要 アライアンスの現状
5	定期船海運の運賃	定期船海運の基本料金計算 定期船海運の諸料金
6	定期船海運の実務	定期船海運の現場組織
7	不定期船海運の現状	不定期船による輸送の概要 国際バルク戦略港湾の概要
8	港湾運送の現状	港湾業界の概要 国際コンテナ戦略港湾の概要
9	航空貨物業界の現状	航空貨物業界構造 航空貨物の輸送品の特徴 航空業界のアライアンスの現状
10	航空貨物運賃の仕組み（1）	航空貨物運賃計算の仕組み 一般貨物運賃率
11	航空貨物運賃の仕組み（2）	航空貨物運賃の計算 特定品目運賃率 品目別運賃率
12	国際複合輸送の現状と課題	国際複合輸送の歴史的経緯 国際複合輸送のルートの現状 複合運送人の責任

13	倉庫業界の現状	倉庫業法の理解 倉庫業の種類 保管料金の計算方法
14	ドレージ輸送の現状	現在、国際物流業界で大きな課題であるドレージ輸送の実態と問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。

復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に自前テキストを配布します。

【参考書】

『国際物流の理論と実務（6訂版）』鈴木暁他著、成山堂書店、2860円

【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】

この授業は、国際物流において「実学」を中心に講義を進めていきます。学生も熱心に聴講していて、とくに質問内容のレベルが高く、講師としてやりがいのある講義を進めることができています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

航空会社に約20年の実務経験があるため、航空貨物輸送については、実務経験を踏まえて説明できる。

【Outline (in English)】

Globalization of the economy is advancing. Companies in our country must actively develop in foreign countries and build and maintain local production and sales systems. International logistics companies that are responsible for international logistics of these companies are located between shippers, shipping companies, and airlines, and are responsible for producing international logistics. In this lesson, you can learn the current state of international logistics. Also, you can actually deepen your understanding by visiting international logistics providers.

【実務経験のある教員による授業科目】

○

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語S（札幌市スクーリング）
吉田 季実子
カテゴリー：札幌市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外向けのニュース番組という最新の身近な題材を通して、英語の Listening, Reading, Writing, Speaking の技能を高める

【到達目標】

実際に放送されている英語での海外向けニュース映像を見て、身近な話題に関しては日本語字幕なしでも内容が理解できるようになる
また実際に話されている文章についてもある程度まで聞き取れるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの課題に添って進めていくが、各章の終わり事に確認の小テストを行う予定。

最終コマで小テストに関してはフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit1	単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第2回	Unit1	聞き取りと本文の和訳 英作文
第3回	Unit1/2	Unit2 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第4回	Unit2	聞き取りと本文の和訳 英作文
第5回	Unit2/3	Unit3 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第6回	Unit3	聞き取りと本文の和訳 英作文
第7回	Unit3/4	Unit4 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第8回	Unit4	聞き取りと本文の和訳 英作文
第9回	Unit4/5	Unit5 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第10回	Unit5	聞き取りと本文の和訳 英作文
第11回	Unit5/6	Unit6 単語や表現を確認 映像をみての問題演習
第12回	Unit6	聞き取りと本文の和訳 英作文 テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

小テストに合わせて前回学習範囲の復習をすること

また各章冒頭、表題とその下のページは予習の時に目を通しておくことが望ましい

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE6

山崎達朗

金星堂 2023年 2400円（税別）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 80%

平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

辞書

また、自宅学習用のオンライン教材があるので

それを再生できる PC スマートフォンなどのメディア機器がある

と望ましい

【Outline (in English)】

Through news topics, you can learn four English skills.

BSP100TD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

総合特講（札幌市スクーリング）

小口 雅史

カテゴリー：札幌市 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：終日

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、蝦夷（エミシからエゾへ）・防御性集落・安藤氏といった北の世界の主人公たちを素材に、最新の日本史研究の成果を提供します。

近年、日本史の見直しが盛んになり、「歴史は北から」をキャッチフレーズとした日本北方史の解明が急速に進んでいます。みなさんは、これまで陽の当たらなかった北方世界に、中央とはかなり異なる「もう一つの日本」の歴史があったことを学習し、より豊かな日本史像を身につけることが出来ると思います。

【到達目標】

この講義を受講することによって、みなさんに、日本史の多様性、様々な日本文化の存在を理解して（日本文化は単一では無いこと）、再認識してもらうことを最大の目標にします。試験によってその認識の度合いを判定します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3、DP5」「日本文学科：DP1、DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1、DP2、DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

この分野の歴史については、高校日本史等ではまだまだ取り上げられていない学界の最新の成果なので、基礎知識レベルでの情報提供も随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	日本北方世界の歴史的意義について
第2回	弥生と縄文	最北の弥生文化の実態と、縄文文化の世界を比較する
第3回	蝦夷とは何か	蝦夷と呼ばれた北日本人の実態を考える
第4回	阿倍比羅夫と津軽	阿倍比羅夫による「北征」事業の実態を分析する
第5回	北の古代交易の世界	北方史の特徴である交易の具体的内容を検討する
第6回	律令時代の青森・北海道	中央日本が律令国家を形成した時期の北日本世界の実態を考える
第7回	謎の10～11世紀	北日本が中央日本の記録から姿を消した理由を考える
第8回	中世北方世界の開幕	平泉に花開いた新しい北方文化の世界について考える
第9回	北の得宗領	鎌倉幕府執権北条氏の新しい北方世界支配の実像に迫る
第10回	謎の津軽安藤氏	中世北方世界の覇者津軽安藤氏の誕生とその活躍について検討する
第11回	躍動する北の世界	「日の本將軍」の実像を探る

第12回 天下統一と北の世界 豊臣秀吉による天下統一が北の消滅。試験 世界に及ぼした影響を探る。試験で単位を認定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業前と終了後にそれぞれ、テキストの対応部分を熟読しておくことと理解が深まります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

青森県の歴史（新版県史シリーズ2）山川出版社

【参考書】

図説青森県の歴史（河出書房新社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

各回の講義で、中央の日本史との比較を必ず行いますので、それをよく理解して、自分なりに北方世界の歴史の特徴（中央の日本史との違い）を押さえる努力をしてください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

おそらく高校まではほとんど知識として持っていない世界の話になります。最新の歴史学の世界「もう一つの日本史」の世界を愉しんでください。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, you will learn the latest achievements of the unknown northern world.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%).

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（札幌市スクーリング）
西川 英彦
カテゴリー：札幌市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「デジタル・マーケティング」について学ぶ。
 皆さんは、デジタル・マーケティングは何か難しそう、自分には縁がないものかと思っているかもしれない。だが実際には、「LINEでクーポンを手に入れた」とか、「気になる商品をインスタグラムで検索した」などの経験をしただけで、すでに皆さんはデジタル・マーケティングに関わっているのである。このように、皆さんにとってデジタル・マーケティングは実はとても身近な現象なのである。言い換えれば、それだけ身近な現象であるデジタル・マーケティングを学ぶことは、皆さんにとって不可欠であるといえる。
 本授業では、はじめて、デジタル・マーケティングを学ぶ学生が理解しやすいように、アマゾンや食べログ、無印良品、アップル、レゴなど身近な企業のケースを通して、デジタル・マーケティングの基礎概念や理論を学ぶ。本授業によって、デジタル・マーケティングの基礎知識を身につけ、身近な現象と結びつけつつ深く理解することを通じて、ますます進展するデジタル社会で皆さんが活躍されることを期待する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点である。
 ① デジタル・マーケティングの基礎となる概念や理論の意味が説明できる。
 ② 自ら実際の現象をとりあげ、授業で学んだ概念や理論を使って、その優れた点や課題となる点について、考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

<授業の進め方>

本授業では、テキストをもとに、身近な企業のケースでデジタル・マーケティングをわかりやすく紹介しつつ、基礎理論を講義形式で説明する。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。講師は、テキストを画面に写し、講義を進める。テキストは、事前課題で使用するので早めに購読のこと。

<教科書による事前学習（必須）>

事前にテキストを読み、該当章で、「あなたが最も重要だと思うキーワード（単語）」を1つ挙げて、「そのキーワードが最も重要だと思う理由やそれに関する事例（200から300文字程度）」を、Google フォームから提出する（採点対象：2点 x15章分=30点満点）。章のタイトルになっているキーワードは選ばないこと。また、キーワードは、文章ではなく、単語を選択すること。なお、「デジタル・マーケティング」など2つ以上の単語が組み合わさったものも可とする。講師は、内容を見て評価する。さらに、重要なコメントをいくつか選び、講師は、実名あるいはニックネームで、紹介する。授業で紹介時に、発言された場合には加点する（1点）。
 講師の読む時間の確保のために、Google フォームでの入力を推奨するが、ネット環境に問題がある方は、紙の提出も可とする。書式は自由だが、学籍番号、名前、名前のフリガナは必ず記載ください。なお、匿名希望の場合は、ニックネームも記述ください。

事前課題の締め切り（Google フォーム：9/28PM11時 or 郵送：9/29必着）やURLなどの詳細は、以下のPDFを確認ください。

事前課題・事後課題PDF <https://www.dropbox.com/s/hwn36iwhs6gx8z9/Task.pdf?dl=0>

<事後課題（任意）>

授業後に、感想や質問がある場合は、Google フォームから提出する。講師は、重要なコメントをいくつか選び、実名あるいはニックネームで、授業で紹介する。紹介時に、発言された場合には加点する（1点）。なお、当日の朝に、紙での提出も可とする。ただし、3日目に関する質問は紹介できないので、授業中に直接質問すること。事後課題の締め切りやURLなどの詳細は、上記のPDFを確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル社会のマーケティング	オリエンテーション、アマゾンのケース (テキスト第1章)

第2回	デジタル社会の消費者行動とビジネスモデル	食べログのケース (テキスト第2章) メルカリのケース (テキスト第3章)
第3回	デジタル・マーケティングの基本	無印良品のケース (テキスト第4章)
第4回	製品戦略の基本	アップルのケース (テキスト第5章)
第5回	製品戦略の拡張	レゴのケース (テキスト第6章)
第6回	価格戦略の基本と拡張	ANAのケース (テキスト第7章) エアビーアンドビーのケース (テキスト第8章)
第7回	チャネル戦略の基本と拡張	ユニクロのケース (テキスト第9章) ウーバーのケース (テキスト第10章)
第8回	プロモーション戦略の基本	ローソングループあきこちゃんのケース (テキスト第11章)
第9回	プロモーション戦略の拡張	トリップアドバイザーのケース (テキスト第12章)
第10回	デジタル社会のリサーチとロジスティクス	グーグルのケース (テキスト第13章) ヤマト運輸のケース (テキスト第14章)
第11回	デジタル社会の情報システム	セールスフォースドットコム のケース (テキスト第15章)
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、すでに記述したように、テキストの全ての章を読んで、該当章の重要なキーワードや、その理由やそれに関する事例をGoogle フォームあるいは郵送にて提出する。

また、授業終了後は、授業の感想や質問をGoogle フォームなどで提出する。さらに、復習をして、試験に備える。
 なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『1からのデジタル・マーケティング』（西川英彦・澁谷覚編著、碩学舎 2019年）
 テキストは、以下等で、早めに入手すること。法政大学生協教科書通販サイト <https://univcoop-hosei.jp/>

【参考書】

フィリップ・コトラー＝ヘルママン・カルタジャヤ＝イワン・セティアワン（恩蔵直人監修、藤井清美訳）『コトラーのマーケティング4.0：スマートフォン時代の究極法則』朝日新聞出版、2017年
 ＊その他の参考書は、テキスト各章末を参考のこと。

【成績評価の方法と基準】

事前課題 30%(採点対象: 2点 x15章分=30点満点)。
 試験 70% (70点満点) キーワードを説明する試験となる。
 さらに、授業中の質問や発言は、加点する（1点）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

教員情報は、次を参照のこと。 <http://nlab.ws.hosei.ac.jp/>
 授業計画は、履修者の状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【Outline (in English)】

In this lecture, students who learn basic concepts and theories of digital marketing for the first time can easily understand it through cases of familiar companies such as Amazon, Tabelog, MUJI, Apple and Lego. I expect that you will be active in the progressing digital society that you acquire the basic knowledge of digital marketing, understanding deeply while associating with the familiar phenomenon.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（名古屋市スクーリング）

大澤 広晃

カテゴリー：名古屋市 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：終日
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代のイギリスは、巨大な帝国であった。植民地支配の過去は、現在の世界にも影響を及ぼし続けている。21世紀の世界における、英語の普及、地域間の経済格差、異人種・異文化間の対立といった問題の多くは、イギリス帝国の歴史を考へることなしに理解することはできない。イギリスの帝国に着目して、イギリスとそれ以外の地域の関係、および、過去と現在の関係を考へること、これがこの授業の目的である。

【到達目標】

・イギリス帝国の歴史とその特徴についての基本事項を理解する。
 ・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考へる力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、史資料を提示してそれについての意見を聞いたりすることで、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、授業の前後に、授業内容についての質問に対応する時間を設ける予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の展開を概観する。
第3回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第4回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第5回	公式帝国と非公式帝国	イギリス帝国の影響力を考えるうえでの重要概念である公式帝国と非公式帝国について学ぶ。
第6回	インド：帝国の宝冠	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第7回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第8回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第9回	20世紀前半の帝国とコモンウェルス	コモンウェルスの特徴とその成立過程について学ぶ。
第10回	帝国＝コモンウェルスの変容と脱植民地化	脱植民地化と帝国＝コモンウェルス体制の変容について学ぶ。
第11回	帝国の過去と現在：植民地責任	帝国支配の過去が現代の世界に及ぼしている影響について学ぶ。
第12回	試験とまとめ	試験を実施し、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

使用しない。プリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
 木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
 秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年
 小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012年
 フィリッパ・レヴァイン（並河葉子・森本真美・水谷智訳）『イギリス帝国史—移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから』昭和堂、2021年

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

試験 80%

*スクーリング試験の受験資格を満たさない場合は、試験を受けることができないので、落第となる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the 21st century. It analyzes various aspects of British imperial history, considering how Britain constructed varied relationships with other regions and how the past of imperial rule has affected former colonies as well as Britain herself.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about British imperial history.
 2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British Empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation: 20% Final examination: 80%

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
総合特講（名古屋市スクーリング）
中沢 けい
カテゴリー：名古屋市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではおもにグーテンベルグによる活版印刷の普及から始まった歴史の流れと日本の文章の変化についてお話しします。

【到達目標】

文章は時代とともに変化します。政治や経済の影響を受けます。この授業ではグーテンベルグが普及させた活版印刷がデジタル技術によって大変革の時期にあることについて注目します。今後の文章の変化、表現技術の変化について、見通しを立てるための基礎的知識を養ってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とグループディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル技術とインターネットの時代	表現技術の変化が現代社会に何をもたらしているかをお話します。
第2回	受講生の経験について	アンケートを用いて、皆様の読書体験、情報摂取の方法、表現技術の経験などをうかがいます。
第3回	アンケートのフィードバックとグループディスカッションのグループ作り	アンケートの内容を皆様にお伝えします。またグループディスカッションのグループ作りをします。
第4回	文章を書く表現技術の変化について。	骨に彫る。石に彫る時代から筆を使う時代への大きな流れをお話します。おもに中国について話します。
第5回	グーテンベルグの登場から宗教戦争へ。	グーテンベルグの登場は日本の室町時代にあたります。グーテンベルグの登場により欧州に宗教戦争が起きました。
第6回	大航海時代と日本	大航海時代が始まると、カトリックはキリスト教を世界へ布教します。同時に日本にも活版印刷が伝わりました。
第7回	グループディスカッション	グループごとにこれまでの講義の内容の感想を意見交換してもらいます。グループの意見は代表者に発表してもらいます。
第8回	大分岐点	イギリスで起きた産業革命は大分岐点と呼ばれています。国民国家が成立し、それぞれに国に「国語」が登場します。

第9回	各国の国語の登場と小説が文学の主流になる。新聞や出版が産業として発展する。	欧州に現れた文学作品についてお話しします。
第10回	日本の近代化と近代口語文の成立。	日本の近代化の過程で現れた近代口語文の文学作品についてお話しします。
第11回	ITの登場とインターネットの時代の問題点。	グーテンベルグ以来の大変化と言われたITの登場はなにをもたらしているのかをお話しします。
第12回	グループディスカッションとレポート作成	授業内容についてグループで意見交換してもらい、その後にレポートを作成してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、毎日4時間を標準とします。授業内容について配布印刷物などをもとに振り返っておいてください。また参考文献や文学作品をご紹介しますので、読んでください。

【テキスト（教科書）】

授業時に簡略なレジュメを配布いたします。

【参考書】

授業内でご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッションへの積極的な参加や授業時の質問など40%。最終回に作成するレポートの評価60%といたします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

小説家。文芸創作

【Outline (in English)】

Learn about the changes in Japan sentences

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

経済学特講（名古屋市スクーリング）

藤原 徹

カテゴリー：名古屋市 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：終日
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住宅や土地が経済活動に果たす役割はきわめて大きい。本講義では、標準的な都市経済学・地域経済学のトピックスのうち、住宅や土地に焦点を当て、ミクロ経済学で通常想定するような財との違い、それらを踏まえた市場分析の手法、日本における住宅・土地政策が市場に与える影響などについて講義する。

【到達目標】

- (1) 日本における住宅・土地市場の概略を把握する。
- (2) ミクロ経済学・マクロ経済学の分析手法を住宅・土地市場に応用する方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義を行う。講義時間内に演習課題にも取り組む。演習課題については次回講義において解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、住宅や土地が経済活動に果たす役割	・ 講義の進め方について ・ 経済活動における住宅や土地の果たす役割の重要性、財としての特徴
第2回	住宅・土地市場の分析の基礎（1）需要と供給	・ 需要曲線、供給曲線の基礎 ・ 余剰分析の基礎
第3回	住宅・土地市場の分析の基礎（2）政策の必要性	・ 課税の余剰分析 ・ 市場の失敗 ・ 外部不経済の余剰分析
第4回	地価と地代、住宅の賃貸価格と資産価格	・ 割引現在価値 ・ 地価と地代の違い ・ 日本の土地市場 ・ 家賃と住宅価格の関係
第5回	住宅政策の経済分析（1）家賃補助	・ 日本の住宅市場 ・ 家賃補助の余剰分析
第6回	住宅政策の経済分析（2）公共住宅	・ 公共住宅の余剰分析
第7回	住宅政策の経済分析（3）家賃規制	・ 家賃規制の余剰分析
第8回	住宅政策の経済分析（4）借地借家法	・ 経済学から見た借地借家法 ・ 定期借家権の経済的効果
第9回	土地政策の経済分析（1）土地保有税	・ 日本の土地税制 ・ 土地保有税の経済効果
第10回	土地政策の経済分析（2）土地取引税	・ 日本の土地取引税の概要 ・ 譲渡所得税のロックイン効果
第11回	土地政策の経済分析（3）土地利用規制	・ 日本の土地利用規制の概要 ・ 土地利用規制の経済効果
第12回	講義のまとめと試験	・ 講義のまとめ ・ 60分間の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

金本良嗣・藤原徹（2016）『都市経済学第2版』東洋経済新報社
 高橋孝明（2012）『都市経済学』有斐閣
 八田達夫（2008, 2009）『ミクロ経済学1, 2』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

講義内の演習（40%）
 最終講義内試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

Housing and land play an extremely important role in economic activity.

Among the standard urban and regional economics topics, this lecture focuses on housing and land, including how they differ from goods as usually assumed in microeconomics, the methods of market analysis based on these differences, and the impact of housing and land policies in Japan on the market.

【到達目標（Learning Objectives）】

(1) To gain an overview of the housing and land market in Japan.

(2) To learn how to apply microeconomic and macroeconomic analysis methods to the housing and land market.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

In-class exercises (40%)

Final in-lecture examination (60%)

PHL100TA (哲学 / Philosophy 100)
哲学（後期週末スクーリング）
相原 博
カテゴリー：後期週末 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の内容は、西洋哲学史の入門です。受講生は、古代から近現代にいたる、西洋の主要な哲学者たちの生涯や考えを学びます。哲学史は、過去の哲学者たちの対話や論争の歴史であり、それ自身が一つの哲学の営みです。授業では、哲学者たちの思考をたどりながら、彼らがどのような事柄を哲学の問題として理解しており、その問題にどのような解答を与えたのか、具体的に学んでいきます。それによって、自分で考える力、哲学的に考える能力を得ることを目的とします。

【到達目標】

- 第一に、哲学史にかんする知識を身につけながら、自分で説明することができる。
- 第二に、日常の様々な出来事について、哲学的に問題を立てて考え、論じることができる。
- 第三に、議論を通して、多様な意見の存在を知り、自分の考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商学学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換も重視します。また積極的に参加してもらうため、授業では議論の時間も設けます。受講にあたっては、自分自身で考えること、また授業で発言することが必要です。各回の授業ごとにレポートの記述と提出を求めます。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたレポートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・神話から哲学へ	シラバスの内容を説明するとともに、古代ギリシアにおける哲学の成立、哲学と神話の違いについて説明します。
第2回	ソクラテスと人間	ソクラテスによる知恵の探求、裁判における刑死について説明します。
第3回	プラトンとイデア	プラトンの哲学について、普遍や理想の存在を認めたイデア論について説明します。
第4回	アリストテレスと徳倫理学	アリストテレスの哲学について、よい人生を送ることを目的とする、徳倫理学について説明します。
第5回	ヘレニズムとローマの哲学	エピクロスやゼノン、セネカなど、個人の生き方を問題にした、ヘレニズムとローマの哲学について説明します。
第6回	キリスト教と哲学	アウグスティヌスの哲学について、哲学へのキリスト教の影響と、異教徒に対するキリスト教の弁護について説明します。

第7回	デカルトと近代哲学	デカルトについて、「私は考える」をもとに世界を捉えなおす哲学を説明します。
第8回	イギリス経験論の系譜	ロックやヒュームについて、生得観念を否定し、経験を重視した哲学について説明します。
第9回	カントとドイツ観念論	カントの哲学について、現象と物自体の二元論と、ヘーゲルによる二元論の克服の試みについて、説明します。
第10回	実存主義の哲学	キルケゴールとサルトルについて、抽象的な人間一般でなく、「今ここにいる私」を重視する哲学について説明します。
第11回	現代の哲学	ハイデガーによる存在の意味の探究と、ウィトゲンシュタインによる哲学における言語分析について説明します。
第12回	筆記試験・全体の総括	講義内容の理解度を確認する論述試験を行うとともに、講義全体を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書などを使って、各回の内容について予習してください。また講義後には、授業で配布された資料を読み直し、復習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』、有斐閣、1975年。
 野家啓一（責任編集）『哲学の歴史』（第1巻-第12巻）、中央公論新社、2007-2008年。
 牧野英二、小野原雅夫、山本英輔、齋藤元紀（編）『哲学の変換と知の越境』、法政大学出版社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、過去の哲学者の考えを理解しているかどうか、また自分の考えを表現できるかどうか評価します(30%)。また筆記試験によって、過去の哲学者の考えを正しく理解しているかどうか、また哲学的に問題を立てて考え、論じることができるかどうか評価します(70%)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業後に実施します。その際に教員と話したり、質疑応答を行うことができます。

【Outline (in English)】

The content of this class is the history of Western philosophy. Students will study the lives and ideas of major Western philosophers from antiquity to the modern era. The history of philosophy is a history of dialogues and debates among great philosophers and is a philosophical activity in itself. In the class, students will follow the thoughts of philosophers and learn specifically what they understood as philosophical problems and what answers they gave to those problems. By doing so, students will gain the ability to think for themselves and to think philosophically.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. While acquiring knowledge about the history of philosophy, students will be able to give their explanations.
- B. Students will be able to formulate, think about, and discuss philosophical issues regarding various everyday events.
- C. Through discussion, students can learn about the existence of diverse opinions and deepen their thinking.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%、Short reports : 30%.

HSS200TB（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200）
スポーツ特講（後期週末スクーリング）
朝比奈 茂、佐藤 優希
カテゴリー：後期週末 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。健康に過ごすための一つとして、生活習慣の改善や適度な身体活動が求められる。運動・スポーツは、基本技術の習得および効果・効能を十分に理解して、安全に楽しく実施することで、心身の状態を良い方向に導くことが期待できる。

本講義では、自身の体力および身体組成を把握したうえで、身体活動と病気との関連を免疫系および自律神経の観点からアプローチする。また実践においては、バドミントン、スポーツウォーキングとヨガを通じて、運動・スポーツの必要性を認識することを目標とする。尚、スポーツウォーキングに関しては、キャンパス周辺を10min/kmの速度で8～10Km程度歩く。普段から、定期的に運動経験を有することが望ましい。

【到達目標】

1. ホメオスタシスと病気との関連性について述べるができる。
2. 体力について理解し、健康に関連する体力要素を説明できる。
3. 自身の身体組成を分析し、体脂肪率、BMIなどについて、その意義を述べるができる。
4. 運動・スポーツの功罪について、免疫系と自律神経の観点から説明できる。
5. スポーツ外傷・障害について説明できる。
6. 個人スポーツの一つである「バドミントン」を通じて、対人スキルの促進について実践できる。
7. ウォーキングの身体への影響を説明できる。
8. ウォーキングの基本技術(姿勢、ストライドなど)を説明し、実践することができる。
9. ヨーガの歴史や哲学（考え方）を理解し、ポーズを解剖学視点から解説・実践できる。
10. 呼吸法について理解し、Meditation（瞑想）を実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP3」「経済学科：DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、二人講師によって実施する。第1回目から4回目は佐藤優希講師、5回目から12回目は朝比奈茂講師となる。

基本的に午前は教室での講義を中心とし、午後は実践を交えて実技を中心に演習形式で行う。

授業は、それぞれのテーマに沿ってスライド、DVDなどを用いて行う。

スポーツウォーキングは、スマートフォンのアプリを用いて、大学周辺をコースとして実践する。

ヨガは、呼吸法および解剖学を中心として、実践を基本に演習形式で行う。

また、毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (担当講師：佐藤優希)	受講に関する諸注意および評価基準などを説明する。 授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
第2回	健康を考える（1） (担当講師：佐藤優希)	新体力テストに沿って、体力測定を実施する。体力測定（50m走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
第3回	健康を考える（2） (担当講師：佐藤優希)	体力測定のフィードバックを行い、健康に関わる要素について説明する。
第4回	個人スポーツを学ぶ (担当講師：佐藤優希)	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
第5回	ホメオスタシスと病気 (担当講師：朝比奈茂)	ホメオスタシスの意義や病気の成り立ちについて説明する。
第6回	運動・スポーツの功罪 (担当講師：朝比奈茂)	免疫系と自律神経との関連性をあきらかにし、運動・スポーツの功罪に及ぼす影響を説明する。
第7回	スポーツウォーキングを学ぶ（1） (担当講師：朝比奈茂)	スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響について説明する。基本姿勢およびウォーキング技術を習得し、大学周辺のコースをおよそ10min/kmの速度で8Kmほど実践する。
第8回	ヨガの本質について考える（1） (担当講師：朝比奈茂)	ヨガの基本的な考え方の説明し、代表的なポーズを実践する。呼吸に関する、基礎的な方法を説明し、実践する。
第9回	スポーツ外傷・障害とその応急処置 (担当講師：朝比奈茂)	スポーツでおこる怪我について、外傷と障害に分類し、代表的な怪我に関して説明する。また下肢のアライメント不良と障害との関係を説明する。スポーツ傷害の応急処置（特にアイシング）の意義について説明する。
第10回	SDGsとスポーツ・健康を学ぶ (担当講師：朝比奈茂)	持続的可能な開発目標（SDGs）のうち、3つ目に位置づけられている「すべての人に健康と福祉を」についてDVDを視聴しながら、目標の意義を理解する。
第11回	スポーツウォーキングを学ぶ（2） (担当講師：朝比奈茂)	前回と異なったコースをおよそ10min/kmの速度で10Km実践する。
第12回	ヨガの本質について考える（2） まとめ (担当講師：朝比奈茂)	ヨガが健康に及ぼす効果・効能について説明し、実践する。授業全体の総括として、本授業で得た知識をもとに、運動・スポーツと健康問題について、グループごとに討論を行う。また討論の内容をふまえて、レポートを作成し、レポート試験とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習にあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、毎回授業のあとに伝達する。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況：80%、2) 課題およびレポート：20% の配分により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

幅広い年齢構成となるため、心拍数を指標に運動強度を設定することで、安全面に配慮した講義を目指す。また終日行われる講義のため、最近のトピックスを交えながら、座学と実技演習の組み合わせを無理なく行い、興味をもって臨めるよう工夫して実施する。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンのアプリを使用して講義を展開するため、スマートフォンを持参すること。

【その他の重要事項】

スポーツウォーキングはキャンパス周辺を10min/kmの速度で8～10Km程度実践する。

これは、普段から運動をしていない方、または体の一部（特に腰部、下肢）に痛みなどを抱えている方にとっては、実施困難であると考えられる。授業を受講する際、十分に準備、検討することが望ましい。

【Outline (in English)】

With the development of modern medicine, mankind has benefited in many ways. One of these is the extension of life expectancy. While Japan is one of the countries with the longest life expectancy in the world, extending healthy life expectancy is a challenge for the future. One way to stay healthy is to improve lifestyle and moderate physical activity. Exercise and sports can be expected to lead one's physical and mental condition in a positive direction by learning basic skills and fully understanding the effects and benefits of exercise and sports, and by performing them safely and enjoyably.

In this lecture, the relationship between physical activity and disease will be approached from the perspective of the immune system and autonomic nervous system, based on an understanding of one's own physical fitness and body composition. In practice, the goal is to recognize the necessity of exercise and sports through badminton, sports walking, and yoga. The sports walking will be conducted at a speed of 10 min/km around the campus for about 8 to 10 km. It is desirable for students to have regular exercise experience.

LAW200TB（法学 / law 200）

法律学特講（後期週末スクーリング）

カロリーヌ・ルブルトン

カテゴリー：後期週末 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：終日
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑事法の概要を講義する。

受講生が、刑罰権と刑罰の正当化根拠（なぜ刑罰を科すことができるか）、刑法総論（共通の成立要件）と各論（個人的法益）について、基本的な法的知識を習得し、法的推論の能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

刑事法学の勉強は、犯罪と刑罰に関する条文・判例などを覚えるのではなく、条文から厳格な理論を展開しつつ、実際上も妥当な結論を導くという、特有の思考様式が必要となる。

このような思考方法の基礎を身につけることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で学説と重要判例について研究を行う。

フィードバックは試験採点后にオンラインでアクセスできる資料として提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、刑罰論の紹介	犯罪と刑罰（刑罰の種類）、刑罰の正当化根拠
第2回	刑法の大原則：罪刑法定主義	罪刑法定主義とその派生原則
第3回	犯罪の成立要件①	行為、因果関係、結果
第4回	犯罪の成立要件②	違法性阻却事由
第5回	犯罪の成立要件③	故意・過失・錯誤、責任
第6回	修正的構成要件	未遂罪
第7回	修正的構成要件	共犯
第8回	個人的法益	生命に対する罪
第9回	個人的法益②	身体に対する罪
第10回	個人的法益③	事由に対する罪
第11回	個人的法益④	財産に対する罪（主に窃盗罪）
第12回	まとめ、試験	全体的なまとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的には、講義の説明及びレジュメと照らし合わせながら、条文を確認し、問題の所在（と学説・判例の解決）を理解すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を指定しない。

【参考書】

松原芳博『刑法概説〈第2版〉』（成文堂、2022）

佐久間修（編）『はじめての刑法学』（三省堂、2020）

【成績評価の方法と基準】

最終時限に試験評価する。（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

小型六法（「デイリー六法」三省堂など、オンラインで閲覧することも可）

【Outline (in English)】

This class aims at having a general knowledge on criminal law. That includes the study of the existing sentences and general/special criminal law.

ART300TC（芸術学 / Art studies 300）
書道史（後期週末スクーリング）
山口 恭子
カテゴリー：後期週末 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国、および日本の書の歴史を学ぶ

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三跡」等の用語など）、書作品、人物名、それらの書道史上の意義等について理解し、説明、考察することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

※Zoomで実施します。また、「学習支援システム」を使用します。中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。なお、授業終了時には主に授業内容に関するコメントを提出してもらいます。また、次回授業時には、前回の授業で提出されたコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (平安後期の書、仮名の書のさまざま)	・仮名の書美とはなにか
第11回	日本書道史5 (中世の書、近世初期の書)	・書流書道 ・寛永の三筆

第12回 まとめ 本スクーリングのまとめ
試験 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）、名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九揚『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった本で書作品の図版類を見るなどして、より多くの書にふれること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。資料を配布します。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）
 ・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）
 ・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）
 そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）平常点（30%）により評価します。試験では、主要な書道史的事項、人物、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、かつ自身の考察を深められたかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイント資料などによってなるべく多くの図版を示し、書の歴史とともに書作品の鑑賞についても講じたい。

【その他の重要事項】

・オフィスアワーとして、Zoomによる授業後、および学習支援システムで対応します。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course, you will learn the history of calligraphy in China and Japan.

Learning Goal: The goal is to master the flow of calligraphy and art in China and Japan and the basic problems associated with it.

Out-of-class learning activities: The standard preparatory survey / review time for this class is 2 hours each.

Scoring Criteria: Ratings are based on exams (70%) and regular scores (30%). The exam is based on understanding and deepening one's thoughts on the history of calligraphy, people, works of calligraphy, and the key issues of their importance in the history of calligraphy.

LIT300TC（文学 / Literature 300）
書道実技（後期週末スクーリング）
井澤 秀彦
カテゴリー：後期週末 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法
 姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

【到達目標】

中学校国語科書写における知識・技能の習得
 基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得
 中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノートを提出する。

講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ1：1くらいである。

最終授業内で、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で書いた作品の講評や通信添削課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは 楷書の基本点画	書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習（書字のきまり1）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習（書字の決まり2）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について 楷書の許容される書き方	教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴1	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴2	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習1	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習2	漢字（楷書・行書）と仮名の調和「散らし書き」の理解と習得

第11回	楷書および行書の古典	楷書の成立と唐の四大家 『九成宮醴泉銘』の学習 行書の成立と王羲之 『蘭亭序』の学習
第12回	試験およびスクーリング授業のまとめと作品等解説	試験は楷書・行書各1題 スクーリング授業のまとめと通信添削課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかりと持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『国語科書写の理論と実践』 全国大学書写書道教育学会編
 菅原書房 ¥1,000 + 税
 通教テキスト「書道教本」

【参考書】

指定なし

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、授業ノート（作品を含む）40点、試験30点

【学生の意見等からの気づき】

書道用具に関してですが、自らが中学生のころに使用していたものではなく書けないようです。筆は大筆・小筆とも使用に耐えられず（やはり小中学生用はその程度です）、固形墨は上手に磨っても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年います。将来、教壇に立つ者として、相応の書道用具をそろえてください。また、墨で服を汚さぬよう各自工夫してください。

【その他の重要事項】

持ち物

①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はNG）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（B5・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり
 ※特に筆・墨・硯・半紙は安価なものはいくつものが多い。
 上記テキストは必携のこと。

【Outline (in English)】

Practical skills and teaching methods centered on teaching junior high school Japanese language penmanship
 Starting with the posture and writing method, we will continue to study the basic handling of tools and materials, regular script, semi-cursive script, harmony between Chinese characters and kana, etc., based on the role and actual situation of penmanship in the current educational field.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（後期週末スクーリング）
持元 江津子
カテゴリー：後期週末 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化芸術と経済の関係について、思想や理論、実践、政策または施策、倫理などさまざまな側面から捉えつつ学び、身のまわりで実際に行われている文化政策や文化施策に気づき、その効果などについて考えられるようになる。

【到達目標】

- ・文化資本の意味を理解し説明できる。
- ・文化政策または文化施策の意味するところを理解し説明できる。
- ・身近な文化政策または文化施策に気づき、そのメリットとデメリットを考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。一部でZoomを通じてグループディスカッションを取り入れ、グループ内プレゼンテーション報告書の提出を求める。講義は配布するレジュメに沿って進める。毎時間アクションペーパーの記述と提出を求める。各提出物については、次週の授業においてフィードバックとしてコメントを返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	理論または思想の萌芽	アダム・スミス、ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリス
第2回	芸術支援の担い手の変遷	王侯貴族または宗教からやがて一般市民へ
第3回	芸術と国家、芸術と商業、芸術と科学	ロジャー・フライとJ. M. ケインズ、芸術のもつ公共性
第4回	革新的芸術の担い手たちの生計費問題	オメガ工房、ディアギレフパレエ団、ロンドン芸術家協会、アートギャラリー、クラウドファンディング
第5回	芸術への財政支出	国家行事、文化施設、助成金、アーツカウンシルの成立と波及
第6回	文化的価値と文化資本	文化的価値と経済的価値、文化経済学における文化資本の定義
第7回	文化遺産	インフラたりうる文化資本、経済社会への影響
第8回	文化政策または文化施策	文化芸術基本法、文化施設、指定管理者制度、生涯教育
第9回	文化芸術と市場	市場メカニズム、倫理
第10回	企業メセナ	メセナ活動、助成認定制度
第11回	文化産業の可能性	創造産業、創造都市
第12回	まとめとテスト	講義全体の振り返り 試験は論述形式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
初回講義時に指定する課題について、最終回の試験までに地方自治体のウェブサイトや広報誌などを参照して調べる。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

デイヴィッド・スロスビー「文化経済学入門」（2002年、日本経済新聞社）
 ジョン・ラスキン「芸術経済論」（1998年、巖松堂出版 または2020年、水曜社）
 橋本努編「現代の経済思想」（2014年、勁草書房）の「3-4 文化と経済」および「3-5 芸術の売買」
 小林瑠音「英国のコミュニティ・アートとアーツカウンシル」（2023年、水曜社）
 文化芸術基本法条文（http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/kihon/geijutsu_shinko/kihonho_kaisei.html）

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、最終回に実施する論述試験70%
 平常点は主にリアクションペーパーなどの提出物をもとに評価する

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムとZoomに（同時に）接続できる環境と情報機器 WordまたはPagesを操作できるパソコン

【その他の重要事項】

受講生は文化施設の利用経験があったり文化活動に関心を持っていることが望ましい（スポーツ・レクリエーション・ボランティアを含む）
 Zoomを使用してリアルタイムで授業を実施する
 講義資料は学習支援システムを通じて配布する
 リアクションペーパー等の提出は学習支援システムまたはGoogle Formを利用する予定
 学習支援システムまたはZoomを通じて出席を取る予定（ただしリアクションペーパーの提出がない場合は欠席とみなす）
 オフィスアワーについて、Zoomによる授業前後に質問を受け付けるが、リアクションペーパーでも質問可とする予定

【Outline (in English)】

・ Course outline
 This course introduces the relations between culture and economic phenomenon. The aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge of how to notice cultural policies and measures close to every student and consider effectiveness of them.
 ・ Learning Objectives
 At the end of the course, participants are expected to understand and explain the cultural capital (in the context of cultural economics), cultural polices and the administration of cultural matters, and consider what merits and demerits of them are.
 ・ Learning activities outside of classroom
 The participants are expected to use 2 hours to each of preparation and review for each lecture basically.
 The participants need to research on an assignment which will be given at the 1st lecture by the term-end examination.
 ・ Grading Criteria /Policy
 Reaction papers and short reports: 30%
 Term-end examination: 70%

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（後期週末スクーリング）
市川 佳功
カテゴリー：後期週末 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、大学で会計や税に関する科目を学習するのに役立つため、いわば事前準備としての基礎知識を身につけることを目的としています。税制度と会計制度は目的を異にするものですが、その違いを理解するため、初めに税制度について学習し、その後で会計制度について学習します。会計制度の基本を理解することで、企業の様々な活動を理解しやすくなります。そこで、企業のM&Aや倒産といった企業活動上の大きなイベントについても知識を広めていきます。

【到達目標】

学生は、各税目が何を対象に課税しようとしているかを理解することを到達目標の一つとします。そして、会計制度の目的は税制度の目的とどのように異なるのかを理解することが二つ目の到達目標です。これらの目標に到達すれば、企業が発する情報に基づき、企業に何が起きているのかについて自分なりに判断する基礎的な能力が身につくはずで、この講義を契機として、さらに税や会計の知識を深める学習に進んでいくことを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

配布資料に基づく講義形式で授業を進めていきます。授業中にとときどき質疑応答を盛り込んでいく予定です。休み時間中に学生から受けた質問で他の学生にも意義があると考えられるものについては直後のコマの授業で質問内容とその回答について紹介していきます。試験終了直後に回答のポイントについて簡単に解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	税金を学ぶ（1）	原則として個人に対して課税される所得税の基本構造を学習します。
第2回	税金を学ぶ（2）	原則として個人に対して課税される相続税の基本構造を学習します。
第3回	税金を学ぶ（3）	個人にも法人にも課税される消費税の基本構造を学習します。新しい制度である「適格請求書」についても触れる予定です。
第4回	税金を学ぶ（4）	法人に対してのみ課税される法人税の基本構造を学習します。企業会計と最も関係が深い税金です。
第5回	株式会社の資金調達方法	株式発行と債券発行による資金調達について説明します。最近生じた債券の債務不履行事件（デフォルト事件）についても触れる予定です。

第6回	企業会計を学ぶ（1）	会計ディスクロージャー（企業情報開示制度）について学習します。
第7回	企業会計を学ぶ（2）	具体的な企業情報である財務諸表の緻密な見方を学習します。
第8回	企業会計を学ぶ（3）	我が国で最も有名な企業会計のルールである「企業会計原則」を学習します。
第9回	企業のM&Aを学ぶ（1）	一般的に買収・合併と称されるM&A。まずは、会社の合併と分割について説明します。
第10回	企業のM&Aを学ぶ（2）	企業買収について事例を用いて説明します。
第11回	企業の倒産を学ぶ	企業を消滅させる方法と再生する方法について説明します。
第12回	総括的な復習と試験	学習した内容を総括的に復習し、最終試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。学習期間が2週間しかないため、学生は予習よりも復習の方を重要してください。授業でやった内容を次の講義までに自分なりの理解でノートに整理し直すことは効果的です。授業内での課題提出や宿題等を出す予定はありません。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はありません。授業で配布する資料で学習を進めます。

【参考書】

税制度については、金子宏『租税法（第24版）』弘文堂2021年11月（税込7,150円）、会計制度については、桜井久勝『財務会計講義（第24版）』中央経済社2023年3月（税込4,180円）が参考になります。ただし授業で具体的に使用する予定はありません。

【成績評価の方法と基準】

授業最終回に実施する筆記試験のみ（評価割合100%）によって評価します。計算問題は出題しません。

【学生の意見等からの気づき】

制度的・理論的な講義に現実を当てはめると理解が深まります。講義では事例を交えての解説をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。電卓も必要ありません。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to acquire basic knowledge that will be useful for studying accounting-related subjects at university. The tax system and the accounting system have different purposes. First, learn about the tax system. Next, we will learn about the accounting system. Finally, we will spread knowledge about major events that occur in corporate activities such as corporate M&A and bankruptcy.

PSY100TA（心理学/ Psychology 100）
心理学（福岡市スクーリング）
桶谷 雅人
カテゴリー：福岡市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を習得し、心理学がどのような学問かを学ぶための授業である。知覚、学習、発達、社会、臨床など心理学全体について概観し、日常生活の中での経験と関連づけ、人間の様々な心理的機能について理解を深めることが目的である。

【到達目標】

心理学の主要分野を概観し、心理学の基礎知識を取得することができる。人の心の基本的な仕組みおよび働きについて理解を深め、他者や自分の行動についての洞察力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式で、講義はおおむねテキストの当該箇所に沿った内容で行います。また、毎授業、リアクションペーパーの提出や数人の小グループでの感想の共有等を行い、それらについてフィードバックしながら進めていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学の研究対象と歴史
第2回	知覚	図と地、錯覚
第3回	学習 1	古典的条件づけによる学習
第4回	学習 2	オペラント条件づけによる学習
第5回	記憶	記憶のメカニズム
第6回	認知	言語、思考
第7回	性格	性格類型
第8回	発達	発達段階、発達課題
第9回	社会	印象形成、対人認知、同調
第10回	臨床 1	心理検査
第11回	臨床 2	心理療法
第12回	試験・まとめと解説	最終試験（小論文）、授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。テキストを参考に、主要理論や概念について自分の言葉で簡潔にまとめておくことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著 2020 『はじめて出会う心理学 第3版』（有斐閣アルマ）

<https://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641221451>

【参考書】

参考書は特に用いません。随時、追加資料として紹介します。

【成績評価の方法と基準】

第12回の試験による評価（100%）を行います。第1回から第11回までの講義内容を踏まえ、数問の小論文形式で出題します（テキスト、配布プリント持ち込み可）。

なお、出席要件を満たしていない場合、最終試験の受験資格がありません。出席要件を各自確認しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

終日3日型での開講を担当するのが初めてとなります。皆さんのご意見や感想をお伺いさせていただけたらと思います。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料やリアクションペーパー、最終試験の解答用紙等は当日配布しますので、特にありません。

【その他の重要事項】

・オフィスアワーは特に指定しません。授業前後や昼休みの時間に随時お声がけください。また、授業時にお伝えするアドレス宛にご連絡いただいても構いません。できる限りお答えしたいと思います。
 ・2022年度開講の「心理学（春期スクーリング）」および「心理学（秋期スクーリング）」とほぼ同様の講義内容になります。

【Outline (in English)】

This course is designed for students to acquire basic knowledge of the basic theories and concepts of the various fields of psychology and to learn what psychology is all about. The purpose of this course is to provide an overview of psychology as a whole, including perception, learning, development, society, and clinical psychology. It also aims to deepen the understanding of various psychological functions of human beings in relation to their experiences in daily life.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
総合特講（福岡市スクーリング）
小寺 浩二
カテゴリー：福岡市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方スクーリングの「総合特講」ということで、様々な分野を学ぶ学生に、地理学的な視点で地域を理解する手法や知識を提供し、具体的に自分たちの地域についてまとめる技術や事例を紹介する。

まず、「地理学」や「地誌学」の基礎を学び、「風土論」や「景観学」、「動態地誌」などの観点から地域や環境の変化を記述することができるような能力の育成を目指す。

【到達目標】

自分たちが暮らす「地域」の特性や「環境」の変化を理解し、記述するために必要な、「地理学」や「地誌学」の基礎知識を学び、「風土論」、「景観学」、「動態地誌」などの手法や技術を理解して、具体的な「地域誌」、「環境誌」などを記述できる能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」と「地誌学」の基礎を学び、「風土論」、「景観学」、「動態地誌」などの理論や手法を理解する。あわせて、「日本の自然誌」の講義から、日本全体の自然の特徴を理解し、自分たちの住む地域を深く理解できるようにする。

さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上や論文作成技術の基礎も習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	①講義内容概略 ②日本の自然誌概略 ③自然誌・自分誌概略	・授業計画と概略の説明、地理学・地誌学・自然誌・自分誌
第2回	①地理学と地誌学 ②日本の位置・地質 ③自分誌（小学生以前）	・地理学の中での地誌学の位置づけ ・プレート、地質構造
第3回	①地誌学の歴史・学派・方法論 ②日本の地形① ③自分誌（小学生）	・地誌学の発展の歴史と学派・方法論の説明 ・日本の地形（大地形・山地・構造地形）
第4回	①主題誌・自然誌・自分誌 ②日本の地形② ③自分誌（中学生）	・主題誌、自然誌、自分誌の概念の説明 ・日本の地形（平野・海岸）
第5回	①広域地誌・地域区分・行政界と自然界 ②日本の気候① ③自分誌（高校生）	・広域地誌の定義、地域区分の事例、行政界と自然界の違い ・日本の気候（気候区分・気候要素・気候因子）
第6回	①風土論 ②日本の気候② ③自分誌（大学生・国内）	・風土論の定義と事例 ・日本の気候（小気候・生気候など）

第7回	①景観学 ②日本の水文① ③自分誌（大学生・国外）	・景観学の歴史、定義、事例 ・日本の水文（水循環・河川）
第8回	①動態地誌 ②日本の水文② ③自分誌（1989～2006年・国内）	・動態地誌の定義と事例 ・日本の水文（地下水・湖沼）
第9回	①空間解析（都道府県） ②日本の水文③ ③自分誌（1989～2006年・国外）	・都道府県スケールの空間解析の事例 ・日本の水文（雪氷・海洋・その他）
第10回	①空間解析（市町村） ②日本の植生・土壌 ③自分誌（2007～2023年・国内）	・市町村スケールの空間解析の事例 ・日本の植生・土壌
第11回	①空間解析（町丁目） ②日本の自然災害 ③自分誌（2007～2023年・国外）	・町丁目スケールの空間解析の事例 ・日本の自然災害の事例紹介
第12回	①まとめ（地理学と地誌学） ②まとめ（日本の自然誌）	・まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の予習・復習は、原則として2時間を標準とするが、3日間の集中講義であるため、できる限り、以下のように配分して予習・復習を行う

- ① 事前学習：シラバスを参考に、講義を受ける2日以上前までに、該当する内容について予習する（合計8時間程度）
- ② 講義期間の予習・復習：講義前日を含めた4日間で、毎日2時間程度予習復習を行う（合計8時間程度）
- ③ 講義を終えた後、レポート提出のために、十分時間をかける（8時間程度）。

なお、試験以外に、「自分が住んでいる地域の自然誌」もしくは、「自分誌からみた地域や環境の変化」いずれかのレポート提出を（任意で）求めるので、そのつもりで、講義を受ける前に、文献や資料の収集と整理をしておくことが望まれる。それによって、講義内容の理解が深まり、受講後のレポートの質が向上するはずである。

ただし、受講生の環境は、様々であるため、①講義出席、②毎回の小レポート、③試験だけでも合格点となるように配点するが、レポートを提出するつもりで参加することが、講義内容を深く理解するうえで有効である。

【テキスト（教科書）】

・小寺浩二（2020）：『自然地理学概論（1）』法政大学通信教育部,346pp.

【参考書】

・長谷川典夫(1994)：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』,大明堂
 ・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』,大明堂
 ・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-,大明堂
 ・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』,古今書院
 その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①講義出席時の毎回の小レポート、②試験、③レポート（講義後提出）の結果を総合して評価する。

配点は、①40%、②45%、③15%とするが、全体の状況を見て微修正することもある。

【学生の意見等からの気づき】

地方スクーリングの特講を担当するのは、久々であるため、直接的な学生の意見などは受けていないが、講義の特性を生かして、様々な環境にある他分野を専攻している学生にもわかりやすい講義を生かして、受講生全員に得るところの多い授業としたい。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPointや映像資料を活用してわかりやすく説明する。講義を受ける上では必要ないが、レポートを出すにあたっては、基本的なパソコンの準備が必要で、3日間の予習・復習のためにも、必要な機能のあるノートパソコンを持参することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

As a "comprehensive special lecture" for local schooling, I will provide students studying various fields with techniques and knowledge to understand the region from a geographical perspective, and introduce techniques and examples to specifically summarize their own region.

First, learn the basics of "geography" and "topography", and aim to develop the ability to describe changes in the region and environment from the perspective of "fudo theory", "landscape science", and "dynamic topography".

In principle, two hours of preparation and review for each class is the standard, but since this is a three-day intensive course, preparation and review should be distributed as follows as much as possible.

① Preliminary study: Refer to the syllabus and prepare for the relevant content at least 2 days before the lecture (approximately 8 hours in total)

(2) Preparation/review during the lecture period: Approximately 2 hours of preparation/review every day for 4 days including the day before the lecture (total of 8 hours)

③ After finishing the lecture, take enough time to submit the report (about 8 hours).

In addition to the exam, students will (optionally) be asked to submit a report on either "the natural history of the area in which they live" or "changes in the area and environment as seen from their own history", so it is desirable to collect and organize literature and materials before attending the lecture. By doing so, they will be able to deepen their understanding of the content of the lectures, and the quality of their reports after the lectures should improve.

However, since the environment of the students varies, points will be allocated so that (1) attendance at lectures, (2) small reports each time, and (3) exams alone will be a passing score, but participating with the intention of submitting a report is also effective in gaining a deeper understanding of the lecture content.

The results of (1) small reports for each lecture, (2) exams, and (3) reports (submitted after lectures) will be comprehensively evaluated.

However, since it seems that the environment of the students varies, we set ①40%, ②45%, ③15%, and do not submit ③, and distribute the ratio so that only ① and ② will reach an A score.

LAW200TB（法学 / law 200）
法学特講（福岡市スクーリング）
沼田 雅之
カテゴリー：福岡市 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト（上級）コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科 DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は、対面授業とする。
- ・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後に対応し、その場でフィードバックする。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは「Web学習サービス」にてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。
第2回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第3回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第4回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第5回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第6回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	雇止め法理について学習する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（3）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第8回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第9回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第10回	派遣労働者（3）	労働契約申込みなし制度等について説明する。

第11回	高齢者	高齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキスト及び配布プリントを熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法等の労働法の基礎について自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験として論述式の筆記試験（100%）を実施します。概要は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【その他の重要事項】

- ・「労働法」を履修していることが望ましい。
- ・同時に「労使関係論」を履修するとより理解を深めることができる。

【専門領域と研究業績】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）
 <研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
 <主要研究業績>

沼田雅之ほか編著『労働法における最高裁判例の再検討』（旬報社、2022年）、沼田雅之ほか編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）、「労働契約申込みなし制度における偽装請負と「免れる目的」」法律時報94巻9号（2022年）、「プラットフォームワーカーの自由と保障—「新しい働き方」のため、社会が準備すべきこと」世界960号（2022年）、「プラットフォームワークと社会保障」日本労働法学会誌135号（2022年）、「派遣労働者の「同一労働同一賃金」の課題—派遣先均等・均衡方式を中心として—」季刊労働法272号（2021年）ほか

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

- 1. A law on non-regular workers;
- 2. The Law of the Labor Market;
- 3. A law on Employment of the Elderly;
- 4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end examination: 100%

HUG100TA（人文地理学 / Human geography 100）

人文地理学（冬期スクーリング）

前畑 明美

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：1群午前
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海の誕生とともに存在するともいわれる「島」は、一見すると水に閉ざされた小さな静的空間のように思われます。しかしながら、地球上の様々な生物や人間社会の諸活動の舞台という観点から島々を捉えていくと、そこには陸と海の普遍的な関係性に由来するダイナミックな性質や人間社会とのコラボレーションによる多様な社会的ネットワークがみられます。本科目では、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、島々の一般的性質や多様な姿を理解していくことを目的としています。

【到達目標】

全12回の授業を通して、島に関する基礎知識、および「島嶼性」という島の性質が創り出す社会的ネットワークについて理解していくことを目指します。その上で、国内外でみられる島々の興味深い実態、諸現象について、その全容がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、また現代社会においてどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを最終目標にしたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・基本的には講義形式ですが、プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めていきます。
- ・ご質問や連絡事項は、授業の前後にお伺いいたします。
- ・最終日、試験後にフィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、重要事項の説明	授業の概要説明、大学で学ぶ地理学と人文地理学、日本の暮らしと島
第2回	日本の島々と「島嶼性」	島の定義、「島嶼性」とは、島々のネットワーク
第3回	世界の島々と「島嶼性」	チリ・イースター島とアイルランド・アラン諸島
第4回	島々の自然	島の誕生、島の気候・風・水・生態と人々の対応
第5回	島々の歴史	太平洋のバード・ラッシュと現代社会
第6回	島々の文化	戦後日本の図書館運動と島
第7回	島々の産業とその現状 (1)	島々の石材産業の盛衰と「島嶼性」
第8回	島々の産業とその現状 (2)	島々の石炭産業の盛衰と「島嶼性」
第9回	日本の島嶼政策 (1)	島々の振興の歩みと全体の概要
第10回	日本の島嶼政策 (2)	公式統計データによる検証
第11回	日本の島嶼政策 (3)	架橋列島、架橋島の現状とその意味
第12回	まとめ、試験	雑誌『嶋』と現代日本の島嶼観、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってください。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】

地図帳をご用意いただくと、位置確認が容易となり役立つことと思います。参考文献は初回時をはじめ随時紹介しますが、ぜひ授業前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる島関連の一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。
 ・スティーヴン・A. ロイル、中俣均訳『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局 2018年
 ・田辺悟『島』法政大学出版局 2015年
 法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)・最終日の試験 (50%)
 質問やコメントなど積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を設けながら、ぜひ双方向的な学びをしていただける機会にしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

At first glance, islands appear to be small, quiet spaces enclosed by water. But when we look at the islands in terms of the activities of various creatures and human societies on the Earth, we can see the dynamic nature derived from the universal relationship between the land and sea, and the diverse social networks created by the collaboration between the islands and human society. The purpose of this course is to comprehend the general nature of the islands and the various island phenomena based on a variety of materials such as maps, charts, statistics, videos, and photographs.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Normal score: 50% Final exam: 50%

MAT100TA（数学 / Mathematics 100）
数学3（冬期スクーリング）
倉田 俊彦
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例えば、決められた予算で買い物をする時に「何から買おうか？」と考えるように、人は日常生活の中で何らかの計画を立てて行動することを頻繁に行います。その際に、できるだけ得をする計画を立てることは重要であり、その作業のことを最適化と呼びます。日常で最適化の作業を行う際には、多くの場合で「大体これくらいにするよいのでは？」と感覚頼りで済ませることが多いと思います。それでも「まずまずよい計画」は得られると思いますが、「本当にベストな計画が得られているのか？」確信を持つことはできません。これに対して、講義では、数学を使って「ベストな計画」を確実に発見する手法をいくつか紹介します。こうした手法の重要性は明らかですが、実際に、「路線の検索」や「人工知能におけるニューロンの調整」など生活の様々な場面で無意識のうちに恩恵を受けていることも多く、日常と結びついた視点から数学を捉え直す機会をもつことも目的の一つとなっています。

【到達目標】

最適化のための数学といっても、扱う問題の特徴によって多様な内容が存在します。そこで、講義では、あまり複雑にならない範囲で以下の典型パターンに限定して基礎から確認していきます：（1）幾つかの組合せ論的な計画問題に対して、動的に最適化を実現する解法を実行できるようにします。（2）1次式を上手に利用するだけで解決できる問題が沢山あります。これに対して、小規模な問題に対しては「グラフの形状を分析して答を導く方法」を実行できるようにし、大規模な問題に対しては「コンピュータを使って最適化を行うアルゴリズム」の概要を把握できるようにします。（3）1次式以外の一般の式を必要とする最適化の問題に対して、「微分の基本的な計算を利用して答を導く方法」を実行できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で一方的に説明するだけではなく、受講者が実際に手を動かして説明した内容を確認する部分もあります。（PC上でプログラムの動きを確認する内容もありますが、こちらで動作させる様子を眺めて済ませますので予備知識は必要ありません。）状況を見ながら説明のスピード・難易度を調整する可能性があります。また、提出された練習問題の解答に関連して、有益な情報は講義の中で紹介しフィードバックするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	最適化の例(1)	決められた容量に「財宝を上手に詰込む計画」を立てる。
第2回	最適化の例(2)	決められた予習時間で「試験で高得点を取る計画」を立てる。
第3回	最適化の例(3)	路線図を見て「最も安上がりで移動する経路計画」を立てる。
第4回	1次式と最適化(1)	1次式を使って「全関数に共通する取扱いの基礎」を復習する。
第5回	1次式と最適化(2)	1次式のグラフの形状から「工場の最適な生産計画」を立てる。

第6回	1次式と最適化(3)	シンプレックス法の計算実験を観察して、その重要性を確認する。
第7回	微分と最適化(1)	微分の計算の意味と基本的な使い方を学ぶ。
第8回	微分と最適化(2)	四則演算と指数関数で作られる関数の微分の計算を覚える。
第9回	微分と最適化(3)	経済学における最適化の問題に微分の計算を利用する。
第10回	微分と最適化(4)	多変数関数の微分の考え方や基本的な計算方法を学ぶ。
第11回	AIと最適化	多変数関数の微分をAIの最適化に応用する手法を解説する。
第12回	試験	授業内で扱った数学の基礎を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提出用の練習問題や期末試験の準備用の問題について、授業時間外の予習・復習で取り組む必要があります。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配付します。

【参考書】

特に指定はありません。有用な情報があったときは授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）第1～3回の内容に関する練習問題（40%）第4回以降の内容に関する試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新規担当の科目につき過去にアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

An elementary introduction to the theory of mathematical optimization is given in accordance with the topics below: (1) The method of dynamic programming is demonstrated to solve a number of typical combinatorial problems. (2) The problems of linear optimization are focused on, to which we first apply a naive algorithm based on a geometric approach. We then compare it with more sophisticated algorithms such as the simplex method and the inner method. (3) The problems of non-linear optimization are explained mainly in the context of economics and machine learning, for which a brief review of the basic knowledge of differential calculus is given.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（1）（冬期スクーリング）
ウォルター・カズマー
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning and using common English that students can use when talking about trends.

【到達目標】

Learning useful English for talking about current trends

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

role-playing, group discussions.

Feedback will be given in class or by email for selected assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Getting to know each other
	K pop BTS goes in the service	introducing course contents
	Starbucks- the 3rd place	First topic - doing your duty
第2回	Pets in the workplace	Learning about coffee culture
第3回	Subway-sandwich company origins	remote working
第4回	Lose a tie, save energy	reducing stress
第5回	Zara- fast retailing	how pets help us socialize
第6回	Google translate adds more languages	Why sandwiches matter
第7回	Red Bull- energy drinks	all about bread
第8回	Remote learning	healthy eating
第9回	Furniture for gamers	looking at energy sources
第10回	Quiet quitting	energy alternatives
第11回	Presentations	how fast retailers work with trends
第12回	Exam	translating for meaning when translations go wrong- decorative English
	Wrap up	energy drink origins
		sports tie ups
		problems with remote learning
		working remotely
		social anxieties
		gaming culture
		E-sports
		learning games
		changing jobs
		job dissatisfaction
		Exam
		review of units covered

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習学習は合わせて1時間を標準とします。

daily homework

【テキスト（教科書）】

N/A

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

class participation 50%

essay/presentation 25%

homework 25%

【学生の意見等からの気づき】

More bilingual material

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, and smartphone or tablet

【Outline (in English)】

This class covers all four language skill areas (reading, writing, speaking and listening) and students are required to participate in group and pair discussions.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（2）（冬期スクーリング）
高井 美紀子
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語の実践的な諸技能を学ぶとともに、クリティカル・シンキングの技法も学びます。毎回の授業で、現代社会の様々なトピックを扱った500語程度の英文を2つ程度読み、ヴォキャブラリーやイディオムなどの様々なアクティビティに取り組んだ後で、批判的思考を養うためのライティング・アクティビティに取り組みます。学習の中心となるのは、英文エッセイのリーディングです。100分の授業で500語程度の英文エッセイを2つ読みこなすには速読が不可欠です。本授業では、5文型などの英文構造の理解を徹底し、パラグラフ・リーディングの技法を身に着けることにより、より正確で効率的な英文読解能力を獲得することを目指します。速読はリスニング・アクティビティと並行して行います。最終的に、話すスピードに近い速さで英文を読めるようになることを目指します。学生が、現代世界においてあらゆる情報リソースの宝庫である英語を有効活用して21世紀世界を生きていく力を涵養することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業を通して学生は以下の能力を身に着けます。

- ①英文5文型の理解を徹底させ、リーディングやライティングに活用できるようにする。
- ②パラグラフ・リーディングの技法を身に着け、パラグラフの中心となる中心センテンスやキーワードを意識しながら文章を読む。
- ③無限にあるヴォキャブラリーやイディオムを効率よく覚えるためのイメージ力を身に着ける。
- ④喋るスピードに近い速さで英文を読めるようになる。
- ⑤英文ライティングの基本を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。速読の授業ですので、授業内で読解のための時間はとりません。そのために準備学習が必須となります。授業の最初に、準備学習として取り組んだVocabulary List.の単語の意味をチェックし、リスニング・アクティビティに取り組み、読解チェックを行います。読解後にイディオムや内容理解のアクティビティを行い、最後にライティングに取り組みます。演習形式ですので、学生の積極的な授業参加が求められます。

最終授業（第12回授業）で行う筆記試験のフィードバックは、試験の後に講評において行います。試験内容や採点の基準について解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や、授業準備のやり方、評価方法などの方針説明。
第2回	1. A Dream for all Nations 2. Brain Drain	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。

第3回	3. Cosmetic Tourism 4. Changing Breakfasts	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第4回	5. Modern Love	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第5回	6. Special Need 7. Culinary Diplomacy 8. 2nd-and 3rd-Generation Immigrants	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第6回	9. Happily Single 10. The Magic of the Smartphone	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第7回	11. Mindfulness	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第8回	12. Marriage 13. The Power of Learning a Foreign Language	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第9回	14. Sleep 15. The Space Business 16. Passport Strength	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第10回	17. Fake News	リスニング、英文速読、読解確認、イディオム練習。
第11回	Writing Training	テキストで学習した内容をもとに英文ライティング演習を行う。学習の定着度を確認するための筆記試験（60分）、筆記試験の内容・採点基準の解説、質疑応答等（40分）
第12回	筆記試験 試験フィードバック	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、準備学習を重視します。準備学習として、授業で扱うUnitのVocabulary List.に出ている単語を全て辞書で引いて意味を調べて授業に臨んでください。また、各Unitのリーディング記事にも目を通しておいください。準備学習に必要な時間は1時間を標準とします。復習は特に指定しません。

【テキスト（教科書）】

【テキスト】 Reading for Bright Future

【著者】 Abhay Joshi

【出版社】 南雲堂

【出版年】 2023年

【価格】 2640円

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（40%）、筆記試験（60%）の合計100%で評価します。全授業12回のうち8回以上出席していることが筆記試験受験の条件となります。遅刻や早退は0.5コマとしてカウントされます。

【学生の意見等からの気づき】

昨年は、扱ったテキストの英文が長すぎたために授業時間内にリーディングを読み終わらずに抜粋する形で読みました。今年は適度の長さの英文を選び、予習を必須として、テキストを全部読み終えることを目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業開始前までに各自テキストを購入しておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire practical skills in English language as well as critical thinking skills. Students read two essays with around 500 words in each lesson and do exercises in vocabulary, idiom, and writing. The core of learning in the class is rapid reading. In order to achieve this goal, this course introduces comprehensive understanding of the basic structure of English sentence, especially the thorough understanding of 5 sentence patterns, and skills in paragraph reading to students. These learnings enhance the development of students' skill to read English articles both with accuracy and rapidity.

The goals of this course are to

- ① be able to read English passages at a pace close to a speaking pace.
- ② get better understanding of 5 sentence patterns and make use of them in reading and writing.
- ③ learn skills in paragraph reading and be able to read articles noticing a key sentence and key words in each paragraph.
- ④ have image of words and idiomes to increase vocabulary.
- ⑤ learn the basic skills in English writing.

Before each class meeting, students will be expected to have read through a reading text in each unit and check the words in Vocabulary List. using a dictionary. Your required study time is at least an hour for each class meeting.

Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LAW200TB（法学 / law 200）
法学特講（冬期スクーリング）
笹久保 徹
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則を解説するものである。商法総則は企業法の総論的な部分であり、学生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。学生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

- ・商法を学ぶために必要な基礎的な概念や法理念を理解する。
- ・商法総則の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法総則を学ぶ学生がほとんどであるから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。

本授業は、教室での対面授業である。フィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、 商法の意義と法源(1)	ガイダンス及び商法の意義について解説する。
第2回	商法の意義と法源(2)	商法の法源について解説する。
第3回	商人と商行為 (1)	商人について解説する。
第4回	商人と商行為 (2)	商行為について解説する。
第5回	商号 (1)	商号の概要について解説する。
第6回	商号 (2)	商号の譲渡等について解説する。
第7回	商業登記	商業登記について解説する。
第8回	商業使用人	支配人等について解説する。
第9回	代理商	代理商について解説する。
第10回	営業(1)	営業の概要について解説する。
第11回	営業(2)	営業の譲渡等について解説する。
第12回	商業帳簿、最終試験	商業帳簿について解説する。最終試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回につき、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『商法総則・商行為法』（三省堂、2023）本体価格 不明
【2023年10月発売予定】

【参考書】

神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」(別冊ジュリストNo.243)(有斐閣、2019年) 本体価格2500円

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、最終授業内の最終試験によって行う(最終試験100%)。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

学生が準備すべき機器等は特になし。

【その他の重要事項】

学生は、最新の六法を用意すること。

テキスト及び参考書は、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業では、毎回、授業内でレジュメや資料を配布する。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 100%.

LAW200TB（法学 / law 200）
法学特講（冬期スクーリング）
青柳 由香
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では法学の中でも「経済法」と呼ばれる分野を扱う。特に本講義では、経済法の基礎について勉強をしたのちに、特定の論点をいくつか取り上げ、より深い知識・理解を得ることを目的とする。経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義では、経済法の意義、歴史等を踏まえつつ、経済法の中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争をはじめとする秩序の必要性について認識を得る。

【到達目標】

経済法・独占禁止法の歴史的経緯を理解し、基本概念を習得している。事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。授業で扱う論点を通じて、事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では経済法の概観を紹介したうえで、いくつかの規制類型・先端的議論について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

授業は対面で実施する。授業中に受講生の発言を求めることがある。受講生の積極的な参加を期待する。

授業では、配布する資料と教科書を活用されたい。受講生には各日ごとにリアクションペーパーの提出を求める。ここには質問や意見等を記述されたい。これに基づいて、授業中にフィードバックを行う。また、リアクションペーパーを通じて見られる学生の理解の状況に応じて、スケジュールを多少変更する可能性がある。

また、実務家をゲストスピーカーに迎えての講義を1回予定している。先方の都合で実施スケジュールが変更になる場合、授業スケジュール内で調整を図る。変更の連絡は授業内で行うので注意されたい。先方のやむを得ない事情等でキャンセルになる場合には、通常の授業を実施する。

※すでに経済法の基礎的な内容を履修済みの学生にとっては、本講義はより先端的な内容を履修する機会となる。

※2021年に本講義担当者が実施した授業と同一内容になるので、履修済みの学生は受講しないようにしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	独占禁止法・経済法の役割
第2回	独占禁止法の歴史	沿革を知る
第3回	独占禁止法の体系	独禁法の全体像を知る
第4回	独占禁止法の体系	ゲストスピーカーの実務家による講義
第5回	再販売価格維持行為と知的財産権1	知的財産権と独占禁止法の関係

第6回	再販売価格維持行為と知的財産権2	規制対象としての再販売価格維持行為
第7回	再販売価格維持行為と知的財産権3	著作物再販制度
第8回	再販売価格維持行為と知的財産権4	新聞特殊指定
第9回	プラットフォームと独禁法1	問題の所在、プラットフォームビジネスの特殊性
第10回	プラットフォームと独禁法2	事例の検討
第11回	プラットフォームと独禁法3	近時の動向
第12回	期末試験	期末試験と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第9版補訂、2022）→法改正に対応している

※過去に経済法に関する講義を受講した際に用意した独占禁止法の教科書が数年内のものであれば足りるので、新たに購入する必要はない。ただし、近年の法改正（特に手続法）に対応していないことに注意されたい。新たな法改正で導入された確約手続きについて授業で触れる可能性が高い。

【参考書】

授業中に指示する。ウェブ上の資料等を活用したい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%。

期末試験は第12回の冒頭で実施し、授業内でフィードバックを行い、理解を深めたい。期末試験は論述式、持ち込み可、を予定している。授業ではリアクションペーパーの提出を求め、平常点の対象とする。受講生の経済法の理解の定着を図るため、小テストを実施する可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は昨年度とは異なる内容となっているが、過去の一連のアンケートを踏まえ、事例や資料を活用しつつ、受講生の理解を深める工夫を継続し、より良い授業を実施したい。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

We will learn about the field of law called "economic law". In particular, this lecture aims to gain a deeper knowledge and understanding of some specific issues after studying the basics of economic law.

Economic law is an academic concept that includes multiple legal systems related to economic order in the marketplace. In this lecture, we will focus on antimonopoly act, which is the core of economic law, taking into account the significance and history of economic law. The Antimonopoly Law is a law that aims to ensure and promote fair and free competition in the market. For this reason, the Antimonopoly Law is also known as the "Economic Constitution".

Through the lecture, we will understand the basic contents of the Antimonopoly Law and examine the ideal form of "fair competition" in business activities. Students will gain an awareness of the need for order, including fair competition, in the marketplace.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination: 79%, in class contribution (&quiz if any): 30%

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
論文作成基礎講座 I（冬期スクーリング）
園 明美
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学科の専門科目では、レポートの執筆に取り組まなければならない。さらに、日本文学科の学業の集大成としては卒業論文の執筆がある。これらのレポートや論文作成に欠かせないのが、先行研究を踏まえるという行程である。本科目では、レポートや論文を執筆する上で基礎作業となる先行研究の検索方法と、収集した文献の活用方法について、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

1. レポート、論文を執筆する上で、先行研究を踏まえることの重要性を理解する。
2. インターネットを利用し、先行研究（研究書、雑誌論文）の検索方法を、複数習得する。
3. 先行研究の引用方法と、研究書、雑誌論文名の記載方法を習得する。
4. 大学図書館等の専門図書館の活用方法について理解する。
5. 収集した先行研究の整理・利用法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、レポート・論文を執筆する上で、テーマを設定することや先行研究を踏まえることの重要性を講義する。次に、法政大学図書館の利用方法を実地で習得する。同時に、情報自習室において、インターネットを利用した先行研究の検索方法を実習形式で学ぶ。あわせて、収集した文献の利用方法等も実習形式で学ぶ。
 なお、授業中に提示する課題については、受講生諸君の提出後に解答例を配布し、分析のポイント等を解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	レポート、卒業論文執筆に向けて（1）	良いレポート・論文を書くために大切なことは何か、考えてみよう。
第2回	レポート、卒業論文執筆に向けて（2）	文献検索の準備段階としての、テーマ設定の重要性を理解する。
第3回	大学図書館を利用しよう	法政大学図書館の利用ガイダンスを行う。
第4回	レポート、卒業論文執筆に向けて（3）	レポート・論文の形式について理解する。
第5回	基礎文献を知る	辞書類・テキストの種類や利用法について理解する。
第6回	文献検索の方法（1）	NDL-OPACを利用方法を学ぶ。
第7回	先行研究の整理	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）の整理・活用法について理解する。
第8回	文献検索の方法（2）	国文学論文目録データベースの利用方法を学ぶ。
第9回	文献の記述方法	文献の引用と表記の方法を学ぶ。
第10回	文献検索の方法（3）	CiNiiの利用方法を学ぶ。
第11回	レポート・論文の執筆手順	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）を利用してレポート・論文を執筆する際の基礎的な手順を理解する。

第12回 実習

自ら設定したテーマにしたがい、文献を検索し、大学図書館で入手するまでの実習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したデータベースの利用方法は、自宅のパソコンでも復習し、習熟すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

なお、習熟度を上げ、授業内容をしっかり理解するためにも、受講前に自分が興味を持つ分野（作品・作者・時代・ジャンルなど）を考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

『日本文学科のしおり』

【参考書】

なし。（授業の中で、適宜必要な文献を紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

授業中に提示する課題の完成度により成績評価を行う。配分は100%。
 なお、この授業は実習科目であるため、原則として、途中での欠席は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに寄せられたコメントの中で「具体例を示してくれたことがわかりやすくてよかった」「講師が実際に論文作成の際に使用したノート等を見せてくれたので参考になった」という趣旨のものが散見した。したがって、今年度もできる限り具体的な事例を提示するとともに、自身の経験も踏まえた事例も提供し、より実践的な学習ができるよう配慮するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室でパソコンを利用して行う。

なお、パソコンは、教室備え付けの物を使用するので、持参する必要はない。

【その他の重要事項】

本科目は基本的なパソコンの操作（インターネット・ワープロ機能）を使用した経験のある学生を対象にする。

【Outline (in English)】

This course introduces to how to look for documents for treatise writing students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Look for literature cited on the Internet.
- ・ Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

HIS100TD（史学/History 100）
日本史概説（冬期スクーリング）
古庄 浩明
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では考古学の成果から復元された日本の原始・古代社会について概観する。

受講者には当該期の概要をつかみ、考古学から見た日本の原始古代を大観してもらうことを目的とする。具体的には、人類の発生から弥生時代までと弥生時代から律令国家の成立までに分けて、二年で講義する。

【到達目標】

本年は、人類の発生から縄文時代までを対象として概観し、考古資料から得られた情報を、どのように理論化・構成して、原始の社会像を構築していくかが理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業です。

・授業形態（講義）対面授業は教科書とビデオを見ながら講義ノートを作成していきます。

・講義ノートは授業中紙媒体で配布しますが、「古庄浩明の講義ノート <http://wacoffee.blogspot.jp/>」でも法政大学の授業分をダウンロードできます。データにはプロテクトがかけられています。プロテクトキーは授業中にお知らせします。

・教科書は大学指定の生協でご購入できます。お早めに入手なさってください。

・質問等に対するフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本列島への道のり	人類の出現 人間の証明
第2回	猿人・原人	最古の人類 狩のはじまり
第3回	旧人・新人	ネアンデルタール人 文化のビッグバン 出アフリカ
第4回	先土器時代	日本の化石人骨 明石原人の今
第5回	先土器時代	岩宿遺跡の発見
第6回	先土器時代	環境の復元と人々の生活 石器の特徴と編年 ねつ造事件の顛末
第7回	先土器時代	先土器時代の終わり 土器の始まり
第8回	縄文時代	縄文時代の始まり 縄文土器の由来 最古の土器の発見
第9回	縄文時代	時代区分と変遷 年代測定法
第10回	縄文時代	縄文時代の生活基盤 貝塚は縄文の宝箱

第11回	縄文時代	縄文農耕論と縄文のムラ 流通ネットワーク 衣服と装身 精神文化と埋葬
第12回	縄文時代 試験	縄文の終わり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや参考文献などを事前に読んで予習・復習することが望ましい。紙媒体で配布する講義ノートや「古庄浩明の講義ノート」から所定の講義ノートを事前にダウンロードして予習・復習に活用することが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

「古庄浩明の講義ノート」 <https://wacoffee.blogspot.com/>

【テキスト（教科書）】

古庄浩明2013『「日本」のはじまり』（第2回改訂発行）和出版 3000円＋税（生協で販売）＊必ず改訂版をご購入ください。

【参考書】

古庄浩明2012『朝日おとなの学びなおし日本史 考古学が解き明かす古代史』朝日新聞出版社 1400円＋税

教科書の参考文献欄を参照。

古庄浩明の講義ノート <https://wacoffee.blogspot.com/>

【成績評価の方法と基準】

平常点50％と試験50％で評価

【学生の意見等からの気づき】

- ・プリントを配布して授業を進めるが、すこし作業しないと眠くなるという意見が出たので、穴埋め部分を作った。
- ・対面授業での説明漏れ、解説の間違いを極力減らすため、事前に収録した授業のYouTubeを対面授業でも活用する。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・講義ノートのプリント・できたらネット環境

【その他の重要事項】

世界史的視野に立った日本史を心がけて授業を進める。高校の世界史・日本史の教科書を理解していることが必要です。

- 1.教科書を購入し、できたら下記のアドレスからノートをダウンロードしてください。ノートは紙媒体でも配布します。教科書は大学の生協で購入できます。必ず改訂版をご購入ください。
2. ノートは{<http://wacoffee.blogspot.com/>}にアクセスしてダウンロードすることもできます。プロテクトがかかっています。パスワードは授業中にお知らせします。

【Outline (in English)】

This lecture will learn about Japan's primitive and ancient history from the archeology. The purpose of the lecture is to know when and how Japanese society was created.

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）
人文地理学演習（冬期スクーリング）
佐々木 達
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、卒業論文の作成にとって必要な知識、手法の獲得を目指して、ゼミ形式で実施します。学生が主体となって、各自のテーマを決めたうえで、発表とディスカッションを行います。地理学の学術論文（地理学評論、経済地理学年報、人文地理、季刊地理学など）から各自の関心に基づいて選び、内容を報告したうえで、卒業論文に必要なスキルを身に付けることが目的です。

【到達目標】

地理学の学術論文の講読を通じて、各自の研究のアイデア、問題意識の醸成、既存研究の踏査方法、研究手法、図表の作成方法を獲得し、より良い卒業論文の作成できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式で行います。学生は授業内での発表、議論を行います。本演習受講者は、あらかじめ地理学の査読付き学術論文である地理学評論、経済地理学年報、人文地理、季刊地理学、地理科学、地学雑誌の6誌の中から、関心のある論文を選び、レジュメを作成しておくこと。レジュメの作成の際には、①論文の紹介、②取り上げた論文へのコメントと自分の研究テーマとの関連性の記述、③自分の研究テーマの紹介（問題意識と研究目的）を書くこと。レジュメの書式は自由とするが、A4要旨で最大4ページにまとめること。初回時に、各自が取り上げる論文を取りまとめ、受講者に共有したうえでゼミを進めていくこととします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、発表論文の決定、発表の順番の決定、発表方法に関するガイダンス
第2回	レジュメ、卒業論文の作成方法	論文の読み方、レジュメの作成方法、卒業論文の心構えについて学習する。
第3回	資料の作成方法	文献・資料の探し方、図表の作り方を学習する。
第4回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表①	学生による発表とディスカッション
第5回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表②	学生による発表とディスカッション
第6回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表③	学生による発表とディスカッション
第7回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表④	学生による発表とディスカッション
第8回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑤	学生による発表とディスカッション
第9回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑥	学生による発表とディスカッション
第10回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑦	学生による発表とディスカッション
第11回	学生による論文紹介と卒論テーマ発表⑧	学生による発表とディスカッション

第12回 まとめ

学生発表についての講評、学生間の議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の目的は、各自の卒業論文のテーマの確定と研究方法の獲得です。学術雑誌論文を紹介する前段階として、必要な論文や資料を収集し、「先行研究のまとめ」と「自らの研究目的」を必ず含めた発表にしてください。発表形式は、レジュメもしくはパワーポイントで行います。本授業の準備・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編(2020)『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房
 経済地理学会編(2018)『キーワードで読む経済地理学』原書房
 竹中克行編(2015)『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

成績は、ゼミでの発表内容と討論への参加姿勢に基づいて、発表50%、討論50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各自、「自分ごと」として積極的にゼミの場を活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

学生の発表については、パワーポイントでの発表を原則とします。PCやタブレットを準備してください。ただし、電子機器を持参できない学生は個別で対応する。

【その他の重要事項】

本演習は、受講前に各自が学術雑誌論文を読んで、自分の研究テーマを深めておくことが前提です。限られた時間で最大限の学習効果を引き出すために、事前学習に労力を惜しまず取り組んできてください。事前学習ができていなかった場合、本演習の学習効果はほとんど期待できません。

【Outline (in English)】

Course outline

The Human Geography Exercise aims to acquire the knowledge and means necessary for a graduation thesis created in the 4th grade. Students make presentations, give their opinions, and have discussions as they participate in the exercises. The purpose is to acquire the skills necessary for the graduation thesis at the stage of selecting and reporting the content based on each interest from geography academic papers.

Learning Objectives

The goals of this course are to acquire the knowledge and means necessary for a graduation thesis

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

・ Experiment/Practice (one-credit)

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

presentation of graduation thesis : 50%, discussion: 50%

BSP100TB（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）
総合特講（冬期スクーリング）
川邊 安彦
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023年秋を迎えて為替変動による深刻な経済影響への悪化や日常生活では直接影響のあるガソリン代高騰などCOVID-19及び国際経済がロシア・ウクライナ問題による分断が切欠の直接影響が最近ニュースとなっています。この授業では、社会人スクーリングの特性を生かして社会環境を敏感に評価できる手法及び視点を持てる講義を行います。本講義は、グローバル視点において社会人における経営や収益向上に必要なノウハウを学び、実際に活用できる様になる導きの場と考えています。

【到達目標】

- ①グローバル環境下におけるリスクマネジメント視点のビジネス運営について現実の社会で実際に発生している課題から今後の社会人として必要な実行方策を企画・実行案策定までができるように具体的なステップ及び内容を学びます。
- ②現状分析を評価する手法やオポチュニティとリスク視点で対応策の立案を導く手法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習：各回の講義を熟読し、関係する課題の情報を各自まとめ、理解し疑問点を列挙しておく。
 事後学修：講義内で説明した内容・質疑応答を各自の調査ノートに記述し、整理分析を行う。疑問が有る場合は、次回の講義の最初に質問として教員へ提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日程管理手法①	英国の論文”PERT”の説明
第2回	日程管理手法②	各自の事例（過去の経験）を示し、課題分析手法を学ぶ
第3回	組織論の効果①	組織事例からのビジネス評価を理解する
第4回	組織論の効果②	各自発表の事例としての個々の組織論についての長所・短所を学ぶ
第5回	基点原価とあるべき原価の設定	基点原価と目標原価から目標収益の設定手法を学ぶ
第6回	目標原価と目標収益の関係	目標収益を得るための目標原価設定を学ぶ
第7回	投資とオポチュニティの考え方	投資の効率性とオポチュニティを得る方策を学ぶ
第8回	目標収益実現に向けた方策検討（NPVの活用法）	NPVとトルネードチャートを活用したりリスク・マネジメント手法を学ぶ
第9回	現状のSCMとあるべきSCMの理解	貿易におけるHSコードとFTA/EPAの活用による収益最大化を学ぶ

- 第10回 ビジネスにおける該当政府機関との交渉の重要性 具体的な事例紹介：タイ政府BOI庁の事例など
 要望により中国・韓国・メキシコ・イギリス・スペインの事例も紹介
- 第11回 ビジネスにおける該当国の大学等の教育機関との連携の必要性 具体的な事例紹介：タイの事例など
 要望により中国・メキシコ・イギリス・スペインの事例
- 第12回 試験とまとめ 講義理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間以上を標準とします。パソコン・携帯等でネット情報などの媒体から最新の時事情報と過去の実績を比較できる正しい情報（国際ニュース・時事的な論理的な考え方を入手し、考え方の基準値を設定後、講義内容と比較してください。注意点は、自らの個人的な意見は必要ありません。本講義では、グローバルビジネスについて学んでいますので個人的な勝手な考え方を除きます。

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each. Your correct information that allows you to compare the latest current affairs information with past achievements from media such as Internet information on PCs and mobile phones (Please obtain international news and logical current affairs thinking, set a standard value for thinking, and compare it with the lecture content. Please note that you do not need your own personal opinion and ideas.

In this lecture, we are learning about global business, so we will exclude personal opinions and ideas.

【テキスト（教科書）】当日、講義資料を配布します。

【参考書】

必ずネット情報などを参考に講義内容を参考にし、事前調査（予習）を行ってください。

【成績評価の方法と基準】

第12回目の講義時の試験成績100点満点とし、60点以上が合格となります。

試験については、個人の意見では無く、最新の正しい時事情報と講義で説明した評価手法に従った考え方で論理的な見解が必要です。個人的な考え方または、個人的な論理は、評価できませんので注意ください。

事務局側が、併せて出席率も加味していますので規定以上の欠席にはご注意ください。

The test score at the 12th lecture is 100 points, and 60 points or more will be passed.

The examination should not be an individual opinion, but a logical view based on the latest and correct current information and the evaluation method explained in the lecture. Please note that personal ideas and personal logic cannot be evaluated.

The secretariat also takes into account the attendance rate, so please be careful not to be absent more than the stipulated.

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマ・内容を参考に事前調査（予習）による学びも重要と考え、個々の受講生による気づきがあれば、授業内でフィードバックや質問もしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン・携帯等の通信機器で講義時に内容確認して頂ければ、理解度が深まると考えています。自由に講義内で情報確認し、教員へ質問・フィードバックを直ぐに行ってください。

【その他の重要事項】

社会人学生の実務での課題について本講義と内容や事象が直接関係していることについての質問は、挙手の上で他の学生に配慮（特に質疑・応答に関する時間）し、講義参加学生全員に理解（共有）できる質問の仕方教員へ問いかけてください。

尚、回答については即時可能な場合と調査・確認後、翌日に説明できる場合があります。

If you have any questions about the content or items of this lecture regarding the practical issues of working students, please raise your hand, give consideration to other students (especially time for questions and answers), and ask questions in a way that can be understood (shared) by all students participating in the lecture.

In addition, there are cases where a response can be made immediately, or in cases where an explanation can be given the next day after investigation and confirmation.

【Outline (in English)】

In the autumn of 2023, the direct impact of COVID-19 and the division of the international economy due to the Russia-Ukraine problem, such as the deterioration of the serious economic impact due to exchange rate fluctuations and the soaring gasoline price that directly affects daily life, has recently been in the news. In this class, we will give lectures that allow students to have methods and perspectives that can sensitively evaluate the social environment by taking advantage of the characteristics of adult schooling. We believe that this lecture is a guiding place for working people to learn the know-how necessary for management and profit improvement from a global perspective and to actually utilize it.

MAN200TF（経営学 / Management 200）
経営学特講（冬期スクーリング）
山田 裕美
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、経営や組織の運営、成果を向上に重要な多様な領域に焦点を当てています。本講義では、組織内部のマネジメント、戦略など外部環境に対するマネジメントなどの経営学の基礎となる部分を深め、経営について実践的、戦略的なアプローチを身につけること、また新しいビジネスアイデアを発展させるためのアントレプレナーシップの定義や特徴を理解し、イノベーション、ビジネスの成長を学ぶことを目的としています。

【到達目標】

・経営学の多様な側面、枠組みを活用して論理的に問題を分析し、経営に対する総合的な視点を養う。組織内のマネジメントや経営戦略分析の戦略的なアプローチを身に付け、実務に即して理解することができる。
 ・ビジネスにおける倫理的な問題、社会的責任を考慮した経営の重要性を理解しつつ、アントレプレナーシップの定義や特徴を理解し、新しいビジネスアイデアを発展させるためのプロセスを活用することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な理論や必要な知識を伝達するレクチャーと実践的な活動に結びつくグループワークやワークショップを組み合わせ、学生参加型の体験的な学習を重視します。課題については、提出日以降の授業内で講評など、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営学の基礎、歴史①	科目に対するオリエンテーションと経営学の基礎となる定義、主要な理論
第2回	経営学の基礎、歴史②	科目に対するオリエンテーションと経営学の基礎となる定義、主要な理論
第3回	戦略：経営戦略、競争戦略①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第4回	戦略：経営戦略、競争戦略②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第5回	組織：組織構造、組織行動とリーダーシップ①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第6回	組織：組織構造、組織行動とリーダーシップ②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第7回	マーケティング：マーケティング戦略、市場分析①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第8回	マーケティング：マーケティング戦略、市場分析②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第9回	アントレプレナーシップ：アントレプレナーシップの定義、ビジネスアイデア、ビジネスモデル①	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第10回	アントレプレナーシップ：アントレプレナーシップの定義、ビジネスアイデア、ビジネスモデル②	テーマについて、基礎となる定義、主要な理論とグループワーク
第11回	経営倫理と社会的責任 グループ発表、期末試験①	経営学の基礎となる定義、主要な理論 グループ発表、期末試験
第12回	経営倫理と社会的責任 グループ発表、期末試験②	経営学の基礎となる定義、主要な理論 グループ発表、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習学習、宿題は各2時間を標準とします。授業内で使用するテキストやケースがある場合には、事前に配布をしますので、よく読んでおくこと。授業内のグループワークで実施した課題に対して、事後にふりかえりのための小レポート等提出を復習、宿題とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は適宜配布します。

【参考書】

加護野忠男・吉村典久（編著）「1からの経営学（第3版）」2021
 その他、アントレプレナーシップに関する資料等、適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（出席、授業での貢献、小レポート） 45 %
 2. グループワークでの課題、発表 25 %
 3. 定期試験（最終試験もしくは期末レポートを課します） 30 %
 6日間合計12コマ（1日2コマ×6日）のうち8コマ以上(2/3以上)の出席が必要です。
 基本的に理由に関わらず、欠席の場合は、欠席として取り扱います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、新担当者の為、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

○パソコンを用意しておくこと望ましい
 ○インターネット環境があると望ましい
 ○レポートを書くためのマイクロソフトオフィスWORD等の文書用ソフト、プレゼンテーション資料作成のためのパワーポイント等スライド作成用ソフトがあると望ましい。

【Outline (in English)】

Business Administration focuses on diverse areas that are important to management, the operation of organizations, and improving results. In this course, students will deepen their understanding of the fundamentals of business administration, including management inside organizations and management of the external environment, such as strategy, to acquire a practical and strategic approach to management, as well as the importance of entrepreneurship in developing new business ideas, innovation, and business growth.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（1）（表計算）/コンピュータ入門（1）（表計算）（冬期スクーリング）
高田 美樹
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

【到達目標】

ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、情報を収集し、集計してレポートを作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

実習室のパソコンを利用して表計算、文書作成、インターネットからの情報収集を行います。

パソコンの初級者を対象として基本操作から始めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、毎回の講義で積み上げていきます。毎回の講義を一つひとつ身につけていきましょう。文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。普段から実務等で既に文書作成や表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。Classroomを利用して、講義資料を配布し、課題の提出を行います。課題のフィードバックもClassroom上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作と電子メール操作	アプリケーションの起動、ファイルの整理などの基本操作とメールの仕組みを学びます。
第2回	表計算による表の作成	罫線などで表を整え、データを入力し、表を作成します。
第3回	表計算による計算	表計算の計算式について学びます。
第4回	表計算による関数（1）	表計算でよく使う関数を学びます。
第5回	表計算による関数（2）	少し高度な表計算の関数を学びます。
第6回	インターネット情報検索	インターネットからデータを収集する方法を学びます
第7回	情報の可視化	グラフを作成し、収集したデータを可視化します。
第8回	文書の作成	長い文書を作成するときに必要なスキルを学びます。
第9回	レポートの書き方	アカデミックライティングの詳細を学びます。
第10回	アプリケーションの連携	表計算により作成したグラフを取り込んでレポートを作成する方法を学びます。
第11回	最終課題とまとめ	収集したデータを可視化・集計して考察します。

第12回 最終課題とまとめ これまで学んだことをすべて利用して最終課題としてレポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を確認し、内容を把握してください。講義終了後は、その日の目標を完成させてください。課題は2つあります

1. Excel ファイルの作成（前半）
 2. データ解析レポートの作成（後半）
- 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提供します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間課題40% 最終課題60%とします。毎回授業に参加して、各回の実習をこなし、積み上げていくことが大切です。

【学生の意見等からの気づき】

前半のExcelの関数部分は、もともとのスキルの差に対応することが求められており、練習問題などで対応します。

【学生が準備すべき機器他】

教室のパソコンを利用します。

【その他の重要事項】

実習室のパソコンにログインするためのIDとパスワードが配布されます。

ログイン情報を教室に持参してください。

【オフィスアワー】

授業時間内に積極的に質問してください。時間外には、メールで対応します。

miki.takata.43@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

(Course outline)

You will learn information literacy through word ,Excel, and the Internet.

(Learning Objectives)

You can write your report with collecting data from the Internet.

(Learning activities outside of classroom)

It takes about 2 hours.

(Grading Criteria /Policy)

40% intermediate assignment; 60% final assignment.

ECN100TA（経済学 / Economics 100）
経済学（冬期スクーリング）
関口 駿輔
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして必須の考え方を習得する。家計・企業・政府が経済活動の判断を行う基準は何か、市場の取引により無駄のない資源配分が実現するのか、無駄がある場合に必要な対処は何かというポイントを理解し、経済社会の課題に対して柔軟に発言できる基礎力を養成することが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある経済主体の判断基準を理解できること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解できること、③経済ニュースの内容について経済学が示す論点と政策的な判断の違いが理解できるようになることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は板書による講義形式で進める。その際、現実問題を経済学で考える習慣を身に着けるために、新聞記事・雑誌などからも適宜教材を提供する。講義資料は授業内に配布する。授業中に講義内容を復習する練習問題を実施し、受講生の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、アクティブラーニング	授業の概要説明、「地産地消」について考える。
2	経済学の基本原理（1）	経済学の基本的考え方を学ぶ（トレードオフ、機会費用、限界概念など）
3	経済学の基本原理（2）	経済学の基本的考え方を学ぶ（比較生産費説、失業率と物価など）
4	企業の行動（1）	費用について
5	企業の行動（2）	利潤最大化、損益分岐点、操業停止点について
6	企業の行動（3）	生産関数について
7	地産地消の再考、前半のまとめ	地産地消について改めて考察するとともに、前半の総括を行う。
8	消費者の行動（1）	効用最大化について
9	消費者の行動（2）	需要（量）の変化と弾力性について
10	消費者の行動（3）	効用最大化の応用（労働と余暇、リスク）
11	余剰と政策の評価	消費者余剰、生産者余剰、総余剰の考え方
12	全体の総括と確認	全体の総括を行い、理解を定着させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。学習には授業内で配布する講義資料を活用してください。

【参考書】

マンキュー（2019）『入門経済学』（第3版）東洋経済新報社
資格試験研究会（2020）『新スーパー過去問ゼミ6 ミクロ経済学』実務教育出版

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成度を測るため、下記の通り評価を行う。
地産地消について20%、前半テスト30%（1回）、後半テスト50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

アクティブラーニングにおいて情報収集を行うため、ノートパソコン（タブレット端末も可）があると望ましい。

【その他の重要事項】

初回の授業までに、各自「地産地消」をキーワードに調べてみてください。経済学を意識する必要はなく、ご自身のご経験を最大限活かして考察してみてください。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of microeconomics with an emphasis on understanding the basic framework of economic theory: decision-making of households, firms, and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social outcomes based on the reasoning with microeconomics. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review.

CHM100TA（その他の化学 / Chemistry 100）
化学3（実験）（冬期スクーリング）
中田 和秀
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回の授業でプリント教材を配布します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自またはグループで実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は、基本的に翌日の授業開始時までに提出します。それらの課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、実験を行う上での注意事項の説明を行います。
第2回	香料(ラベンダー)の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第3回	香料(ラベンダー)の分析(1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第4回	香料(ラベンダー)の分析(2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。
第5回	定量分析	キレート滴定や中和滴定など、定量分析の手法や理論について解説を行います。
第6回	水中のカルシウムイオンの定量	天然水や水道水など、種々の水に含まれるカルシウムイオンの定量分析を行います。

第7回	けん化価の測定(1)	種々の油脂から石けんを合成する際に必要なけん化価について定義や測定方法を解説する。
第8回	けん化価の測定(2)	ヤシ油のけん化価を中和滴定によって測定します。
第9回	けん化価の測定(3)	ラードのけん化価を中和滴定によって測定します。
第10回	けん化価の測定(4)	測定されたけん化価から石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量を計算する。
第11回	石けんの合成(1)	ヤシ油とラードの混合油脂から石けんを合成する。
第12回	石けんの合成(2)	ヤシ油とラードの混合油脂から石けんを合成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各授業終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、各テーマ毎に提出する課題やレポート（50%）、および、平常点（50%）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

いろいろな化学薬品やガスバーナー等を使用しますので、動きやすい服装で参加してください。髪の毛の長い方は、安全のため、束ねるなどしていただくことをお勧めします。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports. Overall grade in the class will be decided based on the following; assignments and lab reports: 50%, in class contribution: 50%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）

英語 S（3）（冬期スクーリング）

Richard.J.Burrows

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：1単位
 期間：1群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

【到達目標】

During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual materials, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up readings with vocabulary preparation & comprehension questions will enable students to improve their vocabulary knowledge & reading fluency.

Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

The previous lesson's reading assignment will be reviewed before a preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material.

Comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing review will offer more chances to analyse the material. Thematically linked readings will be introduced & set as the following lesson's homework assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Explanation, listening & reading	Course overview & an Introduction to Britain
第2回	Listening	Heathrow Airport
第3回	Listening & Reading	London
第4回	Listening	Tea in Britain
第5回	Listening & reading	William Shakespeare
第6回	Listening	Sherlock Holmes
第7回	Listening & reading	Wales
第8回	Listening	The Mini
第9回	Writing	Comparison & Contrast Writing
第10回	Listening & reading	Agatha Christie
第11回	Listening	The Seven Wonders of Britain
第12回	Listening & writing	Final Assessment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be required to complete daily reading assignments with comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation. Repeated absences will not be permitted.

Preparatory study and review time for this class are about 1 hour for the audio-visual assignments & 2 hours for the reading homework.

A final comparison & contrast report will be an important part of the final grade.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An electronic or smartphone English dictionary will be required throughout the course

【成績評価の方法と基準】

Audio-visual assignments 30%

Reading homework 30%

Comparison & Contrast Report 40%

【学生の意見等からの気づき】

Audio-visual material will also be available online for students to improve listening comprehension & overall understanding.

【学生が準備すべき機器他】

Students require access to a reliable computer and a reasonably fast internet connection if students want additional listening practice with the audio-visual materials online.

【その他の重要事項】

Since this is a short, intensive class, homework will be expected on a daily basis and students should be prepared to work hard during the duration of the course.

【Outline (in English)】

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

LAW100TB（法学 / law 100）
民法総則（冬期スクーリング）
大澤 彩
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法全体を把握する上で不可欠の基本ルールが定められている民法総則の基本的知識・考え方を理解する。

民法総則を素材として、判例の読み方や学説の理解の仕方を学ぶ。

【到達目標】

通則、人、法律行為、時効制度など、民法総則の基本知識・考え方を理解するとともに、高齢化社会、契約トラブルなど現代社会における法的問題について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につける。民法総則の条文の解釈や適用の基本知識を、条文だけではなく学説や判例を読みながら理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

民法は、市民社会における市民相互の関係を規律する私法の基礎である。その中でも、民法総則には、市民社会の主体である人に関するルールから、契約を中心とする法律行為に関するルール、時効制度など、民法全体を把握する上で不可欠である基本ルールが定められている。本科目ではこれらの民法の基本ルールについて、判例の状況や学説の動向を理解し、民法の基本的な考え方を身につけることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民法入門	民法の基本原則
第2回	契約の主体①	権利能力、行為能力①
第3回	契約の主体②	行為能力②
第4回	契約の主体③	法人
第5回	契約の有効性①	契約の内容、意思表示①
第6回	契約の有効性②	意思表示②
第7回	代理①	代理の基礎
第8回	代理②	無権代理、表見代理①
第9回	代理③	表見代理②
第10回	時効①	時効概論、消滅時効
第11回	時効②	時効の援用、完成猶予・更新
第12回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習にあたっては、必ず六法を傍らに置くこと。また、テキストをスクーリング開始前に一読して欲しい。さらに、民法を勉強する上で判例は非常に重要な素材である。そこで、本講義でも判例を多く取り扱う。判例を理解するにあたっては、単に判例の結論のみにとらわれず、当該事案の具体的な内容や争点をふまえながらなぜそのような結論が提示されたのかを考察するよう努めてほしい。この授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則（第5版）』（有斐閣、2020年）、3100円＋税

講義にあたってはレジュメ、参考判例を配布する。

【参考書】

潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選 I 総則・物権（第9版）』（有斐閣、2023年）、2200円＋税

【成績評価の方法と基準】

最終日の試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメを使いながら、ゆっくりとわかりやすく話すように心がけます。

【Outline (in English)】

We study civil law, especially this general rules. Through the study of general rules of civil law, we learn the exmple case of civil law. To understanding these rules, we have to prepare for this class during two hours. The final grade depend on the grade of the final exemen.

LAW200TB（法学 / law 200）
憲法（冬期スクーリング）
村元 宏行
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では法学部の学生が最低限習得すべき憲法のオーソドックスな争点について取り上げます。とは言っても、12コマの中で、憲法の全体像を把握するのは容易ではありません。そこで、配分としては、立憲主義の要ともいえる基本的人権について多くを配分し、統治の仕組みについては大枠を取り上げるに止めることになると思います。

【到達目標】

- ・なぜ、私たちの社会に「憲法」が存在するか、「立憲主義」の意義について説明できる。
- ・現実に生起している憲法問題を発見する。
- ・憲法「改正」問題について、自分なりの考えを発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配布レジュメに従って講義形式で授業を進めます。

フィードバック方法

授業の初めに、前回の授業で提出された小レポート（リアクションペーパー）からいくつかを取り上げてコメントすることで、全体に対してフィードバックを行います。

オフィスアワー（質問への対応）

授業後に質問を受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 憲法とは何か	立憲主義について
第2回	日本国憲法の誕生	日本国憲法の制定過程について
第3回	国民主権と象徴天皇制	国民主権原理と天皇制・天皇の国事行為等について
第4回	平和主義（その1）	憲法9条をめぐる議論とその背景について
第5回	平和主義（その2）	憲法9条をめぐる近年の動向について
第6回	基本的人権（総論）	基本的人権の種類、人権保障の限界等について
第7回	基本的人権（自由権）	精神的自由権、経済的自由権、人身の自由について
第8回	基本的人権（社会権）	生存権、教育を受ける権利、労働基本権について
第9回	基本的人権（公務請求権と参政権）	請願権、裁判を受ける権利、参政権等について
第10回	統治の仕組み（総論）	権力分立制について
第11回	統治の仕組み（立法権、行政権）	議院内閣制における立法権と行政権の関係等について
第12回	統治の仕組み（司法権）	司法権の独立等について 後半は試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

憲法をめぐる時事問題について、授業前から積極的に学習しておくこと、授業の理解に役立ちます。それ以上の本格的な予習は難しいので、授業後の復習を丁寧に行ってください。

これらの予習・復習については、あわせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法を必ず持参してください。出版社は指定しませんが、最新版が望ましいです。

教員は『デイリー六法 2024年版』を用いて、授業で参照する場合にはページ数を伝えるので、同じものを持参すれ目次等で探す手間が省けます。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べることができるかを評価します。

リアクションペーパー（50%）：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the Constitutional law.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW400TB（法学 / law 400）
国際法各論（冬期スクーリング）
田中 佐代子
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法の各論分野を学ぶ。

【到達目標】

現代国際法の各論分野における基本的な概念や法制度を説明できるようになることが、最低限の到達目標である。これに加えて、各概念・制度の歴史的展開と今日の実態を、その背景にある国際社会の構造とその変化をふまえながら深く理解することが求められる。それにより、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えるための基礎を築くことが、最終的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について検討する。講義形式の授業だが、教科書の内容について受講生との質疑応答を交えつつ進める。特定の分野について理解を深めるためのゲスト講義も実施することを検討している。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	海洋法（1）	歴史、各海域
第2回	海洋法（2）	海洋境界画定、海洋紛争解決
第3回	南極、空、宇宙	南極、空、宇宙
第4回	人権	国籍、難民、人権
第5回	刑事	犯罪人引渡し、国際犯罪
第6回	紛争の平和的解決（1）	概説
第7回	紛争の平和的解決（2）	ICJ
第8回	武力行使の規制と国際安全保障（1）	歴史、自衛権
第9回	武力行使の規制と国際安全保障（2）	PKO、集団安全保障
第10回	武力紛争法（1）	交戦法規
第11回	武力紛争法（2）、軍縮	中立、軍縮
第12回	総括、試験	全体の復習と試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記掲載の教科書（玉田・水島・山田『国際法〔第2版〕』第5章2、第7章～第9章、第12章を事前に読んでおくこと。ざっと目を通しておく程度でもかまわないが、短期集中のスクーリング授業に対応するためには、予習によって全体像を把握しておくことがきわめて重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第2版〕』（有斐閣、2022年）『国際条約集』（有斐閣）

教科書と条約集、いずれも必ず授業に持参すること。なお、条約集は、ここ数年のものであれば、最新年度版でなくてもよい。

【参考書】

森川幸一、兼原敦子、酒井啓亘、西村弓編『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）
その他は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（60%）および平常点（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with an advanced understanding of public international law with reference to particular topics such as: law of the sea, air and space law, status of individuals and human rights, international dispute settlement, and the regulation of use of force and armed conflict.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）
総合特講（冬期スクーリング）
小林 ふみ子
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸文芸における古典の再創造について作品に即して学びます。和歌や漢詩、『源平盛衰記（平家物語）』や『源氏物語』がどのように江戸の人びとの感性に即して変容され、新たな作品をして生まれ変わったのかを見てみましょう。そのことによって、完全なオリジナリティを必須とする現代の〈創作〉の概念の再考を促します。

【到達目標】

- 江戸戯作の各ジャンルの性格、文体や表現の特質について理解する。
- 古典をどのように現代化し、再創造したのか、そのさまざまな手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

概説ののち、提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解く。100分を個人での課題への取り組み、ペアないしグループ・ワークによる共有、講義などを織りまぜて構成する。下記【重要事項】に示したように、各人の古典文学への関心と基礎的読解力があることは前提として進行します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	「江戸っ子」誕生の時代背景を知る。
第2回	狂詩	漢詩の形式に俗語をはめ込んだ狂詩のおもしろさを知る。
第3回	狂歌①	中世以来の狂歌の歴史に触れ、江戸時代のさまざまな作品を読み解く。
第4回	狂歌②	百物語の代わりに、妖怪を題に百首の狂歌を詠んだ『狂歌百鬼夜行』を読み解く。
第5回	合巻①	草双紙の最終形態である合巻について学ぶ。
第6回	合巻②	『源氏物語』の近世番として有名な『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分を読む（1）当世化
第7回	合巻③	『源氏物語』の近世番として有名な『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分を読む（2）謡曲の利用
第8回	合巻④	『源氏物語』の近世番として有名な『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分を読む（2）歌舞伎的趣向
第9回	滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬の試みについて学ぶ。

第10回	滑稽本②	『平家物語』敦盛最期をちゃかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む。（1）当世化
第11回	滑稽本③	『大千世界楽屋探』を読む。（2）聞き間違いと方言対決
第12回	まとめ 試験	全体を概括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『平家物語』敦盛最期、『源氏物語』夕顔巻の筋立てを事前に学習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供します。

【参考書】

狂歌については、江戸狂歌研究会編『化物で楽しむ江戸狂歌』（笠間書院 2014）
 狂詩・滑稽本・合巻については長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）
 その他、適宜授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

第2, 4, 6, 8, 10回のリアクション・ペーパー（40%）、試験の得点（60%）を合算して評価します。出席要件を満たした学生を対象とする期末試験では、ジャンルの理解、主要作品の理解・説明を中心に出題します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

全学部の学生に開いてはいるが、基本的な日本古典語の読解、『平家物語』（とくに敦盛最期）『源氏物語』（とくに夕顔巻）の筋立てについての理解は前提とするので、履修する場合はその点を了解されたい。また、学生の話しあいを必須とするので、その点も理解して選択のこと。

【Outline (in English)】

We will consider the recreation of the classics from the early modern literature. Reading waka and Sino-Japanese poems, The Tale of the Heike and The Tale of Genji, you will analyze how they had transformed and recreated according to the sense of the people of the time. It encourages to reconsider the attitude in creation to regard complete originality as essential.

HIS200TD（史学/History 200）
東洋史概説（冬期スクーリング）
宇都宮 美生
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自レジュメに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料を多く用いて説明する。随時、授業に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史 1	黄河
第3回	河川史 2	長江
第4回	河川史 3	渭水
第5回	河川史 4	洛水
第6回	運河史	運河の発展
第7回	穀倉	穀物の運搬と保管
第8回	船舶史	船舶の種類と水軍
第9回	農業史	灌漑と水車
第10回	庭園史	庭園の種類と発展
第11回	災害史	水害の種類と概要
第12回	学習のまとめと試験	学習のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に資料を配布するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。

準備・復習時間は1回につきそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料を配布する。

【参考書】

宇都宮美生『隋唐洛陽の都城と水環境』雄山閣、2023年（生協価格税込み4455円）

概説書ではなく論文集であるが、卒業論文の書き方の参考にもなる。その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)と期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、より鮮明に理解してもらいたいので、写真撮影を禁じる。なお、授業を聞き逃す、あるいは欠席する受講生に対しての完成レジュメは配布しない。

【学生が準備すべき機器他】

色の鉛筆・ペン・マーカー（あれば青色）：作業をしてもらう。

【Outline (in English)】

Outline & Learning Objectives : This course introduces an understanding of Chinese history concerning various issues on the water. This course aims to help students acquire the importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture, and diplomacy.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%)

HIS300TD（史学/History 300）

史学演習（日本）（冬期スクーリング）

仁平 義孝

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：1群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『吾妻鏡』を講読する。貞応元年（1222）8月2日条から読み進めていく。

中世史料の基礎的な読解力をつけることを目的とする。

【到達目標】

中世史料を読み下し、語句や人名、関連事項を調べて史料の内容を理解し、現代語訳することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生に史料の読み下し、語句の説明、現代語訳などをしてもらう。受講生間で議論し、条文の理解を深めていく。

質問、課題等に対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』解説1	授業の進め方と『吾妻鏡』の解説①
第2回	『吾妻鏡』解説2	『吾妻鏡』の解説②
第3回	史料講読1	貞応元年8月2日～29日条
第4回	史料講読2	同年9月21日～10月26日条
第5回	史料講読3	同年11月1日～12月13日条
第6回	史料講読4	貞応2年正月1日～18日条
第7回	史料講読5	同年正月20日～24日条
第8回	史料講読6	同年正月25日～26日条①
第9回	史料講読7	同年正月25日～26日条②
第10回	史料講読8	同年2月1日～8日条
第11回	史料講読9	同年2月27日～3月28日条
第12回	まとめと試験	まとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に読み下し文を作り、語句などを調べ、現代語訳をしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

新訂増補国史大系『吾妻鏡 第3』（吉川弘文館）

テキストを購入する必要はない。承久4年（貞応元年、1222）8月2日条から貞応2年3月28日条（4～7頁）を講読する予定なので、その部分のコピーを各自用意すること。

【参考書】

五味文彦『増補吾妻鏡の方法』（吉川弘文館、2000年）

西田友広編『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 吾妻鏡』（KADOKAWA、2021年）

その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言・討論参加（40%）、試験（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が発言しやすい環境にする。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study political history of the Kamakura Shogunate by reading the Azumakagami.

CUM200TD（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）
歴史資料学（日本近世）（冬期スクーリング）
米崎 清実
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世の地方文書は、さまざまな歴史資料の中で日本各地にある文化財です。また、近世地域史を研究するうえで中心となる史料です。しかし、和紙に墨を用いてくずし字で書かれた地方文書は、現代人には容易に読み解くことができません。本授業では、地方文書の史料学的な意義、近世地域史研究の知識を身につけるとともに、くずし字の基礎的な読解力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②近世地方文書の特徴と保存の方法を覚える。
- ③近世地域史研究の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面により講義と演習を併用します。配布する資料（古文書のコピー）をまずは自力で読解に取り組みます。授業では受講生に板書または口頭で答えてもらった後に、答え合わせをしながら解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、近世の地方文書とは、地方文書の特徴
第2回	地方文書の伝来と保存	地方文書の伝来と保存、地方文書の資料学
第3回	地域史研究の方法	基本的文献の紹介と特徴、地域史研究の方法
第4回	くずし字に慣れる①	変体かなを覚える
第5回	くずし字に慣れる②	数字や人名の書き方を覚える
第6回	くずし字に慣れる③	くずし字辞書の引き方を覚える
第7回	くずし字の文章に慣れる①	幕府法令を読む①
第8回	くずし字の文章に慣れる②	幕府法令を読む②
第9回	地方文書に慣れる①	地方文書を読む①
第10回	地方文書に慣れる②	地方文書を読む②
第11回	地方文書に慣れる③	地方文書を読む③
第12回	まとめと試験	くずし字の独習法、近世地域史研究に向けた独習法、授業時間内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料（古文書のコピーなど）を辞書を引ながら予習してください。授業後は必ず復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。資料を配布します。

【参考書】

くずし字の辞書。授業では、『増訂近世古文書解読字典』（柏書房）にもとづいて解説します。今後も日本近世史を学びたいと考える受講者、日本近世史で卒論を書きたいと考える受講者には『くずし字用例辞典（普及版）』（東京堂出版）を推薦します。すでにくずし字の辞書を所持している場合は、改めて買い揃える必要はありません（ただし、『くずし字解読辞典』（東京堂出版）のみを所持している場合は、『近世古文書解読字典』も所持することをお勧めします）。必ず辞書を側に置いて授業に臨んでください。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価は期末試験（100%）。全日程の出席を原則とします。欠席した場合は、期末試験の評価から減点します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もアクティブラーニングを用いながら双方向での授業に取り組みます。

【Outline (in English)】

Historical materials of early modern local documents are cultural assets in various parts of Japan. In addition, they are core historical materials used for researching the regional history of early modern Japan. However, it is difficult for the people of this age to decipher the documents written in Kuzushi-Ji (classical cursive handwriting characters) on Japanese paper using Indian ink. In this course, students will learn the significance of regional documents as historical studies, acquire basic knowledge of early modern Japanese regional history, and develop elementary skills to decipher Kuzushi-Ji.

We will engage in interactive teaching while using active learning.

Please prepare for the distributed materials by checking a dictionary.

Be sure to review after class.

Grade evaluation: Final exam (100%), Attendance at all sessions is the general rule. In case of absence, points will be deducted from the evaluation of the final examination.

GEO400TE（地理学 / Geography 400）
自然地理学演習（冬期スクーリング）
前卒 英明
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野およびその関連分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は課題図書を決めてそれを分担して読み込み、レジュメやPowerPoint等を使って発表する形式をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の運営方法、発表の方法、発表の順序などを決める
第2回	教員研究紹介	教員が行っている研究のダイジェストで紹介する
第3回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第4回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第5回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第6回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第7回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第8回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第9回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第10回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第11回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。
第12回	学生文献発表	数名の学生が分担部分を発表・紹介し議論する。主に学術書・教科書を読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

今年度は鎌田浩毅著「地学ノススメ」ブルーバックス（講談社）、980円（税別）を分担して読む。いつ発表が当たってもよいように、事前に購入するか図書館等で借りてすべて読んでおくこと。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表80%、議論への積極的参加20%。基本的に全回出席が原則。欠席等は通信教育課程の規定にそって判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとPowerPointなどのプレゼンソフト。ない場合は紙のレジュメでもよい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to get fundamental knowledge of Physical Geography. The goals of this course are to understand Earth science processes and to recognize geological time scale. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; Positive attitude (20%) and presentation (80%).

ECN200TF（経済学 / Economics 200）
経済学特講（冬期スクーリング）
井上 祐樹
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業は事業を行う存在であるため、事業創造無しには企業は始まらないし、また存続していくことができない。本講義では企業経営における重要な要素として事業創造に焦点を当て、これに関する基礎的な専門知識を体系的に理解することを目的とする。また、実際に自分達でビジネスアイデアを考えてみることで、事業創造に関する各種理論を体感的に身に付けることを目指す。（経営学・商学的な内容を主に講義する。）

【到達目標】

- ① 経営に関するいくつかの理論を理解し、それを実際のビジネス構築に活かす形で活用できるようになることを目指す。
- ② ビジネス構築に関するいくつかの実用的なツールを活用できるようになる。
- ③ 複雑な事業創造過程において、論点やロジックを整理し、適切な形でプレゼンテーションできる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

- (a) はじめにグループ分けを行い、グループごとにオリジナルのビジネスアイデアを考案する。
- (b) 毎回の講義において、事業創造に関する基本的な講義を行う。そして、それら内容に基づいた課題を提示するので、グループは自分たちで設定したビジネスアイデアに関して、その課題にどのように取り組むかを検討し、それによってビジネスアイデアを改良していく。
- (c) 検討結果は適宜、パワーポイント等にまとめて提出し、クラス全体でディスカッションを行う。
- (d) ペーパーテストの期末試験は実施せず、チームごとの最終成果発表の内容およびチームへの貢献度によって評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、事業創造とアントレプレナーシップ	ガイダンスを中心に、事業創造とアントレプレナーシップに関する解説を行う。また、グループ分けのためのアンケートに回答する。
②	グループの発表と初期のビジネスアイデアの設定	前回回答したアンケートの回答内容に基づいて、教員がグループ分けを行った結果を発表する。グループ内では自己紹介からはじめ、新しいビジネスアイデアの提案と明文化までを行う。
③	様々な種類のイノベーション（講義・演習）	イノベーションと一口に言っても、様々な形態や種類のイノベーションが存在する。それらを理解するとともに、自分達のビジネスのイノベーションとは何かを定義する。

- ④ 様々な種類のイノベーション（発表・全体討議） 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、イノベーションに関する色々な考え方を学ぶ。
- ⑤ サービスビジネスと価値共創（講義・演習） 製品とは違って、サービスビジネスには独自の要素が存在する。またどんな製品型ビジネスにも、潜在的にサービスビジネスが存在している。そういった観点を理解し、自分達のビジネスのサービス価値とは何かを定義する。
- ⑥ サービスビジネスと価値共創（発表・全体討議） 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、サービス価値に関する色々な考え方を学ぶ。
- ⑦ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（講義・演習） 企業は自社を中心としたエコシステムを構築するか、あるいは他者のエコシステムのうえで事業活動を行うことが多くある。自社でエコシステムを構築する際に重要になるのが、プラットフォーム戦略の考え方である。これらの観点を理解するとともに、自社を中心としたエコシステムを構築するためのビジネスの設計を実施する。
- ⑧ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（発表・全体討議） 前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、エコシステムとプラットフォームに関する色々な考え方を学ぶ。
- ⑨ デザイン思考の実践（講義・演習） デザイン思考は革新的な事業を生み出すための一つの有名な方法論あるいはプロセスである。デザイン思考の内容を理解し、実際に自社ビジネスに適用してみる。また、インタビュー調査を行い、情報を収集する。
- ⑩ デザイン思考の実践（発表・全体討議） インタビュー結果をまとめて、解釈し、ビジネスの改善を実施する。
- ⑪ 最終発表準備 ここまでの学びを総括して、一貫した内容のプレゼンテーション資料を作成する。
- ⑫ 最終発表 ここまでの学びを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回パワーポイント形式の資料を配布する。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加と提出物の品質：50%
 全体討議への積極的参加：20%
 最終発表の評価：30%
 ※ただし、合計得点が60%を超えている場合でも、最終発表を行わなかった場合には不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

調べもの学習のために教室のPCを積極的に利用する予定であるため、そのつもりで臨むこと。

【その他の重要事項】

グループワークやグループディスカッションが講義の多くの部分を占めるので、そのつもりで出席すること。担当教員の専門性から、経営学・商学的内容が中心となるため、その点を理解しておくこと。

また、ワード、パワーポイント、エクセルを使用する予定ため、最低限使用可能な状態で臨むこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Without business creation, the firms will not even start the work. This lecture teaches you about knowledge and theories about business creation. As the feature of this lecture, the students will create new business models with learning those knowledge and theories.

【到達目標 (Learning Objectives)】

To understand theories of business and management and to be able to apply them to actual business problems.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Standard time for preparation and review is four hours in a week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

* Quality of assignment: 50%

* Contribution for discussion: 20%

* Quality of final presentation: 30%

MAN300TG（経営学 / Management 300）
人的資源管理論Ⅱ（冬期スクーリング）
田上 皓大
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源管理（Human Resource Management）は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を行う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状や変化について学びます。人的資源管理論Ⅱでは特に②と③を中心に学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度と慣行について、理解を深めることができます。

【到達目標】

人的資源管理論Ⅱでは、人的資源管理の課題と変化について理解することを学習目標とします。

- ①現代における人的資源管理の課題について理解する。
- ②これからの人的資源管理の変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は配付資料に沿って講義形式で行います。また、毎回の授業で10～15分の時間をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、授業内容に関連した設題に回答する形式とし、翌日の授業内でフィードバックを行います。後半の授業では、ゲスト講師を招いて実際の労働現場や働き方の実態についてお話していただく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明、基本的概念の整理
第2回	内外環境の変化	人的資源管理システムが直面する変化
第3回	多様な人材に関する理論的考察	男性稼ぎ主モデル
第4回	均等から活躍へ	女性の働き方
第5回	引退から生涯現役へ	高齢者の働き方
第6回	排除から包摂へ	外国人の働き方
第7回	多様な働き方に関する理論的考察	雇用社会と労働者性
第8回	多様な雇用形態	非正社員、雇用ポートフォリオ、多様な正社員
第9回	雇用によらない働き方	フリーランス、クラウド・ギグワーカー、副業
第10回	変貌する働き方	ボランティア・NPO、協同組合
第11回	まとめ	少子高齢化社会における人的資源管理のゆくえ
第12回	試験	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。準備学習として、テキストの該当する箇所を読んでおいてください。復習として、参考書の該当箇所や、関心のあるトピックを扱った学術論文を探して読んでみましょう。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。

【テキスト（教科書）】

『よく分かる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、¥2,600+税

【参考書】

『新しい人事労務管理 第6版』、有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2020年、¥2,100+税

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、試験60%で評価します。平常点には、毎回のリアクションペーパーへの評価も含めます。①人的資源管理の基本的な考え方を理解しているかだけでなく、②示されたデータから要点を読み取ることができているか、③論理的な記述をできているか、を重要な評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望には、可能な範囲で応えるようにします。意見や要望は、授業の前後に直接、あるいは毎回のリアクションペーパー上で受け付けます。

【その他の重要事項】

夏期開講した人的資源管理論Ⅰと合わせて受講することで、人的資源管理についてより深く理解することができます。本講は学術的に人的資源管理論を学ぶことを目的とする講義で、経営・労務における実務的なノウハウやスキルを教授する講義ではありません。

【Outline (in English)】

Human Resource Management (HRM) is a field of study in business administration and commerce that deals with the management of "human" as management resources. In this course, students will learn (1) basic concepts of HRM, (2) issues and problems related to HRM, and (3) current situation and changes of HRM in Japanese companies. In Human Resource Management II, by focusing on (2) and (3) in particular, students will be able to deepen their understanding of the systems and practices related to HRM in companies and workplaces.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（冬期スクーリング）
安藤 直紀
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進んだ現在、多くの企業が海外に進出し、企業活動を行っています。これは大企業に限ったことではなく、中小企業やスタートアップ企業も外国企業との取引や外国市場にかかわる機会が増加しています。このため、グローバル経営戦略は、企業の経営戦略の重要な部分を占めるようになってきました。ですが、海外市場は日本とは異なる市場であり、日本と同じ方法で競争しても競争優位を得られるとは限りません。異なる環境下において、どのように競争優位を獲得するかは企業にとって重要な経営課題です。上記をふまえ、本講義では、国際経営に関する理解を促進するために、下記のようなトピックに特に焦点をあてます。

文化や言語の障壁

企業の国際化理論

このようなトピックを学び、国際経営を理解し、企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 海外直接投資と、それを行う多国籍企業を理解します。
2. 企業が海外で経験する文化や言語の障壁について理解します。
3. 企業の国際化理論を理解します。
4. 企業のグローバル経営戦略を分析できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。授業で使用するスライド等の資料は、Web学習サービスに掲載します。理論の説明だけでなく、事例を交えて講義していきます。インタラクティブな講義にするために、講義中に意見等を求めることがあります。

授業内で課題に取り組んでもらいます。課題の提出は、オンライン上で提出するフォームを準備する予定ですが、詳細は1回目の授業時に説明します。課題や質問へのフィードバックは、授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義へのイントロダクション 国際経営とは
第2回	海外直接投資	海外直接投資の現状、動機、類型
第3回	多国籍企業	多国籍企業とは
第4回	新興国の多国籍企業	新興国を本国とする多国籍企業の特徴
第5回	文化の障壁（1）	文化の4つの次元
第6回	文化の障壁（2）	文化のコミュニケーションへの影響
第7回	言語の障壁（1）	言語の障壁の発生要因
第8回	言語の障壁（2）	言語の障壁の克服方策
第9回	企業の国際化理論（1）	OLIパラダイム
第10回	企業の国際化理論（2）	Uppsalaモデル

第11回 企業の国際化理論 多国籍企業の地理的拡大（3）

第12回 試験 試験に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の準備・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。

1-4回：多国籍企業を1社選び、どのような地域に進出して、どのような事業を行っているか調べてみましょう。

5-8回：文化の違いや言語の壁は、どのようにすれば克服できるのか調べてみましょう。

9-11回：授業で学んだ企業の国際化理論が、実際の企業の国際化行動をどの程度説明できるのか、実際の企業を例に調べてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、Web学習サービスにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年
 エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版、2015年
 その他、書籍や論文を、講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題：40%

試験：60%

授業の中で、数回、課題を出します。これが、40%分になります。オンライン上で提出するフォームを準備する予定ですが、詳細は1回目の授業時に説明します。

試験は、12回目に行います。これが60%分になります。

【学生の意見等からの気づき】

理論的な内容に偏らないよう、適宜、事例を挙げながら講義していきます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットにアクセスし、文書を作成するための機器があると便利です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

As the world becomes more globalized, more firms are crossing national borders to expand their business activities overseas. Not only large firms but also small- and medium-sized firms and startups are getting more engaged in international business. Global business strategy has become an essential part of strategic management. However, because of differences between the foreign markets and the home market, firms often fail to gain competitive advantages overseas. How to gain a competitive advantage in an unfamiliar business environment is an important issue for firms.

This course introduces students to key concepts and frameworks of international business studies, focusing on the following issues:

Cultural and linguistic barriers

Theory of internationalization.

Students will understand how firms gain competitive advantages in foreign markets, and acquire a skill to analyze firms' success and failure in foreign markets.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand the basics of international business, which includes foreign direct investment, cultural differences, language barriers, and internationalization theory. At the end of this course, students are expected to develop an ability to analyze firms' success and failure in foreign countries.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are required to complete assignments, read materials, and review the notes they took during the lecture. Time for preparatory study and review for this class will be at least 4 hours each.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated on in-class exercises (40%) and a term-end examination (60%).

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
測量学及び測量実習（2）（冬期スクーリング）
菅 富美男
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：1群後半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実習を行うことにより測量の基礎的技術の習得を目指す。特にトータルステーションを用いた基準点測量及び最新の技術であるGNSS測量を中心に講義、実習を行う。あわせて、測量士補資格に必要な知識を習得する。

【到達目標】

トータルステーションを用いた基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GNSS測量の原理、方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び実習を行う。実習で得られた観測データに基づいて新点の座標及び標高の計算を行う。また、GNSS測量の原理について講義を行い簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる基準点測量の方法について学ぶ。

また、講義中に、課題並びに実習及びその取りまとめの内容に対して、適宜、講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	測量の基準と基準点測量の概要	測量の基準と基準点測量の概要について講義を行う。
第2回	測量の誤差	測量で発生する誤差の概要とその処理方法について講義を行う。
第3回	基準点測量の方法並びに観測計画	基準点測量の手順及び方法と、トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）について講義する。
第4回	測量機器（トータルステーション）の使用方法及び測量機器の誤差	トータルステーションによる角観測及び距離測定方法を講義。実機により習熟する。併せて測量機器に起因する誤差について講義する。
第5回	基準点測量の実習1	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する。
第6回	基準点測量の実習2	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する。
第7回	実習で取得した観測データの整理	基準点測量の記録である観測手簿の整理方法と観測の制限について講義し、実習データの整理を実習する。
第8回	基準点測量の補正計算	距離の測定に関わる補正の原理と補正計算に必要な標高を求める計算について講義し、実習データにより距離の補正計算を実習する。

第9回	基準点測量の座標計算	座標の計算方法と点検計算の制限について講義し、実習データにより座標計算を実習する。
第10回	GNSS測量の原理と精度低下要因	GNSS測量の原理と精度低下の要因について講義する。
第11回	GNSS測量（単点観測法）の実習	1級GNSS受信機によりネットワーク型RTK測量の単点観測法を体験する。
第12回	試験、まとめと解説	講義全体のまとめと実習結果の総評をおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次の時間までに終わらせておくこと。

電卓は機種によって使い方が異なるので、持参した電卓をうまく使うようにしておくこと。（例：sin、cosの関数、角度単位（10進、60進）の変換）

授業時間外の本授業の準備・復習時間は、2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長谷川昌弘・川端良和「改訂3版 基礎測量学」電気書院（2021年発行、本体価格3,300円＋税）

【参考書】

飯村友三郎ほか著「公共測量教程 T S - G P S による基準点測量 三訂版」東洋書店

国土交通省「作業規程の準則」令和3年6月24日更新（web版）

https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/jyunsoku/pdf/r2/r2_junsoku.pdf

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）、実習態度及び試験を総合して評価する。提出物の欠如と4回以上（計算を含む実習期間については2回以上）の欠席者には単位を与えられない。

評価の割合は「平常点」及び実習態度40%、授業中に行う計算・測量成果20%、試験40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業及び実習時に出された疑問については、適宜解説を行うとともに、課題、レポートについては、次以降の講義時に解答・標準例を提示して解説する時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

簡単な図を書くための直定規と、度分秒の60進法を用いた三角関数・逆三角関数等を使う計算を行うため関数電卓（同等のスマートフォンアプリでも可）を必ず持参すること。

なお、事前に電卓を使用し、度分秒⇔度単位、sin、cos等の関数機能を確認しておくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 40%, Calculation / survey results performed during class : 20%, in class contribution: 40%.

LAW100TA (法学 / law 100)
法学（日本国憲法）（冬期スクーリング）
葉 晶珠
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法は、社会の中で、どのような役割を果たしていますか。また、どのような概念や原則に基づいて法は成り立っていますか。日本国憲法を中心にこれらの問いを考えると同時に、重要な条文や代表的な判例を通して法及び法的思考に関する理解を深めていきます。

【到達目標】

- ①憲法一般に関する基本的な概念と重要な原理を説明できるようになります。
- ②日本国憲法の基本構造について基礎的な理解を獲得します。
- ③代表的な判例の検討を通して、現代社会の諸問題を法学的な観点から思考する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1. 指定テキストの内容を中心に講義を行います（ppt使用）。
- 2. 当日授業終了後に受講者からの質問に対応するほか、最終回の授業時間内に30分ほどの復習時間を設けているので、その際も質問に対応します。
- 3. リアクションペーパーや課題などに関して一部の内容を授業内で取り上げて講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス+基本的人権総説+人権の主体	ガイダンス、人権の発展史・内容・分類、人権の主体（マクラーン事件など）
第2回	人権の私人間効力	問題の背景、主要な学説、判例（三菱樹脂事件など）
第3回	幸福追求権	憲法13条の内容・意義、肖像権（判例）、プライバシー権（判例）、自己決定権（尊厳死など）
第4回	法の下での平等（その1）	総説、性別による差別（男女雇用機会、女性再婚禁止規定、夫婦同姓など）、身分による差別（尊属殺等重罰規定・判例）
第5回	法の下での平等（その2）	投票価値の平等、「一票の較差」問題（判例）
第6回	思想・良心の自由+信教の自由	憲法19条の内容・意義、思想・良心の自由（定義・判例）、信教の自由（保障内容、審査基準、判例）
第7回	表現の自由+検閲の禁止+学問の自由	憲法21条、表現の自由（定義・判例）、検閲の禁止（定義・判例）、憲法23条と学問の自由（内容・判例）
第8回	移動の自由と経済的自由権	憲法22条、移動の自由、経済的自由権（内容・判例）、「二重の基準」論

第9回	社会権	憲法25条、生存権概説（学説・判例）、教育の自由（内容・判例）、労働基本権
第10回	人身の自由と裁判手続の保障	憲法31条（適正手続）、死刑の合憲性、迅速な裁判
第11回	日本国憲法の統治原理、司法権とその限界	憲法の成立（明治憲法と日本国憲法）、憲法の基本原則、違憲審査制（性質・判例）、憲法判断の回避（判例）
第12回	復習・試験	スクーリングの試験の受験資格を有する受講生のみが対象である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①毎回の授業開始時間までにテキストの該当箇所を一通り読んで予習し、分からない用語などを事前に調べておくこと。
 - ②復習として、講義期間中に配布される課題集に回答すること（提出不要）。
- 本授業の準備・復習学習は各2.5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西村健一郎ほか『判例法学 第5版』（有斐閣ブックス、2012年）¥2,400+税

【参考書】

- ①体系書：芦部信喜『憲法』（初心者には少し難しい内容となりますが、憲法学の定番教科書ともいえます。最新版でなくても構いません。）
- ②各種六法（出版社は問わない）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は100点満点とし、平常点（20%）と最終試験の成績（80%）から構成されます。

- ① 平常点：リアクションペーパー（計2回提出してもらう）で評価します。
- ② 最終試験：最終回講義内に行われる筆記試験のことを指します。設問形式は授業で取り上げられた用語や判例の説明になります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に載っていない内容に関しては、なるべく図や表の形でスライドに反映させるなど分かりやすく説明します。また、教室のあらゆる方向から見やすいようにスライドの文字のフォント、色やサイズなどを工夫します。

【Outline (in English)】

This course deals with the role of law in society, the basic concepts and principles of law, by focusing on the Constitution of Japan. We also introduce important provisions and major judicial precedents to help students develop a deeper understanding of law and legal mind.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

基礎特講（冬期スクーリング）**中田 和秀**

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午前

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっています。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解します。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論します。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習します。また、新しいエネルギー社会として提唱されている水素経済社会やメタノール経済社会について学習します。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクトターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について説明する。
第2回	物質とは？	物質の基本単位である分子について学習する。
第3回	化学反応	物質の変化、すなわち、化学反応について学習する。
第4回	反応熱・エネルギー	化学反応にともなって反応系から出入りする反応熱について学習する。また、その他のエネルギー形態についても解説する。
第5回	石炭	現代文明で大きな役割を演じている石炭の性質や用途について学習する。
第6回	石油	現代文明で大きな役割を演じている石油の性質や精製について学習する。
第7回	天然ガス	現代文明で大きな役割を演じている天然ガスの性質や用途について学習する。

第8回	その他の化石燃料	オイルサンドやオイルシェール等、その他の化石燃料について性質や用途を学習する。
第9回	水素経済社会	水素を利用する社会システム（水素経済社会）について、その長所と短所を学習する。
第10回	メタノール経済社会	将来のエネルギー資源の候補であるメタノールおよびジメチルエーテルについて、性質や用途を学習する。
第11回	メタノール経済社会	メタノールを利用する社会システム（メタノール経済社会）について学習する。
第12回	期末試験	期末試験とその解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版社：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：メタノールエコノミー：CO₂をエネルギーに変える逆転の発想

著者名：G.A. オラー, A. ゲッペールト, G.K.S. プラカーシュ

訳者名：小林四郎, 齋藤彰久, 西村晃尚

出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（4）（冬期スクーリング）
本間 章郎
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニュース英語を題材にします。これまでの英語の授業を踏まえて、特に読む、聞くという英語の技能の運用能力を課題を通して深めることを目的とします。最初は早いと思うかもしれませんが、英語の音声を聞きながら、練習問題を通して内容を理解する練習をおこないます。特に、まとまった量の英文の内容を的確に理解できるようになってもらえればと思います。同時に、ニュース英語を題材にした英語の勉強を通して、日本の現代社会に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を聞いて、内容を適切に理解する。
教科書の練習問題を通じて確認します。
- (2) 重要な単語及び表現を身に着ける。
教科書の練習問題を通じて確認します。
- (3) リスニングの力を育成する。
教科書の練習問題を通じて確認します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解の練習をおこないます。また、数回、表現・単語の理解などを確認する小テストをおこないます。小テストは、翌日の授業で受講者に返却し、講評や解説をおこないます。また、最終日の授業で、講義内容のまとめや復習をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
	Unit 1: Invention Needed: The Sillier the Better	リスニング及び内容理解
第2回	Unit 1: Invention Needed: The Sillier the Better	問題演習
第3回	Unit 2: Artisan from Abroad Protects Tradition	リスニング及び内容理解
第4回	Unit 2: Artisan from Abroad Protects Tradition	問題演習
第5回	Unit 3: World Traveler, Starting by Accident	リスニング及び内容理解
第6回	Unit 3: World Traveler, Starting by Accident	問題演習

第7回	Unit 4: International Volunteers Help Children in Need	リスニング及び内容理解
第8回	Unit 4: International Volunteers Help Children in Need	問題演習
第9回	Unit 5: Public Servant Goes Private	リスニング及び内容理解
第10回	Unit 5: Public Servant Goes Private	問題演習
第11回	Unit 6: Hiroshima Hibakusha Determined to Share Story	リスニング及び内容理解 問題演習
第12回	理解度の確認	授業のまとめとテストをおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやってほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

NHK Newslines 6（『映像で学ぶNHK英語ニュースが伝える日本6』山崎達朗他著 金星堂 2023年 2400円）

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）、小テスト（30%）、平常点（20%）から成績を評価します。主に到達目標の(1)と(3)を毎回の授業から、(2)を小テストおよび学期末試験から判断します。平常点は授業における学習状況から評価します。学期末試験は教科書の問題から作成するので、復習をよくおこなってください。毎回、授業の初めに出席を取ります。単位取得には、6日間合計12コマ（1日2コマ×6日）のうち8コマ以上出席していることが必要です。特別に考慮すべき理由のない遅刻は、0.5コマとして考えます。最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントし、欠席は2コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は1コマ分の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業における受講者の学習状況を成績評価に反映し、学習目標を効果的に達成することを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

教科書のUnitの構成はどのUnitも同じです。授業が始まったあと、どの問題をあらかじめ予習して欲しいのか指示をします。また、授業で扱わないUnitに関しては、講義終了後に、問題の解答などを公表します。自学自習を進める上で役立ててください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, students will be introduced to various social and cultural issues of contemporary Japan through NHK World. The topics range from business to environmental issues, which help students understand our society better. NHK World news can help students realize various aspects of Japanese society. And watching the news reports, students can improve their listening ability.

The news videos are useful to get the gist of them. Then by reading the news reports of the textbook, students can grasp the details of them and broaden their vocabularies. I hope students can improve English skills and get a better sense of our society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to comprehend news in English properly, improve English listening and broaden English vocabularies.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have reviewed and read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60% and quizzes: 40%.

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（5）（冬期スクーリング）
JAMES O ESSEX
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースの主な目的は、英語の俳句と川柳について学び、それを書くことである。受講生は、すでに書かれた俳句や川柳、またクラスメートの俳句や川柳を分析し、議論日本語の俳句・川柳と英語の俳句・川柳には大きな違いがあり、俳句・川柳の起源や歴史に触れた後、その違いに注目する。

このコースの第一の目的は、英語の俳句・川柳を鑑賞し、学び、書くことである。受講生は、すでに書かれた俳句・川柳、およびクラスメートの俳句・川柳を分析し、議論する機会を与えられる。

このコースの目標は、特に英語で書かれた俳句や川柳への理解を深めること、そして教授のワークショップ方式、仲間との俳句や川柳の分析・討論を生かした英語の俳句や川柳のポートフォリオを作成することである。

【到達目標】

The goals of this course are to foster an appreciation for haiku and senryu, especially those written in English and to produce a portfolio of English-language haiku and senryu that draw on the professor's workshop approach, and analysis/discussion of haiku and senryu with peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- Lecture
- Workshop/seminar
- Class discussion
- Peer feedback

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation and introduction to haiku and senryu	- What is a 'haiku'? - What is a 'senryu'? - The 'haiku' moment
第2回	Linguistic and aesthetic differences between Japanese and English haiku	- Syllables - Form/Layout
第3回	Old haiku masters	- Basho - Issa - Shiki - Buson - and others
第4回	Modern haiku masters	A look at the work of modern-day haiku poets (there are too many to single out here).
第5回	Kigo and kidai (1) Spring / Summer / Autumn / Winter	- Season words - Words that allude to the seasons

第6回	Kigo and kidai (2)	- Season words - All seasons/no season
第7回	Creating a kiyose and saijiki	Creating a 'saijiki' (a dictionary of season words using example haiku) and a kiyose (a glossary of word list of terms used in haiku).
第8回	Kireji	'Cutting' words
第9回	Translating haiku	- Can haiku be translated? - Should haiku be translated? - How can haiku be translated? - What are the problems posed and caused by translating haiku?
第10回	Senryu	- Identifying the differences between haiku and senryu - Writing senryu
第11回	Ginko walk	Taking a walk - a 'haiku walk' - to find the 'haiku moment' and inform haiku writing
第12回	Final exam and portfolio submission	Short exam based on Professor's lectures, required readings and classroom discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read specific handouts prior to the next day's lesson. The professor will provide students with all necessary handouts on the first day of class.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Materials/handouts will be provided to students on the first day of class.

【参考書】

The professor will provide students will all necessary handouts on the first day of class.

【成績評価の方法と基準】

Haiku and Senryu Portfolio: 80%
Participation: 12%
Final Exam: 8%

【学生の意見等からの気づき】

This is a new class for students at Hosei University. Feedback at the end of the course is welcomed.
法政大学の学生を対象とした新しい授業です。コース終了時のフィードバックは歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

A notebook (preferably not loose-leaf paper)
Pencil
A black sign pen
C-531 Information Cards Size: 5 x 3 (Plain/Blank)

【その他の重要事項】

No previous experience required, even in Japanese haiku. This course is for novices and experts alike.
日本の俳句の経験も問いません。この講座は、初心者から上級者まで、幅広く対応します。

【None】

There are no pre-requisites.

【Outline (in English)】

There are vast differences between the form of haiku and senryu written in Japanese and those written in English and this course, after exploring the origins and history of haiku and senryu, will draw students' attention to these differences.

The primary aim of this course is to foster an appreciation for, learn about - and write - English-language haiku and senryu. Students will be given opportunities to dissect and discuss haiku and senryu already written, and those of their peers in the class.

LAW300TB（法学 / law 300）
労働法（冬期スクーリング）
沼田 雅之
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、講義上の「労働法」のうち「労働契約法」や「労働基準法」といった、個別的労働関係法の基本的内容や関連する判例法理について解説します。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の実施形態：

・対面

オフィス・アワー制度（＝質疑応答の方法）：

・授業の後

資料や課題の配信、回収方法：

・紙資料を講義時に配付。

試験のフィードバック方法：

・試験終了時に問題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・労働法の法源と労働条件の決定ルール ・労働法のプレイヤー	・労働条件がどのようなツールによって定められているかについて解説する。 ・労働者・使用者・労働組合等について解説する。
第2回	採用・採用内定・試用	採用内定法理等について解説する。
第3回	労働契約上の権利・義務	労働者と使用者がそれぞれ獲得する権利や負う義務について解説する。
第4回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による堂々条件の不利益変更法理について解説する。
第5回	人事－配転・出向・転籍・組織変更	配転法理、出向法理について解説する。
第6回	賃金の規制	賃金の支払いに関する法規制等について解説する。
第7回	労働時間（1）	法定労働時間、時間外休日労働について解説する。
第8回	労働時間（2）	変形労働時間制などの柔軟な労働時間管理を可能とする制度について解説する。
第9回	休暇	年次有給休暇について解説する。

第10回	懲戒	企業内制裁制度である懲戒に関するルールについて解説する。
第11回	労働契約の終了（1）	解雇に関するルールについて解説する。
第12回	労働契約の終了（2）	辞職や合意解約など、解雇以外の労働契約の終了に関するルールについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前にテキストの該当部分と配付プリントに十分目を通すこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験として論述式の筆記試験（100％）を実施します。概要は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【専門領域と研究業績】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）

<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題

<主要研究業績>

沼田雅之ほか編著『労働法における最高裁判例の再検討』（旬報社、2022年）、沼田雅之ほか編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）、「労働契約申込みみなし制度における偽装請負と「免れる目的」法律時報94巻9号（2022年）、「プラットフォームワーカーの自由と保障—新しい働き方—のため、社会が準備すべきこと」世界960号（2022年）、「プラットフォームワークと社会保障」日本労働法学会誌135号（2022年）、「派遣労働者の「同一労働同一賃金」の課題—派遣先均等・均衡方式を中心として—」季刊労働法272号（2021年）ほか

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- A. A Labor Contract Act;
- B. A case law concerning the Labor Contract Act;
- C. A Labor Standards Act;
- D. A case law concerning the Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Term-end examination: 100%

LAW400TB（法学 / law 400）
民事執行法（冬期スクーリング）
杉本 和士
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義では民事執行法及び民事保全法について学修します。民事訴訟法に関する基礎知識をすでに修得していることを前提に、民事上の権利の強制的実現とその機会確保という観点から、民事執行法及び民事保全法の規律する各手続がどのような性格を有しているのか、それぞれにおける諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的に各手続がどのように運営されているのかについて理解することを目的とします。

【到達目標】

- ①民事執行法の理念と各手続の目的を理解する。
- ②強制執行手続の基本的な流れと基礎概念を理解する。
- ③民事保全法の理念と民事保全手続の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行ってくることを前提として講義を行います。
 ・受講生には、講義期間中、適宜、講義内容に関するリアクションペーパーを提出してもらい、講義において、その内容を取り上げつつ全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方等）／民事執行・民事保全の概要、民事執行手続の基本構造	ガイダンスを行った後、民事執行・保全制度の全体像及び強制執行手続の基本構造について学修する。
第2回	執行当事者と執行機関／強制執行の要件、債務名義・執行文の意義と役割	執行手続の主体である執行当事者と執行機関について、さらに、強制執行の要件、債務名義及び執行文の意義と役割について学修する。
第3回	請求異議の訴え／強制執行の対象財産と第三者異議の訴え	不当執行排除のための救済手続である請求異議の訴えについて学修する。
第4回	強制執行の対象財産とその調査、第三者異議の訴え	強制執行の対象財産についての考え方とその調査手続について概観した上で、第三者の責任財産に対する不当執行排除のための救済手段である第三者異議の訴えについて学修する。
第5回	不動産強制競売（1）一競売申立て、差押え・売却の準備	強制執行各論としての不動産強制競売手続につき、その開始段階の手続、競売申立て・競売開始決定・差押えを学修し、次いで売却の準備に関する規律を学修する。

第6回	不動産強制競売（2）一売却の条件、売却の手続・効果、配当	不動産強制競売手続における売却の条件に関する規律を学修した上で、売却の手続・効果、配当手続について学修する。
第7回	不動産強制管理、動産執行／債権執行（1）	不動産強制管理の概略を扱うとともに、動産執行について、その実際上の機能や実態の点を中心に学修する。債権執行について、特に金銭債権に対する強制執行を中心に採り上げて、民法における「債権総論」分野との関連性にも留意しつつ学修する。
第8回	債権執行（2）	債権執行について、特に金銭債権に対する強制執行を中心に採り上げて、民法における「債権総論」分野との関連性にも留意しつつ学修する。
第9回	非金銭執行	非金銭執行について、執行の態様を確認した上で、物の引渡し・明渡しの強制、作為・不作為の強制執行、意思表示の強制執行について学修する。
第10回	担保不動産競売、担保不動産収益執行	担保権実行手続について、強制執行手続と比較しつつ検討を行う。次いで、不動産に対する担保権実行としての担保不動産競売手続について学修する。さらに担保不動産収益執行について、従来、同様の機能を果たしてきた物上代位と対比しつつ検討する。
第11回	民事保全手続（1）	民事保全手続の目的や種類について学修し、次いで民事保全の審理手続についての基本的な性質を民事訴訟や民事執行と対比しつつ学修する。
第12回	民事保全手続（2）	民事保全手続の目的や種類について学修し、次いで民事保全の審理手続についての基本的な性質を民事訴訟や民事執行と対比しつつ学修する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は初回ガイダンスで行うほか、各回の講義の際に指示します。
 ・なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書は使用しません（講義初回に配布する教員作成の教材を用います）。

【参考書】

- <自習用教材>
- ・和田吉弘『基礎からわかる民事執行法・民事保全法』（弘文堂、第3版、2021年）（※講義の文字起こしを元にしており、読みやすく、独習に適している）
- ・中野貞一郎（青木哲補訂）『民事執行・保全入門』（有斐閣、補訂第2版、2022年）（※独習に適した入門書の最新版）
- ・上原敏夫ほか『民事執行・保全法（有斐閣アルマ）』（有斐閣、第6版、2020年）（※標準的な内容のコンパクトな教科書）
- ・中西正＝中島弘雅＝八田卓也『民事執行・民事保全法』（有斐閣、第2版、2021年）（※応用的な内容を含む教科書）
- <判例集>
- ・上原敏夫ほか編『民事執行・保全判例百選[第3版]』（別冊ジュリ247号）（有斐閣、2020年）（※学習用の判例集）
- <その他>
- ・その他の参考資料・文献については、講義の際に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー（40%）及び試験（60%）により行います。
 ・リアクションペーパーの提出等の詳細については、講義の際にお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

・特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・特になし。

【その他の重要事項】

・この講義は、あらかじめ「民事訴訟法」について一通り学修を済ませ、その基礎知識を修得していることを前提として実施します。
・オフィスアワーとして、講義時間の前後において適宜質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This course introduces the principles of civil execution procedure to students taking this course.

The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil execution procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 60% and Reaction paper : 40%

POL200TB（政治学 / Politics 200）
政治学（冬期スクーリング）
佐賀 香織
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治」とは何であろうか。「政治」とは国に関してだけ使う言葉ではないことは皆さんもご承知の通りでしょう。「政治」をめぐる問いは古代より繰り返され、現代においても決着をみる定義はありません。広く定義するならば「権力をめぐる人間の営み」ということができるでしょう。

本講義は政治学の基礎概念を理解し、とりわけわれわれが生きる社会における政治制度の理解を通して現代社会の課題を認識することが目的です。

【到達目標】

政治学の基礎概念を把握し、現在の政治状況で論じられている問題を本やメディアからの情報で知ったうえで、それらの問題に関して自ら考えることができるようになる知識の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では毎回事前に公開するレジュメに沿って進行します。特定の教科書はありません。自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているかを把握してください。受講生によるディスカッション等アクティブラーニングを予定しています。また、リアクションペーパーを提出していただきます（計4回）。講義を通じての気づきを書いてください。翌日、リアクションペーパーのフィードバックを行います。また、テーマに沿って、毎回グループディスカッションも行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後の日本政治	日本の政治過程を振り返り、政治学の基礎について学ぶ。 第1回 リアクションペーパー
第2回	国家という枠組み	国家を巡る概念
第3回	政治体制	政治体制の分類 第2回 リアクションペーパー
第4回	民主化と近代化	民主化の3つの波
第5回	民主主義における選挙	代表を選出する仕組み
第6回	政治参加	現代日本の政治参加について
第7回	政党と政治家	誰がどのような活動をしているのか 第3回 リアクションペーパー
第8回	ジェンダーポリティクス	女性と政治
第9回	官僚・政官関係	官僚制とは何か
第10回	地方自治	なぜ地方自治が必要なのか
第11回	メディア	メディア環境の変化と政治への影響 第4回 リアクションペーパー
第12回	全講義の振りかえりとグループワークのまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「現代」や「今」起こっていることを授業では積極的にとりあげるので、自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているか把握するように努めてください。

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。グループワークでの準備などが必要になると思います。また、グループワークの進行具合に沿って、自分のアイデアなどをまとめる作業などを行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しない。レジュメを事前に公開します。

【参考書】

久米邦男、川出良江、古城佳子、田中愛治、馬淵勝『政治学』補訂版、東京大学出版会、2011。

加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤泰彦『現代政治学』（有斐閣アルマ）、第4版、有斐閣、2012。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（60%）、リアクションペーパー（20%）、グループワーク（20%）。

グループワークは平常点の対象となります。積極的に参加してください。

なお筆記試験の試験範囲は全講義が対象となります。

筆記試験はレポート課題（1,500～2,000字程度）を予定しています。レポートは期日までにメール提出となります。レポート課題及び期日は、第12回終了時に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

新しい時代の流れに即したアクティブラーニング方法について検討していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

PCを持参できる方は持参してください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業終了直後に行います。希望者は申し出てください。

【Outline (in English)】

What is a political definition? According to the definition it would be possible to say that dispute over human behavior. This lecture understands a basic concept of political science and a political system in the society.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class. Also, according to the progress of the group work, please do things such as putting together your own ideas.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, Short reports : 20, in class contribution: 20%

ART200TC（芸術学 / Art studies 200）
日本芸能史（冬期スクーリング）
櫻井 利佳
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では文学を通じて奈良時代、平安時代、鎌倉時代の音楽（雅楽・講式・平家語り）を学びます。「詩歌管絃」とは漢詩、和歌、音楽を指しますが、いずれも貴族の必須科目でした。だから彼らの生活には詩歌管絃が溶け込んでおり、文学、絵画に音楽を描いたり、修辭に用いたりするのはごく自然なことでした。しかし日本文化史に音楽が重要な位置を占めて来た事実やその実態は知られておらず、当時の表現の豊かさを実感することが、今は困難になっています。当時の芸能の基本を学びながら、なぜ、どのように音楽が重要であったのかを、文学、音楽作品を通して考えます。

【到達目標】

奈良時代から鎌倉時代までの音楽の基本（歴史・人・編成・楽譜・曲・伝習方法等）を理解する。それによって、各回で扱った文学作品、音楽作品における表現の意匠や背景を具体的に理解し十分に味わうことができる。最終講義では理解した内容を言語化し、また文化史における音楽の在り方や意義を自分なりに考え、適切に叙述することができる。講義終了時には、古典文学と古典芸能についての理解を深めることにより、それぞれに一層親しみ、相互の関連性を実感する。またそれらの意義を熟考することにより、自らの文化的生活を豊かにする。より包括的には、自らが文化を担う一員であることを自覚する。以上の点を適切な資料を用いて自身の言葉で正しく説明することができる。ただし楽曲分析力などは必要としない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。パワーポイントやプリントを主体とし、視聴覚資料などを使用した音楽鑑賞を含みます。文学・音楽史料の事例を紹介しながら、雅楽・平家語り（平曲）の基礎を学びます。毎時理解度確認のための小クイズを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の「雅楽」—現代雅楽を知る—	ガイダンス。本講義前半の中心テーマとなる「雅楽」についての、現状とその問題点についての概説。
第2回	雅楽の伝来と衰退・復興	雅楽史概説。①輸入期、②最盛期、③衰退期、④復興期の4期に分けて考える。
第3回	正倉院宝物にみる奈良時代の音楽	正倉院宝物の代表格「五絃琵琶」は世界唯一の残存例。豊富な正倉院の音楽史料とその背景を知る。
第4回	平安時代①『枕草子』と『落窪物語』—男性の楽器と女性の楽器—	平安時代の御遊や楽器等について、当時の意義や価値観を踏まえて学ぶ。
第5回	平安時代②『源氏物語』の箏、琴（きん）、琵琶	『源氏物語』は音楽史料の宝庫。「若菜下」女楽の場面などに見える絃楽器について学ぶ。

第6回	平安時代③『大鏡』マルチャレント藤原公任と歌謡	「三舟の才」の実像とその影響について考える。光源氏との比較。
第7回	平安時代④『大鏡』『源氏物語』と舞楽	舞楽は平安文化の最も華やかな催しだった。詮子四十賀と『源氏物語』「紅葉賀」。
第8回	院政期・中世①説話文学と秘曲、名器	秘曲・名器・楽譜・相承系図は音楽家の生命線であった。その様相と背景を考える。
第9回	院政期・中世②説話文学と琵琶楽の隆盛	院政期に入ると、琵琶楽が特殊な地位を獲得する。その様相を説話文学を通じて学ぶ。
第10回	四座講式と琵琶法師の登場	琵琶法師について学び、語り物芸能としての『平家物語』について学ぶ。
第11回	語り物としての『平家物語』	諸本・節の基礎を知り、語りの効果とテキストとの関係について考える。
第12回	試験。まとめと解説	講義内容全体の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。事前準備は各回に配られた講義資料に目を通す。特に古典作品の原文については、音読に備え、読み方を確認しておく。講義後は小クイズの振り返りをし、理解できなかった箇所については教員に質問する。参考文献表をてがかりにして文献を調べ、理解を補う。その他、講義時に小さな宿題を課される場合がある。

【テキスト（教科書）】

各回プリント資料を配ります。

【参考書】

毎時の参考書については講義資料に提示します。
DVD「宮内庁式部職楽部 雅楽」1～8巻、下中記念財団 遠藤徹『雅楽を知る事典』東京堂出版、二〇一三年
『日本音楽大事典』平野健次他監修、平凡社、一九八九年

【成績評価の方法と基準】

毎時の小クイズ20%、平常点：質疑応答による講義への参加度（正解率ではない）20%、期末試験60% 期末試験は小クイズ等の理解を踏まえ、総合的な捉え直しを問う試験問題。主に論述式。小クイズは講義内容を理解していれば解ける問題で、毎時10点満点から15点満点程度。翌日の講義で正解を解説します。期末試験は主に小クイズの理解などを踏まえた上で、理解した内容を咀嚼して叙述することを問う出題します。論述問題の一部は発展的に、受講者自身の興味に基づく簡単な調査結果報告を求める出題。期末試験の評価は、講義内容の理解が適切であること、使用する語彙、特に学術用語が正確であること、引用が適切であること、記述の分量が適切であることなどを総合的に判断します。ただし最も重要なのは平常点。質疑応答を通して積極的、主体的に講義に参加していることが伝わることを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

重要なポイントをわかりやすくして欲しいとの意見を貰ったことがあります。講義最後のクイズを取り入れることで、要点の再確認をしやすいとします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

This course introduces the music of the Nara, Heian, and Kamakura periods (Gagaku [confucian music], Koushiki, and Heike-Gatari) while reading literary works. Because the required subjects of the aristocrats were Chinese poetry, Waka poetry, and music (Shii-ka-kangen), these were integrated into their lives. And so, it was quite natural to use music as their rhetoric, and draw and write musical scenes in their paintings and literature. However, little is known about their music and the fact that music occupies an important position in the history of Japanese culture. This makes it difficult for modern people to actually feel the rich expression of those people. While learning the basics of music in those periods, this course will help you to think about why and how music was important through literary and musical works.

HIS200TD（史学/History 200）
西洋史概説（冬期スクーリング）
竹下 和亮
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきたことも事実である。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。今学期は、とくにハプスブルク帝国を軸に東欧に焦点を当てる予定である。

【到達目標】

中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

年表や王家の系図を詳細に参照しつつ、西欧との比較史の視点から、ビザンツ・東欧の歴史を講義します。質問は、授業内、授業終了後などに受け付けます。また授業の冒頭で、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	東欧史をめぐる諸問題 東欧の諸地域
第2回	ローマ帝国崩壊後の世界	ビザンツ帝国と神聖ローマ帝国
第3回	ビザンツ帝国 I	ビザンツ帝国の歴史 I
第4回	ビザンツ帝国 II	ビザンツ帝国の歴史 II
第5回	中世の東欧 I	東欧諸国の成立 I
第6回	中世の東欧 II	東欧諸国の成立 II
第7回	中世の東欧 III	東欧諸国の成立 III
第8回	近世の東欧 I	東欧諸国の発展 I
第9回	近世の東欧 II	東欧諸国の発展 II
第10回	近世の東欧 III	東欧諸国の発展 III
第11回	近代国家の諸問題	ナショナリズムの時代における東欧諸国
第12回	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布します。

【参考書】

- (1) 森安達也編『スラブ民族と東欧ロシア』山川出版社、1986年
- (2) 森安達也『ビザンツと東欧・ロシア』講談社、1985年
- (3) 大津留厚ほか編『ハプスブルク史研究入門』昭和堂、2013年
- (4) 世界各国史シリーズ（山川出版社）所収の『ドイツ史』『ドナウ・ヨーロッパ史』『バルカン史』『ポーランド・ウクライナ史・バルト史』『ロシア史』など

【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

最終日に授業内で試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）
日本経済論B/日本経済論Ⅱ（冬期スクーリング）
秋元 大輔
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論B/IIでは、日本経済の基本的な知識と英語を同時に学ぶことを目的とする。特に、経済学におけるキーコンセプト、日本経済の歴史、日本経済と政治・企業・金融の関係性、日本経済と世界経済の関連性などについて、比較的平易な英単語・文法を用いて学習する。

【到達目標】

基礎的な英単語・文法で書かれた日本経済に関する文章を講読することにより、日本経済や世界経済に関する英字新聞を読みこなすための知識を習得することを目的とする。

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire sufficient knowledge (by learning basic English sentences on the Japanese economy) to be able to read English newspapers on the Japanese economy and the world economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

「内容言語統合型学習」（クリル）メソッドを援用し、日本経済の基礎的な知識と英語を同時に学習する。アクティブ・ラーニングの一環として、文法の理解や発音の練習をする機会を設ける。

【Methods】

By applying the "content and language integrated learning" (CLIL) method, this course provides students with basic knowledge of the Japanese economy and English at the same time. As part of "active learning" method, students will have an opportunity to understand grammar and practice pronunciation in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本経済の基礎① / Basics of Japanese economy ①	経済の主体、市場、景気循環 / Economic units, market, business cycles
第2回	日本経済の基礎② / Basics of Japanese economy ②	インフレとデフレ、景気動向指数、日銀短観 / Inflation and deflation, index of business conditions, Tankan
第3回	日本経済と政治 / Japanese economy and politics	国の予算、国債、財政政策 / Budget of the government, national government bond, financial policy
第4回	日本経済と企業 / Japanese economy and company	株式会社、企業統治 / Private company limited by shares, corporate governance
第5回	日本経済と金融 / Japanese economy and finance	日本銀行の金融政策、日経平均とTOPIX / monetary policy of the BOJ, the Nikkei Stock Average and TOPIX

第6回	世界の中の日本経済 ① / Japanese economy in the world ①	国際通貨、為替レート / International currency, currency exchange rates
第7回	世界の中の日本経済 ② / Japanese economy in the world ②	円安・円高、国際収支、FTAとEPA / A weak yen and a strong yen, the international balance of payments, FTA and EPA
第8回	世界の中の日本経済 ③ / Japanese economy in the world ③	アジア経済、EU経済、米中貿易戦争 / Economy in Asia and Europe, US-China trade war
第9回	日本経済の歴史① / History of Japanese economy ①	経済の民主化、高度経済成長、バブル景気 / Democratization of the economy, high economic growth, and bubble economy
第10回	日本経済の歴史② / History of Japanese economy ②	バブル崩壊、金融危機、失われた30年 / The collapse of bubble economy, the financial crisis, the "lost" three decades
第11回	21世紀の日本経済① / Japanese economy in the 21st century ①	少子高齢化、環境問題、東日本大震災 / The aging society and declining birth rate, environmental problems, the Great East Japan Earthquake
第12回	21世紀の日本経済② / Japanese economy in the 21st century ②	アベノミクス、経済格差、パンデミック / Abenomics, economic inequity, the COVID-19

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習時間は、各2時間が標準。予習に関しては、講義に関連する内容について、事前にインターネットもしくは参考書等で調べる。復習については、講義ノートを読み返すこと。

【Work To Be Done Outside of Class】

Before each lecture, students will be expected to review the relevant lecture topic and complete recommended readings. Study time for each lecture is approximately two-hours.

【テキスト（教科書）】

特になし。N/A

【参考書】

『日本の経済』小林佳代（著）（IBCパブリッシング、2022年）。『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』根岸毅宏・中泉真樹（編著）（東洋経済新報社、2021年）。『英語対訳で読む「経済」入門』大島朋剛（著）（実業之日本社、2020年）。『英語で学ぶ日本経済』吉野直行・マイケル・ラクトリン・中馬宏之・麻生良文・中東雅樹・中田真佐男（著）（有斐閣、2010年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席点）12%、レポート88%（アカデミック・ライティングとしての構成、講義との関連性、エビデンスなどを重視し、ワードで2000字程度）。

【Grading Criteria】

Grading will be decided based on your attendance (12%) and term paper (88%). The term paper will be examined based on criteria, such as the structure of the report, relevance to the course, evidence of research, and keeping within word limits (around 2,000 words including references).

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。N/A

【学生が準備すべき機器他】

特になし。N/A

【その他の重要事項】

特になし。N/A

【Outline (in English)】

This course provides students with a basic knowledge of the

Japanese economy and English vocabulary and grammar. In particular, the course will help students learn about key concepts in economics, history of the Japanese economy, the relationship between the Japanese economy and politics, company, finance, and an introduction to the world economy.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（冬期スクーリング）
金 瑠晋
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、コーポレートファイナンスの基礎を学習します。コーポレートファイナンスは、企業価値創造をもたらす財務行動を分析する学問分野ですが、時間制約のため、資本コストの推計、投資意思決定、企業価値の評価、M&A意思決定、ベンチャービジネスの評価などをカバーします。

【到達目標】

- ・バリュエーションとキャッシュフローの現在価値との関係が自然に習得できます。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・企業価値の創造をもたらす財務意思決定について理解が深まります。
- ・企業価値等を具体的に計算できるようになります。
- ・経済・金融関連ニュースがより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

指定テキストを予めお読みの上、ご参加下さい。授業は、出来る限り受講者と講師の相互質問と応答で進めて行きます。最終回授業で、最終試験を行います。受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を期待します。最終試験に対するフィードバックは最終回授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	コーポレートファイナンスとバリュエーション
2	バリュエーションの基礎	リスク・リターンと価値、キャッシュフローの現在価値と応用
3	価値の創造	サステナブル成長モデル、価値創造の条件
4	資本利益率とキャッシュフロー	資本利益率の重要性、ROEの分解、ROEとレバレッジ
5	ポートフォリオとCAPM	ポートフォリオの効果、市場リスクと固有风险、CAPMの直感的理解、ベータの推定
6	資本コストの算出	CAPMと株式資本コスト、負債の資本コスト、加重平均資本コスト、事業の資本コスト
7	投資評価と財務モデル1	NPV法とIRR法、投資決定のプロセス
8	投資評価と財務モデル2	投資プロジェクトの財務モデル、リアルオプション
9	企業価値評価	エンタープライズバリューと企業価値、DCF法、ターミナルバリュー、マルチプル法
10	バリュエーションと経営戦略	M&Aのバリュエーション

- | | | |
|----|------------------------|--------------------------|
| 11 | クロスボーダーとベンチャーのバリュエーション | クロスボーダーの投資評価、ベンチャーキャピタル法 |
| 12 | 総括 | 学習内容のおさらいと最終試験 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当授業の理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

朝岡大輔・砂川伸幸・岡田紀子著『ゼミナール コーポレートファイナンス』、日本経済新聞出版、2022、定価（3,000円+税）、この授業では、時間の制約上、1章から10章までカバーします。

【参考書】

コーポレートファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている書籍の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度20%、最終試験80%

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業授業中に、電卓、ノートパソコンやスマートフォンの計算機能を使っても構いません。また、エクセルによる計算を用いる場合がありますので、エクセル使い方に慣れておくことが望ましいです。

【前提知識】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。

【Outline (in English)】

This course focuses on core topics of corporate finance. The topics covered include the estimation of cost of capital, investment decision analysis, valuation of the firm, M&A decision, valuation of venture business, due to time constraints.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（冬期スクーリング）
松本 敦則
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の人口が減少する中で、どのようにすれば地域は活性化するか。この授業では地域の歴史や現状を分析することにより、地域産業や地域活性化を理解することを目的とする。特に「産業集積」、「創造都市」、「関係人口」という視点から理論を学び事例研究を行う。日本とイタリアの地域活性化の過去の事例研究の比較検討を行ったのち、現在の地域活性化に関する様々な課題を検討する。

【到達目標】

本授業では地域や地域産業が抱える課題の解決を主眼とした歴史的経緯、現状分析などの理論的な理解を進める。さらに、実践的な力を獲得するために、現時点では東京都の近郊都市の産業集積や創造都市の事例について検討することを考えている。その都市の産業政策や商工会、観光協会などの課題を検討していきたい。受講生が本授業を通して各自の調査や研究において解決すべき地域課題の抽出方法、調査方法、解決の手法のヒントを得ることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

まず初めに、日本の人口減少について理解する。その上で、地域産業や地域活性化に関する理論、特に産業集積の視点から学ぶ。地域活性の過去の事例研究の整理を行ったのち、現在の地域活性化に関する様々な課題を検討する。授業では、はじめに地域にの基礎的な概念や制度の変遷、日本やイタリアの事例などを整理する。基本的には講義形式で行うが、授業内でグループディスカッションを行いたい。また、小レポートに対するフィードバックを授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地方消滅	増田編（2014）『地方消滅』について、その考え方やその反論などを整理し議論していく。
第2回	イタリアの地域研究と産業集積1	イタリアの産業集積について検討する。G・ベカッティニらの理論や地理的な構造を理解する。
第3回	地域産業や地域活性化に関する理論研究1	主に産業集積の観点から検討する。A・マーシャルやピオリ&セーブルなどを取り上げる。
第4回	地域産業や地域活性化に関する理論研究2	主に産業集積の観点から地域マネジメントを検討する。A・サクセニアン、清成忠男などを取り上げる。
第5回	創造都市1	創造都市の定義と理論を学ぶ。佐々木（2001）を基にイタリアの創造都市の事例研究を行う。
第6回	創造都市2	創造都市の定義と理論を学ぶ。佐々木（2001）を基に日本の創造都市の事例研究を行う。
第7回	日本の産業集積1	日本の繊維、機械金属、焼き物などの産業集積の事例を取り上げる。

第8回	イタリアの産業集積2	イタリアの繊維、機械金属、焼き物などの産業集積の事例を取り上げる。
第9回	関係人口1	田中（2021）らの関係人口の定義や理論を学ぶ。
第10回	関係人口2	関係人口の先進都市である島根県浜田市の事例を取り上げ、地域や産業を学ぶ。
第11回	日本の産業集積2	JAPANブランド育成支援事業における甲州ワインなどの事例を取り上げる。
第12回	授業のまとめと試験	授業のまとめと60分間試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。必要に応じて参考文献を紹介する。

【参考書】

清成忠男、橋本寿郎（編）（1997）『日本型産業集積の未来像』日本経済新聞社
 清成忠男（2010）『地域創生への挑戦』有斐閣
 佐々木雅幸（2001）『創造都市への挑戦』岩波書店
 増田寛也編（2014）『地方消滅』中公新書
 松本敦則（2017）『戦後経済と「第三のイタリア」』土肥秀行、山手昌樹（編）『教養のイタリア近現代史』ミネルヴァ書房
 田中輝美（2021）『関係人口の社会学』大阪大学出版会

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、小レポート課題（30%）、授業での発言（10%）

【学生の意見等からの気づき】

「本年度新規科目につきアンケートを実施していません」

【Outline (in English)】

With Japan's population declining, how can the region be revitalized? The purpose of this class is to understand regional industries and regional development by analyzing the history and current situation of the region. In particular, we will study theories and conduct case studies from the perspectives of "industrial districts," "creative cities," and "related populations." After comparative examination of past case studies of regional revitalization in Japan and Italy, various issues related to current regional revitalization will be examined.

HIS100TA（史学/History 100）
西洋史（冬期スクーリング）
渡辺 知
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のテーマの説明 16世紀のイギリス1	この授業のテーマを説明し、バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第2回	16世紀のイギリス2	16世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第3回	イギリス帝国の形成1	15世紀末からの初期の海外進出から17世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第4回	イギリス帝国の形成2	17世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第5回	イギリス帝国の形成3	17世紀末からのフランスとの対立の中18世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
第6回	イギリス商業革命1	イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。
第7回	イギリス商業革命2	イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。

第8回	産業革命と帝国	第8回 産業革命と帝国 産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
第9回	イギリス生活革命	イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
第10回	砂糖と西インド諸島	イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
第11回	大西洋黒人奴隷貿易	イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
第12回	試験・まとめと解説	第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。
また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と最後に行う試験の総合評価とします（平常点20%、試験80%）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の質問やコメントを汲み取りつつ授業を進めたいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 16th century to the 19th century
In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history
- 2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.
- 3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

PHL100TA (哲学 / Philosophy 100)
論理学 (冬期スクーリング)
大貫 義久
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように正しく伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また論理的に考え、表現するためには、どのようにしたらよいかということ、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常の生活において正しく行動するためには、正しい判断（知識）と正しい論理（推理）が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に考え、表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。試験においては、正しく論理的に考え、表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすいように説明していきます。また、論理的に考えることが実際に身につくようにするために、授業内で、演習として練習問題に取り組みます。以下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始め、その理解の上立って、正しく考え、表現することを、順に学び、身につけていきますから。なお、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから質問等を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容と論理学への導入
第2回	論理学の根本原理、概念について	同一の原理・矛盾の原理・排中の原理、概念の成り立ち、概念の内包・外延
第3回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化
第4回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図、概念の周延・不周延についての説明
第5回	判断の命題化（標準形式化）について	判断を命題の形にする方法の説明と練習問題
第6回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、推理の妥当・非妥当、演繹推理の説明
第7回	演繹推理の直接推理、特に変形による推理について	対当による推理、変形による推理、練習問題に取り組む
第8回	演繹推理の間接推理について	三段論法の定言三段論法について、その構造と規則を学ぶ。練習問題に取り組む
第9回	演繹推理の間接推理について	仮言三段論法、選言三段論法について。練習問題に取り組む

第10回	演繹推理の間接推理について	両刀論法の説明。練習問題に取り組む
第11回	現代論理学への導入、授業のまとめ	命題論理学、授業内容の復習
第12回	試験とまとめ	授業内容のまとめと、教科書・ノート・配布プリント持ち込み可の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う項目を教科書に従い予習し、さらに授業で扱った項目をそのつど復習して下さい。この授業の準備・復習の時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大貫義久・他 『改訂版 論理学の初歩』 梓出版社・2013年。アマゾンPODで入手可能

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験（教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。論理的な思考力を見ますので、授業内容を理解し、教科書や配布プリントの問題を解けるようにすることが重要です。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は理解できれば楽しいという意見が多くありました。説明が少し早くなってしまった箇所もあったので、十分に理解してもらうために工夫したいと思います。また、質問できる時間も確保します。

【その他の重要事項】

論理学は分かれば必ず楽しくなります。できる限り分かりやすく説明していきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional logic and symbolic logic to students. Students can understand the outline of the traditional logic (syllogisms) by taking this course. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Your overall grade the class will be decided based on term-end examination (100%) .

LANe100TA（英語 / English language education 100）
英語 S（6）（冬期スクーリング）
青山 恵子
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では英語のテキストを正確に読解しながら、ITによる技術革新がどのような方向へ向かっているのかを考えていきます。また、和英、英英辞書の使い方も学びます。

【到達目標】

1. 音読が適切にできるようになること。
2. 文章の内容を正確に理解できるようになること。
3. 正確なディクテーションができるようになること。
4. 和英辞書を適切に使えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方：

演習形式で行いますので、必ず毎回予習をしてから授業に臨んでください。

- 1.Paragraph reading（リーディング）
- 2.Comprehension check（読解内容の確認）
- 3.Dictation（リスニング）

最初の授業時に前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction/ Chapter 1: Universal Basic Income #1	1.Orientation オリエンテーション 2.Reading the first paragraph of Chapter 1
第2回	Chapter 1: Universal Basic Income #2	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check 3.Listening Challenges
第3回	Chapter 3: Facial Recognition #1	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
第4回	Chapter 3: Facial Recognition #2	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check 3.Listening Challenges
第5回	How to use English-Japanese dictionary and English-English dictionaries	1.Learn how to use dictionaries 2.Paragraph reading 3.Comprehension Check
第6回	Chapter 4: Automated Transportation #1	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
第7回	Chapter 4: Automated Transportation #2	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check 3.Listening Challenges
第8回	Chapter 5: Machine Learning #1	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check

第9回	Chapter 5: Machine Learning #2	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check 3.Listening Challenges
第10回	Chapter 7: Shaping the Future Factory: From Shoes to Aircraft to Body Parts #1	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check
第11回	Chapter 7: Shaping the Future Factory: From Shoes to Aircraft to Body Parts #2	1.Paragraph reading 2.Comprehension Check 3.Listening Challenges
第12回	Review & Test	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習学習は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

James M. Vardaman, Considering Tomorrow: 15 Changes to Prepare for (『変わりゆく世界：明日の世界を考える15のトピック』, 音羽書房鶴見書店, 2022年) ¥ 1,900 + 税

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 (30%)
学期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

英文解説が分かりやすかった、授業内容も興味深かったとのコメントに励まされています。この授業でも「英語をていねいに読み」「英語で読んだ内容について考え」続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）

【Outline (in English)】

In this class, you will read English texts dealing with social changes caused by the development of Information Technology. You will not only develop systematic reading and listening skills, but also learn how to use Japanese-English and English-English dictionaries.

LANd100TA（ドイツ語 / German language education 100）
独語S（冬期スクーリング）
三ツ石 祐子
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はドイツ語を初めて学習する学生のための授業です。ドイツ語文法の基礎の基礎を身につけることを目標とします。その際、ドイツ語やドイツ語圏の文化を断片的ではありますが紹介します。ドイツ語やドイツ語圏の文化に対する興味や理解を深めることによって、日本や他の文化圏に対する理解が深まることを期待します。

【到達目標】

- この授業を履修することで以下のことが出来るようになります。
- 1) 発音ルールを覚え、初見の単語や文章も発音できる。
 - 2) 挨拶ができる。
 - 3) 基本的な文法事項を習得する。
 - 4) 簡単な文（1週間の予定、1週間の出来事など）が理解できる。
 - 5) 数字を使った表現（時間や値段を確認するなど）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・アルファベットや復習を兼ねたウォーミングアップ的な発音練習を毎回行います。
- ・内容の理解を深めるためにペア、あるいはグループワークを行います。
- ・学習した内容を応用した会話練習なども行い、実際に自分で声に出して発音します。
- ・法政大学の2023年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。
- ・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。
- ・提出物などのフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音	ドイツ語のアルファベット、母音の綴りと発音、子音の綴りと発音、あいさつ
第2回	名詞(1)	名詞の性と定冠詞、名詞の複数、辞書の引き方
第3回	名詞(2)	不定冠詞、人称代名詞、形容詞、名詞の1格と4格
第4回	動詞(1)	人称と定動詞、値段の言い方
第5回	動詞(2)	4格支配の動詞、曜日
第6回	動詞(3)	3・4格支配の動詞、人称代名詞の3格
第7回	枠構造(1)	話法の助動詞、時刻
第8回	枠構造(2)	完了形
第9回	前置詞(1)	3格支配の前置詞、4格支配の前置詞
第10回	前置詞(2)	3・4格支配の前置詞、前置詞句を支配する動詞
第11回	動詞(4)	3基本形、過去人称変化
第12回	まとめ	第1回から11回までの振り返り、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありませんが、毎回の授業で学習した内容の復習は必須です。各回で学習したことを定着させるには個人差があると思いますが、平均的に毎回1時間程度の復習を標準とします。また授業進度によっては、標準復習時間とは別に、練習問題や簡単な作文の宿題を課す場合もあります。

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】

- 『はじめてのドイツ語』 福本義徳著、講談社現代新書1073、1991年初版、¥800+税、ISBN 978-4-06-149073-4
- 『知ってほしい国 ドイツ』 新野守広・飯田道子・梅田紅子編著、高文研 2017年初版 ¥1700+税
- 『ドイツ語のしくみ<新版>』 清野智昭著 白水社 2014年 ¥1300+税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度（ペアワーク、グループワーク等含む）、宿題、発言など）50%+試験50%とし、60%以上（各30%以上）で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

「教科書の使用頻度が少ない」「授業内容が教科書の記載項目順ではなく、多少混乱した」というコメントがあったので、敢えて教科書を使用しないことにしました。

【学生が準備すべき機器他】

可能な限り辞書をご用意ください(電子辞書でも構いません)。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進捗や内容の一部など、状況により変更する可能性があります。質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先でも随時受け付けます。

メールアドレス：yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Outline】

This course is designed for students who are learning German for the first time. The aim is to provide students with a basic grounding in German grammar. In doing so, students will be introduced to the German language and the culture of German-speaking countries, albeit in fragments. By deepening your interest in and understanding of the German language and German-speaking cultures, we hope that you will deepen your understanding of Japan and other cultural areas.

【Learning Objectives】

By taking this class, you will be able to.

- (1) Learn pronunciation rules and be able to pronounce words and sentences that are new to you.
- (2) Be able to greet people.
- (3) Acquire basic grammatical matters.
- (4) Understand simple sentences (e.g. weekly schedule, what happened during the week).
- (5) Be able to use numerical expressions (e.g. checking time and prices).

【Learning activities outside of classroom】

No specific preparation is required, but review of what is learnt in each lesson is essential. Although it may take different individuals to consolidate what they have learnt in each session, on average, about one hour of review is standard for each session. Depending on the progress of the class, students may also be required to do some homework in addition to the standard review time, such as exercises or simple writing assignments.

【Grading Criteria/Policy】

The grade is 50% of normal marks (e.g. class participation (including pair work, group work, etc.), homework, comments, etc.) plus 50% for the examination, with a minimum of 60% (minimum of 30% each).

LANf100TA（フランス語 / French language education 100）
仏語S（冬期スクーリング）
柴崎 秀穂
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：1単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、基本的な語彙と文法を学習します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞いて、書いて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

まず教師が文法事項を解説し、全員で教科書の例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題の一部は「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションとアルファベ	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。アルファベ。
第2回	フランス語の音。第1課。	アルファベ、フランス語の音、名詞。
第3回	第1課続き。第2課。	冠詞、主語人称代名詞、動詞「～である」
第4回	第3課。	動詞「持つ」、否定
第5回	第4課。	部分冠詞、形容詞
第6回	第5課。	第一群規則動詞、疑問文
第7回	第6課。	指示形容詞、所有形容詞
第8回	第7課。	「行く」と「来る」、縮約
第9回	第8課。	近接未来と近接過去、非人称
第10回	発音のまとめ。	綴り字の読み方のまとめ
第11回	第9課。	第二群規則動詞、命令法
第12回	まとめ。	期末テストと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、1時間程度の復習は必ずすること。特に、授業中に解いた「練習問題」で間違えた箇所については、なぜ間違えたのかを確認した上で、もう一度、解き直してみてください。また、「課題」は必ず提出してください。

【テキスト（教科書）】

『新・フランス語文法の〈基礎〉』太田、前田、渡辺著、駿河台出版社、2016年（2200円＋税）

【参考書】

『ゼロから始めるフランス語』猪狩著、三修社、2000年（1600円＋税）
 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社、2020年（4000円＋税）
 『クラウン仏和辞典』三省堂、2015年（4000円＋税）

【成績評価の方法と基準】

課題（50%）と期末試験（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

より理解しやすいように、授業資料を加筆・修正しました。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

・若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEICスコアも「975点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】

This is a course for students who start to study French. You will learn especially French grammar.

HSS100TA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100）
スポーツ総合演習（冬期スクーリング）
佐藤 優希
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、冬期スクーリング期間中に連続6日間（1日2コマ）実施される。授業はスポーツ活動、グループワーク、講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況に加え、リアクションペーパー、小レポート及び試験等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、初回ガイダンスの際に説明する。なお、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等の課題に対する講評や解説は次回授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
第2回	アイスブレイク	他己紹介を用いたアイスブレイク（講義）
第3回	健康と体力(体力測定)	体力測定（50m走、シャトルランを除く）を通じて、体力測定の意義と現状の体力レベルを知る（講義および実習）
第4回	健康と体力(フィードバック)	体力測定データのフィードバックから健康管理の方法を考える（講義）
第5回	健康とトレーニング(理論)	トレーニング理論と方法、適切な栄養摂取を知る（講義）
第6回	健康とトレーニング(実践)	トレーニング実習（講義及び実習）
第7回	個人スポーツを学ぶ1	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
第8回	食とメンタルヘルス	食の観点から心身の健康管理の方法を知る（講義）
第9回	集団スポーツを学ぶ	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

- 第10回 スポーツと人間心理 「他者から見たわたし」を用いたグループワーク（講義）
- 第11回 個人スポーツを学ぶ2 卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
- 第12回 試験・総括 試験・授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

1. 次の基準に従い、総合評価します。
 - ①授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、小レポート 60%
 - ②試験 40%
2. 試験受験資格に係る出席要件
 - ①6日間合計12コマ（1日2コマ×6日）のうち10コマ以上出席していること
 - ②最終日（試験日）のみ、前半授業を2コマとしてカウントする（欠席は2コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は1コマ分の欠席として扱う）

【学生の意見等からの気づき】

新規な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 受講者数は40名を上限とします。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。
3. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業から出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

LANe200TB（英語 / English language education 200）
総合外国語特講（英語）（冬期スクーリング）
磯部 芳恵
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN News を教材にしたテキストを使用し、批判的に吟味し、それぞれのトピックに意見を述べる力を養います。様々なトピックを聞き取り、理解したのち、group discussion, presentation の中で自分の意見を英語で表現する練習をします。

【到達目標】

The first goal of this course is to enable students to learn about various cultural aspects from around the world. The second goal is for students to develop discussion and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3」「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「日本文学科：DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP2」「地理学科：DP3」「経済学科：DP6」「経済学科：DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の4つである。

- 1)warming-up activity: 先週の復習をする。
- 2)文法・基本例文をおさらいする。
- 3)音読・リスニング・ディクテーションにより学習ポイントを確認する。
- 4)正確な文法に支えられた文をもとに、英語でまとまった文章を書く。
 ・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
 ・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Mail by Drone	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第2回	Unit 1	Summary 発表 Try this, too ! Try this, one more time !
第3回	Unit 2 History of General Electric	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第4回	Unit 2 History of General Electric	Summary 発表 Try this, too ! Try this, one more time !
第5回	Unit 3 Foxes	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第6回	Unit 3 Foxes	Summary 発表 Try this, too ! Try this, one more time !

第7回	Unit 4 Air Taxi	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第8回	Unit 4 Air Taxi	Summary 発表 Try this, too ! Try this, one more time !
第9回	Unit 5 Youngest Female Pilot	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第10回	Unit 5 Youngest Female Pilot	Summary 発表 Try this, too ! Try this, one more time !
第11回	Unit 1-5	Review
第12回	Wrap up and feed back	End of term review and Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CNN 10 Vol.11 – Student News – <2023年>（朝日出版社）

【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations. These include:
<http://www.bbc.co.uk/learningenglish>
<https://learningenglish.voanews.com/>
<https://www.newsinlevels.com/>
<https://breakingnewsenglish.com>

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), tests(30%), and a presentation(10%).

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their presentation slides to class on a memory stick.

【Outline (in English)】

1. Giving students opportunity to practice and develop their communication skills including speaking, reading, writing, listening and presentation;
2. To improve reading comprehension via textbook units and news articles;
3. To develop a critical approach toward the development of presentation of student research and opinions through speaking, writing and presentation techniques.

LAW400TB（法学 / law 400）
民事訴訟法（冬期スクーリング）
廣尾 勝彰
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、民事訴訟法（平成8年6月26日法律第109号）第2篇第1章に規定されている「訴え」について、その要点を解説します。

本授業の目的は、「訴え」に関する民事訴訟法上の基本ルールをしっかりと学ぶことです。

【到達目標】

本授業の到達目標は、①訴えの意義、②訴えの種類、③訴えの提起、④訴え提起後の手続、⑤重複する訴えの提起の禁止、⑥訴えの変更・中間確認の訴え・反訴について、それぞれの要点を書面または口頭で正確に説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。

ただし、適宜、授業中に質疑応答も実施します。

なお、課題等に対するフィードバックは授業中に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、授業の進め方と方法、授業計画、授業時間外の学習、テキスト、参考書、成績評価の方法と基準について説明します。
第2回	民事訴訟法の全体像	民事訴訟法の全体像について、その要点を説明します。
第3回	民事訴訟の基本構造	民事訴訟の基本構造について、その要点を説明します。
第4回	訴えの意義	訴えの意義について、その要点を説明します。
第5回	訴えの種類①	給付の訴えについて、その要点を説明します。
第6回	訴えの種類②	確認の訴えについて、その要点を説明します。
第7回	訴えの種類③	形成の訴えについて、その要点を説明します。
第8回	訴えの提起	民事訴訟法第134条について、その要点を説明します。
第9回	訴え提起後の手続	民事訴訟法第137条から第140条までについて、その要点を説明します。
第10回	重複する訴えの提起の禁止	民事訴訟法第142条について、その要点を説明します。
第11回	訴えの変更、中間確認の訴え、反訴	民事訴訟法第143条、第145条、第146条について、その要点を説明します。
第12回	まとめ、試験	授業全体のまとめをしたあと試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

六法を参照しながら、テキストの該当箇所を繰り返し読んでください。なお、本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『民事訴訟法』第7版（有斐閣Sシリーズ）、上原敏夫・池田辰夫・山本和彦、有斐閣、2017年、¥1,700＋税

【参考書】

『民事訴訟法判例百選』第5版、高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂、有斐閣、2015年、¥2,800＋税

【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, the main points of "Action" stipulated in the Civil Procedure Code (Law No. 109 of June 26, 1996) will be explained.

【Learning Objectives】

The purpose of this lesson is for students to learn the basic rules of the Civil Procedure Law concerning "Action".

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the term-end examination (100%).

LAW400TB（法学 / law 400）
刑事訴訟法（冬期スクーリング）
田中 開
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑事訴訟法につき講義する。

刑事訴訟法は、刑事手続を規律する法である。刑事手続の目的は、適正な手続により、真犯人を処罰することにある。

本授業は、学生の皆さんが、刑事手続に関する法および実務の運用について基本的知識と理解を得ることを目的とする。

【到達目標】

学生の皆さんが、①刑事手続の流れを知り、②関係条文を把握し、③基本的専門用語を理解するとともに、④判例・学説・実務の運用を学ぶことにより、刑事訴訟の理念と実際につき基本的な理解を得ることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な教科書、判例集を用いて講義形式で行う。

必要な参考資料は適宜配布する。

フィードバックは授業内で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	捜査の基本、捜査の端緒	強制捜査と任意捜査、職務質問と所持品検査につき解説する。
第2回	捜査の実施（1）	逮捕と勾留につき解説する。
第3回	捜査の実施（2）	被疑者等の取調べにつき解説する。
第4回	捜査の実施（3）	捜索・差押え・検証につき解説する
第5回	捜査の実施（4）、被疑者の防御、捜査の終結	その他の捜査方法、黙秘権と接見交通権、捜査の終結につき解説する。
第6回	公訴の提起、公判	起訴便宜主義、起訴状一本主義、起訴状の記載、公判準備と公判手続につき解説する。
第7回	訴因の変更	訴因変更の要否、可否につき解説する。
第8回	証拠（1）	証拠による証明、自由心証主義、同種前科による事実認定、違法収集証拠の排除につき解説する
第9回	証拠（2）	自白法則につき解説する。
第10回	証拠（3）	伝聞法則につき解説する。
第11回	裁判、上訴、再審	裁判、択一的認定、一事不再理効を中心に解説する。
第12回	試験とまとめ	試験と授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書（下記1）をあらかじめざっと通読しておくことが望ましい。本授業の準備・復習学習は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 長沼範良・田中開・寺崎嘉博「刑事訴訟法」第6版（有斐閣 2020年 2,400円＋税）
- 井上正仁ほか「刑事訴訟法判例百選」第10版（有斐閣 2017年 2,400円＋税）

【参考書】

- 井上正仁・酒巻匡「刑事訴訟法の争点」（新・法律学の争点シリーズ）（有斐閣 2013年 2,000円＋税）

【成績評価の方法と基準】

最終日に実施する試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

Lecture of criminal procedure.

Students will get basic understanding of the law and practice of criminal procedure.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 100%

LAW300TB (法学 / law 300)
倒産法（冬期スクーリング）
倉部 真由美
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況を処理するための法律を総称して、一般的に倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これらの倒産処理法の基本である破産法を扱う。

【到達目標】

- ①破産法の理念と手続の目的を理解する。
- ②破産手続の基本的な流れと基礎概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、レジュメに沿って進行する。
- ・レジュメは、授業中に配布する紙で配付する。
- ・レジュメの中で、テキストの該当箇所も指示するので、復習に役立ててもらいたい。
- ・質問は、授業の開始前後の時間に対応し、必要に応じてクラス全体で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倒産方の世界へようこそ	ガイダンス／倒産法の必要性と目的
第2回	倒産処理手続のアウトライン	わが国の倒産処理制度にはどのようなものがあるのか、法的な手続、私的整理、倒産ADRなど広く紹介する。
第3回	破産手続の申立てから開始まで	破産手続の開始申立て、開始決定、保全処分を扱う。
第4回	破産財団	破産財団、破産管財人とその職務、取戻権を扱う。
第5回	破産債権・財団債権	破産債権、破産債権の種類と優先劣後関係、財団債権を扱う。
第6回	契約関係の処理	双方未履行双務契約に関する一般原則、賃貸借契約、請負契約の取扱いを扱う。
第7回	担保権	別除権とその取扱いを扱う。
第8回	相殺権	相殺権の行使、相殺禁止を扱う。
第9回	否認権	否認の対象行為の種類、否認権の要件、その行使方法を扱う。
第10回	債権の届出・調査・確定／配当と手続の終了	債権の届出・調査・確定、配当、手続の終了を扱う。
第11回	消費者破産	消費者破産のポイントを扱う。
第12回	まとめ	授業全体を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・必ず六法を携行し、こまめに条文を確認すること。
- ・法学の勉強は、忍耐強く反復することが求められる。レジュメやテキストを1度読んで理解できなくても、心配することはない。1度は通読すること、分からない部分は繰り返し読むこと、それでも分からないところは、質問することで、理解を深めていってほしい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高田賢治＝上江洲純子＝倉部真由美『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018年）

携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

- 読みやすいものを選んで自習すること。
- ・山本和彦『倒産処理法入門〔第5版〕』（有斐閣、2018年）
- ・山本和彦ほか『倒産法概説〔第2版補訂版〕』（弘文堂、2015年）倒産判例について
- ・松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】

出席（33%）、試験（67%）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy, treatment of contracts, the rights of secured creditors, set-off, and avoidance under the Bankruptcy law.

Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on percentage of attendance(33%) and final examination(67%).

LIN100TC（言語学/Linguistics 100）

日本語学概論（冬期スクーリング）

古牧 久典

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ことばや言語は身近なものである。この授業では、ことばを学問として扱うとはどういうことかを考える。言語の意味をどう捉えるか。言語と心理の関係性をどう捉えるか。言語の音や語の背景にあるものをどう捉えるか。こうした疑問に、言語学の基礎概念を概観し、日本語ということばを相対化し、言語に対する考え方を学ぶ。

【到達目標】

言語学の基礎知識を習得する。ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。その習得や理解を重ねていくことで日本語を相対化し、ことばの本質を多角的な視点から捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はスライドと配布資料を用いて、講義形式で進める。課題は、内容についての質問・コメント・意見などを反映させたリアクションペーパーの形で課す。課題に対するフィードバックは、その一部を授業内で紹介することにより、行う。

なお、昨年の同科目の冬期スクーリングで詳しく扱うことができなかったテーマを優先するが、最初に基本事項を確認するので本年度からの受講も可能である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ことばの科学	言語学
第2回	コミュニケーションとことば	コミュニケーション論・語用論
第3回	ことばの意味と比喻	意味論／比喻論
第4回	まとめ(1)	「意味」をどう考えるか？
第5回	ことばの産出と理解	心理言語学
第6回	ことばの習得	言語習得論
第7回	まとめ(2)	「言語と心理の関係」をどう考えるか？
第8回	ことばの音	音声学
第9回	ことばの音の構成	音韻論
第10回	単語の構成	形態論
第11回	まとめ(3)	「音」や「語」をどう考えるか？
第12回	まとめ(4)・試験	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語学の事前の予備知識は必要としない。日頃からことばに興味を持つことを心がけ、スクーリング期間中は、毎回受講後に、授業内で扱った用語や概念をよく復習し、説明できるようにする。課題は、原則、隔回の授業後に出题され、それを次の授業までに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料。

【参考書】

黒田 龍之助 著 (2004) 『はじめての言語学』（講談社現代新書）講談社。¥740 [税別]
 （講義内で適時紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（30%）、最終試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

スクーリング受講者による授業内容の感想を紹介することで、自分以外の受講者がどのように考えているのかを知れたことが有益であったという意見がありました。このような自宅教材学習では困難な、スクーリングでしか得られない知見を今年度も大切にしたいと考えています。

【Outline (in English)】

This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields. The goal is to introduce students to different perspectives in the areas of approaches to language.

LIT200TC（文学 / Literature 200）
日本文芸研究特講・現代（冬期スクーリング）
関口 雄士
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、敗戦後間もない時期に広く読まれた、文学史的に〈無頼派（新戯作派）〉と呼ばれる区分の文学作品を読むことにより、世界が大きく転変する状況下において文学がいかなる可能性を示すことができるか、現代を生きるわれわれが文学をもっていかに状況に対することができるか、といった問題への端緒をつかむことを目的とします。

具体的な講義の内容としては、〈無頼派（新戯作派）〉と呼ばれる区分の代表的作家である石川淳・坂口安吾・太宰治を取りあげ、各作家の生涯を概括しつつ、戦中戦後の個別の作品に焦点をあて紹介・検討し、作家と作品の特質をたしかめていくことを通じて、授業目的の達成を目指していきます。

【到達目標】

それぞれの作家的特質をつかみながら、あつかったテキストの主題・モチーフ・表現方法を読み取り、受講者自身の評価を下すことができる力をつけることを目標とします。

- ①テキストに書かれている内容を正確に読み取ること。
 - ②読み取ったことをもとに自分なりの考えを見つけること。
 - ③自分なりの考えを明確にし、他者に伝わるように表現できること。
- 以上が、具体的な目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めていきます。
 各作家にそれぞれ3回を使って「作家自身について」「戦中の作品」「戦後の作品」を講義します。
 各授業後半では、時間をとり、質問や意見、感想などを書いてもらいます。そこで書かれた質問について、各日の授業冒頭で答えることによって、前日授業の内容を復習するとともに、フィードバックをおこなうことで、双方向性のある内容を目指していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・文学研究の基本	授業内容と文学研究の基本を説明する。
第2回	石川淳の文学①	石川淳の紹介。
第3回	石川淳の文学②	石川淳の戦中作品を読む。
第4回	石川淳の文学③	石川淳の戦後作品を読む。
第5回	坂口安吾の文学①	坂口安吾の紹介。
第6回	坂口安吾の文学②	坂口安吾の戦中作品を読む。
第7回	坂口安吾の文学③	坂口安吾の戦後作品を読む。
第8回	太宰治の文学①	太宰治の紹介。
第9回	太宰治の文学②	太宰治の戦中作品を読む。
第10回	太宰治の文学③	太宰治の戦後作品を読む。
第11回	授業内容の総括	授業内容全体の振り返り。
第12回	まとめと試験	質問などへのフィードバックを実施したのち、筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

授業であつかう作家の代表作（特に1938～1948年ごろの作品）は、事前にできるだけ読んでおくことが望ましいです。少なくとも、1作品以上は眼を通しましょう。読んだ作品については、あらかじめ感想・気づきなどをメモしておいてください。
 また、事前に日本近代文学史をあつかった概説書に眼をとっておくことで、流れや語句がつかみやすくなります。

【テキスト（教科書）】

事前に指定しません。
 あつかう作品は、初回授業時にコピーを配布する予定です。

【参考書】

日本近現代文学史についての書籍を1冊は用意しておきましょう。
 一例として安藤宏『日本近代小説史（新装版）』（中央公論新社、2020年）を挙げておきます。
 その他に、併読を推奨する文献があれば、授業内で紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50％
 筆記試験：50％
 全回出席を前提とします。
 平常点は授業後に書いてもらう質問や意見、感想の内容から判断します。
 筆記試験では、授業で扱った作家から一人を選び、その文学的特質について簡潔に説明した後、具体的な作品と関連づけながら、その作家についての自分の認識を記述してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため、ありません。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will read the literary works of the "Buraiha (Shin-Gesakuha)" that were widely read in the period immediately after the end of World War II, in order to grasp the possibilities of literature in a world undergoing drastic changes, and how we, who live in the present age, can react literature to respond to the situation. The lecture will also provide an opportunity for students to grasp the question of what literature can do in a rapidly changing world, and how we can react to the situation with literature in the present age. The lecture will focus on Jun Ishikawa, Ango Sakaguchi, and Osamu Dazai, representative writers of the "Buraiha (Shin-Gesakuha)" and while outlining the life of each writer, we will introduce and examine individual works from the mid-war and post-war periods to ascertain the characteristics of the writer and his works, with the aim of achieving the objectives of the class. The course aims to achieve the objectives of the class through an overview of each artist's life, focusing on individual works from the postwar period.

ART300TD（芸術学 / Art studies 300）

東洋美術史（冬期スクーリング）

久野 美樹

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仏教美術を中心とするアジアの造形を通して、インド・中国・日本の文化を学びます。

【到達目標】

○仏教と仏教美術の基本を理解することができます。○インド人、中国人、日本人のものの考え方を造形を通して知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回授業の初めに授業概要を表したレジュメを配布し、それに沿い講義します。講義では常にパワーポイントによるスライドを用います。リアクションペーパーを実施した際にはスクーリング中に添削してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教と仏教美術の基本	美術史学について解説します。釈迦の生涯の美術、上座部系仏教、大乘仏教の美術をもって仏教、仏教美術の基本を学びます
第2回	仏像出現以前と仏像の出現	B.C.3c.～A.D.3c.の北西インド。ガンダーラ様式とマトゥラー様式
第3回	大乘の仏像の誕生	阿弥陀仏、観音・弥勒菩薩の像、大乘經典の説相
第4回	インドの石窟寺院	インドの仏教石窟、ヒンドゥー教石窟
第5回	古代中国人の死生観	古代中国人は死後どのように昇天するか
第6回	敦煌の美術：北魏	敦煌莫高窟初期窟の思想と東西文化
第7回	北魏の漢化と雲岡石窟	北魏の漢化と雲岡石窟の造像
第8回	龍門石窟北魏窟	古陽洞と賓陽中洞
第9回	敦煌の美術：西魏	西魏の代表第285窟の造形に思想と様式を学びます
第10回	敦煌の美術：唐	観音、阿弥陀信仰の美術、日本への影響
第11回	唐代龍門石窟	奈良東大寺大仏像に影響を与えた龍門奉先寺洞像の様式と思想的背景
第12回	前半40分：密教美術 後半60分：筆記試験	前半は密教、密教美術、曼荼羅の基本 後半はプリントした4つの図について解説していただく試験をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『世界美術大全集 東洋編』全18巻各国・時代別 小学館 1997～2001、『中国の美術』昭和堂 2003、『東洋美術史』武蔵野美術大学出版会 2016、『増補新訂 カラー版東洋美術史』美術出版社 2012、『すぐわかる東洋の美術』東京美術 2012、『アジア仏教美術論集 東アジアⅠ 後漢・三国・南北朝』中央公論美術出版 2017、『アジア仏教美術論集 東アジアⅡ 隋・唐』中央公論美術出版 2019、肥田路美『初唐仏教美術の研究』中央公論美術出版 2011、久野美樹『唐代龍門石窟の研究』中央公論美術出版 2011

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 20%、第12回目後半実施の筆記試験 80%。期末の筆記試験は、授業でお見せしたスライドの中から4つの図を印刷したものについて解説していただきます。採点基準は、授業内容を正しく理解しているか、論理の構築ができていないか、主語述語の整った文章になっているかということです。初めてその図を見る人が受験者の答案を読んで理解できるかをみます。

【学生の意見等からの気づき】

より一層わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業内容についてどのような事でも質問してください。授業終了後に質問していただくのが望ましいです。

【Outline (in English)】

(Course outline) Buddhist Art History of Asia.

(Learning Objectives) By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding Asian Material Culture and Asian Thought.

(Learning activities outside of classroom) Your study time will be more than four hours for class.

(Grading Criteria/ Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination 80%, Short reports 20%.

ECN100TF（経済学 / Economics 100）
社会経済学B/社会経済学Ⅱ（冬期スクーリング）
船木 恵子
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はこれから経済学を学ぶ初学者の学生を対象とし、現代経済を理論的・歴史的に考察する。「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」という問いを重視し、経済学の目的やその学問的源泉からわかりやすく講義をする。経済学は単なる金儲けの学問や理論のための理論ではなく、人々の現実の暮らしを深く分析するための理論であることを学習する。社会経済学では基本的にマルクス経済学にもとづいた視点から資本主義経済を分析する。本講義では特に資本主義経済の再生産のメカニズムについてジェンダーや経済学の歴史的視点も加えて学習する。

【到達目標】

1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解する。具体的には第二次世界大戦後の世界の金融システムの特徴や現実経済の事例を理解した上で、マルクス経済学『資本論』に基づいた経済理論の概要を理解する。
2. 現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論の概要を習得しメディアに扇動されることなく、自ら考察することができるような基礎的知識を取得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP4」「商業学科：経済学」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。講義時にプリントを配布する予定。配布方法やプリントの使用方法等の詳細は最初の授業時に説明する。授業内で適宜確認問題等を実施する予定。確認問題を実施し、理解度を確認し、それに合わせて次の単元へ進むように授業をすすめる。もし理解度が不足しているようであれば、再度授業を繰り返して理解度を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業開始にあたって	社会経済学の課題 授業の進め方など
第2回	再生産と経済循環	労働と再生産 (ジェンダー的考察)
第3回	競争と市場経済	再生産の学説史 利潤と価格 資本と競争 市場経済の変化
第4回	信用制度の成立(1)	銀行の成立 金融資本論(ヒルファーディング)
第5回	信用制度の成立(2)	商業信用と銀行信用 中央銀行の金融政策
第6回	国際通貨システム	ブレトンウッズ体制の成立と崩壊 日本のバブルと平成不況
第7回	現代経済と農業	資本と土地所有・地代 差額地代論(リカード) 日本の農業

第8回	世界市場の発展(1)	資本主義世界市場の成立 19世紀末大不況 帝国主義
第9回	世界市場の発展(2)	現代の恐慌・産業循環とスタグフレーション
第10回	国家と経済政策	経済政策の歴史的展開
第11回	現代資本主義の構造	国家独占資本主義 冷戦=軍事国家 新保守主義 グローバルゼーション
第12回	冬期スクーリングの復習	授業内容のまとめ 経済学と現代をめぐる諸問題 (ディスカッションと確認試験)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とし、事前にはテキストを読んでおくことを前提とします。

【テキスト（教科書）】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学[新版]』有斐閣,2007年

【参考書】

カール・マルクス『資本論』(大月書店・岩波書店・新日本出版社など)
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣,2016年
柳沢哲哉『経済学史への招待』社会評論社,2018年

【成績評価の方法と基準】

理解度を確認する目的で通常時間内に実施するリアクションペーパーや小テストなどを30%の割合で、またレポートもしくは確認試験を70%の割合で評価する。

リアクションペーパーや確認ペーパーは復習の目的もあり、自覚をもって取り組むことで最後の確認試験にも役立つ。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

In this course, we will consider the modern economy theoretically and historically. Economics is a theory for deep analysis of the real economy. Socioeconomics analyzes the capitalist economy from a perspective based on Marxian economics. In this course B, we will learn about the mechanism of reproduction of the capitalist economy, including the history of economic thought.

The standard preparation and review time for this class is about two hours each and assumed you have read the text before class.

Reaction papers, quizzes, etc. for the purpose of reviewing during class time = 30% will be reflected in the evaluation.

Report or confirmation exam = 70% evaluation.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（冬期スクーリング）
岸 真理子
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学特講では「経営情報論」の基礎を学びます。経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、ICT（情報通信技術）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかにICTやそれが生み出す多様で大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて昨今のICTの劇的な進展は、ICTや情報が、もはや、競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いそのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

【到達目標】

経営情報論は、理論と実践とを相互作用させ、その相乗効果によってレベルアップを図っていく独特の学問領域です。

この授業では、経営情報論の基礎となる理論や概念を学び、これらを実際の企業活動の様々な事例に応用することで、どのようにして企業組織が一つの有効な情報処理システムとして機能し得るのかについて、理論から実践へと向かう領域について検討できるようになることを目指します。さらに、実際の企業の優れた情報処理活動の事例を考察することによって、実践から得られた知見を理論にフィードバックし、これらを発展させていく領域にも目を向けることができますようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、最初にパワーポイントを使った講義を聞き、理論や概念について学習します。講義では、「テーマ」と「考察のためのポイント」が提示され、授業の全体構造を理解することができます。

その後、事業計画で提示された内容に関連した実際の企業事例について、グループ・ディスカッションを通じて検討し、それをグループで発表し、全員で議論し、教員がフィードバック・コメントを付加します。これによって、理論や概念と実践との相互作用についての理解をより深めることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	システムのものの見方 経営情報論の学問領域
第2回	ディスカッション (1)	システムのものの見方を用いた組織の事例研究
第3回	経営情報と組織	組織の情報処理と組織論
第4回	ディスカッション (2)	組織の情報処理についての事例研究
第5回	経営情報と組織の意思決定	組織の中核機能としての意思決定
第6回	ディスカッション (3)	組織の意思決定についての事例研究
第7回	経営情報と企業戦略	競争戦略と情報活用

第8回	ディスカッション (4)	競争戦略と情報活用についての事例研究
第9回	経営情報と組織のコミュニケーション	組織の根幹をなすコミュニケーション
第10回	ディスカッション (5)	組織のコミュニケーションについての事例研究
第11回	経営情報と技術	組織と技術 組織と情報技術
第12回	総括 試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、テキストの関連箇所をよく読んでおくと、学習効果がより高めることができます。グループ・ディスカッションの効率が高めるために、各回の授業内容と関連する事例を予め準備するようにしましょう。

また、学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

木嶋恭一・岸真理子『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』有斐閣、2023年。

【参考書】

岸真理子・佐藤亮編著『経営情報学入門（新訂）』放送大学教育振興会、2023年。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、試験が50%、授業参加（ディスカッションとプレゼンテーション）が50%となっています。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ディスカッションに、より時間をとっています。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやPCなど、インターネットに接続できる電子機器を持参することを推奨します。

【関連科目】

経営戦略論、経営組織論、組織行動論など。

【Outline (in English)】

Organizations and Information Management is designed to learn the theories and models of organizations as information processing systems, apply it to practice and develop it, and at the same time obtain practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

MAN200TG（経営学 / Management 200）
経営学特講（冬期スクーリング）
岸本 直樹
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず、預貯金やローンの金利に関わる様々な計算方法を学びます。また、債券および株式に関して投資家として知っておくとよい、それらの仕組みや制度、さらに初歩的な分析手法を学びます。さらに、時間が許せば、代表的なデリバティブである先物とオプションを紹介しします。

【到達目標】

次の3つを到達目標に掲げます。

- ① 利率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ② 債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ③ 株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。時間が許せば、簡単なクイズを実施します。また、そのフィードバックは翌日に行うようにします。また、受講者からの希望が多ければ、授業中に Microsoft Excel を使って授業で説明した計算の実演をする予定です。ちなみに、質問等は、毎回の授業の後、16:40以降の一定の時間帯の間に受け付ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと金融・証券市場の概観	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。次に、債券市場、株式市場、デリバティブ市場を概説する。
2	利率、将来価値、現在価値（1）	将来価値、現在価値の計算ほか、複利と単利の違いを学習する。
3	利率、将来価値、現在価値（2）	様々な複利期間について将来価値および現在価値の計算を学習するほか、1年当たりの利率として表示されるものについて学習する。
4	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。
5	債券入門（2）	債券の様々な種類を概説する。
6	債券入門（3）	最終利回りと債券投資のリスクを学習する。
7	債券分析の基礎	金利の変動要因やイールドカーブを学習する。
8	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
9	株式入門（2）	配当割引モデルを学習する
10	株式入門（3）	株式評価のための指標を学習する
11	デリバティブ入門	先物とオプションの基本的な仕組みや用語を説明する。

12 まとめとテスト この授業で扱ったトピック全般についてまとめをした後に、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書）を事前に読む予習と授業の後の復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末テストが80%、クイズおよび平常点が20%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必須ではないが、Excelを使った計算の実演をする可能性があるため、パソコンを持参すれば、学習効果が高まるだろう。

【その他の重要事項】

教科書は、アマゾン等のほか、法政大学生協でもオンラインで販売しています。

なお、この授業を担当する岸本は、2002年度および2004年度に開講された「経済学特講」、2015年度に開講された「金融論」、さらに、2018年度および2020年度に開講された「経営学特講」も担当しました。これらの授業は、私が担当する本年度の「経営学特講」と内容が類似している部分が多いので、これらの授業を履修した人は、私が担当する本年度の「経営学特講」を履修しないでください。

【Outline (in English)】

This course offers an introduction to finance. It has three objectives. (1) To teach the concepts and the computation of the future value and the present value of cash flows. (2) To give students basic tools for analyzing bonds. (3) To give students basic tools for analyzing stocks. If time allows, derivatives, such as futures and options, are discussed briefly.

PRI200TG（情報学基礎 / Principles of informatics 200） 情報学入門（2）（データ演習） / コンピュータ入門（2）（データ演習）（冬期スクーリング）
児玉 靖司
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications（以下、VBA という）について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークや Word による文書作成を行う。その後、Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

【到達目標】

コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般について解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。

毎回、Classroom から Google フォームにて授業アンケートをとり、次回の授業の最初にフィードバックする。さらに、質問は、Classroom や、チャットにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBA の起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。準備学習としてはコンピュータのオペレーションに慣れていることが望ましい。宿題は特に課さないが、授業中にできなかった部分について復習し、再度提出することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

【参考書】

特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、提出されたレポート、最終試験（50%）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの初學者でも理解できるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータ、講義資料を多用し詳しく解説する。Classroom 上で情報をやり取りする。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】

Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.

教育実習事前指導（国語）（冬期スクーリング）
丸山 義昭
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、「授業づくり」である。教育実習の流れやその準備に触れた上で、学習指導案や授業に関わる基礎的な理論や知識、および授業実践に不可欠な方法・技術と心構えなどを取り上げる。

【到達目標】

教育実習に参加する前提として、教職に関する基礎的な知識と、教科指導に関わる基礎知識と力量、教育実習に取り組むための方法・技術を獲得し、それらを用いることができる。

教材理解を深め、学習指導案、発問計画、板書計画を自ら作成することができる。

生徒たちの学習状況、内容理解を確かめながら、授業を展開することができる。

自他の授業を分析的に検討することができる。

生徒たちの人権に配慮した指導や言動ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業内容は、①教育実習とは何か、それに向けてどういう準備が必要か、実習中の諸注意、②教材研究の進め方と学習指導案・発問計画・板書計画の作成、③授業を行うための知識と技量の獲得、④模擬授業とその検討、を中心的な内容として構成する。毎回、フィードバック用紙に意見や感想、質問を書き、提出。それらを次時に全員で共有し、学生の応答と教員のコメントを交えながら学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	『教育実習の手引き』の読み合わせ確認。講義計画の説明。教育実習に関わる諸注意、重要事項の確認。
第2回	使用教材の選定と各分野の指導案作りについて	説明的文章・評論、小説、古典、その他の教材を示し、自ら取り組む教材を決める。教材研究の進め方、学習指導案と発問計画等の作成等について検討する。
第3回	教壇実習・1	模擬授業（中学校・説明的文章）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第4回	教壇実習・2	模擬授業（中学校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第5回	教壇実習・3	模擬授業（中学校・詩）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第6回	教壇実習・4	模擬授業（高校・評論）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第7回	教壇実習・5	模擬授業（高校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。

第8回	教壇実習・6	模擬授業（高校・小説）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第9回	教壇実習・7	模擬授業（高校・詩）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第10回	教壇実習・8	模擬授業（高校・古典、随筆）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第11回	教壇実習・9	模擬授業（高校・古典、物語）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を共有する。
第12回	講義のまとめと論文文試験	講義全般の振り返りと、教育実習に関わる重要事項の確認を行い、論文文試験に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
『教育実習の手引き』（予備登録用紙請求時に配付する）をよく読んでくる。

教育実習校での打ち合わせが既にある場合（教材の指定など）は、講義前に伝えられるように、教材等を持ち込むこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、必要な参考文献や資料などを指定、もしくは配布する。

【参考書】

『学習指導要領』及び解説書（文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①各回の講義への積極的な受講、②話し合い・討論への参加状況、③模擬授業への取り組みの様子、④学習指導案などの課題作成、⑤フィードバック用紙の記入等に対する評価と、⑥論文文試験で評価する。評価の配分は①②④は10パーセントずつ、③⑤は20パーセントずつ、⑥は30パーセントとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者による、模擬授業を含めた授業過程・読解過程の教示を増やしていき、授業についての細部を一つ一つ明確にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

シラバスの、各回における分野の配置および指導については、受講生の準備教材、希望によって、調整して、講義を展開する。

【Outline (in English)】

The theme of this course is “how to give classes that develop students’creativity”.

This course includes classes on how to write teaching plan, the basic theory and knowledge on the teaching profession, and the essential method and skills necessary for teaching.

【Learning activities outside of classroom】

You are supposed to spend two hours on preparation and reviewing of this class respectively.

Read in advance the guideline for teaching practice which will be given to you when you ask for an extra registration paper. If you have already made arrangements for teaching practice with a school (designated teaching materials, for example), bring them with you so that you can report them before the lecture.

【Grading Criteria / Policy】

The grading system is based on the evaluation of:

① how active you are in each lecture, ② how active your participation in group interactions and discussions is, ③ how you tackle your mock class, ④ how well you do your assignments such as making out your teaching plan, ⑤ how good is your feedback paper, and ⑥ how good your writing examination is.

The evaluation distribution will be as follows: ① 10% ② 10% ③ 20% ④ 10% ⑤ 20% ⑥ 30%

教育実習事前指導（社会・商業）（冬期スクーリング）

木村 良成

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学系の教科における教育実習に参加する際に、その目的や指導方法を理解し、達成できるようにする。実習の心得や指導案作成を含めた模擬授業を行うことによって学生が授業を行うにあたっての技術を向上させる。また生徒理解を深め、担当教科及び学級担任としての活動および生徒の理解方法を習得する。

【到達目標】

中等教育実習に参加した際、教育実習生(Student Teacher)として最高水準で参加できるように学習を行う。その事前の学習を集中的に、効果的に習得することを目標と定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教育実習に対する十分な心構えを学習するとともに、学生の模擬授業も併せておこなう。また、今後展開が予想される主体的・対話的で深い学びをはじめとする（アクティブラーニング）に関しての考察も受講者全員で行う。（「主体的・対話的で深い学び」と「アクティブラーニング」の違いは必ず事前に内容及び授業での対応方法を調査しておいてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講に対するアンケート、教育実習への心構え、模擬授業の順序の確認など（初日の連絡事項を含む）
第2回	教育実習のための心構え①	教育実習に対する事前の用意
第3回	教育実習のための心構え②	教育実習中における教材研究方法
第4回	教育実習のための心構え③	教育実習中における教壇実習（情報機器操作の応用を含む）
第5回	教育実習のための心構え④	教育実習中における教員や生徒との接し方
第6回	教育実習のための心構え⑤	研究授業に向けての用意（学習指導案の書き方）一般授業とアクティブラーニングの相違点
第7回	模擬授業①（中学校社会科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第8回	模擬授業②（高等学校地歴科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第9回	模擬授業③（高等学校公民科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第10回	模擬授業④（高等学校商業科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第11回	模擬授業⑤（複数教科を取得する学生）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点

第12回 まとめ・教育の目的・意義を考える
 まとめの講義（教育実習における失敗事例を学ぶ）
 提出課題について※

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これといった事前学習は特に必要ないが、各自が歩んできた中学校（中学校及び高等学校）の体験を整理し、書きとめておく。模擬授業における学習指導案（一般授業で行った場合とアクティブラーニングで行った場合）を期間中に宿題として出します。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。プリント配布。

【参考書】

中学校学習指導要領解説
 高等学校学習指導要領解説
 （自らが教育実習で担当する教科の学習指導要領は必携）

【成績評価の方法と基準】

授業における取組状況（30%）、模擬授業（30%）、課題としてのレポート（40%）が評価基準です。

※授業への出席を鑑み、最終日の課題用紙を渡します。（最終日に試験は実施しません。）

全て総合的に判断し、教育実習への参加の可否を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。（授業で使用できる電子機器類に関しては事前に調査しておくこと。）

また、課題提出のため、PCが必要である。従って、授業後にPCやプリンタ、USBメモリ等が使用できる環境を整えておくこと。（特に宿泊で授業に参加する学生は、PC環境を事前調査しておいてください。）

【その他の重要事項】

教育実習に参加予定の学生は必修である。来年度以降実習予定のある学生は必ず受講すること。

【Outline (in English)】

Students learn in order to perform at the highest level when they participate in the teaching practice. They study how to prepare for it. They make guidance plan, do mock lesson, and consider active learning.

日本国籍外で教員免許を取得した場合、教育活動に制限が多いため留意すること。

教職実践演習（冬期スクーリング）

遠藤 野ゆり

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位
 期間：2群午後
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業は、模擬授業を基本とした演習形式の集団指導と個別指導とを組み合わせて構成する。

具体的には、個別指導については、開始当初に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出してもらい、個別課題を設定する。必要に応じて中間報告を提出してもらい、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。

演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。

①教職のあり方や実態等々を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。

【到達目標】

教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力を形成することが目標である。

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実態の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

グループワークや模擬授業を含めた演習形式で行う。初回には、あらかじめ課した課題をグループで検討し、今後の授業方針を、受講者のニーズに応じて詳細に決める。原則として全授業に出席し、討議や模擬授業に積極的に参加することが求められる。毎時授業後に簡単な課題が出るので次回までにそれを遂行したうえで臨むことが求められる。なお、受講生のニーズ等に合わせて組み立てや順番を変更する可能性がある。原則として履修者全員が模擬授業を求められたら実施する責任を負う。

2回に1回、授業のふりかえりを実施し、意見を共有するなどの活動を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：本講義の目標と構成	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
第2回	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教職に就くために欠かせない力量やスキルとはなにかという観点から、教育実習を振り返る。
第3回	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性（登校指導、給食指導、身体・健康管理に関する指導、清掃指導等を含む）の理解を含み、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。

第4回	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。併せて、教師が学び続ける姿勢や取組みについても考える。
第5回	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
第6回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）：単元、目標と評価、生徒理解を重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第7回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）：教材と教具、内容と構成を重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第8回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）：指導方法とコミュニケーションを重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第9回	生徒指導の事例研究（1）：不登校やいじめ、対人関係トラブル	9、10回については、テーマに対応する個別事例を取り上げ、その中で生徒認識や教師の指導方法を、ロールプレイなども取り入れて検討する。
第10回	生徒指導の事例研究（2）：家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携	9、10回については、テーマに対応する個別事例を取り上げ、その中で生徒認識や教師の指導方法を、ロールプレイなども取り入れて検討する。
第11回	学生研究成果発表とその集団検討（1）：研究対象は中学校	11、12、13回については、学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない、発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し、問題点や課題を出し合い議論する。
第12回	学生研究成果発表とその集団検討（2）：研究対象は高校	11、12、13回については、学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない、発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し、問題点や課題を出し合い議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回を受講する前に教育実習の振り返りしておく（教育実習日誌にまとめたレポートを中心に）。特に、教育実習期間中に実施した自分の授業に関して、授業記録（指導案、実際の進行、生徒との対応、指導教諭からの指摘）を事前にまとめておく。また、自分の担当科目に関して、ICT機器の活用を含んだ内容の模擬授業が実施できるように準備する。毎日授業後に授業で学んだことをミニレポートとしてまとめ、これを総括したものを最終レポートとして提出する。以上の具体的な課題は初回時に提示する。
 本授業の準備・予習時間は、模擬授業の準備を中心に、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習 強みを活かす実力を伸ばす』2017・有斐閣（事前に入手しておくこと）
 その他必要な文献や資料は授業内で指定、あるいは配布する。

【参考書】

文部科学白書最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ
 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

【成績評価の方法と基準】

①個別課題レポートについての評価（50％） ②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30％） ③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20％）を目安として、総合的に評価する。また、模擬授業において一定の水準をクリアすることを、単位取得の必須要件とする。なお、最終的評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習の体験を実践的に振り返る参加型の授業を希望する声が多く、この形式を踏襲する。また実践演習の内容については事前指導の教員とも情報を共有する。

【学生が準備すべき機器他】

「ICT機器を用いた模擬授業」ができるように、授業案のプランを作成し、教科書等の教材（コピー）、資料、パソコンなど、必要な教具の準備をしてきてください。

【その他の重要事項】

模擬授業の実施のタイミングなどは、参加者の都合を考慮して調整します。そのため、シラバスの順番どおりに授業が実施されない可能性があります。全員が模擬授業を実施すると理解してください。その際に、何らかの方法で「ICT機器を活用する」ことにしてください。

また、授業ではGoogleドライブを用いて情報共有を行います。Googleドライブの基本的な使い方を理解しておいてください。受講前に各自でGoogleアカウントを作成しておいてください。

<https://support.google.com/drive/answer/7166529?hl=ja&co=GENIE.Platform%3DDesktop>

なお、大学の教室には、HDMI等各種の回線、投影器具などがあります。コピー機（有料）もあります。

【Outline (in English)】

Course outline : This Class consists of combination of group works and individual guidance. Specifically, for individual guidance, at the beginning of the program, students will be asked to submit “Self-assessment of ability acquisition for teaching profession” and “Study chart”, and set individual tasks. If necessary, we have them submit an interim report, and ask them to prepare a personal research result report at the end of the lecture. Individual interviews will also be conducted as appropriate.

Learning Objectives : The lecture based on the practice form is composed of the following four. (1) Report and discussion to understand and understand the teaching actual situation, laws, etc., (2) Collaborative research on the record of lesson practice including simulated lessons, (3) Case study on student guidance, (4) Students' presentation

In addition, lectures of incumbent teachers may be incorporated as necessary.

Learning activities outside of classroom : Students are required to review their teaching practice before attending the first session. In particular, it is necessary to compile in advance a lesson record (teaching plan, actual progress, correspondence with students, comments from the instructor) regarding the lessons conducted during the teaching practice period. In addition, all students are required to be prepared to conduct mock lessons in their assigned subjects. After each class, you will write a mini-report on what you have learned in class, and the final report will be a summary of this. The above specific assignments will be presented by the teacher at the first session. The standard time for preparation and homework for this class is two hours each, centering on the preparation of a mock class.

Grading Criteria /Policy : (1) Evaluation of individual assignment reports (50%) (2) Evaluation of reporting work that was shared in the exercise (30%) (3) General score (20%). In addition, clearing a certain level in mock classes is a prerequisite for acquiring credits. For the final evaluation, individual interviews may be conducted as necessary.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）
写真・読図演習（1）（冬期スクーリング）
八木 浩司
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地殻変動や気候変動の重合現象として地表は形成されてきた。地表が3次元的に配列された形成年代の異なる地形面から成り立っていることを視覚的に認知することは、地表が隆起したり侵食された結果発達してきたことを考える第一歩となる。この講義では地形図の判読から始まり空中写真を用いた地表の3D判読を学び、実際の地形を空間的に連続する3次元現象であることを認識可能とする。

【到達目標】

地表の3D判読を通して、地表の3次元的な空間構成を理解し、活断層や地すべり現象による地形面の変形とは何かを理解できるようにする。さらに身近な場所はもちろん遠く離れた場所に関してもそれらの場所の成り立ちを掘り下げて考えられることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら配付資料を用いて実習的にすすめる。情報処理室において地図を自分で作る手法も学びながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地形景観を読む	環境の基層構造としての地形をいかに認識する。
第2回	地形面とはなにか	景観の中に隠れた段差を読み取る。 地形図に示された浸食面、段丘崖、段丘面を読み取る。東京、大阪、仙台西部
第3回	地形面を読み取る	地形図上に示された扇状地を読み取る。札幌、山形、松本、富山
第4回	地形図上で活断層を読み取る 1	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を地形図で読み取る。京都、福島、鳥海山山麓部
第5回	地形面上で活断層を読み取る 2	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を地形図で読み取る。斜里、飯山、山形盆地西縁
第6回	空中写真で活断層を読み取る	扇状地や段丘面など数万年以降形成された平坦な地形面の変形を空中写真で読み取る。長野、琵琶湖西岸、山崎断層
第7回	地すべりとは何か 地すべり地形を読み取るう	山地斜面を変形させる現象としての地すべり。 空中写真と地形図を用いて地すべり地形を読み取る。南八甲田
第8回	地すべり地形を読み取る 1	空中写真と地形図を用いて地すべり地形を読み取る。 町居崩れ、定義地すべり、羽後川井、岩倉山崩れ
第9回	地すべり地形を読み取る 2	受講者が選んだ地域の地すべり地形判読実習

第10回	地すべり地形を読み取る 3	受講者が選んだ地域の地すべり地形判読実習
第11回	地すべり地形判読実践プレゼンテーション 1	受講者による地すべり判読地形判読結果のプレゼンテーション 1
第12回	地すべり地形判読実践プレゼンテーション 2	受講者による地すべり判読地形判読結果のプレゼンテーション 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書を読んでおいてください。
 国土地理院のウェブサイトから空中写真をダウンロードしてもらうことがあります。また可能なら、数値地図をダウンロードし地図が作れるようにして下さい。
 本授業の準備・復習時間は各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

あえて指定しません。
 資料を授業中に配付します。

【参考書】

「活断層とは何か」池田安隆ほか、東大出版会、1996年
 「建設技術者のための土砂災害の地形判読実例問題 中・上級編」井上公夫、古今書院、2006年
 「図説日本の地すべり・山体崩壊」八木浩司・井口隆、朝倉書店、2022年

【成績評価の方法と基準】

授業中の作業資料の提出物（40%）およびプレゼンテーション（60%）で評価します。
 合計点60点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度開講していないのでアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

可能ならラップトップコンピュータを持参して下さい。

【その他の重要事項】

日常的に国土地理院・地理院地図に慣れ親しんでおいて下さい。

【Outline (in English)】

Course outline is map reading and photogrammetric study. Objectives of this class is to understand three dimensional & spatial structure of the geo-surface by stereoscopic view of aerial photographs. Learning activities outside the classroom is to finish the assignment in the lectures. Grading policy is how deep three dimensional understandings on geomorphological surfaces of the geosurface is.

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（冬期スクーリング）

中川 秀一

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：1単位
 期間：2群前半集中
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりの現場に立ち、現在の日本の地方のおかれている状況と課題について、地域の人々の資源活用の取り組み内容を通じて学びます。調査地域は、山口県長門市の仙崎地区周辺です。

【到達目標】

フィールドワークの経験を通じて調査・研究方法の技術を高めること、現地での調査を通じて日本の地方の置かれている状況についての理解を深めること、これらを通じて地理的な見方、考え方をよりよく理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

一次資源に基づく産業と暮らしの基盤を踏まえて、さまざまな歴史資産、自然景観を活用した地域づくりの実践について学びます。具体的には、水産資源を活用した蒲鉾などの食品加工業や捕鯨の歴史、養鶏の協同組合事業から発展した焼き鳥のまちの取り組み、金子みすずの郷里としての文学資産の観光利用などを視察し、まちづくりに取り組む人たちにヒアリングを行います。受講生は、ミーティングでのディスカッションを通じて調査活動を振り返ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現地集合 キックオフミーティング	概要の説明・確認 参加者の自己紹介
第2回	地域資源の活用概況	センザキッチン視察 まちづくり協議会ヒアリング
第3回	文学資産の活用状況	みすず通り散策 金子みすず記念館見学
第4回	水産加工施設見学	蒲鉾製造工場見学 ヒアリング
第5回	温泉観光地視察 その1	新規事業者による開発状況の視察とヒアリング（星野リゾート）
第6回	自治体による地域づくりの施策	長門市役所でのヒアリング
第7回	養鶏業の発展と地域づくりへの展開 その1	養鶏協同組合ヒアリング
第8回	養鶏業の発展と地域づくりへの展開 その2	焼き鳥のまちづくり事業者ヒアリング
第9回	温泉観光地視察 その2	旧来型の温泉地（俵山）の状況視察とヒアリング
第10回	歴史資料館の見学	長門市総合文化財センター「ヒストリアながと」学芸員による説明 引き揚げの展示など
第11回	捕鯨の歴史 青海島視察	くじら博物館等の見学
第12回	ミーティング	調査活動の振り返り、研究課題の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：事例地域に関する基本情報を、文献、統計資料、Web情報を収集してまとめておくこと。

ミーティングのまとめ：現地では各日の調査結果についてのディスカッションをまとめておくこと。

レポートの作成：期日までに現地での調査結果を踏まえた研究レポートを作成して提出すること。

授業の予習復習は、概ね各1時間/回を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

矢崎節夫監修（2023）別冊 太陽スペシャル 新版金子みすず生誕一二〇周年記念、平凡社。

小田切徳美編（2022）新しい地域をつくる—持続的農村発展論—、岩波書店。

筒井一伸編（2021）田園回帰がひらく新しい都市農山村関係—現場から理論まで、ナカニシヤ出版。

そのほか、対象地域、訪問先に関するwebサイトなどを各自で参照すること。

【成績評価の方法と基準】

事前調査レポート（20%）+現地調査への取り組み（30%）+現地調査レポート（50%）=最終レポート（100%）

（ただし、事前調査レポートの内容は、最終レポートに含むこととする）

【学生の意見等からの気づき】

・雨天の行動について想定しておくこと。

・冬季の現地調査となるため、防寒については各自で十分注意されたい。

・積雪、降雪がある場合は、屋内での視察が中心となります。

以上のような事項を、あらかじめ伝えるようにすること。

【学生が準備すべき機器他】

PCでインターネットによる通信で資料の送受信ができるようにして下さい。

現地では、緊急時に備えて、スマホ・携帯電話を携帯して下さい。

【その他の重要事項】

・星野リゾートでの宿泊は予定していません。宿泊を希望する場合は行程の前後で各自で手配して下さい。

・所定の場所で食事をすることも調査の一部となります。食品に関するアレルギーなど、必要な事項はあらかじめ伝えておいて下さい。

・JR美祿線、山陰本線の一部が不通であることが予想されます。鉄道による現地入りを予定している人は交通情報に十分に注意をして準備してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the community development in rural area and the development of students' skill in field work. Students will learn about the current situation and issues facing rural areas in Japan through the details of efforts to utilize the resources of local people. The survey area is the Senzaki area in Nagato City, Yamaguchi Prefecture.

GEO200TE（地理学 / Geography 200）
地誌学特講（冬期スクーリング）
前畑 明美
カテゴリー：冬期 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2単位 期間：2群後半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「島」とは、国連海洋法条約の定義に従うと自然に形成され常に水に囲まれている陸地であり、日本列島には1万5千余の島々が存在します。こうした南北に長い多島海の島々には、一体どのような一般性と地域的特性がみられるのでしょうか。本科目では、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに多くの島々を地誌的に考察し、その一般的性質や島々の多様な姿について捉えていくことを目的としています。

【到達目標】

全12回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の性質を捉えていくことを目指します。また、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全容はどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会においてどのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」と諸要因を総合的に勘案しながら論理的に説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

・基本的には講義形式ですが、プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めていきます。
 ・ご質問や連絡事項は、授業の前後にお伺いいたします。
 ・最終日、試験後にフィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、地誌とは	授業の概要説明、大学で学ぶ地誌
第2回	「島嶼性」と日本の島々（1）	海洋島嶼国の日本、人々の暮らしと島
第3回	「島嶼性」と日本の島々（2）	島の定義、島嶼性と島嶼ネットワーク、島嶼地理学の動向
第4回	「島嶼性」と世界の島々（1）	チリ・イースター島—社会衰退の道—
第5回	「島嶼性」と世界の島々（2）	アイルランド・アラン諸島—社会存続の道—
第6回	島々の自然と人間社会	島の誕生、島の気候・風・水・生態と人々の対応
第7回	島々の歴史（1）	太平洋のバード・ラッシュと現代社会
第8回	島々の歴史（2）	沖縄の基地問題を「島の視点」から考える
第9回	島々の文化（1）	豊島の産廃問題と瀬戸内国際芸術祭
第10回	島々の文化（2）	日本で初めての島の雑誌『嶋』にみる島嶼観
第11回	島々の文化（3）	戦後の図書館運動と島
第12回	まとめ、試験	授業の総括、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってください。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】

地図帳をご用意いただくと、位置確認が容易となり役立つことと思います。参考文献については初回時をはじめ随時紹介していきますが、ぜひ授業前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる島関連の一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。
 ・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局2018年
 ・田辺悟『島』法政大学出版局2015年
 法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）・最終日の試験（50%）
 質問やコメントなど積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を設けながら、ぜひ双方向的な学びをしていただける機会にしていきたいと思っております。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

According to the definition of the United Nations Convention on the Law of the Sea, an island is a piece of land formed naturally, completely surrounded by water. The Japanese archipelago consists of over 15,000 islands. What kind of generalities and regional characteristics can be seen in these long north-south archipelago? The purpose of this course is to learn many islands based on maps, charts, statistics, videos, photographs, and various other materials, and to comprehend their general nature and island diversity.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Normal score: 50% Final exam: 50%

GEO300TE（地理学 / Geography 300）

現地研究（冬期スクーリング）

宇津川 喬子

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：
 授業形態：スクーリング | 単位数：1単位
 期間：2群後半集中
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照
 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

熊本・阿蘇・島原を中心に「火・風・土・水」をテーマに自然災害と人間生活との関係を考える。

【到達目標】

現地調査の方法を学びつつ、地圏で起きている自然現象について人間生活における正の側面および負の側面を地理学的に捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、終日屋外で実施する（一部、屋内施設を利用する）。

主な見学地域（予定）は以下の通り。

1日目：熊本県熊本市

2日目：熊本県益城町・南阿蘇村・阿蘇市

3日目：長崎県島原市・南島原市

見学場所の都合によっては、一部を周辺地域に変更することもある。集合・解散場所は全日JR熊本駅前とし、宿泊先は熊本駅周辺において個人で予約手配を行う。

実習内容について、現地にてその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		

【学生が準備すべき機器他】

動きやすい恰好（履き慣れた靴、スニーカーでよい）・防寒着・カメラ（レポートに挿入する写真を撮影するため、スマートフォン可）・野帳（コクヨのSketchBook：方眼紙タイプを推奨）・筆記用具（赤、青、黄、緑の色鉛筆が1本ずつあるとよい）

【その他の重要事項】

野外活動が中心となるため、防寒・防風対策を念入りにしてほしい。徒歩や公共交通機関による移動を念頭に動きやすい服装・装備で臨むこと。

実施期間：2024年2月1日（木）～3日（土）

実施場所：熊本市街・阿蘇・島原（熊本県熊本市・阿蘇市・長崎県島原市）

【Outline (in English)】

This course introduces the relationship between natural hazards and human activity in and around Aso and Shimabara, the famous of volcanic area in Kyushu, Japan.

The goals of this course are to understand the method of field survey and the role of natural phenomena from positive and negative perspective.

Before/after each class meeting students will be expected to spend one

hour to understand the course content.

Grading will be decided based on the quality of the student's performance (50%) and report (50%).

